

# 東京圏、地方での暮らしや移住及び地方への関心に関する意識調査

## 調査報告書（本編）

---

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

令和2年9月

# 0.目次

---

## 0.目次

1. 調査の背景・目的等...P.3
2. 有識者ヒアリング調査...P.6
3. 東京圏在住者の意識調査...P.10
  1. アンケート調査...P.10
    1. 調査方法...P.10
    2. 調査結果...P.22※アンケート調査画面は別添資料を参照
  2. FGI調査...P.90
    1. 調査方法...P.90
    2. 調査対象者の属性・プロフィール...P.94※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。
  3. パルソナ別の調査結果概要...P.101
    1. パルソナ別の傾向概要（Summary）...P.101
    2. 各パルソナのアンケート・FGI調査概要...P.116
      1. Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練
      2. Gr.2 男性×就職（新卒）
      3. Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外）
      4. Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練
      5. Gr.5 女性×就職（新卒）
      6. Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外）
4. 地方移住者（UJターン者）の意識調査...P.154
  1. アンケート調査...P.154
    1. 調査方法...P.154
    2. 調査結果...P.166
  2. FGI調査...P.224
    1. 調査方法...P.224
    2. 調査対象者の属性・プロフィール...P.228※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。
  3. Gr.別の調査結果概要（FGI調査概要資料）...P.239
    1. 属性別の誘因カテゴリーの傾向概要（Summary）...P.239
    2. 各属性のFGI調査結果概要...P.247
      1. Gr.1 UJターン×男性×都道府県庁所在地在住
      2. Gr.2 UJターン×女性（未婚）×都道府県庁所在地在住
      3. Gr.3 UJターン×女性（既婚）×都道府県庁所在地在住
      4. Gr.4 UJターン×男性×その他市町村在住
      5. Gr.5 UJターン×女性（未婚）×その他市町村在住
      6. Gr.6 UJターン×女性（既婚）×その他市町村在住
      7. Gr.7 Iターン×男性×都道府県庁所在地在住
      8. Gr.8 Iターン×女性×都道府県庁所在地在住
      9. Gr.9 Iターン×男性×その他市町村在住
      10. Gr.10 Iターン×女性×その他市町村在住

# 1. 調査の背景・目的等

---

## 1. 調査の背景・目的等

### 背景・目的

#### ■ 調査の背景

- 地方創生は、人口急減・超高齢化という我が国の直面する大きな課題に対し、政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指し、進められてきた。今般までの概ね5年間で、地域における様々な取組が進められ、地方創生に係る意識や取組は着実に根付いてきてはいるものの、引き続き取り組むべき課題も存在し、地域における有効な取組をより一層押し進めていく必要がある。
- 一方で、東京圏への一極集中については依然として改善傾向に至っていない。地方から東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）への転入超過数（日本人移動者）は、2019年には前年対比1万人増加し、14.6万人となるなど、東京圏への転入超過に歯止めがかかっていない。また、近年の東京圏における転入超過については、その大半を、10代後半から20代の若者が占めており、傾向としては、女性の転入超過が男性の転入超過を上回っているといった特徴がある。
- 今後、東京圏への一極集中の是正を見据えた地方への移住・定着の促進のためには、ターゲットとなる層（東京圏への転入超過の大部分を占める年齢層等）が有する東京圏、地方での暮らしや移住に関する意識及び地方への関心を把握し、東京圏への転入超過の要因分析をした上で、より効果的かつ総合的な戦略を立案、実施する必要がある。

#### ■ 調査の目的

- 以上を踏まえ、本調査は、東京圏への転入超過の大部分を占める年齢層に対して、アンケート調査、グループインタビュー調査の2段階の調査を実施し、東京圏での暮らしや移住及び地方への関心に関する深掘した意識調査による東京圏への転入超過等の要因分析を行い、今後の施策へ反映することを目的として実施した。

# 1. 調査の背景・目的等

## 本調査におけるタスクの全体構成

タスク項目		タスク概要		
1	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>20～30代の若年層を対象として、インターネットを利用したアンケート調査を行うことで、調査対象者の過去の移動の履歴に関する調査並びに東京圏、地方での暮らしや移住及び地方への関心に関する意識を把握した。</li> <li>2020年7月に実査を行った。総回収標本数は2,918サンプルで、その内訳は「①東京圏への転入者（1,068サンプル）」、「②生まれよりの東京圏在住者（484サンプル）」、「③地方移住者UJ/ターン者（1,366サンプル）」である。</li> <li>集計・分析は、調査の背景・目的を鑑みて、「①東京圏への転入者」、「③地方移住者UJ/ターン者」を主な対象として実施した。</li> </ul>		
2	グループインタビュー調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果に基づき、インタビュー調査候補者を抽出し、グループインタビュー調査（全体で16グループ）を実施した。</li> </ul>		
		<table border="1"> <tr> <td>東京圏転入者 [計6グループ]</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京圏転入者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見、表面上ではなくインサイトの意見」を抽出し、東京圏転入超過の要因分析（なぜ東京圏に来たのか/なぜ地方に戻らないのか/どうすれば地方に戻るのか）を把握することを目的にインタビューを実施した。</li> <li>①東京圏に転入した理由（なぜ東京圏の大学・企業なのか等）</li> <li>②地方移住を妨げている理由（なぜ地方に戻らないのか）</li> <li>③地方移住促進に必要な施策（どうすれば地方に戻るのか/意識が変わるのか）等</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>地方移住者（UJ/ターン者） [計10グループ]</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が今秋に実施を予定する広報事業の実施を展望しつつ、実際に地方に移住したUJ/ターン者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見・インサイトの意見（感情の機微）」や行動実態を把握することを目的にインタビューを実施した。</li> <li>①地方移住に関心を持った理由/地方に抱いた気持ちやポジティブなイメージ</li> <li>②地方移住に関心がある層が実際に移住を検討/決断した理由</li> <li>③移住に至るまでの実態（思考/行動/取得した情報等）等</li> <li>④移住後の生活に関する満足度・幸せな生活実態 等</li> </ul> </td> </tr> </table>	東京圏転入者 [計6グループ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京圏転入者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見、表面上ではなくインサイトの意見」を抽出し、東京圏転入超過の要因分析（なぜ東京圏に来たのか/なぜ地方に戻らないのか/どうすれば地方に戻るのか）を把握することを目的にインタビューを実施した。</li> <li>①東京圏に転入した理由（なぜ東京圏の大学・企業なのか等）</li> <li>②地方移住を妨げている理由（なぜ地方に戻らないのか）</li> <li>③地方移住促進に必要な施策（どうすれば地方に戻るのか/意識が変わるのか）等</li> </ul>
東京圏転入者 [計6グループ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京圏転入者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見、表面上ではなくインサイトの意見」を抽出し、東京圏転入超過の要因分析（なぜ東京圏に来たのか/なぜ地方に戻らないのか/どうすれば地方に戻るのか）を把握することを目的にインタビューを実施した。</li> <li>①東京圏に転入した理由（なぜ東京圏の大学・企業なのか等）</li> <li>②地方移住を妨げている理由（なぜ地方に戻らないのか）</li> <li>③地方移住促進に必要な施策（どうすれば地方に戻るのか/意識が変わるのか）等</li> </ul>			
地方移住者（UJ/ターン者） [計10グループ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が今秋に実施を予定する広報事業の実施を展望しつつ、実際に地方に移住したUJ/ターン者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見・インサイトの意見（感情の機微）」や行動実態を把握することを目的にインタビューを実施した。</li> <li>①地方移住に関心を持った理由/地方に抱いた気持ちやポジティブなイメージ</li> <li>②地方移住に関心がある層が実際に移住を検討/決断した理由</li> <li>③移住に至るまでの実態（思考/行動/取得した情報等）等</li> <li>④移住後の生活に関する満足度・幸せな生活実態 等</li> </ul>			
3	有識者へのヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記のアンケート調査及びグループインタビュー調査の質問項目、実施方法等について示唆を得るため「小池司朗氏（国立社会保障・人口問題研究所）」「田中輝美氏（ローカルジャーナリスト）」を対象としてヒアリングを実施した。</li> </ul>		
4	とりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査及びグループインタビュー調査の結果を踏まえ、東京圏転入者及び地方移住者（UJ/ターン者）の、東京圏での暮らしや移住及び地方への関心に関する意識（≒東京圏への転入超過等の要因）について整理を行った。</li> </ul>		
		<table border="1"> <tr> <td>東京圏転入者</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>性別（2区分）×東京圏転入のきっかけ（3区分）の6ペルソナを設定して整理した。</li> <li>ペルソナ毎に、アンケート調査結果をもとに概略的傾向を整理するとともに、グループインタビュー調査で得られた意見の傾向を整理した。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>地方移住者（UJ/ターン者）</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査結果をもとに、UJ/ターン/ターン（2区分）×性別（2区分）の4セグメントについて、移住者を地方暮らし導いた要因（誘因カテゴリー）の傾向を整理した。</li> <li>また、グループインタビューを実施した地方移住者10グループのそれぞれについて、グループインタビュー調査で聴取された主なコメント（生の声）を整理した。</li> </ul> </td> </tr> </table>	東京圏転入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>性別（2区分）×東京圏転入のきっかけ（3区分）の6ペルソナを設定して整理した。</li> <li>ペルソナ毎に、アンケート調査結果をもとに概略的傾向を整理するとともに、グループインタビュー調査で得られた意見の傾向を整理した。</li> </ul>
東京圏転入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>性別（2区分）×東京圏転入のきっかけ（3区分）の6ペルソナを設定して整理した。</li> <li>ペルソナ毎に、アンケート調査結果をもとに概略的傾向を整理するとともに、グループインタビュー調査で得られた意見の傾向を整理した。</li> </ul>			
地方移住者（UJ/ターン者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査結果をもとに、UJ/ターン/ターン（2区分）×性別（2区分）の4セグメントについて、移住者を地方暮らし導いた要因（誘因カテゴリー）の傾向を整理した。</li> <li>また、グループインタビューを実施した地方移住者10グループのそれぞれについて、グループインタビュー調査で聴取された主なコメント（生の声）を整理した。</li> </ul>			

## 2.有識者ヒアリング調査

---

## 2.有識者ヒアリング調査

### 調査の概要

#### ■ ヒアリング調査実施の目的

- 本調査において実施するアンケート調査及びグループインタビュー調査の質問項目、実施方法等について示唆を得ることを目的として、ヒアリングを実施した。

#### ■ ヒアリング調査の対象及びヒアリング項目

- 本調査では、「小池司朗氏（国立社会保障・人口問題研究所）」及び「田中輝美氏（ローカルジャーナリスト）」へのヒアリング調査を実施した。
- 主なヒアリング項目は下記の通りである。

ヒアリング対象	小池司朗氏 (国立社会保障・人口問題研究所)	田中輝美氏 (ローカルジャーナリスト)
主なヒアリング項目	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 東京圏在住者が地方への転出（UJターン）に至るきっかけや理由についてのお考え</li><li>2. 東京圏在住者の地方への転出を阻む要因、移住に当たり感じる不安要素についてのお考え</li><li>3. アンケート調査設計へのご意見</li><li>4. グループインタビュー調査設計へのご意見</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. ご自身の地方移住のストーリー/地方移住に対するお考え</li><li>2. 東京圏在住者が地方への転出（UJターン）に至るきっかけや理由についてのお考え</li><li>3. 東京圏在住者の地方への転出を阻む要因や移住促進に必要な支援策についてのお考え</li><li>4. グループインタビュー調査設計へのご意見</li></ol>

## 2.有識者ヒアリング調査

### ヒアリング結果概要①\_小池司朗氏（国立社会保障・人口問題研究所）

※ 詳細発言録については、別添参考資料を参照。

	ご意見_主なポイント抜粋
(1) アンケート調査標本割付、FGI調査対象者抽出方法について	<ul style="list-style-type: none"><li>● 転出数減少の要因は、地方出身者のUターン率の減少に加え、東京圏の人口に占める東京圏出身者の割合の増加によるところが大きいと考えられる（東京圏出身者は転出率が低い）。そのため、「東京圏出身かつ東京圏在住者」の意識も把握しておきたい。当該セグメントのアンケート調査の標本数を増やすことを検討すると良い。</li><li>● Uターン者は地方の市部に回帰する割合が高いと考えられることに加え、そもそも郡部の居住者は絶対数も少ない。そのため、Uターン者のFGI調査対象者の居住地区分を見直す必要があるのではないか。代替案としては、「都市部（政令市や県庁所在地等）」と「それ以外（それ以外の市や郡部）」に分けて、FGI調査（フォーカス・グループ・インタビュー調査）を実施する方が現実的ではないか。</li></ul>
(2) アンケート調査設問について	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地方移住には、本人だけでなく「両親の出身地」や「両親の意向」の影響を受けると考えられる。</li><li>● また、地方出身者のUターン行動は、兄弟・姉妹構成や人数、ポジション（例：長男・長女など）により異なる可能性がある。</li></ul>
(3) FGI調査インタビューフローについて	<ul style="list-style-type: none"><li>● 女性の転出の意思決定に大きく影響する、子育て環境への意識についてはFGI調査のインタビューフローに盛り込むと良いのではないか。</li><li>● 女性の高学歴化の進展も、女性の東京圏への転入超過の大きな要因の一つである。</li><li>● 新型コロナウイルス感染拡大による意識変化については、アンケート調査だけでなくFGI調査のインタビューフローにも盛り込むと良いのではないか。</li><li>● Uターン種別と居住地区分（市部/町村部等）により、移住に関する意識や実態が異なると考えられ、インタビューフローに反映することを検討すると良い。</li></ul>

## 2.有識者ヒアリング調査

### ヒアリング結果概②\_田中輝美氏（ローカルジャーナリスト）

※ 詳細発言録については、別添参考資料を参照。

	ご意見_主なポイント抜粋
(1) 大人世代の地方暮らしへの意識について	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地方暮らしへの意識は、若者世代はポジティブに変化しつつある一方で、大人世代が未だにネガティブなイメージを持つことが、若者の移住を阻害する要因になっていると考えられる。大人のマインドを変えていくことが課題である。</li></ul>
(2) 学生の地方暮らしへの意識と必要な広報・支援策について	<ul style="list-style-type: none"><li>● 学生が地方での暮らしに関心を持つきっかけとして、刷り込みによる地方へのネガティブな「思い込みの壁」を打破することが重要。そのためには、地方で働く「いい大人」との「つながり」をつくることや、働き方の体験談を紹介することが必要である。</li><li>● 最近の学生は、経済的にある程度豊かな生活をしている一方で、人との「つながり」などの社会関係資本の不足を感じており、社会的な「つながり」のある生活を望んでいると考えられる。</li><li>● 東京圏転入者は、親族や先生等のアドバイスに基づき、なんとなく東京圏の企業や大学に行くケースが多い。彼らは、地方が抱く東京圏へのイメージと現状のギャップを感じてはいるものの、強い意志がなく地方で暮らす意思決定ができないのではないかと。</li></ul>
(3) 若手社会人の地方暮らしへの意識と必要な広報・支援策について	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地方移住の現状をイノベーター理論に基づいて考察した場合、イノベーターやアーリーアダプターの地方移住は概ね完了しており、アーリーマジョリティ以降の層の移住を喚起する必要があると考えられる。彼らは地方自体に関心が強いわけではない。関心ごとは、キャリア、結婚、災害対策等のライフプランに関することだろう。これらの関心ごと・悩みに寄り添った広報・支援策を行う必要がある。</li><li>● 「地方には仕事がない」というイメージは刷り込みによる思い込みである。地方では、様々な形で地方の活性化にも貢献できる仕事にあふれているにも関わらず、東京圏在住者からはイメージが湧かないことが課題。そのため、地方で働く人の好例を体験談として発信することは非常に有効ではないかと。</li><li>● ローカル特有の強い「つながり」は散見される。一方で、地方都市においては、東京圏とさほど変わらない生活様式や人間関係の中で豊かな生活をする事ができるため、「つながり」の強さに抵抗を感じる層の最初の移住先としては、「地方都市」の方が適切かもしれない。</li></ul>
(4) 新型コロナウイルス感染症流行を受けた広報・支援策について	<ul style="list-style-type: none"><li>● 新型コロナウイルス感染症流行の影響により、多くの人が必ずしも東京圏で生活する必要はないと考え始めている。彼らに対しては、地方の魅力を直接的に発信するのではなく、地方移住者のリアルな葛藤を含めたストーリーに触れさせることが重要である。</li><li>● コロナ禍において、地方移住を前面に押し出した大々的なキャンペーンを行うことは批判を受ける可能性が高いであろう。無理には推し進めずに、地方サイドの状況をみつつ丁寧にした方が良い。</li></ul>

### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

---

### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 調査概要①

#### ■ 調査目的

- 東京圏への転入超過数の高くを占める若年層（20~30代）を対象として、既存の統計データで把握・分析し難い事項について、意識調査を実施した。
- 東京圏転入者の地方移住の各意思決定要因プロセス（非関心層⇒関心層⇒検討/計画層)における「移住者の本質的な意見、表面上ではなくインサイトの意見」を抽出し、東京圏転入超過の要因分析（なぜ東京圏に来たのか/なぜ地方に戻らないのか/どうすれば地方に戻るのか）に活用する。具体的には以下の項目を調査することを目的とした。
  - ①東京圏に転入した理由（なぜ東京圏の大学・企業なのか等）
  - ②地方移住を妨げている理由（なぜ地方に戻らないのか）（東京圏へのポジティブ/地方へのネガティブな要素）
  - ③地方移住促進に必要な施策（どうすれば地方に戻るのか/意識が変わるのか）
- また、後段で実施されるFGI調査（フォーカス・グループ・インタビュー調査）において、分析上有効な回答が得られる対象者を抽出するために、アンケート調査の回答から対象者を抽出した。

#### ■ 調査方法・時期

- インターネット調査
- 2020年7月に実査を実施した。（回収標本数1,552）

### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 調査概要②

#### ■ 調査対象者

- 下記に該当する対象者を抽出し、調査を実施した。

##### < サンプル設計/対象者条件 >

- ・現在の居住地が東京圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）。
- ・出身地（概ね18歳までに最も長く暮らした地域）が東京圏以外。  
※なお、一部設問については、生まれよりの東京圏在住者を対象とし、地方への移動に係る意識把握を実施
- ・年齢が20～39歳。
- ・東京圏へ転入した年齢が18歳以降（複数回転入の場合は最後の転入が18歳以降）。
- ・東京圏への転入の時期が直近10年以内（複数回転入の場合は最後の転入が直近10年以内）。

#### ■ 回収結果

- 回収標本数は1,552サンプルである。
- 性・年代別のサンプル構成は表の通りである。

		東京圏への転入者	生まれよりの 東京圏在住者	東京圏在住者計
1	20代_男性	268	119	387
2	20代_女性	266	118	384
3	30代_男性	264	125	389
4	30代_女性	270	122	392
性年代計		1,068	484	1,552

### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 調査概要③

#### ■ 調査設計（調査票）

- 本調査における調査項目は下記のとおりである。

##### 調査票\_設問項目

- SC1.あなたの性別をお答えください。（ひとつだけ）
- SC2.あなたの現在の満年齢をお答えください。（半角数値）
- SC3.あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください。（ひとつだけ）
- SC4\_1.あなたが現在お住まいの場所は、次のうちのどちらですか。（ひとつだけ）
- SC4\_2.あなたが現在お住まいの市区町村名をご記入ください。
- SC5.あなたの現在のご職業をお答えください。（ひとつだけ）
- SC6.あなたの婚姻の有無をお答えください。（ひとつだけ）
- SC7.あなたの子供の有無をお答えください。（ひとつだけ）
- SC8.あなたの出身地（生まれてから18歳までの間で、最も長く暮らした地域）をお答えください。（ひとつだけ）
- SC9.あなたは地方から東京圏に移り住んだ経験はありますか。（ひとつだけ）
- SC12.あなたが、最後に東京圏から地方に移り住んだのは、どのくらいの年齢の時ですか。（ひとつだけ）
- SC.13あなたが、18歳以降で最後に東京圏から地方に移り住んだのはいつですか。（ひとつだけ）
- Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。  
あなたの前に梯子（はしご）があるとします。  
「あり得る最悪の人生」を梯子の0段目、「あり得る最高の人生」を梯子の10段目と考えた場合、あなたは今、はしごの何段目にいると思いますか。  
0～10段でお答えください。（ひとつだけ）
- Q2.あなたの両親の出身地についてお答えください。（ひとつだけ）
- Q3.あなたのきょうだい（兄弟・姉妹）構成とあなたの位置付けについてお答えください。（ひとつだけ）
- Q4.あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。（ひとつだけ）
- Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。（それぞれひとつずつ）
- Q6.東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。（ひとつだけ）

##### 調査票\_設問項目

- Q7.東京圏に移り住むことは、当時のあなたの希望に沿うものでしたか。（ひとつだけ）
- Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。（ひとつだけ）
- Q9.あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。（ひとつだけ）
- Q10.あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q11\_1.あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。（それぞれひとつずつ）  
「地方で暮らすことへの関心が高まった」  
「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」
- Q11\_2.あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。（それぞれひとつずつ）  
「地方で暮らすことへの関心が高まった」  
「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」
- Q11\_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。（それぞれひとつずつ）  
「地方で暮らすことへの関心が高まった」  
「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」  
「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」
- Q12.あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q13.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用している手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q14.地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持っていない理由があればお答えください。（いくつでも）
- Q15.あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）

### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 調査概要④

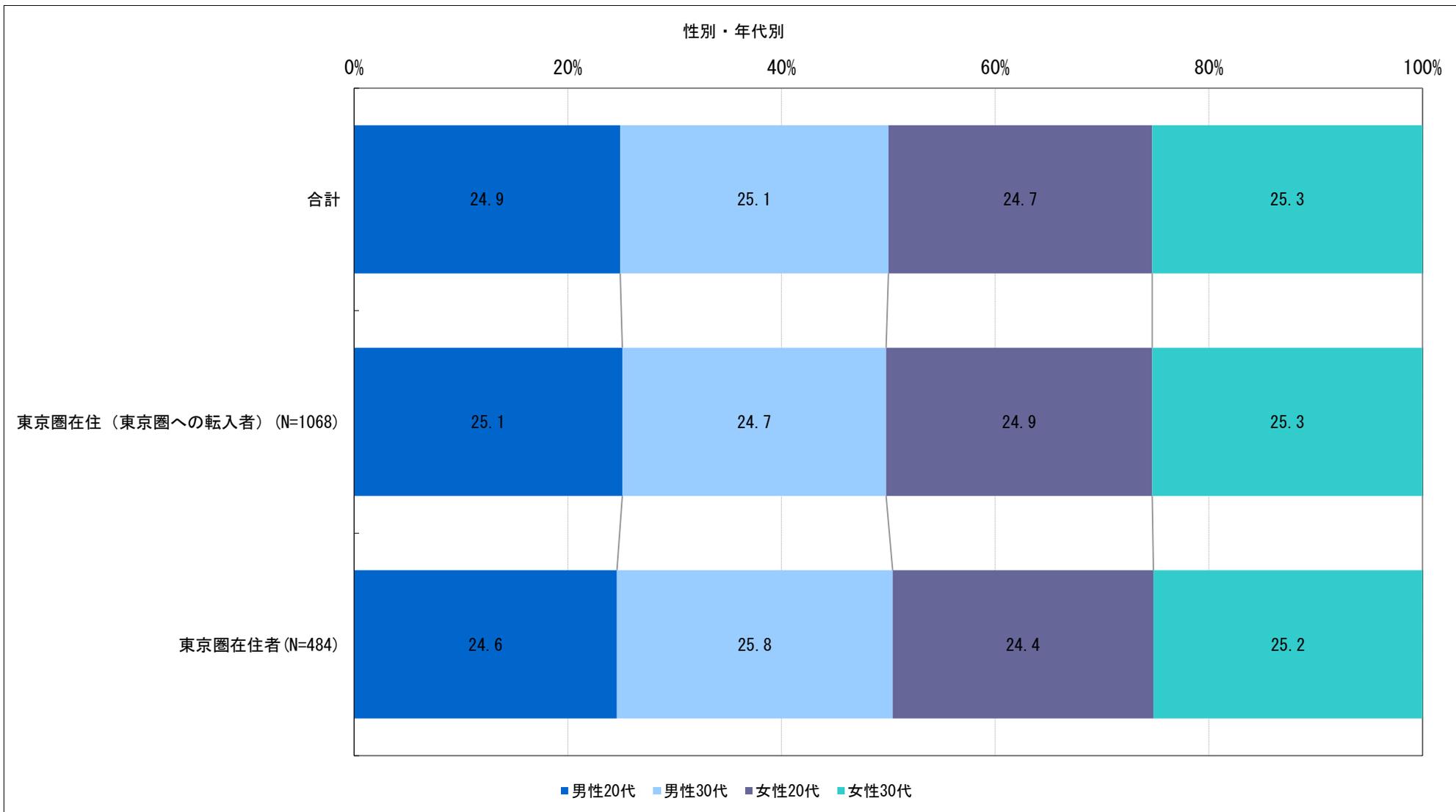
#### ■ クロス集計\_実施項目

- 下記の項目についてクロス集計の結果を掲載した。

設問	単純集計	男女クロス集計	転入のきっかけ _クロス集計	性別×転入のき かけ_クロス集計
Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。あなたの前に梯子（はしご）があるとします。「あり得る最悪の人生」を梯子の0段目、「あり得る最高の人生」を梯子の10段目と考えた場合、あなたは今、はしごの何段目にいると思いますか。0～10段でお答えください。（ひとつだけ）	●			
Q4.あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。（ひとつだけ）	●	●		
Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。（それぞれひとつずつ）【1～5位】	●			
Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。（それぞれひとつずつ）【1～5位の合計】	●	●	●	
Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。（それぞれひとつずつ）【1位】		●	●	●
Q6.東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。（ひとつだけ）	●	●	●	●
Q7.東京圏に移り住むことは、当時のあなたの希望に沿うものでしたか。（ひとつだけ）	●	●	●	●
Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。（ひとつだけ）	●	●	●	●
Q9.あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。（ひとつだけ）	●	●	●	●
Q10.あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）	●	●	●	●
Q11_1.あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。（それぞれひとつずつ） 「地方で暮らすことへの関心が高まった」 「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」	●	●	●	
Q11_2.あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。（それぞれひとつずつ） 「地方で暮らすことへの関心が高まった」 「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」	●	●	●	
Q11_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。（それぞれひとつずつ） 「地方で暮らすことへの関心が高まった」 「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」 「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」	●	●	●	
Q12.あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）	●	●		
Q13.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用している手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）	●	●	●	●
Q14.地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。（いくつでも）	●	●	●	●
Q15.あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）	●	●	●	●

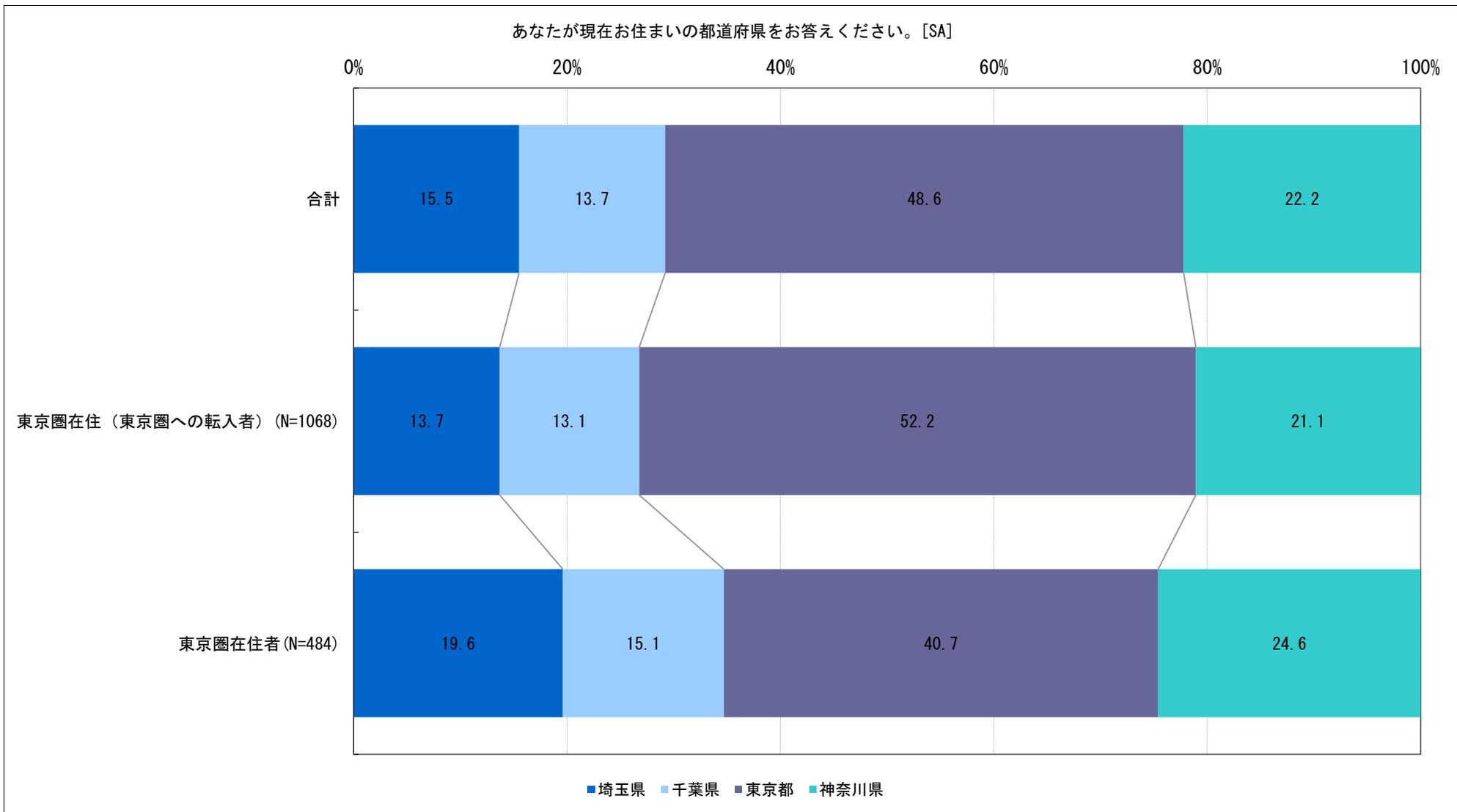
### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 回答者の基本属性（性別×年代）



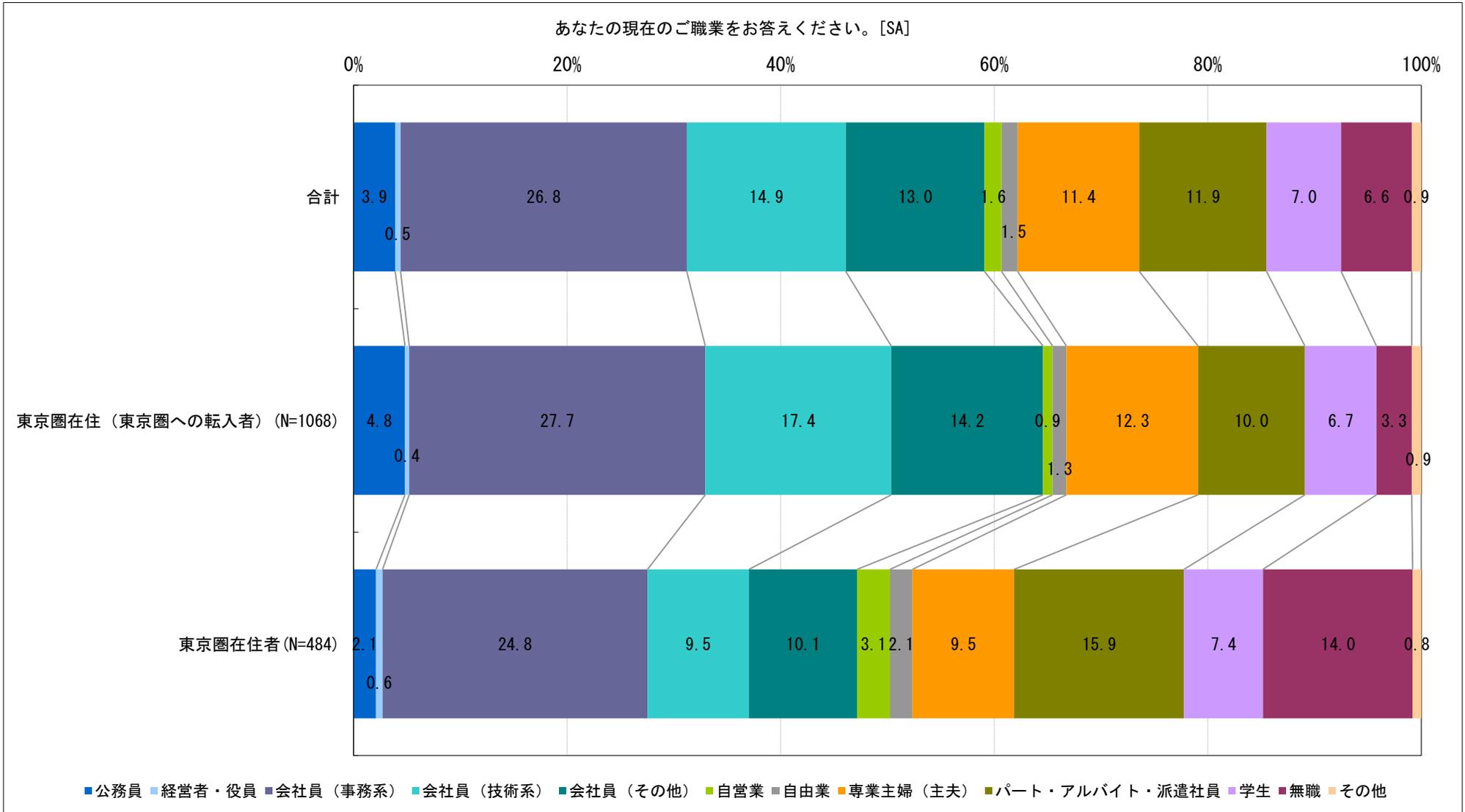
### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 回答者の基本属性（現在の居住地）



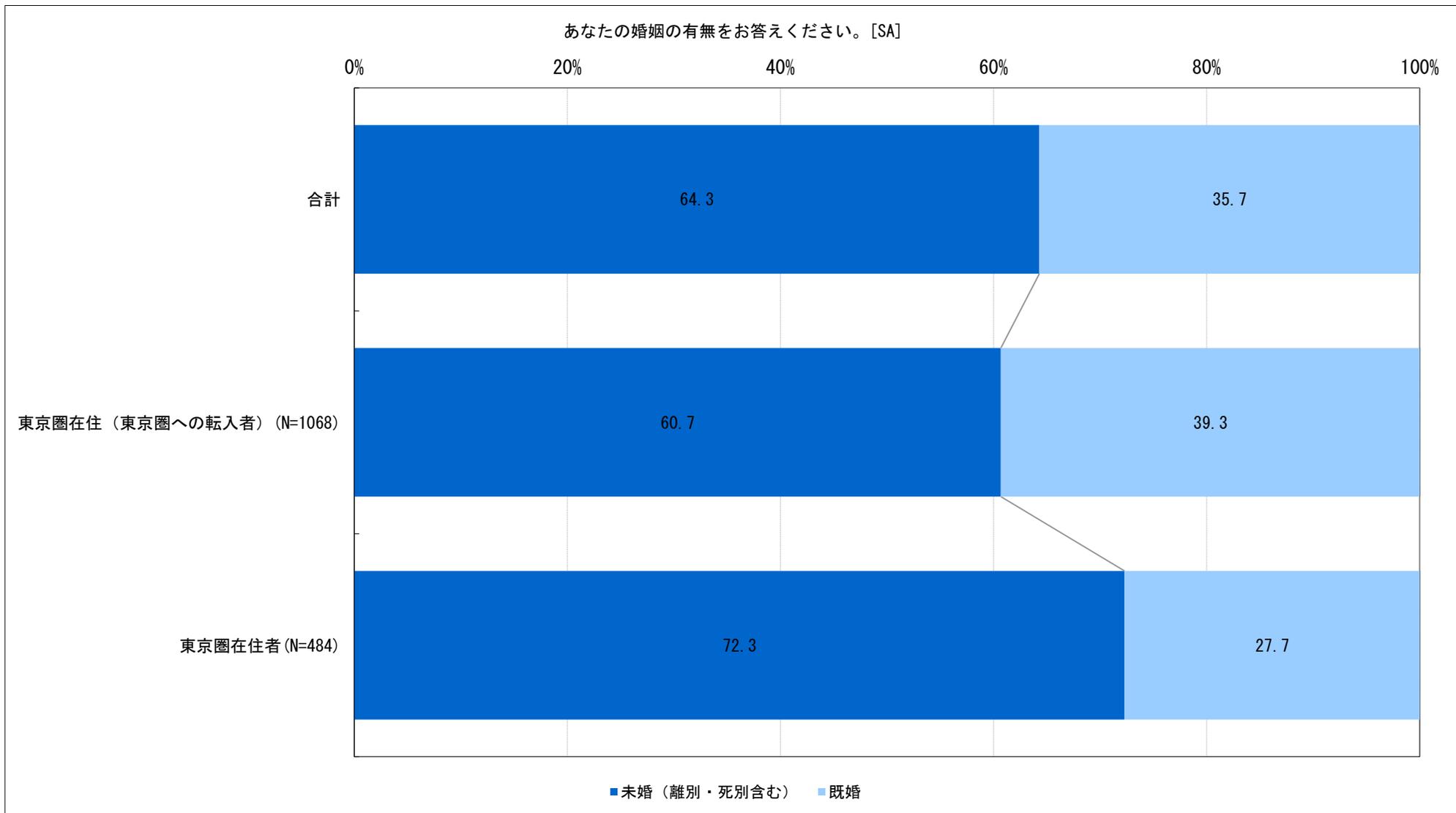
### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 回答者の基本属性（職業）



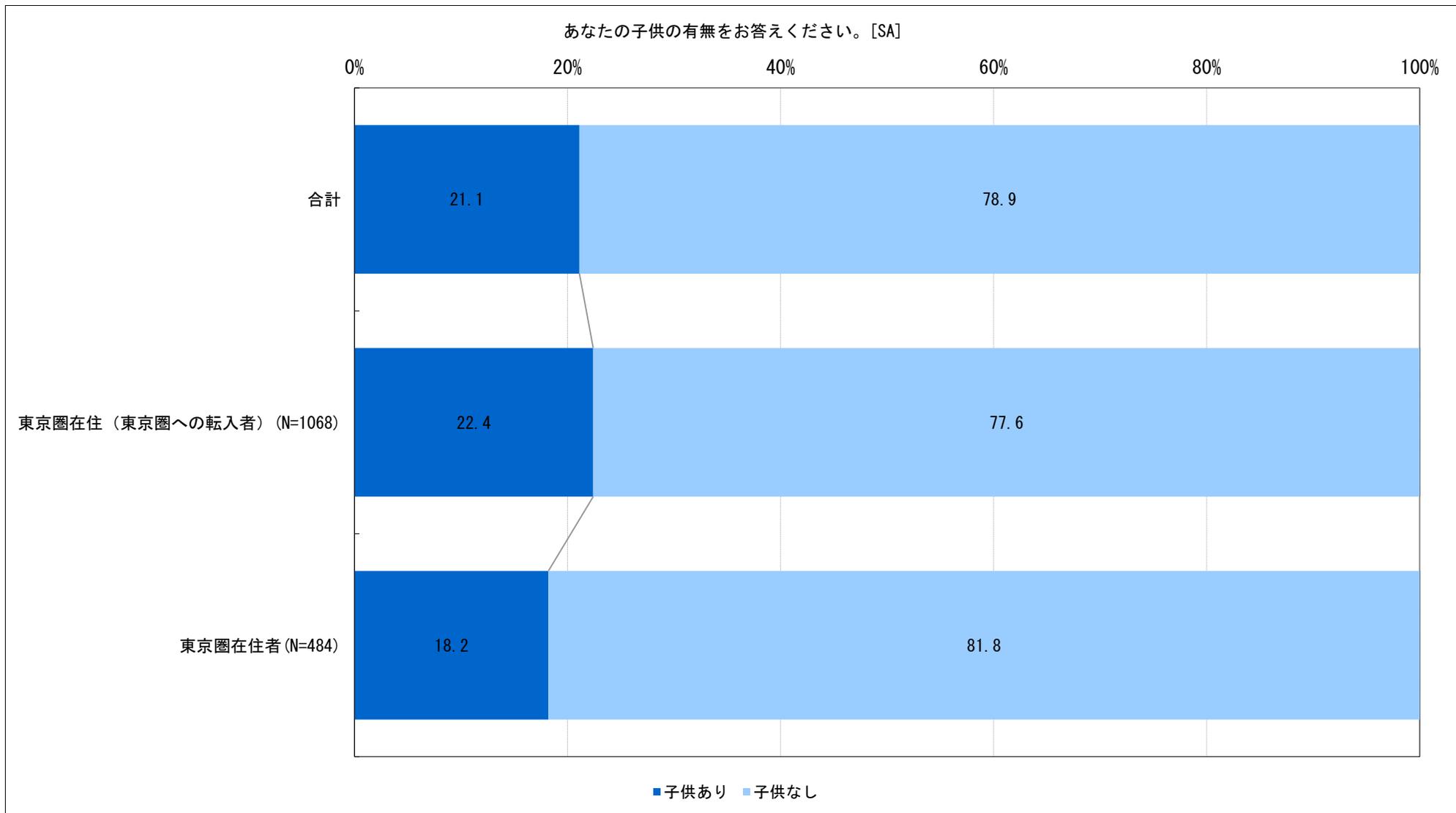
### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 回答者の基本属性（婚姻の有無）



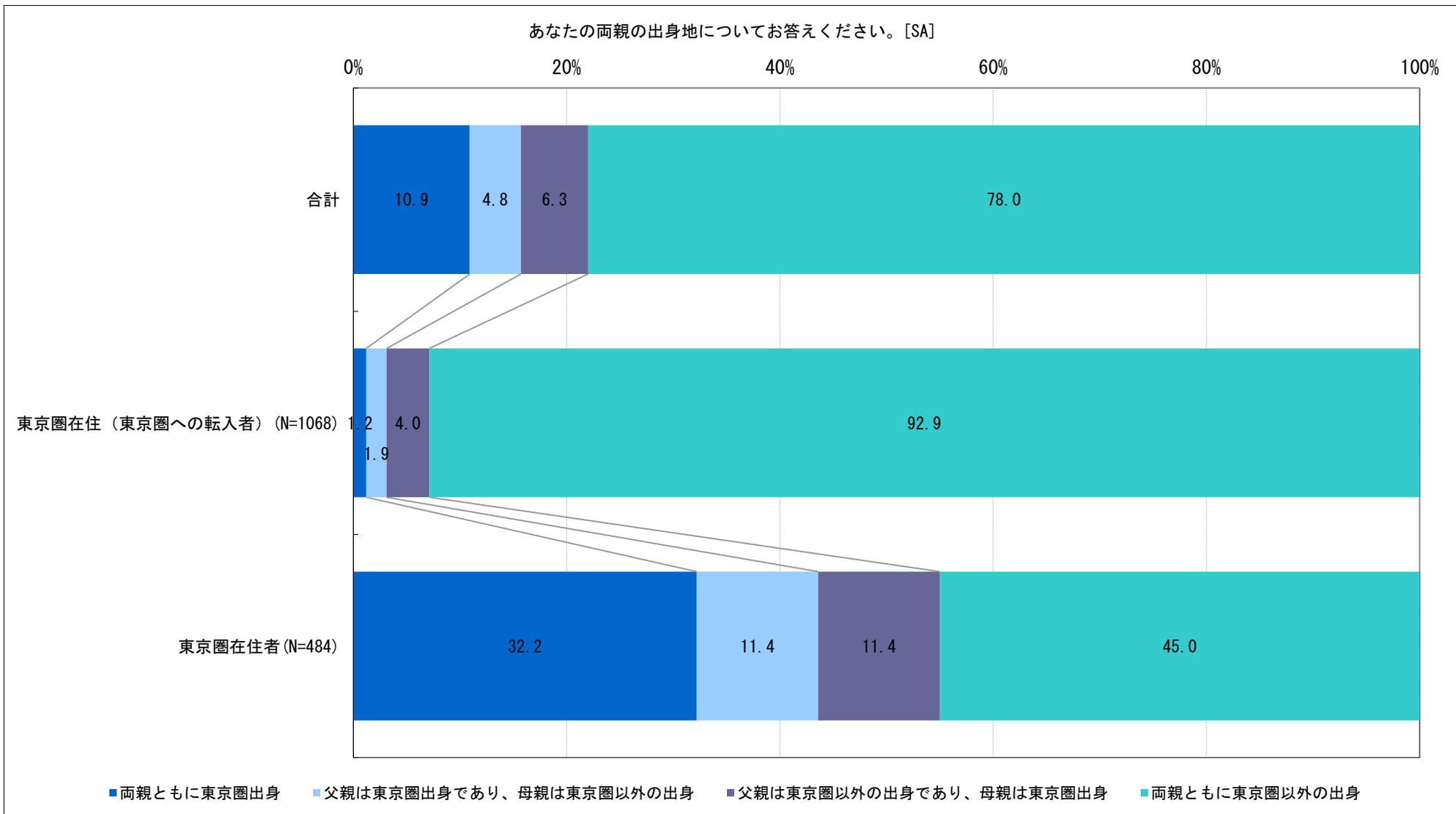
### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 回答者の基本属性（子供の有無）



### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

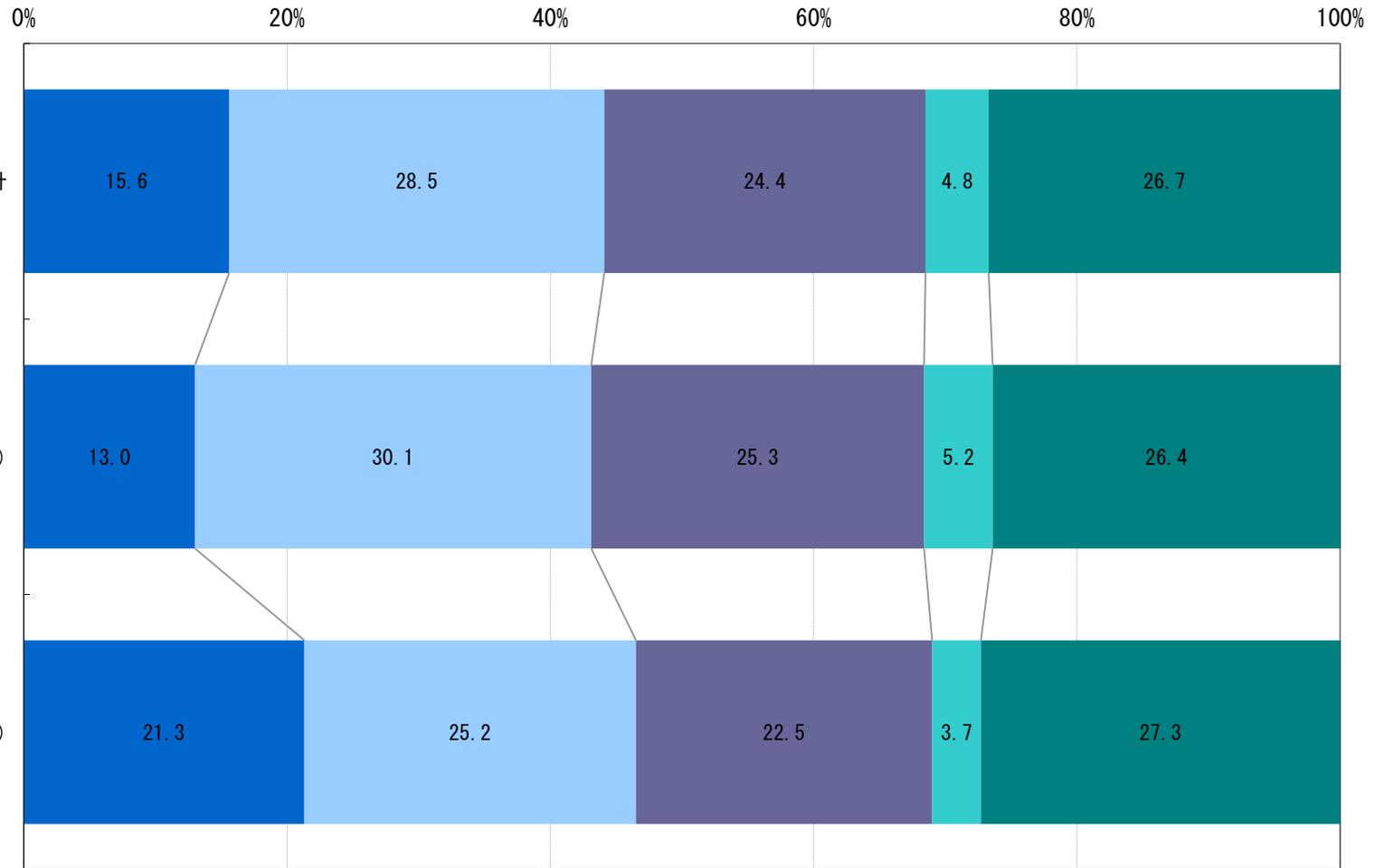
#### 回答者の基本属性（両親の出身地）



### 3.1.1.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 回答者の基本属性（きょうだい構成、自身の位置付け）

あなたのきょうだい（兄弟・姉妹）構成とあなたの位置付けについてお答えください。[SA]



■一人っ子（きょうだいはいない） ■一人っ子ではない長男 ■一人っ子ではない長女（兄や弟がいる） ■一人っ子ではない長女（兄や弟はいない） ■長男・長女以外

### 3.1.2.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査結果

---

### 3.1.2.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査結果

#### 単純集計・男女クロス集計の概要まとめ①

- 東京圏に移り住んだきっかけは、「進学・教育・職業訓練」(25.8%)、「就職（新卒）」(24.2%)、「就職・転職・求職（新卒以外）」(16.9%)の順で高い。[P.30]
  - 男性では、「進学・教育・職業訓練」(29.1%)、「就職（新卒）」(28.4%)、「就職・転職・求職（新卒以外）」(18.8%)の順で高い。
  - 女性では、「進学・教育・職業訓練」(22.6%)、「結婚・出産」(20.5%)、「就職（新卒）」(20.0%)の順で高く、[「結婚・出産」\(20.5%\)](#)や[「家庭事情」\(10.1%\)](#)の割合も比較的高い。[P.31]
- 東京圏に移り住んだ理由（第1位選択）は、[「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」\(19.9%\)](#)、[「就職先の選択肢の豊富さ（数）」\(13.6%\)](#)、[「希望する進学先の存在（質）」\(12.6%\)](#)の順に高い。[P.32]
  - 男性では、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(22.6%)が最も高く、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(16.2%)、「希望する進学先の存在（質）」(12.6%)と続く。[P.36]
  - 女性では、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」、「東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため」(17.2%)が最も高く、「希望する進学先の存在（質）」(12.7%)と続く。また、「生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ」(9.0%)「余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実」(5.8%)が比較的高い。[P.36]
- 東京圏への転入時に、[「東京圏への移動を望んでいた」のは57.2%](#)、「どちらでもなかった」のは25.5%、[「東京圏への移動を望んでいなかった」のは17.3%](#)である。[P.43]
- 地方での暮らしについて、関心がある層（「関心がある」～「やや関心がある」）は全体の50%弱であり、関心がない層（「あまり関心がない」～「関心がない」）は全体の30%弱である。[P.47]
  - 男性では、関心層は全体の51.4%、非関心層は全体の25.9%である一方で、女性では、関心層は全体の45.1%、非関心層は全体の32.0%と、女性より男性の方が地方で暮らすことへの関心が強い傾向にある。[P.48]
- 地方での暮らしを最初に意識したきっかけは、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(28.2%)、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(13.6%)、「帰省がきっかけ」(13.4%)の順で高い。[P.51]
- 関心を持った地方の魅力については、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(55.8%)、「空間的・時間的に余裕のある生活」(49.4%)、「生活コスト（物価・家賃等）が安価であること」(49.4%)の順で高い。[P.55]
  - 女性は男性と比べ、「子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ」(28.9%)が高い。[P.56]

### 3.1.2.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査結果

#### 単純集計・男女クロス集計の概要まとめ②

- 「結婚」をきっかけとして、「地方で暮らすことへの関心が高まった」と考える人の割合は全体の34.3%、「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」と考える人の割合は全体の35.0%。[P.59]
- 「子ども」ができたことをきっかけとして、「地方で暮らすことへの関心が高まった」と考える人の割合は全体の43.7%、「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」と考える人の割合は全体の37.9%。[P.64]
- 「新型コロナウイルス」の感染拡大の懸念を受けて、「地方で暮らすことへの関心が高まった」と考える人の割合は全体の33.7%、「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」と考える人の割合は全体の32.8%、「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」と考える人の割合は全体の45.2%。[P.69]
- 地方での暮らしに関心がある人の43.8%は移住に向けた情報収集はしていない。収集している情報としては、「仕事に関する情報」(31.4%)、「生活コストに関する情報」(25.6%)、「住居、住宅購入に関する情報」(22.0%)の順で高い。[P.76]
- 情報収集チャネルとしては、「WEB（スマートフォンを利用）」(76.7%)、「WEB（PCを利用）」(40.4%)、「テレビ」(27.6%)の順で高い。また、東京圏在住者は地方移住者と比べ、「家族・親族・友人・知人の口コミ」が約10%ポイント低い。[P.80、P192]
- 地方へ移り住むことを妨げている理由や移動に関心を持たない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(39.4%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(35.6%)、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(34.2%)の順で高い。[P.82]
  - 女性は男性と比べ、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」、「同居するパートナー・家族・親族の都合（仕事、介護等）で東京圏を離れにくいこと」が約10%ポイント高い。[P.83]
- 地方に移住しても良いと思うための条件としては、「希望する仕事がある」(48.9%)、「納得できる給与水準の仕事がある」(48.5%)、「理想とする住まいがある」(31.6%)の順で高い。[P.86]
  - 女性は男性と比べ、「地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する」、「地方の子育て環境（保育、教育、子育て支援など）が充実する」、「地方の災害対策や治安が改善する」、「結婚・出産や退職、子供の自立など、自身や同居者のライフステージが変化する」等が5～10%ポイント高い。[P.87]

### 3.1.2.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査結果

#### 東京圏に転入したきっかけ\_クロス集計の概要まとめ①

##### ■ 東京圏に移り住んだ理由（第1位選択） [P.37]

- 「進学・教育・職業訓練」では「希望する進学先の存在（質）」(41.7%) が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(23.6%)、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(15.9%) と続く。
- 「就職（新卒）」と「就職・転職・求職（新卒以外）」では「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(25.6%/27.1%) が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(24.8%/22.1%)、「やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」(8.9%/9.9%)と続く。

##### ■ 東京圏以外の地域に居住しなかった理由[P.41]

- 「進学・教育・職業訓練」では、「希望する条件の進学先がなかったため」(44.6%)が最も高く、「目標（進学、就職以外）を実現するための環境がなかったため」(8.3%)、「生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため」(7.6%)と続く。
- 「就職（新卒）」では、「希望する条件の就職先がなかったため」(40.3%)が最も高く、「生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため」(8.5%)、「イメージ・ブランドが良くなかったため」、「余暇・文化を楽しむ場所・機会が希望する条件に合わなかったため」(6.2%)と続く。
- 「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「希望する条件の就職先がなかったため」(32.0%)が最も高く、「生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため」(13.3%)、「目標（進学、就職以外）を実現するための環境がなかったため」、「余暇・文化を楽しむ場所・機会が希望する条件に合わなかったため」(7.2%)と続く。

##### ■ 転入当時の本人の意向[P.45]

- 「進学・教育・職業訓練」では、「東京圏への移動を望んでいた」のは76.4%、「どちらでもなかった」のは15.6%、「東京圏への移動を望んでいなかった」のは8.0%を占める。
- 「就職（新卒）」では、「東京圏への移動を望んでいた」のは62.8%、「どちらでもなかった」のは25.2%、「東京圏への移動を望んでいなかった」のは12.0%を占める。
- 就職（新卒以外）では、「東京圏への移動を望んでいた」のは63.5%、「どちらでもなかった」のは24.9%、「東京圏への移動を望んでいなかった」のは11.6%を占める。

### 3.1.2.東京圏在住者の意識調査\_アンケート調査\_調査結果

#### 東京圏に転入したきっかけクロス集計の概要まとめ②

##### ■ 地方で暮らすことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持たない理由[P.84]

- 「進学・教育・職業訓練」、「就職（新卒）」、「就職・転職・求職（新卒以外）」全てにおいて、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(44.6%／49.2%／51.9%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(37.0%／43.0%／47.0%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(34.1%／36.0%／32.0%)と続く。

##### ■ 地方に居住してもいいと思う条件[P.88]

- 「進学・教育・職業訓練」と「就職（新卒）」では、「希望する仕事がある」(59.8%／66.3%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(51.1%／63.2%)、「理想とする住まいがある」(31.9%／37.6%)と続く。
- 「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「希望する仕事がある」(59.7%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(54.1%)、「地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する」(32.6%)と続く。

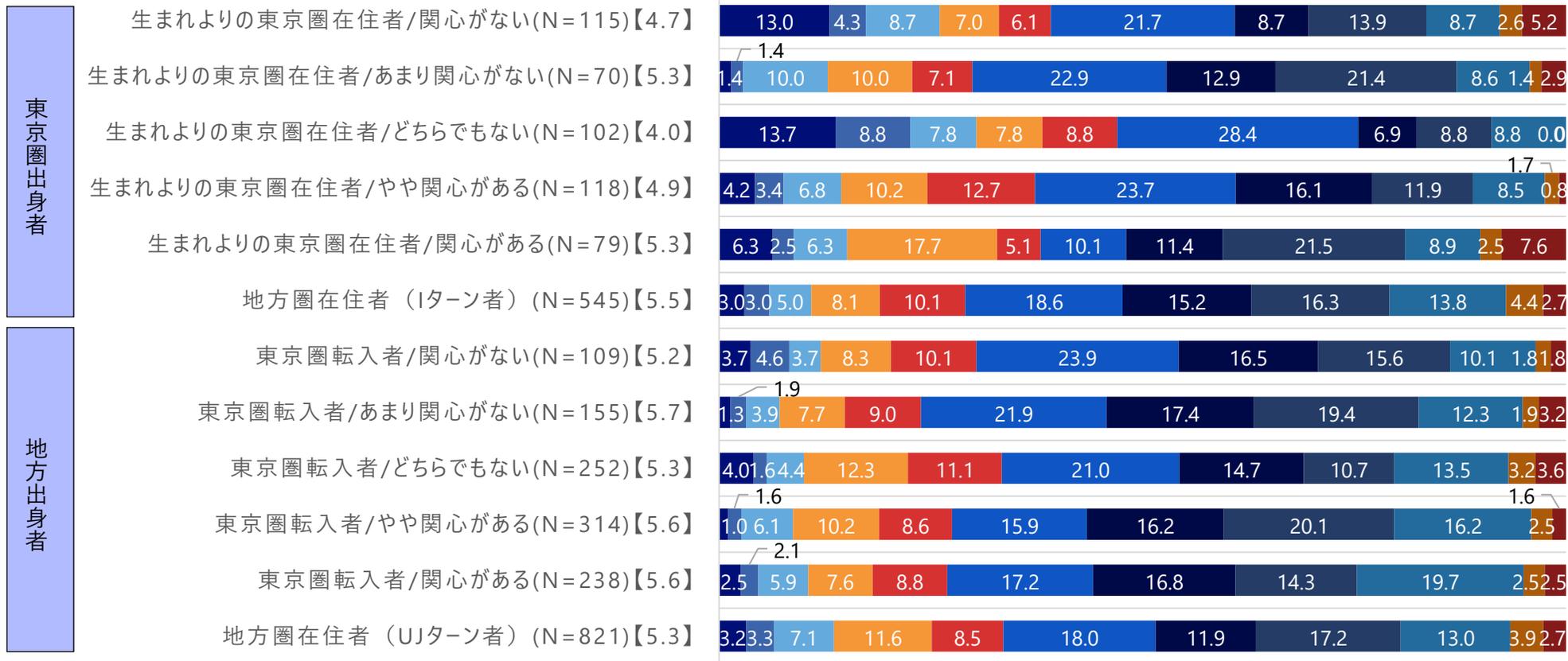
Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。

東京圏出身者では、東京圏在住者と比べてUターン者の幸福度が高い。(Uターン者平均：5.5段目)

地方出身者では、地方移住の非関心層／関心層／Uターン者すべてについて幸福度が高い傾向にある。(平均：5.0段目以上)

あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。あなたの前に梯子（はしご）があるとします。

「あり得る最悪の人生」を梯子の0段目、「あり得る最高の人生」を梯子の10段目と考えた場合、あなたは今、はしごの何段目にいると思いますか。0～10段でお答えください。（ひとつだけ）



■ 0段目 ■ 1段目 ■ 2段目 ■ 3段目 ■ 4段目 ■ 5段目 ■ 6段目 ■ 7段目 ■ 8段目 ■ 9段目 ■ 10段目

Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。

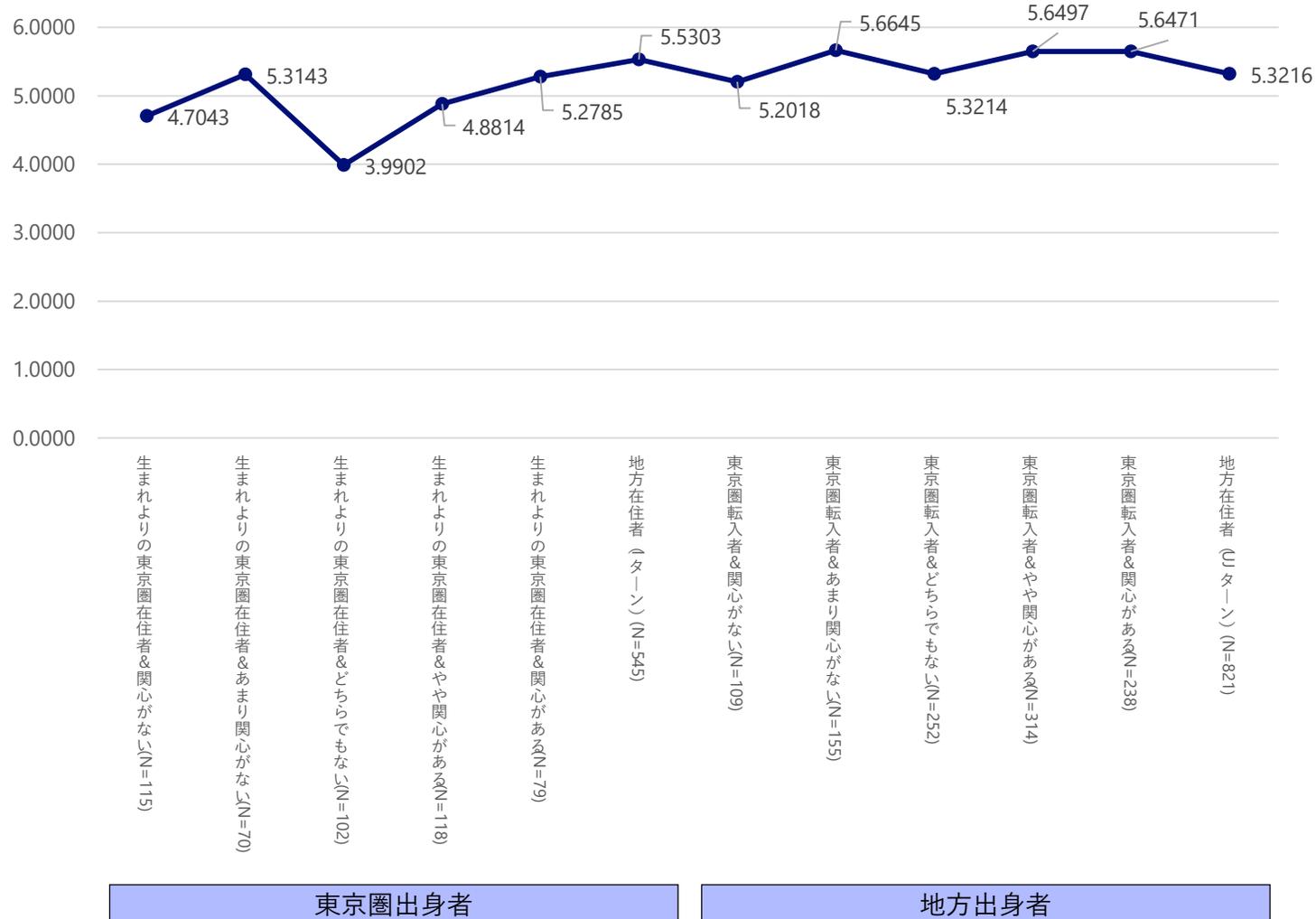
(ご参考)「キャントリルの梯子設問」 小数点第四位までのデータ

	N数	平均幸福度	0段目	1段目	2段目	3段目	4段目	5段目	6段目	7段目	8段目	9段目	10段目
N数	2,918		107	86	177	290	265	559	407	472	385	91	79
生まれよりの東京圏在住者 & 関心がない(N=115)	115	4.7043	13.0435%	4.3478%	8.6957%	6.9565%	6.0870%	21.7391%	8.6957%	13.9130%	8.6957%	2.6087%	5.2174%
生まれよりの東京圏在住者 & あまり関心がない(N=70)	70	5.3143	1.4286%	1.4286%	10.0000%	10.0000%	7.1429%	22.8571%	12.8571%	21.4286%	8.5714%	1.4286%	2.8571%
生まれよりの東京圏在住者 & どちらでもない(N=102)	102	3.9902	13.7255%	8.8235%	7.8431%	7.8431%	8.8235%	28.4314%	6.8627%	8.8235%	8.8235%	0.0000%	0.0000%
生まれよりの東京圏在住者 & やや関心がある(N=118)	118	4.8814	4.2373%	3.3898%	6.7797%	10.1695%	12.7119%	23.7288%	16.1017%	11.8644%	8.4746%	1.6949%	0.8475%
生まれよりの東京圏在住者 & 関心がある(N=79)	79	5.2785	6.3291%	2.5316%	6.3291%	17.7215%	5.0633%	10.1266%	11.3924%	21.5190%	8.8608%	2.5316%	7.5949%
地方在住者 (Iターン) (N=545)	545	5.5303	2.9358%	2.9358%	4.9541%	8.0734%	10.0917%	18.5321%	15.2294%	16.3303%	13.7615%	4.4037%	2.7523%
東京圏転入者 & 関心がない(N=109)	109	5.2018	3.6697%	4.5872%	3.6697%	8.2569%	10.0917%	23.8532%	16.5138%	15.5963%	10.0917%	1.8349%	1.8349%
東京圏転入者 & あまり関心がない(N=155)	155	5.6645	1.2903%	1.9355%	3.8710%	7.7419%	9.0323%	21.9355%	17.4194%	19.3548%	12.2581%	1.9355%	3.2258%
東京圏転入者 & どちらでもない(N=252)	252	5.3214	3.9683%	1.5873%	4.3651%	12.3016%	11.1111%	21.0317%	14.6825%	10.7143%	13.4921%	3.1746%	3.5714%
東京圏転入者 & やや関心がある(N=314)	314	5.6497	0.9554%	1.5924%	6.0510%	10.1911%	8.5987%	15.9236%	16.2420%	20.0637%	16.2420%	2.5478%	1.5924%
東京圏転入者 & 関心がある(N=238)	238	5.6471	2.5210%	2.1008%	5.8824%	7.5630%	8.8235%	17.2269%	16.8067%	14.2857%	19.7479%	2.5210%	2.5210%
地方在住者 (UJターン) (N=821)	821	5.3216	3.1669%	3.2887%	7.0646%	11.5713%	8.4044%	18.0268%	11.8149%	17.1742%	12.9111%	3.8977%	2.6797%

Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。

(ご参考)「キャンтрルの梯子設問」 小数点第四位までのデータ

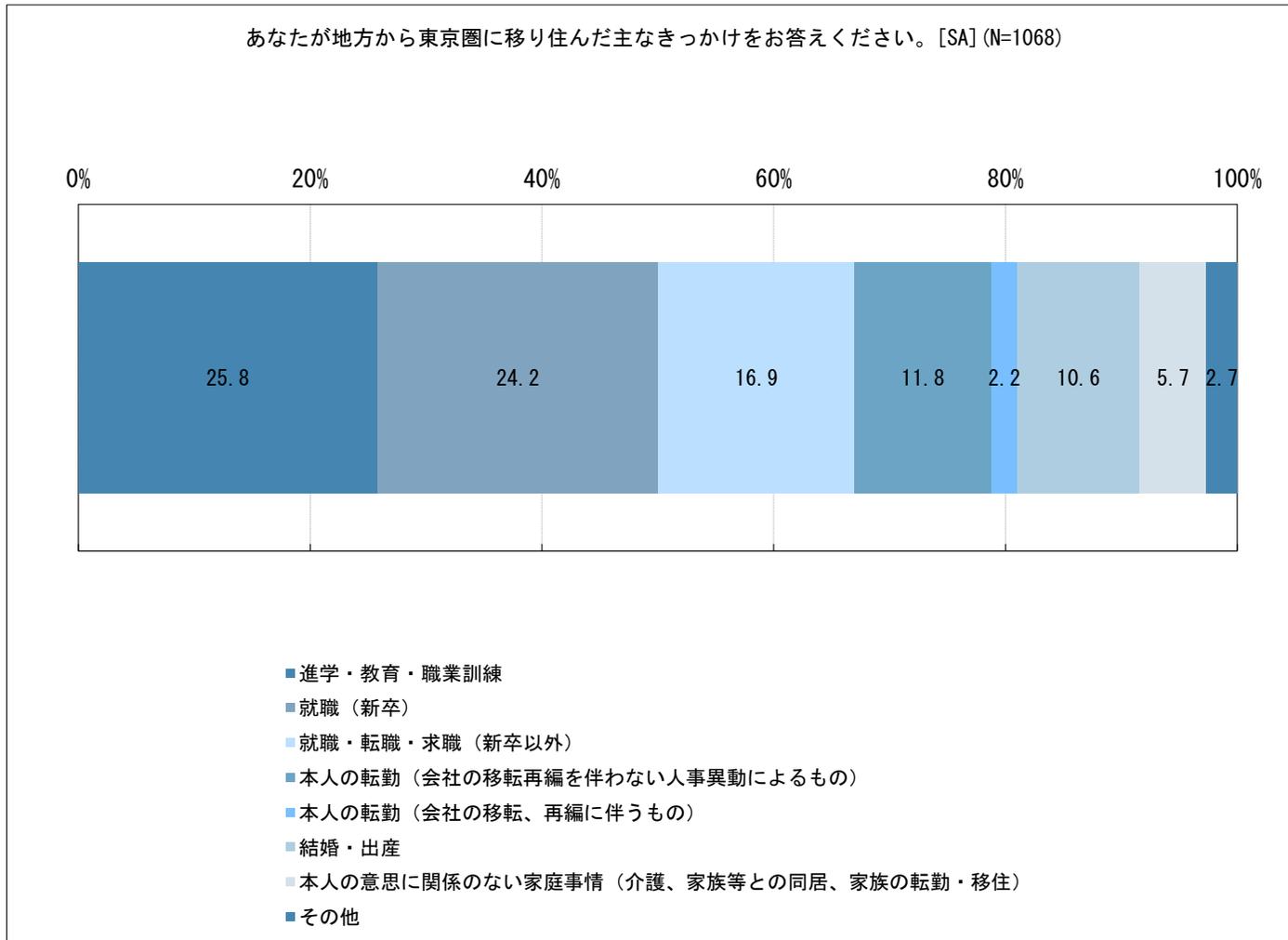
東京圏在住者の移住への関心状況別／移住後の平均幸福度



Q4.あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。【単純集計】

「進学・教育・職業訓練」(25.8%)が最も高く、「就職（新卒）」(24.2%)、「就職・転職・求職（新卒以外）」(16.9%)までで全体の65%以上を占める。

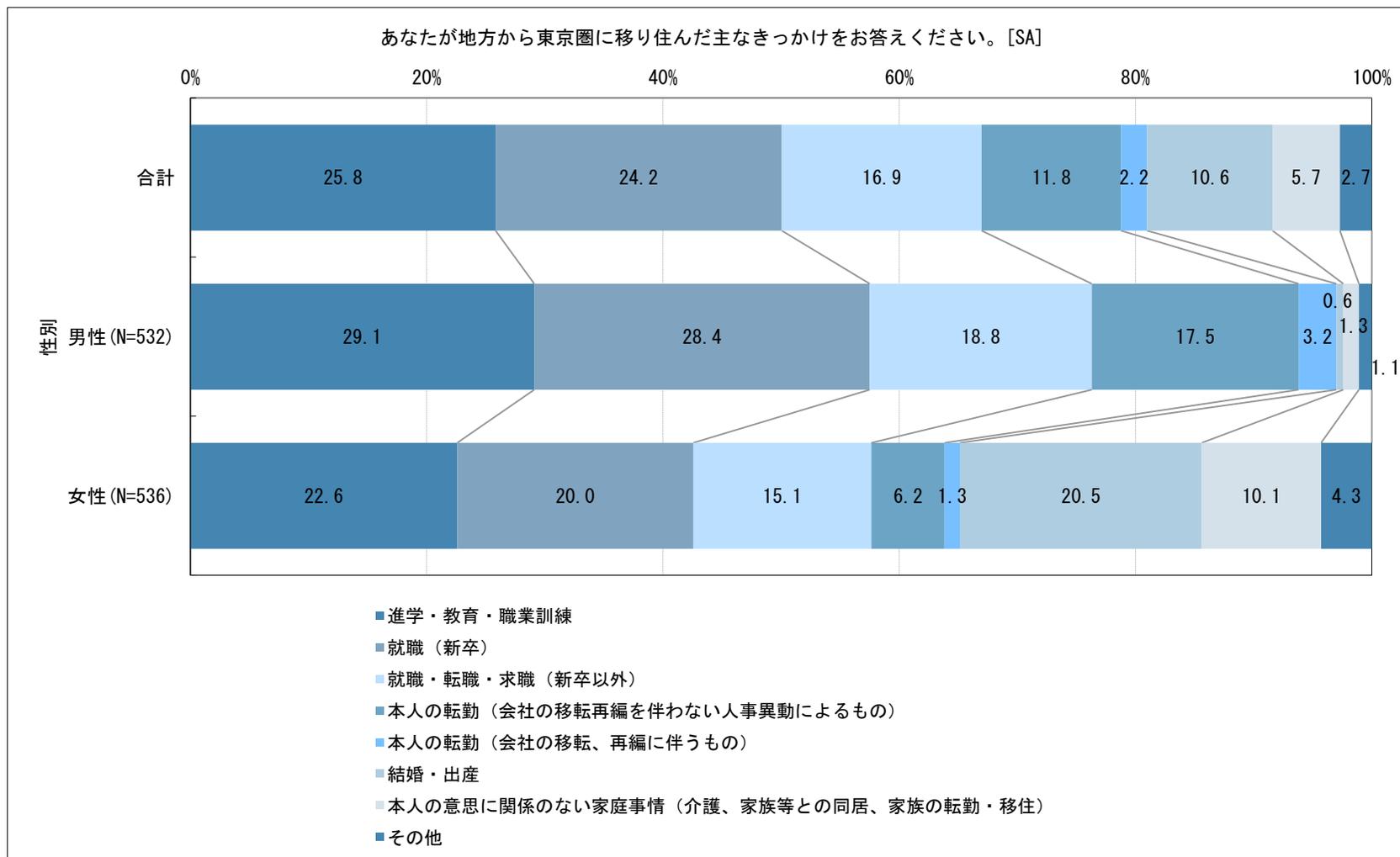
標本：東京圏への転入者



#### Q4.あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。【男女クロス集計】

男性では、「進学・教育・職業訓練」(29.1%)が最も高く、「就職（新卒）」(28.4%)、「就職・転職。求職（新卒以外）」(18.8%)、女性では、「進学・教育・職業訓練」(22.6%)が最も高く、「結婚・出産」(20.5%)、「就職（新卒）」(20.0%)と続く。女性では、「結婚・出産」(20.5%)や「家庭事情」(10.1%)の割合も比較的高い。

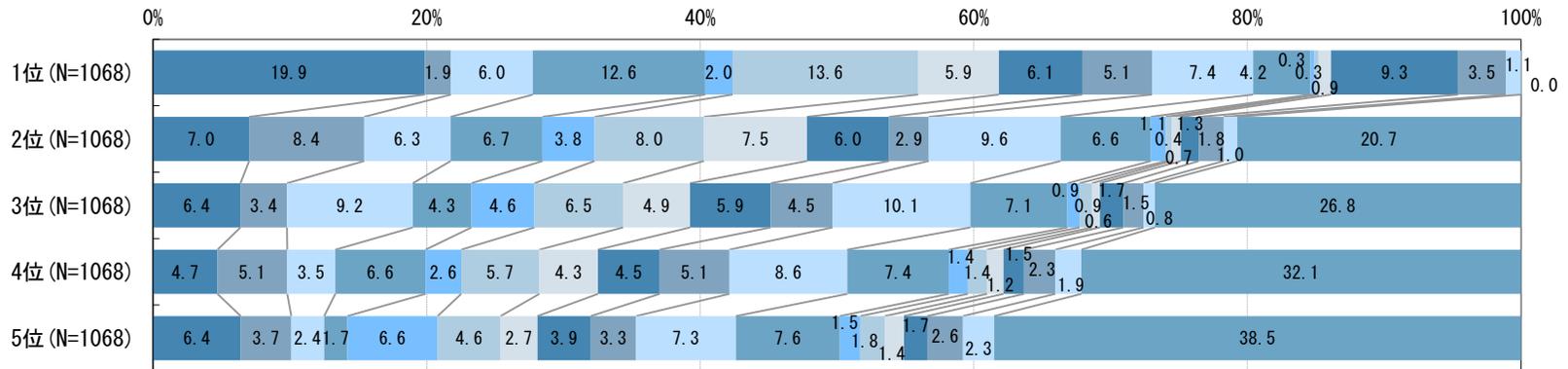
標本：東京圏への転入者



Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。【単純集計】  
**第1位理由**としては、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(19.9%)が最も高く、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(13.6%)、「希望する進学先の存在（質）」(12.6%)と続く。

標本：東京圏への転入者

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA\_MATRIX]

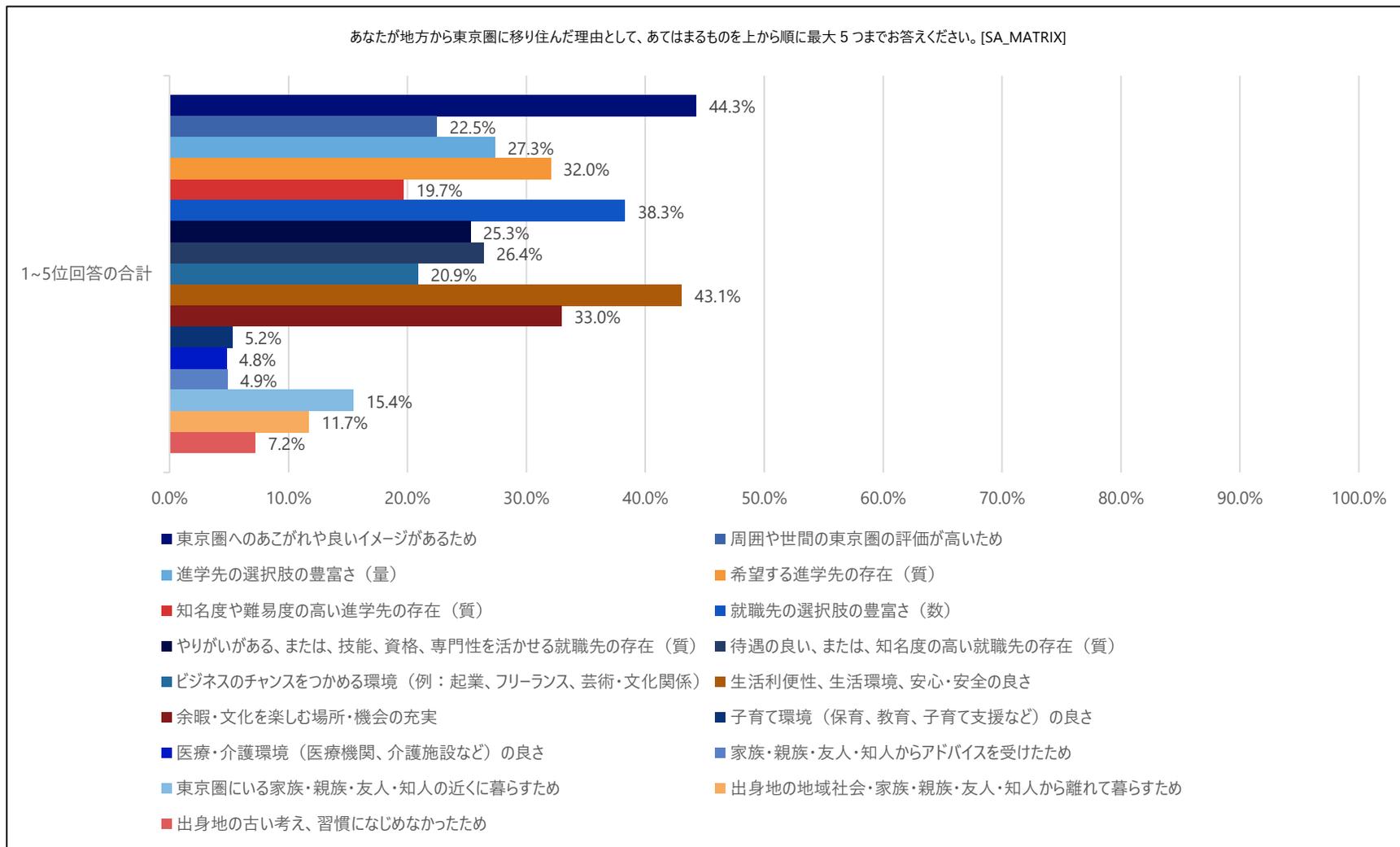


- 東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため
- 周囲や世間の東京圏の評価が高いため
- 進学先の選択肢の豊富さ（量）
- 希望する進学先の存在（質）
- 知名度や難易度の高い進学先の存在（質）
- 就職先の選択肢の豊富さ（数）
- やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）
- 待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）
- ビジネスのチャンスをつかめる環境（例：起業、フリーランス、芸術・文化関係）
- 生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）の良さ
- 家族・親族・友人・知人からアドバイスを受けたため
- 東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため
- 出身地の地域社会・家族・親族・友人・知人から離れて暮らすため
- 出身地の古い考え、習慣になじめなかったため
- あてはまるものはない

Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。(1位～5位の合計)【単純集計】

「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(44.3%)が最も高く、「生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ」(43.1%)、「就職先の選択肢の豊富さ(数)」(38.3%)と続く。

標本：東京圏への転入者

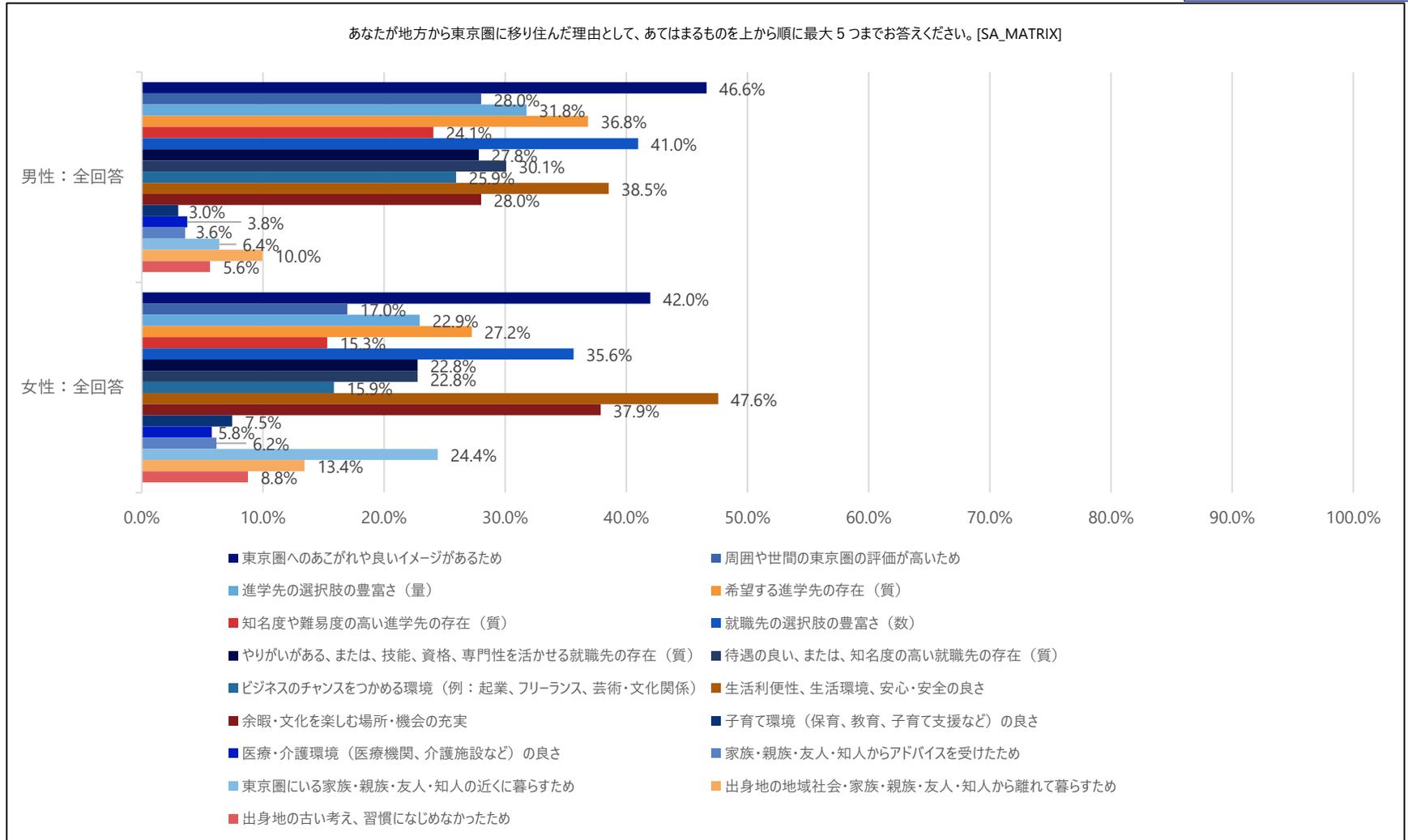


Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。【男女クロス集計】

男性では、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(46.6%)が最も高く、「就職先の選択肢の豊富さ(数)」(41.0%)、「生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ」(38.5%)と続く。

女性では、「生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ」(47.6%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(42.0%)、「余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実」(37.9%)と続く。

標本：東京圏への転入者



## Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。【転入のきっかけ\_クロス集計】

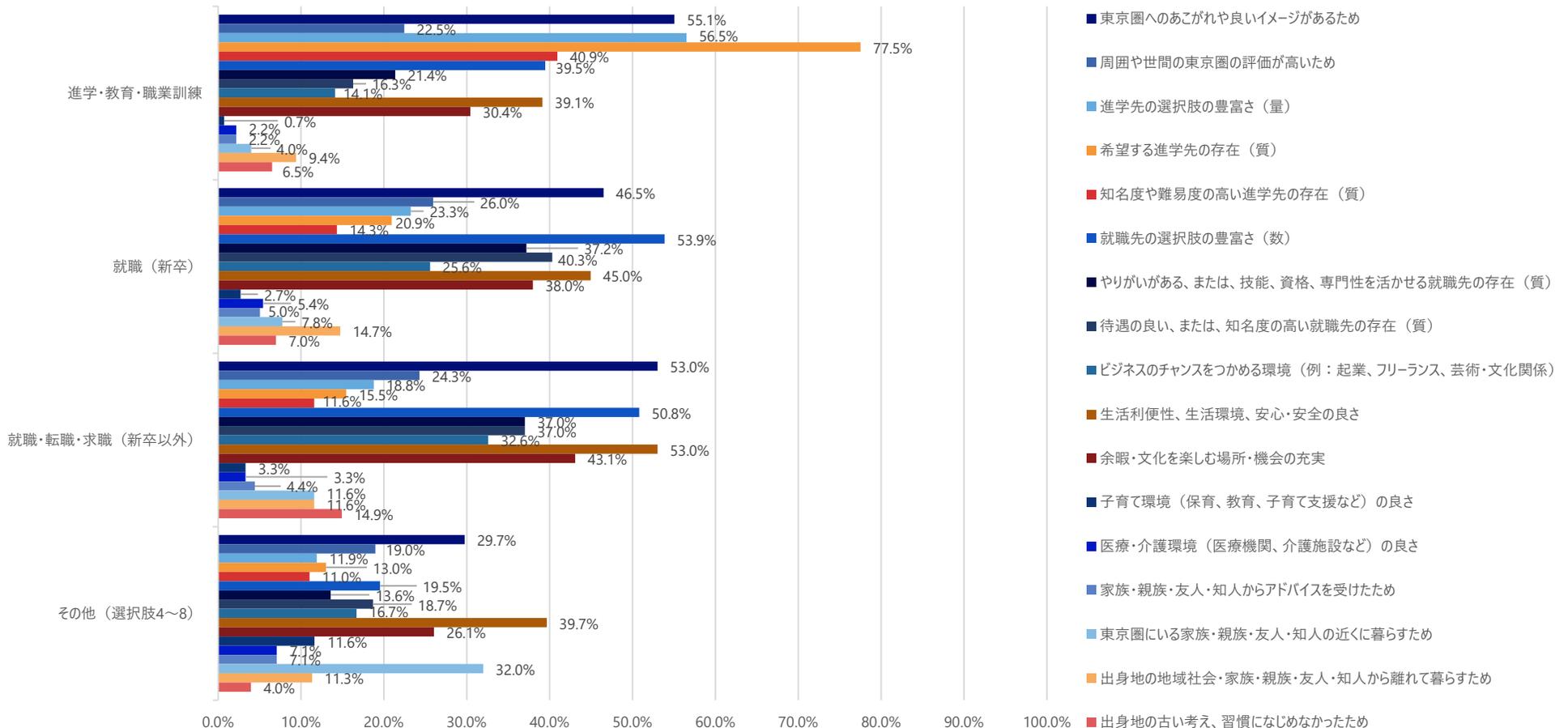
「進学・教育・職業訓練」では「希望する進学先の存在（質）」(77.5%)が最も高く、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(56.5%)、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(55.1%)と続く。

「就職（新卒）」では「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(53.9%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(55.1%)、「生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ」(46.5%)と続く。

「就職・転職・求職（新卒以外）」では「生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ」と「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」が共に(53.0%)で最も高く、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(53.9%)と続く。

標本：東京圏への転入者

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA\_MATRIX]

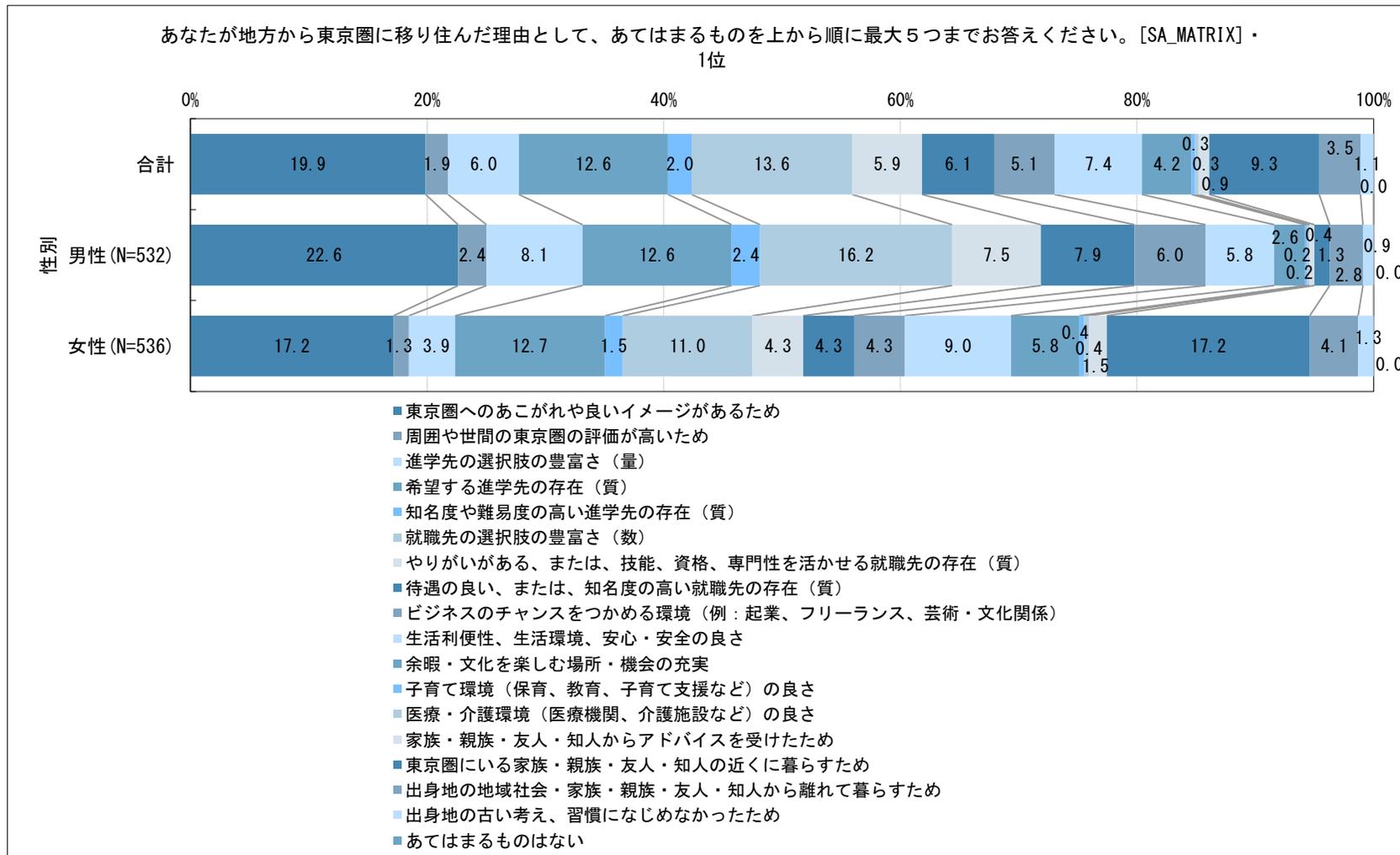


Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。(1位)【男女クロス集計】

男性では、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(22.6%)が最も高く、「就職先の選択肢の豊富さ(数)」(16.2%)、「希望する進学先の存在(質)」(12.6%)と続く。

女性では、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」、「東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため」(17.2%)が最も高く、「希望する進学先の存在(質)」(12.7%)と続く。また、女性では、「余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実」理由での転入が比較的多い。

標本：東京圏への転入者



Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。(1位)【転入のきっかけ\_クロス集計】

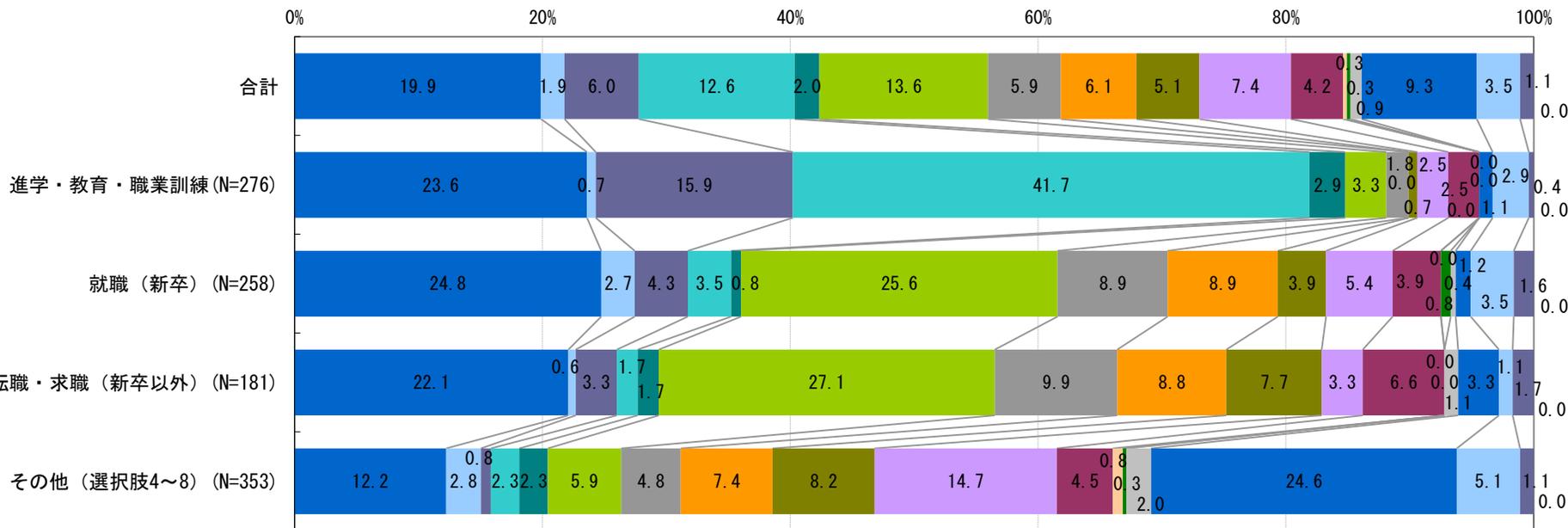
「進学・教育・職業訓練」では「希望する進学先の存在（質）」(41.7%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(23.6%)、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(15.9%)と続く。

「就職（新卒）」と「就職・転職・求職（新卒以外）」では「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(25.6%/27.1%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(24.8%/22.1%)、「やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」(8.9%/9.9%)と続く。

標本：東京圏への転入者

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA\_MATRIX]・1位

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



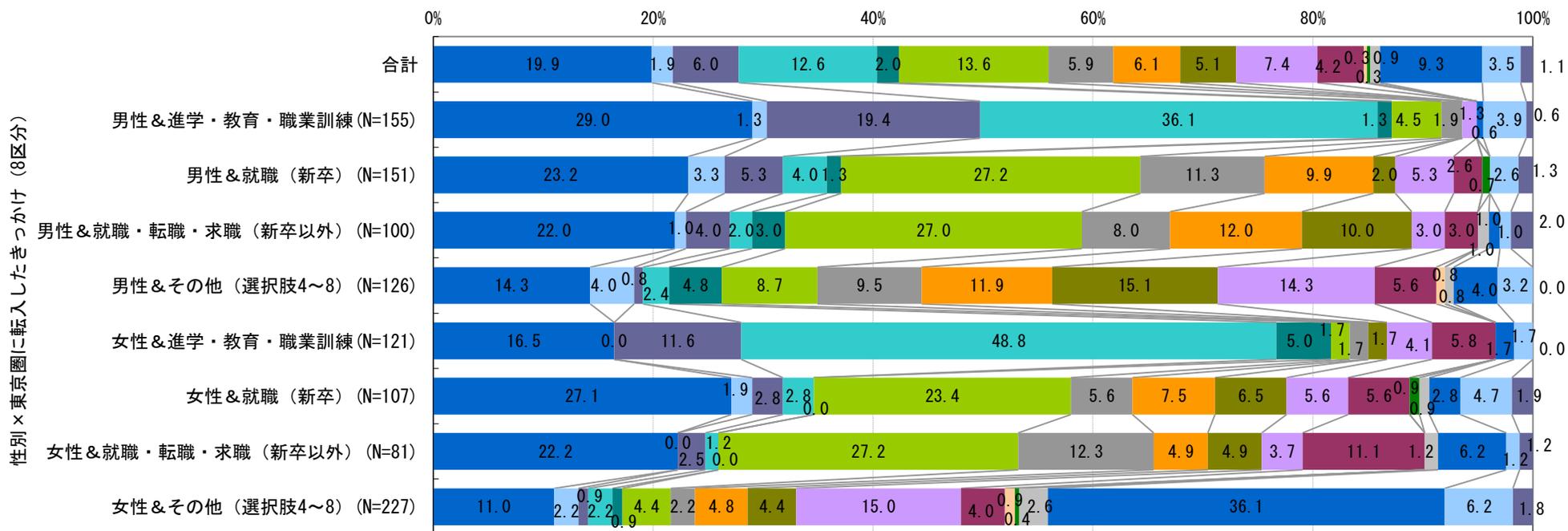
- 東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため
- 周囲や世間の東京圏の評価が高いため
- 進学先の選択肢の豊富さ（量）
- 希望する進学先の存在（質）
- 知名度や難易度の高い進学先の存在（質）
- 就職先の選択肢の豊富さ（数）
- やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）
- 待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）
- ビジネスのチャンスをつかめる環境（例：起業、フリーランス、芸術・文化関係）
- 生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）の良さ
- 家族・親族・友人・知人からアドバイスを受けたため
- 東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため
- 出身地の地域社会・家族・親族・友人・知人から離れて暮らすため
- 出身地の古い考え、習慣になじめなかったため
- あてはまるものはない

Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。(1位)【性別×転入のきっかけ\_クロス集計】

「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」は「男性×進学・教育・職業訓練」(29.0%)で最も高く、「女性×就職(新卒)」(27.1%)、「男性×就職(新卒)」(23.2%)と続く。「就職先の選択肢の豊富さ(数)」は「男性×就職(新卒)」と「女性×就職・転職・求職(新卒以外)」(27.2%)で最も高く、「男性×就職・転職・求職(新卒以外)」(27.0%)が続く。「希望する進学先の存在(質)」は「女性×進学・教育・職業訓練」(48.8%)で最も高く、「男性×進学・教育・職業訓練」(36.1%)、「男性×就職(新卒)」(4.0%)と続く。

標本：東京圏への転入者

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA\_MATRIX]・1位



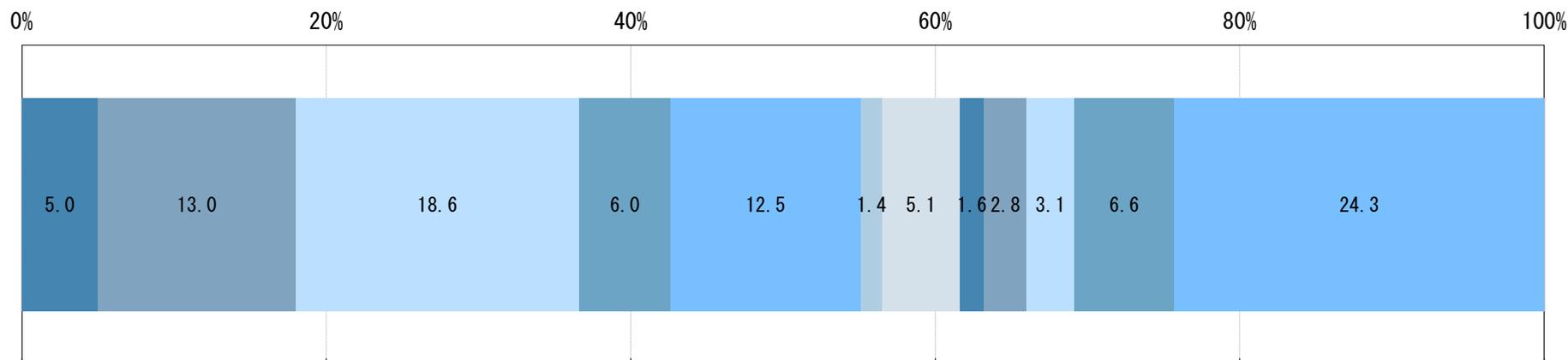
- 東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため
- 進学先の選択肢の豊富さ(量)
- 知名度や難易度の高い進学先の存在(質)
- やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在(質)
- ビジネスのチャンスをつかめる環境(例：起業、フリーランス、芸術・文化関係)
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実
- 医療・介護環境(医療機関、介護施設など)の良さ
- 東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため
- 出身地の古い考え、習慣になじめなかったため
- 周囲や世間の東京圏の評価が高いため
- 希望する進学先の存在(質)
- 就職先の選択肢の豊富さ(数)
- 待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在(質)
- 生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ
- 子育て環境(保育、教育、子育て支援など)の良さ
- 家族・親族・友人・知人からアドバイスを受けたため
- 出身地の地域社会・家族・親族・友人・知人から離れて暮らすため
- あてはまるものはない

Q6.東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。【単純集計】

「希望する条件の就職先がなかったため」(18.6%)が最も高く、「希望する条件の進学先がなかったため」(13.0%)、「生活利便性」(12.5%)と続く。

標本：東京圏への転入者

東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。[SA] (N=1068)



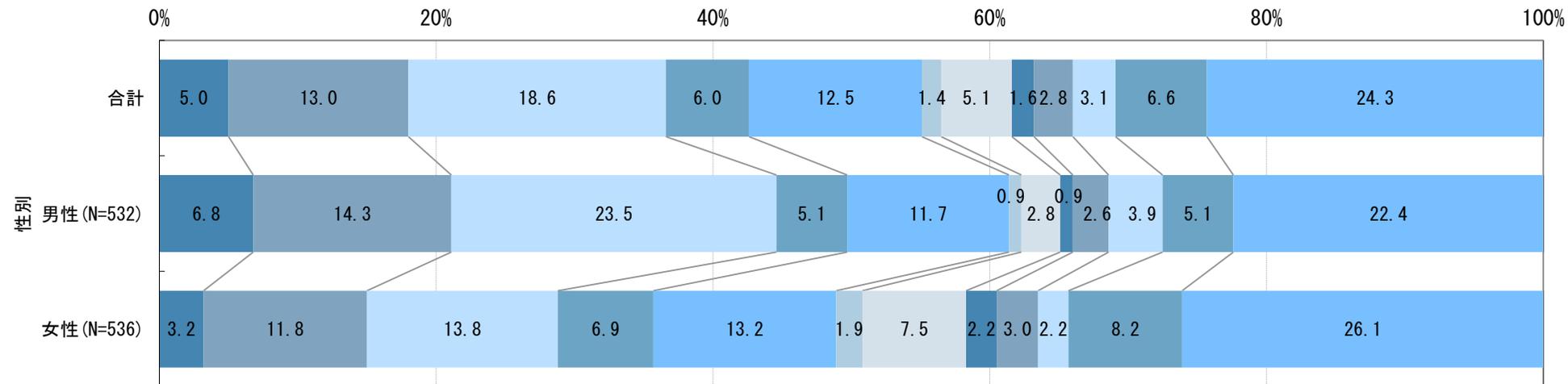
- イメージ・ブランドが良くなかったため
- 希望する条件の進学先がなかったため
- 希望する条件の就職先がなかったため
- 目標（進学、就職以外）を実現するための環境がなかったため
- 生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため
- 生活環境（空気、騒音、清潔、治安、災害危険度）が希望する条件に合わなかったため
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会が希望する条件に合わなかったため
- 家族・親族・友人・知人からのアドバイスを受けたため
- 地方の古い考え、習慣を避けたかったため
- 他の地域を希望していたが、実現しなかったため（希望する進学先、就職先はあったが、合格、採用とならなかった、など）
- その他
- 特にない

Q6.東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。【男女クロス集計】

男性では、「希望する条件の就職先がなかったため」(23.5%)が最も高く、「希望する条件の進学先がなかったため」(14.3%)、「生活利便性」(11.7%)と続く。  
女性では、「希望する条件の就職先がなかったため」(13.2%)が最も高く、「生活利便性」(13.2%)、「希望する条件の進学先がなかったため」(11.8%)と続く。

標本：東京圏への転入者

東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。[SA]



- イメージ・ブランドが良くなかったため
- 希望する条件の進学先がなかったため
- 希望する条件の就職先がなかったため
- 目標（進学、就職以外）を実現するための環境がなかったため
- 生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため
- 生活環境（空気、騒音、清潔、治安、災害危険度）が希望する条件に合わなかったため
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会が希望する条件に合わなかったため
- 家族・親族・友人・知人からのアドバイスを受けたため
- 地方の古い考え、習慣を避けたかったため
- 他の地域を希望していたが、実現しなかったため（希望する進学先、就職先はあったが、合格、採用とならなかった、など）
- その他
- 特にない

Q6.東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「希望する条件の進学先がなかったため」(44.6%)が最も高く、「目標（進学、就職以外）を実現するための環境がなかったため」(8.3%)、「生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため」(7.6%)と続く。

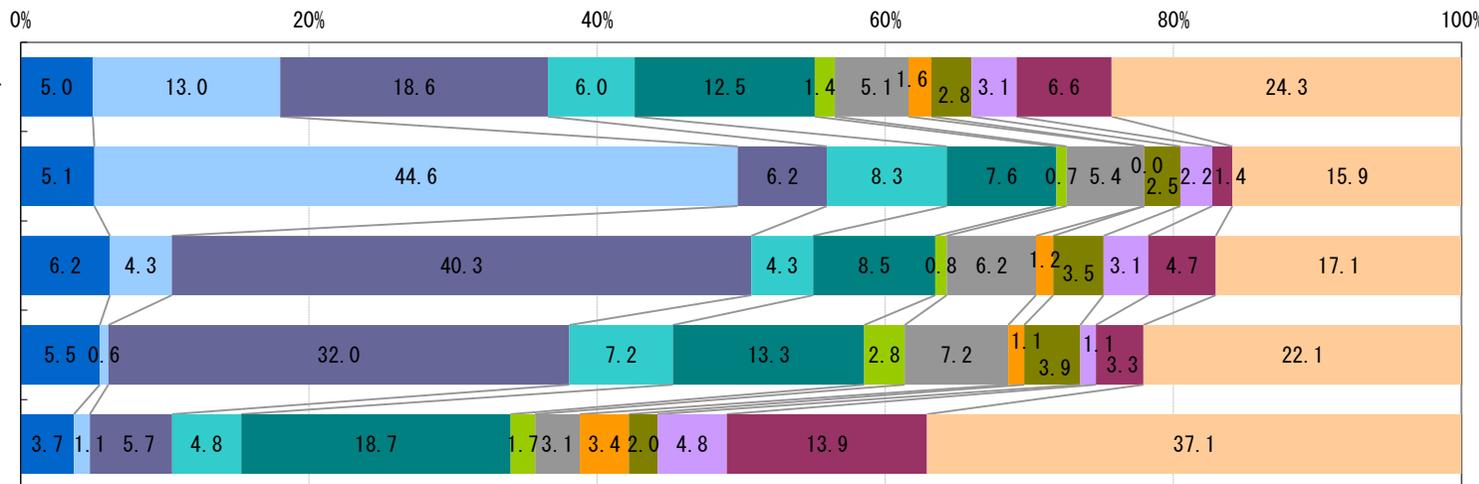
「就職（新卒）」では、「希望する条件の就職先がなかったため」(40.3%)が最も高く、「生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため」(8.5%)、「イメージ・ブランドが良くなかったため」、「余暇・文化を楽しむ場所・機会が希望する条件に合わなかったため」(6.2%)と続く。

「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「希望する条件の就職先がなかったため」(32.0%)が最も高く、「生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため」(13.3%)、「目標（進学、就職以外）を実現するための環境がなかったため」、「余暇・文化を楽しむ場所・機会が希望する条件に合わなかったため」(7.2%)と続く。

標本：東京圏への転入者

東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。[SA]

あなたか地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



- イメージ・ブランドが良くなかったため
- 希望する条件の進学先がなかったため
- 希望する条件の就職先がなかったため
- 目標（進学、就職以外）を実現するための環境がなかったため
- 生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため
- 生活環境（空気、騒音、清潔、治安、災害危険度）が希望する条件に合わなかったため
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会が希望する条件に合わなかったため
- 家族・親族・友人・知人からのアドバイスを受けたため
- 地方の古い考え、習慣を避けたかったため
- 他の地域を希望していたが、実現しなかったため（希望する進学先、就職先はあったが、合格、採用とならなかった、など）
- その他
- 特になし

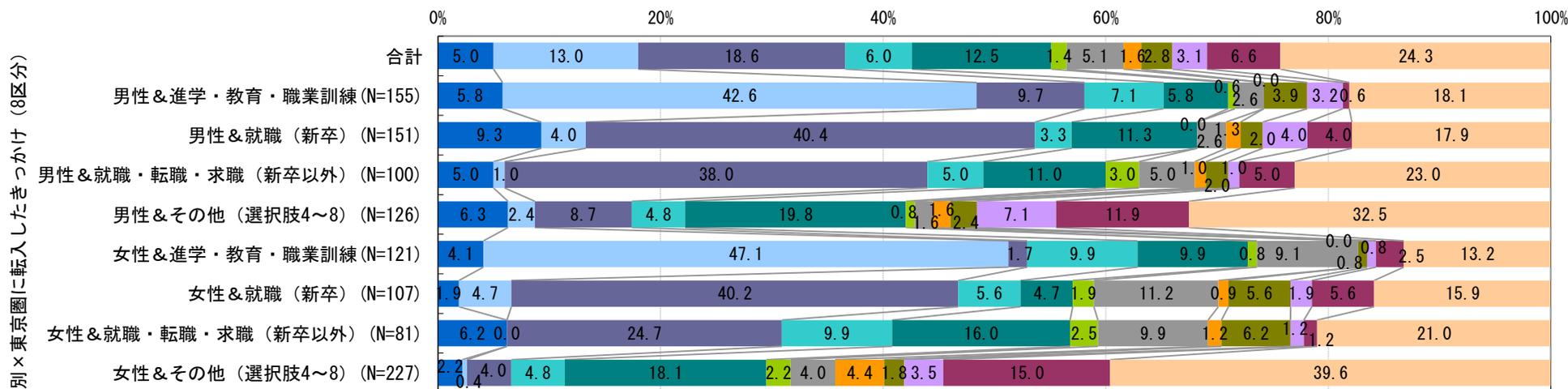
Q6.東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。【性別×転入のきっかけ\_クロス集計】

「希望する条件の就職先がなかったため」は、「男性×就職（新卒）」(40.4%)で最も高く、「女性×就職（新卒）」(40.2%)、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(38.0%)と続く。

「希望する条件の進学先がなかったため」は、「女性×進学・教育・職業訓練」(47.1%)で最も高く、「男性×進学・教育・職業訓練」(42.6%)、「女性×就職（新卒）」(4.7%)と続く。「生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため」は、「男性×その他」(19.8%)で最も高く、「女性×その他」(18.1%)、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(16.0%)と続く。

標本：東京圏への転入者

東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。[SA]

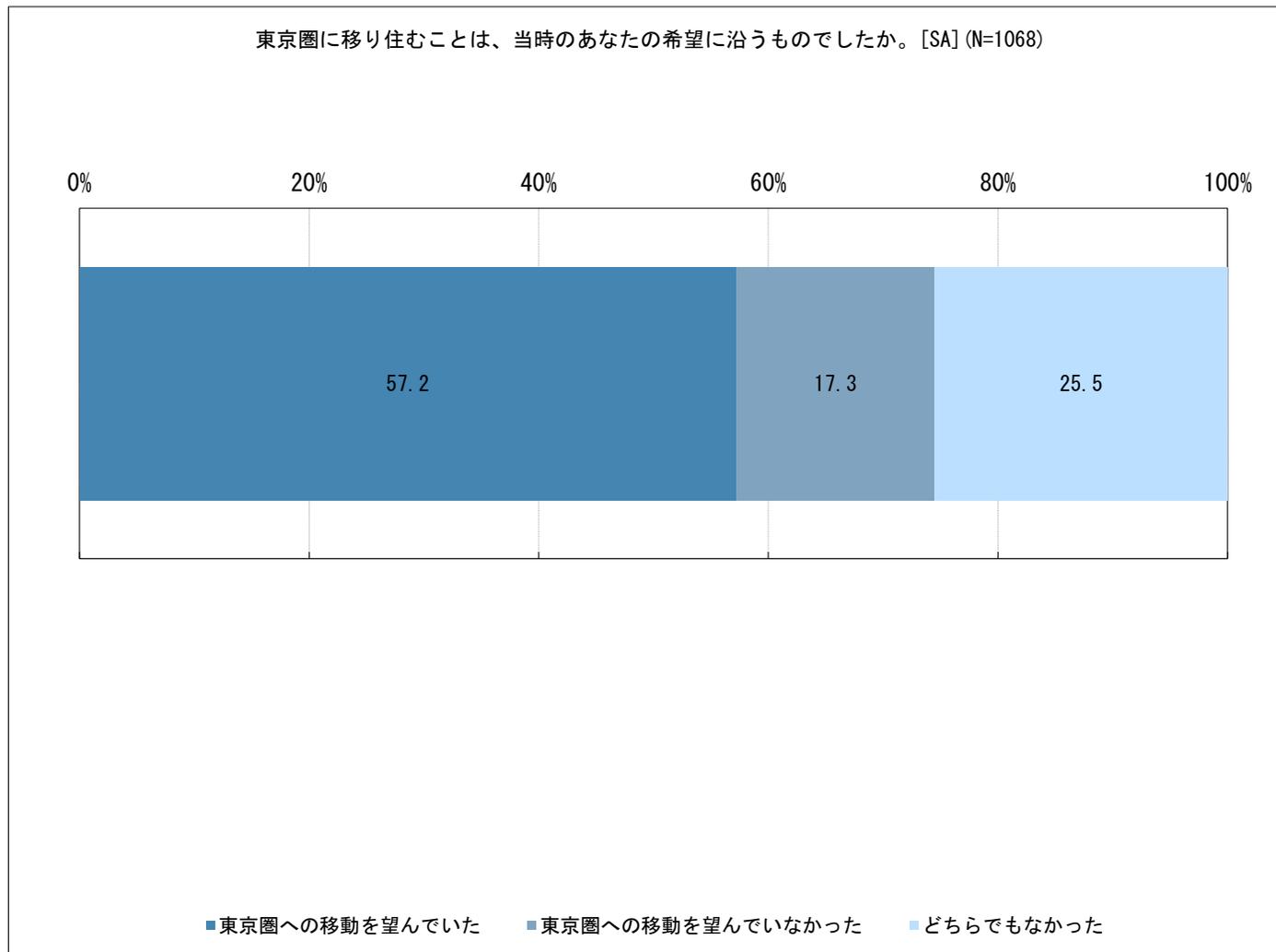


- イメージ・ブランドが良くなかったため
- 希望する条件の進学先がなかったため
- 希望する条件の就職先がなかったため
- 目標（進学、就職以外）を実現するための環境がなかったため
- 生活利便性（買い物、子育て、医療、介護、交通利便性など）が希望する条件に合わなかったため
- 生活環境（空気、騒音、清潔、治安、災害危険度）が希望する条件に合わなかったため
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会が希望する条件に合わなかったため
- 家族・親族・友人・知人からのアドバイスを受けたため
- 地方の古い考え、習慣を避けたかったため
- 他の地域を希望していたが、実現しなかったため（希望する進学先、就職先はあったが、合格、採用とならなかった、など）
- その他
- 特にない

## Q7.東京圏に移り住むことは、当時のあなたの希望に沿うものでしたか。【単純集計】

「東京圏への移動を望んでいた」のは57.2%、「どちらでもなかった」のは25.5%、「東京圏への移動を望んでいなかった」のは17.3%。

標本：東京圏への転入者

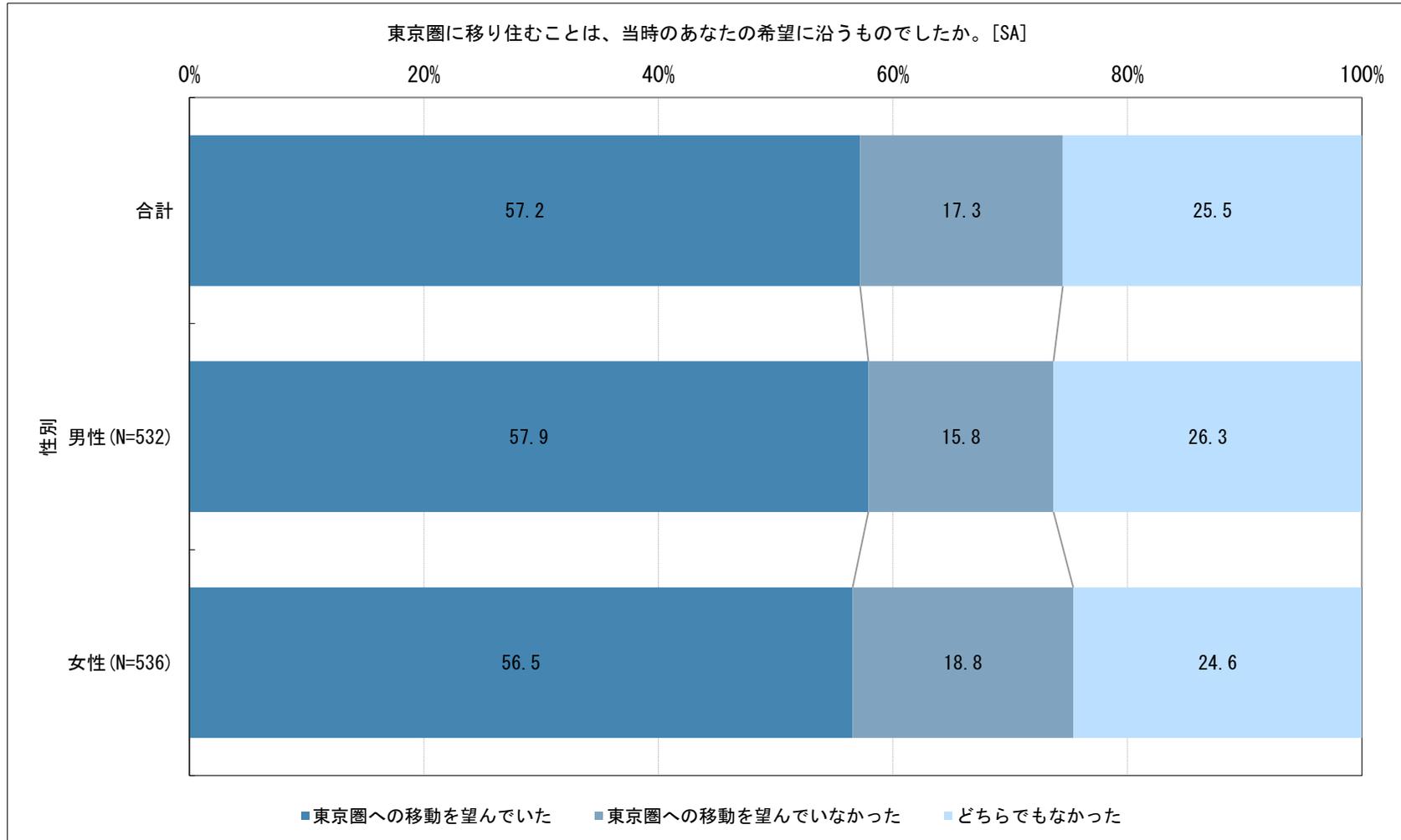


### Q7.東京圏に移り住むことは、当時のあなたの希望に沿うものでしたか。【男女クロス集計】

男性では、「東京圏への移動を望んでいた」のは57.9%、「どちらでもなかった」のは26.3%、「東京圏への移動を望んでいなかった」のは15.8%を占める。

女性では、「東京圏への移動を望んでいた」のは56.5%、「どちらでもなかった」のは24.6%、「東京圏への移動を望んでいなかった」のは18.8%を占める。

標本：東京圏への転入者

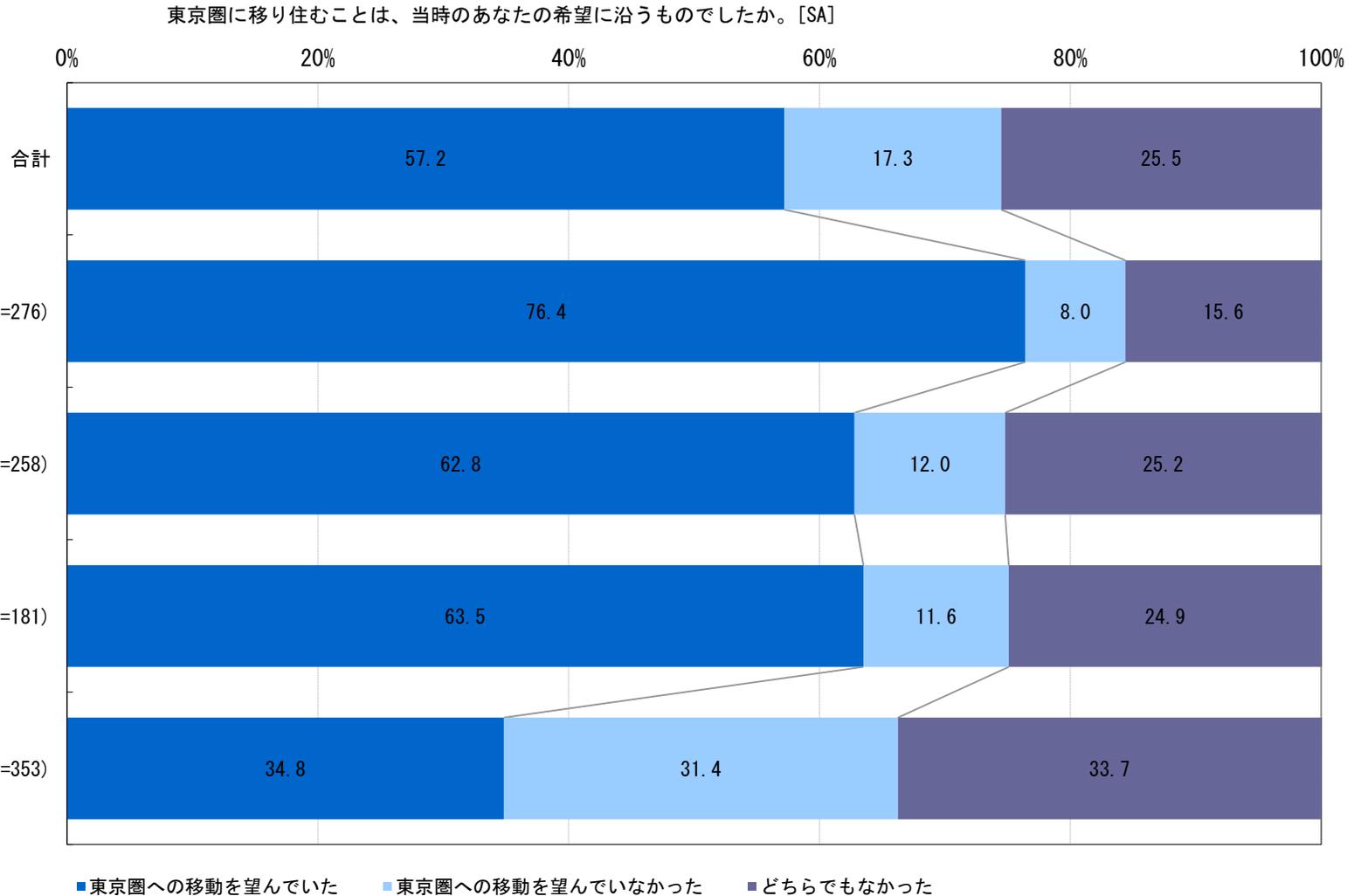


## Q7.東京圏に移り住むことは、当時のあなたの希望に沿うものでしたか。【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「東京圏への移動を望んでいた」のは76.4%、「どちらでもなかった」のは15.6%、「東京圏への移動を望んでいなかった」のは8.0%を占める。  
 「就職（新卒）」では、「東京圏への移動を望んでいた」のは62.8%、「どちらでもなかった」のは25.2%、「東京圏への移動を望んでいなかった」のは12.0%を占める。  
 就職（新卒以外）では、「東京圏への移動を望んでいた」のは63.5%、「どちらでもなかった」のは24.9%、「東京圏への移動を望んでいなかった」のは11.6%を占める。

標本：東京圏への転入者

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]

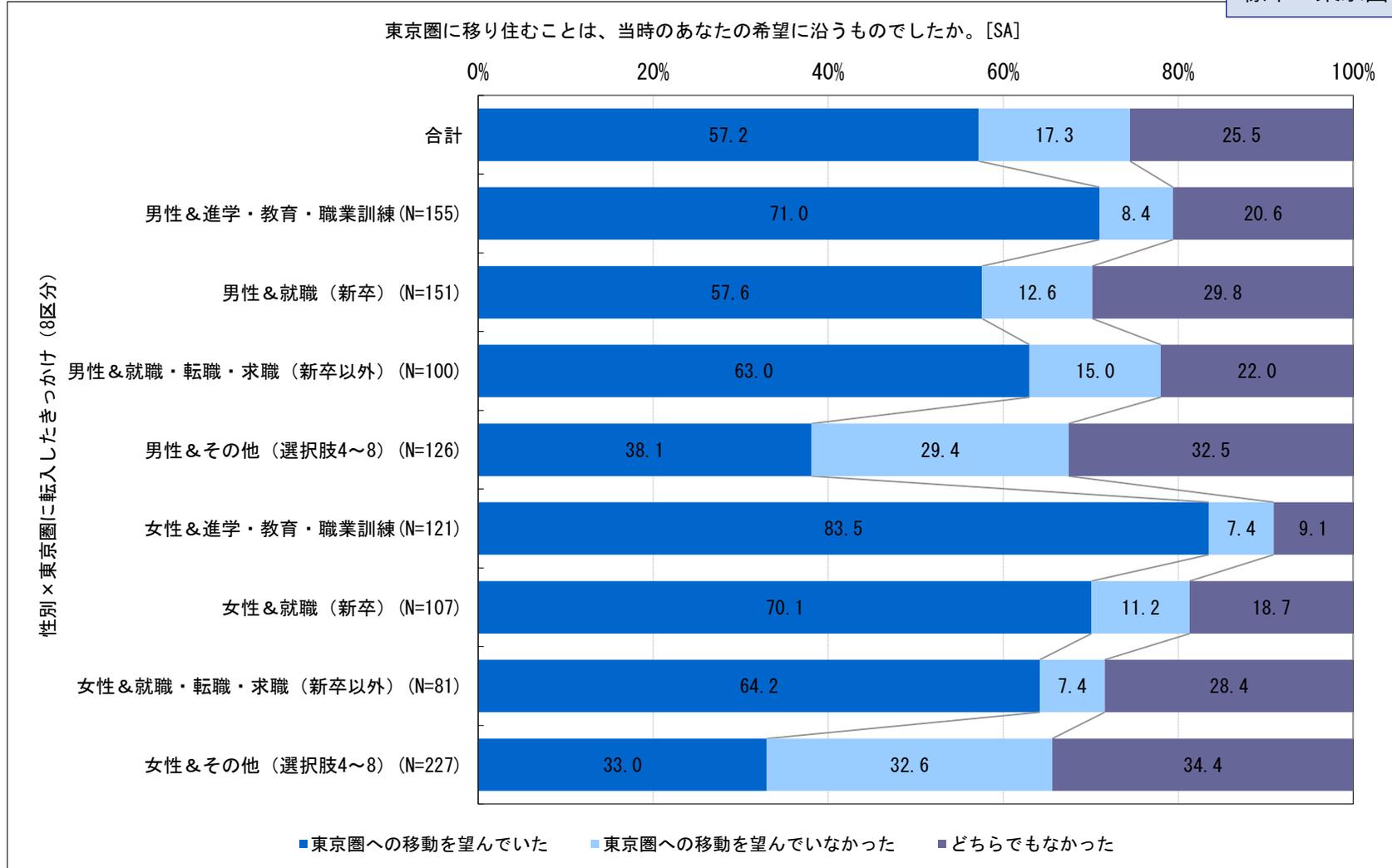


## Q7.東京圏に移り住むことは、当時のあなたの希望に沿うものでしたか。【性別×転入のきっかけ\_クロス集計】

「東京圏への移動を望んでいた」割合は、「女性×進学・教育・職業訓練」(83.5%)で最も高く、「男性×進学・教育・職業訓練」(71.0%)、「女性×就職（新卒）」(70.1%)と続く。

「東京圏への移動を望んでいなかった」割合は、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(15.0%)で最も高く、「男性×就職（新卒）」(12.6%)、「女性×就職（新卒）」(11.2%)と続く。

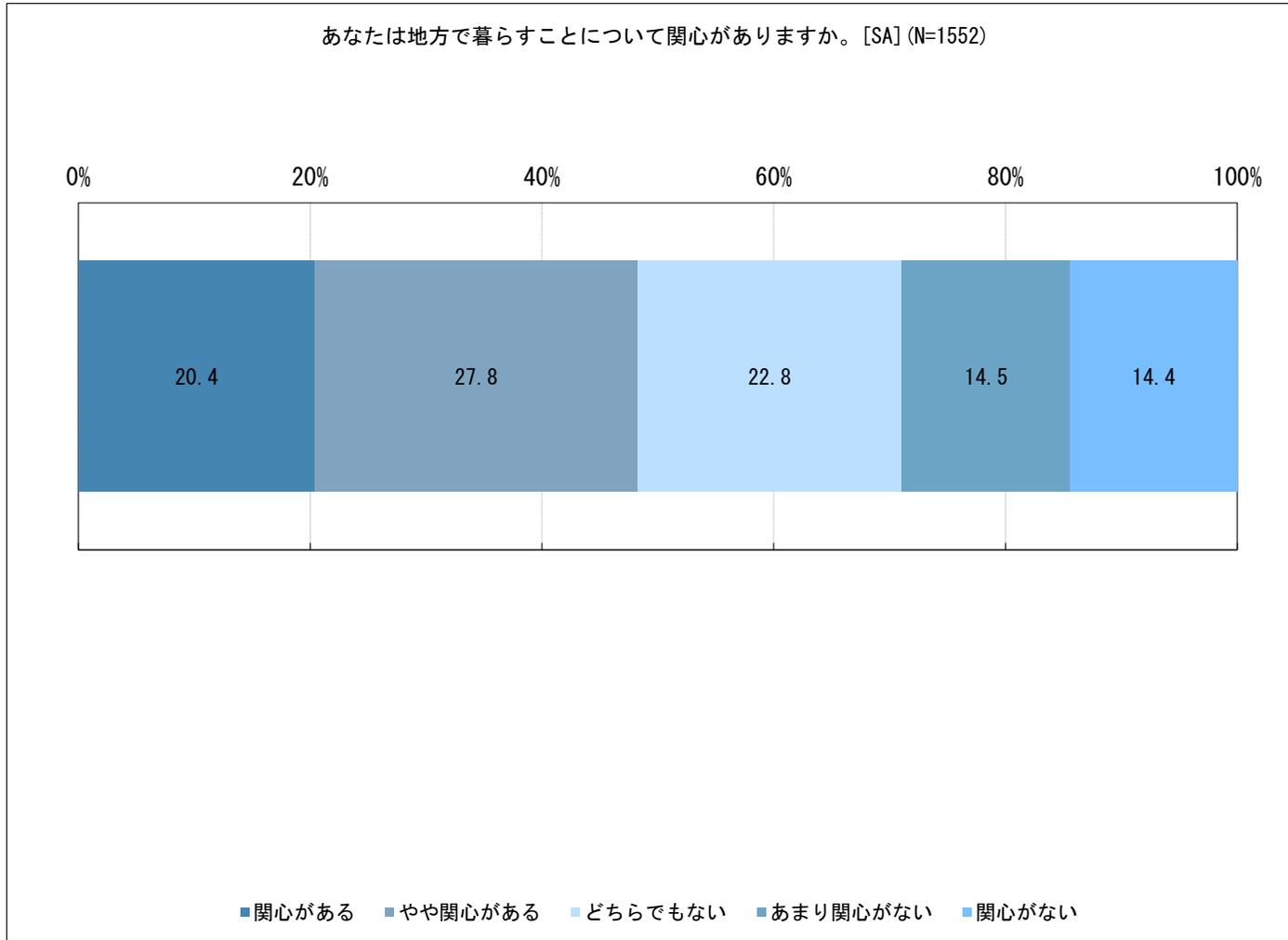
標本：東京圏への転入者



Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。【単純集計】

関心層（「関心がある」～「やや関心がある」）は全体の48.2%であり、非関心層（「あまり関心がない」～「関心がない」）は全体の28.9%である。

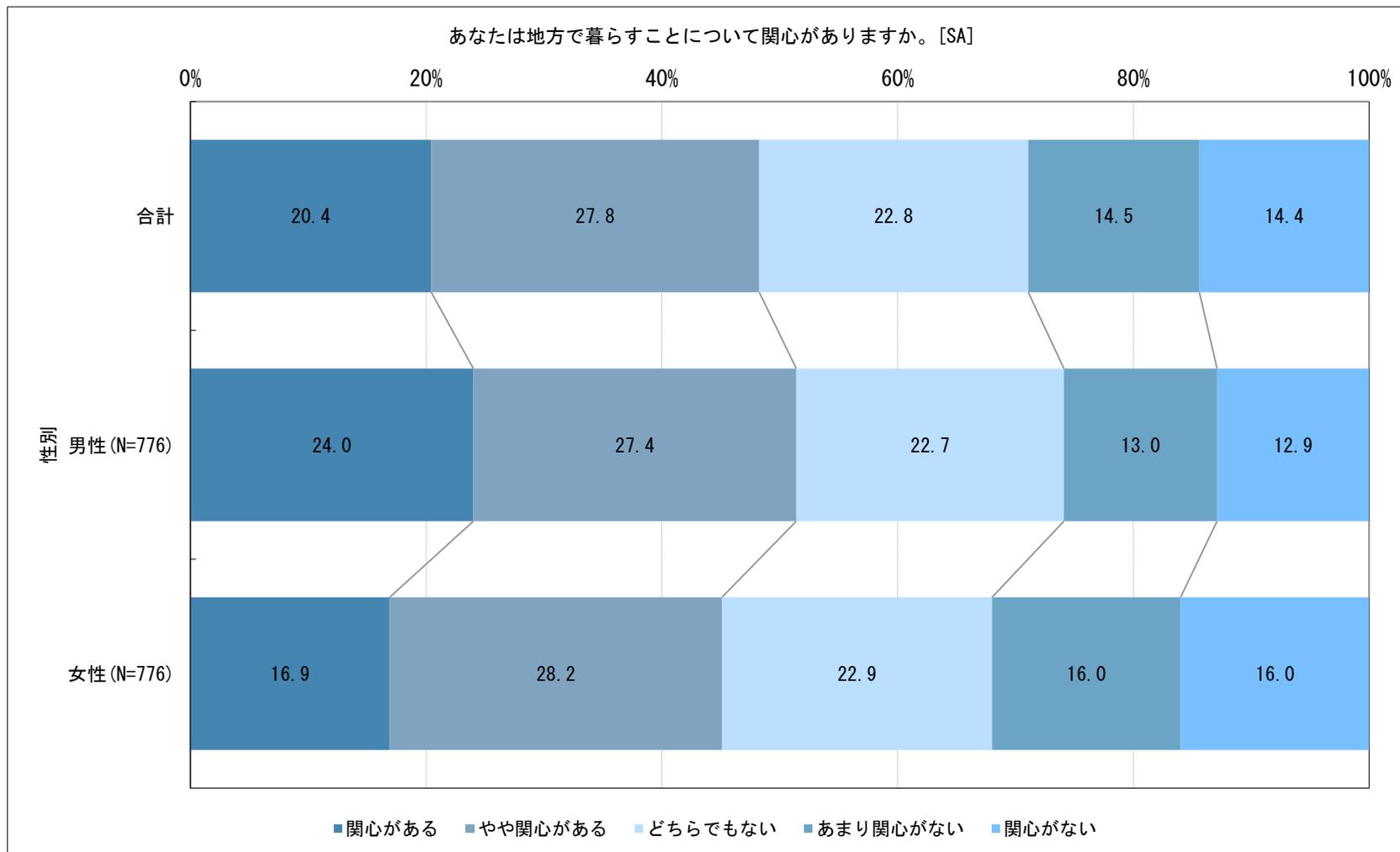
標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者



## Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。【男女クロス集計】

男性では、関心層（「関心がある」～「やや関心がある」）は全体の51.4%であり、非関心層（「あまり関心がない」～「関心がない」）は全体の25.9%。  
 女性では、関心層（「関心がある」～「やや関心がある」）は全体の45.1%であり、非関心層（「あまり関心がない」～「関心がない」）は全体の32.0%。  
 女性より男性の方が地方で暮らすことへの関心が強い傾向。

標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者

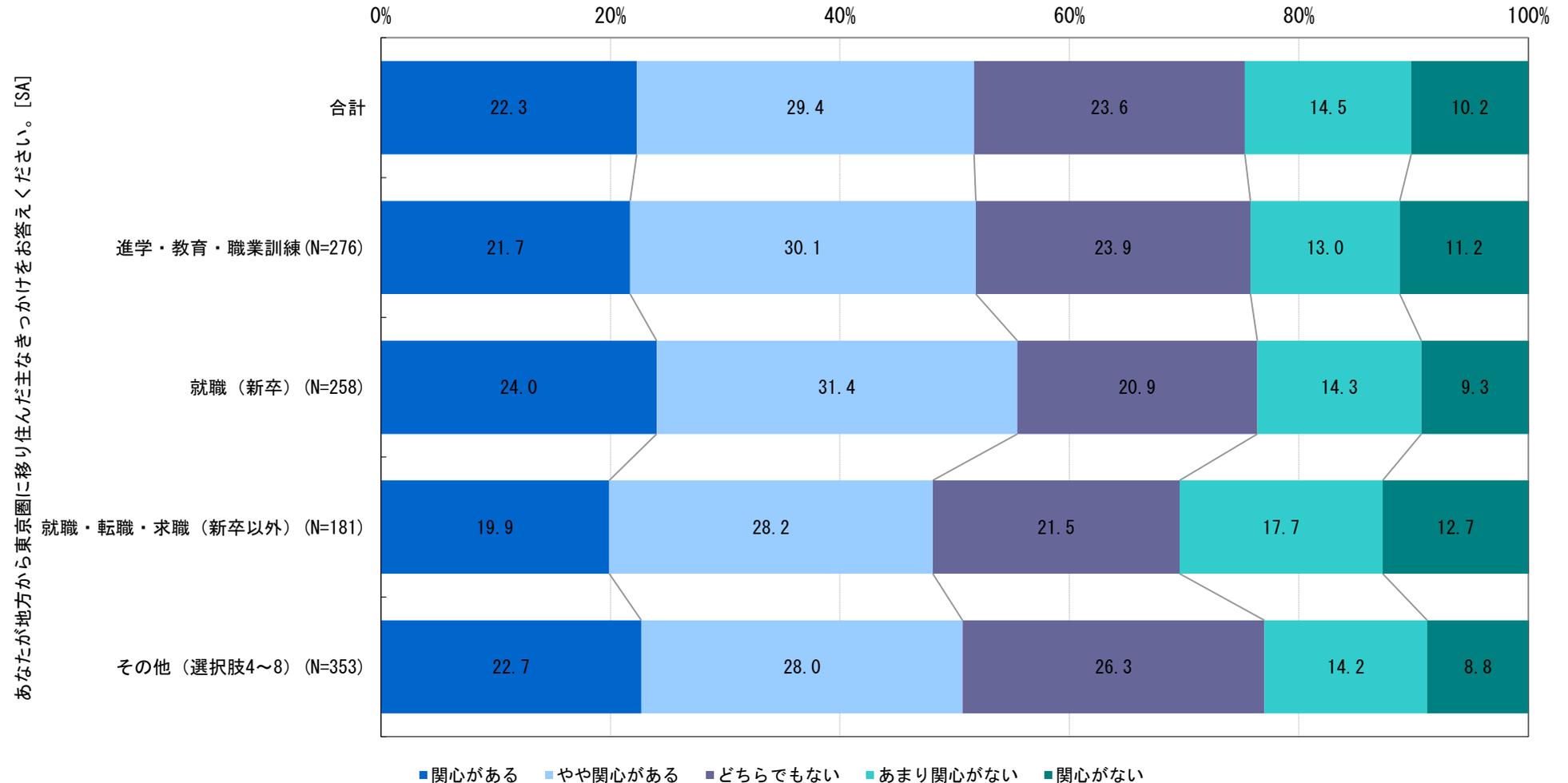


## Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、関心層（「関心がある」～「やや関心がある」）は全体の51.8%であり、非関心層（「あまり関心がない」～「関心がない」）は全体の24.2%である。  
 「就職（新卒）」では、関心層（「関心がある」～「やや関心がある」）は全体の55.4%であり、非関心層（「あまり関心がない」～「関心がない」）は全体の23.6%である。  
 「就職・転職・求職（新卒以外）」では、関心層（「関心がある」～「やや関心がある」）は全体の48.1%であり、非関心層（「あまり関心がない」～「関心がない」）は全体の30.4%である。

標本：東京圏への転入者

あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。[SA]



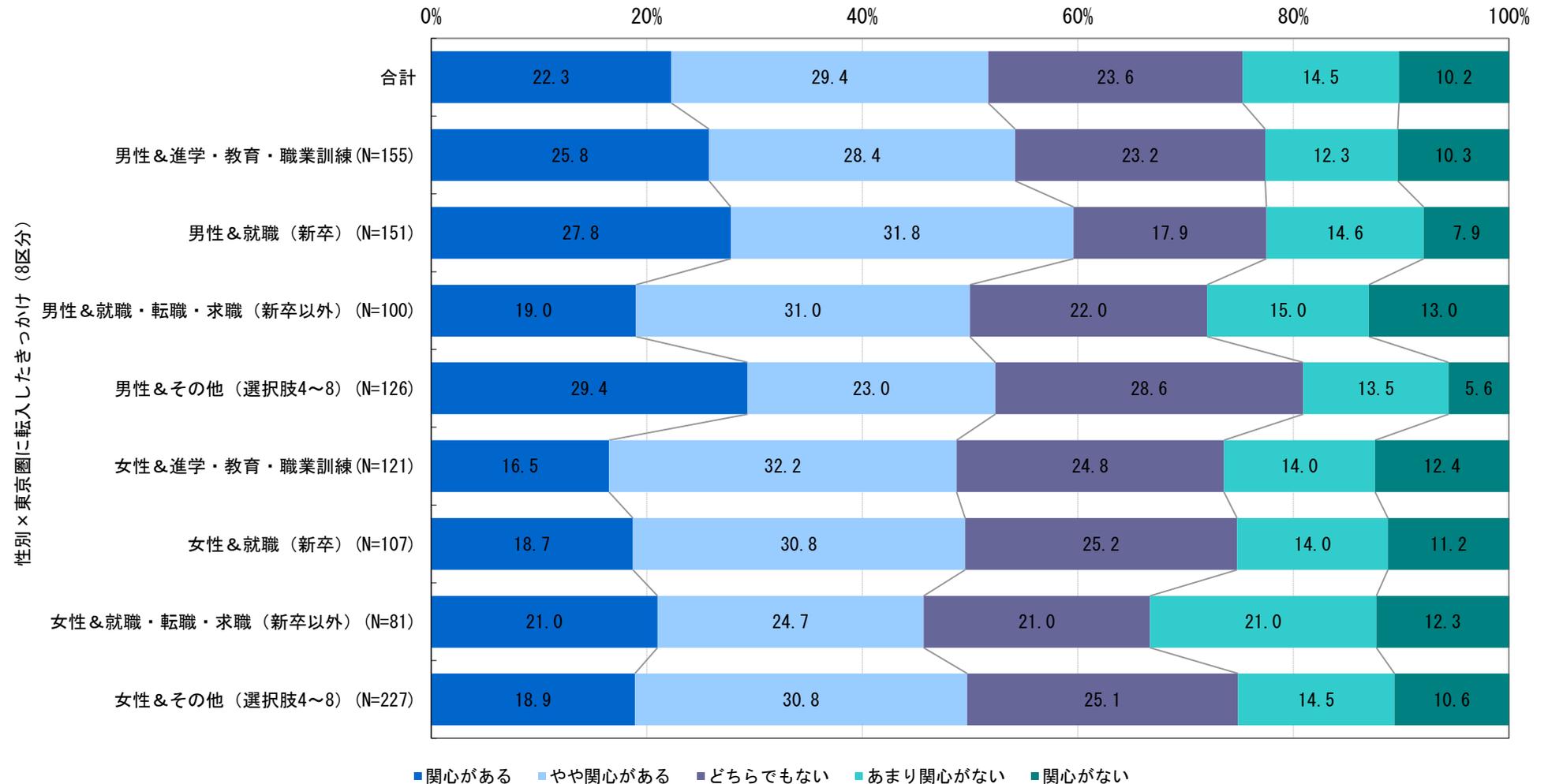
## Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。【性別×転入のきっかけ\_クロス集計】

関心層（「関心がある」～「やや関心がある」）は、「男性×就職（新卒）」(59.6%)で最も高く、「男性×進学・教育・職業訓練」(54.2%)、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(50.0%)と続く。

非関心層（「あまり関心がない」～「関心がない」）は、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(33.3%)で最も高く、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(28.0%)、「女性×進学・教育・職業訓練」(26.4%)と続く。

標本：東京圏への転入者

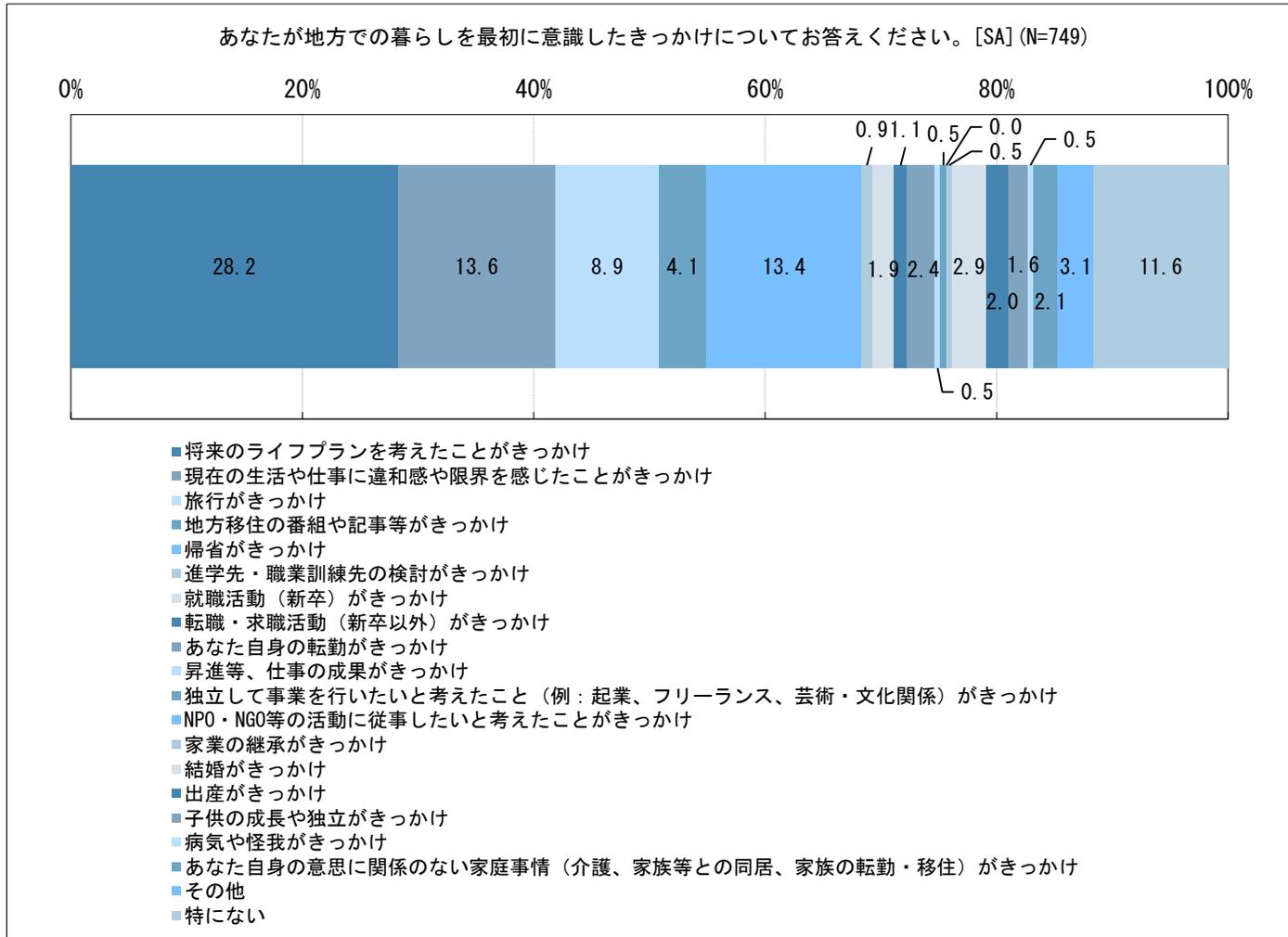
あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。[SA]



Q9.あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。【単純集計】

「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(28.2%)が最も高く、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(13.6%)、「帰省がきっかけ」(13.4%)と続く。

標本：東京圏転入者 + 生まれよりの東京圏在住者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答



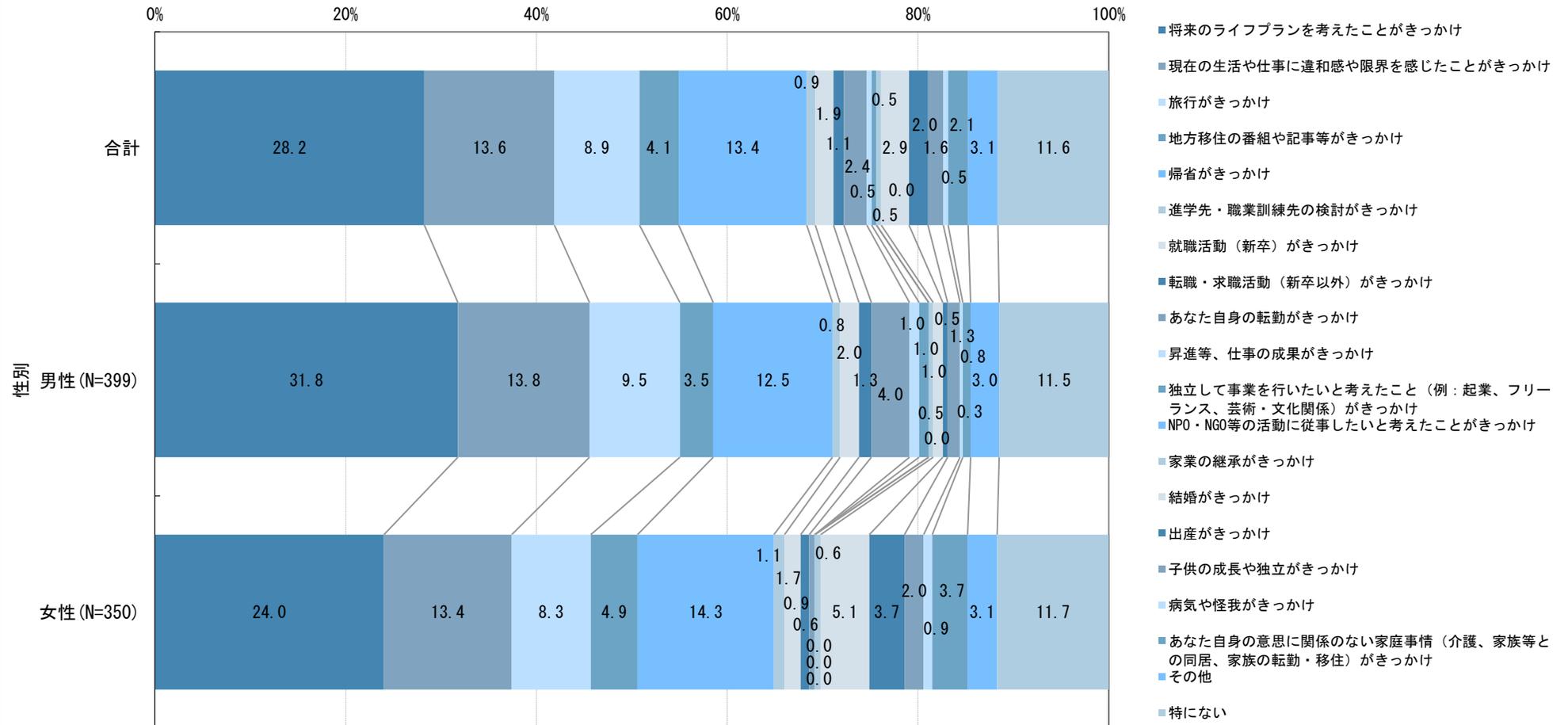
## Q9.あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。【男女クロス集計】

男性では、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(31.8%)が最も高く、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(13.8%)、「帰省がきっかけ」(12.5%)と続く。

女性では、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(24.0%)が最も高く、「帰省がきっかけ」(14.3%)、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(13.4%)と続く。

標本：東京圏転入者＋生まれよりの東京圏在住者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答

あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。[SA]



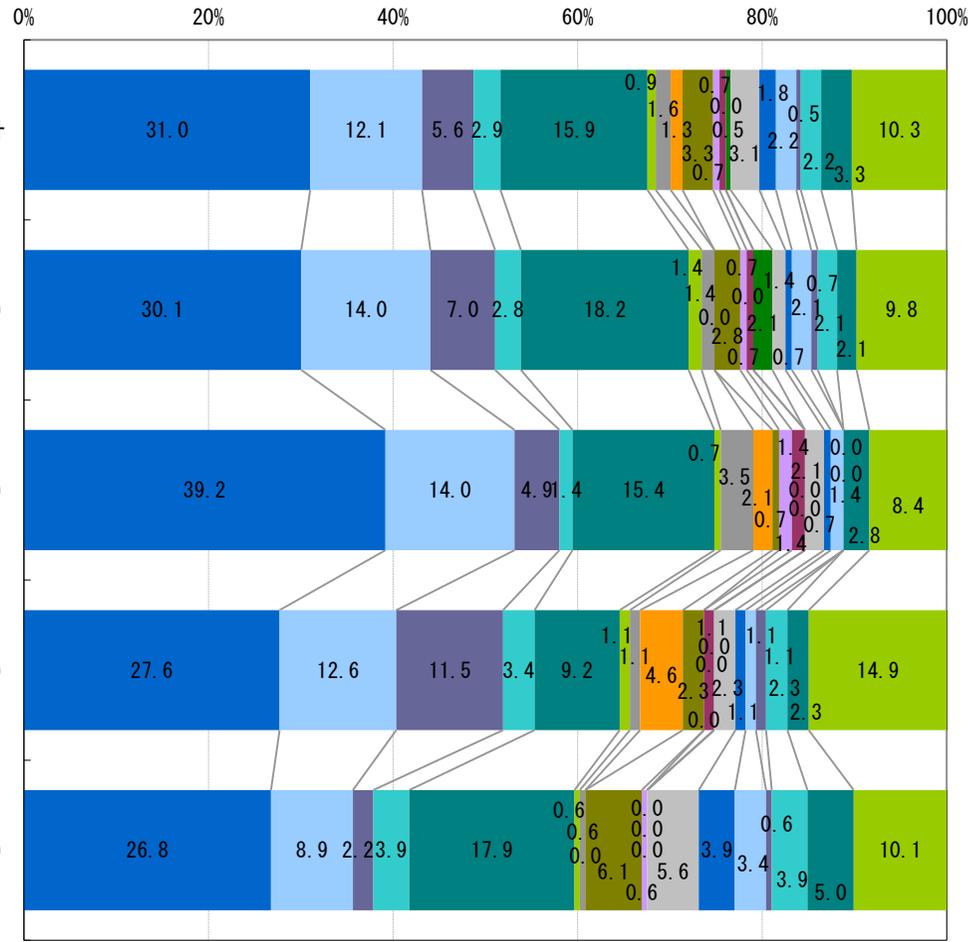
## Q9.あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(30.1%)が最も高く、「帰省がきっかけ」(18.2%)、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(14.0%)と続く。  
 「就職（新卒）」では、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(39.2%)が最も高く、「帰省がきっかけ」(15.4%)、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(14.0%)と続く。  
 「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(27.6%)が最も高く、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(12.6%)、「旅行がきっかけ」(11.5%)と続く。  
 「その他（選択肢4～8）」では、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(26.8%)が最も高く、「帰省がきっかけ」(17.9%)、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(12.6%)と続く。

標本：東京圏転入者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答

あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。[SA]

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



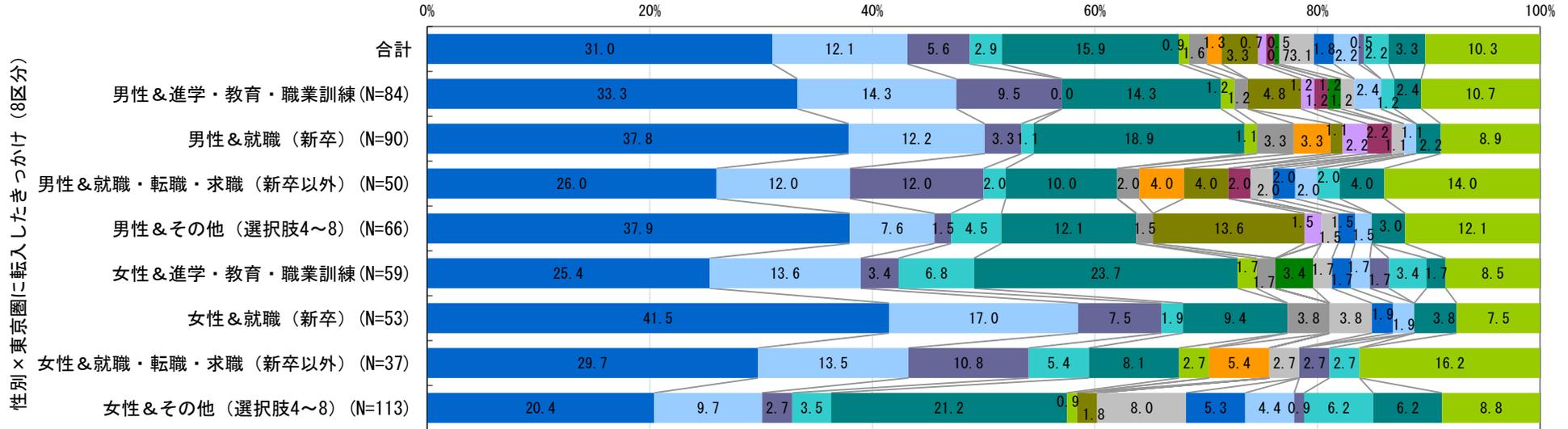
- 将来のライフプランを考えたことがきっかけ
- 現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ
- 旅行がきっかけ
- 地方移住の番組や記事等がきっかけ
- 帰省がきっかけ
- 進学先・職業訓練先の検討がきっかけ
- 就職活動（新卒）がきっかけ
- 転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ
- あなた自身の転勤がきっかけ
- 昇進等、仕事の成果がきっかけ
- 独立して事業を行いたいと考えたこと（例：起業、フリーランス、芸術・文化関係）がきっかけ
- NPO・NGO等の活動に従事したいと考えたことがきっかけ
- 家業の継承がきっかけ
- 結婚がきっかけ
- 出産がきっかけ
- 子供の成長や独立がきっかけ
- 病気や怪我がきっかけ
- あなた自身の意思に関係のない家庭事情（介護、家族等との同居、家族の転勤・移住）がきっかけ
- その他
- 特にない

# Q9.あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。【性別×転入のきっかけ\_クロス集計】

「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」は、「女性×就職（新卒）」(41.5%)が最も高く、「男性×就職（新卒）」(37.8%)、「男性×進学・教育・職業訓練」(33.3%)と続く。「帰省がきっかけ」は、「女性×進学・教育・職業訓練」(23.7%)が最も高く、「男性×就職（新卒）」(18.9%)、「男性×進学・教育・職業訓練」(14.3%)と続く。「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」は、「女性×就職（新卒）」(17.0%)が最も高く、「男性×進学・教育・職業訓練」(14.3%)、「女性×進学・教育・職業訓練」(13.6%)と続く。

標本：東京圏転入者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答

あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。[SA]

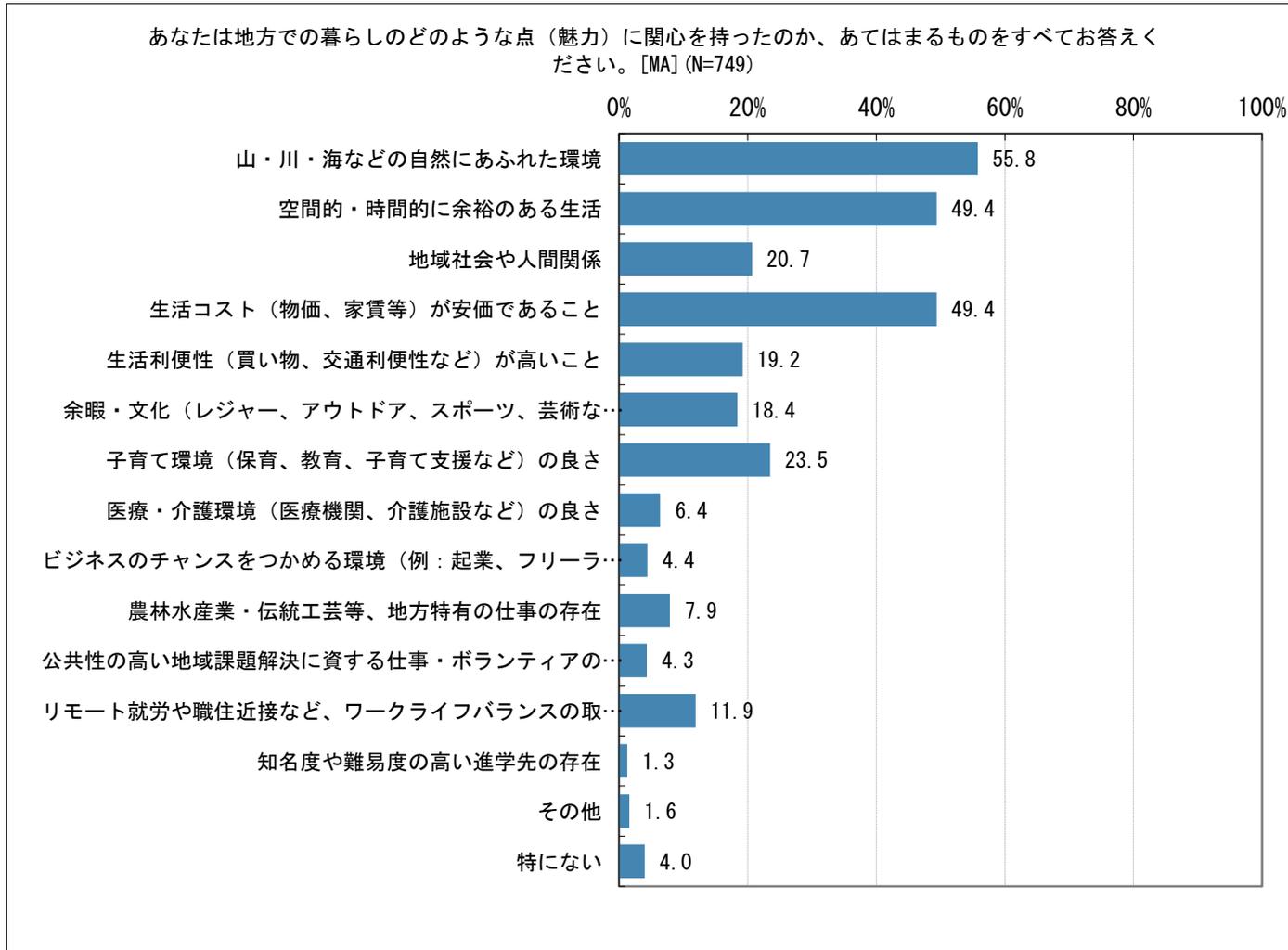


- 将来のライフプランを考えたことがきっかけ
- 現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ
- 旅行がきっかけ
- 地方移住の番組や記事等がきっかけ
- 帰省がきっかけ
- 進学先・職業訓練先の検討がきっかけ
- 就職活動（新卒）がきっかけ
- 転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ
- あなた自身の転勤がきっかけ
- 昇進等、仕事の成果がきっかけ
- 独立して事業を行いたいと考えたこと（例：起業、フリーランス、芸術・文化関係）がきっかけ
- NPO・NGO等の活動に従事したいと考えたことがきっかけ
- 家業の継承がきっかけ
- 結婚がきっかけ
- 出産がきっかけ
- 子供の成長や独立がきっかけ
- 病気や怪我がきっかけ
- あなた自身の意思に関係のない家庭事情（介護、家族等との同居、家族の転勤・移住）がきっかけ
- その他
- 特になし

Q10.あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。【単純集計】

「山・川・海などの自然にあふれた環境」(55.8%)が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」(49.4%)、「生活コスト（物価・家賃等）が安価であること」(49.4%)と続く。

標本：東京圏転入者＋生まれよりの東京圏在住者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答



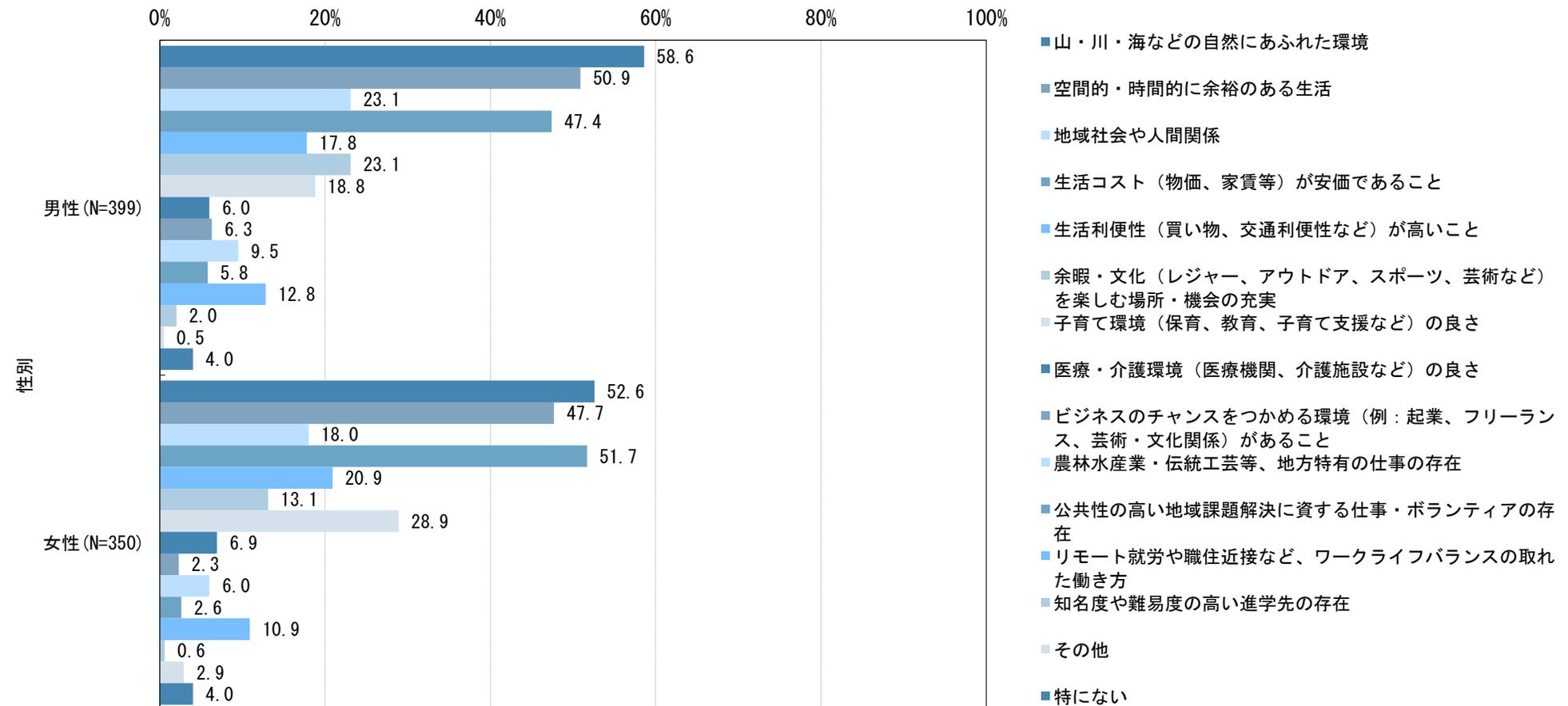
Q10.あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。【男女クロス集計】

男性では、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(58.6%)が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」(50.9%)、「生活コスト（物価・家賃など）が安価であること」(47.4%)と続く。

女性では、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(52.6%)が最も高い、「生活コスト（物価・家賃など）が安価であること」(51.7%)、「空間的・時間的に余裕のある生活」(47.7%)と続く。また、「子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ」(28.9%)が高い。

標本：東京圏転入者＋生まれよりの東京圏在住者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答

あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



Q10.あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(58.0%)が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」(51.7%)、「生活コスト（物価・家賃など）が安価であること」(49.0%)と続く。

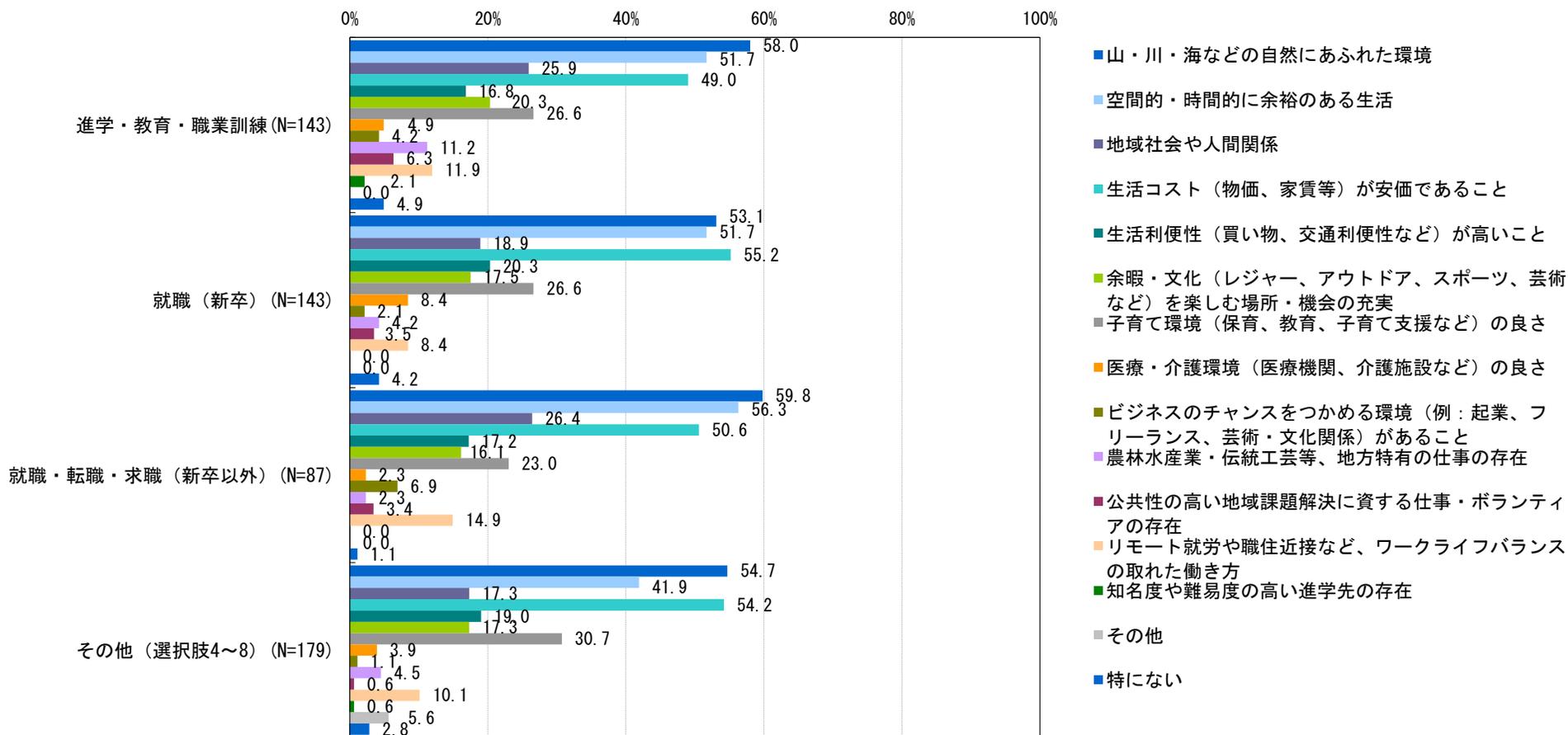
「就職（新卒）」では、「生活コスト（物価・家賃など）が安価であること」(55.2%)が最も高く、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(53.1%)、「空間的・時間的に余裕のある生活」(51.7%)と続く。

「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(59.8%)が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」(56.3%)、「生活コスト（物価・家賃など）が安価であること」(50.6%)と続く。

標本：東京圏転入者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答

あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



## Q10.あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。

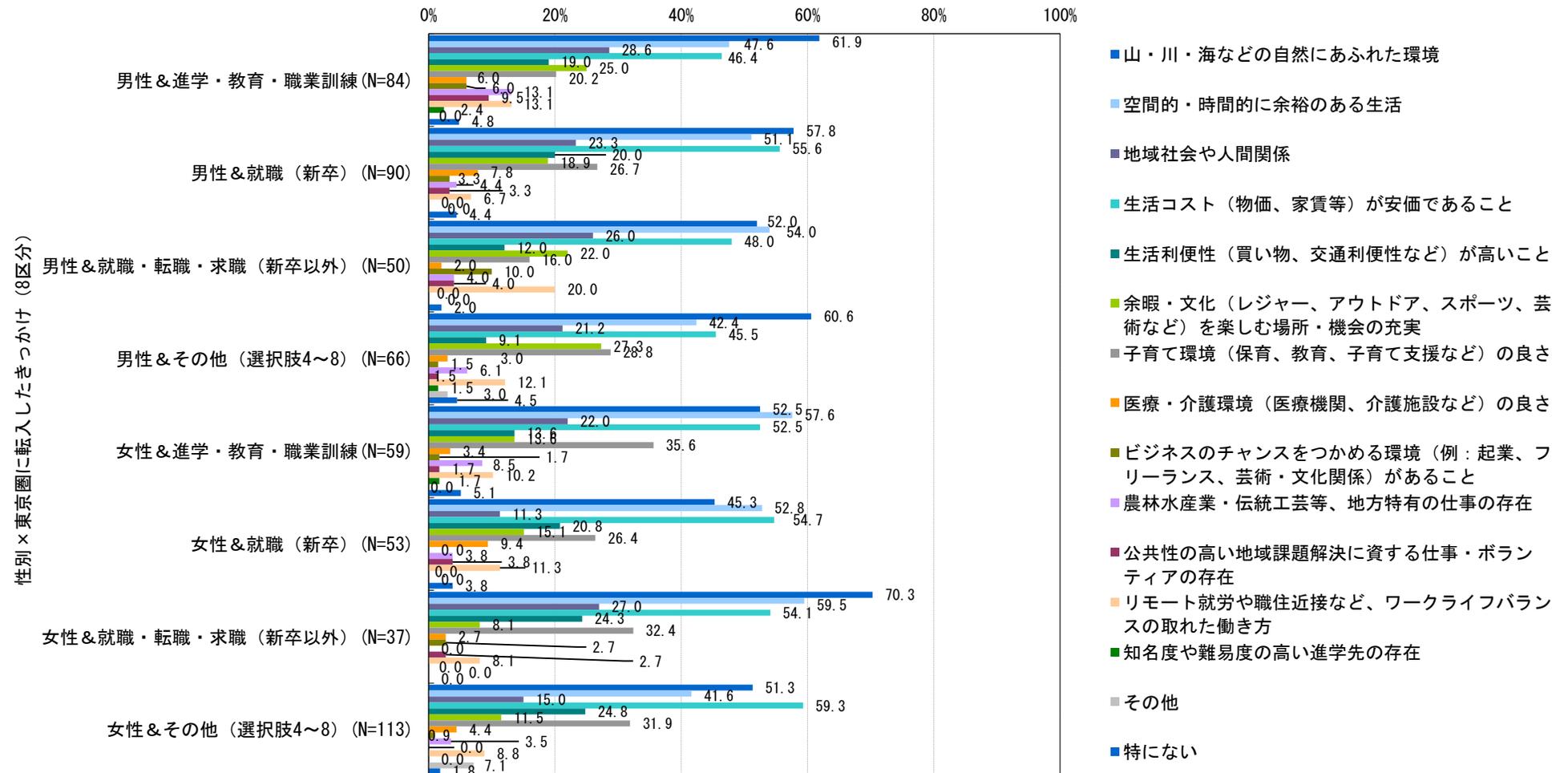
「山・川・海などの自然にあふれた環境」は、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(70.3%)で最も高く、「男性×進学・教育・職業訓練」(61.9%)、「男性×就職（新卒）」(57.8%)と続く。

「空間的・時間的に余裕のある生活」は、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(59.5%)で最も高く、「女性×進学・教育・職業訓練」(57.6%)、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(54.0%)と続く。

「生活コスト（物価・家賃など）が安価であること」は、「男性×就職（新卒）」(55.6%)で最も高く、「女性×就職（新卒）」(54.7%)、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(54.1%)と続く。

標本：東京圏転入者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答

あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



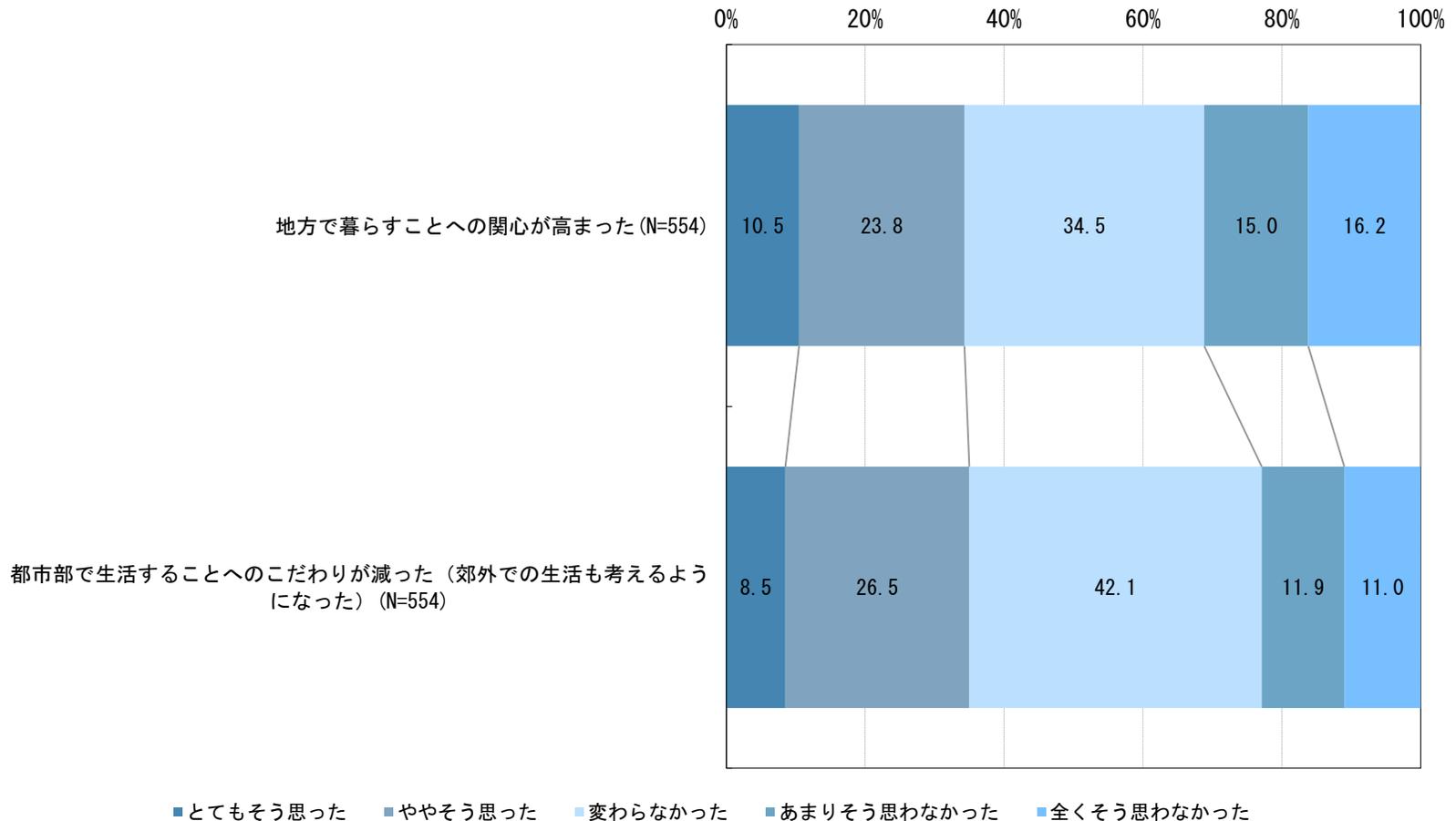
Q11\_1.あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。【単純集計】

「地方で暮らすことへの関心が高まった」かについて、「とてもそう思った、ややそう思った」は34.3%、「変わらなかった」は34.5%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は31.2%。

「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」かについて、「とてもそう思った、ややそう思った」は35.0%、「変わらなかった」は42.1%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は22.9%。

標本：東京圏への転入者 +  
生まれよりの東京圏在住者（既婚）

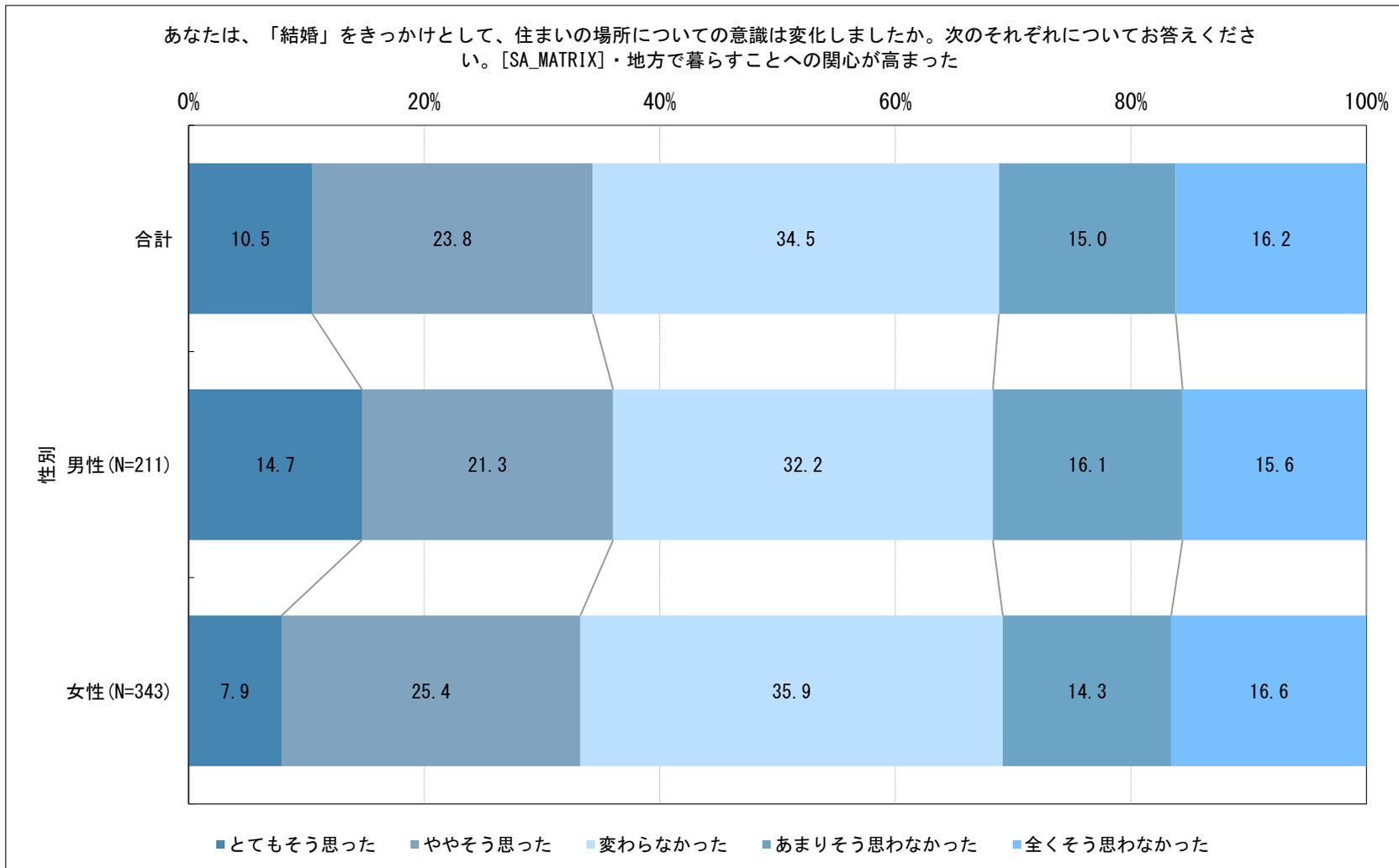
あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]



Q11\_1.あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。「地方で暮らすことへの関心が高まった」【男女クロス集計】

男性では、「とてもそう思った、ややそう思った」は36.0%、「変わらなかった」は32.2%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は31.7%。  
 女性では、「とてもそう思った、ややそう思った」は33.3%、「変わらなかった」は35.9%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は30.9%。

標本：東京圏への転入者＋  
 生まれよりの東京圏在住者（既婚）



Q11\_1.あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。「地方で暮らすことへの関心が高まった」【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は43.4%、「変わらなかった」は30.0%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は26.7%。

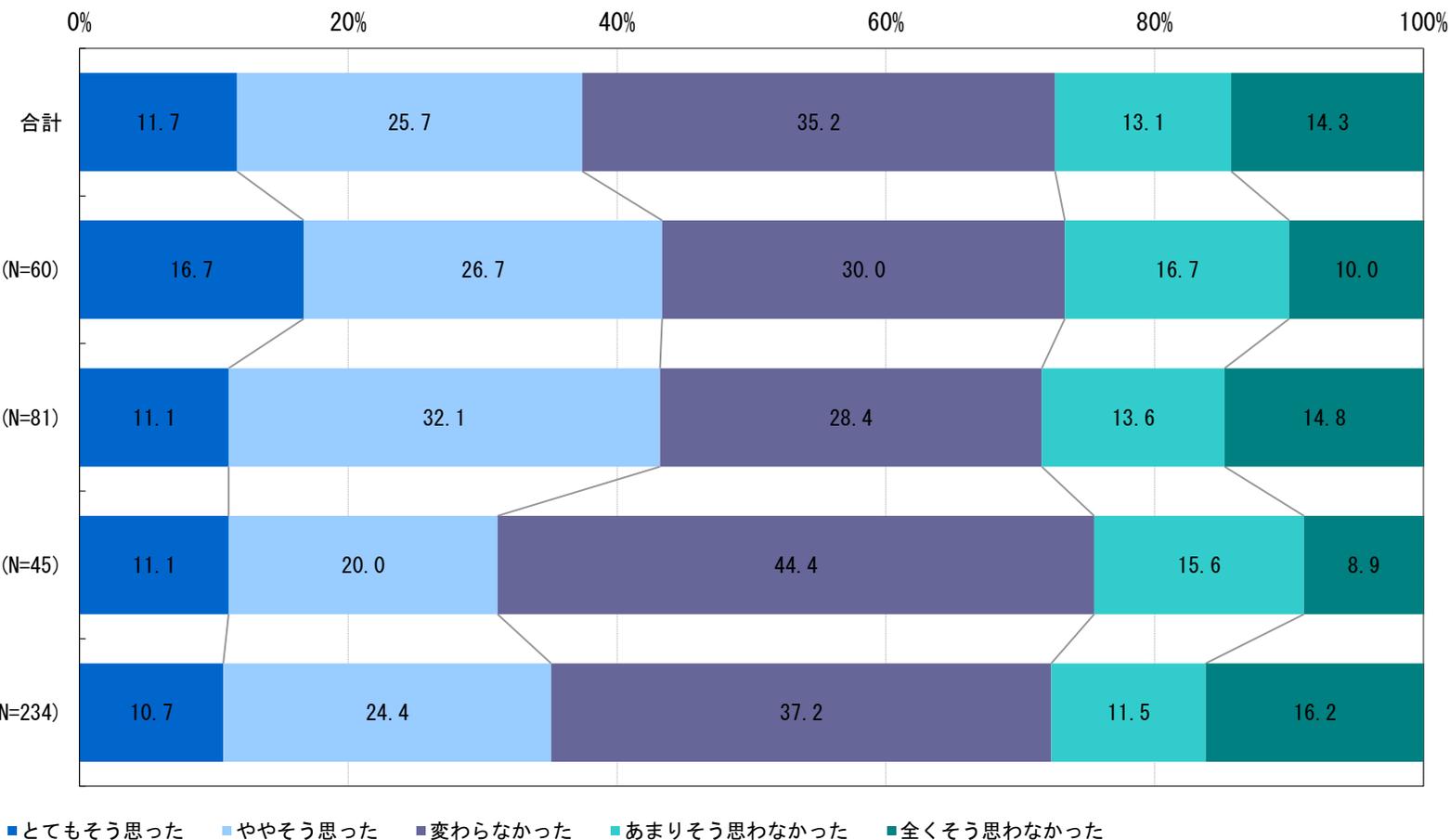
「就職（新卒）」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は33.2%、「変わらなかった」は28.4%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は28.4%。

「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は31.1%、「変わらなかった」は44.4%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は24.5%。

標本：東京圏への転入者（既婚）

あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・地方で暮らすことへの関心が高まった

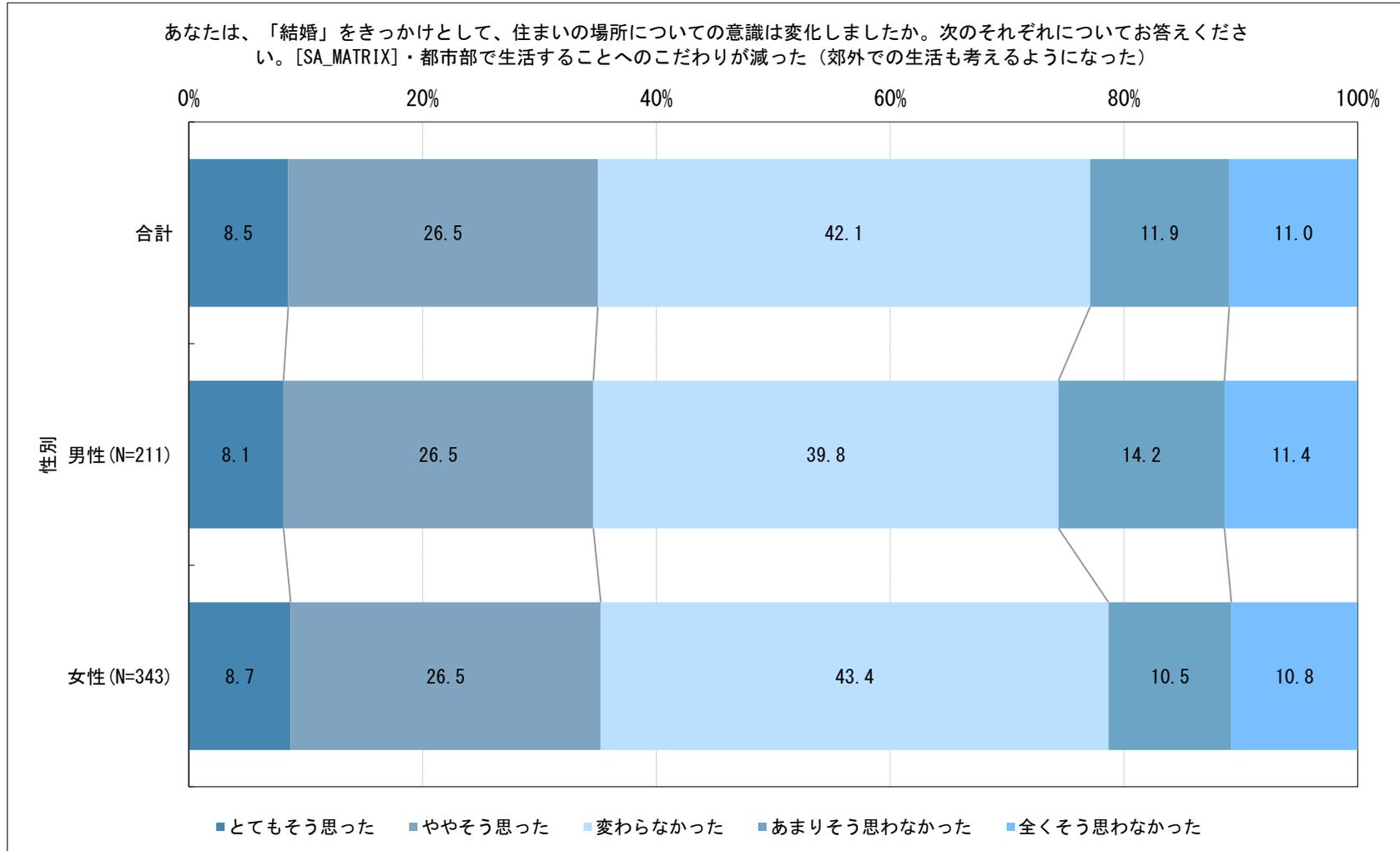
あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



Q11\_1.あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。「都市部で生活することへのこだわりが減った」【男女クロス集計】

男性では、「とてもそう思った、ややそう思った」は34.6%、「変わらなかった」は39.8%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は25.6%。  
 女性では、「とてもそう思った、ややそう思った」は35.2%、「変わらなかった」は43.4%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は21.3%。

標本：東京圏への転入者（既婚）



Q11\_1.あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。「都市部で生活することへのこだわりが減った」【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は41.7%、「変わらなかった」は36.7%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は21.7%。

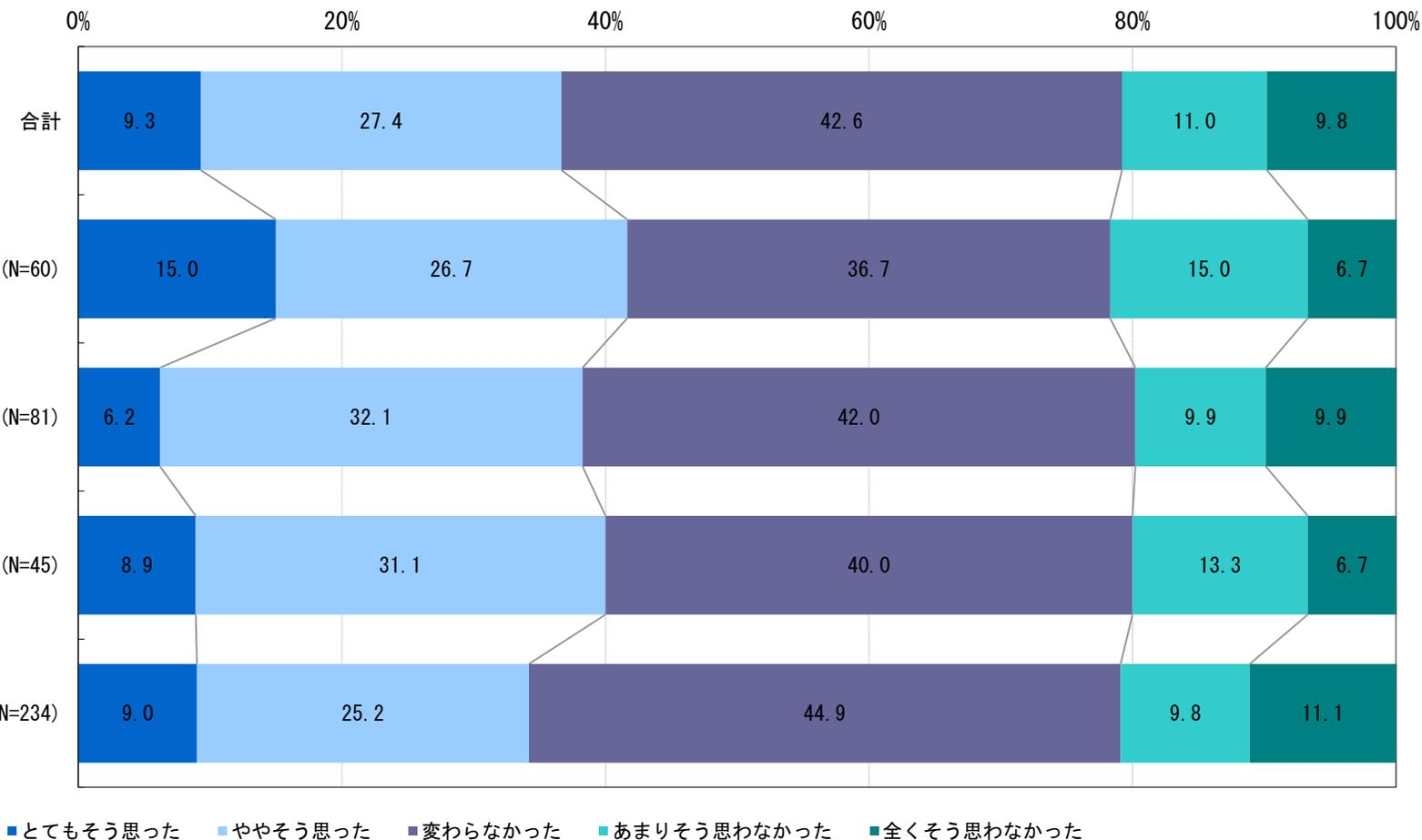
「就職（新卒）」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は38.3%、「変わらなかった」は42.0%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は19.8%。

「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は40.0%、「変わらなかった」は40.0%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は20.0%。

標本：東京圏への転入者（既婚）

あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・都市部  
で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



Q11\_2.あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。【単純集計】

「地方で暮らすことへの関心が高まった」かについて、「とてもそう思った、ややそう思った」は43.7%、「変わらなかった」は31.5%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は24.7%。

「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」かについて、「とてもそう思った、ややそう思った」は37.9%、「変わらなかった」は43.1%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は19.0%。

標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者（子供あり）

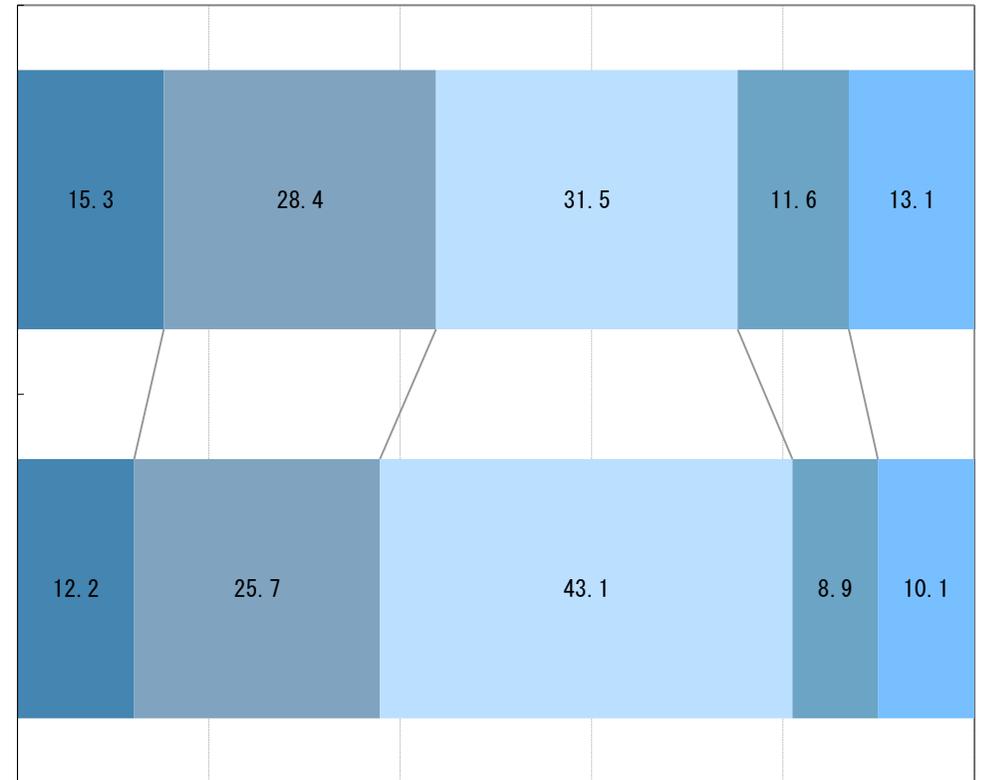
あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。

[SA\_MATRIX]

0% 20% 40% 60% 80% 100%

地方で暮らすことへの関心が高まった (N=327)

都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）  
(N=327)

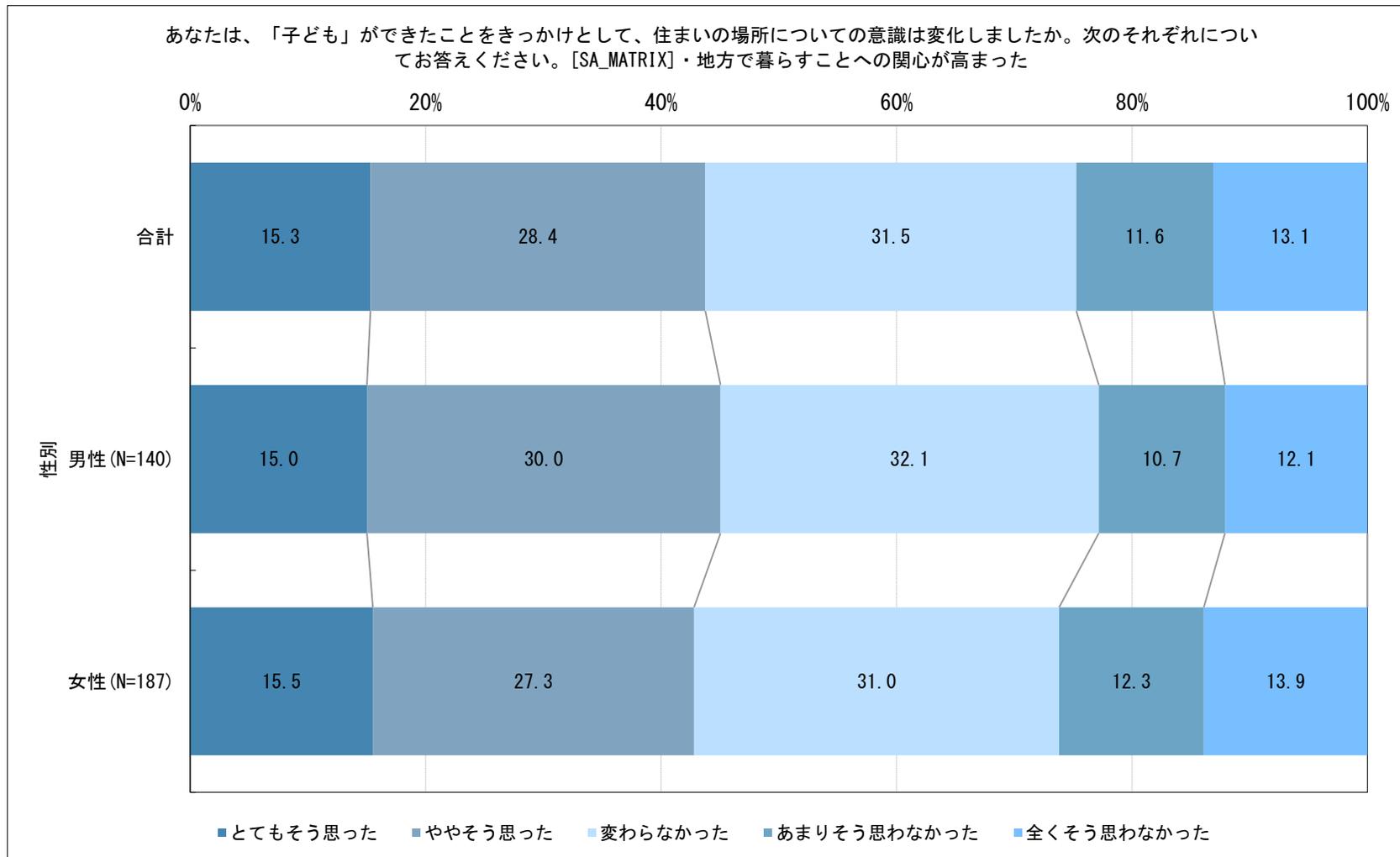


■とてもそう思った ■ややそう思った ■変わらなかった ■あまりそう思わなかった ■全くそう思わなかった

Q11\_2.あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。「地方で暮らすことへの関心が高まった」【男女クロス集計】

男性では、「とてもそう思った、ややそう思った」は45.0%、「変わらなかった」は32.1%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は22.8%。  
 女性では、「とてもそう思った、ややそう思った」は42.8%、「変わらなかった」は31.0%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は26.2%。

標本：東京圏への転入者＋  
 生まれよりの東京圏在住者（子供あり）



Q11\_2.あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。「地方で暮らすことへの関心が高まった」【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は62.5%、「変わらなかった」は25.0%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は12.5%。

「就職（新卒）」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は52.0%、「変わらなかった」は28.8%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は19.2%。

「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は48.4%、「変わらなかった」は36.4%、

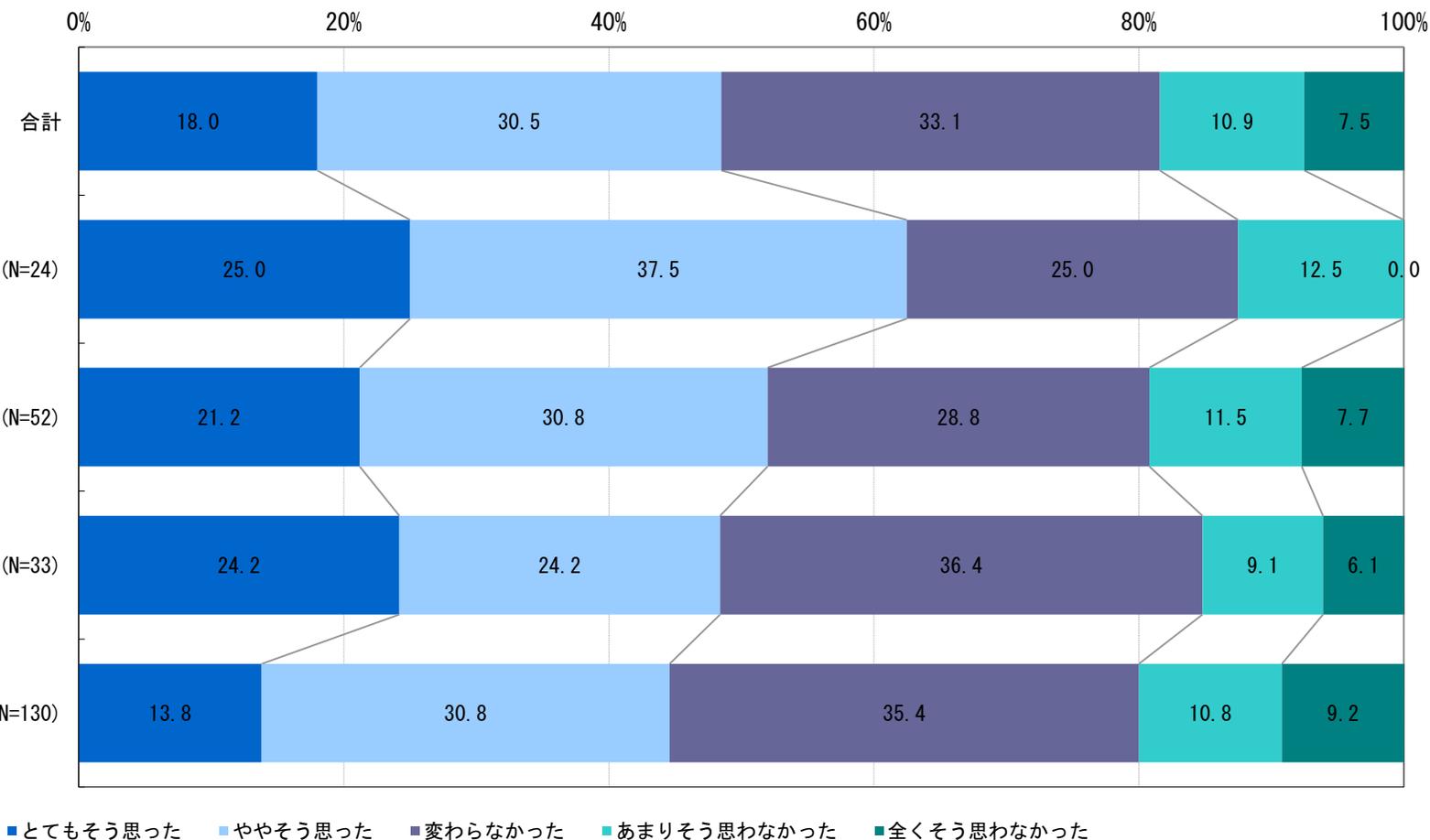
「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は15.2%。

標本：東京圏への転入者（子供あり）

あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。

[SA\_MATRIX]・地方で暮らすことへの関心が高まった

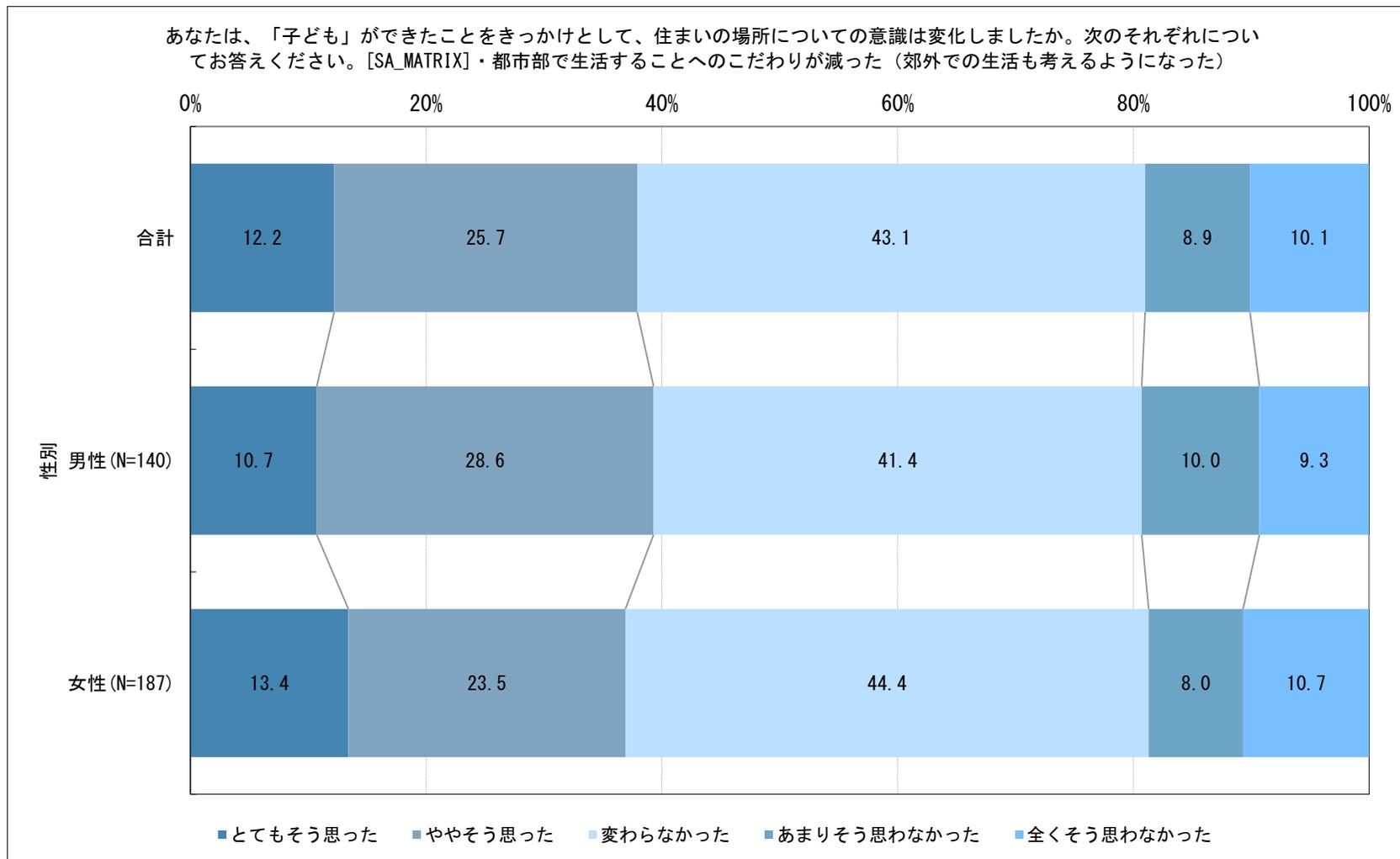
あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



Q11\_2.あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。「都市部で生活することへのこだわりが減った」【男女クロス集計】

男性では、「とてもそう思った、ややそう思った」は39.3%、「変わらなかった」は41.4%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は19.3%。  
 女性では、「とてもそう思った、ややそう思った」は36.9%、「変わらなかった」は44.4%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は18.7%。

標本：東京圏への転入者（子供あり）



Q11\_2.あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。「都市部で生活することへのこだわりが減った」【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は50.0%、「変わらなかった」は33.3%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は16.7%。

「就職（新卒）」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は44.2%、「変わらなかった」は42.3%、「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は13.5%。

「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「とてもそう思った、ややそう思った」は48.4%、「変わらなかった」は39.4%、

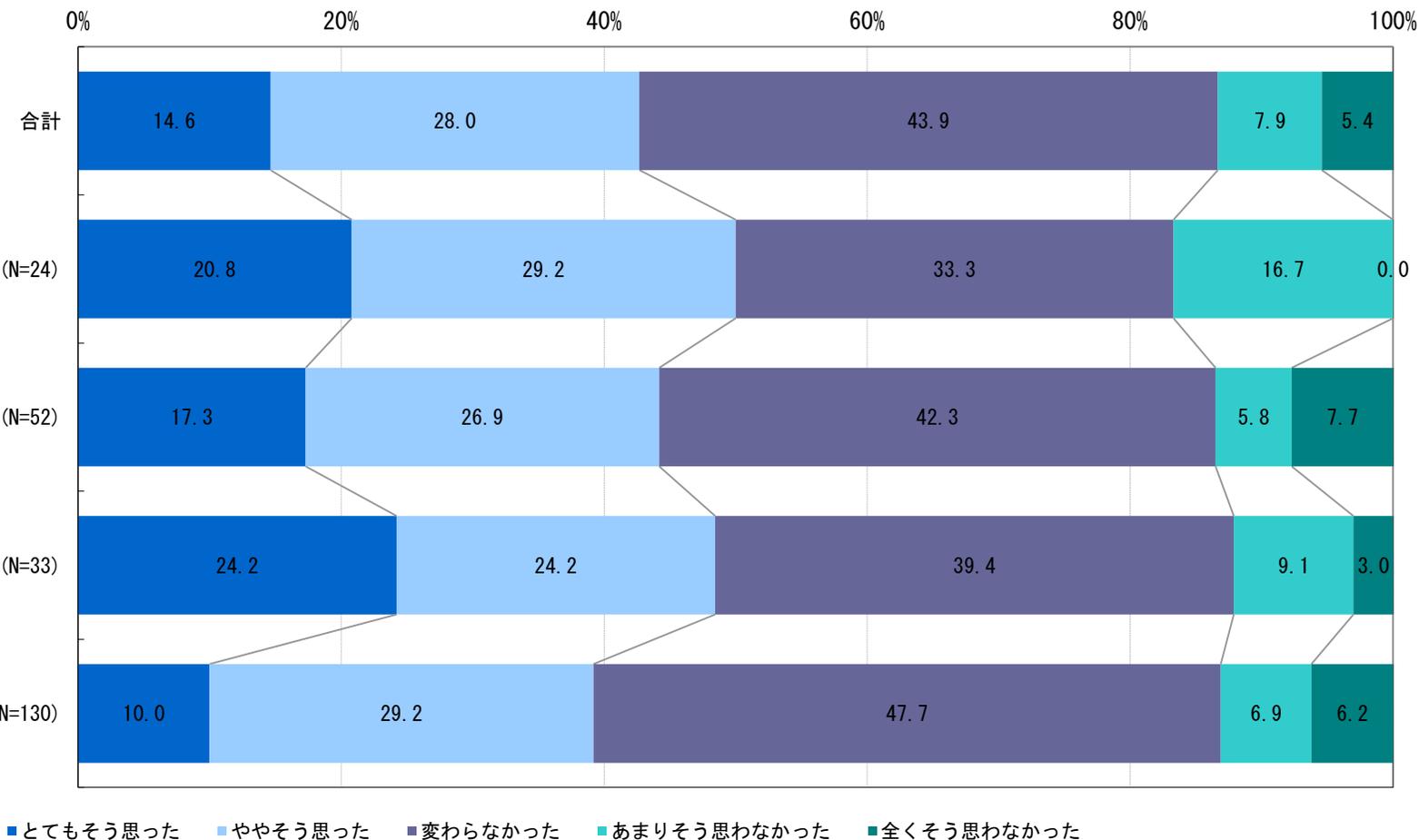
「あまりそう思わなかった、全くそう思わなかった」は12.1%。

標本：東京圏への転入者（子供あり）

あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。

[SA\_MATRIX]・都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



Q11\_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。【単純集計】

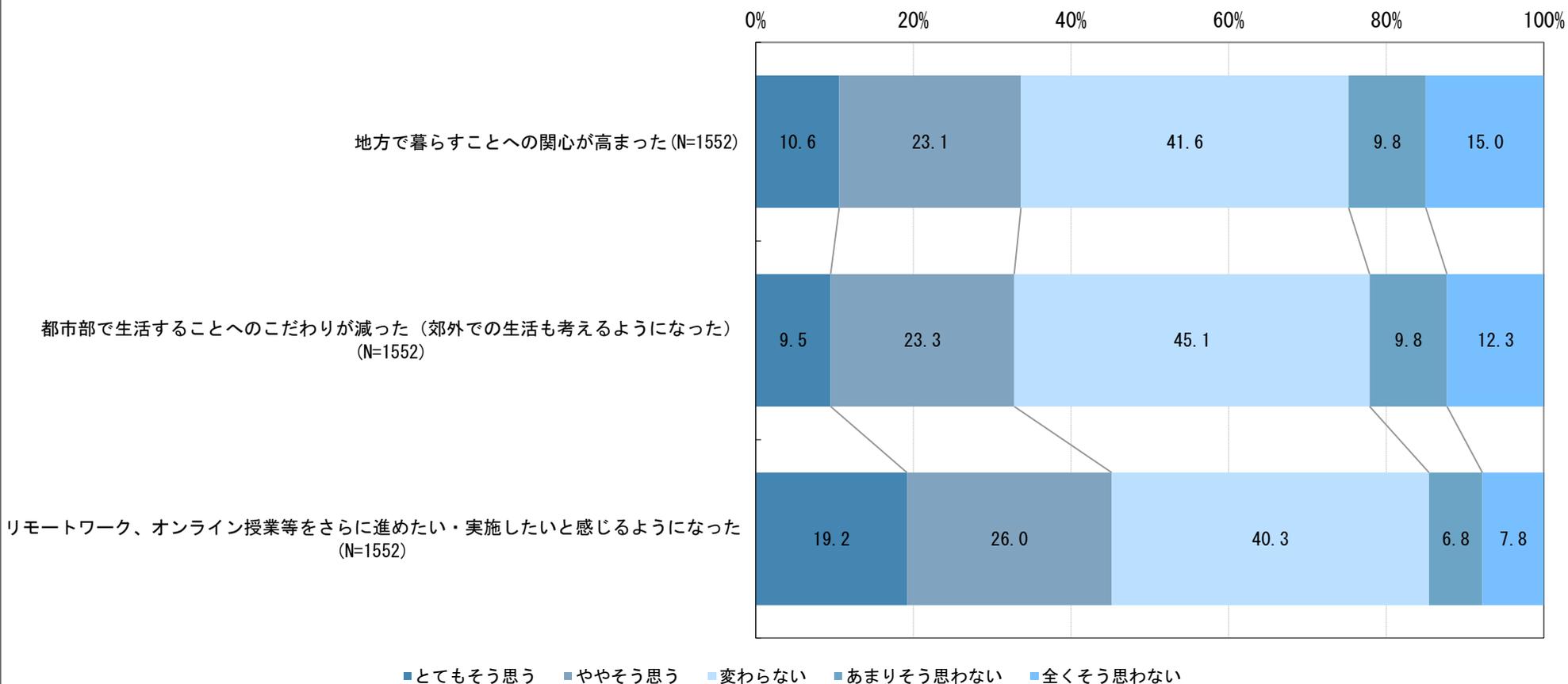
「地方で暮らすことへの関心が高まった」について、「とてもそう思う、ややそう思う」は33.7%、「変わらなかった」は41.6%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は24.8%。

「都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）」について、「とてもそう思う、ややそう思う」は32.8%、「変わらなかった」は45.1%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は22.1%。

「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」について、「とてもそう思う、ややそう思う」は45.2%、「変わらなかった」は40.3%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は14.6%。

標本：東京圏への転入者 +  
生まれよりの東京圏在住者

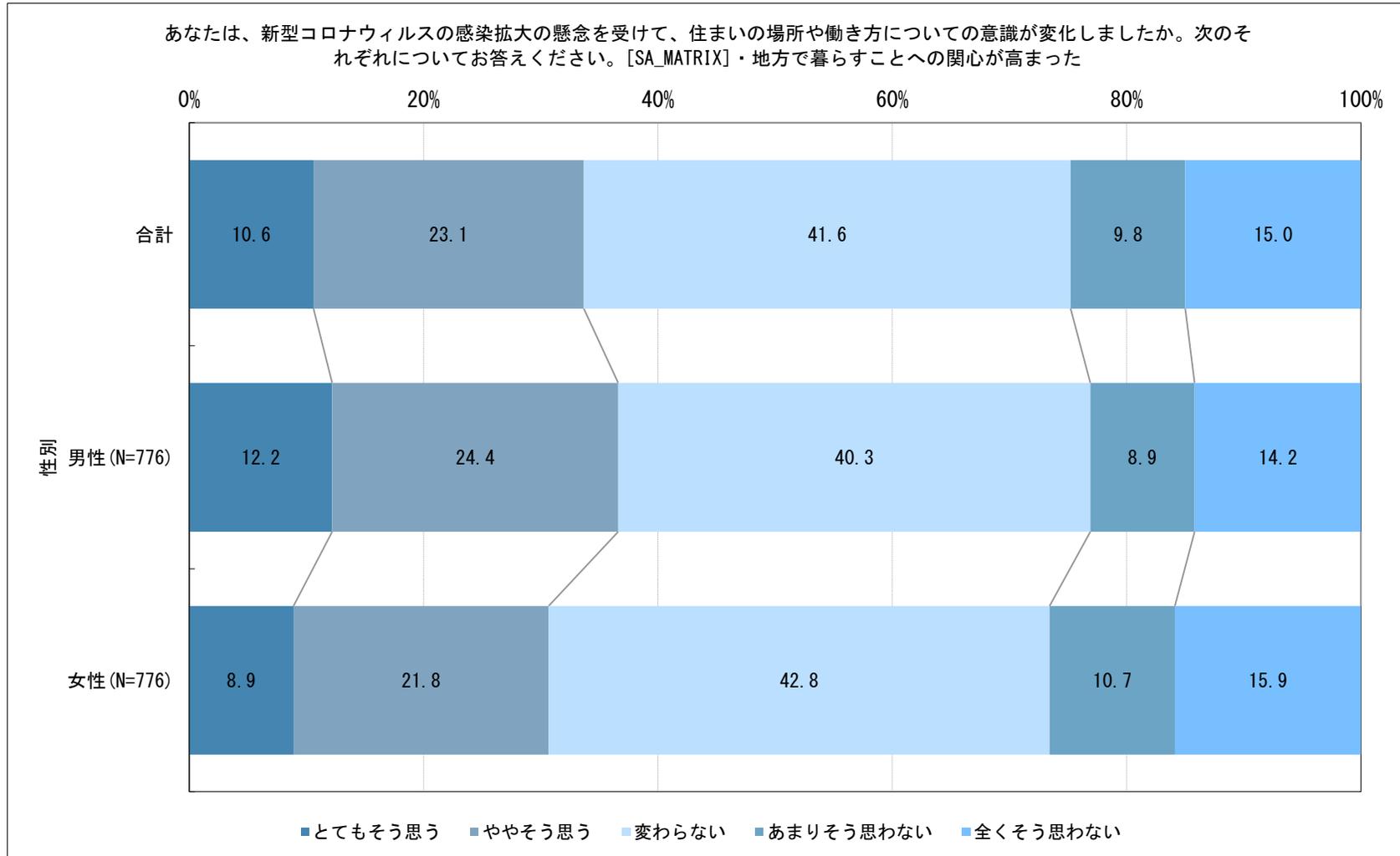
あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]



Q11\_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。「地方で暮らすことへの関心が高まった」【男女クロス集計】

男性では、「とてもそう思う、ややそう思う」は36.6%、「変わらなかった」は40.3%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は23.1%。  
女性では、「とてもそう思う、ややそう思う」は30.7%、「変わらなかった」は42.8%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は26.6%。

標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者



Q11\_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。「地方で暮らすことへの関心が高まった」【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「とてもそう思う、ややそう思う」は38.4%、「変わらない」は40.6%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は21.0%。

「就職（新卒）」では、「とてもそう思う、ややそう思う」は41.9%、「変わらない」は37.6%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は20.5%。

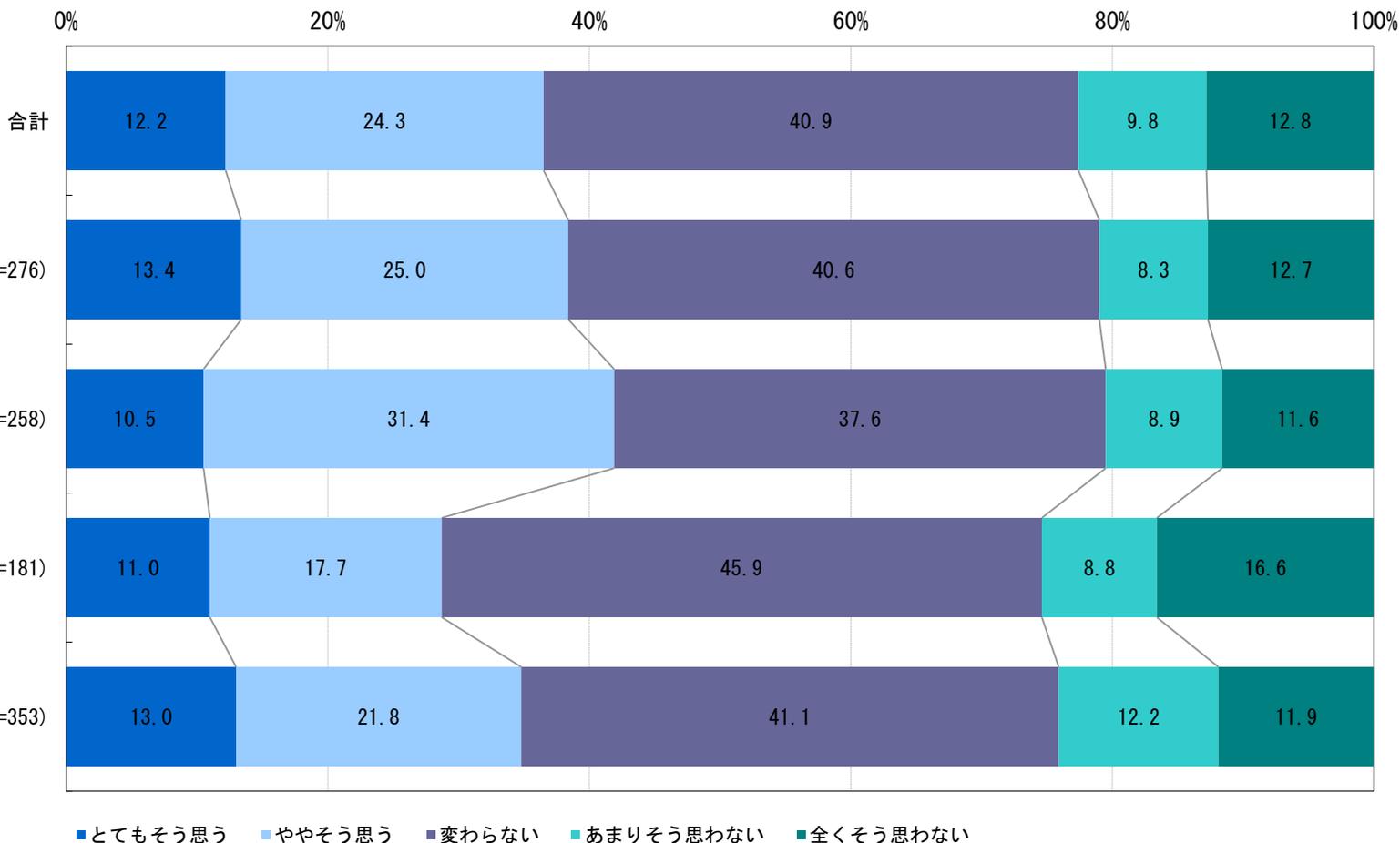
「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「とてもそう思う、ややそう思う」は28.7%、「変わらない」は45.9%、

「あまりそう思わない、全くそう思わない」は25.4%。

標本：東京圏への転入者

あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・地方で暮らすことへの関心が高まった

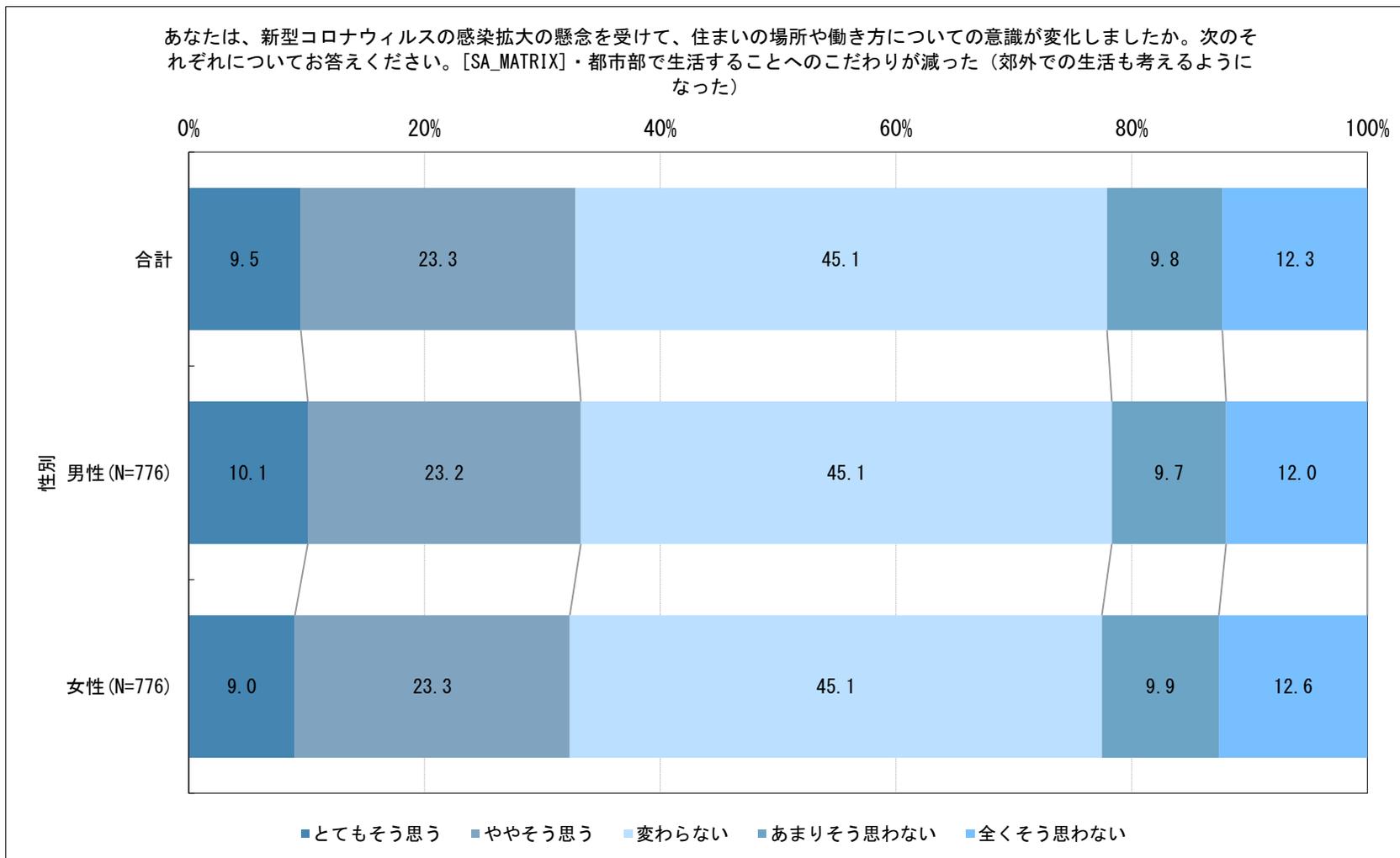
あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



Q11\_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。「都市部で生活することへのこだわりが減った」【男女クロス集計】

男性では、「とてもそう思う、ややそう思う」は33.3%、「変わらなかった」は45.1%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は21.7%。  
 女性では、「とてもそう思う、ややそう思う」は32.3%、「変わらなかった」は45.1%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は22.5%。

標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者



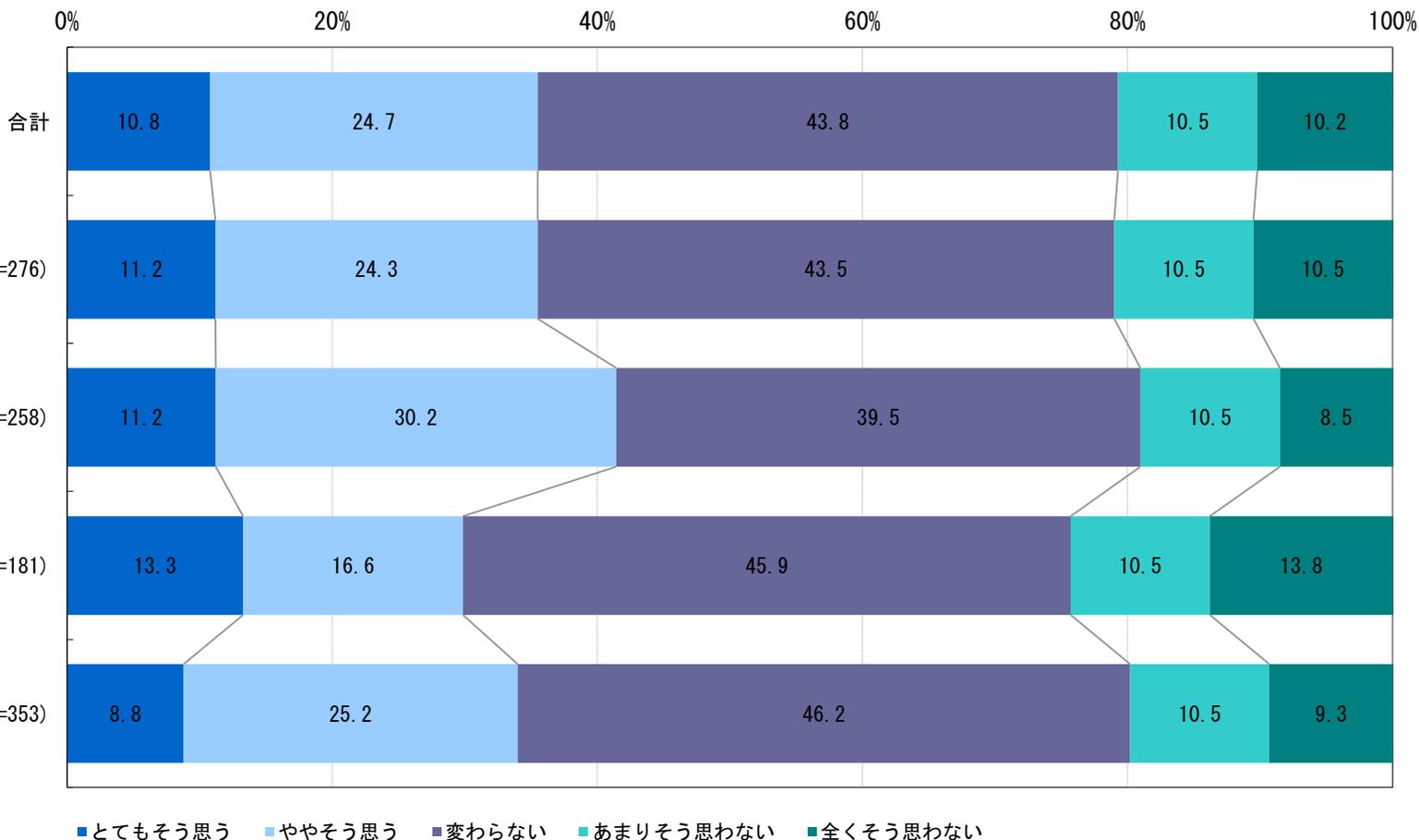
Q11\_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。「都市部で生活することへのこだわりが減った」【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「とてもそう思う、ややそう思う」は35.5%、「変わらない」は43.5%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は21.0%。  
 「就職（新卒）」では、「とてもそう思う、ややそう思う」は41.4%、「変わらない」は39.5%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は19.0%。「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「とてもそう思う、ややそう思う」は29.9%、「変わらない」は45.9%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は24.3%。

標本：東京圏への転入者

あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・都市部で生活することへのこだわりが減った（郊外での生活も考えるようになった）

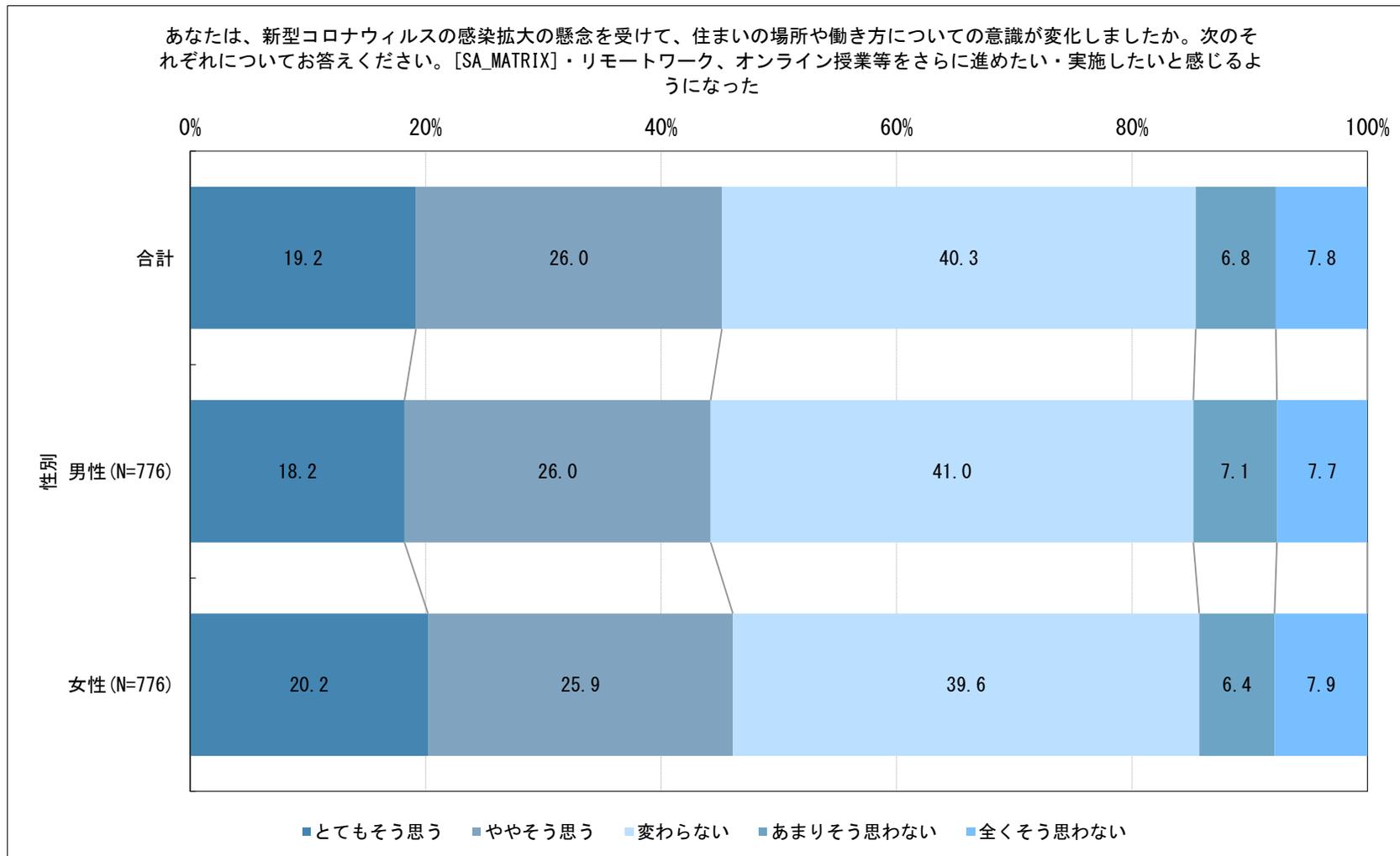
あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]



Q11\_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」【男女クロス集計】

男性では、「とてもそう思う、ややそう思う」は44.2%、「変わらなかった」は41.0%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は14.8%。  
女性では、「とてもそう思う、ややそう思う」は46.1%、「変わらなかった」は39.6%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は14.3%。

標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者



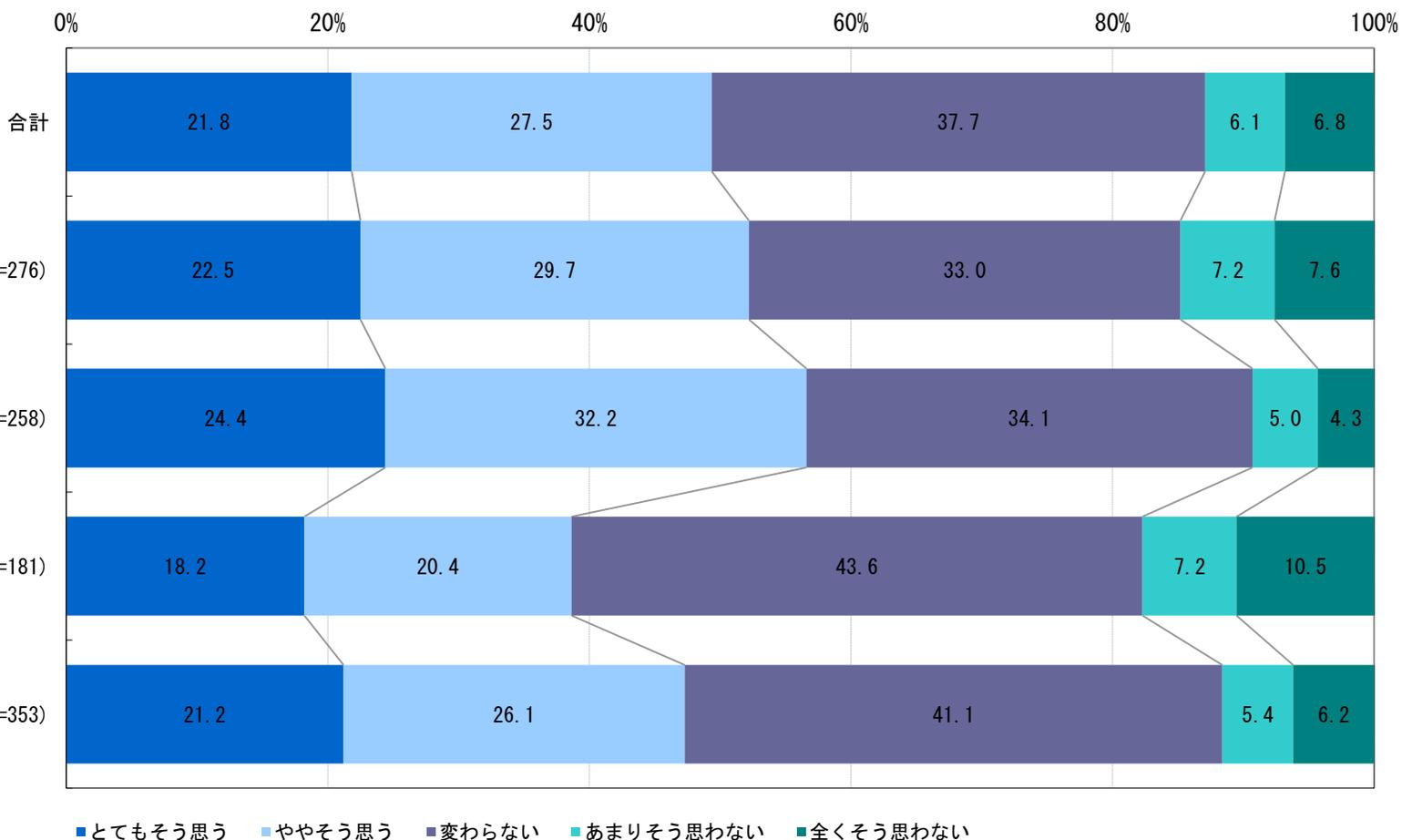
Q11\_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「とてもそう思う、ややそう思う」は52.2%、「変わらない」は33.0%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は14.8%。  
 「就職（新卒）」では、「とてもそう思う、ややそう思う」は56.6%、「変わらない」は34.1%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は9.3%。  
 「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「とてもそう思う、ややそう思う」は38.6%、「変わらない」は43.6%、「あまりそう思わない、全くそう思わない」は17.7%。

標本：東京圏への転入者

あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]

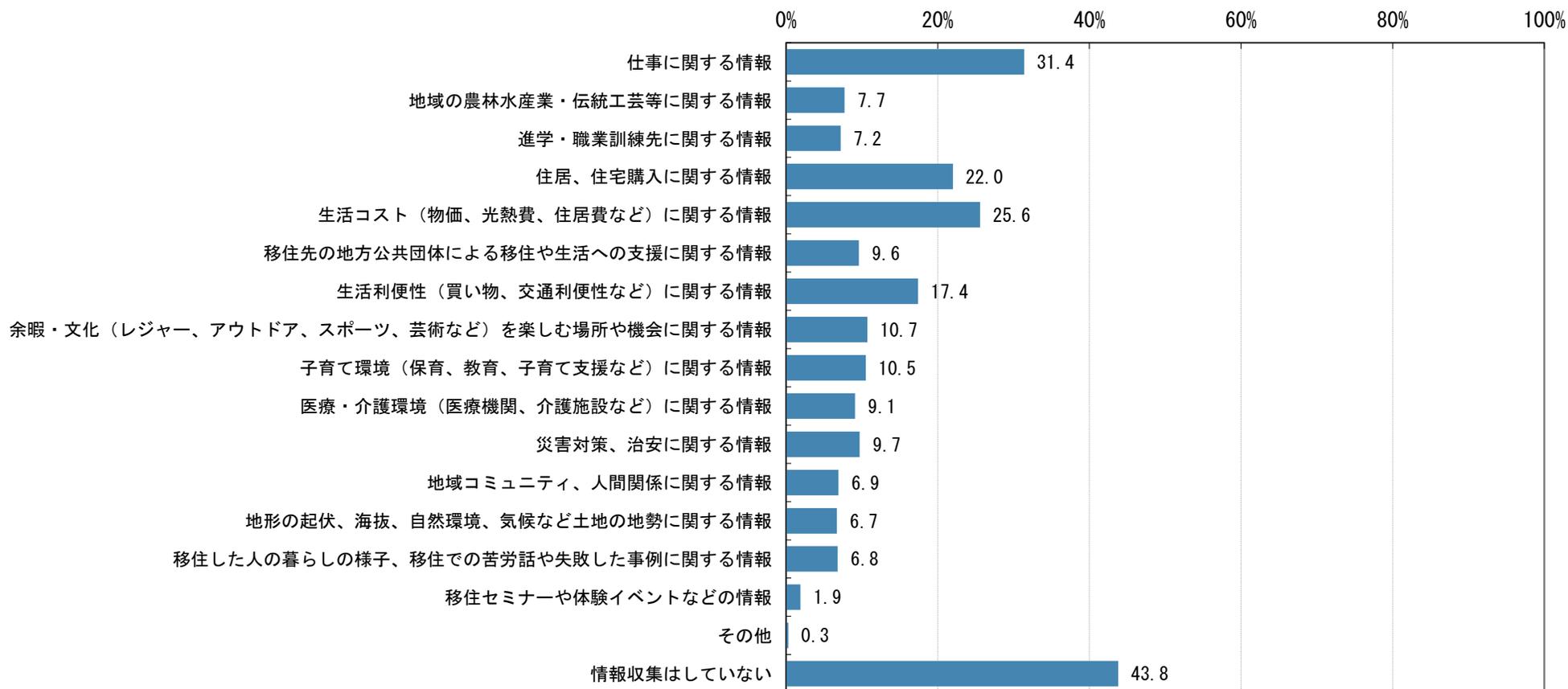


Q12.あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。【単純集計】

「情報収集はしていない」(43.8%)が最も高い。収集している情報の中では、「仕事に関する情報」(31.4%)が最も高く、「生活コストに関する情報」(25.6%)、「住居、住宅購入に関する情報」(22.0%)と続く。

標本：東京圏転入者＋生まれよりの東京圏在住者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答

あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA] (N=749)



## Q12.あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。【男女クロス集計】

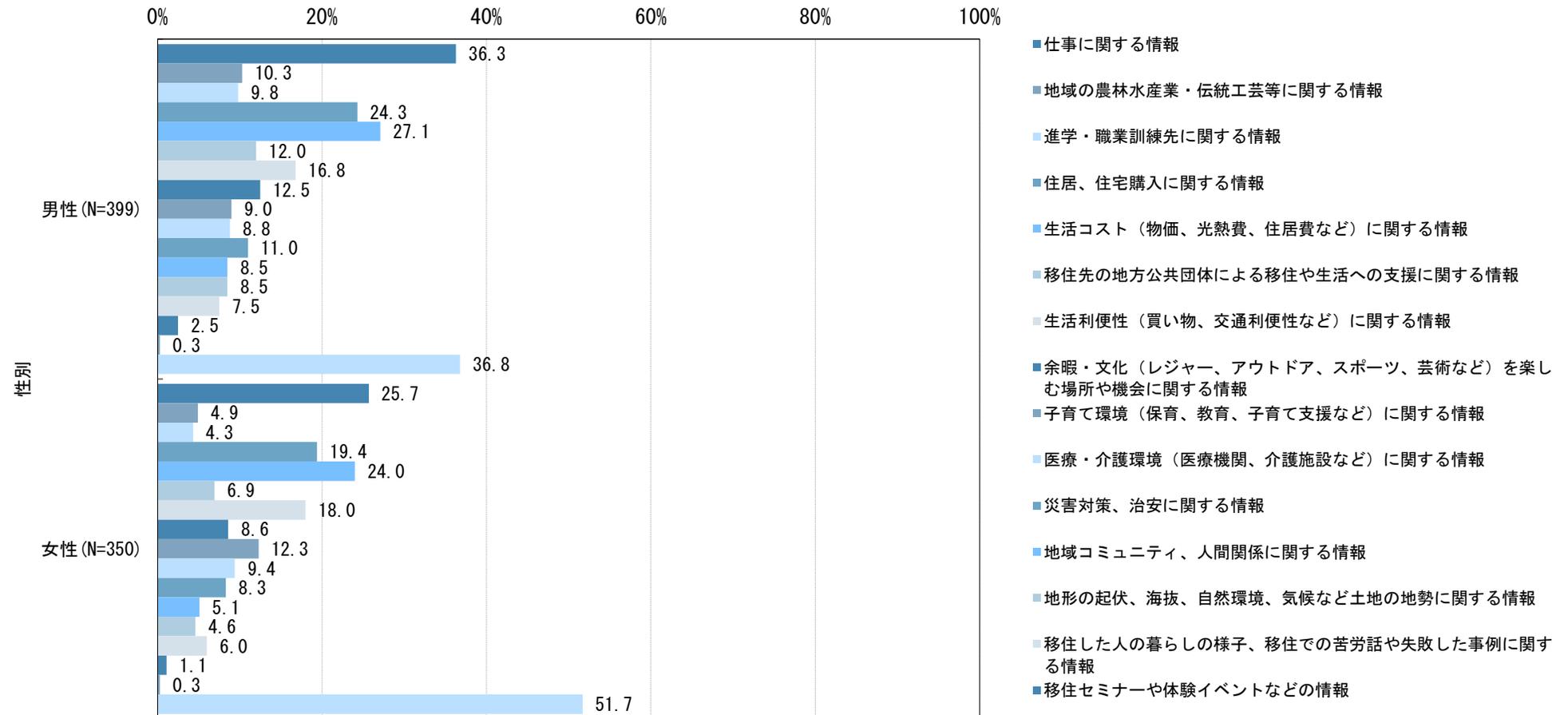
男女両方で「情報収集はしていない」(男性：36.8%、女性：51.7%)が最も高い。

男性では、「仕事に関する情報」(36.3%)が最も高く、「生活コストに関する情報」(27.1%)、「住居、住宅購入に関する情報」(24.3%)と続く。

女性においても、「仕事に関する情報」(25.7%)が最も高く、「生活コストに関する情報」(24.0%)、「住居、住宅購入に関する情報」(19.4%)と続く。

標本：東京圏転入者＋生まれよりの東京圏在住者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答

あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



## Q12.あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」では、「仕事に関する情報」(32.2%)、「生活コスト（物価、光熱費、住宅費など）に関する情報」(22.4%)、「住居、住宅購入に関する情報」(18.9%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）に関する情報」(18.9%)と続く。

「就職（新卒）」では、「仕事に関する情報」(35.7%)、「生活コスト（物価、光熱費、住宅費など）に関する情報」(26.6%)、「住居、住宅購入に関する情報」(20.3%)と続く。

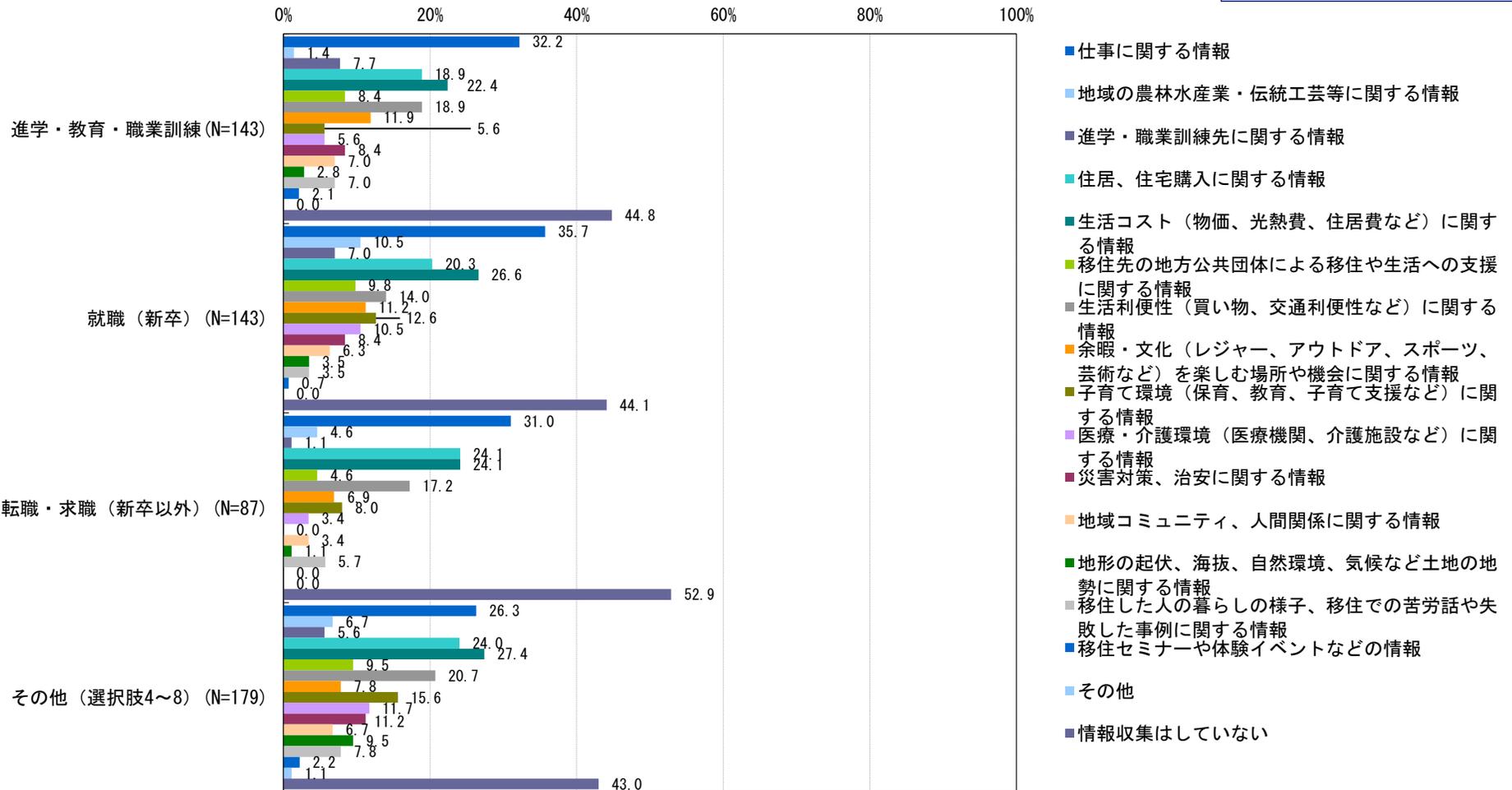
「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「仕事に関する情報」(31.0%)、「住居、住宅購入に関する情報」(24.1%)、「生活コスト（物価、光熱費、住宅費など）に関する情報」(24.1%)と続く。

「情報収集はしていない」と回答した割合は、就職・転職・求職（新卒以外）(52.9%)、進学・教育・職業訓練(44.8%)、就職（新卒）(44.1%)の順で高い。

標本：東京圏転入者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答

あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]

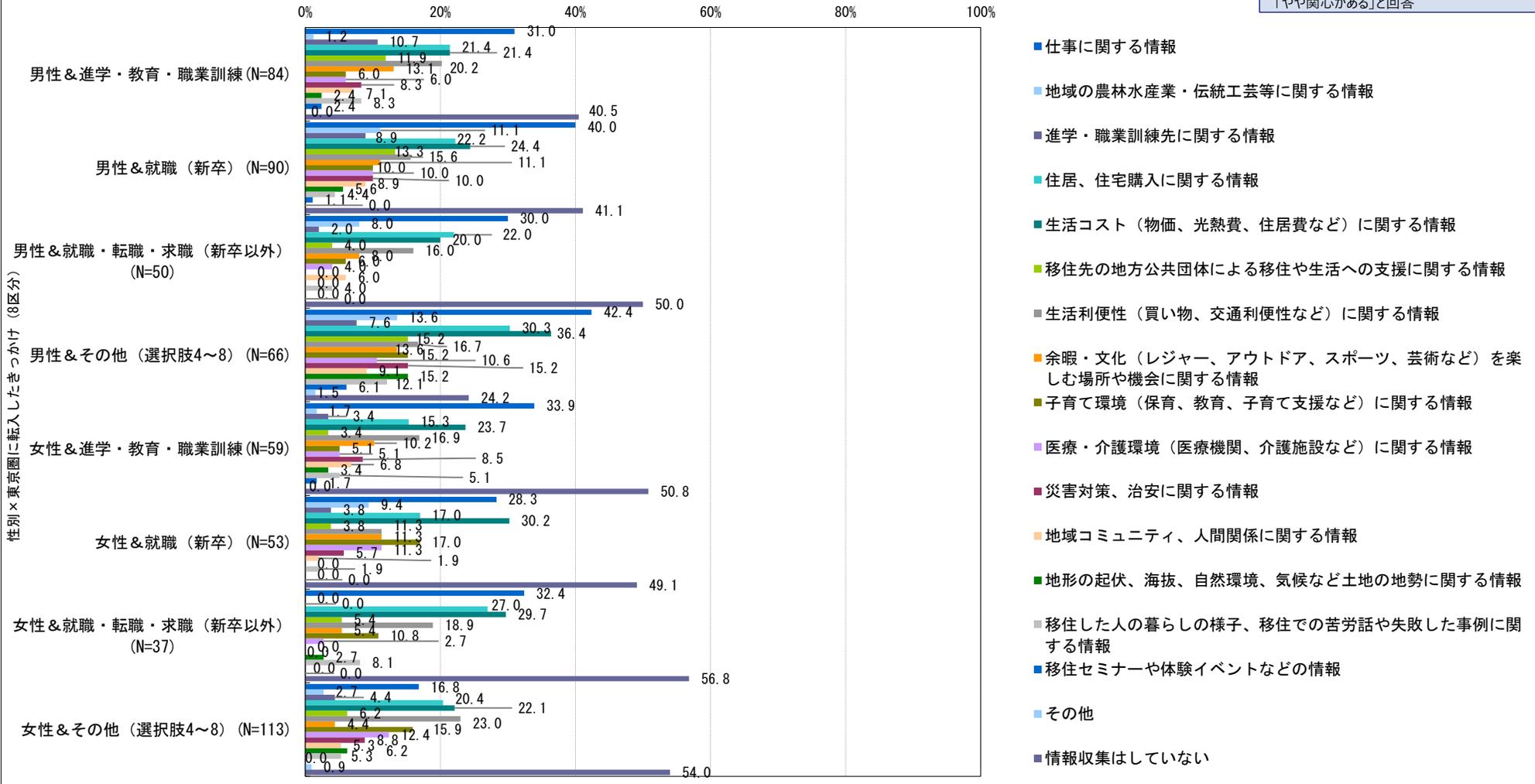


## Q12.あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。【性別×転入のきっかけ\_クロス集計】

「情報収集はしていない」は、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(56.8%)、「女性×進学・教育・職業訓練」(50.8%)、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(50.0%)の順で高い。  
 「仕事に関する情報」は、「男性×就職（新卒）」(40.0%)、「女性×進学・教育・職業訓練」(33.9%)、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(32.4%)の順で高い。  
 「生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報」は、「女性×就職（新卒）」(30.2%)、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(29.7%)、男性×就職（新卒）(24.4%)の順で高い。  
 「住居、住宅購入に関する情報」は、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(29.7%)、「男性×就職（新卒）」(22.2%)、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(22.0%)の順で高い。

あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

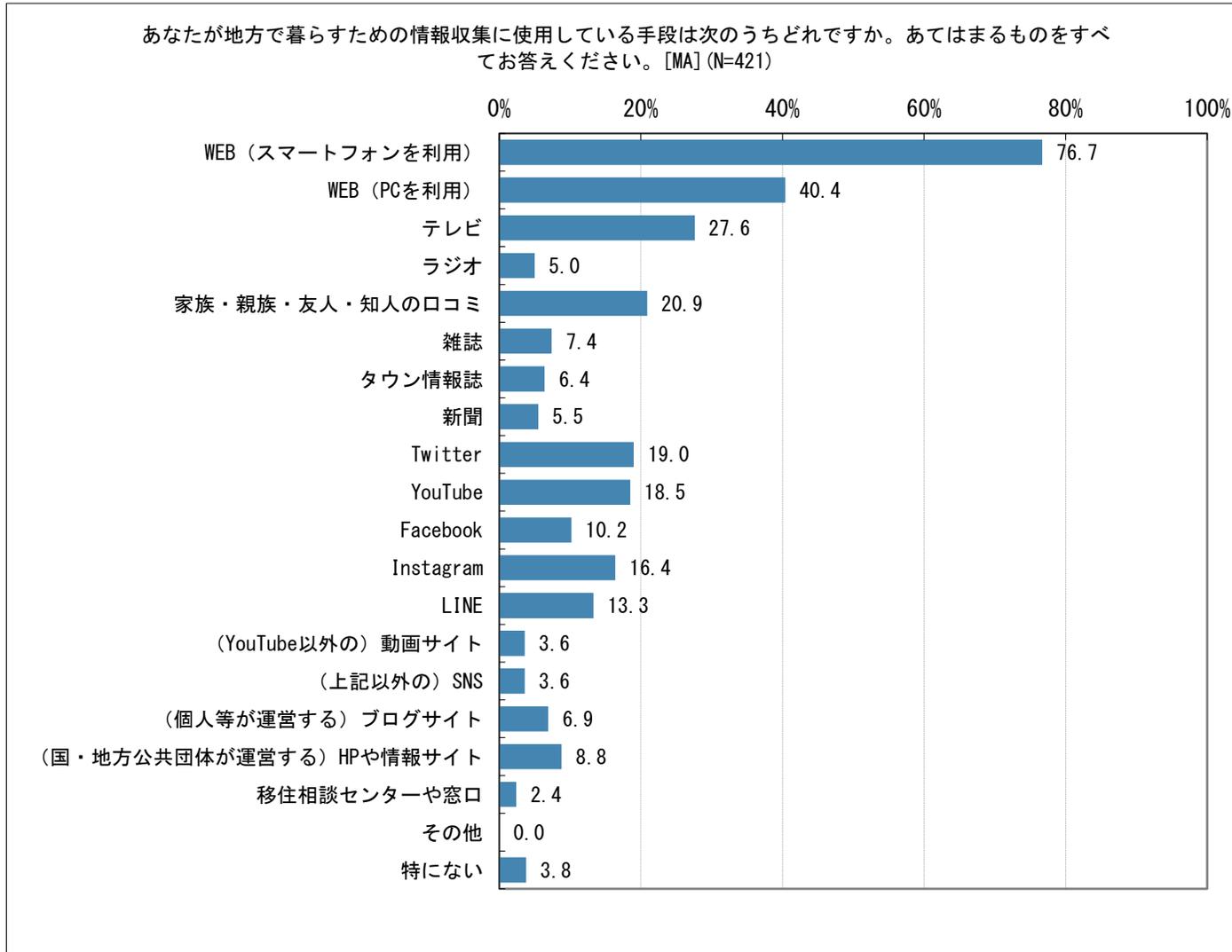
標本：東京圏転入者のうち、「Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。」において「関心がある」または「やや関心がある」と回答



Q13.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用している手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。【単純集計】

「WEB（スマートフォンを利用）」(76.7%)が最も高く、「WEB（PCを利用）」(40.4%)、「テレビ」(27.6%)と続く。

標本：東京圏への転入者＋生まれよりの東京圏在住者のうち、「Q12.あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。」において「情報収集はしていない」以外を回答

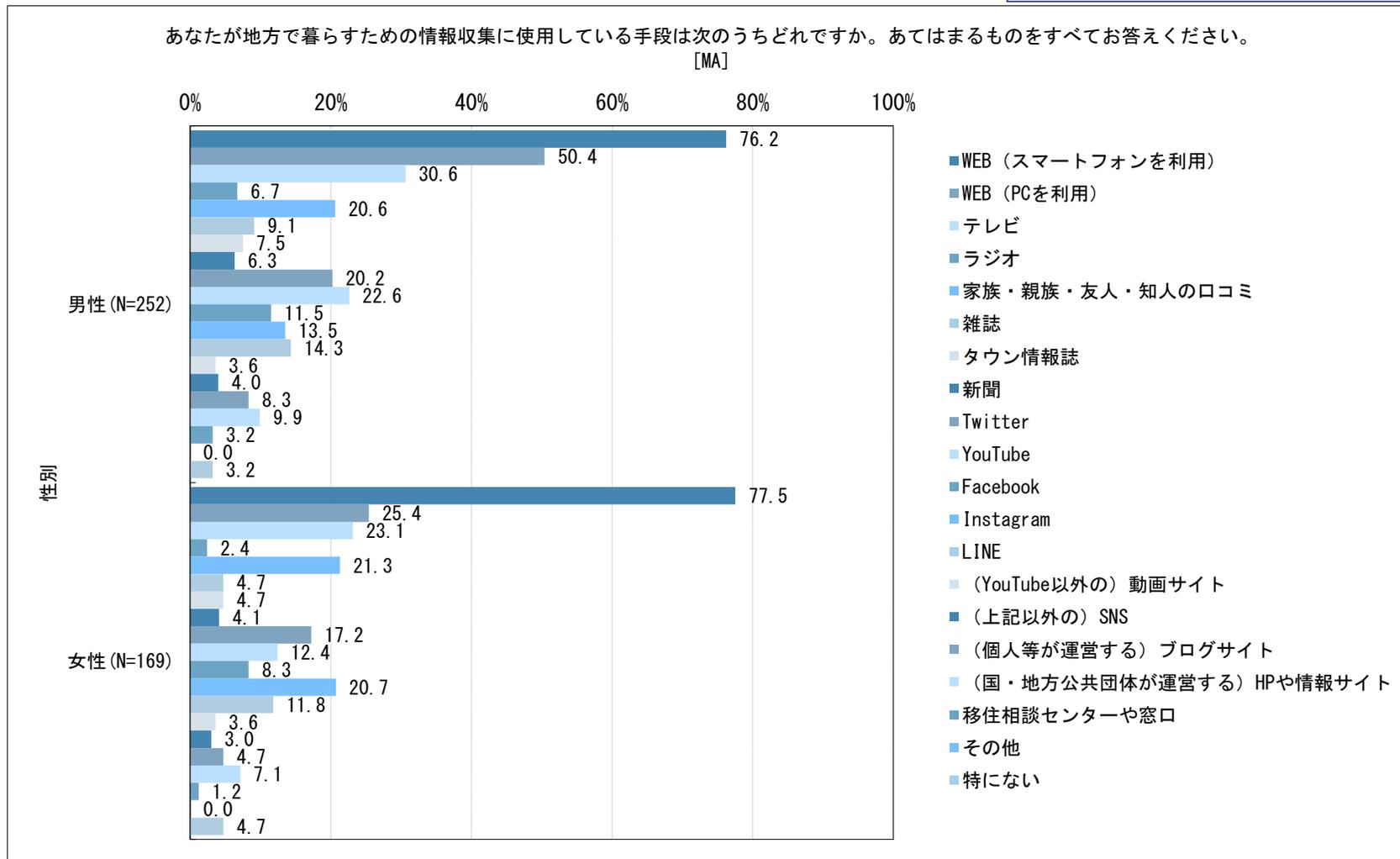


Q13.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用している手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。【男女クロス集計】

男性では、「WEB（スマートフォンを利用）」(76.2%)が最も高く、「WEB（PCを利用）」(50.4%)、「テレビ」(30.6%)と続く。

女性においても、「WEB（スマートフォンを利用）」(77.5%)が最も高く、「WEB（PCを利用）」(25.4%)、「テレビ」(23.1%)と続く。

標本：東京圏への転入者+生まれよりの東京圏在住者のうち、「Q12.あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。」において「情報収集はしていない」以外を回答

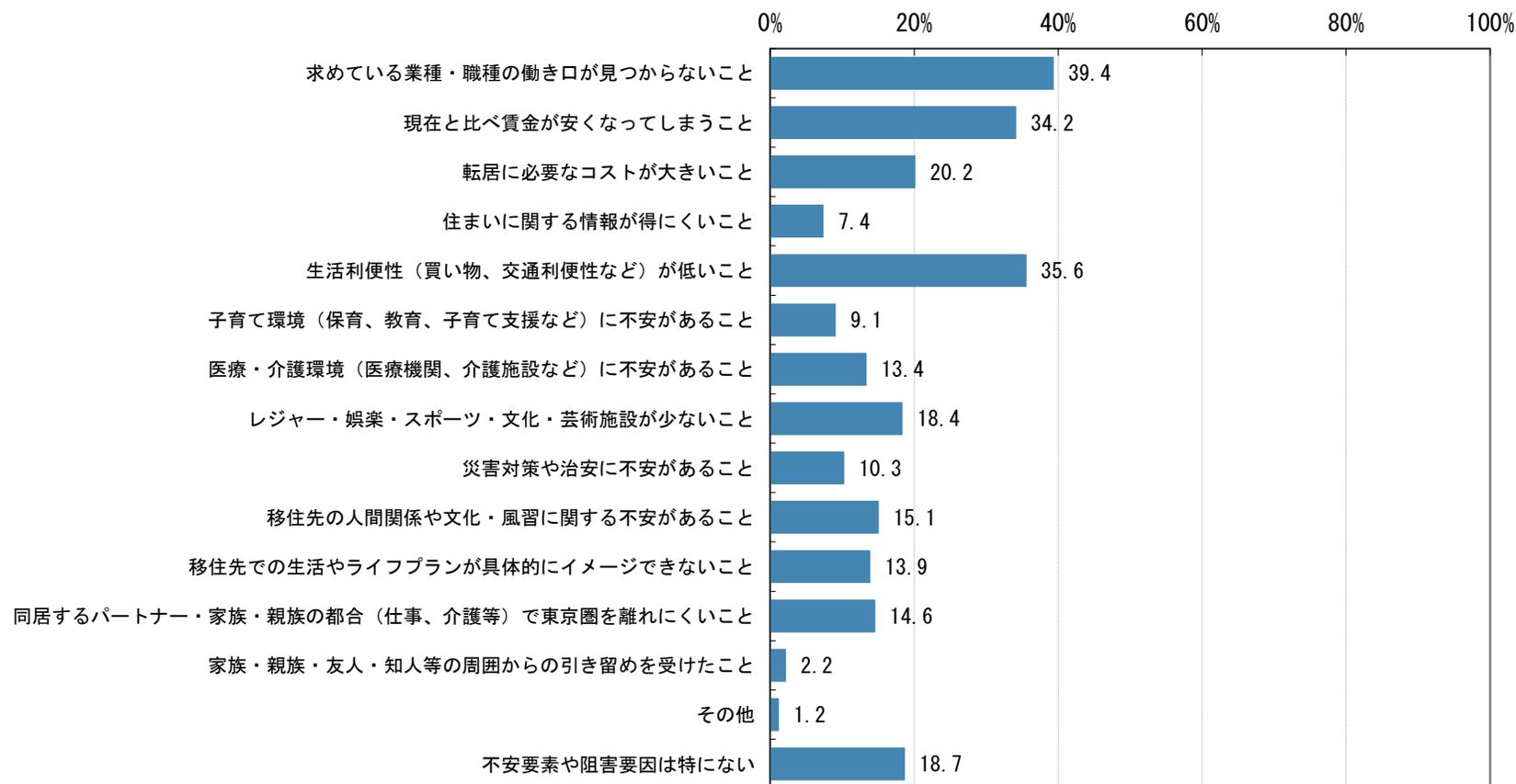


Q14.地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。【単純集計】

「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(39.4%)が最も高く、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(35.6%)、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(34.2%)と続く。

標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。  
[MA] (N=1552)



Q14. 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。【男女クロス集計】

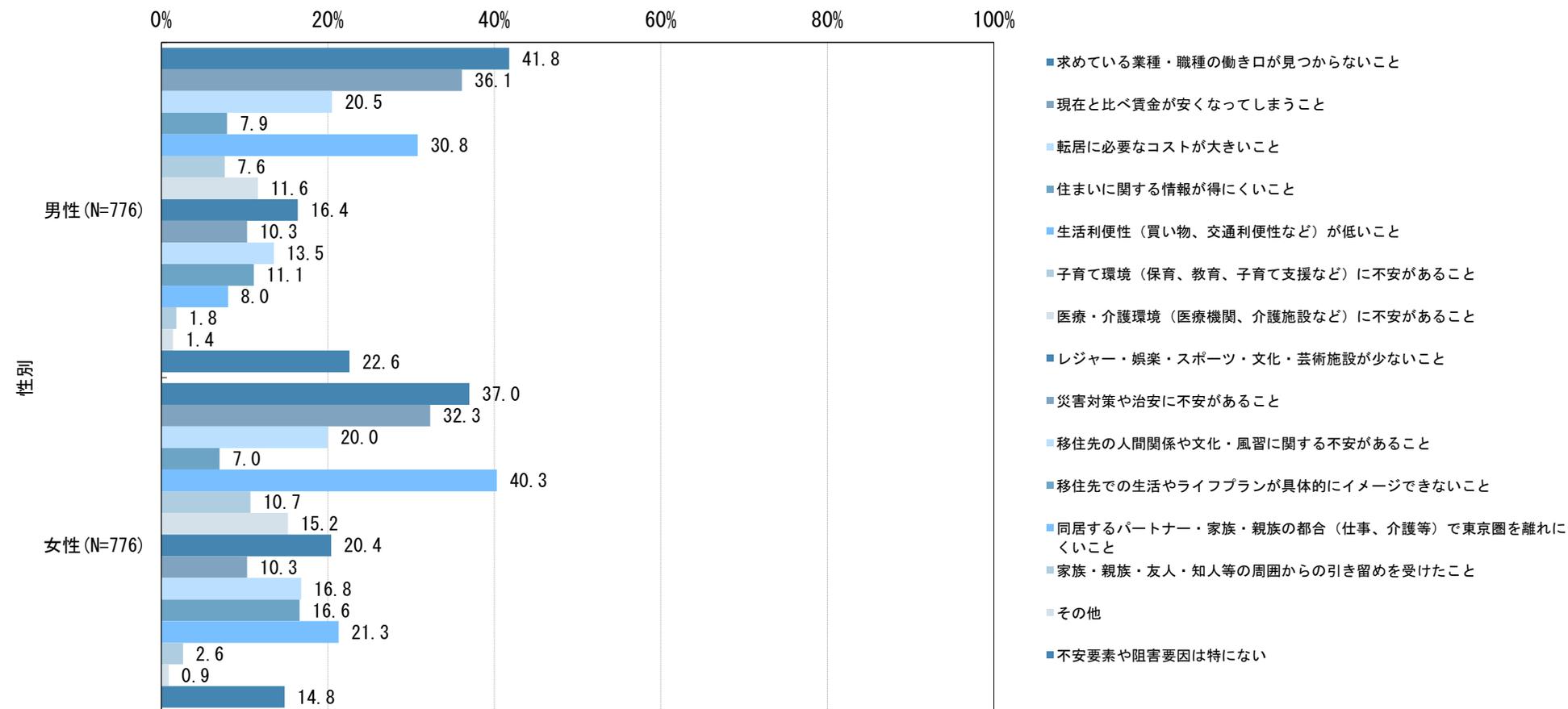
男性では、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(41.8%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(36.1%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(30.8%)と続く。

女性では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(40.3%)が最も高く、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(37.0%)、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(32.3%)と続く。

女性は男性と比べ、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」、「同居するパートナー・家族・親族の都合（仕事、介護等）で東京圏を離れにくいこと」が約10ポイント高い。

標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。[MA]



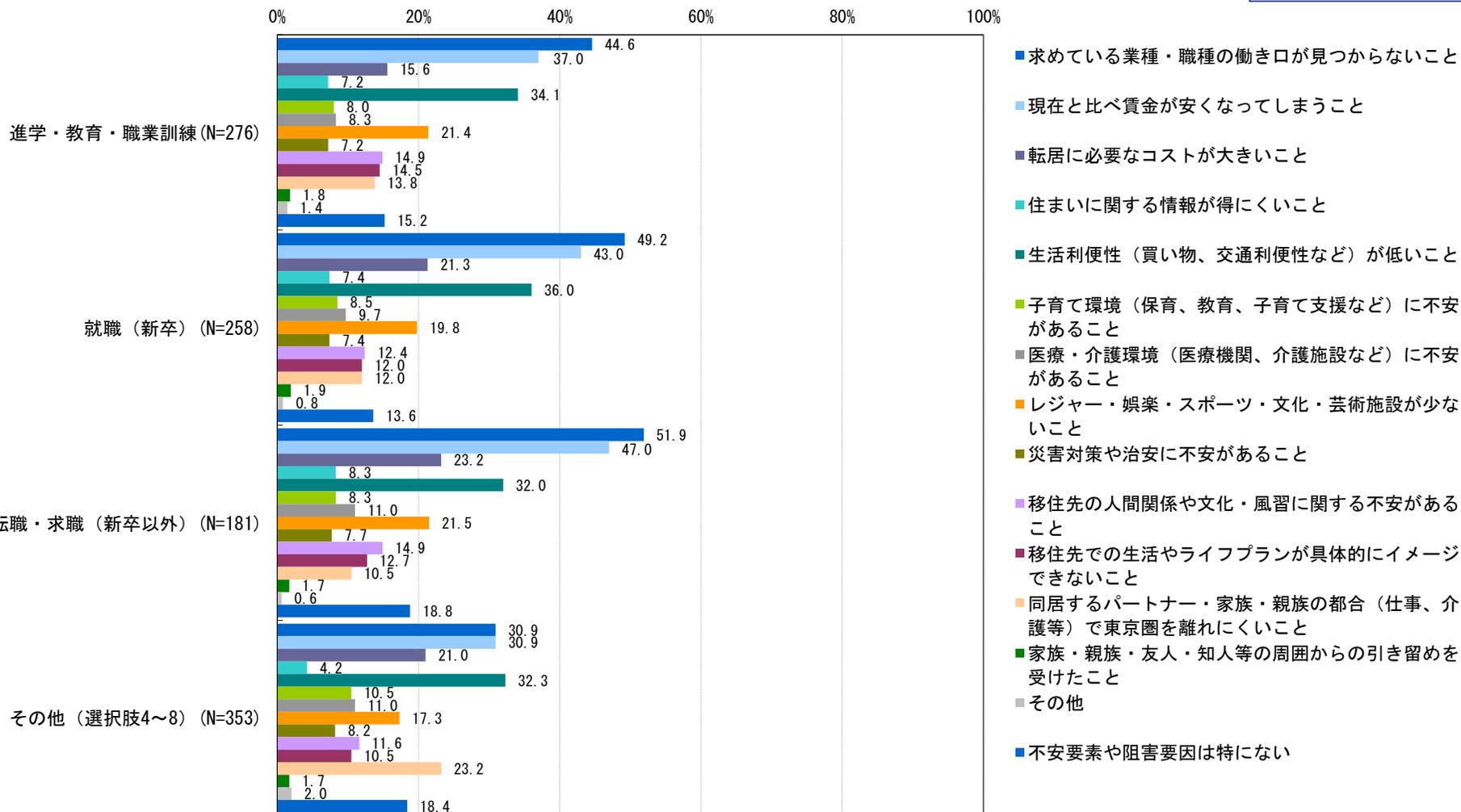
Q14. 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。【転入のきっかけ\_クロス集計】

「進学・教育・職業訓練」、「就職（新卒）」、「就職・転職・求職（新卒以外）」全てにおいて、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(44.6%/49.2%/51.9%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(37.0%/43.0%/47.0%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(34.1%/36.0%/32.0%)と続く。

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。[MA]

標本：東京圏への転入者

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]

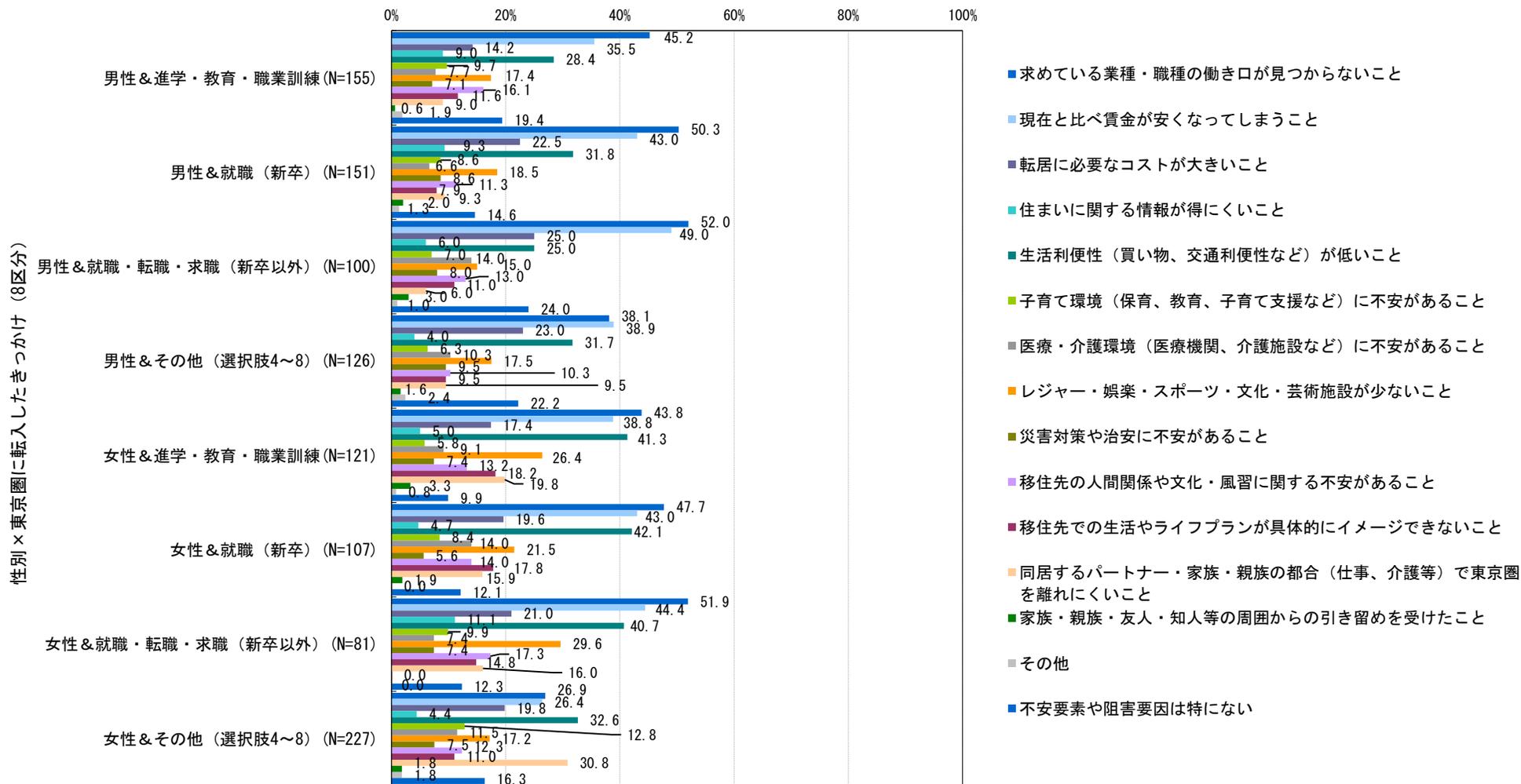


Q14. 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。【性別×転入のきっかけ\_クロス集計】

「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」は、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(52.0%)、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(51.9%)、「男性×就職（新卒）」(50.3%)の順で高い。  
 「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」は、「女性×就職（新卒）」(42.1%)、「女性×進学・教育・職業訓練」(41.3%)、「女性×就職・求職・転職（新卒以外）」(40.7%)の順で高い。  
 「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」は、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(49.0%)、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(44.4%)、「男性×就職（新卒）」(43.0%)、「女性×就職（新卒）」(43.0%)の順で高い。

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。[MA]

標本：東京圏への転入者

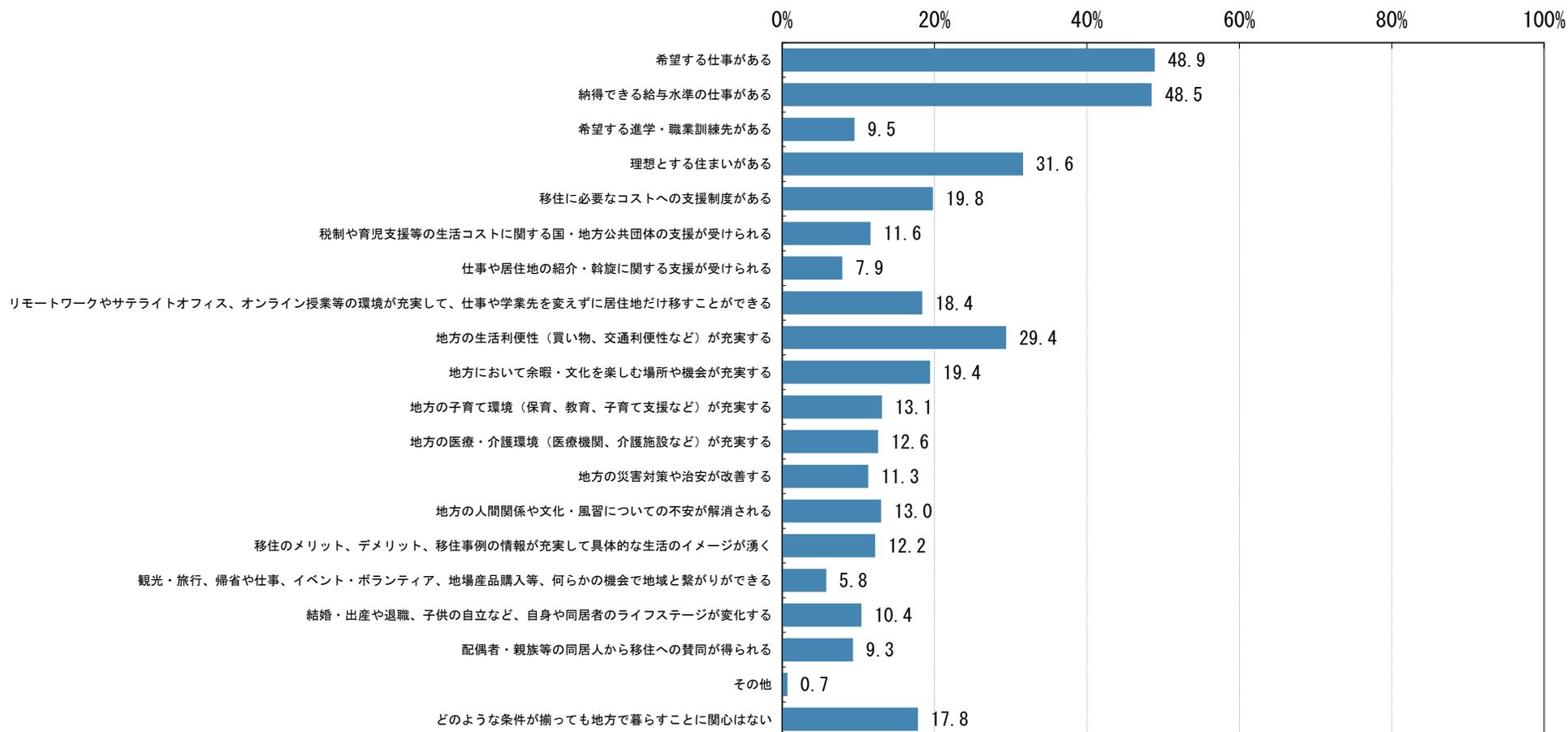


Q15.あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。【単純集計】

「希望する仕事がある」(48.9%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(48.5%)、「理想とする住まいがある」(31.6%)と続く。

標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者

あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA] (N=1552)

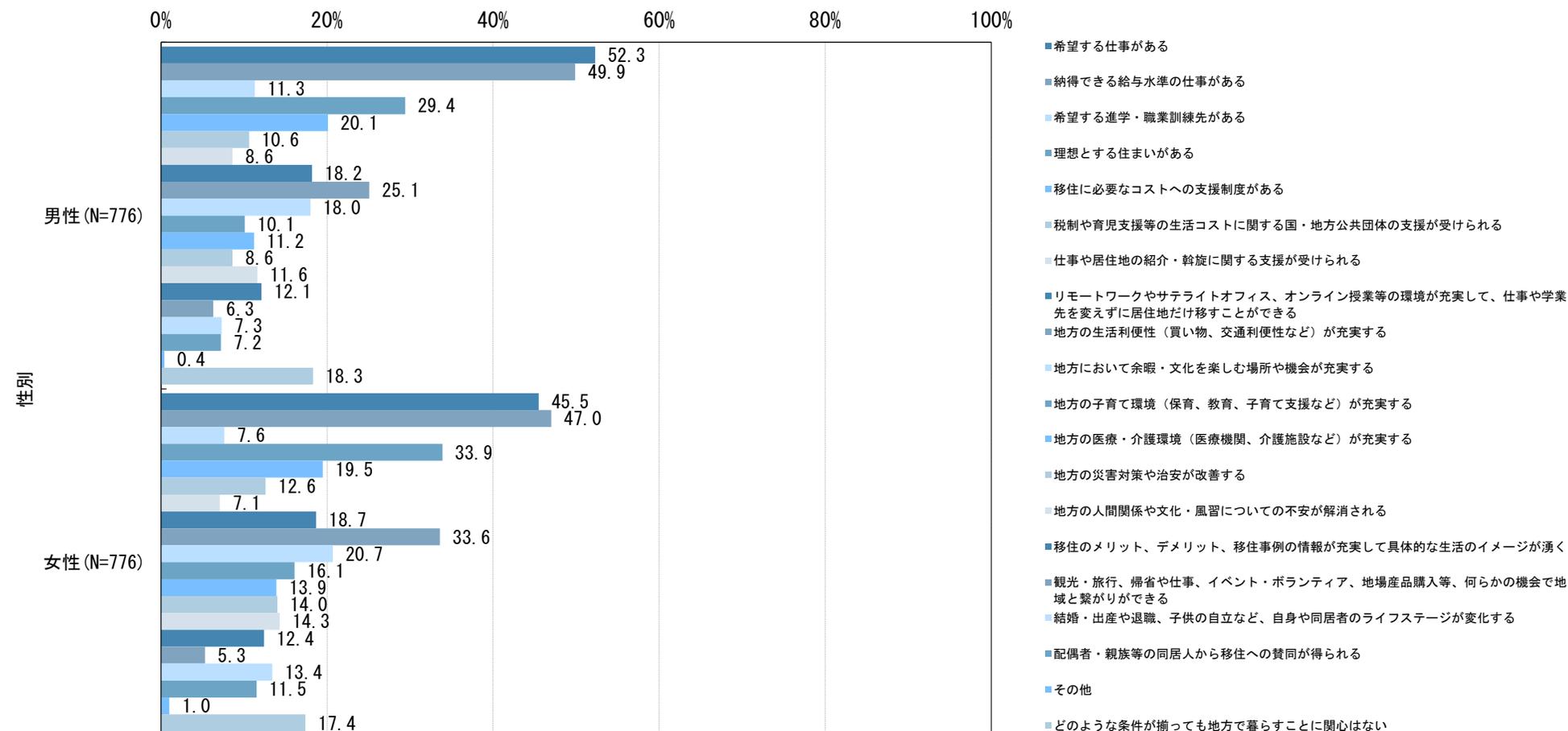


Q15.あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。【男女クロス集計】

男性では、「希望する仕事がある」(52.3%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(49.9%)、「理想とする住まいがある」(29.4%)と続く。女性では、「納得できる給与水準の仕事がある」(47.0%)が最も高く、「希望する仕事がある」(45.5%)、「理想とする住まいがある」(33.9%)と続く。女性は男性と比べ、「地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する」、「地方の子育て環境（保育、教育、子育て支援など）が充実する」、「地方の災害対策や治安が改善する」、「結婚・出産や退職、子供の自立など、自身や同居者のライフステージが変化する」等が5～10ポイント高い。

標本：東京圏への転入者＋  
生まれよりの東京圏在住者

あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



Q15.あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。【転入のきっかけ\_クロス集計】

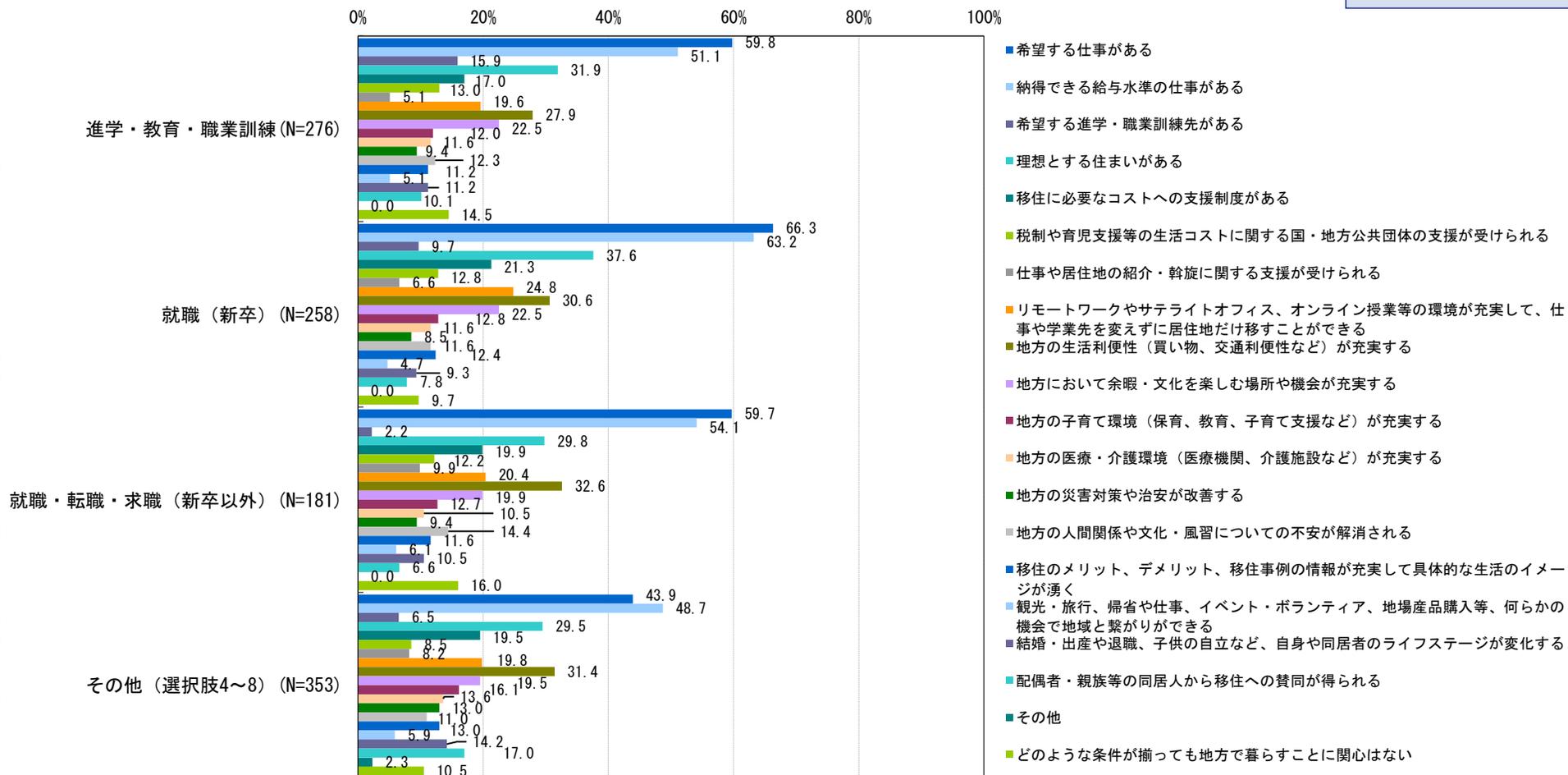
「進学・教育・職業訓練」と「就職（新卒）」では、「希望する仕事がある」(59.8%/66.3%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(51.1%/63.2%)、「理想とする住まいがある」(31.9%/37.6%)と続く。

「就職・転職・求職（新卒以外）」では、「希望する仕事がある」(59.7%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(54.1%)、「地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する」(32.6%)と続く。

あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

標本：東京圏への転入者

あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。[SA]

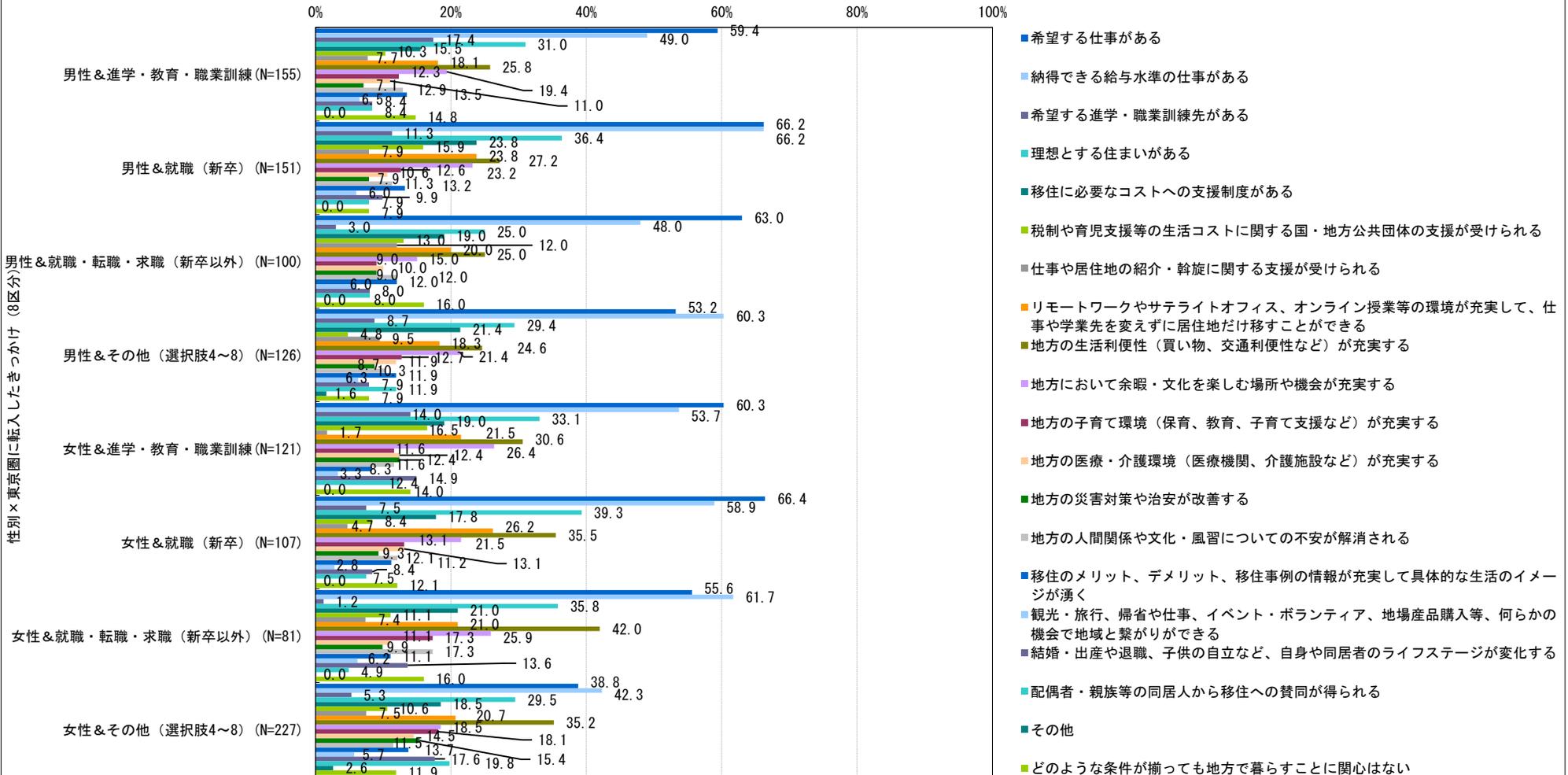


Q15.あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。【性別×転入のきっかけ\_クロス集計】

「希望する仕事がある」は、「女性×就職（新卒）」(66.4%)、「男性×就職（新卒）」(66.2%)、「男性×就職・転職・求職（新卒以外）」(63.0%)の順で高い。  
 「納得できる給与水準の仕事がある」は、「男性×就職（新卒）」(66.2%)、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(61.7%)、「女性×就職（新卒）」(58.9%)の順で高い。  
 「理想とする住まいがある」は、「女性×就職（新卒）」(39.3%)、「男性×就職（新卒）」(36.4%)、「女性×就職・転職・求職（新卒以外）」(35.8%)の順で高い。

あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

標本：東京圏への転入者



### 3.2.1.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査方法

---

### 3.2.1.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査方法

## 調査方法①

### ■ 調査目的

- 東京圏転入者の地方移住の各意思決定要因プロセス（非関心層⇒関心層⇒検討/計画層）における「移住者の本質的な意見、表面上ではなくインサイトの意見」を抽出し、東京圏転入超過の要因分析（なぜ東京圏に来たのか/なぜ地方に戻らないのか/どうすれば地方に戻るのか）に活用する。具体的には以下の項目を調査することを目的とした。
  - ①東京圏に転入した理由（なぜ東京圏の大学・企業なのか等）
  - ②地方移住を妨げている理由（なぜ地方に戻らないのか）（東京圏へのポジティブ/地方へのネガティブな要素）
  - ③地方移住促進に必要な施策（どうすれば地方に戻るのか/意識が変わるのか）

### ■ 調査方法・時期

- 対面FGI調査（フォーカス・グループ・インタビュー調査）を実施。
- 2020年8月にかけて実査を実施した。具体的な実施スケジュールは下記。

Gr.区分	実施日	実施時間
Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練	2020年8月28日（金）	13:30~15:30
Gr.2 男性×就職（新卒）	2020年8月28日（金）	19:00~21:00
Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外）	2020年8月29日（土）	19:00~21:30
Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練	2020年8月27日（木）	19:00~21:00
Gr.5 女性×就職（新卒）	2020年8月29日（土）	13:30~15:30
Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外）	2020年8月29日（土）	16:15~18:15

### 3.2.1.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査方法

## 調査方法②

### ■ Gr.の区分方法、対象者抽出条件

グループの区分方法		グループ名 (人数)	各G内での対象者抽出条件（アンケート調査結果を利用）			
性別	移住のきっかけ		東京圏への転入のきっかけ		地方への関心	転入当時の本人の意向
男性	進学・教育・職業訓練	Gr.1 (5名)	① 漠然とした東京圏へのあこがれ	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	関心層／非関心層の両方を対象とする	左記の条件を満たしたうえで、可能であれば、下記選択肢の回答バランスを考慮する。 東京圏への移動を望んでいた／東京圏への移動を望んでいなかった／どちらでもなかった
			② 進学先の選択肢・質	進学先の選択肢の豊富さ（量）／希望する進学先の存在（質）／知名度や難易度の高い進学先の存在（質）		
	就職（新卒）	Gr.2 (5名)	① 漠然とした東京圏へのあこがれ	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため		
			② 就職先の選択肢の豊富さ	就職先の選択肢の豊富さ（量）		
			③ やりたい・待遇の良い就職先の存在	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在／待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在／ビジネスのタンスを掴める環境（例：企業、フリーランス、芸術・文化関係）		
	就職・転職・求職（新卒以外）	Gr.3 (5名)	① 漠然とした東京圏へのあこがれ	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため		
			② 就職先の選択肢の豊富さ	就職先の選択肢の豊富さ（量）		
			③ キャリアアップ	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在／待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在／ビジネスのチャンスを掴める環境（例：企業、フリーランス、芸術・文化関係）		
	女性	進学・教育・職業訓練	Gr.4 (5名)	① 漠然とした東京圏へのあこがれ		
② 進学先の選択肢・質				進学先の選択肢の豊富さ（量）／希望する進学先の存在（質）／知名度や難易度の高い進学先の存在（質）		
就職（新卒）		Gr.5 (5名)	① 漠然とした東京圏へのあこがれ	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため		
			② 就職先の選択肢の豊富さ	就職先の選択肢の豊富さ（量）		
			③ やりたい・待遇の良い就職先の存在	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在／待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在／ビジネスのチャンスを掴める環境（例：企業、フリーランス、芸術・文化関係）		
就職・転職・求職（新卒以外）		Gr.6 (5名)	④ 余暇・文化／生活利便性の存在	余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実／生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ		
			① 漠然とした東京圏へのあこがれ	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため		
			② 就職先の選択肢の豊富さ	就職先の選択肢の豊富さ（量）		
③ キャリアアップ		やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在／待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在／ビジネスのチャンスを掴める環境（例：企業、フリーランス、芸術・文化関係）				

## 3.2.1.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査方法

### 調査方法③

#### ■ インタビュー・フロー ※詳細版は別添資料を参照

#### 1. ライフスタイル/転入等移住経験

##### 【現在のライフスタイル】

##### ※生き方への価値観を把握

- ・ 現在の1日の生活パターン
- ・ 現在の生活に満足しているか
- ・ 現在の仕事に満足しているか

##### 【生まれてから今までのライフヒストリー】

##### ※どのような理由で東京圏に来たかを把握し、地方移住しない理由との関連を分析

- ・ 出生以降の移住経験
  - 東京圏移住を意識した理由・きっかけ
  - 東京圏以外の選択肢/決定した理由
  - 東京圏移住は希望していたものか
- ・ 両親やきょうだいの在住地、出身地
- ・ 東京圏移住前後のギャップ/イメージ

#### 2. 移住の意思決定要因と行動実態

##### 【移住を検討する理由】

- ・ 地方移住への関心・検討状況
- ・ 地方移住に関心を持った理由
- ・ 地方移住を検討/計画し始めた理由
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大による意識変化
- ・ 移住についての両親やきょうだいの意向

##### 【地方移住に向けた行動実態】

- ・ 移住先について、どの程度検討しているか
- ・ (候補がある場合) 移住先との関わり
- ・ どのように情報収集をしているか

#### 3. 移住を妨げている要素と移住促進に向けた支援策ニーズ

##### 【移住を妨げている要素】

##### ※なぜ地方に戻らないのかを東京圏へのポジティブ/地方へのネガティブの両面から深堀

- ・ なぜ移住をしないのか、地元に戻らないのか
- ・ 地元に戻るのが嫌な場合、地元以外の地方をどう思うか
- ・ 東京圏の生活のどのような点が気に入っているのか
- ・ 地方への移住に関心が湧かない理由/不安に感じていること
- ・ 女性の生き方に対する地域独特の偏見があるイメージがあるか
- ・ 地方移住に踏み切れない理由
- ・ 意思決定プロセスごとの意識の違いと要因

##### 【移住促進に必要な支援策ニーズ】

##### ※どうすれば地方に戻るのかを深堀

- ・ 地方移住促進に必要な情報のニーズ
- ・ 地方移住促進に必要な国・地方公共団体の支援策のニーズ

#### 4. 理想とする移住後の生活

##### 【理想とする移住後の生活】

- ・ 「理想の移住先」とその条件
- ・ 「理想の移住先」でどのような生活をしたいか
- ・ 「理想の移住先」での仕事や働き方についてどのようにイメージしているか

## 3.2.2.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

---

### 3.2.2.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

## Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練

		A	B	C	D	E
性別		男性	男性	男性	男性	男性
年齢		22歳	29歳	36歳	22歳	21歳
居住都道府県		東京都	東京都	東京都	東京都	東京都
居住地域FA（市区町村名）		杉並区	多摩市	中野区	豊島区	中央区
未既婚		未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		大学4年生	正社員IT関連・SE	アルバイトイベント会社・現場運営	大学4年生	大学3年生／アルバイト（飲食業・接客）
同居家族		一人暮らし	パートナー（29）	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		大阪府	静岡県	静岡県	群馬県	愛知県
地方→東京	移住年齢	18歳	18歳	34歳	18歳	19歳
	移住年度	2017年	2017年	2018年	2017年	2018年
	移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在（質）	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在（質）
地方で暮らすことに関心があるか		関心がある	やや関心がある	関心がない	どちらでもない	やや関心がある
東京転入当時、移動を望んでいたか		移動を望んでいなかった	移動を望んでいた	移動を望んでいた	移動を望んでいた	移動を望んでいた
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		元々東京圏での人混みだらけの生活に生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと、レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと、生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する	希望する仕事がある、地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する	希望する仕事がある、地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する	希望する仕事がある、地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する	地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する

※各Grの詳細発言録については、別添参考資料を参照。

### 3.2.2.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

## Gr.2 男性×就職（新卒）

		A	B	C	D	E
性別		男性	男性	男性	男性	男性
年齢		32歳	27歳	25歳	23歳	29歳
居住都道府県		東京都	埼玉県	埼玉県	埼玉県	千葉県
居住地域FA（市区町村名）		台東区	さいたま市浦和区	さいたま市中央区	吉川市	船橋市
未既婚		既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		正職員 官公庁・事務	アルバイト 医療業・放射線技師	正社員 薬品製造業・開発	正社員 化粧品日用品製造業・貿易事務	正社員 商社・営業
同居家族		妻（35）	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		茨城県	愛知県	富山県	群馬県	兵庫県
地方→東京	移住年齢	22歳	23歳	24歳	21歳	23歳
	移住年度	2011年	2015年	2020年	2019年	2015年
	移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	就職先の選択肢の豊富さ（数）
地方で暮らすことに興味があるか		やや興味がある	あまり興味がない	やや興味がある	興味がある	やや興味がある
東京転入当時、移動を望んでいたか		東京圏への移動を望んでいた	東京圏への移動を望んでいた	どちらでもなかった	東京圏への移動を望んでいなかった	東京圏への移動を望んでいなかった
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		求めている業種・職種の働き口が見つからないこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと	生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	今の職場の支店がないから
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		希望する仕事がある	自分が価値ある人間になって、地方に行っても他から認めてもらえる社会的実力がついたら	希望する仕事がある、納得できる給与水準の仕事がある	リモートワークやサテライトオフィス、オンライン授業等の環境が充実して、仕事や学業先を変えずに居住地だけ移すことができる	希望する仕事がある

### 3.2.2.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

## Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外）

		A	B	C	D	E
性別		男性	男性	男性	男性	男性
年齢		37歳	34歳	35歳	25歳	25歳
居住都道府県		東京都	神奈川県	埼玉県	東京都	東京都
居住地域FA（市区町村名）		足立区	大和市	越谷市	世田谷区	中野区
未既婚		未婚	未婚	既婚	未婚	未婚
本人職業		契約社員 通信業・エンジニア	派遣 運送業・作業員	正社員 サービス業・介護リハビリ	正社員 IT情報通信業・システム開発	正社員 IT情報処理サービス業・研究
同居家族		一人暮らし	一人暮らし	妻（29）、長男（6）	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		大阪府	愛知県	大阪府	山形県	熊本県
地方→東京	移住年齢	37歳	31歳	26歳	22歳	24歳
	移住年度	2020年	2016年	2013年	2017年	2019年
	移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	就職先の選択肢の豊富さ（数）
地方で暮らすことに関心があるか		やや関心がある	やや関心がある	やや関心がある	関心がある	どちらでもない
東京転入当時、移動を望んでいたか		移動を望んでいた	移動を望んでいた	移動を望んでいなかった	移動を望んでいた	移動を望んでいた
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		現在と比べ賃金が安くなってしまうこと	生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	移住先の人間関係や文化・風習に関する不安があること、子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に不安があること、医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと、現在と比べ賃金が安くなってしまうこと、生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		その他：時間と蓄えの余裕がある	希望する仕事がある、地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する	地方の子育て環境（保育、教育、子育て支援など）が充実する、希望する仕事がある	希望する仕事がある、地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する	希望する仕事がある

### 3.2.2.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

## Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練

		A	B	C	D	E
性別		女性	女性	女性	女性	女性
年齢		24歳	28歳	28歳	28歳	28歳
居住都道府県		東京都	東京都	東京都	東京都	東京都
居住地域FA（市区町村名）		新宿区	葛飾区	文京区	文京区	大田区
未既婚		未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		正社員 不動産業・事務	正社員 IT業・事務	正社員 教育業・事務	正職員 官公庁・事務	正社員 運送業・営業企画
同居家族		恋人（24）	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		愛媛県	茨城県	山口県	福岡県	長野県
地方→東京	移住年齢	23歳	18歳	18歳	20歳	26歳
	移住年度	2019年	2010年	2011年	2012年	2018年
	移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在（質）	希望する進学先の存在（質）	進学先の選択肢の豊富さ（量）
地方で暮らすことに関心があるか		どちらでもない	どちらでもない	やや関心がある	やや関心がある	やや関心がある
東京転入当時、移動を望んでいたか		移動を望んでいた	移動を望んでいた	移動を望んでいた	移動を望んでいなかった	移動を望んでいなかった
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		求めている業種・職種の働き口が見つからないこと	生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		希望する仕事がある	地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する、地方の医療・介護環境（医療機関、介護施設など）が充実する	希望する仕事がある、納得できる給与水準の仕事がある、テレワークができる	希望する仕事がある、理想とする住まいがある、実家との距離	希望する仕事がある、納得できる給与水準の仕事がある、テレワークができる

※各Grの詳細発言録については、別添参考資料を参照。

### 3.2.2.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

## Gr.5 女性×就職（新卒）

		A	B	C	D	E
性別		女性	女性	女性	女性	女性
年齢		30歳	30歳	25歳	24歳	26歳
居住都道府県		神奈川県	東京都	東京都	神奈川県	東京都
居住地域FA（市区町村名）		横浜市鶴見区	大田区	荒川区	川崎市中原区	江東区
未既婚		既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		専業主婦	正社員 医薬品製造業・研究	正社員 人材紹介サービス業・営業事務	正社員 保育園・看護師	正社員 鉄鋼業・一般事務
同居家族		夫（30）	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		宮城県	長崎県	北海道	北海道	奈良県
地方→東京	移住年齢	23歳	29歳	23歳	21歳	22歳
	移住年度	2013年	2019年	2019年	2018年	2017年
	移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実	生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ
地方で暮らすことに関心があるか		どちらでもない	あまり関心がない	あまり関心がない	どちらでもない	やや関心がある
東京転入当時、移動を望んでいたか		移動を望んでいた	どちらでもなかった	東京圏への移動を望んでいた	移動を望んでいた	東京圏への移動を望んでいなかった
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと、賃金が安い、交通の便が悪い	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと、現在と比べ賃金が安くなってしまふこと、生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	希望する仕事がある、納得できる給与水準の仕事がある、交通の便が良い	希望する仕事がある、納得できる給与水準の仕事がある、地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する	地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する	地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する、希望する仕事がある

※各Grの詳細発言録については、別添参考資料を参照。

### 3.2.2.東京圏在住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

## Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外）

		A	B	C	D	E
性別		女性	女性	女性	女性	女性
年齢		27歳	29歳	30歳	27歳	35歳
居住都道府県		東京都	神奈川県	神奈川県	東京都	東京都
居住地域FA（市区町村名）		中野区	横浜市神奈川区	藤沢市	葛飾区	板橋区
未既婚		既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		契約社員 決済関連のサービス業・営業	派遣社員 福祉サービス業・保育士	正社員 機械製造業・設計	契約社員 旅行業・事務	正社員 ITサービス業・パッケージ導入
同居家族		夫（30）	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		岩手県	茨城県	静岡県	北海道	奈良県
地方→東京	移住年齢	25歳	26歳	28歳	26歳	34歳
	移住年度	2018年	2016年	2018年	2019年	2019年
	移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）
地方で暮らすことに興味があるか		あまり関心がない	やや関心がある	どちらでもない	やや関心がある	やや関心がある
東京転入当時、移動を望んでいたか		東京圏への移動を望んでいた	東京圏への移動を望んでいた	どちらでもなかった	東京圏への移動を望んでいた	どちらでもなかった
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		求めている業種・職種の働き口が見つからないこと、生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと、求めている業種・職種の働き口が見つからないこと	生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと	生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと、その他（自然が多いので、爬虫類などの虫が出るのが苦手）	求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
地方移住を妨げている理由、不安要素、関心を持ってない理由		希望する仕事がある、地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する	地方の子育て環境（保育、教育、子育て支援など）が充実する	希望する仕事がある	地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する	希望する仕事がある、地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する

※各Grの詳細発言録については、別添参考資料を参照。

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要 \_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

---

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_全体の概要まとめ

性別	東京圏に転入したきっかけ	東京圏に転入した理由	地方への移動を妨げる要因	地方への移動に必要な条件	地方暮らしに関心を持った魅力
	進学・教育・職業訓練 (Gr.1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「希望する進学先の存在(質)」や「進学先の選択肢の豊富さ(量)」等の<b>進学先の質・量を理由とした転入者が全体の5~6割を占め、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」を理由とした転入者も3割程度存在する</b>。その他の理由を選択した者は全体と比べて非常に少ない。</li> <li>「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、漠然と余暇を楽しむことを期待して東京に来ていた。</li> <li>「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、魅力的な進学先が地元にはなく東京にあったことに加え、一度は東京に出てみたいという憧れもあり転入を意識していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「求めている業種・職種の仕事口が見つからないこと」が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」、「生活利便性(買い物、交通利便性など)が低いこと」と続く。</li> <li>「<b>移住先の人間関係や文化・風習に関する不安があること</b>」が他Gr.と比べて高い。</li> <li>「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、地方のコミュニティの広げにくさから、コミュニティを広げるには東京が良いと感じていた。</li> <li>「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、趣味・雇用の少なさと知り合いが少ないことに不安を感じていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「希望する仕事がある」が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」、「理想とする住まいがある」と続く。</li> <li>「<b>どのような条件が揃っても地方で暮らすことに関心がない</b>」と回答した者が全体の1.2倍いることが特徴的であるが、その他移住条件は全体の傾向と近い。</li> <li>「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、情報が足りないと感じていた。</li> <li>「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、都会との機会の格差が無くなれば地方移住を検討する様子だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「山・川・海などの自然にあふれた環境」が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」、「生活コスト(物価、家賃等)が安価であること」と続く。</li> <li>「余暇・文化(レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など)を楽しむ場所・機会の充実」、「地域社会や人間関係」、「リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方」等が他Gr.と比べて高い。</li> </ul>
男性	就職(新卒) (Gr.2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「就職先の選択肢の豊富さ(数)」、「やりがいのある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在(質)」、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在(質)」等の<b>就職先の質・量を理由とした転入者が全体の6割超を占め、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」を理由とした転入者も2割超存在する</b>。その他の理由を選択した者は全体と比べて非常に少ない。</li> <li>「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、華やかで自由な生活にあこがれ、「就職先の選択肢・質」を理由に転入した層は、働き口の多さから転入を意識した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「求めている業種・職種の仕事口が見つからないこと」が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」、「転居に必要なコストが大きいこと」、「生活利便性(買い物、交通利便性など)が低いこと」と続く。</li> <li>「<b>求めている業種・職種の仕事口が見つからないこと</b>」、「<b>現在と比べ賃金が安くなってしまうこと</b>」、「<b>転居に必要なコストが大きいこと</b>」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>いずれの層も、仕事を辞めるタイミングではないことや、お金がかかることをイメージし、移住への関心が沸かない。</li> <li>また、いずれの層も、給与面での不安や新しいコミュニティ参加、車や持ち家が必須のイメージから出費が多くなることに不安を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「希望する仕事がある」、「納得できる給与水準の仕事がある」、「理想とする住まいがある」と続く。</li> <li>「<b>納得できる給与水準の仕事がある</b>」、「<b>移住に必要なコストへの支援制度がある</b>」、「<b>希望する仕事がある</b>」、「<b>理想とする住まいがある</b>」、「<b>リモートワークやサテライトオフィス、オンライン授業等の環境が充実して、仕事や学業先を変えずに居住地だけ移すことができる</b>。」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、完全在宅など仕事ができる環境が整ったら、「漠然とした憧れ」を理由に転入した層は将来性を感じることができる地方であれば検討したいと考えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「山・川・海などの自然にあふれた環境」が最も高く、「生活コスト(物価、家賃等)が安価であること」、「空間的・時間的に余裕のある生活」と続く。</li> <li>他Gr.より顕著に高い傾向を示す回答はない。</li> <li>一方で、「リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方」は他Gr.と比べ相対的に低い。</li> </ul>
	就職・転職・求職(新卒以外) (Gr.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「就職先の選択肢の豊富さ(数)」、「やりがいのある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在(質)」、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在(質)」等の<b>就職先の質・量を理由とした転入者が全体の6割超を占め、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」を理由とした転入者も2割超存在する</b>。その他の理由を選択した者は全体と比べて非常に少ない。</li> <li>「就職先の選択肢・質」を理由に転入した層は、給与面によりよい条件を求めている。</li> <li>「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、地方では転職先が限られたことから、選択肢の多い東京圏を意識した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「求めている業種・職種の仕事口が見つからないこと」が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」、「転居に必要なコストが大きいこと」、「生活利便性(買い物、交通利便性など)が低いこと」と続く。</li> <li>「<b>不安要素や阻害要因は特にならないが最も高いこと</b>」が特徴的である。また、「<b>医療・介護環境(医療機関、介護施設など)に不安があること</b>」、「<b>現在と比べ賃金が安くなってしまうこと</b>」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>一方で、「同居するパートナー・家族・親族の都合(仕事、介護等)で東京圏を離れにくいこと」や「レジャー・娯楽、スポーツ、文化・芸術施設が少ないこと」は他Gr.と比べて低い。</li> <li>いずれの層も「今は移住する理由が特段ない」と考えている。また、「<b>車社会であること</b>」と「<b>地域コミュニティへの参加</b>」について不安を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「希望する仕事がある」が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」、「理想とする住まいがある」、「地方の生活利便性(買い物、交通利便性など)が充実する」と続く。</li> <li>「<b>どのような条件が揃っても地方で暮らすことに関心はない</b>」が最も高く、「希望する仕事がある」と続き、その他は他Gr.と比べて低い。</li> <li>特に、「地方の子育て環境(保育、教育、子育て支援など)が充実する」、「地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する」等は顕著に低い。</li> <li>いずれの層も、「<b>仕事が無くなった</b>」または「<b>まとまったお金が手に入ったら</b>」など消極的な条件を挙げた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「空間的・時間的に余裕のある生活」が最も高く、「山・川・海などの自然にあふれた環境」、「生活コスト(物価、家賃等)が安価であること」と続く。</li> <li>「<b>リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方</b>」、「<b>余暇・文化(レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など)を楽しむ場所・機会の充実</b>」、「<b>空間的・時間的に余裕のある生活</b>」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>一方で、「<b>子育て環境(保育、教育、子育て支援など)の良さ</b>」、「<b>生活利便性(買い物、交通利便性など)が高いこと</b>」は他Gr.と比べて低い。</li> </ul>

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_全体の概要まとめ

性別	東京圏に転入したきっかけ	東京圏に転入した理由	地方への移動を妨げる要因	地方への移動に必要な条件	地方暮らしに関心を持った魅力
	進学・教育・職業訓練 (Gr.4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「希望する進学先の存在 (質)」や「進学先の選択肢の豊富さ (量)」を理由とした転入者が全体と比べ顕著に多い一方で、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」を理由とした転入者は全体の傾向と同じく一定程度存在。</li> <li>● 「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、余暇重視でどこにでも遊びに行けそうという考えから東京に来ることを意識していた。</li> <li>● 「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、偏差値が高い学校が都市部に限られることもあり、行きたい大学を選択、また将来の就職のことも考えて結果的に東京に転入したという形だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」が最も高く、「生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が低いこと、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」と続く。</li> <li>■ 「移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと」、「レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと」、「生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が低いこと」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>● 「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、現状の東京圏での生活に満足しており地方移住への関心が湧いていない。</li> <li>● 「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、興味はあるものの仕事や進学の見込みの少なさをデメリットと感じていた。</li> <li>● いずれの層も地方独特のコミュニティへの不安と、仕事があるのかという不安がみられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「希望する仕事がある」が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」、「理想とする住まいがある」と続く。</li> <li>■ 「地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する」、「どのような条件が揃っても地方で暮らすことに関心はない」、「希望する仕事がある」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>■ 一方で、「移住先のメリット、デメリット、移住事例の情報」が充実して具体的な生活イメージが湧く、「地方の子育て環境 (保育、教育、子育て支援など)」が充実するは他Gr.と比べて低い。</li> <li>● いずれの層も「施設の多さやアクセスの良さの面」で、ある程度都会であることと条件としていた。</li> <li>● いずれの層からも地域コミュニティを心配する声が上がっており、そのために移住者が多い地域を知りたいという支援策を希望していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「空間的・時間的に余裕のある生活」が最も高く、「山・川・海などの自然にあふれた環境」、「生活コスト (物価、家賃等)」が安価であることと続く。</li> <li>■ 「子育て環境 (保育、教育、子育て支援など) の良さ」、「空間的・時間的に余裕のある生活」、「地域社会や人間関係」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>■ 一方で、「生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が高いこと、「余暇・文化 (レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など)」を楽しむ場所・機会の充実」等は他Gr.と比べて低い。</li> </ul>
女性	就職 (新卒) (Gr.5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「就職先の選択肢の豊富さ (数)」、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」、「ビジネスのチャンスをつかめる環境 (例：企業、フリースタイル、芸術・文化関係)」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>■ 一方で、「希望する進学先の存在 (質)」、「進学先の選択肢の豊富さ (量)」、「東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため」は顕著に低い。</li> <li>● 「就職先の選択肢・質」を理由に転入した層は知識を活かせる場として、「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、地元に戻らないために東京圏を意識した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」、「生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が低いことと続く。</li> <li>■ 「移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと」、「医療・介護環境 (医療機関、介護施設など)」に不安があること、「生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が低いこと」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>● いずれの層も、未婚で新しい場所での生活を始めるイメージができないうえ、関心が湧かない。</li> <li>● いずれの層も、地方のコミュニティの狭さを最大の不安要素として挙げた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「希望する仕事がある」が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」、「理想とする住まいがある」と続く。</li> <li>■ 「リモートワークやサテライトオフィス、オンライン授業等の環境」が充実して、仕事や学業先を変えずに居住地だけ移すことができる、「理想とする住まいがある」、「希望する仕事がある」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>● いずれの層も、女性が地方に移住する場合、仕事やパートナーの事情などの理由が必要と考えていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「生活コスト (物価、家賃等)」が安価であること」が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」、「山・川・海などの自然にあふれた環境」と続く。</li> <li>■ 「生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が高いこと、「空間的・時間的に余裕のある生活」、「生活コスト (物価、家賃等)」が安価であること、「リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>■ 一方で、「地域界や人間関係」、「山・川・海などの自然にあふれた環境」、「余暇・文化 (レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など)」を楽しむ場所・機会の充実」等は他Gr.と比べて低い。</li> </ul>
	就職・転職・求職 (新卒以外) (Gr.6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在 (質)」、「就職先の選択肢の豊富さ (数)」、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>■ 一方で、「希望する進学先の存在 (質)」、「進学先の選択肢の豊富さ (量)」等の進学先関係の回答や、「生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ」、「東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため」は顕著に低い。</li> <li>● 「スキルアップ」を理由に転入した層は、たまたま東京になっただけで、場所はどこでもよかったという意識。</li> <li>● 「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、希望する職業訓練を受けられる場所として東京圏がすぐに出てきたことを挙げた。</li> <li>● 「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、地元から遠すぎない帰省しやすい距離を考えて東京圏に決定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」、「生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が低いことと続く。</li> <li>■ 「レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと」、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」、「生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が低いこと、「移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>■ 一方で、「医療・介護環境 (医療機関、介護施設など)」に不安があること、「不安要素や阻害要因は特になし」は他Gr.と比べて低い。</li> <li>● いずれの層も、地方移住を相当な田舎暮らしと考えてしまい、不安を感じている様子がみられた。</li> <li>● 「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、友人との交流減少や車社会が不安要素。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「納得できる給与水準の仕事がある」が最も高く、「希望する仕事がある」、「地方の生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が充実する」と続く。</li> <li>■ 「地方の生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が充実する、「地方の子育て環境 (保育、教育、子育て支援など)」が充実する、「地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>■ また、「どのような条件が揃っても地方で暮らすことに関心はない」は他Gr.と比べて1.3倍程度高い。</li> <li>● 「スキルアップ」を理由に転入した層は、自分がしたい仕事ができるなら場所にはこだわらない。</li> <li>● その他の層は、親の介護や夫の転勤や出産などキッカケがなければ検討は難しいと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「山・川・海などの自然にあふれた環境」が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」、「生活コスト (物価、家賃等)」が安価であることと続く。</li> <li>■ 「生活利便性 (買い物、交通利便性など)」が高いこと、「地域社会や人間関係」、「山・川・海などの自然にあふれた環境」等が他Gr.と比べて高い。</li> <li>● 一方で、「余暇・文化 (レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など)」を楽しむ場所・機会の充実、「リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方」等は他Gr.と比べて低い。</li> </ul>

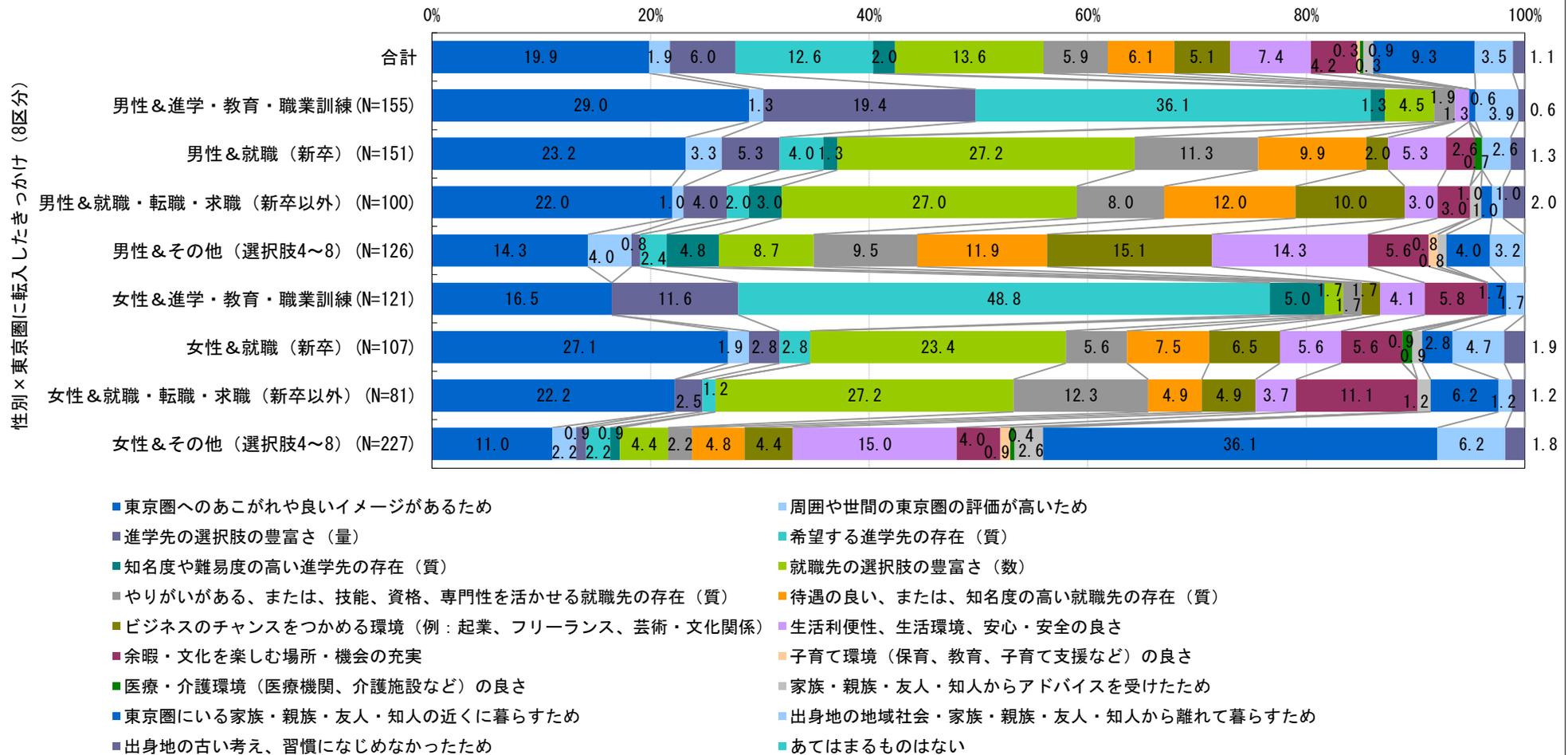
■ : 定量 (アンケート) 調査結果 ● : 定性 (FGI) 調査結果

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_①東京圏に転入した理由

### ■ アンケート調査結果 (100%棒グラフ)

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA\_MATRIX]・1位



※全体標本 (合計) は、東京圏転入者の平均を集計 (生まれよりの東京圏在住者は除外)

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_パーソナ別の調査結果概要\_パーソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各パーソナの概要一覧\_①東京圏に転入した理由

### ■ アンケート調査結果 (東京圏転入者全体の単純集計値=1.00とした相対指数)

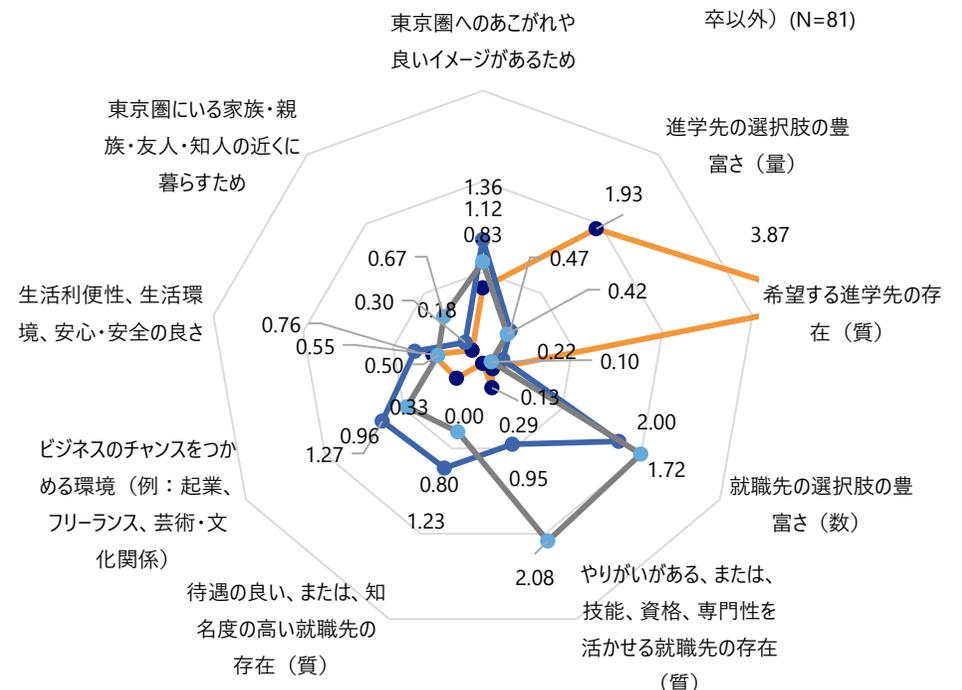
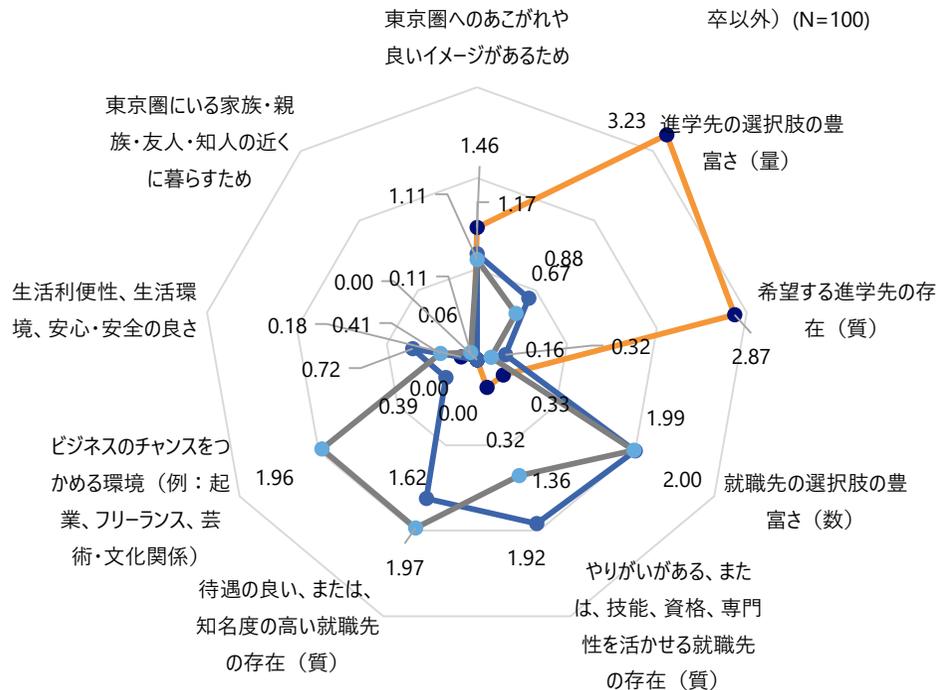
あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA\_MATRIX]・1位

男性×進学・教育・職業訓練、就職 (新卒)、  
就職・転職・求職 (新卒以外)  
指数：単純集計値 = 1.00

● 男性 & 進学・教育・職業訓練 (N=155)  
● 男性 & 就職 (新卒) (N=151)  
● 男性 & 就職・転職・求職 (新卒以外) (N=100)

女性×進学・教育・職業訓練、就職 (新卒)、  
就職・転職・求職 (新卒以外)  
指数：単純集計値 = 1.00

● 女性 & 進学・教育・職業訓練 (N=121)  
● 女性 & 就職 (新卒) (N=107)  
● 女性 & 就職・転職・求職 (新卒以外) (N=81)



※単純集計値は、東京圏転入者の全体集計 (生まれよりの東京圏在住者は除外)

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：5%超の選択肢について分析

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_①東京圏に転入した理由

### ■ FGI調査結果 (各ペルソナで抽出された定性的コメント)

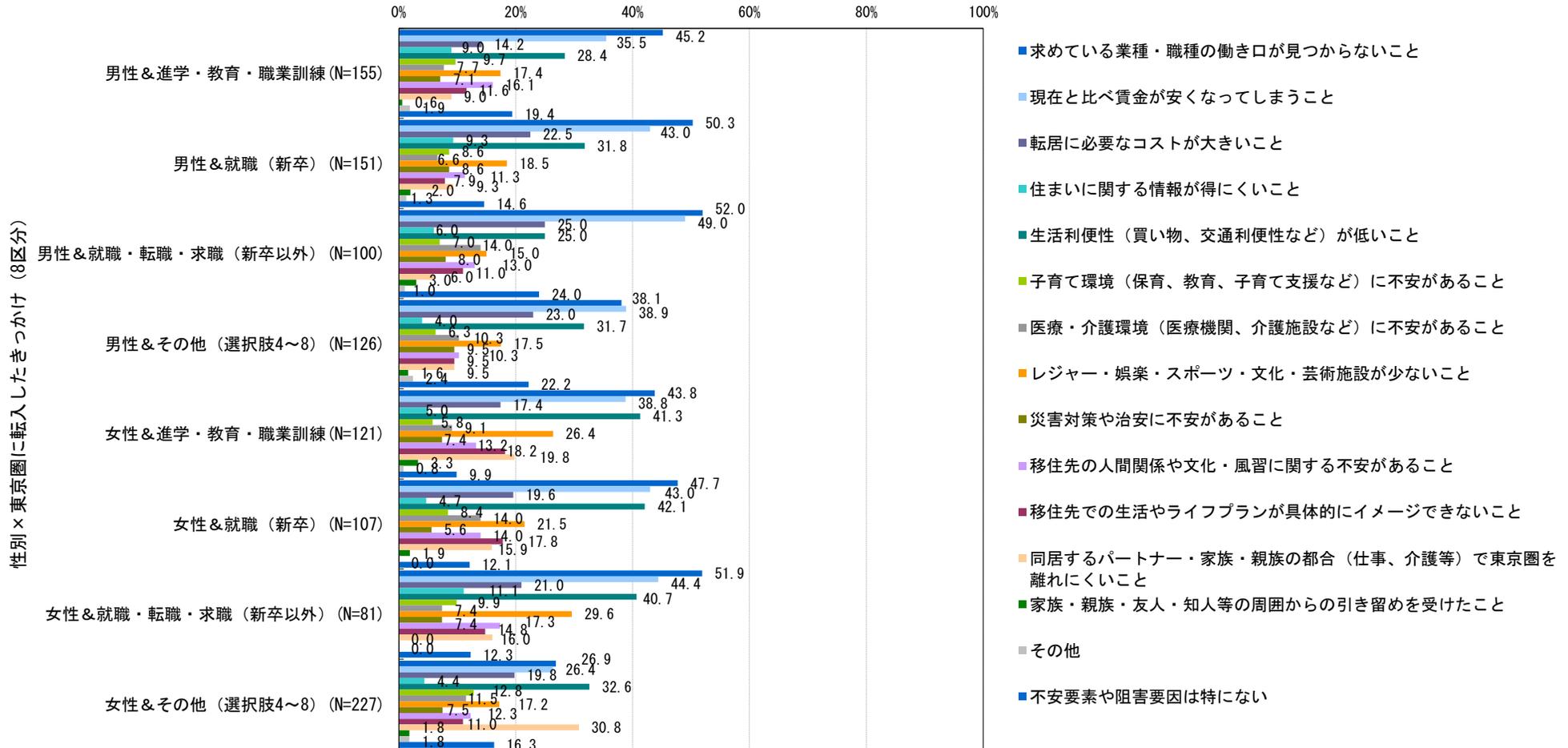
	進学・教育・職業訓練	就職 (新卒)	就職・転職・求職 (新卒以外)
男性	<ul style="list-style-type: none"> <li>田舎だったので、周りも東京や福岡に進学していたし、<a href="#">東京は憧れがあって、ちょっと遊びたいな、みたいな感じで選んだ。</a> (A:あこがれ系)</li> <li>関西で大学に行く予定だったが、それがうまくいかなくて、浪人してもう1年頑張るか、東京の大学に行くかを考えて、自分が大学4年生のときに東京オリンピックが決まっていたので、経済が盛り上がりつつあるだろうと思ひ、自分の目で見てみたかった。 (A:あこがれ系)</li> <li><a href="#">地元には魅力的な進学先がなかった。</a>当時、地球環境に興味があった、その辺りの学問をやられているところがいくつかあって、それが東京圏だった。 (B:進学先・質)</li> <li>キラキラした東京の感じとか、<a href="#">どこに行っても遊べる憧れみたいなものもあって、行きたい大学もこっちに偏っていたので、こっちに決めた。</a>東京に決めて、親からもいいよと言われていたので他の地方は考えなかった。 (E:進学先・質)</li> <li><a href="#">父親が東京で仕事をすることが多く、姉も進学で東京に来ていて、その影響がだいぶある。先輩も東京に行った人が多かったので、そこで話も聞いていたし、周りも受験がほぼ東京だった。</a>先輩からは、人が多いからいろんな人と接することができてコミュニティも広がるのでいろんな話が聞けると聞いていて将来の役に立ちそうだと思った。 (E:進学先・質)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">大学の友人がみんな都内の会社に就職すると言うので、流れでという感じ。</a>もともと東京の華やかさに憧れはあった。茨城は本当に田舎なので華やかな所で暮らしてみたいというのはあった。一人暮らしにも憧れた。 (A:あこがれ系)</li> <li>ずっと富山の方で働こうと思っていたのだが、資格を持っていても特段給与面でプラスがなかった。<a href="#">東京は公務員じゃなくて資格が活かせる働き口がいっぱいあった。</a> (C:就職先・質)</li> <li>就職は東京以外全く考えていなかった。<a href="#">全国転勤がある仕事はイヤだった。</a>見知らぬ土地に行くのは好きなのだが、そこに住むのはあまり好きじゃない。旅行とかで行くのは好きなのだがそこに定住するのはあまりイメージできない。ずっと住んでいる関東圏内にい続けた。 (A:あこがれ系)</li> <li>北海道も結構いいところだったので、そのまま住み続けるのもアリかなと思ったのだが、<a href="#">10年後とかを考えたときに、道内の辺鄙な東の釧路とか旭川では札幌から遠く交通が不便なので、現実的じゃないかな</a>と思った。 (C:就職先・質)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職してからしばらくは大阪にいて、3~4年ぐらい働いて、<a href="#">首都圏の方が給料とか待遇がいいし勉強になるかな</a>と思って出てきた。 (C:就職先・質)</li> <li><a href="#">目指している職種の中での仙台では選択肢が少なく、比べると条件も首都圏の方が良かった。</a>給料とか年間休日うんぬんが。 (D:就職先・数)</li> <li><a href="#">2~3年間は熊本で働いていたのだが、あまりスキルが身に付かない。</a>例えばデータ入力はただ打っただけなので、今後に活かしにくい。<a href="#">幅の広さを考えると、東京だったらいろいろあるのかな</a>と思った。 (E:就職先・数)</li> <li>もともと<a href="#">人や建物が多いので募集が間違いなく多い。</a>あと車の免許がないのだが、<a href="#">熊本は免許必須だったりするので困る。</a>東京ではそういうことはあまりないと思う。 (E:就職先・数)</li> <li><a href="#">大学時代の友達か帰ってこないの、そんなにいいのかな、1回住んでみようかなという感じ。</a>それだけ帰ってこないなら何か東京に魅力があるのだから1回来てみようかなと思った。 (A:あこがれ系)</li> <li><a href="#">携われるプロジェクトの規模感や得られるものが全然違うと思う。</a>まずはそのための力をつける段階かなと考えている。 (D:就職先・数、関心層)</li> </ul>
女性	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校の友達は<a href="#">地元に残っている人が多く、皆と同じなのがイヤで東京に出てきた。</a>18で専門学校に出て来たのだが、東京がいいなという感じで東京に来て、茨城に帰りたいとは思ってなくて、実家にも帰らなくていいやという感じ。 (B:あこがれ系)</li> <li><a href="#">目指していた大学が東京にあるのと、情報も近いほうが集まるし、その大学向けのクラスがきちんとあるので効率よく目指すところに入れるかな</a>と思ったから。 (C:進学先・質)</li> <li>東京なら何かしらできるって思った。どこにでも遊びに行けるし、<a href="#">音楽が好きでライブが好きだったので、東京に来たらライブハウスにたくさん行ける</a>という、浅はかな考え。 (B:あこがれ系)</li> <li>高2のときに京都の志望校のオープンキャンパスに行ったらちょっと思っていたものと違い、それまで頑張っていたのでレベルは落とさたくないのどこかと考えた東京だなと思った。それと、<a href="#">当時マスコミ関係に就職したいと思ったこともあって、テレビとか出版とかエンタメ系などの制作の方に興味があったから、それなら東京だな</a>と思った。 (C:進学先・質)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">博士課程まで行って、それを活かせるメーカーの研究とかになると、東京圏に出て来るか、地方の研究所に行くかどっちかだが、地元長崎県にはなかった。</a> (B:就職先・質)</li> <li>1回親元を離れてみて、すごく離れて良かったなという面が多かった。 (A:あこがれ系)</li> <li><a href="#">若いうちに東京で遊んでおきたい</a>気持ちはもちろんあった。 (C:就職先・数)</li> <li><a href="#">川崎とか都会にある会社は割とグローバルなイメージ。</a>空港からも近いし、いろんな会社からのアクセスがいいというところで、広がっているイメージなのだが、長崎にある会社だとあまりグローバルじゃないからあまり行きたくないと思わなかったかもしれない。 (B:就職先・質)</li> <li><a href="#">優秀な人と一緒に働きたい。自分の経験を積むには東京に優秀な人が集まっているというイメージ。</a>あとは<a href="#">大きい企業とか、グローバルな、企業的地位が高い会社もやっぱり東京に集まっているイメージ。</a> (C:就職先・数)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転職をしようと思ったときに、LinkedInとかで<a href="#">声をかけてもらった企業がたまたま東京だったので、また東京に出て来た。</a> (E:スキルアップ)</li> <li>全国どこでも良く探したのだが、<a href="#">ペーパードライバーだったので、本当に田舎で車が必要というところは避けて</a>電車が通っているところというのでこちらに来た。 (C:スキルアップ)</li> <li>学生の頃から<a href="#">旅行業界に入りたい</a>と思っていた。札幌でお金を貯めて、<a href="#">職業訓練校を探したら、東京で「旅行科」がすぐに出て来た。</a> (D:就職先・数)</li> <li>旅行が好きなのだが、<a href="#">どこに行くにも東京が1番パスも飛行機も交通量があるので、そういう意味でアクセスがいいな</a>と思って東京を選んだ。 (A:あこがれ系)</li> <li>もともとミーハー心でなんとなく東京に憧れがあった。<a href="#">テレビで見えるようなおしゃれな店もいっぱいあるし、芸能人が歩いていそうな、そういうキラキラしているイメージ</a>があって、いつか住んでみたいなと思っていた。 (D:就職先・数)</li> </ul>

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_①地方への移動を妨げる要因

### ■ アンケート調査結果 (100%棒グラフ)

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。[MA]



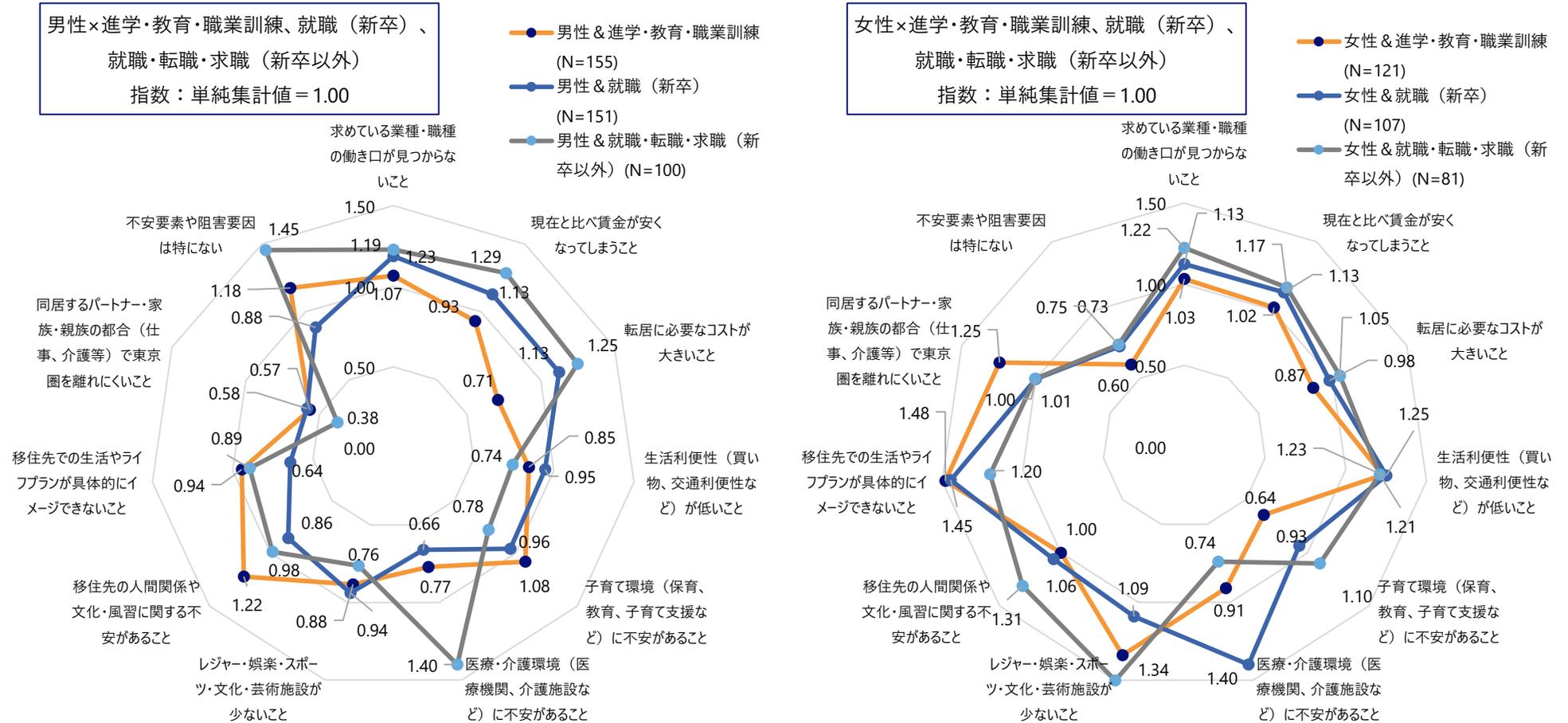
※全体標本(合計)は、東京圏転入者の平均を集計(生まれよりの東京圏在住者は除外)

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_パーソナ別の調査結果概要\_パーソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各パーソナの概要一覧\_②地方への移動を妨げる要因

### ■ アンケート調査結果 (東京圏転入者全体の単純集計値=1.00とした相対指数)

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。[MA]



※単純集計値は、東京圏転入者の全体集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：8%超の選択肢について分析

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_パーソナ別の調査結果概要\_パーソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各パーソナの概要一覧\_②地方への移動を妨げる要因

### ■ FGI調査結果 (各パーソナで抽出された定性的コメント)

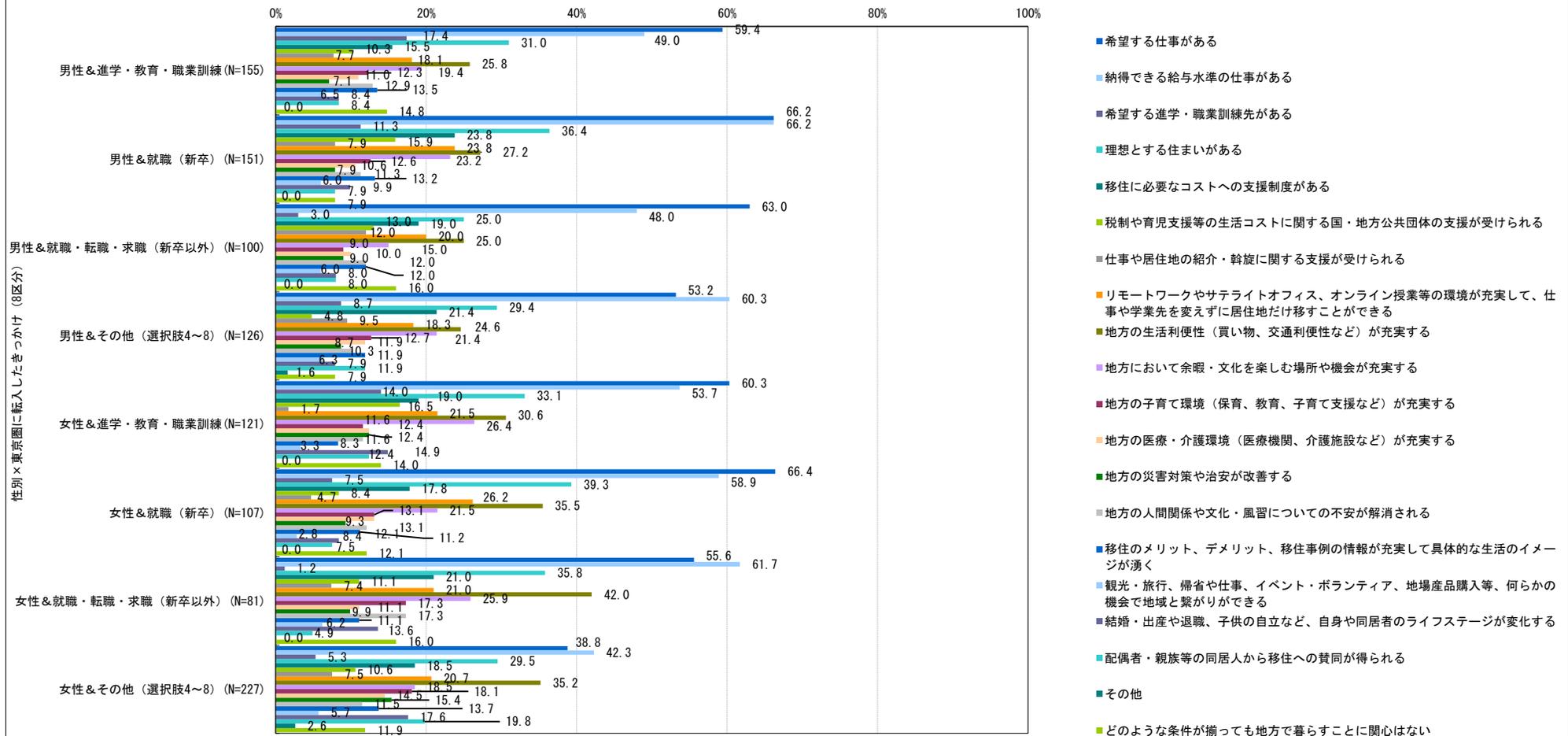
	進学・教育・職業訓練	就職 (新卒)	就職・転職・求職 (新卒以外)
男性	<ul style="list-style-type: none"> <li>10年くらいは東京にいたい。若いときは東京で走り抜けたと思っている。<u>地方に移り住めるだけの仕事を、今つけたい</u>と思う。(A:関心層、あこがれ系)</li> <li><u>ここで暮らすことに困っていない</u>。遊びに行くにしても、どこでも行って、自分は飽きやすいので、いろんなところに行けるのはありかなと思う。<u>地方に行きたい欲求は旅行で済む</u>。京都に行きたいとしても、何泊かすれば満たされる。憧れの場所に住むと憧れの場所ではなくなって特別感がなくなる。(E:関心層、進学先・質)</li> <li>仕事はもちろんだが<u>東京でいろんなコミュニティを広げたい</u>。東京は、いろんな多様な働き方をしている人がいるので、そういう方と出会って、自分の中に多様性を持っていきたい。<u>地方は東京よりも簡単に人間関係を作り上げるのが難しい</u>と思うので。流動性がないと感じる。(A:関心層、あこがれ系)</li> <li>1つは<u>趣味、雇用を提供するところが少ない</u>のが懸念される。東京圏は趣味も雇用も選べる選択肢が多い。2つ目は<u>初めて行くところだと、知り合いも少ないし、助けになる人が誰もいないと心配</u>という部分がある。地方は知り合いがないので、集まりたいときに集まらないし、コミュニティも作りにくい。(B:関心層、進学先・質)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>仕事を辞めたら考える。同じくらい好きになれる仕事があれば別の場所にあれば考える</u>。(D:就職先・数、関心層)</li> <li><u>ある程度栄えているところに住みたいので、富山であれば(地元ではなく)県庁所在地の富山市になると思う。そうなると実家を離れてしまい土地とかもないし、そういう意味じゃ、結構お金がかかるのかな</u>と思う。(C:就職先・質、非関心層)</li> <li>妻の実家が都内なので、それがネック。(A:あこがれ系、関心層)</li> <li><u>給与面。見ていたら圧倒的に首都圏が高い</u>。また、(就職情報を見ると)条件の要綱を見るとやっぱり<u>地方に比べると1割か1.5割は全然違うなという感じがする</u>。(E:就職先・数、関心層)</li> <li><u>新しいところだとコミュニティとか一から探すのはまた大変</u>だろうなというのが1番。地元だったら友達とか知り合いもいる。新しいところだと大変。(B:就職先・質、非関心層)</li> <li>地方でも一軒家を建てるとなると、土地とかを買ったりとか、一から始めないといけないのでお金がかかると思う。あと、車社会。<u>車がないと生きて行けないかなと思うほど交通の便が悪い</u>。お酒を飲んだりしたら...。バスとかも田舎だと多分8時とかに終わってしまうと思うので不安。(C:就職先・質、非関心層)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こっちでやるのがなくなったら地元に戻るぐらいはいいかな。(E:就職先・数、非関心層)</li> <li><u>子供が成人するぐらいのタイミングかな。今ではないかなと思う</u>。大学は関西にもそこそこあるが数は東京の方が多し、就職もこっちの方が都合がいいのかなということはちょっと考えてしまう。(C:就職先・質、関心層)</li> <li>山形は圧倒的な車社会。<u>地方に移住したいが車は避けたいという事情がある</u>。(D:就職先・数、関心層)</li> <li>実家では親がやってくれたが<u>ゴミ出しの当番や掃除、町内会費集めなどが結構あった</u>。もしかしたら<u>そういうところもストレスになるのではないかな</u>と思う。(B:就職先・数、関心層)</li> <li>ゴミ当番とか、大阪の河内長野に住んでいる友達に溝の掃除が当番で回ってくるという。<u>休みの日を別のことに使わされるのはハッキリ言っイヤ</u>。(A:あこがれ系、関心層)</li> <li>地元の顔見知りというのがある。<u>代々そこに住んでいて顔見知り同士で仲良くやっていて、蚊帳の外になる</u>みたいなのが思い浮かんだ。(D:就職先・数、関心層)</li> </ul>
女性	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>結婚相手が地方転勤なら行く決心ができるけど、今は子供もいないし、何不自由なく暮らしているので</u>。この状況で地方に行くことは考えてない。(A:あこがれ系、非関心層)</li> <li>選択肢が狭まること。地方に住み始めた後に生活スタイルが変わり、親の介護とかがあったら、<u>転職をしたくても探すのが格段に難しい</u>と思う。それに子育てしていて、<u>自分の子供が万が一アイドルになりたいとか、音楽大学に行きたいと言われたら、東京まで通わないといけなくなる</u>ので、それができなかったらと思うとかわいそうだなと思う。(E:進学先・質、関心層)</li> <li>また一から人間関係を作ることになり、今みたいに<u>気心の知れた友人達と疎遠になるのは不安</u>。逆に東京から大阪に行くと、<u>東京もんが来た、気取ってるよねと言われたらしく恐ろしい</u>なと思った。地方のコミュニティがあって、そこに入るのは勇気がいる。(A:あこがれ系、非関心層)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>単身ではわざわざ新しい仕事を見つけて、住むところを見つけて、コミュニティがないところに飛び込むということは大変</u>なので、そこまでの労力はかけられない。(D:余暇充実、非関心層)</li> <li><u>知らない土地に移住してそこで結婚相手を探したくない。向こうのテリトリーに無理やり入れられている感じがして、すごくイヤ</u>。公平じゃないというか、向こうの家族問題とかに巻き込まれそう。両方知らない場所だったらいいのだが。(E:利便性、関心層)</li> <li>移住は不可能ではない。でも<u>パートナーとのバランスが将来的にどうなるか分からない</u>ので。(B:就職先・質、非関心層)</li> <li>つながりが強い。<u>大体どこへ行っても誰かの知り合いしかいない</u>。2人挟んだら大体知り合い。<u>悪いこともできない</u>。(B:就職先・質、非関心層)</li> <li><u>買った物に行ったら誰かに会うとか、私はそれはイヤだ</u>と思っている。買った服は誰かと被るとか、すごくイヤだなと思っていた。(A:あこがれ系、非関心層)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事がポチポチ楽しいのでまずは見届けたいという気持ちがある。(C:スキルアップ、非関心層)</li> <li><u>一人暮らしで、結構やりたいことができている</u>。行きたいところへ行ったりしているので、そういう<u>楽しさがなくなってしまうのかな</u>と思う。(B:就職先・数、関心層)</li> <li><u>田舎だとスーパーが早く閉まるイメージなので生きて行けるだろうか</u>、トイレットペーパーとか買えるのだろうか、コンビニまで何時間とかだったらどうしようと思う。(C:スキルアップ、非関心層)</li> <li>虫とか爬虫類とかが怖いなと思っている。地方とかが行くとか、ヘビがいたらどう対処したらいいのかとか。(D:就職先・数、関心層)</li> <li><u>友人との交流が減りそう</u>。あまり車の運転が好きじゃない。<u>地方だと車生活必須みたいなイメージがあるので、そこが不安</u>かなと思っている。<u>悪い噂も悪い噂もすぐ広まる</u>。そういう面では知らない地方に飛び込んで行くのは不安。(A:あこがれ系、非関心層)</li> <li>好きな店は地方になかったりするイメージがある。(B:就職先・数、関心層)</li> </ul>

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_③地方への移動に必要な条件

### ■ アンケート調査結果 (100%棒グラフ)

あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



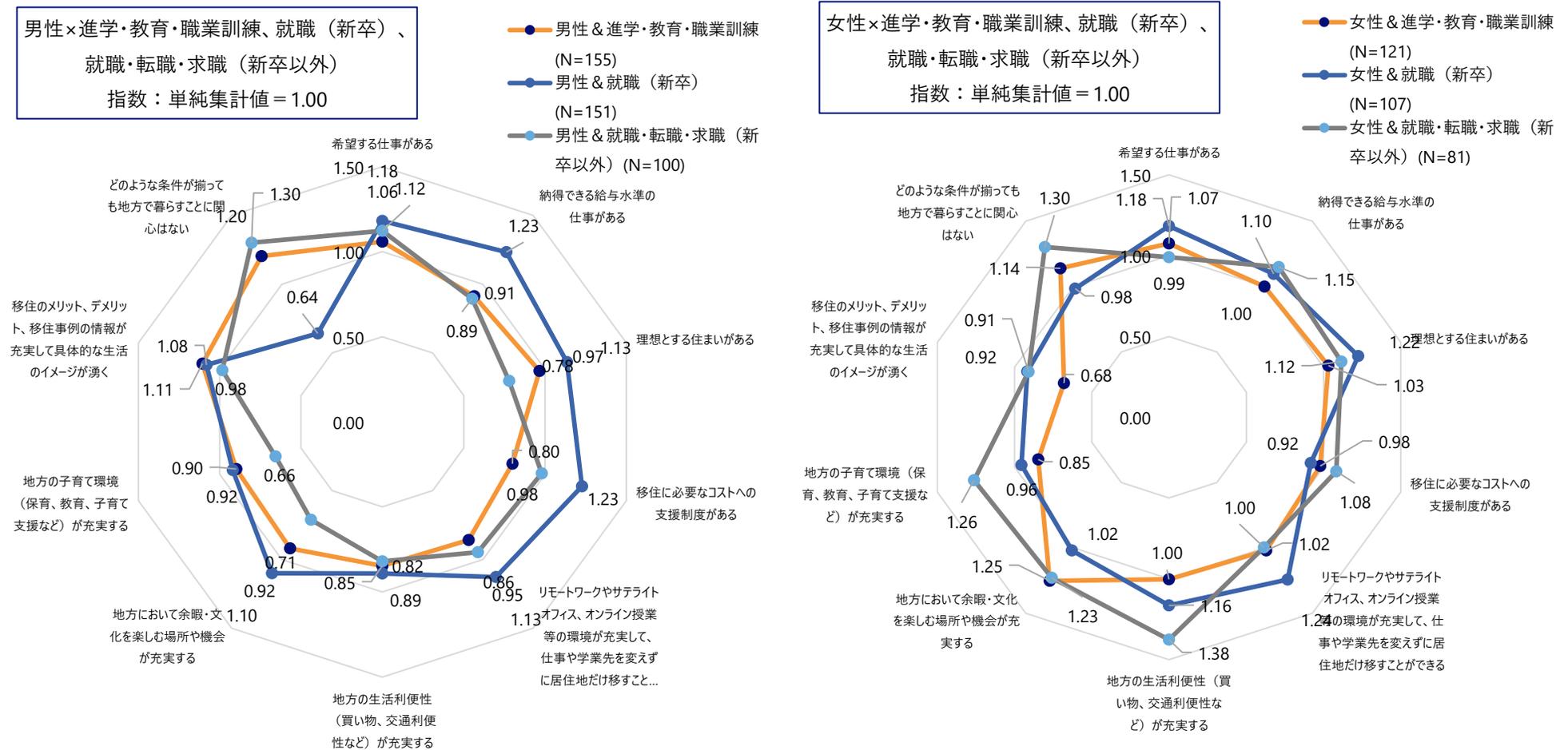
※全体標本(合計)は、東京圏転入者の単純集計(生まれよりの東京圏在住者は除外)

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_③地方への移動に必要な条件

### ■ アンケート調査結果 (東京圏転入者全体の単純集計値=1.00とした相対指数)

あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



※単純集計値は、東京圏転入者の全体集計(生まれよりの東京圏在住者は除外)

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：13%超の選択肢について分析

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_③地方への移動に必要な条件

### ■ FGI調査結果 (各ペルソナで抽出された定性的コメント) \_③-1: 地方移住を検討するために必要な条件

	進学・教育・職業訓練	就職 (新卒)	就職・転職・求職 (新卒以外)
男性	<ul style="list-style-type: none"> <li>住んでみないとよくわからないし、情報が足りない。(A:関心層、あこがれ系)</li> <li>偏差値の高い学校はかなり都心に集中するし、仕事でも機会の格差はあるので、都会と地方の差を感じた状態で、また地方に戻るのはいや。(B:関心層、進学先・質)</li> <li>気候が温暖で、災害が少なく、やりたい仕事があって、そこにいるんなものが揃っているのが条件。(B:関心層、進学先・質)</li> <li>都市のインフラが整っている。地方であっても寂れすぎている。自治体がちゃんと支えているところなら、地方であっても住みやすいかと思う。(B:関心層、進学先・質)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>完全に在宅で出勤頻度がさらに減ったらすぐにも戻りたい。仕事を変えることはまだ考えていない。家賃が安いところ。スーパーが近ければいい。あとできれば山で空気がキレイなところ。自然遊びができること。北とか南は関係なくどこでもいい。(D:就職先・数、関心層)</li> <li>将来性。「今はこういう地域だが、これからこんなことをやって、こんな社会を目指している」とかなら、行く。閉鎖的な地域は、「一見お断りみたいな雰囲気がある。排他的な印象があるところは行きたくない。地方都市ならいいが、大きな病院が近くにないと不安。(A:あこがれ系、関心層)</li> <li>土地柄とか特産とかそういったものも全般的に気になる。豊田で言うとトヨタのように地域にまつわる面白い話も知ると愛着がわく。やりたい仕事があって、自然がそこそこあって自然と子供を触れ合わせられるようなぐらいの環境下で、かつ車で30分が1時間ぐらいのところに大型スーパーやショッピングモール(イオン)があればいい。(B:就職先・質、非関心層)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナで仕事がなくなったりとか、緊急的な、戻らざるを得ない状況に陥ったときだけかな。(E:就職先・数、非関心層)</li> <li>お金の余裕ができれば仙台や福岡にも住んでみたい。引っ越しや仕事をしない間の生活にかかるまとまったお金がいると思う。宝くじの1等が当たれば一番いい。(A:あこがれ系、関心層)</li> <li>移住する手間。引っ越しやいろいろなことの解約、お金がかかったり様々ある。仕事も探し直したりしないといけない。それを考えるとわざわざ戻らなくてもいいかなと思う。面倒くさい。とっとも簡単でめっちゃ安いなら戻るかもしれない。(E:就職先・数、非関心層)</li> </ul>
女性	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京大阪に引けを取らない地方なら問題ない。人の多さは仕事の多さにつながるの、人の多さ、アクセスの良さ、施設があってという感じ。(A:あこがれ系、非関心層)</li> <li>田舎度(が高すぎないこと)。理想では長野市以上。岐阜などはダメ。上はどこでもいい。施設数、新幹線がとまる、自宅とコンビニとか、自宅と都会とかにアクセスが良いこと。(E:進学先・質、関心層)</li> <li>天候の変化が得意ではないので、北陸、東北、北海道、ちょっと憧れはあるけど沖縄と九州南部はないかな。個人的に中国四国、特に瀬戸内海側は気候もいいし、台風の被害も少ない。(C:関心層、進学先・質)</li> <li>全部の地方が東京と同じくらいならいいと思う。東京と同じ電車の本数、店の多さなら。(B:非関心層、あこがれ系)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今は自分の暮らしかを一番に考えたい。家族とかにもしもがあれば分からないが、それ以外は(地歩移住は)全く考えていない。(C:就職先・数、非関心層)</li> <li>心が折れたと思われたくないと思うので、帰る理由が欲しい。出るときに、理由もなく無理やり出たので、何かを得て帰って来たということにしたいかなと思う。パートナーか、給料のいい仕事が見つかったら帰るかな。(E:利便性)</li> <li>パートナーができて、就職先とか、どこかへ異動することになったら、場所にもよるのだが、ついて行こうという気持ちが出てきた。(D:余暇充実、非関心層)</li> <li>自分の老後とか子供ができたときのことを考えると地元に戻って親に手伝ってもらったりするかもしれないが、まだそれもないので今は全く考えていない。(C:就職先・数、非関心層)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会社が事務所をなくしてくれるのを待っているところがある。また転職をして地方というのは多分仕事を見つけるのが難しいと思う。会社の方針として、「特に東京圏に住んでいる必要もない」となれば、多分探し始めると思う。(E:スキルアップ、関心層)</li> <li>まだ全然力も付いていないので、夢物語なのだが、もしかすると起業するようなイメージ。そうなる藤沢にいる必要はなくなるのかなと思う。(C:スキルアップ、非関心層)</li> <li>今のところ、親の介護が必要になったときか、将来的に結婚をして相手の家のことか、勤務地のことかがあれば、そういうきっかけがないと出ないかな。(B:就職先・数、関心層)</li> <li>将来的に子供を授かったときか、何かそういうきっかけがあれば可能性はゼロではないと思うのだが、今の段階ではほぼ地方には行きたくないという気持ちの方が強い。(A:あこがれ系、非関心層)</li> </ul>

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_③地方への移動に必要な条件

### ■ FGI調査結果 (各ペルソナで抽出された定性的コメント) \_③-2: 国・地方公共団体に求める情報や支援策

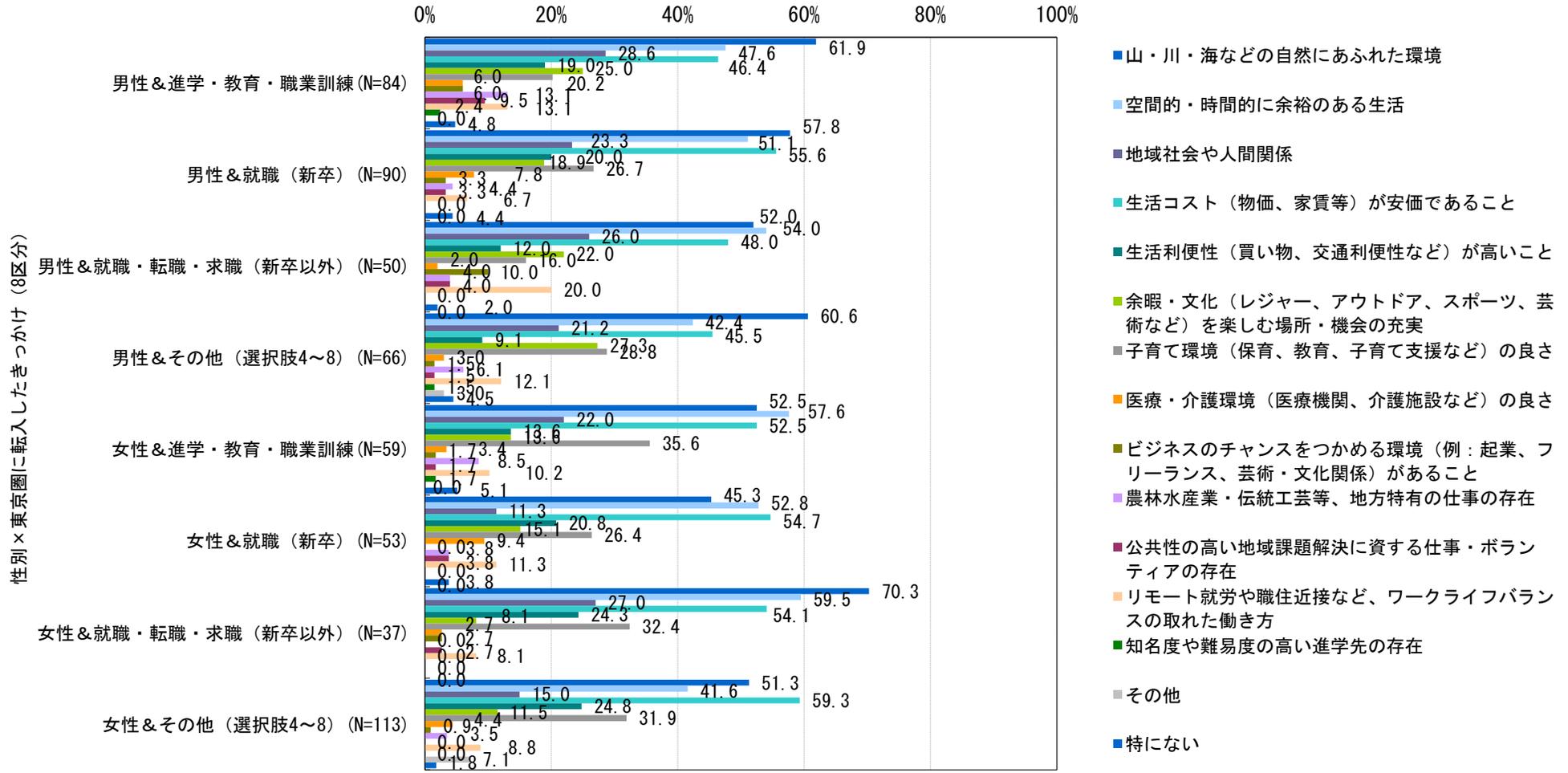
	進学・教育・職業訓練	就職 (新卒)	就職・転職・求職 (新卒以外)
男性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>地方移住に関する検索型のプラットフォームがあって検索機能があれば、情報を集めやすい。</u>例えば、自分が希望する気候が暖かいとか寒いとか、人口はどれくらい、電車はあるのかいないのか、病院や医者の数、介護に力を入れているかと検索して、ヒットすれば後押しする要因になると思う。もっと多くの方が、気軽にフラッと検索して考えられるようになると思う。(A:関心層、あこがれ系)</li> <li>■ 1つは、<u>地方の暮らしのいろんなパターンを、ある家庭やある人の働き方とか暮らし方とかいくつか例を挙げて、その中で不安に思いそうなところを紹介してくれるようなの</u>があればいい。就活などで企業とか1日の働き方とかあると思うが、あんな感じで、もしここで暮らしたらこうなりますと、いろいろパターンがあれば、イメージがわかりやすい。2つ目は、いずれは持ち家をもつイメージなので、<u>自治体で地方の土地を提供するか、補助とかしてくれたら住みやすい。</u>大きな買い物になるので、一部貸付でもいいのでしてくれれば、暮らしたいが今はお金がないという人にもいいのかなと思う。老後になってから行く人は増えているようだが、若い人が行きにくいネックの1つは、そこなのかなと思う。都心より安価に住宅が手に入るが、そのお金がない人のために貸し付けがあるとか。(B:関心層、進学先・質)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 引っ越して来たら住宅を無償であげますよとか。<u>自治体が趣味のコミュニティを作ってそれに応募してほしい。</u>スポーツとか。ネットでも調べられるが、<u>自治体やっていると安心感がある。</u>(A:あこがれ系、関心層)</li> <li>■ 地元全体に恩を感じている。中学校のときに交換留学があったのだが、玉村町の施策で50万円もらった。そういったことがいくつかあって、恩は感じている。<u>子育て支援とか、引っ越しの費用がかかるので、引っ越し費用の負担とかがあればいい。</u>(D:就職先・数、関心層)</li> <li>■ <u>子育て支援</u>とか。江戸川区がその辺に力を入れていると聞いて、自治体が力を入れて施策をしているのは印象がいい。<u>独身であってもいい町だという印象になる。</u>(E:就職先・数、関心層)</li> <li>■ <u>将来性の話</u>とか。今さいたま市が人口に対する病床数がめちゃくちゃ少ないと聞いた。でも「<u>こういう方向に進もうとしている</u>」と教えてもらえれば、「<u>なるほどな、こういういい方向に進もうとしているのね</u>」と思う。(B:就職先・質、非関心層)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>発展具合と就職情報。以前とどれくらい変わって発展しているか。盛り上がりしている感じであれば戻っても楽しめる部分があるのかな</u>と思う。新鮮味や新しさを感じるので興味がわくと思う。(E:就職先・数、非関心層)</li> <li>■ <u>その地域にどういう人が主に住んでいるかを知りたい。</u>外国人などが多いと偏見かもしれないがマナーや治安が悪くなる印象があるので、移住するとしたら重要。若い人が多かつたりすると、これからもどんどん人が増えるかな、生活インフラが整っていくかなというイメージがつきやすい。(C:就職先・質、関心層)</li> <li>■ <u>同年代の人が都会に行きたいと思っている人が多いのか、住んでいて満足しているのかなど知りたい。</u>(A:あこがれ系、関心層)</li> <li>■ 移住者向けの総合ポータル。<u>地域それぞれの補助制度や優遇制度を集約して検索するとパツと出るような、ポータルみたいなもの</u>があるといい。自治体の生活課とか、かなり生活に根差したところなら多少信用できそう。(D:就職先・数、関心層)</li> </ul>
女性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>移住者情報SNSがあったらいいかも。</u>その地域限定の移住者。より詳しいことが知れるので、地域ごとにあったほうがいいと思う。(B:あこがれ系、非関心層)</li> <li>■ 東京じゃなくていいから、<u>移住してきた人が多い地域があれば、入りやすいだろうなと思う。</u>みんな気持ちわかるし、昔からの繋がりがあるわけではないから…。(C:進学先・質、関心層)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>引っ越し手当。</u>そこが多分1番大きいかな。(C:就職先・数、非関心層)</li> <li>■ <u>子育て支援とか制度はあっても整っていないんだなと思った。そういうのが整っているところに住みたいな</u>と思う。(A:あこがれ系、非関心層)</li> <li>■ 子育て支援もありがたいのだが、それを目当てに引っ越して来たんじゃないかと思われるのも…。別にありがたく使えばいいのだが、イブんに扱って欲しい。<u>こういうところに病院があつとか、地域のことについて説明してくれるような冊子とか情報サイトはありがたいな</u>と思うが、血税を削って何かをしてもらうのは何か違うかなと思う。(E:利便性、関心層)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 転職フェアで鳥取のハローワークのブースがあった。住むプラス仕事を紹介しますというところだったのだが、「<u>やりたい仕事はこういうものですと言ったら「そういうのも多分あると思います」とHPのURLをもらった。そういうのはとてもいいな</u>と思った。お店とかもそうだし、趣味で何をしたいときはこういうところがあるよという紹介の情報はあった方がいいかなと思う。(D:就職先・数、関心層)</li> <li>■ <u>「1年間ここに住んで流れはこうでした」と経験談とかを話すようなYouTube</u>を見ている。日々の生活を伝えているものとか、そういうものを見て面白と思う。(B:就職先・数、関心層)</li> <li>■ <u>移住フェアは定住が前提になっているので、近づかないようにしている。</u>最終的に実家に帰るまでの間に住んでみたいところに住めたらいいなと思う。どこか1つの地方を決めて、そこに移住して一生住もうという考えはない。(E:スキルアップ、関心層)</li> </ul>

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

## 各ペルソナの概要一覧\_④関心を持った地方の魅力

### ■ アンケート調査結果 (100%棒グラフ)

あなたは地方での暮らしのどのような点（魅力）に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



※全体標本（合計）は、東京圏転入者の単純集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

### 3.3.1.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ペルソナ別の傾向概要 (Summary)

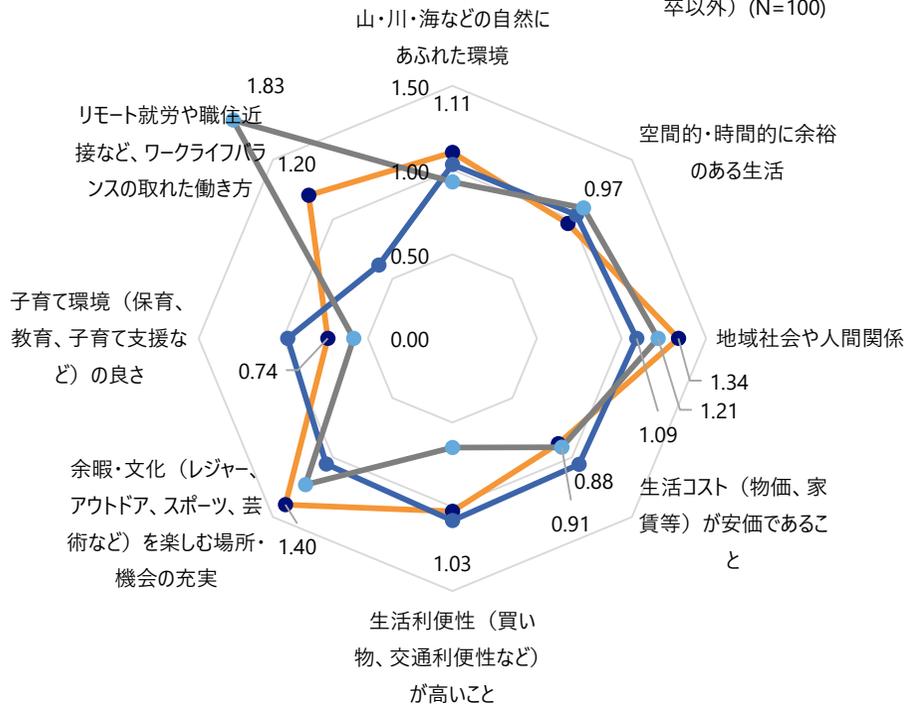
## 各ペルソナの概要一覧\_④関心を持った地方の魅力

### ■ アンケート調査結果 (東京圏転入者全体の単純集計値=1.00とした相対指数)

あなたは地方での暮らしのどのような点(魅力)に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

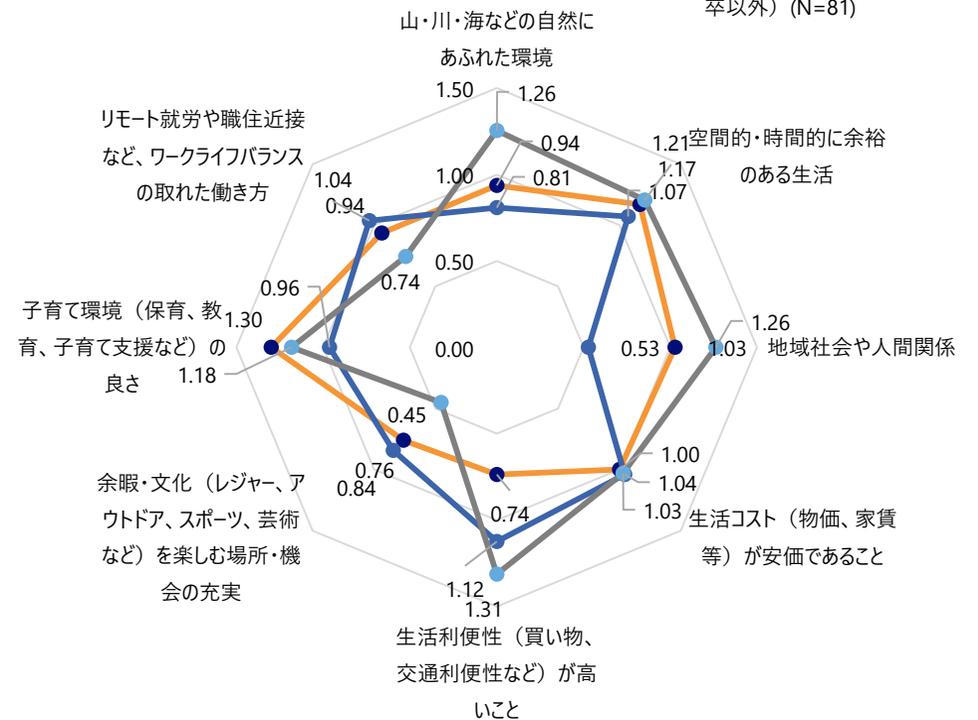
男性×進学・教育・職業訓練、就職(新卒)、  
就職・転職・求職(新卒以外)  
指数：単純集計値=1.00

- 男性 & 進学・教育・職業訓練 (N=155)
- 男性 & 就職(新卒) (N=151)
- 男性 & 就職・転職・求職(新卒以外) (N=100)



女性×進学・教育・職業訓練、就職(新卒)、  
就職・転職・求職(新卒以外)  
指数：単純集計値=1.00

- 女性 & 進学・教育・職業訓練 (N=121)
- 女性 & 就職(新卒) (N=107)
- 女性 & 就職・転職・求職(新卒以外) (N=81)



※単純集計値は、東京圏転入者の全体集計(生まれよりの東京圏在住者は除外)  
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率:10%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要\_ 各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

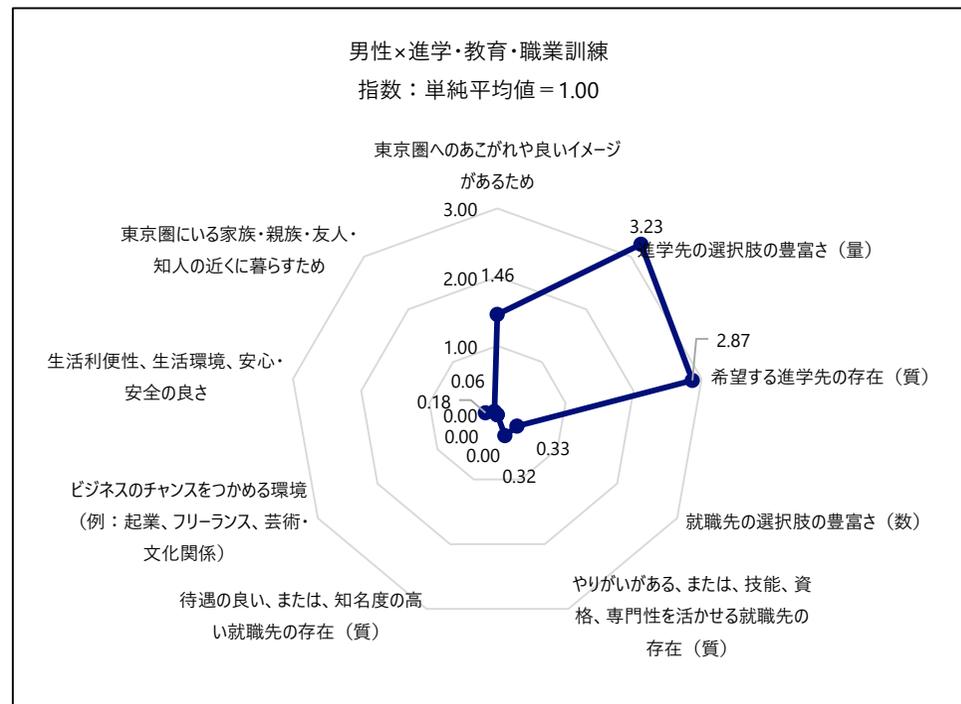
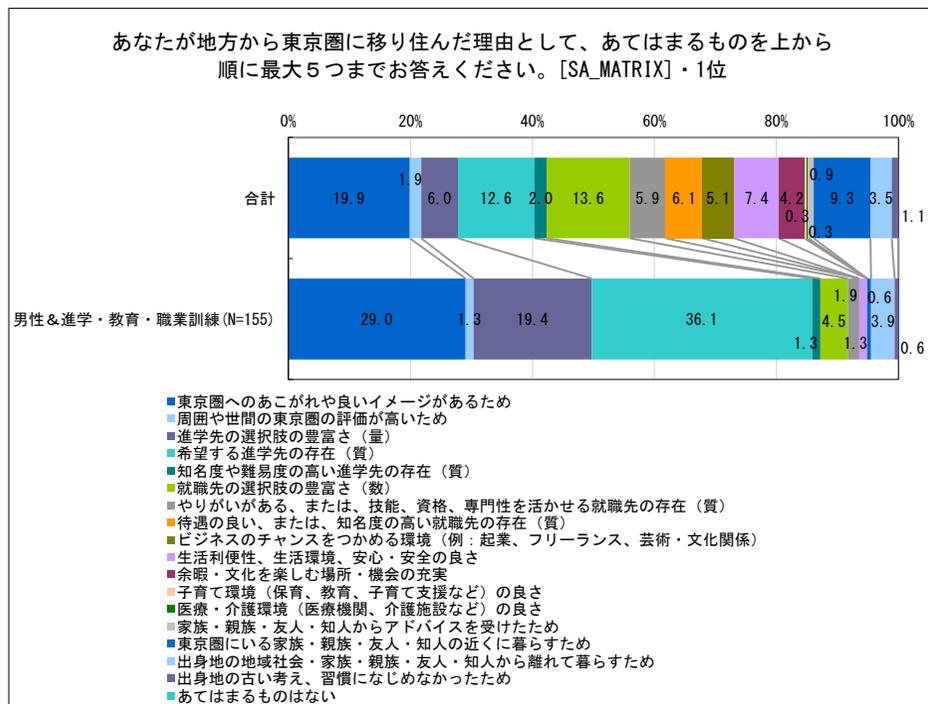
---

## Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練①

### (1) 東京圏に転入した理由・きっかけ【アンケート調査】

#### 東京圏に移り住んだ理由

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「希望する進学先の存在（質）」(36.1%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(29.0%)、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(19.4%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(3.23)が最も高く、「希望する進学先の存在（質）」(2.87)、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(1.46)と続き、そのほかの選択肢の相対指数は1.00以下である。
- 「希望する進学先の存在（質）」や「進学先の選択肢の豊富さ（量）」等の進学先の質・量を理由とした転入者が全体の5~6割を占め、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」を理由とした転入者も3割程度存在する。その他の理由を選択した者は全体と比べて非常に少ない。



※全体標本（合計）は東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）。「単純平均値」は標本における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：5%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### \_各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練②

	A	B	C	D	E
年齢	22歳	29歳	36歳	22歳	21歳
未婚婚	未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	大学4年生	正社員IT関連・SE	アルバイト(イベント会社)	大学4年生	大学3年生/アルバイト
出身地	大阪府	静岡県	静岡県	群馬県	愛知県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在(質)	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在(質)

#### (2) 東京圏に転入した理由・きっかけ【FGI調査】

##### 東京圏への転入を意識した理由

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、漠然と余暇を楽しむことを期待して東京に来ていた。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、魅力的な進学先が地元にはなく東京にあったことに加え、一度は東京に出てみたいという憧れもあり転入を意識していた。

- 田舎だったので、周りも東京や福岡に進学していたし、東京は憧れがあって、ちょっと遊びたいな、みたいな感じで選んだ。(C:あこがれ系)
- 地元には魅力的な進学先がなかった。当時、地球環境に興味があって、その辺りの学問をやられているところがいくつかあって、それが東京圏だった。(B:進学先・質)

##### 東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、当初別エリアを希望していたが受験の結果により叶わず、オリンピックの開催もあり漠然とあこがれのあった東京に決めた。「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、東京へのあこがれと進学先が東京に偏っていたことから東京に行くことを決断しており、両親も賛成していたため他の地方は考えていなかった。

- 関西で大学に行く予定だったが、それがうまくいかなくて、浪人してもう1年頑張るか、東京の大学に行くかを考えて、自分が大学4年生のときに東京オリンピックも決まっていたので、経済が盛り上がっているだろうと思い、自分の目で見てみたかった。(A:あこがれ系)
- キラキラした東京の感じとか、どこに行っても遊べる憧れみたいなものもあって、行きたい大学もこっちに偏っていたので、こっちに決めた。東京に決めて、親からもいいよと言われていたので他の地方は考えなかった。(E:進学先・質)

##### 転入の意思決定に影響を与えた情報／情報源

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、積極的な情報収集は行っていない。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、周りに東京に縁がある人が多く、よいイメージを度々聞いていたため、東京にマイナスイメージは抱いていなかった。

- キラキラした東京に憧れがあった。好きなコンサートやプロ野球をすぐに見られる。(C:あこがれ系)
- 父親が東京で仕事をする事が多く、姉も進学で東京に来ていて、その影響がだいぶある。先輩も東京に行った人が多かったので、そこで話も聞いていたし、周りも受験がほぼ東京だった。先輩からは、人が多いからいろんな人と接することができてコミュニティも広がるのでいろんな話が聞けると聞いていて将来の役に立ちそうだと思った。(E:進学先・質)

##### 転入当時の本人の意向

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、人との関わりが薄いイメージから東京での暮らしに不安を感じていた。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、期間限定で東京圏の生活を楽しまたいと考えていた。

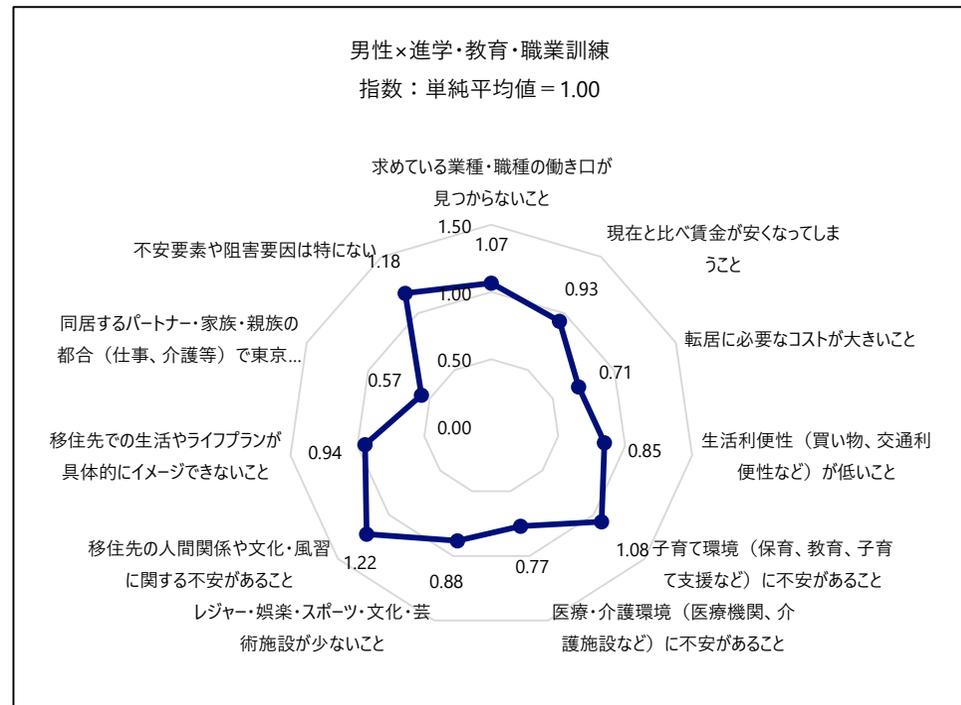
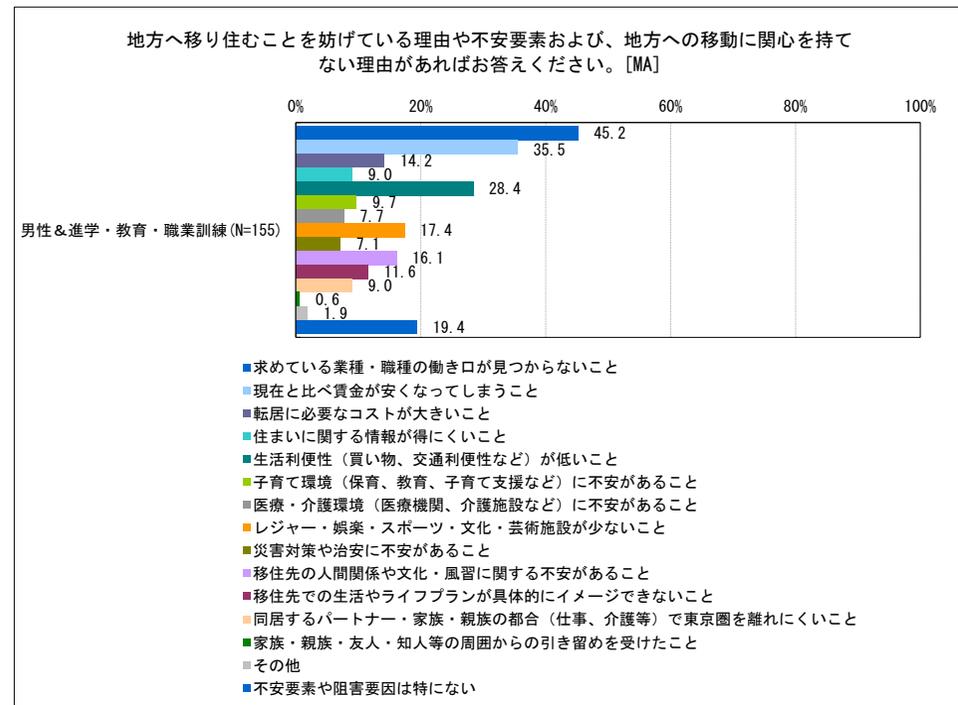
- 関西は人なつこくて人との関わりは濃いけど、東京は薄いイメージだった。自分は中高一貫の学校に通っていて、そこで6年間作ってきた人間関係があったり、結構残る人も多かったので、こっちに来るのは、最初はワクワクより不安が大きかった。(A:あこがれ系)
- 環境を変えたかった。他にもあったが、一番行きたかったのが、東京圏の大学だった。将来的に暮らしたい、住みたいところもなく、一度は東京の雰囲気味わいたかったものもある。(B:進学先・質)

## Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練③

### (3) 移住を妨げている要素【アンケート調査】

#### 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(45.2%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(35.5%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(28.4%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「移住先の人間関係や文化・風習に関する不安があること」(1.22)が最も高く、「子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に不安があること」(1.08)、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(1.07)と続く。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

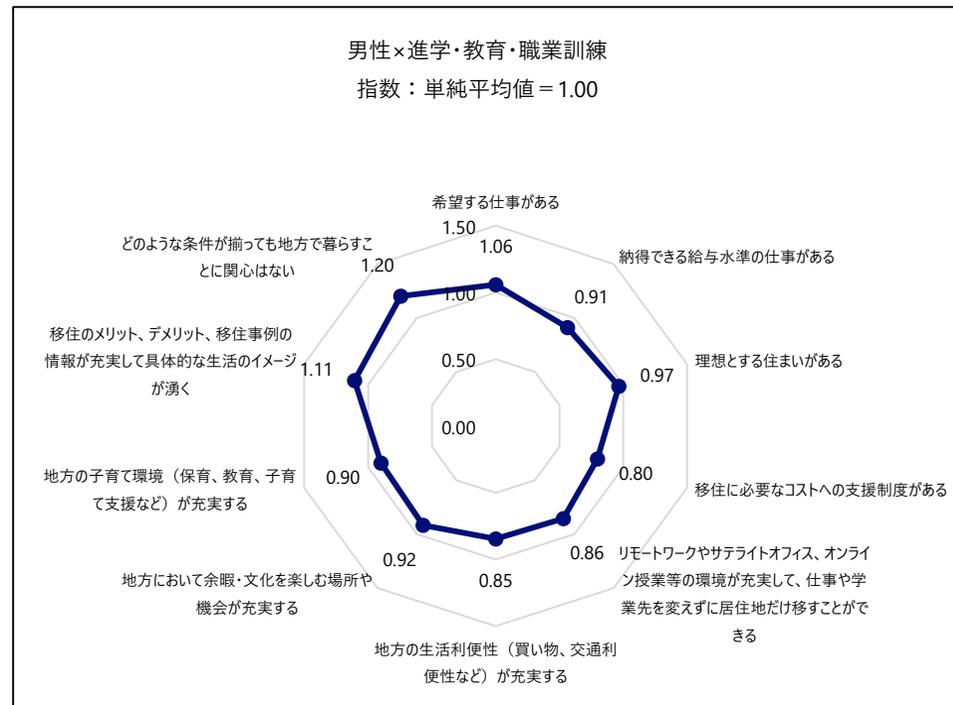
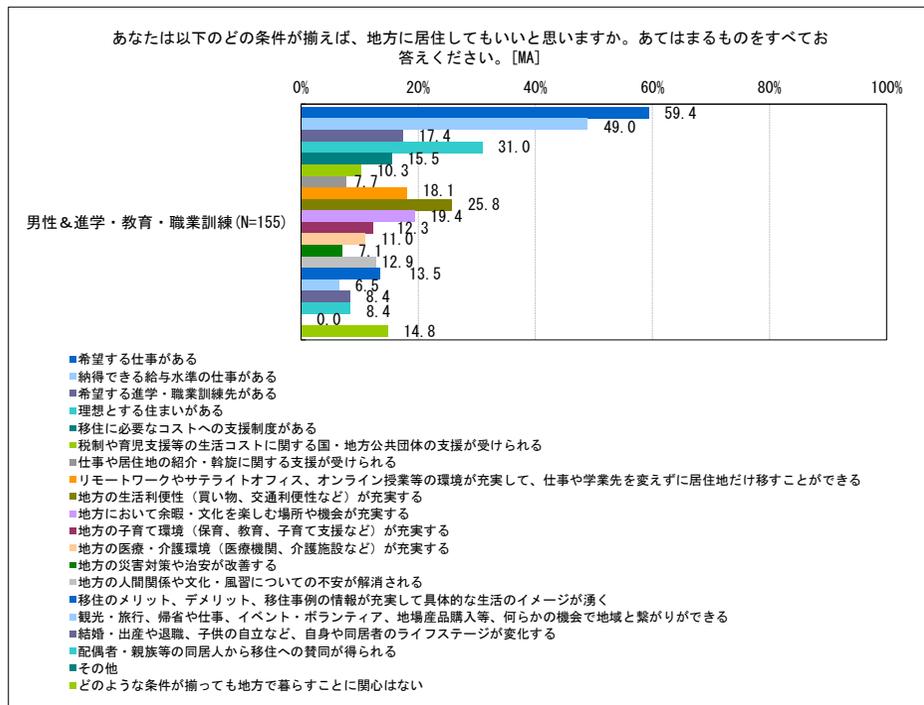
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：8%超の選択肢について分析

## Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練④

### (4) 移住促進に必要な条件・支援ニーズ【アンケート調査】

どのような条件が揃えば、地方に居住してもいいと思うか

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(59.4%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(49.0%)、「理想とする住まいがある」(31.0%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「移住のメリット、デメリット、移住事例の情報が充実して具体的な生活のイメージが湧く」(1.11)、「希望する仕事がある」(1.06)でやや高く、その他の選択肢は1.00を下回っている。
- また、「どのような条件が揃っても地方で暮らすことに興味がない」と回答した者が全体の1.2倍いることが特徴的である。その他移住条件は他Gr.の傾向と近い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：13%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### \_各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練⑤

	A	B	C	D	E
年齢	22歳	29歳	36歳	22歳	21歳
未婚	未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	大学4年生	正社員IT関連・SE	アルバイト(イベント会社)	大学4年生	大学3年生/アルバイト
出身地	大阪府	静岡県	静岡県	群馬県	愛知県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在(質)	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在(質)

#### (5) 移住を妨げている要素【FGI調査】

##### 東京圏へのポジティブな想い

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、遊べる場所の選択肢が多いことや就職活動で色々な企業を見ることができる点でメリットを感じていた。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、勉強面でもプライベートでもイベントが豊富であること、飲食店の豊富さは東京圏にしかないと感じていた。

- 大学生のうちには遊べる場所の選択肢が多いのはメリット。就職活動をしていたときも、いろんな企業を見やすいのでメリットがあった。(A:関心層、あこがれ系)
- 実際に生活してみると、イベントもプライベートとか公的、学問的なイベントも多いので、勉強とプライベートと両方で東京に住んで良かったと思った。あと魅力的な個性豊かな店やイベントは、東京圏でないと難しい。(B:関心層、進学先・質)

##### 地方への移住に関心が湧かない理由

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、いずれ地方に住むための修行として東京に残りたいと考えており、直近での地方移住は考えていなかった。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、現状東京での暮らしに困っていないことから直近での地方移住を考えていなかった。

- 10年くらいは東京にいたい。若いときは東京で走り抜けたかと思ってる。地方に移り住めるだけの仕事力を、今つけたいと思う。(A:関心層、あこがれ系)
- ここで暮らすことに困っていない。遊びに行くにしても、どこにでも行けて、自分は飽きやすいので、いろんなところに行けるのはありかなと思う。地方に行きたい欲求は旅行で済む。京都に行きたいとしても、何泊かすれば満たされる。憧れの場所に住むと憧れの場所ではなくなって特別感がなくなる。(E:関心層、進学先・質)

##### 地方移住に踏み切れない理由/移住に当たる不安要素

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、地方のコミュニティの広げにくさから、コミュニティを広げるには東京が良いと感じていた。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、趣味・雇用の少なさと知り合いが少ないことに不安を感じていた。

- 仕事はもちろんだが東京でいろんなコミュニティを広げたい。東京は、いろんな多様な働き方をしている人がいるので、そういう方と出会って、自分の中に多様性を持っていきたい。地方は東京よりも簡単に人間関係を作り上げるのが難しいと思うので。流動性がないと感じる。(A:関心層、あこがれ系)
- 1つは趣味、雇用を提供するところが少ないのが懸念される。東京圏は趣味も雇用も選べる選択肢が多い。2つ目は初めて行くところだと、知り合いも少ないし、助けになる人が誰もいないと心配という部分がある。都心は知り合いが多いので、いざというときに話をしたり、集まったりしやすい。地方は知り合いが少ないので、集まりたいときに集まれないし、コミュニティも作りにくい。(B:関心層、進学先・質)

#### (6) 移住促進に必要な条件・支援ニーズ【FGI調査】

##### 移住を検討するために必要な条件

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、情報が足りないと感じていた。「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、都会との機会の格差が無くなれば地方移住を検討する様子だった。

- 住んでみないとよくわからないし、情報が足りない。(A:関心層、あこがれ系)
- 偏差値の高い学校はかなり都心に集中するし、仕事でも機会の格差はあるので、都会と地方の差を感じた状態で、また地方に戻るのはいや。(B:関心層、進学先・質)
- 気候が温暖で、災害が少なく、やりたい仕事があって、そこにいろんなものが揃っているのが条件。(B:関心層、進学先・質)
- 都市のインフラが整っている。地方であっても寂れすぎない。自治体がちゃんと支えているところなら、地方であっても住みやすいのかと思う。(B:関心層、進学先・質)

##### 国・地方公共団体に求める具体的な支援策

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、検索型のプラットフォームがあれば移住を後押しできるのではないかと考えていた。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、住みやすさや支援策・暮らし方が具体的にイメージできる情報、持ち家の金銭補助、子育て支援策の話が挙がった。

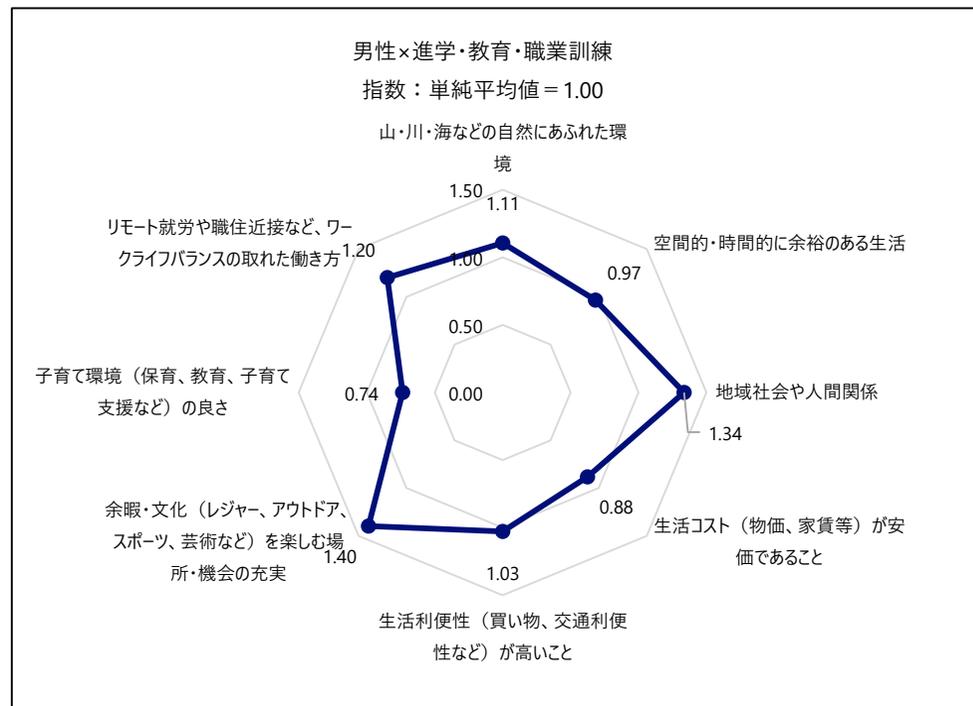
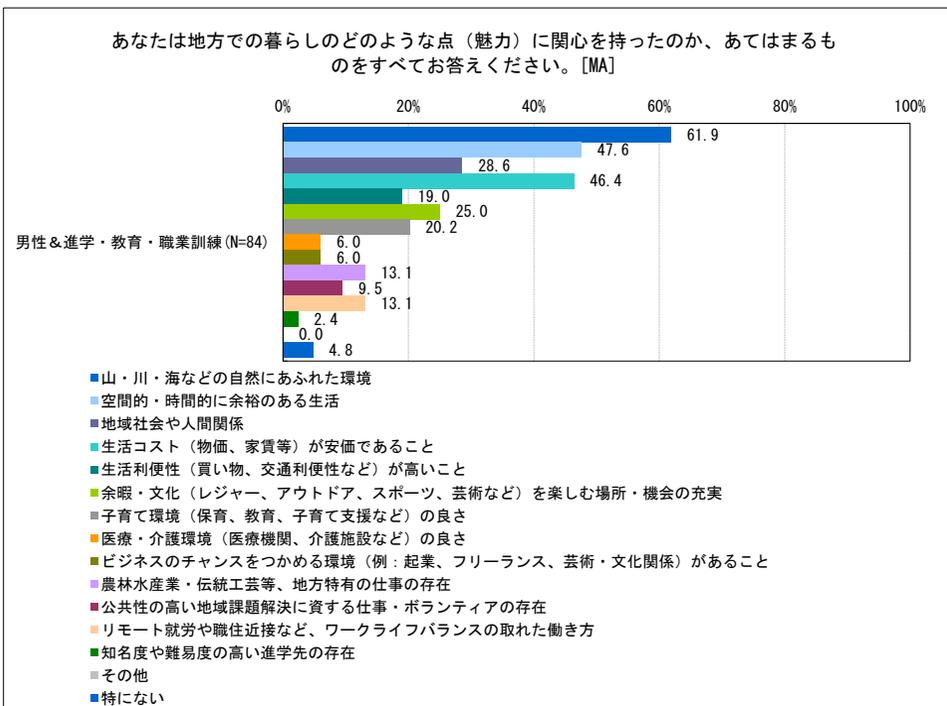
- 地方移住に関する検索型のプラットフォームがあって検索機能があれば、情報を集めやすい。例えば、自分が希望する気候が暖かいとか寒いとか、人口はどれくらい、電車はあるのかわからないの、病院や医者、介護に力を入れているのかが検索して、ヒットすれば後押しする要因になると思う。もっと多くの人、気軽にフラッと検索して考えられるようになると思う。(A:関心層、あこがれ系)
- 1つは、地方の暮らしのいろんなパターンを、ある家庭やある人の働き方とか暮らし方とかいくつか例を挙げて、その中で不安に思えそうなところを紹介してくれるようなのがあればいい。自分も自治体のサイトを見たときに、こんなのがありますと羅列してあったが文字ばかりでよくわからなかったり、どういときに使うのかピンと来なかったりした。就活などで企業とか1日の働き方とかあると思うが、あんな感じで、もしここで暮らしたらこうなると、いろいろパターンがあれば、イメージがわかりやすい。2つ目は、いずれは持ち家をもつイメージなので、自治体で地方の土地を提供するとか、補助とかしてくれれば住みやすい。大きな買い物になるので、一部貸付でもいいのでしてくれれば、暮らしたいが今はお金がないという人にもいいのかなと思う。老後になってから行く人は増えているようだが、若い人が行きにくいネックの1つは、そこのかなと思う。都心より安価に住宅が手に入るが、そのお金がない人のために貸し付けがあるとか。(B:関心層、進学先・質)

## Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練⑥

### (7) 関心を持った地方の魅力【アンケート調査】

#### 地方での暮らしのどのような点に関心を持ったのか

- 地方に関心を持った点としては、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(61.9%)が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」(47.6%)、「生活コスト（物価、家賃等）が安価であること」(46.4%)と続く。
- 東京圏転入者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「余暇・文化（レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など）を楽しむ場所・機会の充実」(1.40)が最も高く、「地域社会や人間関係」(1.34)、「リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方」(1.20)と続く。
- 一方で、「子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ」(0.74)、「生活コスト（物価、家賃等）が安価であること」(0.88)等は他Gr.と比べ相対的に低い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

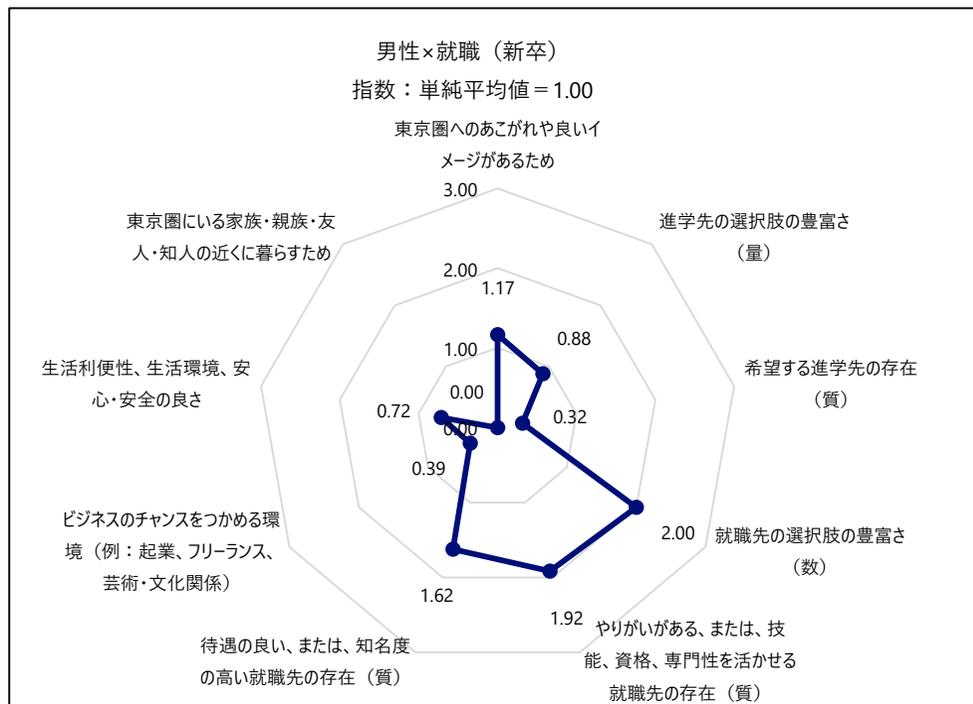
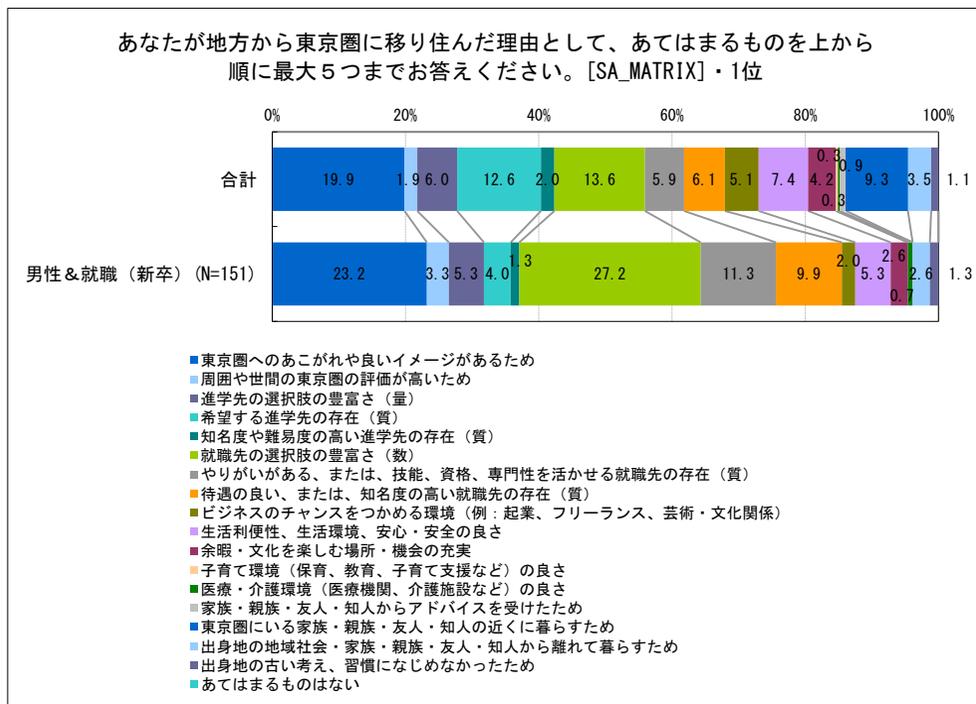
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：10%超の選択肢について分析

## Gr.2 男性×就職（新卒）①

### (1) 東京圏に転入した理由・きっかけ【アンケート調査】

#### 東京圏に移り住んだ理由

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(27.2%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(23.2%)、「やりがいのある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」(11.3%)と続く。
- 東京圏転入者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(2.00)が最も高く、「やりがいのある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」(1.92)、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」(1.62)と続く。
- 「就職先の選択肢の豊富さ（数）」、「やりがいのある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」等の就職先の質・量を理由とした転入者が全体の6割超を占め、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」を理由とした転入者も2割超存在する。その他の理由を選択した者は全体と比べて非常に少ない。



※全体標本（合計）は東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）。「単純平均値」は標本における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：5%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### 各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.2 男性×就職（新卒）②

	A	B	C	D	E
年齢	32歳	27歳	25歳	23歳	29歳
未婚	既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正職員 官公庁・事務	アルバイト 医療業・放射線技師	正社員 薬品製造業・開発	正社員 化粧品日用品製造業・貿易事務	正社員 商社・営業
出身地	茨城県	愛知県	富山県	群馬県	兵庫県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	就職先の選択肢の豊富さ（数）

#### （2）東京圏に転入した理由・きっかけ【FGI調査】

##### 東京圏への転入を意識した理由

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、華やかで自由な生活にあこがれ、「就職先の選択肢・質」を理由に転入した層は、働き口の多さから転入を意識した。

- **大学の友人がみんな都内の会社に就職すると言うので、流れ**でという感じ。もともと**東京の華やかさに憧れ**はあった。茨城は本当に田舎なので華やかな所で暮らしてみたいというのがあった。一人暮らしにも憧れた。（A:あこがれ系）
- ずっと富山の方で働こうと思っていたのだが、**給与面や自分の資格が活かせる場所が東京にしかなかった**。富山とかだと公務員になるしかないと思うのだが、資格を持っていても特段給与面でプラスがなかった。**東京は公務員じゃなくて資格が活かせる働き口がいっぱいあった**。（C:就職先・質）
- 就職を機に埼玉の寮に引っ越した。就職先は、関東と関西を中心に日本各地でいろいろ調べた。自分の働きたい事業理念だったり、社会へどういった貢献をしているのを見て選んだ。（D:就職先・数）

##### 東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

関東圏内ということで東京圏を選んだ人や、やりたい仕事のため、会社で異動があったため。

- 就職は東京以外全く考えていなかった。**全国転勤がある仕事はイヤ**だった。見知らぬ土地に行くのは好きなのだが、そこに住むのはあまり好きじゃない。旅行とかで行くのは好きなのだがそこに定住するのはあまりイメージできない。ずっと住んでいる関東圏内にいたい。（A:あこがれ系）
- 北海道も結構いいところだったので、そのまま住み続けるのもアリかなと思ったのだが、**10年後とかを考えたときに、道内の辺鄙な東の釧路とか旭川では札幌から遠く交通が不便なので、現実的じゃないかな**と思った。（C:就職先・質）

##### 転入の意思決定に影響を与えた情報／情報源

いずれの層も、旅行で訪れた際の印象（関西は汚い、東京は賑やか）が何となくある程度。

- 東京ディズニーランドに行ったときとか、修学旅行が東京・横浜だったのでそれで来た。イメージは賑やか。賑やかなのはいい半面も悪い半面両方ある。（E:就職先・数）
- 関西は旅行で行っていて、駅とかがすごく汚かったというのが目に付いた。東京は旅行や就活で行って、人が多くて人に酔いそうだなと思った。あまり憧れみたいなものはなかった。（C:就職先・質）

##### 転入当時の本人の意向

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、周りに流された感覚をもっていた。

「就職先の専門性・質」を理由に転入した層は、やりたい仕事やその後のキャリアプランを考えていた。

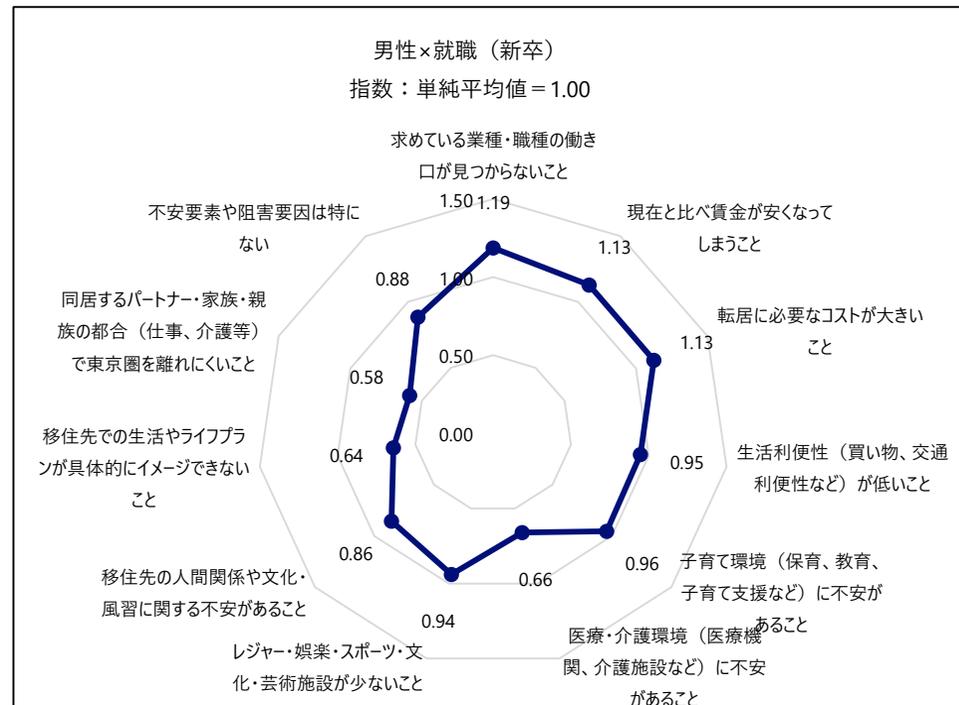
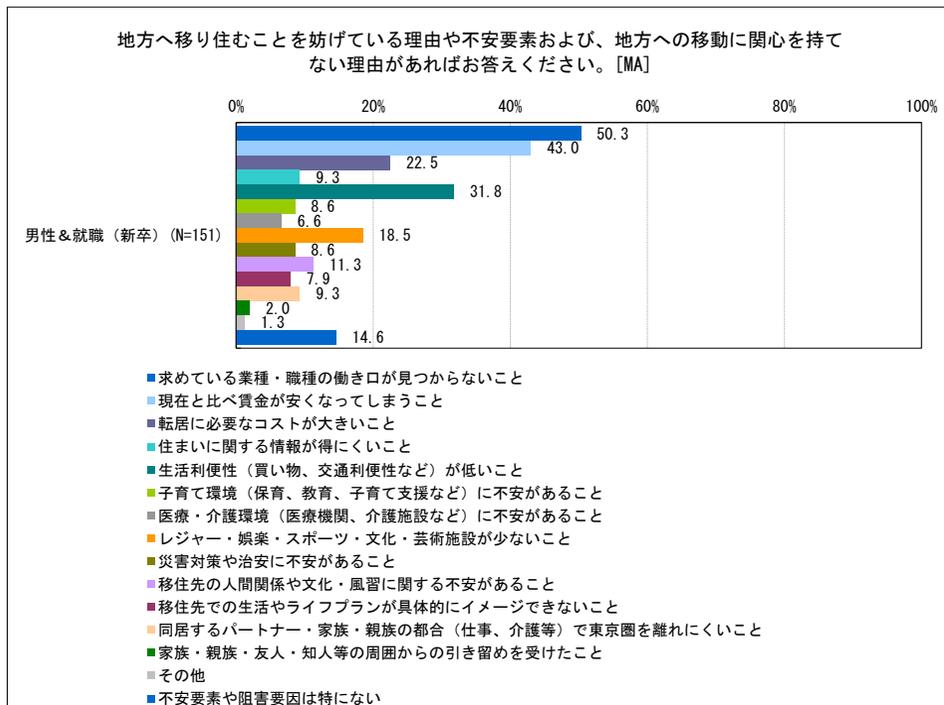
- あまりこれがやりたいというものもないし、何で東京の会社に入ったかと言うと、周りに流された。公務員にしたのは周りに試験を受ける人が多かったから。定年まで勤めあげたい。できれば**本当は大きな会社がいい。いろんな人がいて、その話を聞くだけで満足**。（A:あこがれ系）
- 愛知にやりたい仕事があればそっちを目指したかもしれないが、**基本東京の方が件数が多い**というのと、**何を学ぶにしても、東京が1番最初なので、できれば最初は東京の方**で。もともと野性は東京でノウハウを学んで、愛知にそれを持ち帰って、愛知にそういうところを作りたいかたというのが私の夢だった。（B:就職先・質、）
- 群馬県内の就職は考えた。群馬県であれば、地元の方が友達や知り合いも多いので、休日とか遊べる。**関東を選んだというよりは会社（質）を選んだ**。（D:就職先・数）
- もともと東京オリンピックが終わったら出て行ってやろうと思っていた。（E:就職先・質）

## Gr.2 男性×就職（新卒） ③

### （3）移住を妨げている要素【アンケート調査】

#### 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(50.3%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(43.0%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(31.8%)と続く。
- 東京圏転入者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(1.19)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(1.13)、「転居に必要なコストが大きいこと」(1.13)と続く。
- 移住の阻害要因の上位回答の傾向は他Gr.と比較的近いが、特に、働き口への不安や移住コストへの不安が高い傾向にある。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

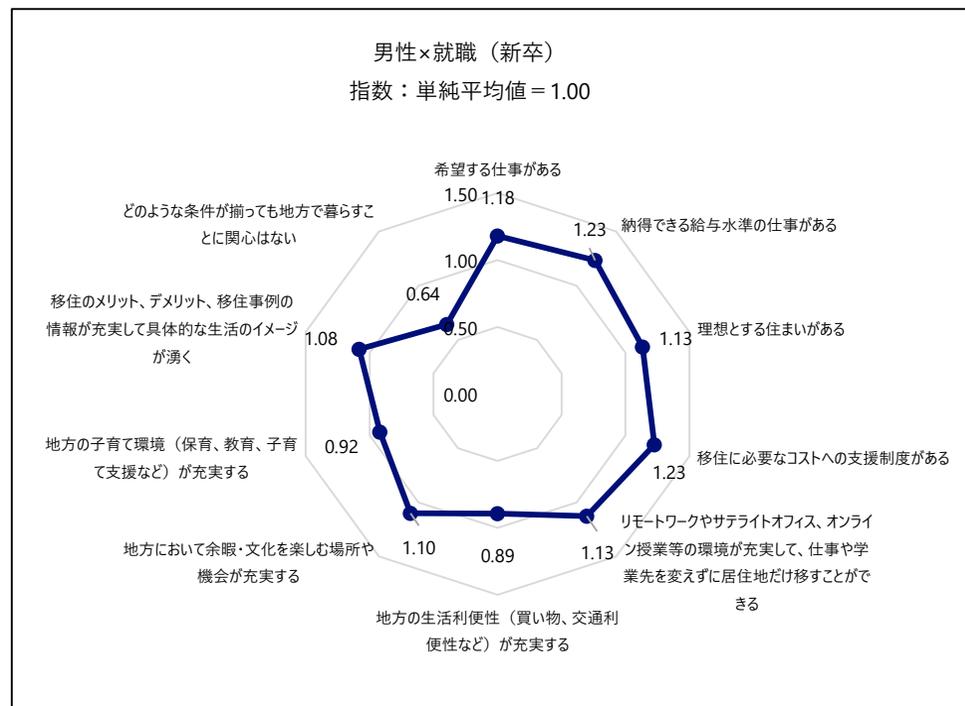
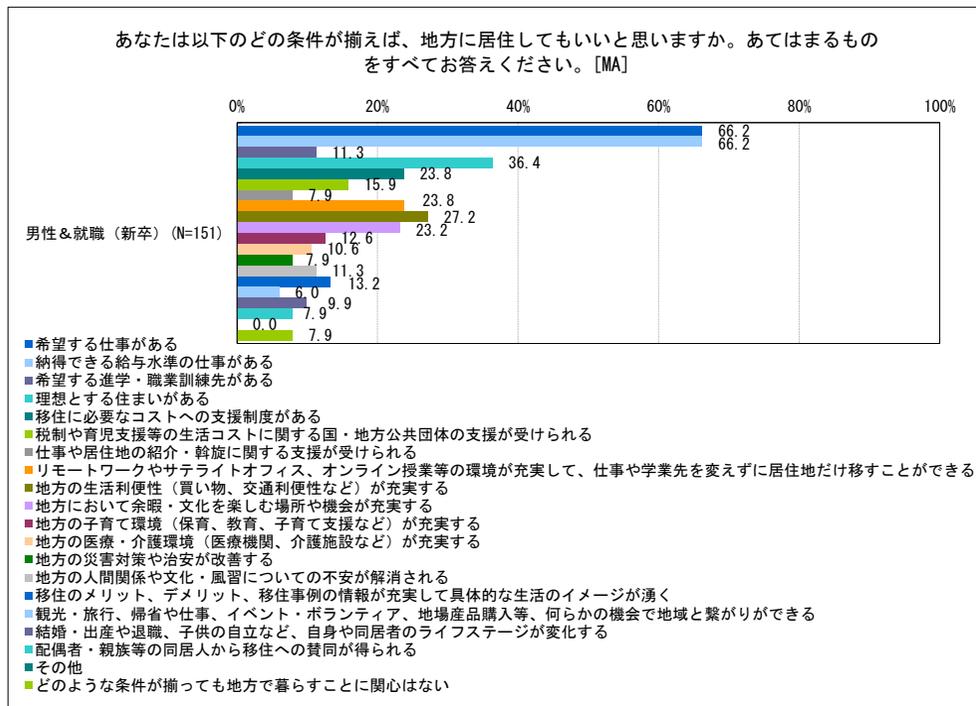
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：8%超の選択肢について分析

## Gr.2 男性×就職（新卒） ④

### （４） 移住促進に必要な条件・支援ニーズ【アンケート調査】

どのような条件が揃えば、地方に居住してもいいと思うか

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(66.2%)、「納得できる給与水準の仕事がある」(66.2%)が最も高く、「理想とする住まいがある」(36.4%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「納得できる給与水準の仕事がある」(1.23)、「移住に必要なコストへの支援制度がある」(1.23)が最も高く、「希望する仕事がある」(1.18)、「理想とする住まいがある」、「リモートワークやサテライトオフィス、オンライン授業等の環境が充実して、仕事や学業先を変えずに居住地だけ移すことができる。」(1.13)と続き、働き口や移住コストに関する回答が比較的高い。
- また、「どのような条件が揃っても地方で暮らすことに興味はない」(0.64)は他Gr.と比べ顕著に低い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：13%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### 各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.2 男性×就職（新卒）⑤

	A	B	C	D	E
年齢	32歳	27歳	25歳	23歳	29歳
未婚	既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正職員 官公庁・事務	アルバイト 医療業・放射線技師	正社員 薬品製造業・開発	正社員 化粧品日用品製造業・貿易事務	正社員 商社・営業
出身地	茨城県	愛知県	富山県	群馬県	兵庫県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	就職先の選択肢の豊富さ（数）

#### （5）移住を妨げている要素【FGI調査】

##### 東京圏へのポジティブな想い

いずれの層も、東京圏にはやりたい仕事をできている人が多いイメージを持っている。

- **東京には夢がある。いろんな人がいて、将来の夢とかいろんな話を聞けるのでそれが1番面白い。**子供が巣立ったあとに、東京を離れてコーヒー屋でもやって暮らしたい。それまでは東京がいい。満足ポイントは教育環境では大学が多かったり、中高保育園もある点。また、もともと大都会のイメージしかなかったが蔵前は徒歩圏内に秋葉原とか浅草、上野とか下町だったり、独特の文化がある。**東京にもいろんな場所があるなと思って、単純に面白い**と思った。（A:あこがれ系、関心層）
- **やりたい仕事があるところに行く。それでいうと多分東京。おそらく地方にはない。**やりたいことがあれば福岡でも札幌でも仙台でもいい。（B:就職先・質、非関心層）

##### 地方への移住に関心が湧かない理由

いずれの層も、仕事を辞めるタイミングではないことや、お金がかかることをイメージし、移住への関心が湧かない。

- **仕事を辞めなくなったら考える。同じくらい好きになれる仕事があれば考える。**（D:就職先・数、関心層）
- **ある程度栄えているところに住みたいので、富山であれば（地元ではなく）県庁所在地の富山市になると思う。そうすると実家を離れてしまい土地とかもないし、そういう意味じゃ、結構お金がかかる**のかなと思う。（C:就職先・質、非関心層）
- 妻の実家が都内（田端）なので、それがネック。（A:あこがれ系、関心層）

##### 地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

いずれの層も、給与面での不安や新しいコミュニティ参加、車や持ち家が必須のイメージから出費が多くなることに不安を感じている。

- **給与面。見ていたら圧倒的に首都圏が高い。**また、（就職情報を見ると）条件の要綱を見るとやっぱり地方に比べると1割が1.5割は全然違うなという感じがする。（E:就職先・数、関心層）
- **新しいところだとコミュニティとか一から探すのはまた大変**だろうなというのが1番。地元だったら友達とか知り合いもいる。新しいところだと大変。（B:就職先・質、非関心層）
- 地方でも一軒家を建てるとなると、土地とかを買ったりとか、一から始めないといけないのでお金がかかると思う。富山は持家率がナンバー1なので、多分帰るとなると家を建てる。それが普通。あと、車社会。**車がないと生きて行けないかなと思うほど交通の便が悪い。**お酒を飲んだりしたら...。バスとかも田舎だと多分8時とかに終わってしまうと思うので不安。（C:就職先・質、非関心層）

#### （6）移住促進に必要な条件・支援ニーズ【FGI調査】

##### 移住を検討するために必要な条件

「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、完全在宅など仕事ができる環境が整ったら、「漠然とした憧れ」を理由に転入した層は将来性を感じることができるところであれば検討したいと考えた。

- **完全に在宅で出勤頻度がさらに減ったらすぐにでも戻りたい。**仕事を変えることはまだ考えていない。**家賃が安いところ。スーパーが近ければいい。あとできれば山で空気がキレイなところ。自然遊びができるところ。**北とか南は関係なくどこでもいい。（D:就職先・数、関心層）
- **将来性。「今はこういう地域だが、これからこんなことをやって、こんな社会を目指している」とかなら、行く。閉鎖的な地域は、「一見お断り」みたいな雰囲気がある。排他的な印象があるところは行きたくない。**地方都市ならいいが、大きな病院が近くにないと不安。（A:あこがれ系、関心層）
- 土地柄とか特産とかそういったものも全般的に気になる。豊田で言うとトヨタのように地域にまつわる面白い話も知ると愛着がわく。**やりたい仕事があって、自然がそこそこあって自然と子供に触れ合わせられるようなぐらいの環境下で、かつ車で30分が1時間ぐらいのところに大型スーパーやショッピングモール（イオン）があればいい。**（B:就職先・質、非関心層）

##### 国・地方公共団体に求める具体的な支援策

いずれの層からも、住宅や金銭的なサポートを求める意見が聞かれた。「就職先の専門性・質」を理由に転入した層は、地域の将来性が感じられる情報を求めた。

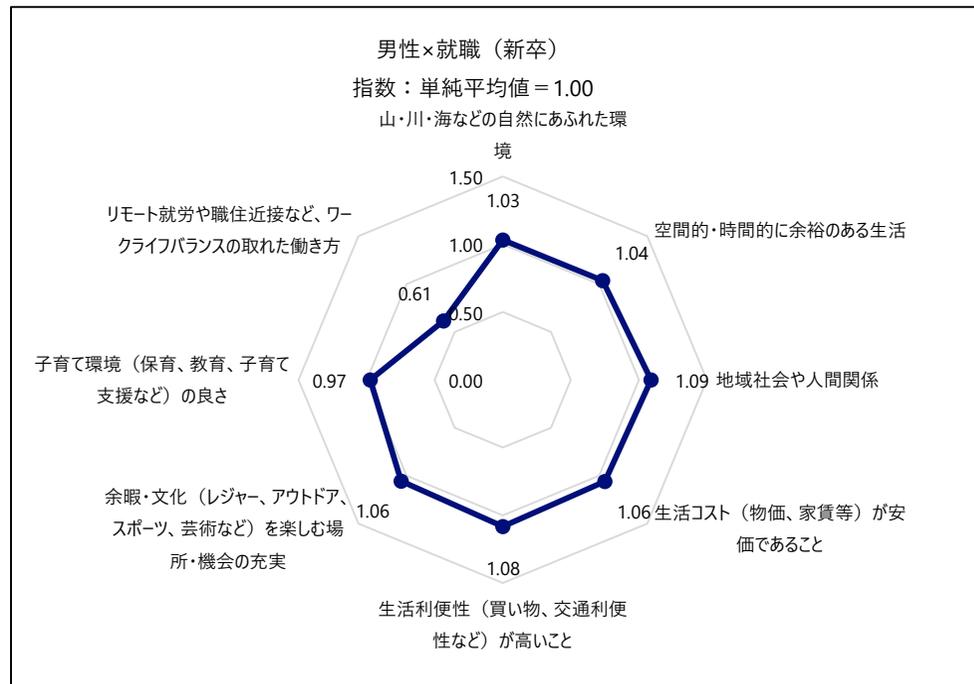
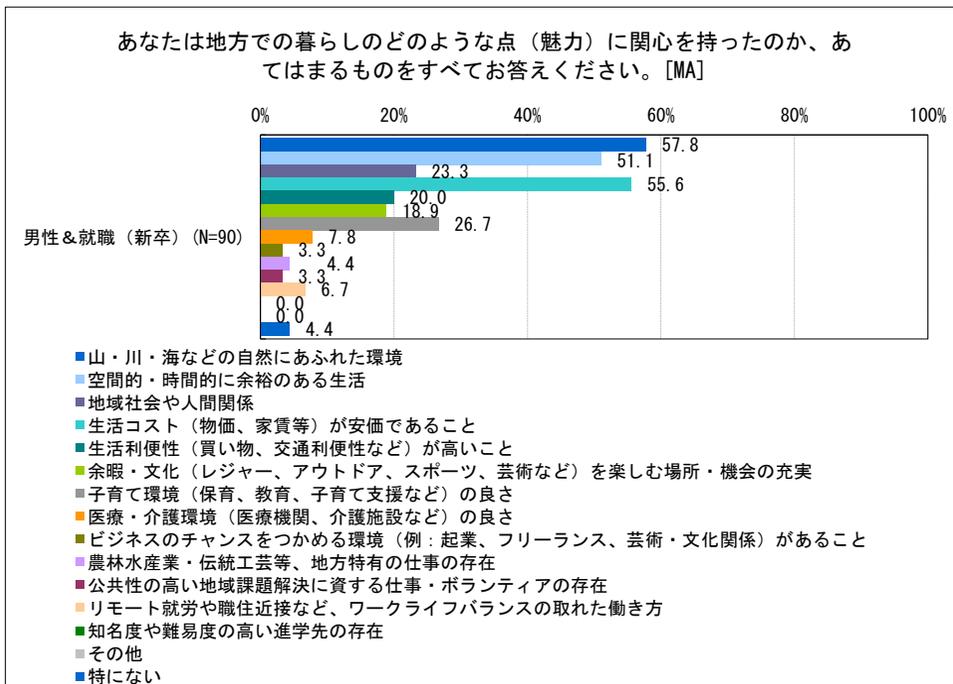
- 引っ越して来たら住宅を無償であげますよとか。**自治体が趣味のコミュニティを作ってそれに応募してほしい。**スポーツとか。**ネットでも調べられるが、自治体がやっているとう安心感**がある。（A:あこがれ系、関心層）
- 地元全体に恩を感じている。中学校のときに交換留学があったのだが、玉村町の施策で50万円もらった。そういったことがいくつかあって、恩を感じている。**子育て支援とか、引っ越しの費用がかかるので、引っ越し費用の負担とかがあればいい。**（D:就職先・数、関心層）
- **子育て支援**とか。江戸川区がその辺に力を入れていると聞いて、自治体が力を入れて施策をしているのは印象がいい。**独身であってもいい町だという印象**になる。（E:就職先・数、関心層）
- **将来性の話**とか。今さいたま市が人口に対する病床数がめちゃくちゃ少ないと聞いた。でも「**こういう方向に進もうとしていると教えてもらえれば、「なるほどな、こういういい方向に進もうとしているのね」と思う。**」（B:就職先・質、非関心層）

## Gr.2 男性×就職（新卒） ⑥

### (7) 関心を持った地方の魅力【アンケート調査】

#### 地方での暮らしのどのような点に関心を持ったのか

- 地方に関心を持った点としては、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(57.8%)が最も高く、「生活コスト（物価、家賃等）が安価であること」(55.6%)、「空間的・時間的に余裕のある生活」(51.1%)と続く。
- 東京圏転入者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、最も高いものでも「地域社会や人間関係」(1.09)と他Gr.より顕著に高い傾向を示す回答はない。
- 一方で、「リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方」(0.61)は他Gr.と比べ相対的に低い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

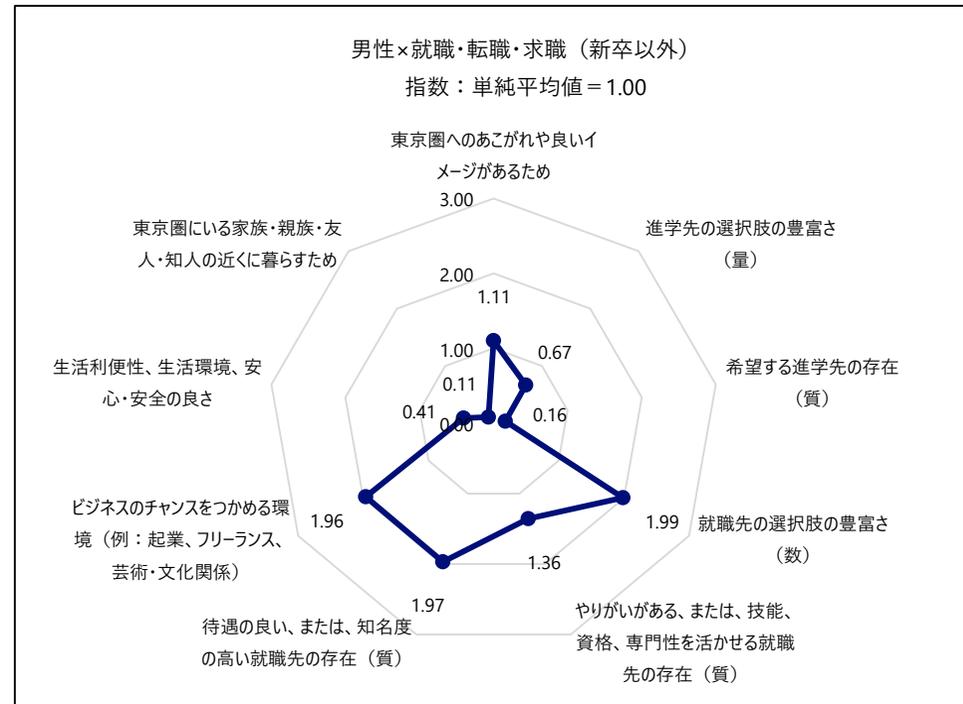
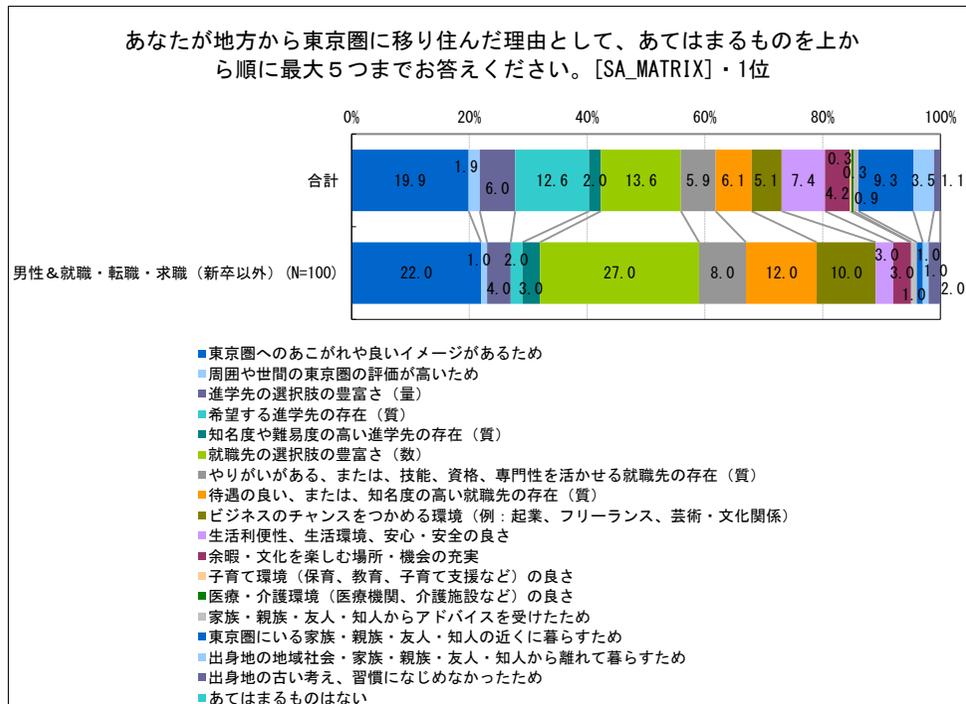
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：10%超の選択肢について分析

## Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外）①

### （1）東京圏に転入した理由・きっかけ【アンケート調査】

#### 東京圏に移り住んだ理由

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(27.0%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(22.0%)、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」(12.0%)と続く。
- 東京圏転入者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(1.99)が最も高く、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」(1.97)、「ビジネスのチャンスをつかめる環境（例：企業、フリーランス、芸術・文化関係）」(1.96)と続く。
- 「就職先の選択肢の豊富さ（数）」、「やりがいのある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」等の就職先の質・量を理由とした転入者が全体の6割超を占め、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」を理由とした転入者も2割超存在する。その他の理由を選択した者は全体と比べて非常に少ない。
- また、男性×就職（新卒）と比べ、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」は高く、「やりがいのある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」は低い。



※全体標本（合計）は東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）。「単純平均値」は標本における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：5%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### \_各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外） ②

	A	B	C	D	E
年齢	37歳	34歳	35歳	25歳	25歳
未既婚	未婚	未婚	既婚	未婚	未婚
本人職業	契約社員 通信業・エンジニア	派遣 運送業・作業員	正社員 サービス業・介護リハビリ	正社員 IT情報通信業・システム開発	正社員 IT情報処理サービス業・研究
出身地	大阪府	愛知県	大阪府	山形県	熊本県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	就職先の選択肢の豊富さ（数）

### （２）東京圏に転入した理由・きっかけ【FGI調査】

#### 東京圏への転入を意識した理由

「就職先の選択肢・質」を理由に転入した層は、給与面でよりよい条件を求めている。  
「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、地方では転職先が限られたことから、選択肢の多い東京圏を意識した。

- 就職してからしばらくは大阪にいて、3～4年ぐらい働いて、首都圏の方が給料とか待遇がいいし勉強になるかなと思って出てきた。（C:就職先・質）
- 仕事とかもちよっと大変で愛知県で転職活動もしていたのだが、ことごとく不採用が続いたので、1回東京圏で探してみようかなと思ったのがきっかけ。（B:就職先・数）
- 目指している職種の中での仙台では選択肢が少なく、比べると条件も首都圏の方が良かった。給料とか年間休日うんぬんが。（D:就職先・数）
- 2～3年間は熊本で働いていたのだが、あまりスキルが身に付かない。例えばデータ入力はただ打っただけなので、今後活かしにくい。幅の広さを考えると、東京だったらいろいろあるのかなと思った。（E:就職先・数）

#### 東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

いずれの層も、東京圏でなくてはならなかったわけではないが、地元からの距離や就活の結果から東京への転入を決断した。免許を持たない人は、車を運転する必要がない点も理由となった。

- たまたま縁あって入社できる会社があったので移住した。（B:就職先・数）
- 他の地域でも良かったが、東北はそもそも範囲外。そうすると手近なところで関東になった。それ以上は遠すぎる。札幌だと海を渡るし。（D:就職先・数）
- もともと人や建物が多いので募集が間違いなく多い。あと車の免許がないのだが、熊本は免許必須だったりするので困る。東京ではそういうことはあまりないと思う。（E:就職先・数）

#### 転入の意思決定に影響を与えた情報／情報源

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した人は、友人からの影響を受けていた。  
「就職先の選択肢・質」を理由に転入した層は、東京でスキルアップしてはというアドバイス、「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、転職サイトを見て募集の多さを感じた。

東京観光の記憶から憧れを持っていた人もいた。

- 大学時代の友達が帰ってこないで、そんなにいいのかな、1回住んでみようかなという感じ。それだけ帰ってこないなら何か東京に魅力があるのだろうから1回来てみようかなと思った。（A:あこがれ系）
- 同業者と話をしても、勉強するなら一度ぐらい東京の方で働いてもいいんじゃないかとはよく言われていた。東京の方が大きなグループの病院があるので、そういうところで働いたら勉強になるかなとよく言われていた。（C:就職先・質）
- 仕事は事前にネットで調べた。イン転職やIndeedで見ると多いと思っていた。（E:就職先・数）
- 昔から東京には旅行とかで来ていた。ディズニーランドとか浅草とか、いわゆる東京観光だった。テレビとかラジオの情報とかもいっぱい入ってくるし。大学進学の時には思い切ることができなかったで、昔から憧れみたいなものはあった。高層ビル群とか、子供の頃に旅行に来たときに焼き付いていたので、いつかこういうところで働いてみたいというのは昔からあった。（B:就職先・数）

#### 転入当時の本人の意向

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した人は、バーやライブハウスなどを楽しみ

- ちょっとしたバーに行くとか、小さなライブハウスで開かれるライブにもっと行きたいというのがあった。（A:あこがれ系）

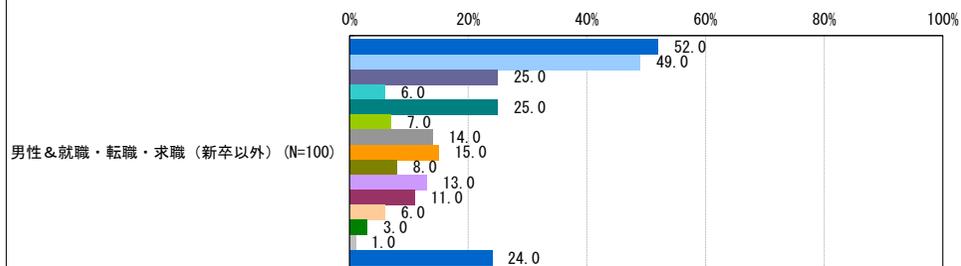
## Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外） ③

### （3）移住を妨げている要素【アンケート調査】

#### 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(52.0%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(49.0%)、「転居に必要なコストが大きいこと」(25.0%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(25.0%)と続く。
- 東京圏転入者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「不安要素や阻害要因は特ない」(1.45)が最も高いことが特徴的である。その後は、「医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること」(1.40)、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(1.29)と続き、働き口や移住コストに関する回答が比較的高い。
- 一方で、「同居するパートナー・家族・親族の都合（仕事、介護等）で東京圏を離れにくいこと」(0.38)や「レジャー・娯楽、スポーツ、文化・芸術施設が少ないこと」(0.76)は他Gr.と比べて低い。

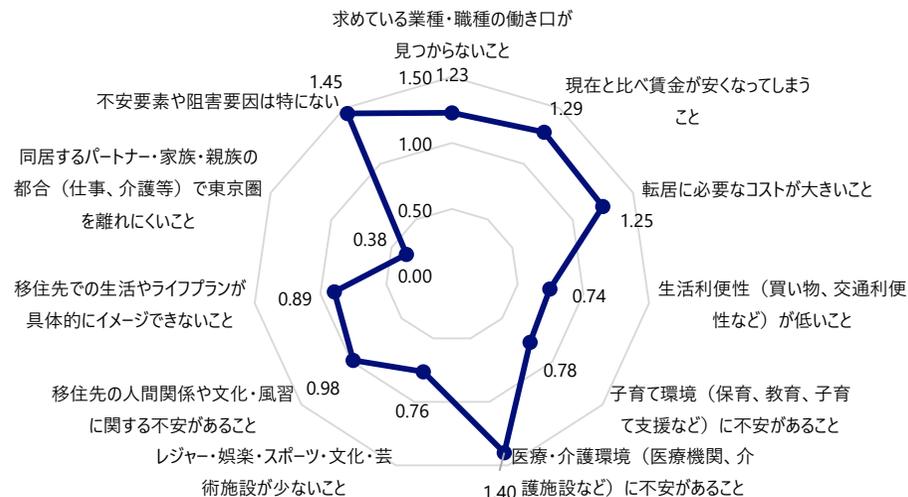
地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。[MA]



- 求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
- 現在と比べ賃金が安くなってしまうこと
- 転居に必要なコストが大きいこと
- 住まいに関する情報が得にくいこと
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に不安があること
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること
- レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと
- 災害対策や治安に不安があること
- 移住先の人間関係や文化・風習に関する不安があること
- 移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと
- 同居するパートナー・家族・親族の都合（仕事、介護等）で東京圏を離れにくいこと
- 家族・親族・友人・知人等の周囲からの引き留めを受けたこと
- その他
- 不安要素や阻害要因は特ない

#### 男性×就職・転職・求職（新卒以外）

指数：単純平均値 = 1.00



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

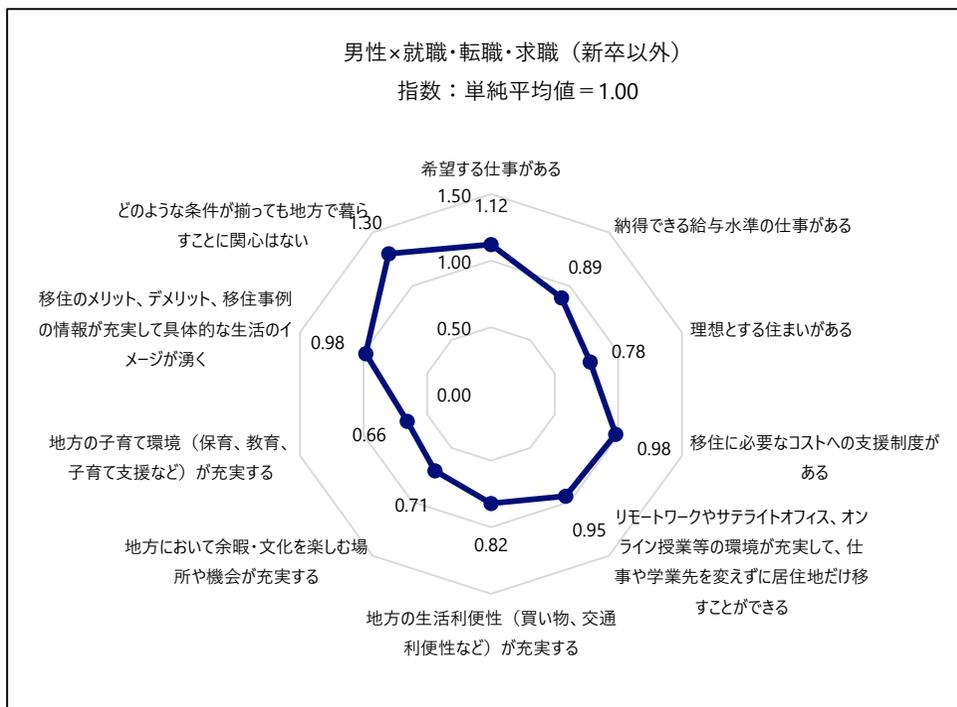
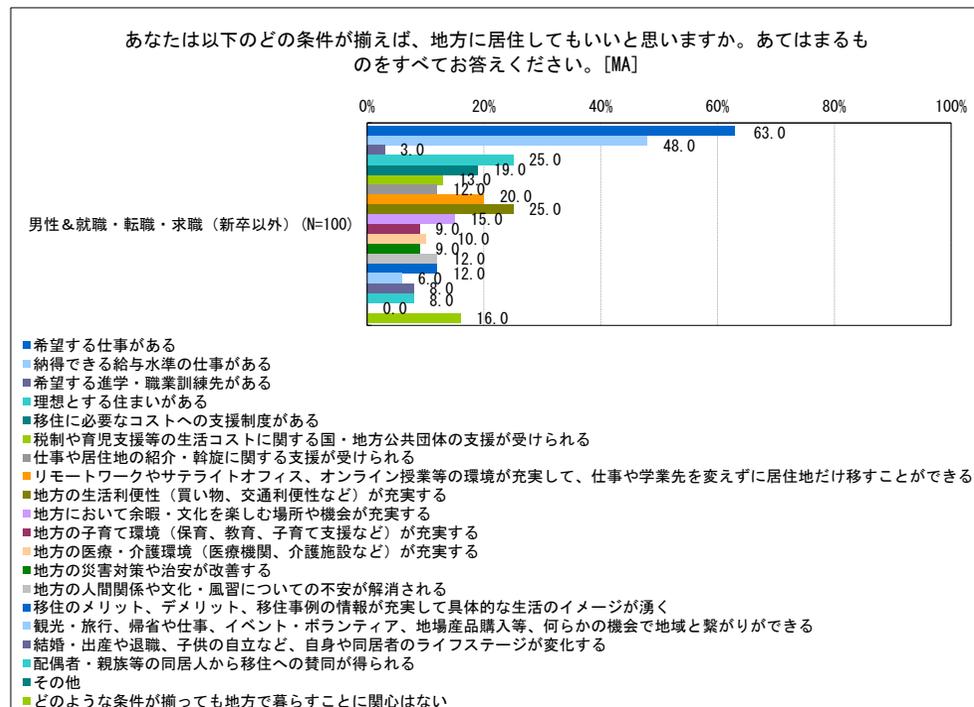
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：8%超の選択肢について分析

## Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外） ④

### （４）移住促進に必要な条件・支援ニーズ【アンケート調査】

どのような条件が揃えば、地方に居住してもいいと思うか

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(63.0%) が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(48.0%)、「理想とする住まいがある」(25.0%)、「地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する」(25.0%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「どのような条件が揃っても地方で暮らすことに興味はない」(1.30)が最も高く、「希望する仕事がある」(1.12)と続き、その他の選択肢の相対指数は1.00未満である。
- 特に、「地方の子育て環境（保育、教育、子育て支援など）が充実する」(0.66)、「地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する」(0.71)等は低く、他Gr.の70%程度である。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：13%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### 各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外） ⑤

	A	B	C	D	E
年齢	37歳	34歳	35歳	25歳	25歳
未婚	未婚	未婚	既婚	未婚	未婚
本人職業	契約社員 通信業・エンジニア	派遣 運送業・作業員	正社員 サービス・介護リハビリ	正社員 IT情報通信業・システム開発	正社員 IT情報処理サービス業・研究
出身地	大阪府	愛知県	大阪府	山形県	熊本県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	就職先の選択肢の豊富さ(数)	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在(質)	就職先の選択肢の豊富さ(数)	就職先の選択肢の豊富さ(数)

#### (5) 移住を妨げている要素【FGI調査】

##### 東京圏へのポジティブな想い

いずれの層も、仕事や子育ての環境としては東京圏が地方に勝ると考えている。また車を使わずに生活ができる点に利便性を感じている。

- 携われるプロジェクトの規模感や得られるものが全然違うと思う。まずはそのための力をつける段階かなと考えている。(D:就職先・数、関心層)
- 給料もいいので、働けるうちは働いて、それからでもいいかなと思う。子供を預けられる環境とか、会社の託児所とかもこっちの方が体制が整っているかなと思う。(C:就職先・質、関心層)
- 電車に乗ればある程度のところに行けるので、それはすごくラク。熊本は車がないと移動が難しいが、その点都内はお金はかかるがラク。(E:就職先・数、非関心層)

##### 地方への移住に関心が湧かない理由

いずれの層も“今は移住する理由が特段ない”と考えている。

- こっちでやる事がなくなったら地元に戻るぐらいはいいかな。(E:就職先・数、非関心層)
- 子供が成人するぐらいのタイミングかな。今ではないかなと思う。大学は関西にもそこそこあるが数は東京の方が多く、就職もこっちの方が都合がいいのかなということはちょっと考えてしまう。(C:就職先・質、関心層)

##### 地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

いずれの層も“車社会であること”と“地域コミュニティへの参加”について不安を感じている。

- 自分の持病の関係で自動車運転は避けるよう指導を受けているが、山形は圧倒的な車社会。地方に移住したいが車は避けたいという事情がある。(D:就職先・数、関心層)
- 実家では親がやってくれたがゴミ出しの当番や掃除、町内会費集めなどが結構あった。もしかしたらそういうところもストレスになるのではないかと思う。(B:就職先・数、関心層)
- ゴミ当番とか、大阪の河内長野に住んでいる友達は溝の掃除が当番で回ってくるという。休みの日を別のことに使われるのはハッキリ言ってイヤ。(A:あこがれ系、関心層)
- 地元の顔見知りというのがある。代々そこに住んでいて顔見知り同士で仲良くやっていて、蚊帳の外になるみたいなのが思い浮かんだ。(D:就職先・数、関心層)

#### (6) 移住促進に必要な条件・支援ニーズ【FGI調査】

##### 移住を検討するために必要な条件

いずれの層も、“仕事が無くなった”、または“まとまったお金が手に入ったら”など消極的な条件を挙げた。

- コロナで仕事が無くなったとか、緊急的な、戻らざるを得ない状況に陥ったときだけかな。(E:就職先・数、非関心層)
- お金に余裕ができれば仙台や福岡にも住んでみたい。引っ越しや仕事をしない間の生活にかかるまとまったお金があると思う。宝くじの1等が当たれば一番いい。(A:あこがれ系、関心層)
- 移住する手間。引っ越しやいろいろなことの解約、お金がかかったり様々ある。仕事も探し直したりしないといけない。それを考えるとわざわざ戻らなくてもいいかなと思う。面倒くさい。とっても簡単でめっちゃ安いなら戻るかもしれない。(E:就職先・数、非関心層)

##### 国・地方公共団体に求める具体的な支援策

いずれの層も、地方の若さ(若年層割合)や発展が期待できそうな情報を知りたいと思っている。さらに、移住者向けの制度を検索できるポータルを求める意見もみられた。

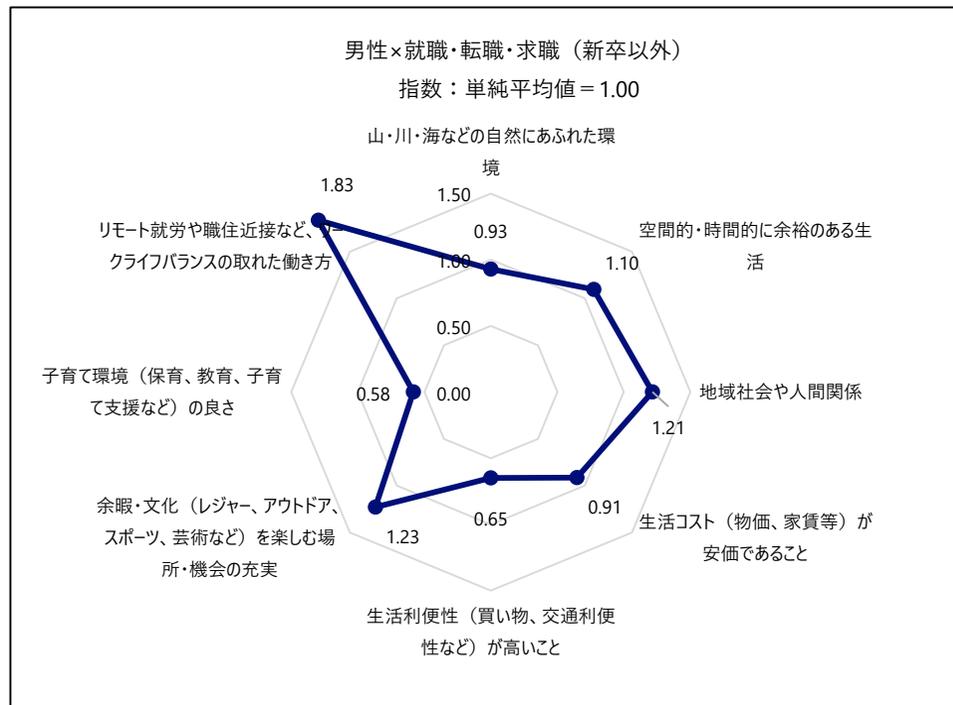
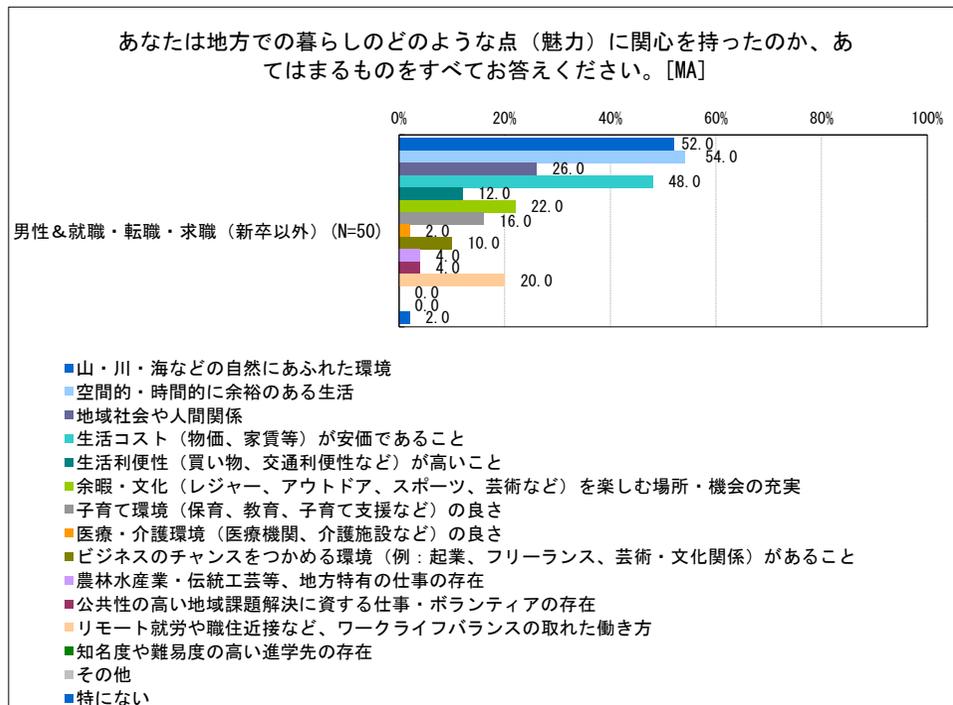
- 発展具合と就職情報。以前とどれぐらい変わって発展しているか。盛り上がっている感じであれば戻っても楽しめる部分があるのかなと思う。新鮮味や新しさを感じるので興味がわくと思う。(E:就職先・数、非関心層)
- その地域にどういふ人が主に住んでいるかを知りたい。外国人などが多くと偏見かもしれないがマナーや治安が悪くなる印象があるので、移住するとしたら重要。若い人が多かっていると、これかもどんどん人が増えるかな、生活インフラが整っていくかなというイメージが付きやすい。(C:就職先・質、関心層)
- 同年代の人が都会に行きたいと思っている人が多いのか、住んでいて満足しているのかなど知りたい。(A:あこがれ系、関心層)
- 移住者向けの総合ポータル。地域それぞれの補助制度や優遇制度を集約して検索するとパッと出るような、ポータルみたいなものがあるといい。自治体の生活課とか、かなり生活に根差したところなら多少信用できそう。(D:就職先・数、関心層)

## Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外） ⑥

### (7) 関心を持った地方の魅力【アンケート調査】

#### 地方での暮らしのどのような点に関心を持ったのか

- 地方に関心を持った点としては、「空間的・時間的に余裕のある生活」(54.0%)が最も高く、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(52.0%)、「生活コスト（物価、家賃等）が安価であること」(48.0%)と続く。
- 東京圏転入者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方」(1.83)、「余暇・文化（レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など）を楽しむ場所・機会の充実」(1.23)、「空間的・時間的に余裕のある生活」(1.10)と続く。
- 一方で、「子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ」(0.58)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が高いこと」(0.65)は他Gr.と比べ相対的に低い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

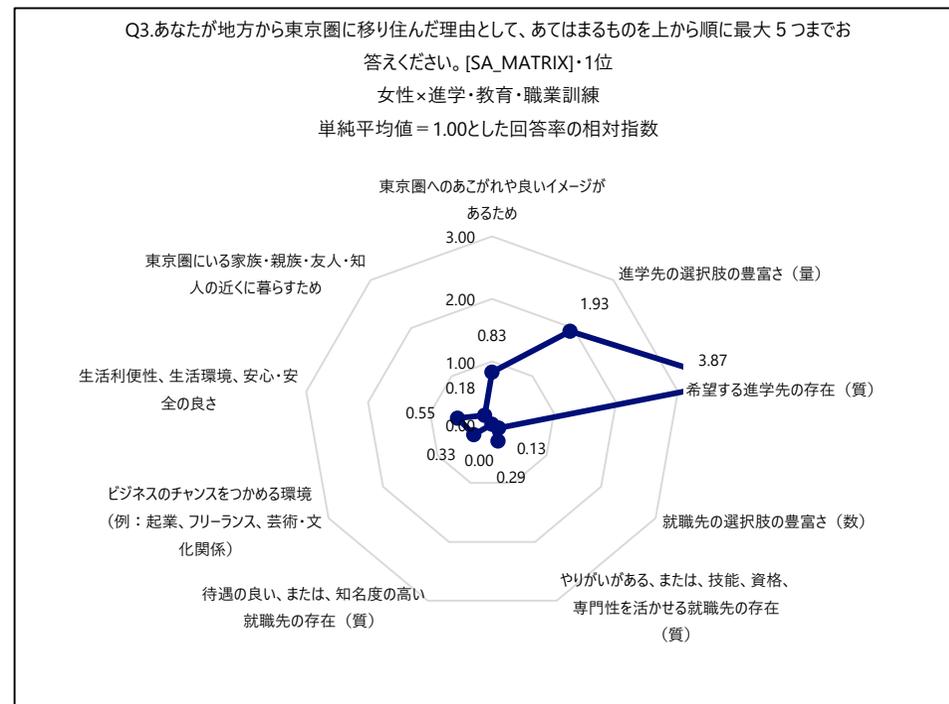
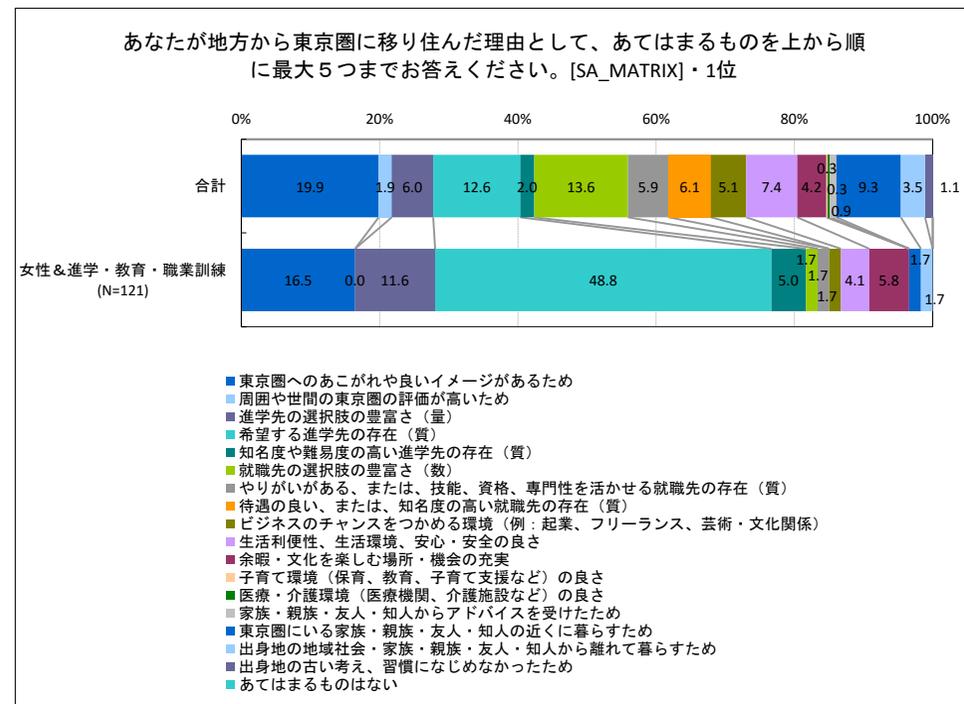
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：10%超の選択肢について分析

## Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練①

### (1) 東京圏に転入した理由・きっかけ【アンケート調査】

#### 東京圏に移り住んだ理由

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「希望する進学先の存在（質）」(48.8%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(16.5%)、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(11.6%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「希望する進学先の存在（質）」(3.87)が最も高く、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(1.93)と続き顕著に高い一方で、そのほかの選択肢の相対指数は1.00以下である。ただし、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(0.83)は他Gr.よりは少ないものの、16%程度存在する。



※全体標本（合計）は東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）。「単純平均値」は標本における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：5%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### \_各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練②

	A	B	C	D	E
年齢	24歳	28歳	28歳	28歳	28歳
未婚	未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正社員 不動産業・事務	正社員 IT業・事務	正社員 教育業・事務	正職員 官公庁・事務	正社員 運送業・営業企画
出身地	愛媛県	茨城県	山口県	福岡県	長野県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在(質)	希望する進学先の存在(質)	進学先の選択肢の豊富さ(量)

### (2) 東京圏に転入した理由・きっかけ【FGI調査】

#### 東京圏への転入を意識した理由

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、余暇重視でどこにでも遊びに行けそうという考えから東京に来ることを意識していた。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、偏差値が高い学校が都市部に限られることもあり、行きたい大学を選択、また将来の就職のことも考えて結果的に東京に転入したという形だった。

- 高校の友達は地元に残っている人が多く、皆と同じなのがイヤで東京に出てきた。18で専門学校に出て来たのだが、東京がいいなという感じで東京に来て、茨城に帰りたとは思ってなくて、実家にも帰らなくていやという感じ。(B:あこがれ系)
- 目指していた大学が東京にあるのと、情報も近いほうが集まるし、その大学向けのクラスがきちんとあるので効率よく目指すところに入れるかなと思ったから。母が京都の大学に行っていて旅行でもよく行っていたから最初は京都の大学でもいいかなと思っていた。(C:進学先・質)

#### 東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

いずれの層も、「東京でしか叶えられないことがある」と考えて東京への転入を決断していた。

- 東京なら何かしらできるって思った。どこにでも遊びに行けるし、音楽が好きでライブが好きだったので、東京に来たらライブハウスにたくさん行けるという、浅はかな考え。(B:あこがれ系)
- 高2のときに京都の志望校のオープンキャンパスに行ったらちょっと思っていたものと違い、それまで頑張っていたのでレベルは落としたくないのでどこかと考えたら東京だなと思った。それと、当時マスコミ関係に就職したいと思ったこともあって、テレビとか出版とかエンタメ系などの制作の方に興味があったから、それなら東京だなと思った。(C:進学先・質)

#### 転入の意思決定に影響を与えた情報／情報源

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、不安を感じておらず特段情報収集はしていなかった。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、東京圏に親戚がいる場合は泊まりに行つて事前に観光することで、最新の情報に触れていた。

- 周りに東京にいる人もなくて、親からは東京は危ないぞ、怖いぞと言う漠然とした情報だった。家族仲はいいし、一人っ子だけれど放任主義で、行ってこい、お前の精神を叩き直してこい、みたいな感じで追い出された。(A:あこがれ系)
- 叔父と叔母が横浜に住んでいて、何度か泊まりに行つて東京観光をさせてもらった。父も東京の大学なので話は聞いていたが時代が違いすぎて参考にならなかった。叔父や叔母のところ遊びに行ったり話を聞くと、東京は都会で自然がなくて人が多くてビルばかりみたいなイメージがあったのに、実際は全然違って、ちょっと田舎っぽかったり、下町っぽかったり、公園とか自然もたくさんあるんだなと知って、東京に出るハードルが下がったと思う。(C:進学先・質)

#### 転入当時の本人の意向

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、希望して東京に来ているためポジティブにとらえていた。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、関西圏よりも出身県に近く身近であると感じて東京に進学を決めていた。

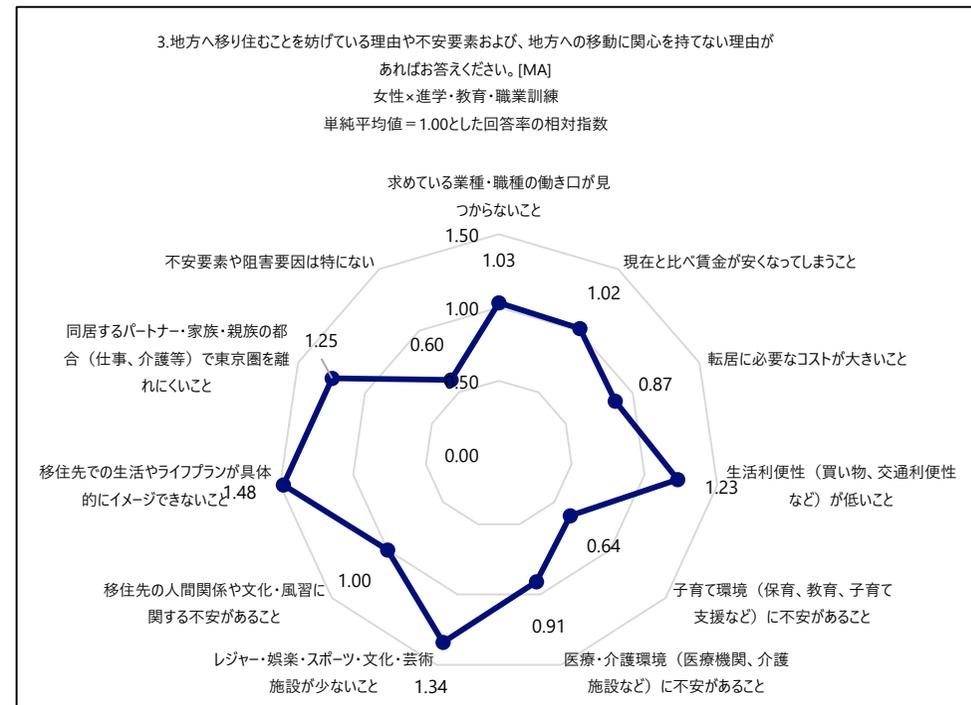
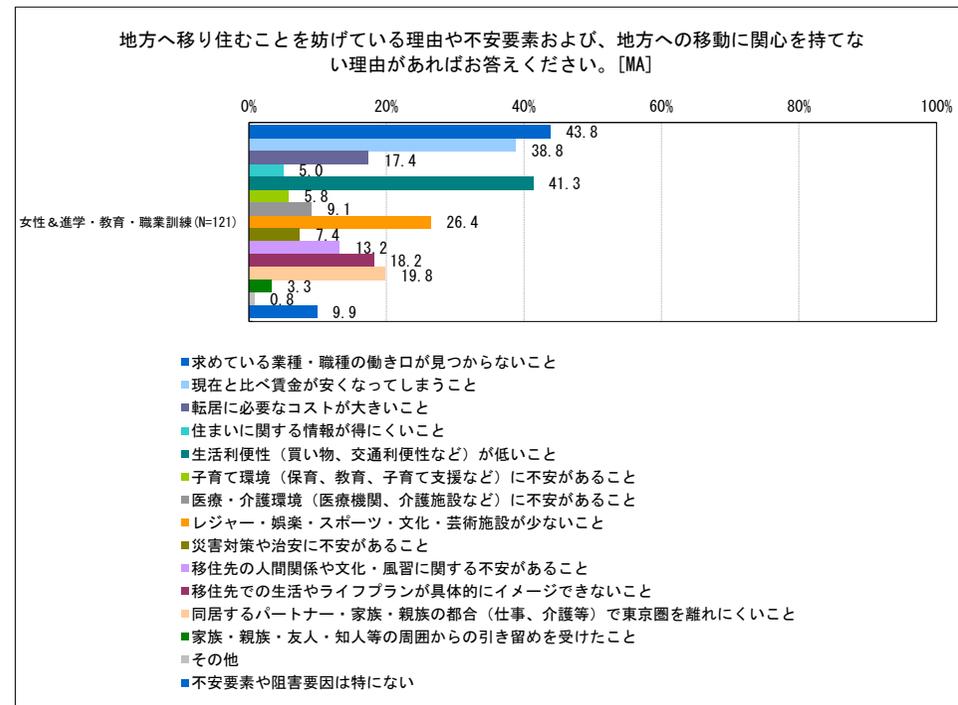
- 東京に来たいのが先立った。行きたいと思う場所やイベントは全部東京にあった。(B:あこがれ系)
- みんな関西か名古屋か東京か他の地方を選ぶけど、一番身近だったのが東京だったので。新幹線で2時間で行けるし、旅行に行くのもまず東京に出てからだった。関西は言葉がちよっと違うし、東京の方が長野とギャップがないと思った。(E:進学先・質)

## Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練③

### (3) 移住を妨げている要素【アンケート調査】

#### 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(43.8%)が最も高く、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(41.3%)、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(38.8%)と続き、全体の傾向と同じく仕事関連のマイナス要素等が上位回答に挙がる。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと」(1.48)が最も高く、「レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと」(1.34)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(1.23)と続き、プライベートの生活水準を理由に挙げる回答者が他Gr.より比較的多いことは特徴的である。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

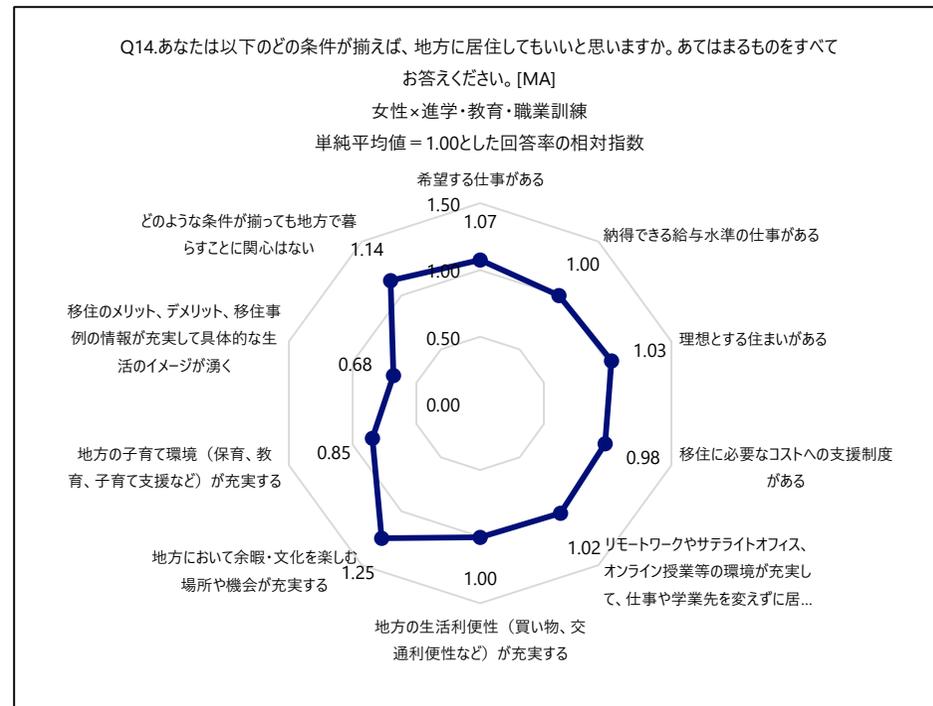
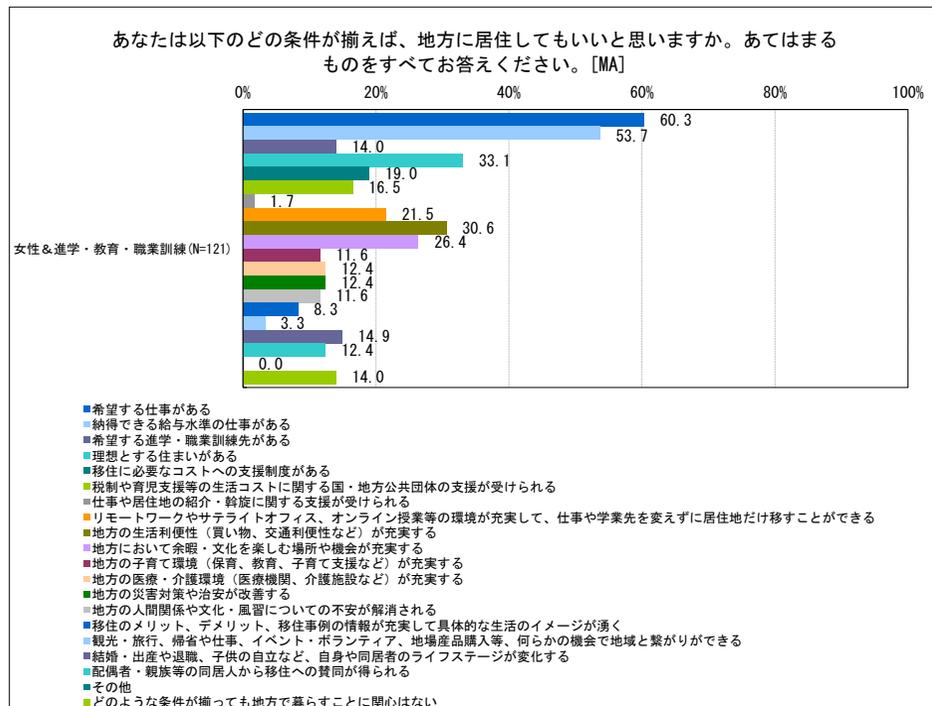
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：8%超の選択肢について分析

## Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練④

### (4) 移住促進に必要な条件・支援ニーズ【アンケート調査】

どのような条件が揃えば、地方に居住してもいいと思うか

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(60.3%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(53.7%)、「理想とする住まいがある」(33.1%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する」(1.25)が最も高く、「どのような条件が揃っても地方で暮らすことに興味はない」(1.14)、「希望する仕事がある」(1.07)と続く。
- 一方で、「移住先のメリット、デメリット、移住事例の情報が充実して具体的な生活イメージが湧く」(0.68)、「地方の子育て環境（保育、教育、子育て支援など）が充実する」(0.85)は他Gr.と比べて低い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：13%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### \_各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練⑤

	A	B	C	D	E
年齢	24歳	28歳	28歳	28歳	28歳
未婚婚	未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正社員 不動産業・事務	正社員 IT業・事務	正社員 教育業・事務	正職員 官公庁・事務	正社員 運送業・営業企画
出身地	愛媛県	茨城県	山口県	福岡県	長野県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在(質)	希望する進学先の存在(質)	進学先の選択肢の豊富さ(量)

#### (5) 移住を妨げている要素【FGI調査】

##### 東京圏へのポジティブな想い

いずれの層も、便利さから、東京圏を離れるのは惜しいと感じていた。

- 今のこの便利な生活をしてしまうと元に戻れない。地方にずっといればこの便利な生活は知らなくて一生を送れたと思うけど、一度来たらもう手放せない。Uber Eatsとか、家を出ればコンビニはすぐそばに絶対あり、電車に乗ればどこにでも行けて、車は不要だし、店も夜遅くまでやっている。(A:あこがれ系、非関心層)
- 横浜に住んでいるところによると東京は子育て面では幼稚園から受験とかで大変そうだが、今のところ結婚予定もないし、美容院とかピアノの教室などはずっと同じところだし、友達も首都圏の方が多くなったので、なかなか離れる選択はできないかなと思う。(C:進学先・質、関心層)

##### 地方への移住に関心が湧かない理由

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、現状の東京圏での生活に満足しており地方移住への関心が湧いていない。

「進学先の選択肢・質」を理由に転入した層は、興味はあるものの仕事や進学の実現性の少なさをデメリットと感じていた。

- 結婚相手が地方転勤なら行く決心ができるけど、今は子供もいないし、何となく暮らしているので、この状況で地方に行くことは考えてない。(A:あこがれ系、非関心層)
- 選択肢が狭まること。地方に住み始めた後に生活スタイルが変わり、親の介護とかがあったら、転職をしたくても探すのが格段に難しいと思う。それに子育てしていて、自分の子供が万が一アイドルになりたいとか、音楽大学に行きたいと言われたら、東京まで通わないといけなくなるので、それができなかったらと思うとかわいそうだなと思う。(E:進学先・質、関心層)

##### 地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

いずれの層も地方独特のコミュニティへの不安と、仕事があるのかという不安がみられた。

- また一から人間関係を作ることになり、今みたいに気心の知れた友人達と疎遠になるのは不安。逆に東京から大阪に行くと、東京もんが来た、気取ってるよねと言われたらしくて恐ろしいなど思った。地方のコミュニティがあって、そこに入るのは勇気がいる。(A:あこがれ系、非関心層)
- C:コミュニティが心配なと、夫の転勤だったら、自分の仕事はどうしようかなと思う。地方なら専業主婦でいいの、仕事をしなくてもいい仕事があるのか心配。(進学先・質、関心層)

#### (6) 移住促進に必要な条件・支援ニーズ【FGI調査】

##### 移住を検討するために必要な条件

いずれの層も「施設の多さやアクセスの良さの面で、ある程度都会であること」を条件としていた。

- 東京大阪に引けを取らない地方なら問題ない。人の多さは仕事の多さにつながるの、人の多さ、アクセスの良さ、施設があってという感じ。(A:あこがれ系、非関心層)
- 田舎度(が高すぎないこと)。理想では長野市以上。岐阜などはダメ。上はどこでもいい。施設数、新幹線がとまる、自宅とコンビニとか、自宅と都会とかにアクセスが良いこと。(E:進学先・質、関心層)
- 天候の変化が得意ではないので、北陸、東北、北海道、ちょっと憧れはあるけど沖縄と九州南部はないかな。個人的に中国四国、特に瀬戸内海側は気候もいいし、台風の被害も少ない。(C:関心層、進学先・質)
- 全部の地方が東京と同じくらいならいいと思う。東京と同じ電車の本数、店の多さなら。(B:非関心層、あこがれ系)

##### 国・地方公共団体に求める具体的な支援策

いずれの層からも地域コミュニティを心配する声が上がっており、そのために移住者が多い地域を知りたいという支援策を希望していた。

なお子育て支援策については全員が「イメージをしたことがないのでわからない」と回答。

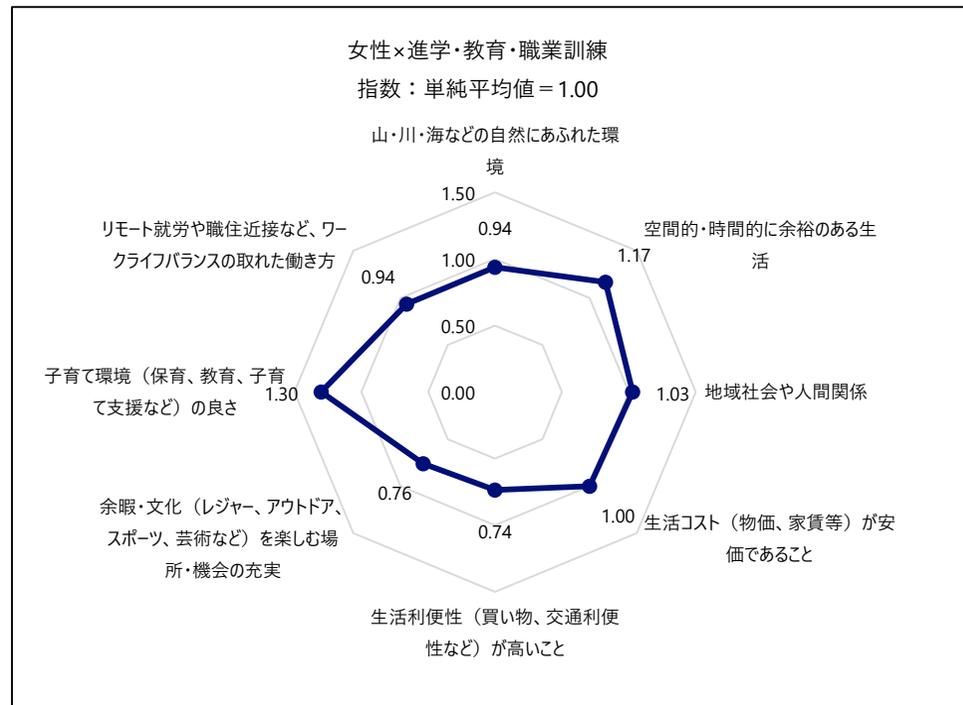
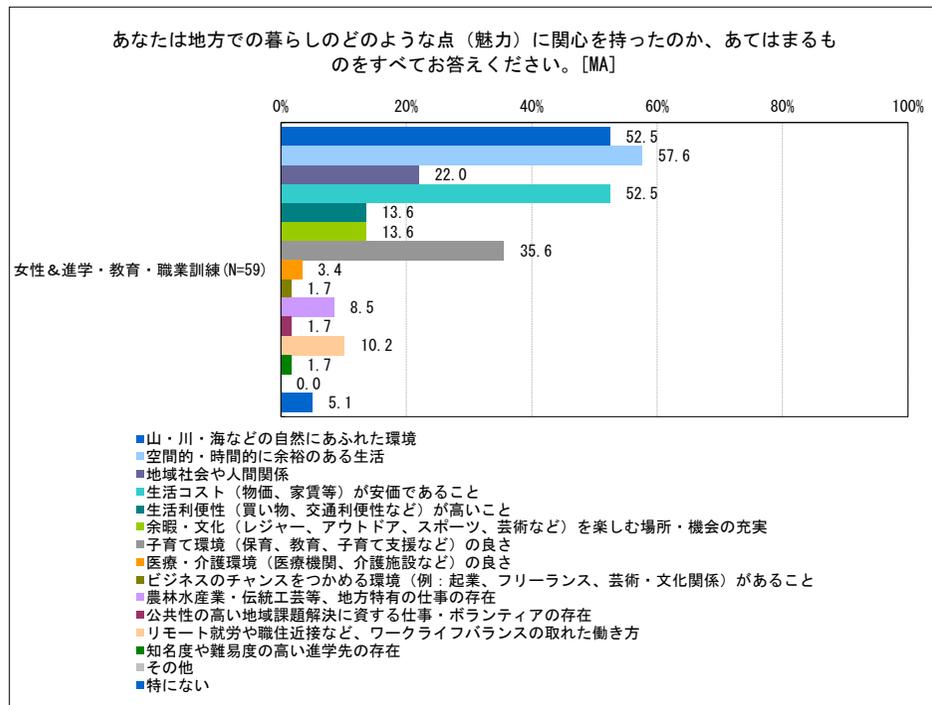
- 移住者情報SNSがあったらいいかも。その地域限定の移住者。より詳しいことが知れるので、地域ごとにあったほうがいいと思う。(B:あこがれ系、非関心層)
- 東京じゃなくていいから、移住してきた人が多い地域があれば、入りやすいだろうと思う。みんな気持ちがわかるし、昔からの繋がりがあるわけではないから...。(C:進学先・質、関心層)

## Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練⑥

### (7) 関心を持った地方の魅力【アンケート調査】

#### 地方での暮らしのどのような点に関心を持ったのか

- 地方に関心を持った点としては、「空間的・時間的に余裕のある生活」(57.6%)が最も高く、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(52.5%)、「生活コスト（物価、家賃等）が安価であること」(52.5%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ」(1.30)が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」(1.17)、「地域社会や人間関係」(1.03)と続く。
- 一方で、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が高いこと」(0.74)、「余暇・文化（レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など）を楽しむ場所・機会の充実」(0.76)等は他Gr.と比べて低い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：10%超の選択肢について分析

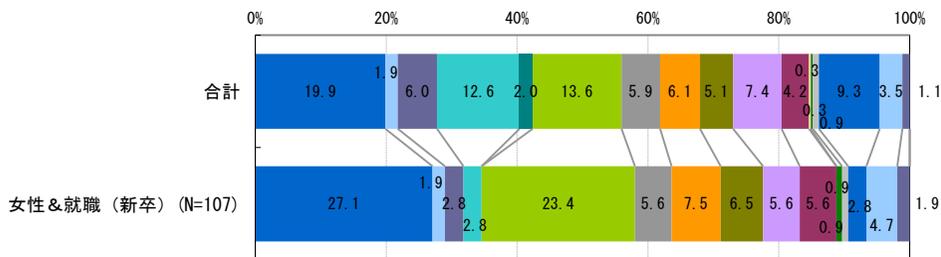
## Gr.5 女性×就職（新卒）①

### (1) 東京圏に転入した理由・きっかけ【アンケート調査】

#### 東京圏に移り住んだ理由

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(27.1%)が最も高く、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(23.4%)、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」(7.5%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(1.72)が最も高く、「東京へのあこがれや良いイメージがあるため」(1.36)、「ビジネスのチャンスをつかめる環境（例：企業、フリーランス、芸術・文化関係）」(1.27)と続く。
- 一方で、「希望する進学先の存在（質）」(0.22)、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(0.47)等の進学先関係の回答や、「東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため」(0.30)は顕著に低い。

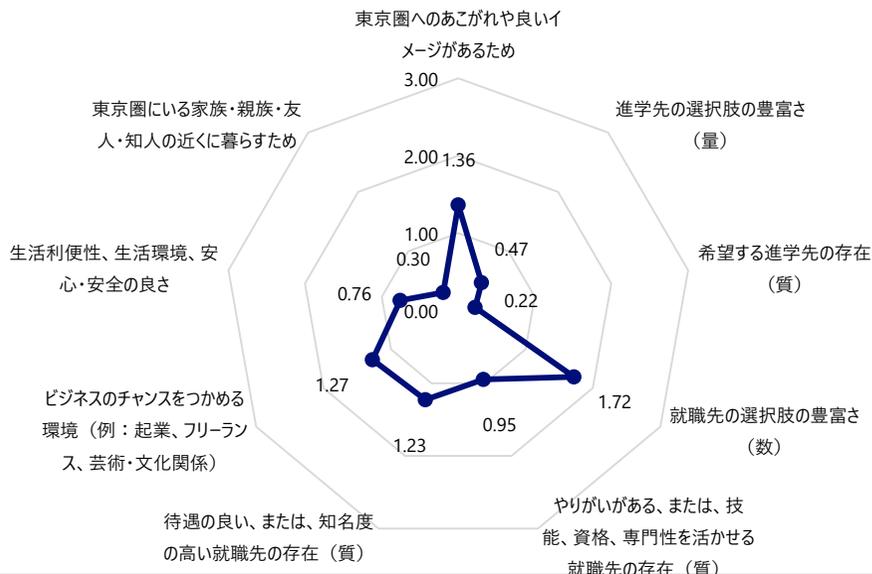
あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA\_MATRIX]・1位



- 東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため
- 周囲や世間の東京圏の評価が高いため
- 進学先の選択肢の豊富さ（量）
- 希望する進学先の存在（質）
- 知名度や難易度の高い進学先の存在（質）
- 就職先の選択肢の豊富さ（数）
- やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）
- 待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）
- ビジネスのチャンスをつかめる環境（例：起業、フリーランス、芸術・文化関係）
- 生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）の良さ
- 家族・親族・友人・知人からアドバイスを受けたため
- 東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため
- 出身地の地域社会・家族・親族・友人・知人から離れて暮らすため
- 出身地の古い考え、習慣になじめなかったため
- あてはまるものはない

#### 女性×就職（新卒）

指数：単純平均値=1.00



※全体標本（合計）は東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）。「単純平均値」は標本における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：5%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### 各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.5 女性×就職（新卒）②

	A	B	C	D	E
年齢	30歳	30歳	25歳	24歳	26歳
未婚婚	既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	専業主婦	正社員 医薬品製造業・研究	正社員 人材紹介サービス業・営業事務	正社員 保育園・看護師	正社員 鉄鋼業・一般事務
出身地	宮城県	長崎県	北海道	北海道	奈良県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実	生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ

### （2）東京圏に転入した理由・きっかけ【FGI調査】

#### 東京圏への転入を意識した理由

「就職先の選択肢・質」を理由に転入した層は知識を活かせる場として、「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、地元に戻らないために東京圏を意識。

- 博士課程まで行って、それを活かせるメーカーの研究とかになると、東京圏に出て来るか、地方の研究所に行くかどっちかだが、地元長崎県にはなかった。（B:就職先・質）
- 1回親元を離れてみて、すごく離れて良かったなという面が多かった。（A:あこがれ系）
- 若いうちに東京で遊んでおきたい気持ちはもちろんあった。（C:就職先・数）

#### 東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

「就職先の選択肢・質」を理由に転入した層は、グローバルな仕事を求めて東京圏に決定。

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、地元より都会で地元から離れすぎない場所として東京に移住を決めた。

- 関西の会社もあったが、行きたい会社ではなかった。川崎とか都会にある会社は割とグローバルなイメージ。空港からも近いし、いろんな会社からのアクセスがいいというところで、広がっているイメージなのだが、長崎にある会社だとあまりグローバルじゃないからあまり行きたいと思わなかったかもしれない。（B:就職先・質）
- 優秀な人と一緒に働きたい。自分の経験を積むには東京に優秀な人が集まっているというイメージ。あとは大きい企業とか、グローバルな、企業的な地位が高い会社もやっぱり東京に集まっているイメージ。うちは別に大きな会社ではないのだが、優秀な人が集まっている会社とは思っている。そういう基準になると、東京にしかない。（C:就職先・数）
- 仙台も東北の中では都会だと思うのだが、それでも仙台以外の東北なんて田舎だし、仙台に近い関東でも、埼玉とか群馬とかは全く考えなかった。それよりも西に行くと、もっと時間がかかってしまうのかなと思った。（A:あこがれ系）

#### 転入の意思決定に影響を与えた情報／情報源

「漠然とした東京圏へのあこがれ」や「余暇の充実」を理由に転入した層は、家族の言葉や過去に訪れた経験が影響した。「就職先の選択肢・質」を理由に転入した層は、テレビ番組を通じて東京圏のイメージがあったことで、他の地域よりも身近に感じた。

- 兄が東京に住んでいて、いろんなお店に連れて行ってくれたり、いろんな場所に連れて行ってくれて、すごく楽しかったのでこんな生活がしてみたいというのがあった。（A:あこがれ系）
- 母親が1回は都会で暮らしてみたかったと話していた。自分も家族旅行で行って楽しかったので1回は住んでみたいというのがあった。（D:余暇充実）
- 駅前が都会というぐらいのイメージ。ラゾーナ川崎とか、結構テレビの媒体に出ているイメージがあった。イベントとかがめざましテレビに出ていたので、一応知ってはいた。（B:就職先・質）

#### 転入当時の本人の意向

「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、絶対に地元には戻りたくないという気持ちだった。就職先の配属で東京圏転入となった人は、戸惑いとともに転入していた。

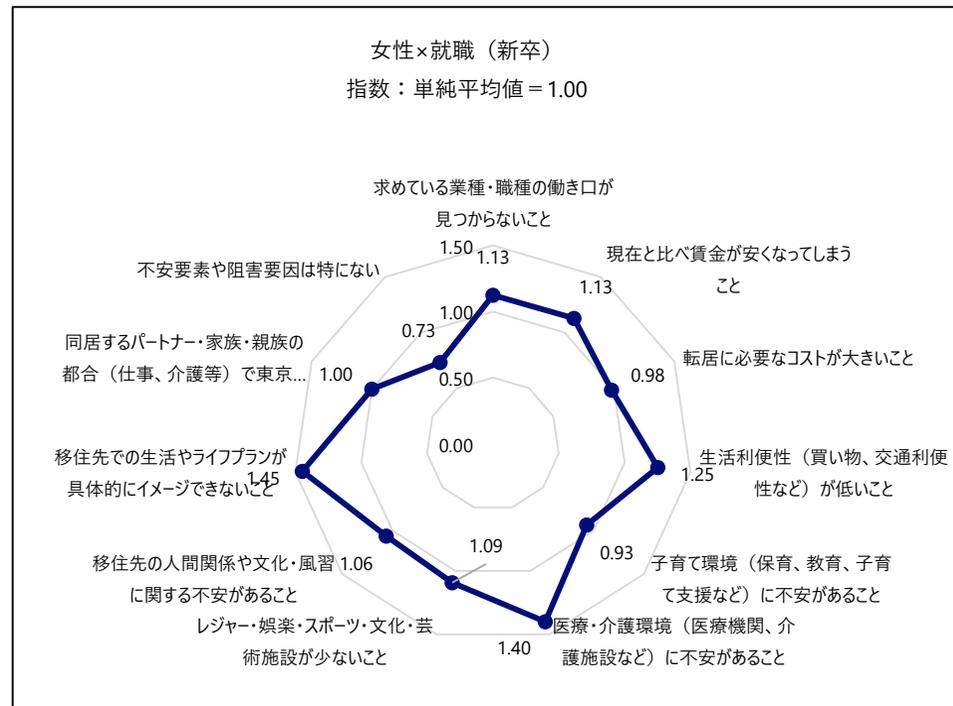
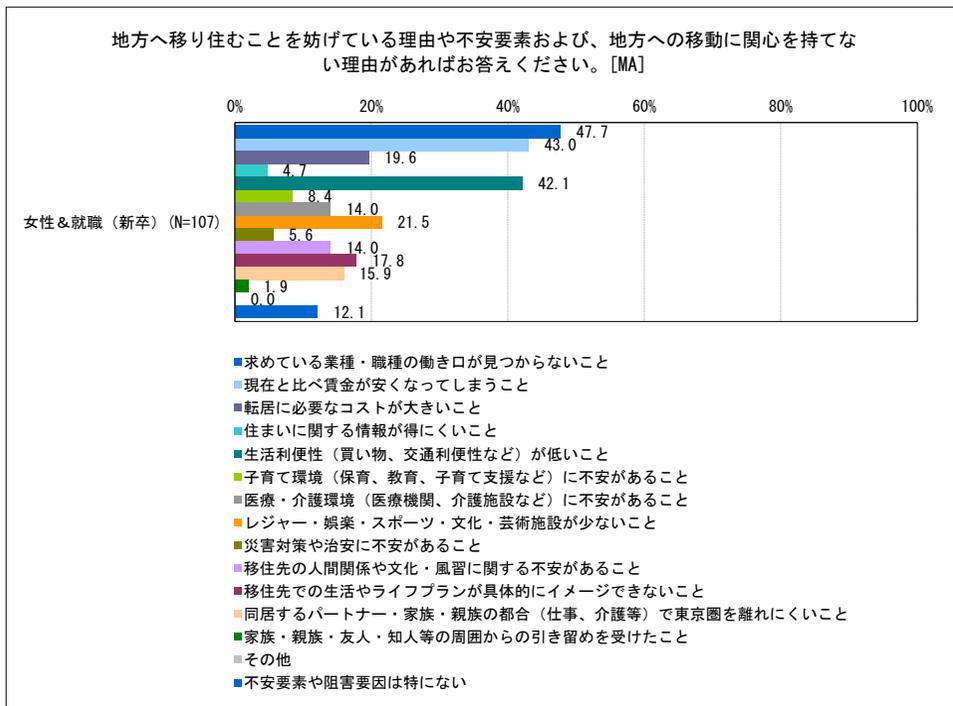
- 地元には絶対帰りたくないと思っている。つまらないなと思っている。飽きてしまったので地元は絶対ない。（C:就職先・数）
- 配属先が東京というのは「なんで？」というか、想像していなかった。一人暮らしもしたことがなくて、親戚とかも全くいない。みんな関西にいたので、「どうしよう」と思った。辞めると言い切れなかったが、ノイローゼというか、ホームシックというか、最悪だった。3年経ってやっと、東京にも慣れてやっとちょっといいところだなと思えて来た。（E:利便性）

## Gr.5 女性×就職（新卒）③

### （3）移住を妨げている要素【アンケート調査】

#### 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(47.7%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(43.0%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(42.1%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと」(1.45)が最も高く、「医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること」(1.40)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(1.25)と続き、移住先での生活や医療・福祉環境に不安を感じる者が相対的に多い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

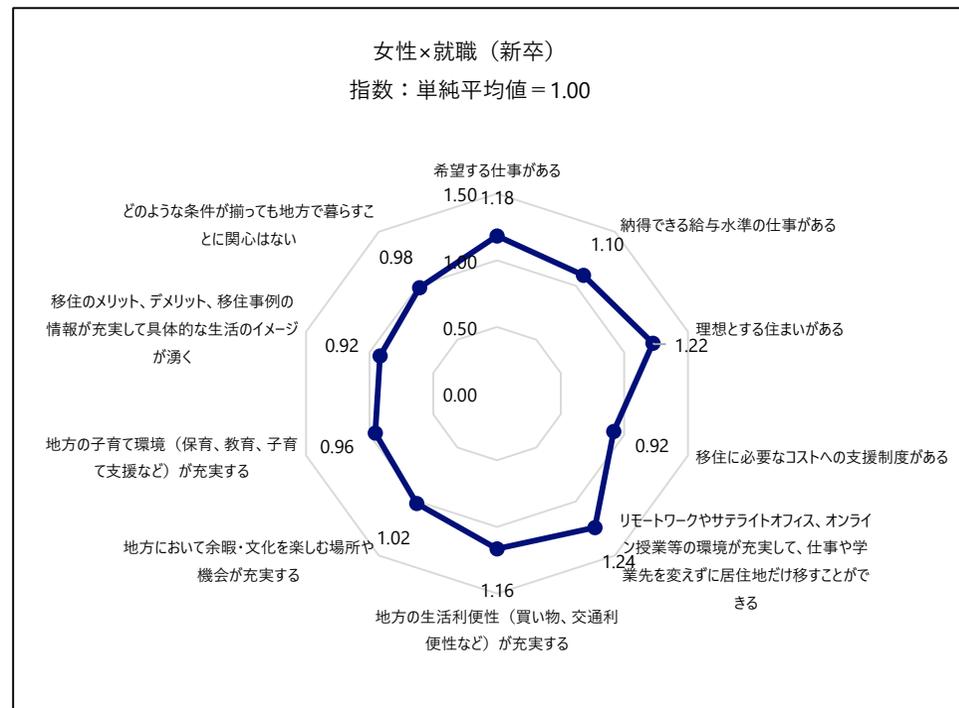
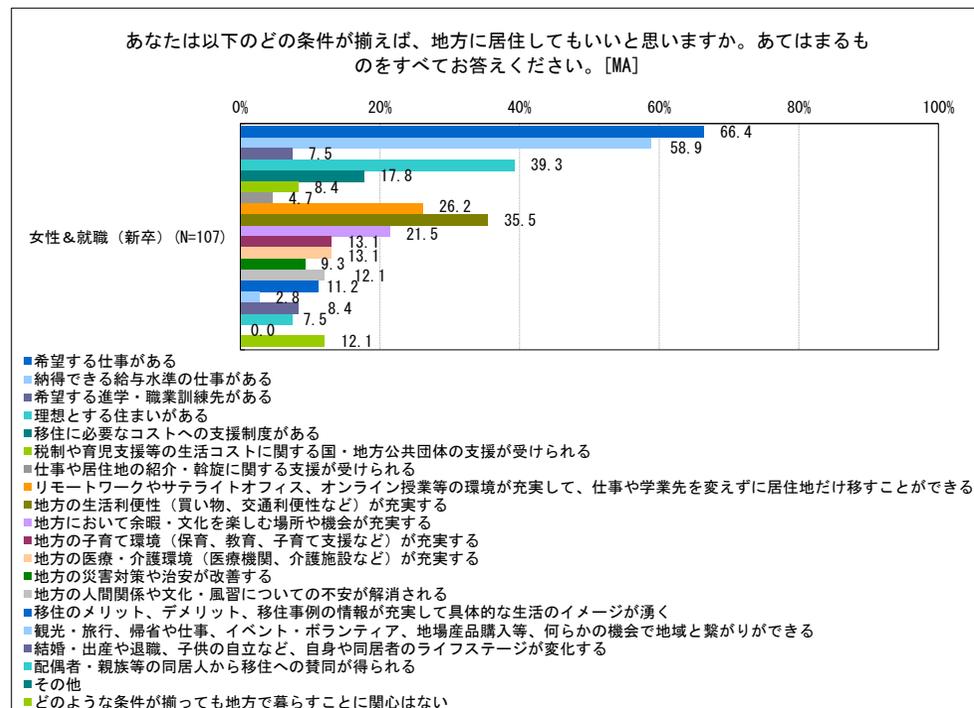
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：8%超の選択肢について分析

## Gr.5 女性×就職（新卒） ④

### （４） 移住促進に必要な条件・支援ニーズ【アンケート調査】

どのような条件が揃えば、地方に居住してもいいと思うか

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(66.4%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(58.9%)、「理想とする住まいがある」(39.3%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「リモートワークやサテライトオフィス、オンライン授業等の環境が充実して、仕事や学業先を変えずに居住地だけ移すことができる」(1.24)が最も高く、「理想とする住まいがある」(1.22)、「希望する仕事がある」(1.18)と続く。
- その他の回答傾向は他Gr.と比較的近い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：13%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### \_各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.5 女性×就職（新卒） ⑤

	A	B	C	D	E
年齢	30歳	30歳	25歳	24歳	26歳
未婚婚	既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	専業主婦	正社員 医薬品製造業・研究	正社員 人材紹介サービス業・営業事務	正社員 保育園・看護師	正社員 鉄鋼業・一般事務
出身地	宮城県	長崎県	北海道	北海道	奈良県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実	生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ

#### （５）移住を妨げている要素【FGI調査】

##### 東京圏へのポジティブな想い

いずれの層も、交通の利便性を挙げた。

- 今まで田舎に住んでいたので交通手段がたくさんあるということ、遅くまでバスとか電車が通っているということで、結構夜遅くまで遊べるので満足。（B:就職先・質、非関心層）
- とにかく交通の利便性が高いところ。神奈川からは東京も近しい、全部陸続きでつながっているの、関西圏にでも行けるというのがすごくいい。（D:余暇充実、非関心層）
- 交通手段があるので誰かに車に乗せてもらう必要がなくて、すごく便利。（E:利便性、関心層）
- 遊び場所の選択肢が明らかに多くて、新しいものだらけなので飽きない。まだまだ知らないところがあって面白いと思う。（C:就職先・数、非関心層）

##### 地方への移住に関心が湧かない理由

いずれの層も、未婚で新しい場所での生活を始めるイメージができないため、関心が湧かない。

- 単身ではわざわざ新しい仕事を見つけて、住むところを見つけて、コミュニティがないところに飛び込むというは大変なので、そこまでの労力はかけられない。（D:余暇充実、非関心層）
- 知らない土地に移住してそこで結婚相手を探したくない。向こうのテリトリーに無理やり入れられている感じがして、すごくイヤ。公平じゃないというか、向こうの家族問題とかに巻き込まれそう。両方知らない場所だったらいいのだが。（E:利便性、関心層）
- 資格として薬剤師の免許も持っているので仕事は最悪できないことはないと思っている。本当に何かあれば、移住は不可能ではない。でもパートナーとのバランスが将来的にどうなるか分からないので、きっかけがあれば。（B:就職先・質、非関心層）

##### 地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

いずれの層も、地方のコミュニティの狭さを最大の不安要素として挙げた。

- つながりが強い。大体どこかへ行ったとしても誰かの知り合いしかいない。2人挟んだら大体知り合い。悪いこともできない。（B:就職先・質、非関心層）
- 買い物に行ったら誰かに会うとか、私はそれはイヤだと思っている。買った服は誰かと被るとか、すごくイヤだなと思っていた。（A:あこがれ系、非関心層）

#### （６）移住促進に必要な条件・支援ニーズ【FGI調査】

##### 移住を検討するために必要な条件

いずれの層も、女性が地方に移住する場合、仕事やパートナーの事情などの理由が必要と考えていた。

- 今は自分の暮らしとかを一番に考えたい。家族とかにもしもがあれば分からないが、それ以外は全く考えていない。（C:就職先・数、非関心層）
- 心が折れたと思われたくないと思うので、帰る理由が欲しい。出るときに、理由もなく無理やり出たので、何かを得て帰って来たということにしたいかなと思う。パートナーが、給料のいい仕事が帰った先でみつかったら帰るかな。（E:利便性）
- パートナーができて、就職先とか、どこかへ異動することになったら、場所にもよるのだが、ついて行くという気持ちが出てきた。（D:余暇充実、非関心層）
- 自分の老後とか子供ができたときのことを考えると地元に戻って親に手伝ってもらったりするかもしれないが、まだそれもないので今は全く考えていない。（C:就職先・数、非関心層）

##### 国・地方公共団体に求める具体的な支援策

金銭的なサポートや支援制度の整備を求める意見がある反面、移住者として特別視されることに抵抗感を持つ人もいる。移住者が困らないような情報提供は求められている。

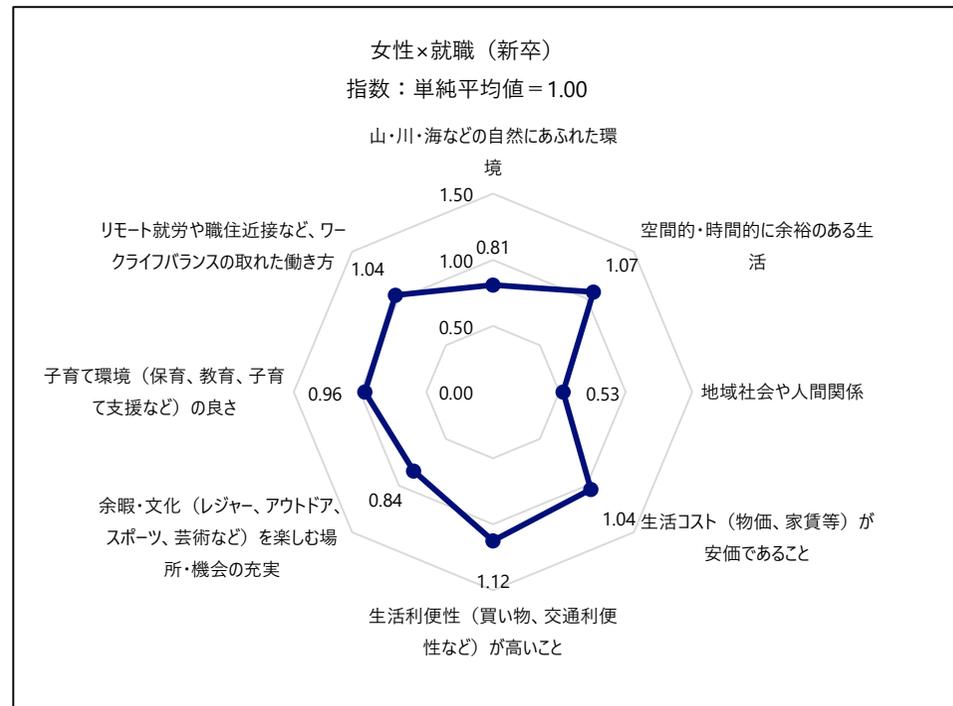
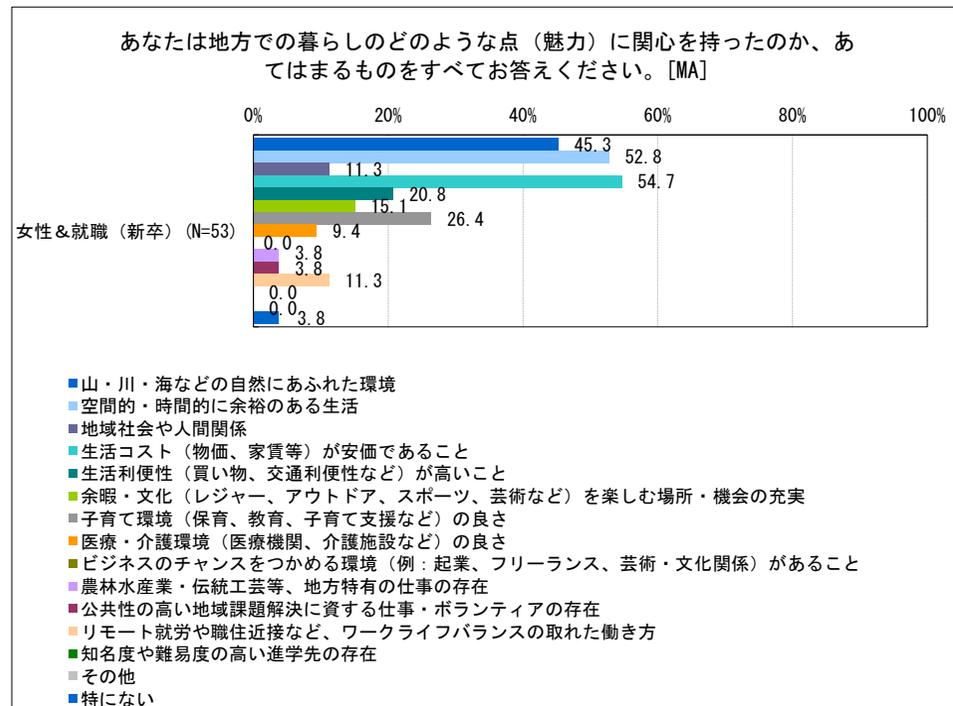
- 引っ越し手当。そこが多分1番大きいかな。（C:就職先・数、非関心層）
- 子育て支援とか制度はあっても整っていないんだなと思った。そういうのが整っているところに住みたいと思う。（A:あこがれ系、非関心層）
- 子育て支援もありたいのだが、それを目当てに引っ越して来たんじゃないかと思われるのも…。別にありがたく使えばいいのだが、オープンに扱って欲しい。こういうところに病院があってとか、地域のことについて説明してくれるような冊子とか情報サイトはありがたいと思うが、血税を削って何かをしてもらうのは何か違うかなと思う。（E:利便性、関心層）

## Gr.5 女性×就職（新卒） ⑥

### (7) 関心を持った地方の魅力【アンケート調査】

#### 地方での暮らしのどのような点に関心を持ったのか

- 地方に関心を持った点としては、「生活コスト（物価、家賃等）が安価であること」(54.7%)が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」(52.8%)、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(45.3%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が高いこと」(1.12)が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」(1.07)、「生活コスト（物価、家賃等）が安価であること」、「リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方」(1.04)と続く。
- 一方で、「地域社会や人間関係」(0.53)、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(0.81)、「余暇・文化（レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など）を楽しむ場所・機会の充実」(0.84)等  
は他Gr.と比べて低い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

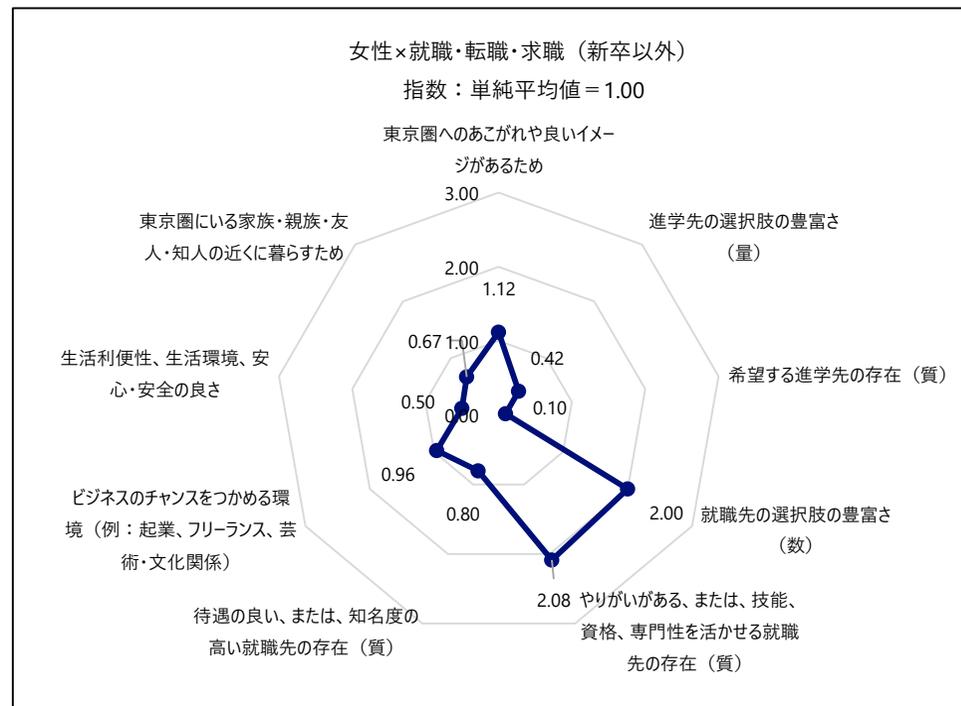
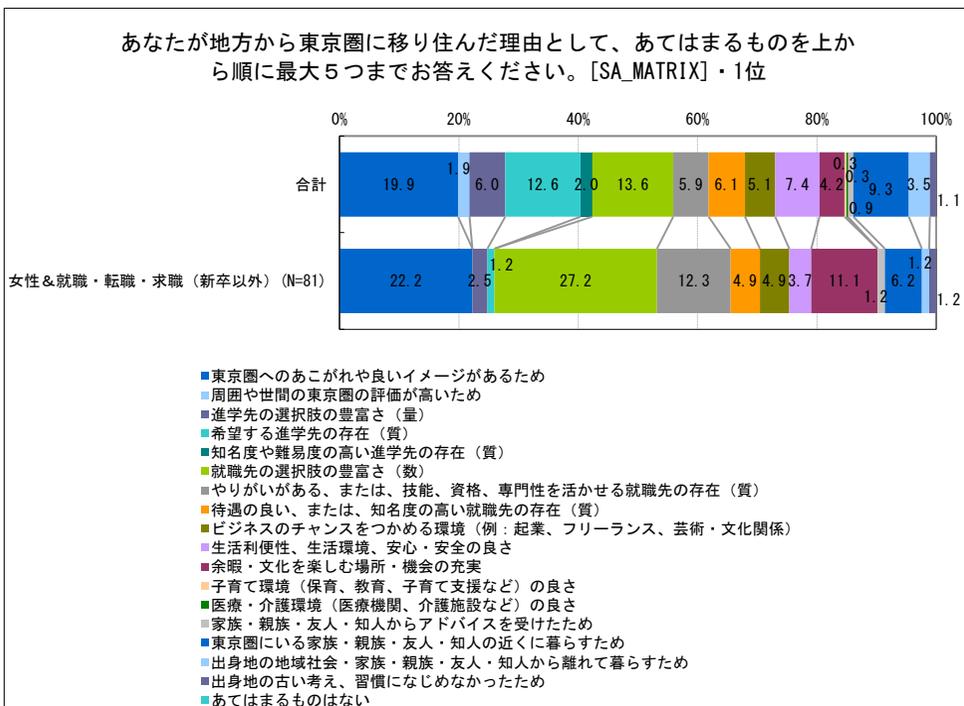
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：10%超の選択肢について分析

## Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外）①

### （1）東京圏に転入した理由・きっかけ【アンケート調査】

#### 東京圏に移り住んだ理由

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(27.2%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(22.2%)、「やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」(12.3%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」(2.08)が最も高く、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(2.00)、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(1.12)と続く。
- 一方で、「希望する進学先の存在（質）」(0.10)、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(0.42)等の進学先関係の回答や、「生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ」(0.50)、「東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため」(0.67)は顕著に低い。



※全体標本（合計）は東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）。「単純平均値」は標本における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：5%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### 各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外） ②

	A	B	C	D	E
年齢	27歳	29歳	30歳	27歳	35歳
未婚	既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	契約社員 決済関連のサービス業・営業	派遣社員 福祉サービス業・保育士	正社員 機械製造業・設計	契約社員 旅行業・事務	正社員 ITサービス業・パッケージ導入
出身地	岩手県	茨城県	静岡県	北海道	奈良県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）

### （2）東京圏に転入した理由・きっかけ【FGI調査】

#### 東京圏への転入を意識した理由

「スキルアップ」を理由に転入した層は、たまたま東京になっただけで、場所はどこでもよかったという意識。「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、希望する職業訓練を受けられる場所として東京圏がすぐに出てきたことを挙げた。

- 転職をしようと思ったときに、LinkedInとかで声をかけてもらった企業がたまたま東京だったので、また東京に出て来た。（E:スキルアップ）
- 全国どこでも良くて探したのだが、ペーパードライバーだったので、本当に田舎で車が必要というところは避けて電車通っているところというのでこちらに来了。（C:スキルアップ）
- 学生の頃から旅行業界に入りたいと思っていた。札幌でお金を貯めて、職業訓練校を探したら、東京で「旅行科」がすぐに出て来た。（D:就職先・数）
- 旅行が好きなのだが、どこに行くにも東京が1番バスも飛行機も交通量があるので、そういう意味でアクセスがいいなと思って東京を選んだ。（A:あこがれ系）

#### 東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、地元から遠すぎない帰省しやすい距離を考えて東京圏に決定。「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、もっとも就きたい仕事が東京圏だった。

- 岩手からだ帰省するときに東京の方が近いので、そういう面を考えると、東京が1番住みやすいかなと思った。（A:あこがれ系）
- 北海道なので西の方とか、関西はなんとなく怖いイメージがあった。西の方はあまり考えなかった。（D:就職先・数）
- 地方のホテルとかも受けていて最後まで迷って、やっぱり旅行会社で働いてみたいというのがあって、東京の旅行会社に決めた。（D:就職先・数）

#### 転入の意思決定に影響を与えた情報／情報源

「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、旅行で訪れた際の体験や、テレビ番組の情報から東京圏へのあこがれをもっていた。

- 大学生のときに友人と横浜に遊びに来た。おしゃれな商業施設がいっぱいあるみなとみらいのイメージとか、中華街とか、「いつか、ここに住みたい」と思って、その憧れだけで来てしまった。（B:就職先・数）
- もともとミーハー心でなんとなく東京に憧れがあった。テレビで見るとおしゃれな店もいっぱいあるし、芸能人が歩いていそうな、そういうキラキラしているイメージがあって、いつか住んでみたいと思っていた。（D:就職先・数）

#### 転入当時の本人の意向

「スキルアップ」を理由に転入した層は、仕事を優先すると東京になるのはやむを得ない、という感覚。「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、「住んでみたい」という意識であったため、長く住み続けたいという意向はなかった。

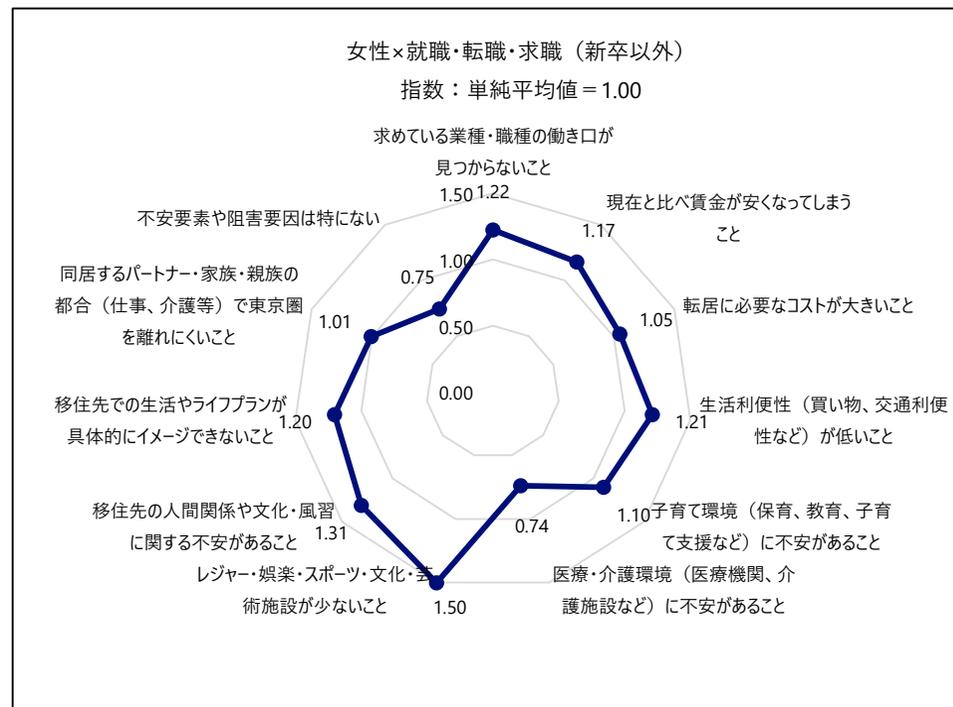
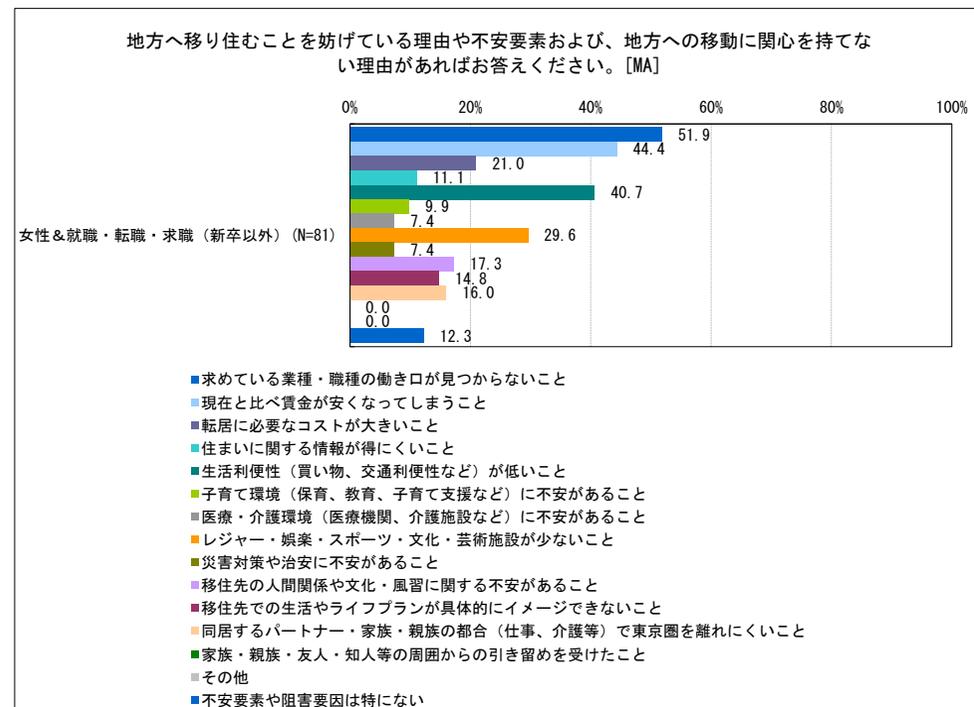
- 最初に東京に来たときは、ほとんどの仕事が東京に集まってしまうので、東京に居ざるを得ないのかなと思っていた。（E:スキルアップ）
- 今は東京に住んでみたいという思いもあって、東京に住んでいるが、きっと何年後かには飽きるんだろうなと思っているので、また別の知らない土地に住んでみたいと思っている。（D:就職先・数）

## Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外） ③

### （3）移住を妨げている要素【アンケート調査】

#### 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持ってない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(51.9%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(44.4%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(40.7%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「レジャー・娯楽、スポーツ、文化・芸術施設が少ないこと」(1.50)が最も高く、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(1.22)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(1.21)、「移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと」(1.20)と続く。一方で、「医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること」(0.74)は低い。
- また、「不安要素や阻害要因は特にない」(0.75)は他Gr.と比べて低い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

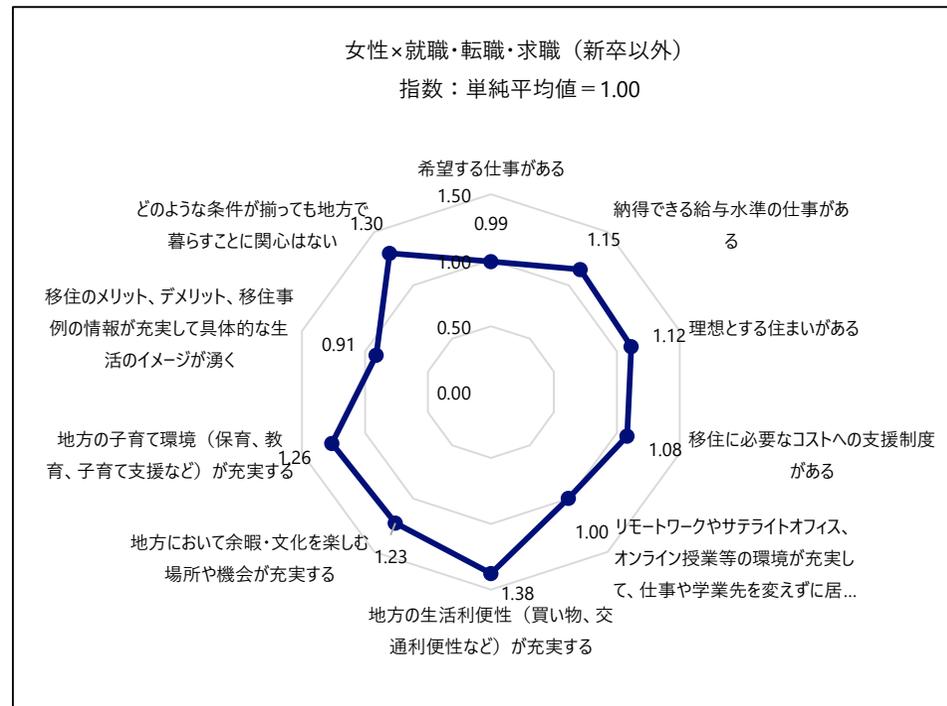
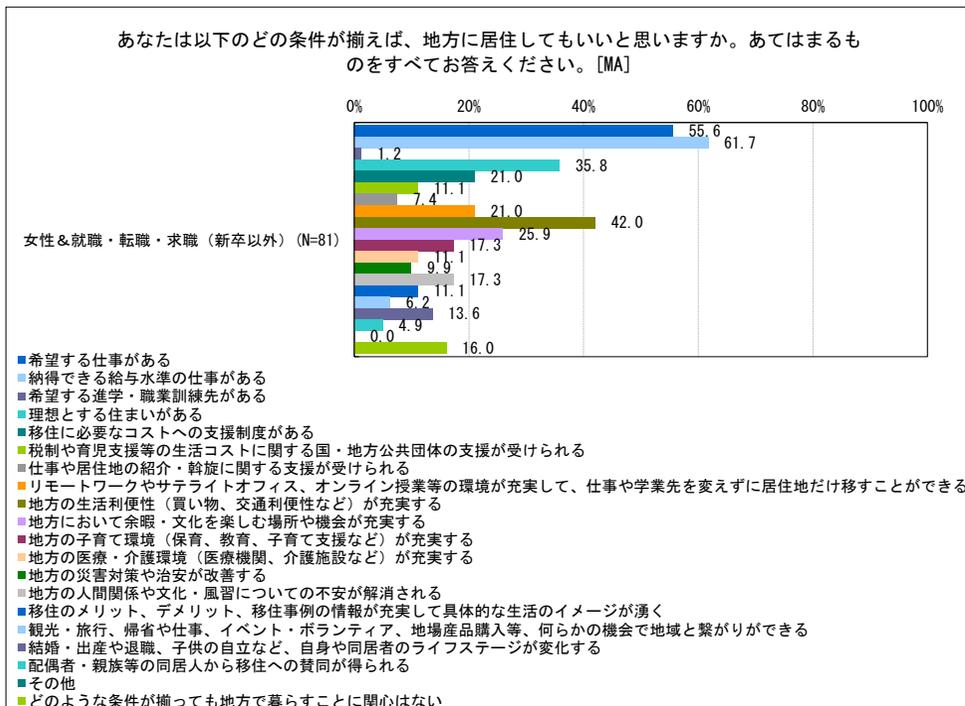
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：8%超の選択肢について分析

## Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外） ④

### （４） 移住促進に必要な条件・支援ニーズ【アンケート調査】

どのような条件が揃えば、地方に居住してもいいと思うか

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「納得できる給与水準の仕事がある」(61.7%)が最も高く、「希望する仕事がある」(55.6%)、「地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する」(42.0%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する」(1.38)が最も高く、「地方の子育て環境(保育、教育、子育て支援など）が充実する」(1.26)、「地方において余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する」(1.23)と続く。
- また、「どのような条件が揃っても地方で暮らすことに興味はない」(1.30)は他Gr.と比べて高い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：13%超の選択肢について分析

### 3.3.2.東京圏在住者の意識調査\_ペルソナ別の調査結果概要

#### 各ペルソナのアンケート・FGI調査概要

## Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外） ⑤

### （５）移住を妨げている要素【FGI調査】

#### 東京圏へのポジティブな想い

いずれの層も、選択肢の多さや交通網の充実を挙げた。

- 地元の茨城と比べると電車や交通のアクセスがいい。就職の職場が広がったり、買い物や趣味の場所が近くにできたり。（B:就職先・数、関心層）
- 転職目的で東京に出て来て仕事の幅が広がり、好きな仕事に就けた。（D:就職先・数、関心層）

#### 地方への移住に関心が湧かない理由

「スキルアップ」を理由に転入した層は、現在の仕事への満足から、地方への関心はまだ湧かない。

「就職先の選択肢・数」を理由に転入した層は、やりたいことができる生活をまだ楽しみたい。

- 仕事がポチポチ楽しいのでまずは見届けたいという気持ちがある。（C:スキルアップ、非関心層）
- 一人暮らしで、結構やりたいことができている。行きたいところへ行ったりしているの、そういう楽しさがなくなってしまうのかなと思う。（B:就職先・数、関心層）
- 今はまだ転職してこっちに来たばかりなので全然考えてはいない。（D:就職先・数、関心層）

#### 地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

いずれの層も、地方移住を相当な田舎暮らしと考えてしまい、不安を感じている様子が見られた。

「漠然とした東京圏へのあこがれ」を理由に転入した層は、友人との交流減少や車社会が不安要素。

- 田舎だとスーパーが早く閉まるイメージなので生きて行けるだろうか、トイレトペーパーとか買えるだろうか、コンビニまで何時間とかだったらどうしようと思う。（C:スキルアップ、非関心層）
- 虫とか爬虫類とかが怖いと思っている。地方とかに行くと、ヘビがいたらどう対処したらいいのとか。（D:就職先・数、関心層）
- 友人との交流が減りそう。あまり車の運転が好きじゃない。地方だと車生活必須みたいなイメージがあるので、そこが不安かなと思っている。悪い噂もいい噂もすぐ広まる。そういう面では知らない地方に飛び込んで行くのは不安。（A:あこがれ系、非関心層）
- 好きな店は地方になかったりするイメージがある。（B:就職先・数、関心層）

	A	B	C	D	E
年齢	27歳	29歳	30歳	27歳	35歳
未婚	既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	契約社員 決済関連のサービス業・営業	派遣社員 福祉サービス業・保育士	正社員 機械製造業・設計	契約社員 旅行業・事務	正社員 ITサービス業・パッケージ導入
出身地	岩手県	茨城県	静岡県	北海道	奈良県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）

### （６）移住促進に必要な条件・支援ニーズ【FGI調査】

#### 移住を検討するために必要な条件

「スキルアップ」を理由に転入した層は、自分がしたい仕事ができるなら場所にはこだわらない。

その他の層は、親の介護や夫の転勤や出産などキッカゲがなければ検討は難しいと考えている。

- 会社が事務所をなくしてくれるのを待っているところがある。また転職をして地方というのは多分仕事を見つけるのが難しいと思う。会社の方針として、「特に東京圏に住んでいる必要もないとなれば、多分探し始めると思う。（E:スキルアップ、関心層）
- まだ全然力も付いていないので、夢物語なのだが、もしかすると起業するようなイメージ。そうなる藤沢にいる必要はなくなるのかなと思う。（C:スキルアップ、非関心層）
- 今のところ、親の介護が必要になったときか、将来的に結婚をして相手の家のことか、勤務地のことかがあれば、そういうきっかけがないと出ないかな。（B:就職先・数、関心層）
- 将来的に子供を授かったときか、何かそういうきっかけがあればする可能性はゼロではないと思うのだが、今の段階ではほぼ地方には行きたくないという気持ちの方が強い。（A:あこがれ系、非関心層）

#### 国・地方公共団体に求める具体的な支援策

いずれの層も、仕事があることが分かること、働く人の現地での生活、生活を楽しむための情報を求めている。「スキルアップ」を理由に転入した層からは、定住を前提にしない移住への関心がみられた。

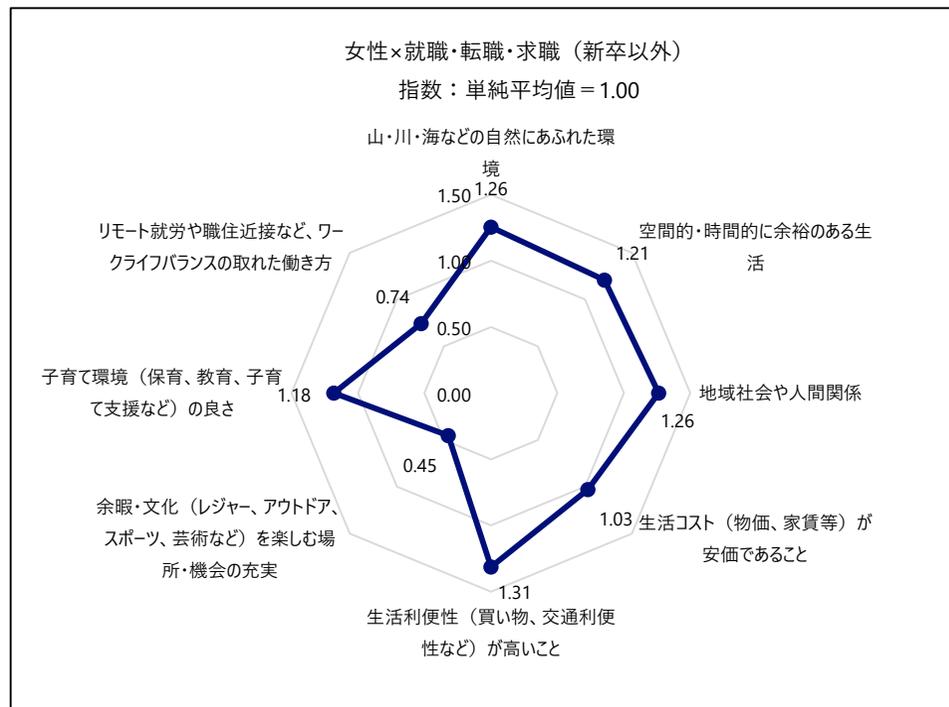
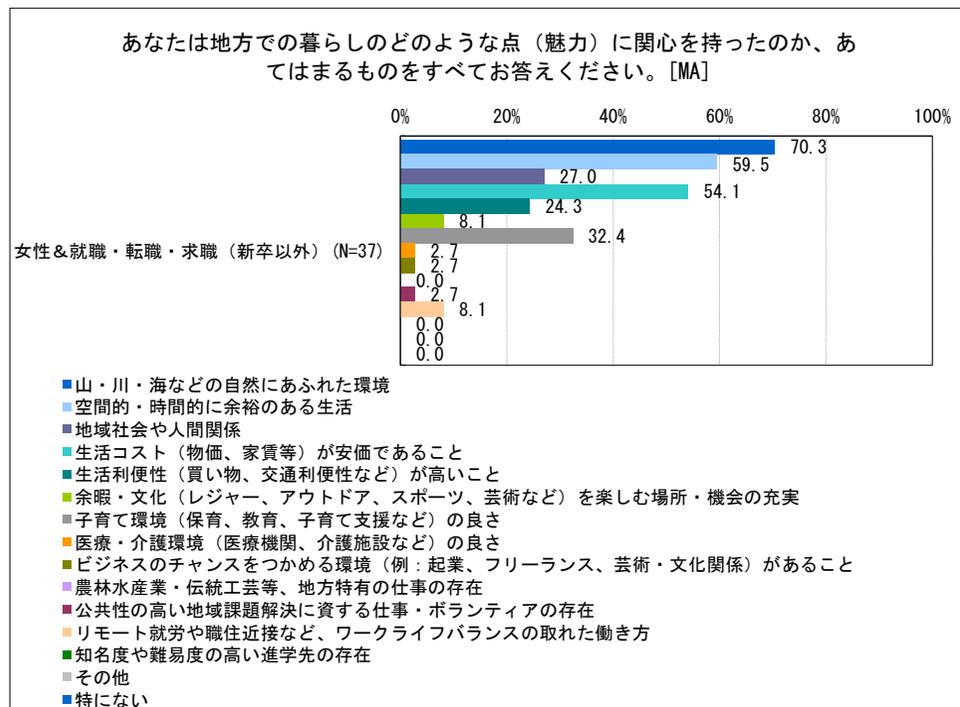
- 転職フェアで鳥取のハローワークのブースがあった。住むプラス仕事を紹介しますというところだったのだが、「やりたい仕事はこういうものです」と言ったら「そういうのも多分あると思います」とHPのURLをもらった。そういうのはとてもいいなと思った。お店とかもそうだし、趣味で何をしたいときはこういうところがあるよという紹介の情報はあった方がいいかなと思う。（D:就職先・数、関心層）
- 「1年間ここに住んで流れはこうでした」と経験談とかを話すようなYouTubeを見ている。日々の生活を伝えているものとか、そういうものを見ていて面白いと思う。（B:就職先・数、関心層）
- 移住フェアは定住が前提になっているので、近づかないようにしている。最終的に実家に帰るまでの間に住んでみたいところに住めたらいいと思う。どこか1つの地方を決めて、そこに移住して一生住もうという考えはない。（E:スキルアップ、関心層）

## Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外） ⑥

### (7) 関心を持った地方の魅力【アンケート調査】

#### 地方での暮らしのどのような点に関心を持ったのか

- 地方に関心を持った点としては、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(70.3%)が最も高く、「空間的・時間的に余裕のある生活」(59.5%)、「生活コスト（物価、家賃等）が安価であること」(54.1%)と続く。
- 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が高いこと」(1.31)が最も高く、「地域社会や人間関係」(1.26)、「山・川・海などの自然にあふれた環境」(1.26)と続く。
- 一方で、「余暇・文化（レジャー、アウトドア、スポーツ、芸術など）を楽しむ場所・機会の充実」(0.45)、「リモート就労や職住近接など、ワークライフバランスの取れた働き方」(0.74)等は他Gr.と比べて低い。



※「単純平均値」は、東京圏転入者（生まれよりの東京圏在住者は除外）における単純集計の値。

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：10%超の選択肢について分析

## その他 移住の意思決定に影響を与える要素 全6Gr.のまとめ

#### (1) 災害・感染症等に対する危機意識が地方移住に与える影響

東京圏と地方ではどちらの方が災害リスクが大きいと感じるか

地方は台風など自然災害が多いイメージがあるが、その分慣れているためしっかり対策できている印象。東京圏はインフラの弱さはあるものの、復興するスピードは速いのではないかとイメージがある。

- 地方の方が災害は多いからこそ対策がちゃんと取られている気がして、避難所とかもしっかりしている。逆に東京は自然災害にあまり対処できない気がする。(G2\_D:就職先・数、関心層)
- 去年台風がいっぱい来て、高層マンションも停電して冠水したりした。千葉でも何万軒と停電したので、都会の方がそういうのに弱いのかなと思った。(G3\_B:就職先・数、関心層)
- 東京の方がインフラとかが死んでしまうので危ないし、あと隣の人とのつながりとかがないので助け合いづらいと思う。(G5\_C:就職先・数、非関心層)
- 地方の方が安全だと思ってきたが、何かあったときに東京の方がすぐに動いて、解決すると思う。どこで災害が起こるかかわからないが、手を打つことに関しては、都会の方が早いんじゃないかなと思った。(G1\_C:あこがれ系、非関心層)

首都直下型地震等の懸念を受けた地方移住に対する意識変化

首都直下型地震を懸念して移住しようとは思わないものの、被害規模の大きさは不安に感じる。

- 首都直下型地震とかもし起こったらパニックになる。(G2\_D:就職先・数、関心層)
- 地震も被害の人数の規模が大きくなる。関西でも何千人と亡くなったが、東京では何万人になるんだろう。被害の規模は東京圏の方が大きいのではないかと。(G3\_A:あこがれ系、関心層)

新型コロナウイルスを受けた地方移住に対する意識変化

娯楽を楽しめなくなり東京圏の魅力が半減したと感じている。満員電車による感染リスクの高さや、テレワークが増えたことにより東京圏に住む必然性が低下し、移住意識が高まっている。

- (新型コロナウイルス感染症拡大の影響により) 娯楽のない都会の生活はあまり質が高くないと気付いた。(G3\_D:就職先・数、関心層)
- 最近思ったのが、家でも楽しめるツール、体験型のイベントとかが開発されてきたので、実際地域格差自体は減るのかなと思う。(G5\_B:就職先・質、非関心層)
- 都内で毎日あれだけ感染者が出ている状態で電車で1時間半通勤するのは結構リスクが大きいのかなと思う。(G3\_C:就職先・質、関心層)
- 週5出社だったのだが在宅になり、移住する気持ちが高まった。(G2\_D:就職先・数、関心層)
- マネジメント層がオフィスをなくしてしまってもいいんじゃないの？みたいな話を始めているらしい。そうなれば別に東京に住んでいる必要はないので、もうちょっと家賃の安いところとか、もうちょっと住みやすいところに行ったらいいんじゃないのかなと思いついた。(G6\_E:スキルアップ、関心層)

#### (2) 女性独特の不安要素が地方移住に与える影響

地方には、結婚等、女性の生き方に対する地域独特の偏見があると感じるか

あからさまな偏見を感じる機会はないが、地方は結婚時期が早いことから、結婚や子供はまだか？といった干渉を受けることは容易に想像できる。

- 地元に戻った友達はいつ結婚するのが毎日聞かれてうざいと言っていたから、干渉されるのは地方ならではのなと思う。(G4\_A:あこがれ系、非関心層)
- つながりがある間柄では悪いことができないし、「あその娘さん、毎晩遊び歩いているけど」とか言われるのもイヤだし、「結婚はまだなの？」とか「子供はまだなの？」とか。子供ができて保育園とか病院に自分の友達が働いているとか、知り合いがいるとかになるとイヤだなみたい。だったら知らないところの方が勝手にできるのに住みやすい。(G5\_D:余暇充実、非関心層)

子育て環境として東京圏と地方ではどちらが適切だと考えるか

自然豊かな環境でのびのびと遊ばせられる点で地方がよいという意見は多いが、将来の選択肢の多さは東京圏のほうがあと考える人もいる。地元で親のサポートを得ながらの子育てを望む声もあった。

- 私も田舎で育ったので、自然環境とか空気がキレイとか、子供にとってはやっぱり地方の方がいいのかなと思う。(G6\_A:あこがれ系、非関心層)
- 車とかストレスなのに歩いていたり、その間を自転車ですり抜けて行ったり。自転車に乗ったときに、轢かれそうだなと思った。子供には「その辺で遊んでおいで」と言えないと思った。そこまで人通りが多いところじゃない場所だと、外でも遊ばせられるのかなと思ったので、そういう面では地方とかの方がいいと思う。(G5\_D:余暇充実、非関心層)
- 東京に来て公園の少なさに驚いた。すごく小さな公園で、全然遊具もない中で、子供達が大人で遊んでいるのを見てなんかちょっとかわいそうだなと思った。札幌に住んでいたときはそんなことは全然なくて、公園は広いし、みんなが走り回れるようなところがたくさんあったので、子育てをするならそういうところの方がいいかなと思った。(G6\_D:就職先・数)
- 子供がアイドルになりたいとか、音楽大学に行きたいと言われたら、東京まで通わないといけなくなるので、それができなかったらと思うとかかわいそうだなと思う。(G4\_E:進学先・数、関心層)
- 東京で子育てするのはすごく大変だんと思っていて、大学時代に塾のアルバイトをしたが、東京の受験ってすごいなと思ったから。姉が福岡で2人目が生まれるのだが、母がサポートしていて、週に1回通っていて、病院に連れて行ってくれたり、それを母も楽しそうにしているので、そういうのがいいかと思って。福岡に戻るのはいくらも思っている。(G4\_D:進学先・質、関心層)

## 4.1.1.地方移住者（Uターン者）の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

---

## 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

### 調査方法①

#### ■ 調査目的

- 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が今秋に実施を予定する広報事業の実施を展望しつつ、実際に地方に移住したUターン者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見・インサイトの意見（感情の機微）」や行動実態を把握し、東京圏在住者に対して広報で打ち出すべきコンテンツへの示唆とすることを目的とした。
- 具体的には、下記の傾向を抽出することを目的とした。
  - ①地方移住に関心を持った理由/地方に抱いた気持ちやポジティブなイメージ
  - ②地方移住に関心がある層が実際に移住を検討/決断した理由
  - ③移住に至るまでの実態（思考/行動/取得した情報等）等
  - ④移住後の生活に関する満足度・幸せな生活実態 等
- また、後段で実施されるFGI調査（フォーカス・グループ・インタビュー調査）において、分析上有効な回答が得られる対象者を抽出するために、アンケート調査の回答から対象者を抽出した。

#### ■ 調査方法・時期

- インターネット調査
- 2020年10月～11月にかけて実査を実施した。（回収標本数1,366）

## 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

### 調査方法②

#### ■ 調査対象者

- 下記に該当する対象者を抽出し、調査を実施した。

##### < サンプル設計/対象者条件 >

- ・現在の居住地が地方（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県以外）。
- ・東京圏から地方に移住した経験がある（UターンまたはIターン）。
- ・年齢が20～39歳。
- ・地方へ転出した年齢が18歳以降（複数回転出の場合は最後の転入が18歳以降）。
- ・地方への転出の時期が直近10年以内（複数回転出の場合は最後の転入が直近10年以内）。

#### ■ 回収結果

- 回収標本数は1,366サンプルである。
- 性・年代別のサンプル構成は表の通りである。

		地方在住者 (Uターン者)		地方在住者 (Iターン者)		合計
		都道府県庁 所在地	それ以外の市 部 + 町村部	都道府県庁 所在地	それ以外の市部 + 町 村部	
1	20代_男性	94	100	55	69	318
2	20代_女性	103	101	72	71	347
3	30代_男性	107	106	70	69	352
4	30代_女性	103	107	71	68	349
合計		407	414	268	277	1,366

## 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

### 調査方法③

#### ■ 調査設計（調査票）

- 本調査における調査項目は下記のとおりである。

##### 調査票\_設問項目

- SC1.あなたの性別をお答えください。（ひとつだけ）
- SC2.あなたの現在の満年齢をお答えください。（半角数値）
- SC3.あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください。（ひとつだけ）
- SC4\_1.あなたが現在お住まいの場所は、次のうちのどちらですか。（ひとつだけ）
- SC4\_2.あなたが現在お住まいの市区町村名をご記入ください。
- SC5.あなたの現在のご職業をお答えください。（ひとつだけ）
- SC6.あなたの婚姻の有無をお答えください。（ひとつだけ）
- SC7.あなたの子供の有無をお答えください。（ひとつだけ）
- SC8.あなたの出身地（生まれてから18歳までの間で、最も長く暮らした地域）をお答えください。（ひとつだけ）
- SC9.あなたは地方から東京圏に移り住んだ経験はありますか。（ひとつだけ）
- SC12.あなたが、最後に地方から東京圏に移り住んだのは、どのくらいの年齢の時ですか。（ひとつだけ）
- SC.13あなたが、18歳以降で最後に地方から東京圏に移り住んだのはいつですか。（ひとつだけ）
- Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。  
あなたの前に梯子（はしご）があるとします。  
「あり得る最悪の人生」を梯子の0段目、「あり得る最高の人生」を梯子の10段目と考えた場合、あなたは今、はしごの何段目にいると思いますか。  
0～10段でお答えください。（ひとつだけ）
- Q2.あなたの両親の出身地についてお答えください。（ひとつだけ）
- Q3.あなたのきょうだい（兄弟・姉妹）構成とあなたの位置付けについてお答えください。（ひとつだけ）
- Q16.あなたは東京圏から地方に移り住んで、地方での現在の生活に満足していますか。（ひとつだけ）
- Q17.あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけについてお答えください。（ひとつだけ）
- Q18.あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。最もあてはまるものをお答えください。（ひとつだけ）

##### 調査票\_設問項目

- Q19.あなたが東京圏から地方に移り住むことを検討した際の、移動に対する両親の意向についてお答えください。（ひとつだけ）
- Q20.あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。（いくつでも）
- Q21.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用していた手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q22.あなたは東京圏から地方に移り住む以前、現在の居住地とどのような関わり方をしていましたか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q23\_1.あなたが地方に住むという「決断」をした際に、影響を与えた要素をすべてお答えください。（いくつでも）
- Q23\_2.また、地方に住むという「決断」をする決め手となった最大のきっかけ・理由をご自由にご記入ください。（最大400文字以内）
- Q24.あなたが地方に移り住むことを決断した際に、実際に利用した国や地方公共団体の取り組みはありますか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q25.あなたが実際に地方に移り住んで感じた魅力として、次のうち最もあてはまるものは何ですか。（ひとつだけ）
- Q26.あなたは東京圏から地方に移り住むことを計画する際に、どのような点に苦労しましたか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q27.あなたは地方での暮らしにどのような不満を感じていますか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q28.あなたは地方で暮らすなかで、結婚や仕事等の女性の生き方に対する地域特有の価値観や偏見があると感じますか。（ひとつだけ）
- Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。（それぞれひとつずつ）  
「引き続き今の場所に住み続けたいと思うようになった」、「より郊外での生活も考えるようになった」、「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」

## 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

### 調査方法③

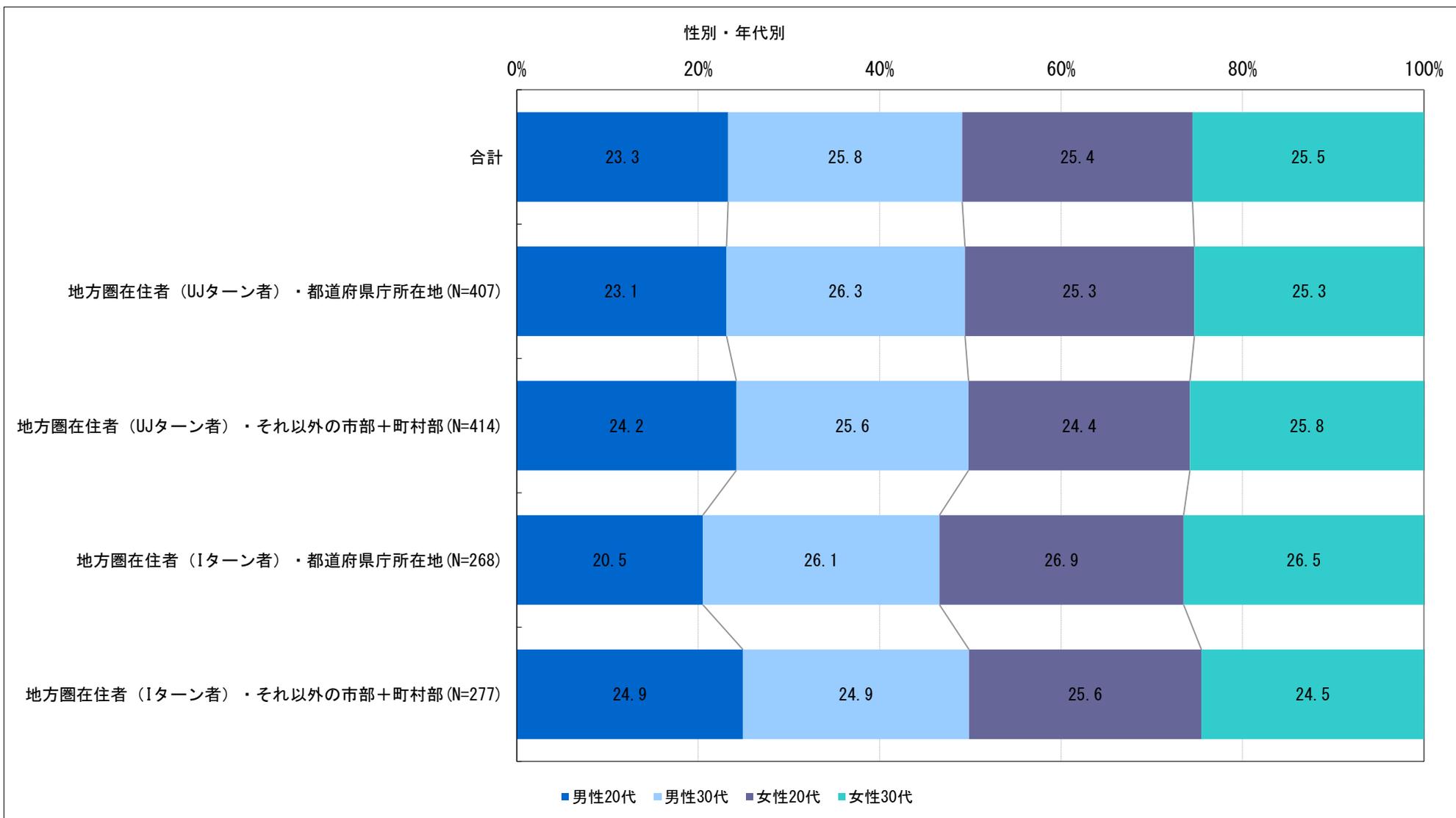
#### ■ クロス集計\_実施項目

- 下記の項目についてクロス集計の結果を掲載した。

表側設問		表頭設問		
1	割付	UJターン区分×性別（男女）	Q16	地方暮らしの満足度
2			Q17	地方に移り住むことを意識したきっかけ
3			Q18	移住前に地方に感じた魅力（誘因カテゴリー）
4			Q19	移住の両親の意向
5			Q20	移住時に参考になった情報
6			Q21	情報収集に利用していた手段
7			Q22	移住以前の移住先との関わり（関係人口）
8			Q23	地方移住の「決断」に影響を与えた要素
9			Q24	移住時に利用した公共機関の取組
10			Q25	移住後に地方に感じた魅力
11			Q26	移住計画時に苦労した点
12			Q27	地方での暮らしに感じる不満
13			Q28	女性の生き方に対する地域独特の偏見の有無
14			Q29	新型コロナウイルス感染症拡大を受けた意識変化
15	東京圏 Q8. + 割付	地方移住への関心（東京圏在住者） + UJターン区分（出身地）	Q1	現在の暮らしの幸福度（キャントリルの梯子）
16	割付	UJターン区分×居住地区分 （都道府県庁所在地／その他市町村）	Q16	地方暮らしの満足度
17			Q17	地方に移り住むことを意識したきっかけ
18			Q18	移住前に地方に感じた魅力（誘因カテゴリー）
19			Q19	移住の両親の意向
20			Q20	移住時に参考になった情報
21			Q21	情報収集に利用していた手段
22			Q22	移住以前の移住先との関わり（関係人口）
23			Q23	地方移住の「決断」に影響を与えた要素
24			Q24	移住時に利用した公共機関の取組
25			Q25	移住後に地方に感じた魅力
26			Q26	移住計画時に苦労した点
27			Q27	地方での暮らしに感じる不満
28			Q28	女性の生き方に対する地域独特の偏見の有無
29			Q29	新型コロナウイルス感染症拡大を受けた意識変化

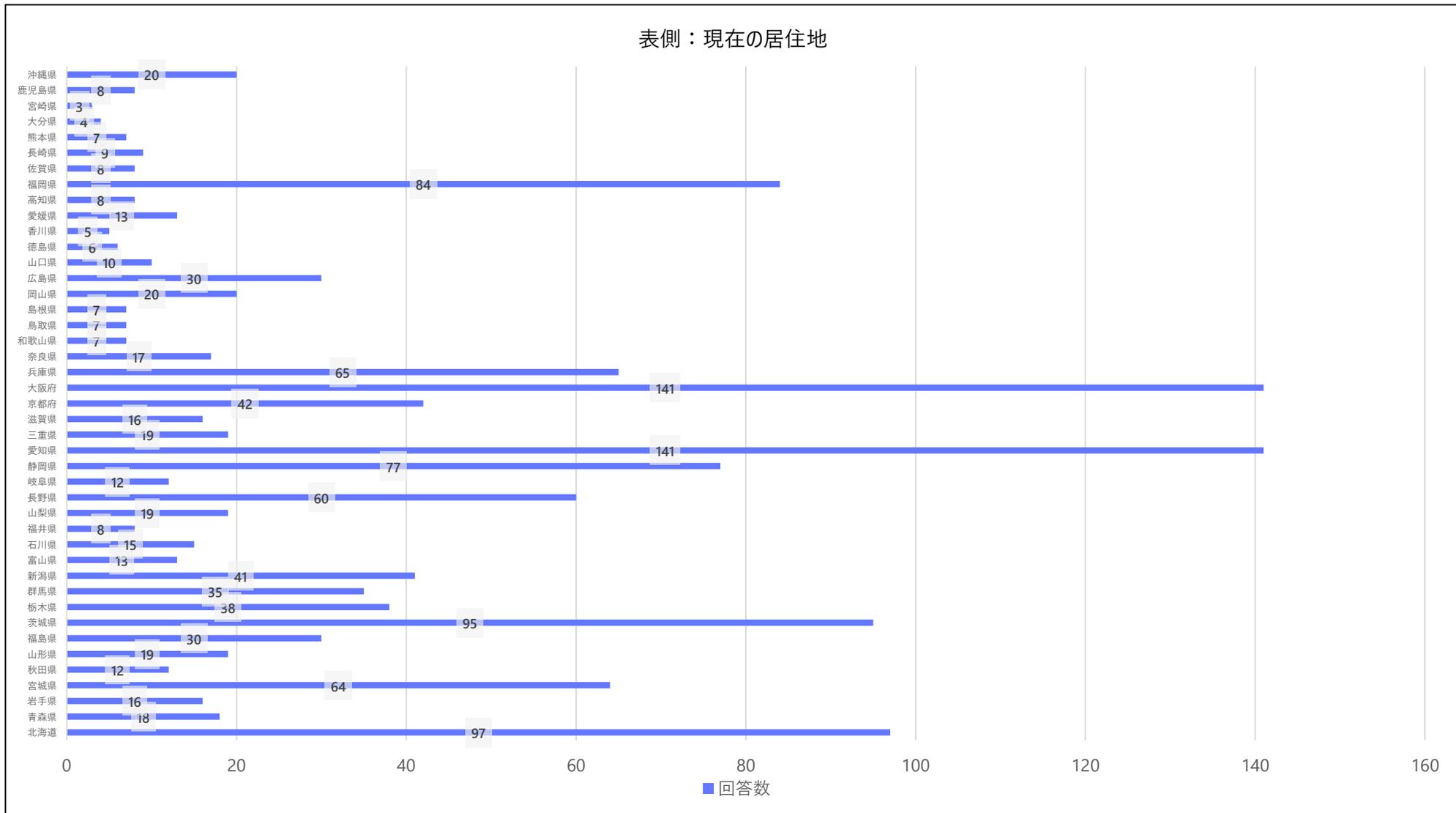
## 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

### 回答者の基本属性（性別×年代）



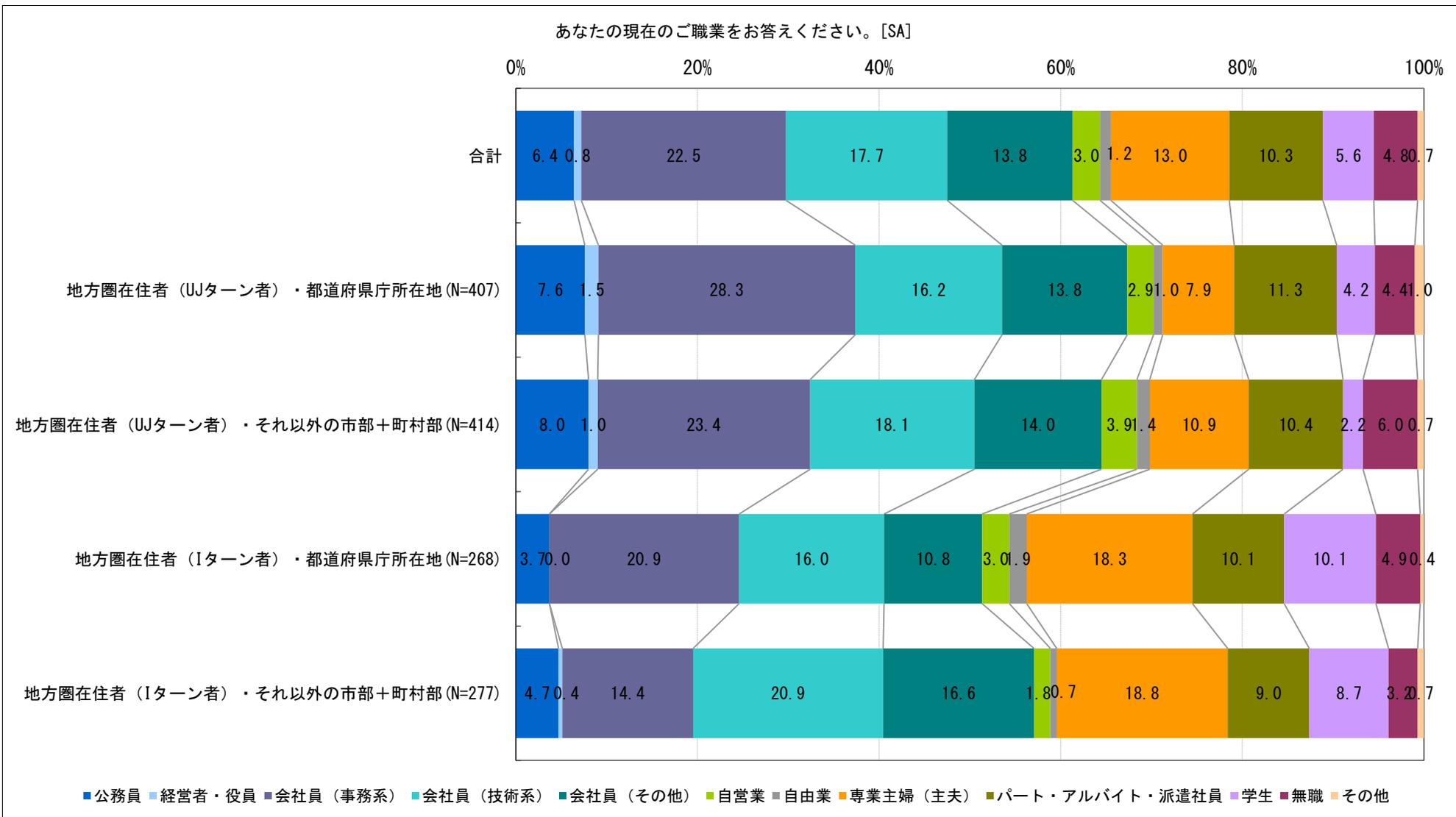
## 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

### 回答者の基本属性（現在の居住地）



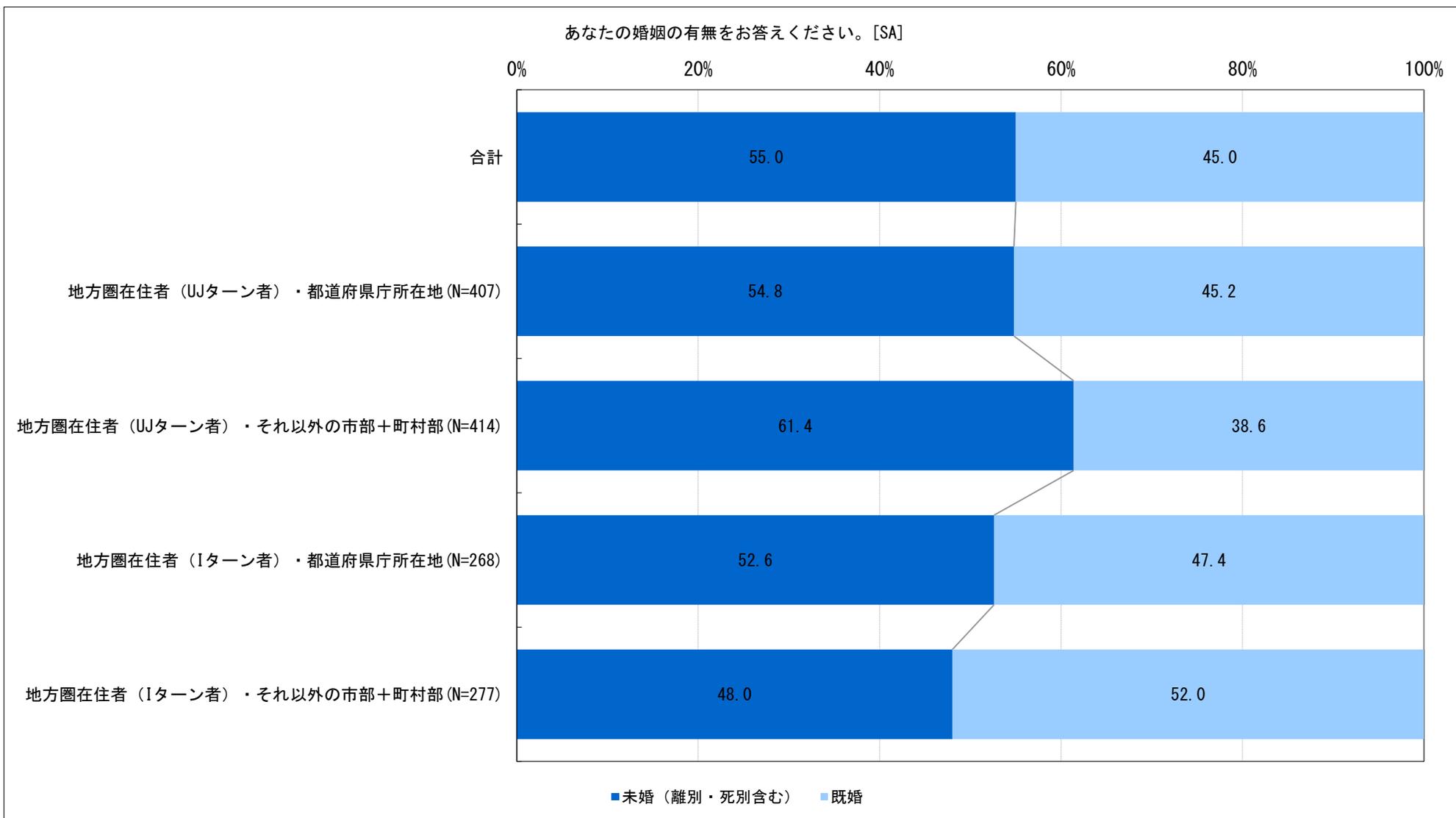
## 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

### 回答者の基本属性（職業）



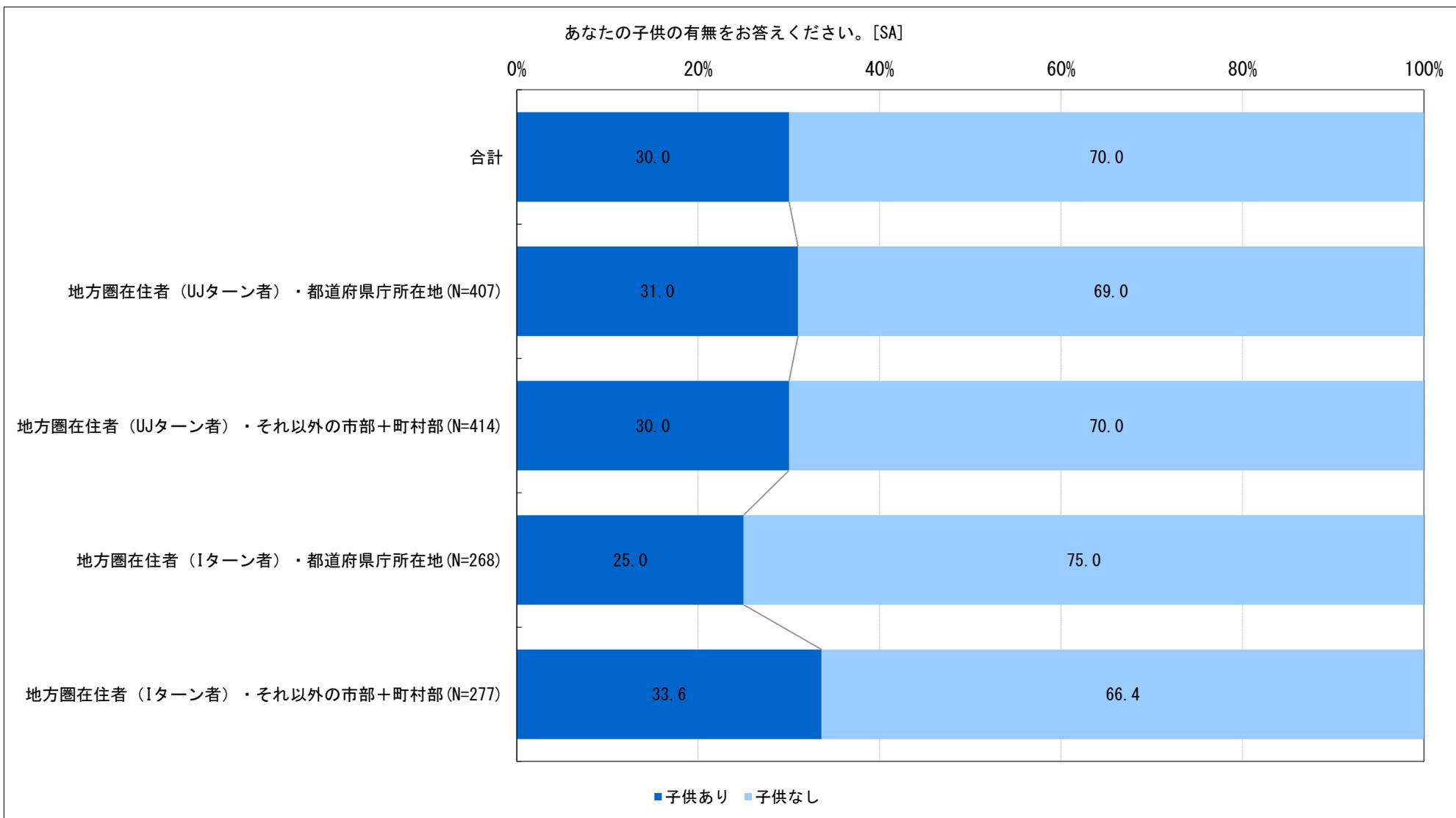
## 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

### 回答者の基本属性（婚姻の有無）



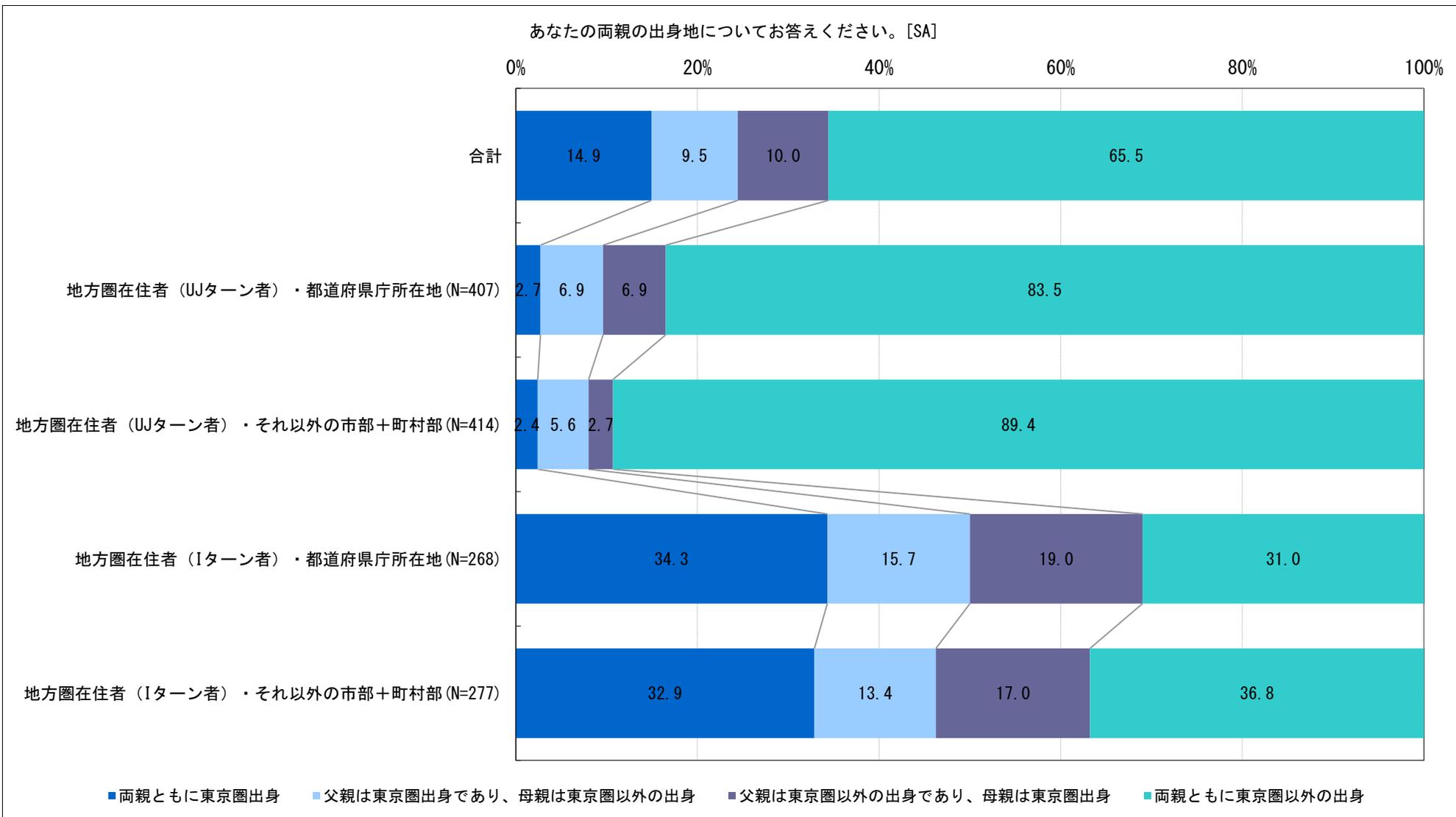
## 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

### 回答者の基本属性（子供の有無）



#### 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

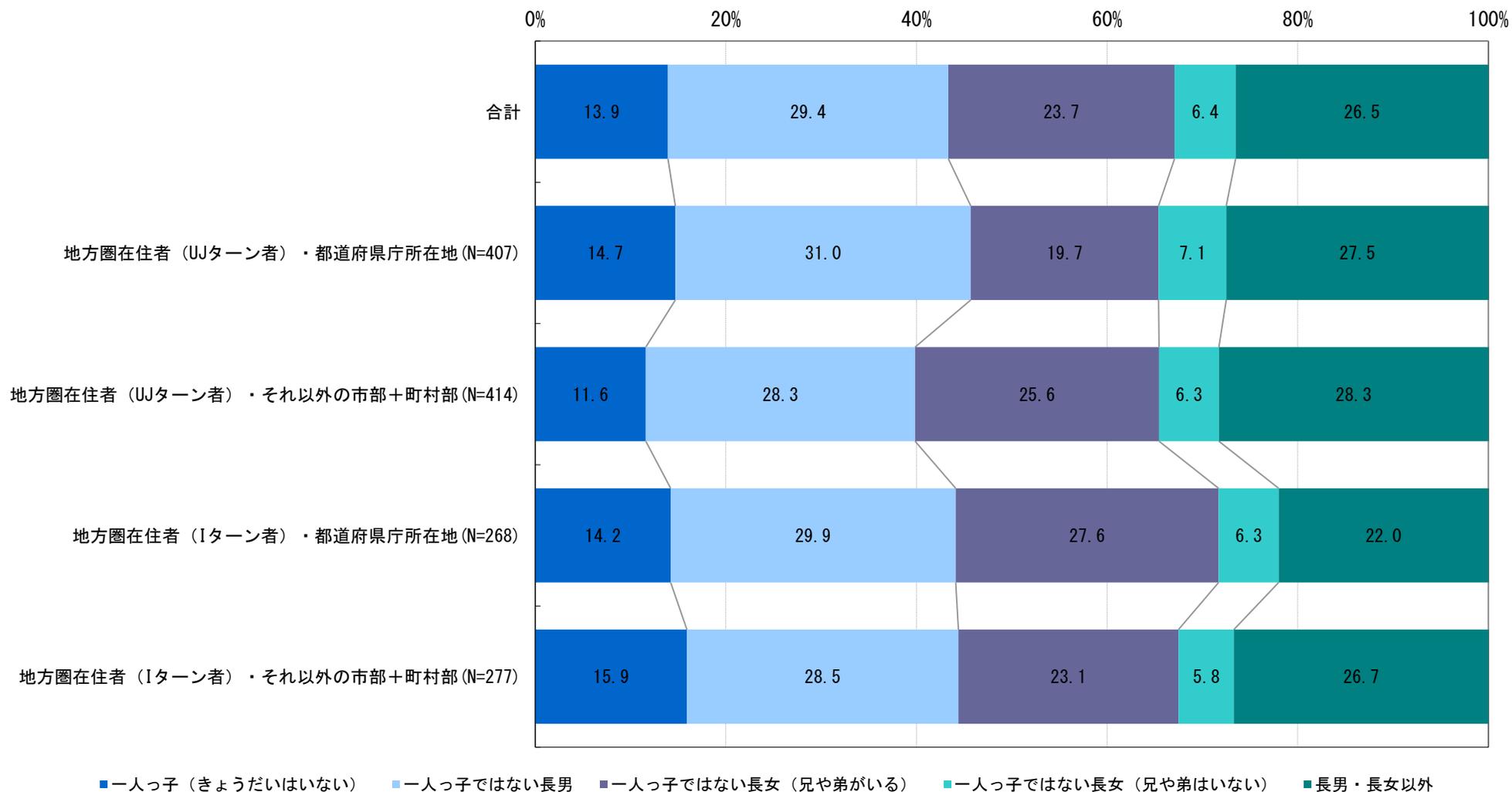
##### 回答者の基本属性（両親の出身地）



#### 4.1.1.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査方法

#### 回答者の基本属性（きょうだい構成、自身の位置付け）

あなたのきょうだい（兄弟・姉妹）構成とあなたの位置付けについてお答えください。[SA]



## 4.1.2.地方移住者（UJターン者）の意識調査\_アンケート調査\_調査結果

---

## 4.1.2.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査結果

### 単純集計・男女クロス・居住地クロス 概要まとめ①

- 生活全般への幸福度（「キャントリルの梯子」設問） [P.170~172]
  - 東京圏出身者では、東京圏在住者と比べてターン者の幸福度が高く(平均：5.5段目)、地方出身者では、地方移住の非関心層／関心層／Uターン者すべてについて幸福度が高い（5.0以上）傾向。
- 地方暮らしの満足度[P.173~175]
  - 地方暮らしに満足している（「満足している」or「やや満足している」と回答）、Uターン者（70.4%）はターン者(59.1%)と比べ約10ポイント高い。
  - 性別や居住地（都道府県庁所在地／その他市町村）による顕著な差はみられない。
- 地方に住むことを最初に意識したきっかけ[P.176~178]
  - Uターン者では、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(13.2%)が最も高く、「あなた自身の転勤がきっかけ」(13.0%)、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(11.9%)と続く。
  - ターン者では、「結婚がきっかけ」(20.4%)が最も高く、「就職活動（新卒）がきっかけ」(14.9%)、「あなた自身の転勤がきっかけ」(14.9%)と続く。
  - 「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」と回答した割合は、「男性×Uターン者」(14.5%)、「女性×Uターン者」(9.4%)、「男性×ターン者」(6.5%)、「女性×ターン者」(5.7%)の順で高い。（Uターン者 > ターン者）（男性 > 女性）
  - 「結婚がきっかけ」と回答した割合は、「ターン者×その他市町村」(26.7%)、「ターン者×都道府県庁所在地」(13.8%)、「Uターン者×その他市町村」(7.0%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(5.2%)の順で高い。（ターン者 > Uターン者）（その他市町村 > 都道府県庁所在地）
- 地方のどのような暮らしに魅力を感じていたか（誘因カテゴリー） [P.179~185]
  - Uターン者では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(28.0%)が最も高く、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(25.0%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(14.3%)と続く。
  - ターン者では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(35.2%)が最も高く、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(15.2%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(9.9%)と続く。
  - 「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」と回答した割合は、「男性×ターン者」(21.3%)、「男性×Uターン者」(16.2%)、「女性×Uターン者」(12.3%)、「女性×ターン者」(9.6%)の順で高い。（男性 > 女性）
  - 「自分好みの快適で広い家での暮らし」や「自然がすぐ近くにある暮らし」は、ターン者(8.3%/9.9%)の方がUターン者(5.4%/6.0%)より高い。

## 4.1.2.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査結果

### 単純集計・男女クロス・居住地クロス 概要まとめ②

#### ■ 地方移住に対する両親の意向[P.186~188]

- 「東京圏から移り住むことを積極的に勧められた」割合は、Uターン者では18.6%である一方で、Iターン者では6.4%である。
- 「東京圏から移り住むことを積極的に勧められた」or「東京圏から移り住むことを勧められたわけではないが、賛成はしていた」割合は、「Uターン者×その他市町村」(51.7%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(51.1%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(46.2%)、「Iターン者×その他市町村」(38.0%)の順に高い。  
(Uターン者>Iターン者)

#### ■ 地方に移り住むために参考になった情報[P.189~191]

- Uターン者では、「仕事に関する情報」(35.8%)が最も高く、「生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報」(26.2%)、「住居、住宅購入に関する情報」(19.2%)と続く。
- Iターン者では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）に関する情報」(29.5%)が最も高く、「生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報」(25.0%)、「仕事に関する情報」(21.5%)と続く。

#### ■ 移住前以前の現在の居住地との関わり方（関係・交流人口活動） [P.195~197]

- Uターン者では、「地縁がある者または血縁者がいて、帰省・訪問していた」(47.7%)が最も高く、「旅行や観光または知人・友人がいて、訪問していた」(20.1%)、「会社の支社・営業所、サテライトオフィス等が存在、または業務（出張等）により、訪問していた」(14.4%)と続く。
- Iターン者では、「旅行や観光または知人・友人がいて、訪問していた」(20.4%)が最も高く、「地縁がある者または血縁者がいて、帰省・訪問していた」(16.0%)、「会社の支社・営業所、サテライトオフィス等が存在、または業務（出張等）により、訪問していた」(6.4%)と続く。
- 関係人口活動を経験していない割合は、Uターン者では31.2%、Iターン者では59.6%。

#### ■ 地方に住むという「決断」をした際に、影響を与えた要素[P.198~200]

- Uターン者では、「希望する職種・業種の仕事が見つかったこと」(31.2%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事が見つかったこと」(17.3%)、「快適な暮らしが見込まれる住居があると分かったこと」(16.8%)と続く。
- Iターン者では、「希望する職種・業種の仕事が見つかったこと」(25.3%)が最も高く、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が満足できる水準であることが分かったこと」(14.1%)、「快適な暮らしが見込まれる住居があると分かったこと」(13.8%)と続く。
- 「子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の充実度」と「家族・親族・友人・知人からの説得」を回答した割合はUターン者/Iターン者とも（女性>男性）の差は大きい。

## 4.1.2.地方移住者の意識調査\_アンケート調査\_調査結果

### 単純集計・男女クロス・居住地クロス 概要まとめ③

#### ■ 地方に移り住むことを計画した際に苦労した点[P.207~209]

- Uターン者では、「[仕事に関する情報収集](#)」(31.8%)が最も高く、「住居に関する情報収集」(21.0%)、「移住費用の高さ」(14.6%)と続く。
- Iターン者では、「[住居に関する情報収集](#)」(22.4%)が最も高く、「仕事に関する情報収集」(19.3%)、「[地方移住者の情報が少なく、具体的な生活イメージが湧かないこと](#)」(14.9%)と続く。

#### ■ 地方での暮らしに感じる不満[P.210~212]

- Uターン者では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ」(31.1%)が最も高く、「収入が低下したこと」(29.1%)、「余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ」(24.7%)と続く。
- Iターン者では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ」(37.1%)が最も高く、「余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ」(25.5%)、「収入が低下したこと」(20.2%)と続く。
- 「地域の人間関係に溶け込むことの難しさ／コミュニティの狭さ」と回答した割合は、[Iターン者では18.7%である一方で、Uターン者では8.6%](#)である。居住地（都道府県庁所在地／その他市町村）による差は小さい。
- 「地域特有の価値観や偏見を感じる」と回答した割合は、[Iターン者では14.1%である一方で、Uターン者では約7.9%](#)である。

#### ■ 結婚や仕事等の女性の生き方に対する地域特有の価値観や偏見[P.213~214]

- Uターン者のうち、[49.8%](#)の女性が生き方に対する地域特有の価値観や偏見を感じている（「とてもそう思う」、「ややそう思う」）。
- Iターン者のうち、[34.3%](#)の女性が生き方に対する地域特有の価値観や偏見を感じている（「とてもそう思う」、「ややそう思う」）。
- 偏見を感じる（「とてもそう思う」or「ややそう思う」）と回答した割合は、「Uターン者×その他市町村」(50.0%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(49.5%)、「Iターン者×その他市町村」(37.4%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(31.5%)の順で高い。（[Uターン者 > Iターン者×その他市町村 > Iターン者×都道府県庁所在地](#)）

# Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。（再掲）

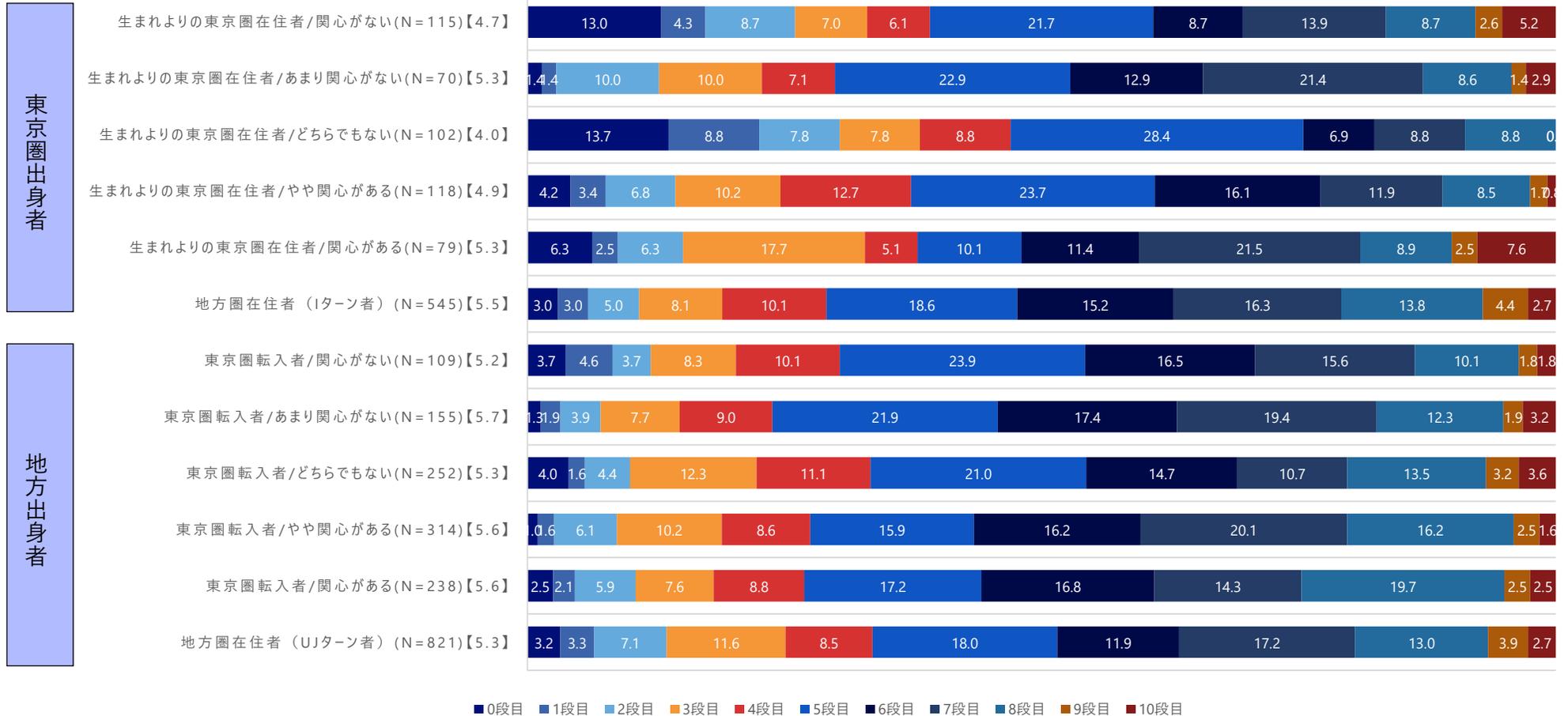
東京圏出身者では、東京圏在住者と比べてIターン者の幸福度が高い。(Iターン者平均：5.5段目)

地方出身者では、地方移住の非関心層／関心層／Uターン者すべてについて幸福度が高い傾向にある。(平均：5.0段目以上)

あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。あなたの前に梯子（はしご）があるとします。

「あり得る最悪の人生」を梯子の0段目、「あり得る最高の人生」を梯子の10段目と考えた場合、あなたは今、はしごの何段目にいると思いますか。

0～10段でお答えください。（ひとつだけ）



# Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。（再掲）

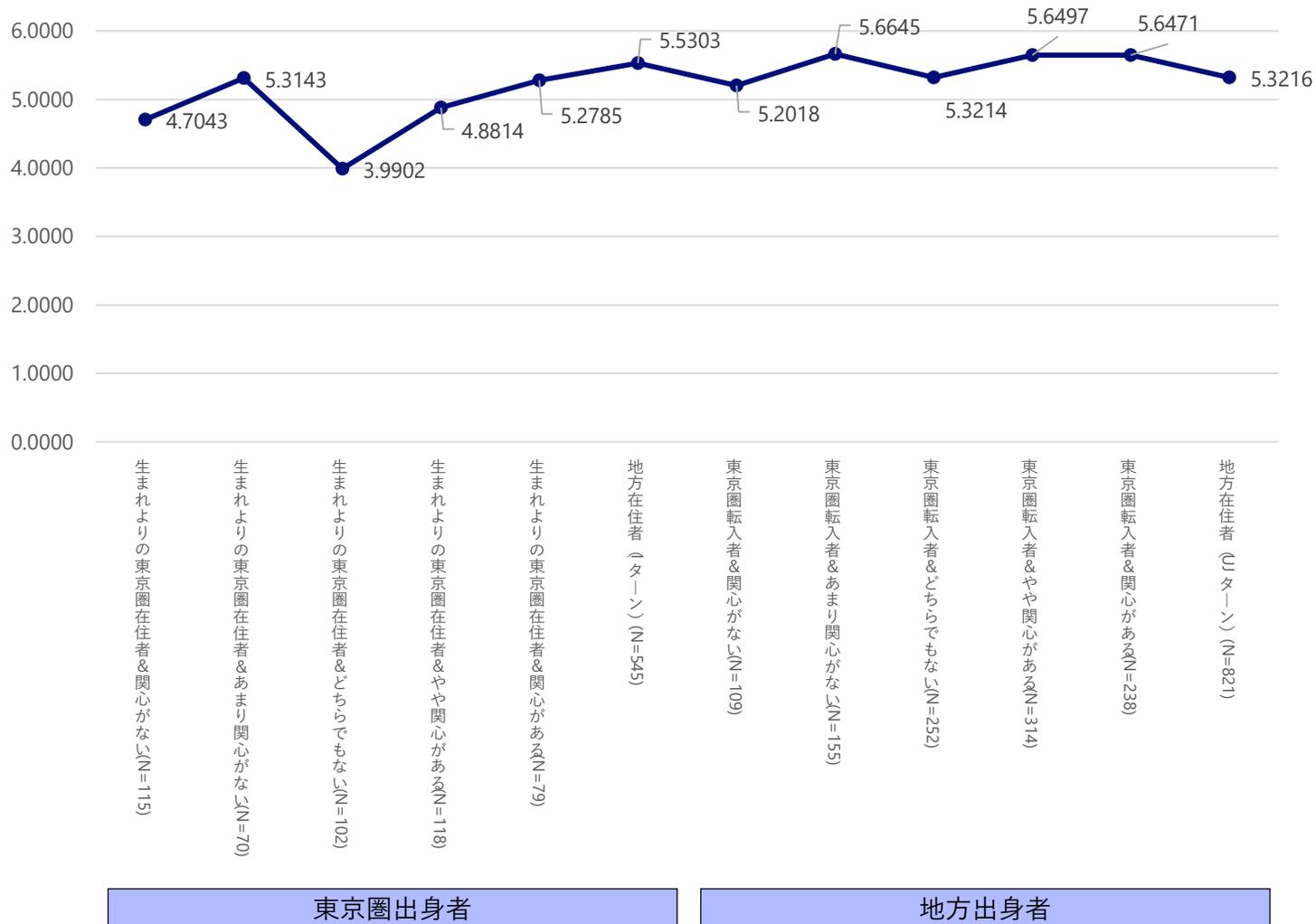
（参考）「キャントリルの梯子設問」 小数点第四位までのデータ

	N数	平均幸福度	0段目	1段目	2段目	3段目	4段目	5段目	6段目	7段目	8段目	9段目	10段目
N数	2,918		107	86	177	290	265	559	407	472	385	91	79
生まれよりの東京圏在住者×関心がない(N=115)	115	4.7043	13.0435%	4.3478%	8.6957%	6.9565%	6.0870%	21.7391%	8.6957%	13.9130%	8.6957%	2.6087%	5.2174%
生まれよりの東京圏在住者×あまり関心がない(N=70)	70	5.3143	1.4286%	1.4286%	10.0000%	10.0000%	7.1429%	22.8571%	12.8571%	21.4286%	8.5714%	1.4286%	2.8571%
生まれよりの東京圏在住者×どちらでもない(N=102)	102	3.9902	13.7255%	8.8235%	7.8431%	7.8431%	8.8235%	28.4314%	6.8627%	8.8235%	8.8235%	0.0000%	0.0000%
生まれよりの東京圏在住者×やや関心がある(N=118)	118	4.8814	4.2373%	3.3898%	6.7797%	10.1695%	12.7119%	23.7288%	16.1017%	11.8644%	8.4746%	1.6949%	0.8475%
生まれよりの東京圏在住者×関心がある(N=79)	79	5.2785	6.3291%	2.5316%	6.3291%	17.7215%	5.0633%	10.1266%	11.3924%	21.5190%	8.8608%	2.5316%	7.5949%
地方在住者（Iターン）(N=545)	545	5.5303	2.9358%	2.9358%	4.9541%	8.0734%	10.0917%	18.5321%	15.2294%	16.3303%	13.7615%	4.4037%	2.7523%
東京圏転入者×関心がない(N=109)	109	5.2018	3.6697%	4.5872%	3.6697%	8.2569%	10.0917%	23.8532%	16.5138%	15.5963%	10.0917%	1.8349%	1.8349%
東京圏転入者×あまり関心がない(N=155)	155	5.6645	1.2903%	1.9355%	3.8710%	7.7419%	9.0323%	21.9355%	17.4194%	19.3548%	12.2581%	1.9355%	3.2258%
東京圏転入者×どちらでもない(N=252)	252	5.3214	3.9683%	1.5873%	4.3651%	12.3016%	11.1111%	21.0317%	14.6825%	10.7143%	13.4921%	3.1746%	3.5714%
東京圏転入者×やや関心がある(N=314)	314	5.6497	0.9554%	1.5924%	6.0510%	10.1911%	8.5987%	15.9236%	16.2420%	20.0637%	16.2420%	2.5478%	1.5924%
東京圏転入者×関心がある(N=238)	238	5.6471	2.5210%	2.1008%	5.8824%	7.5630%	8.8235%	17.2269%	16.8067%	14.2857%	19.7479%	2.5210%	2.5210%
地方在住者（UJターン）(N=821)	821	5.3216	3.1669%	3.2887%	7.0646%	11.5713%	8.4044%	18.0268%	11.8149%	17.1742%	12.9111%	3.8977%	2.6797%

Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。(再掲)

(参考)「キャントリルの梯子設問」 小数点第四位までのデータ

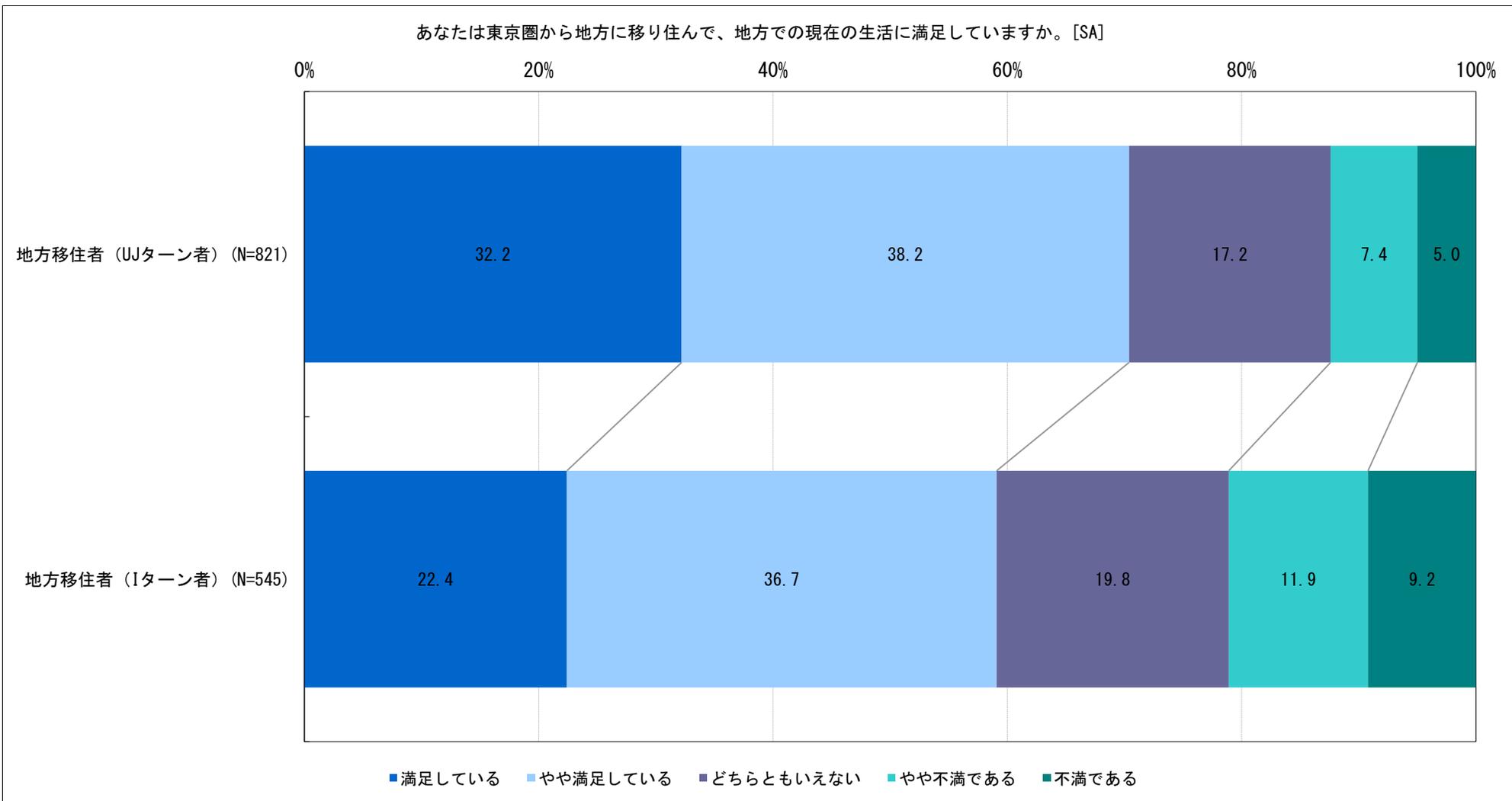
東京圏在住者の移住への関心状況別／移住後の平均幸福度



Q16.あなたは東京圏から地方に移り住んで、地方での現在の生活に満足していますか。【単純集計】

Uターン者では、「満足している、やや満足している」は70.4%、「やや不満である、不満である」は12.4%。

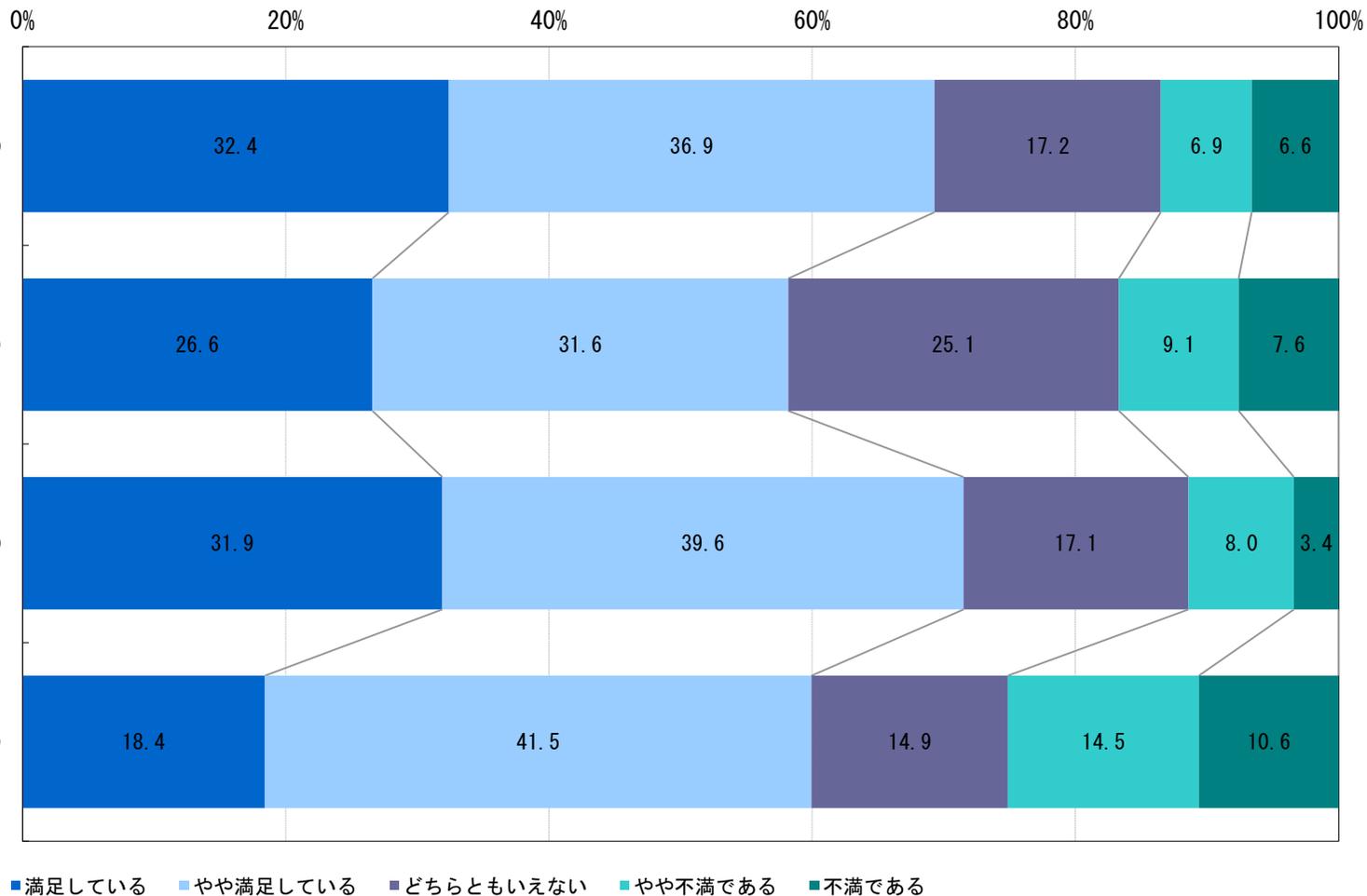
Iターン者では、「満足している、やや満足している」は59.1%、「やや不満である、不満である」は21.1%。



## Q16.あなたは東京圏から地方に移り住んで、地方での現在の生活に満足していますか。【男女クロス集計】

「満足している、やや満足している」と回答した割合は、「男性×Uターン者」では69.3%、「男性×Iターン者」では58.2%、「女性×Uターン者」では71.5%、「女性×Iターン者」では59.9%。

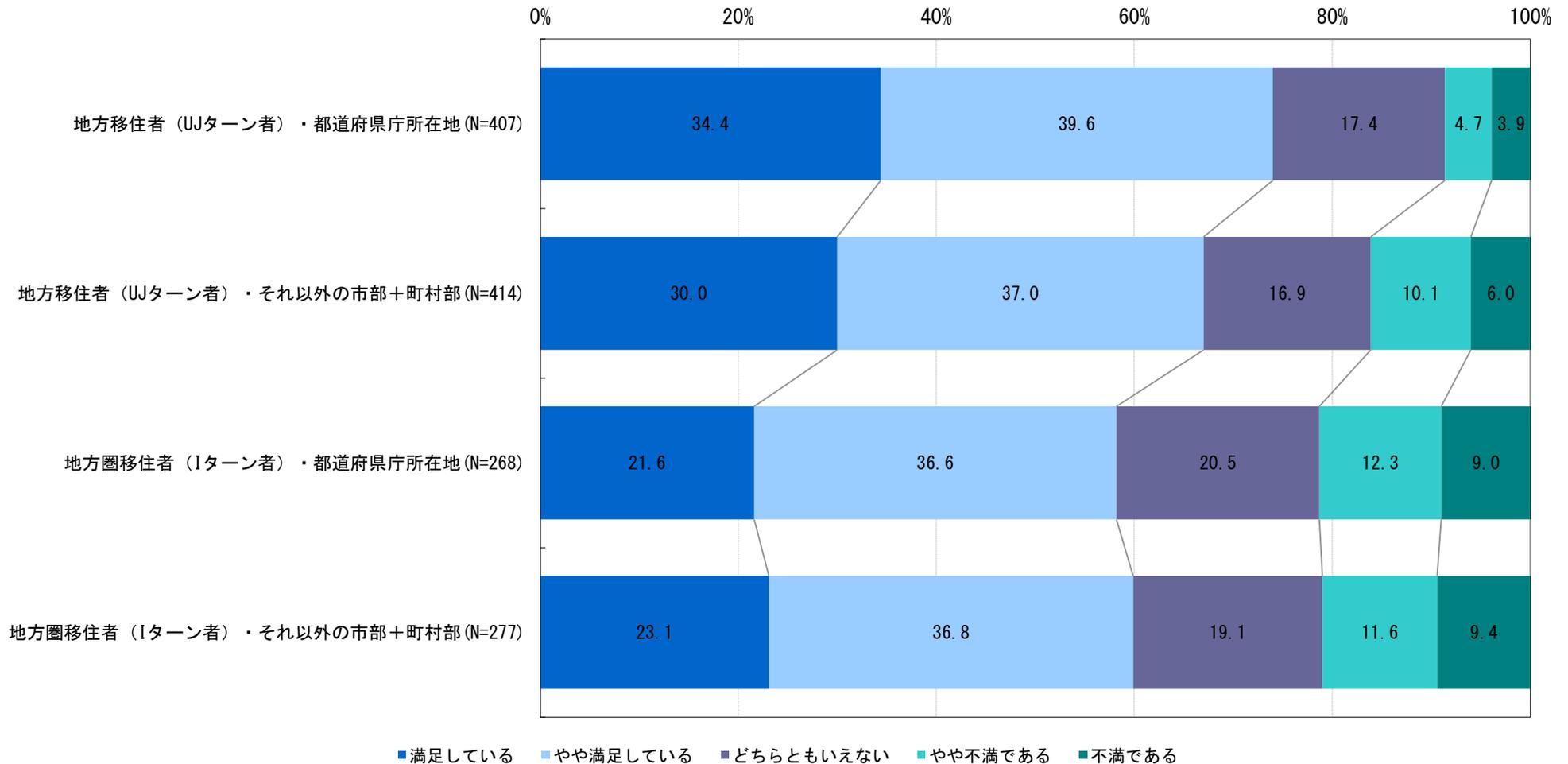
あなたは東京圏から地方に移り住んで、地方での現在の生活に満足していますか。[SA]



Q16.あなたは東京圏から地方に移り住んで、地方での現在の生活に満足していますか。【居住地クロス集計】

地方暮らしに満足している（「満足している」or「やや満足している」と回答）、Uターン者（70.5%）はIターン者(59.1%)と比べ約10ポイント高い。居住地（都道府県庁所在地／その他市町村）による差はみられない。

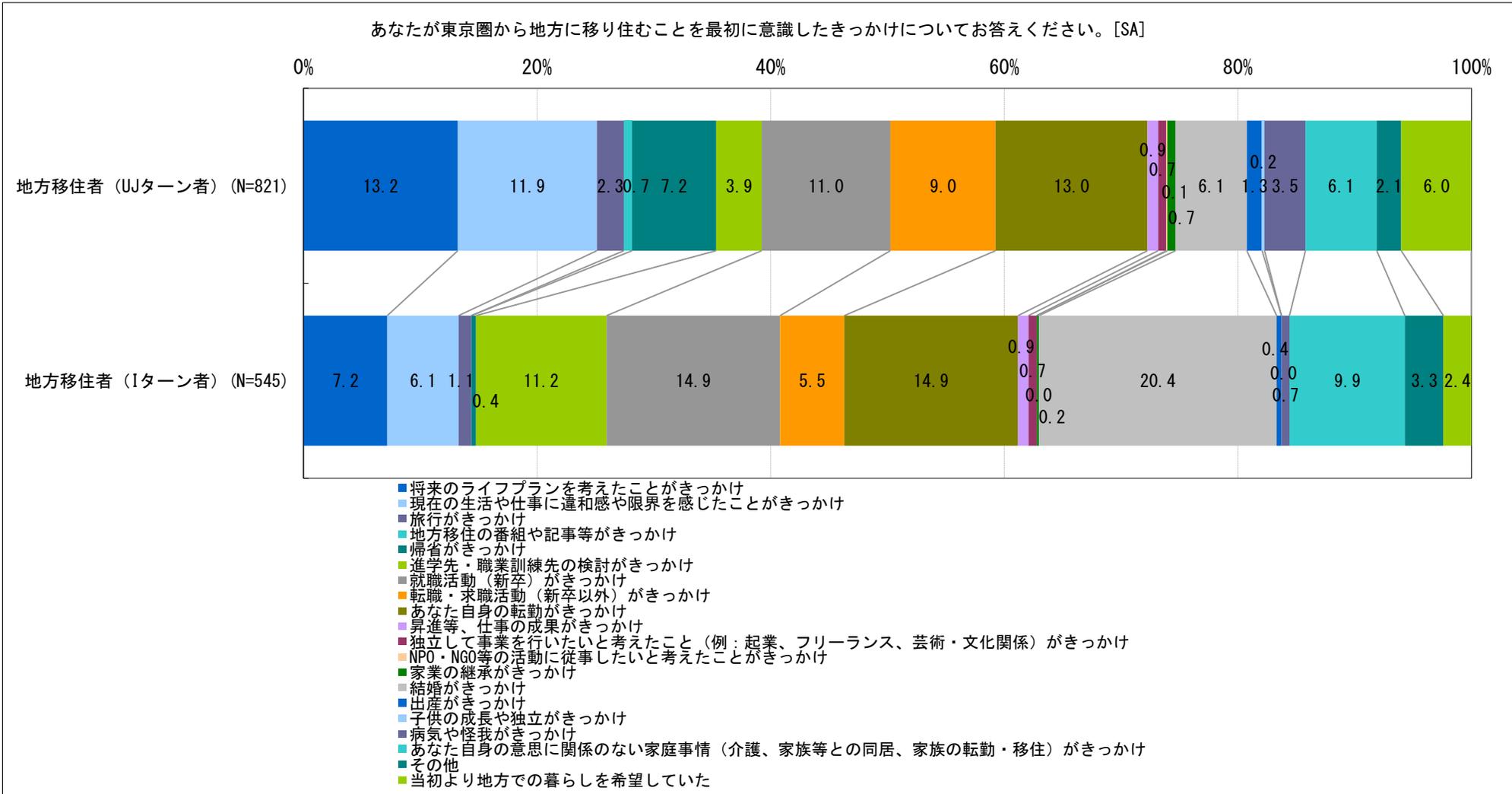
あなたは東京圏から地方に移り住んで、地方での現在の生活に満足していますか。[SA]



Q17.あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけについてお答えください。【単純集計】

Uターン者では、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(13.2%)が最も高く、「あなた自身の転勤がきっかけ」(13.0%)、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(11.9%)と続く。

Iターン者では、「結婚がきっかけ」(20.4%)が最も高く、「就職活動（新卒）がきっかけ」(14.9%)、「あなた自身の転勤がきっかけ」(14.9%)と続く。



## Q17.あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけについてお答えください。【男女クロス集計】

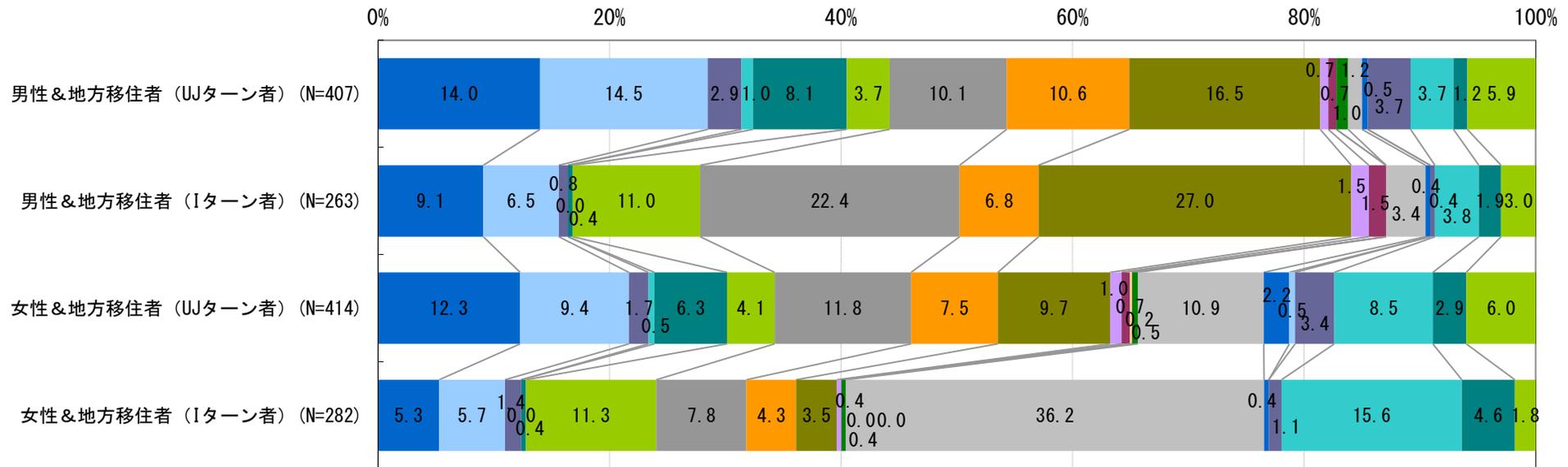
「男性×UJターン者」では、「あなた自身の転勤がきっかけ」(16.5%)、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」(14.5%)、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(14.0%)の順で高い。

「男性×Iターン者」では、「あなた自身の転勤がきっかけ」(21.3%)、「就職活動（新卒）がきっかけ」(22.4%)、「進学先・職業訓練先の検討がきっかけ」(11.0%)の順で高い。

「女性×UJターン者」では、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」(12.3%)、「就職活動（新卒）がきっかけ」(11.8%)、「結婚がきっかけ」(10.9%)の順で高い。

「女性×Iターン者」では、「結婚がきっかけ」(36.2%)、「あなた自身の意思に関係のない家庭事情（介護、家族等との同居、家族の転勤・移住）がきっかけ」(15.6%)、「進学先・職業訓練先の検討がきっかけ」(11.3%)の順で高い。

あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけについてお答えください。[SA]



- 将来のライフプランを考えたことがきっかけ
- 現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ
- 旅行がきっかけ
- 地方移住の番組や記事等がきっかけ
- 帰省がきっかけ
- 進学先・職業訓練先の検討がきっかけ
- 就職活動（新卒）がきっかけ
- 転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ
- あなた自身の転勤がきっかけ
- 昇進等、仕事の成果がきっかけ
- 独立して事業を行いたいと考えたこと（例：起業、フリーランス、芸術・文化関係）がきっかけ
- NPO・NGO等の活動に従事したいと考えたことがきっかけ
- 家業の継承がきっかけ
- 結婚がきっかけ
- 出産がきっかけ
- 子供の成長や独立がきっかけ
- 病気や怪我がきっかけ
- あなた自身の意思に関係のない家庭事情（介護、家族等との同居、家族の転勤・移住）がきっかけ
- その他
- 当初より地方での暮らしを希望していた

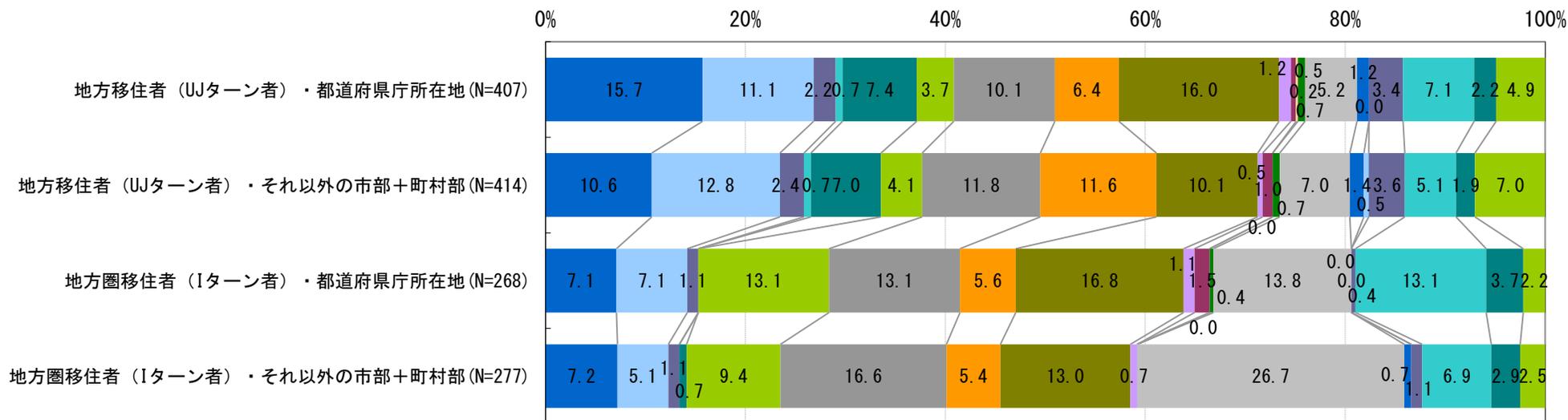
Q17.あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけについてお答えください。【居住地クロス集計】

「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」と回答した割合は、「UJターン者×都道府県庁所在地」(15.7%)、「UJターン者×その他市町村」(10.6%)、「Iターン者×その他市町村」(7.2%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(7.1%)の順で高い。(UJターン者>Iターン者)

「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ」と回答した割合は、「UJターン者×その他市町村」(12.8%)、「UJターン者×都道府県庁所在地」(11.1%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(7.1%)、「Iターン者×その他市町村」(5.1%)の順で高い。(UJターン者>Iターン者)

「結婚がきっかけ」と回答した割合は、「Iターン者×その他市町村」(26.7%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(13.8%)、「UJターン者×その他市町村」(7.0%)、「UJターン者×都道府県庁所在地」(5.2%)の順で高い。(Iターン者>UJターン者) (その他市町村>都道府県庁所在地)

あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけについてお答えください。[SA]



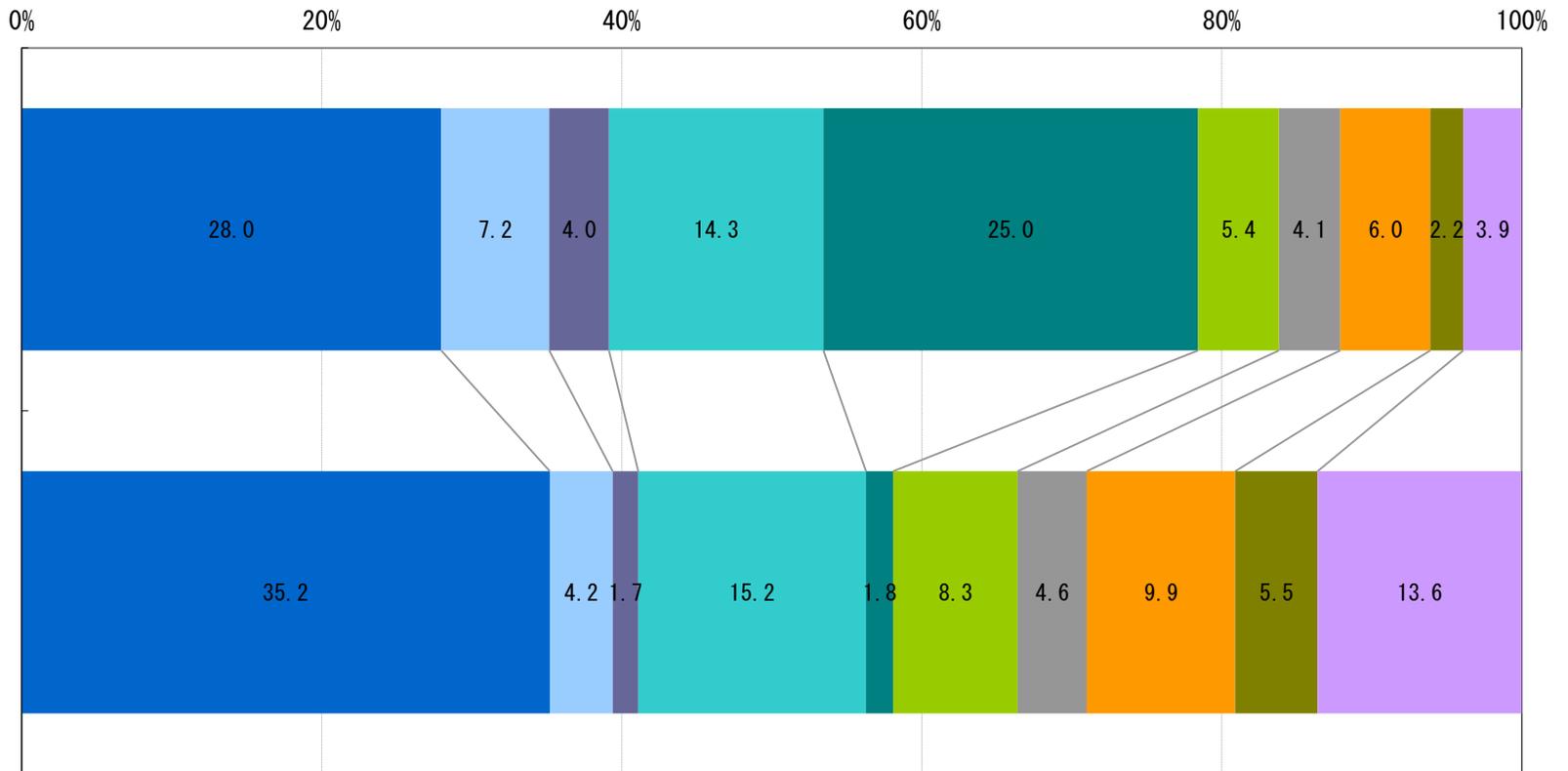
- 将来のライフプランを考えたことがきっかけ
- 現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ
- 旅行がきっかけ
- 地方移住の番組や記事等がきっかけ
- 帰省がきっかけ
- 進学先・職業訓練先の検討がきっかけ
- 就職活動(新卒)がきっかけ
- 転職・求職活動(新卒以外)がきっかけ
- あなた自身の転職がきっかけ
- 昇進等、仕事の成果がきっかけ
- 独立して事業を行いたいと考えたこと(例:起業、フリーランス、芸術・文化関係)がきっかけ
- NPO・NGO等の活動に従事したいと考えたことがきっかけ
- 家業の継承がきっかけ
- 結婚がきっかけ
- 出産がきっかけ
- 子供の成長や独立がきっかけ
- 病気や怪我がきっかけ
- あなた自身の意思に関係のない家庭事情(介護、家族等との同居、家族の転勤・移住)がきっかけ
- その他
- 当初より地方での暮らしを希望していた

Q18.あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。【単純集計】

Uターン者では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(28.0%)が最も高く、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(25.0%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(14.3%)と続く。

Iターン者では、「自然も便利もある地方都市での暮らし(35.2%)が最も高く、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(15.2%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(9.9%)と続く。

あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。最もあてはまるものをお答えください。[SA]

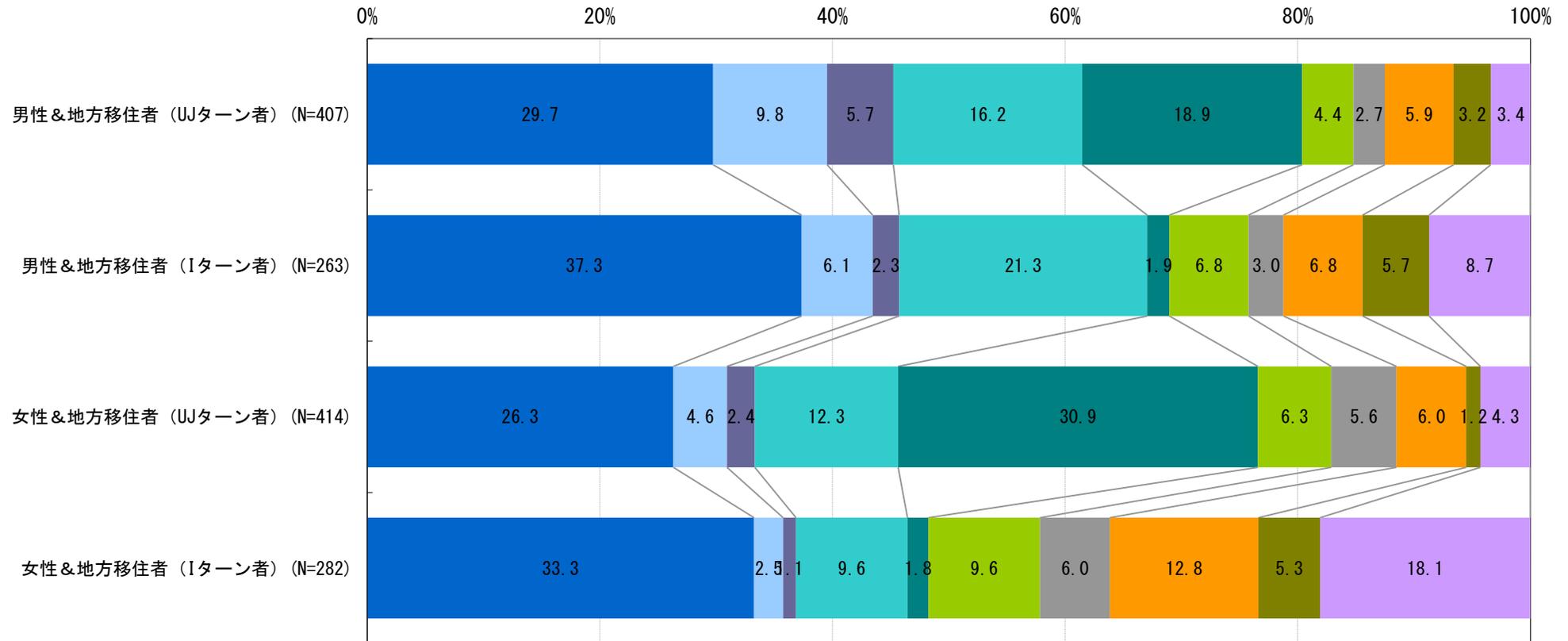


- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

## Q18.あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。【男女クロス集計】

「男性×Uターン者」では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(29.7%)、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(18.9%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(16.2%)の順で高い。  
 「男性×Iターン者」では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(37.3%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(21.3%)、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(6.8%)の順で高い。  
 「女性×Uターン者」では、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(30.9%)、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(26.3%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(12.3%)の順で高い。  
 「女性×Iターン者」では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(33.3%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(12.8%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(9.6%)、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(9.6%)の順で高い。

あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。最もあてはまるものをお答えください。[SA]



- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

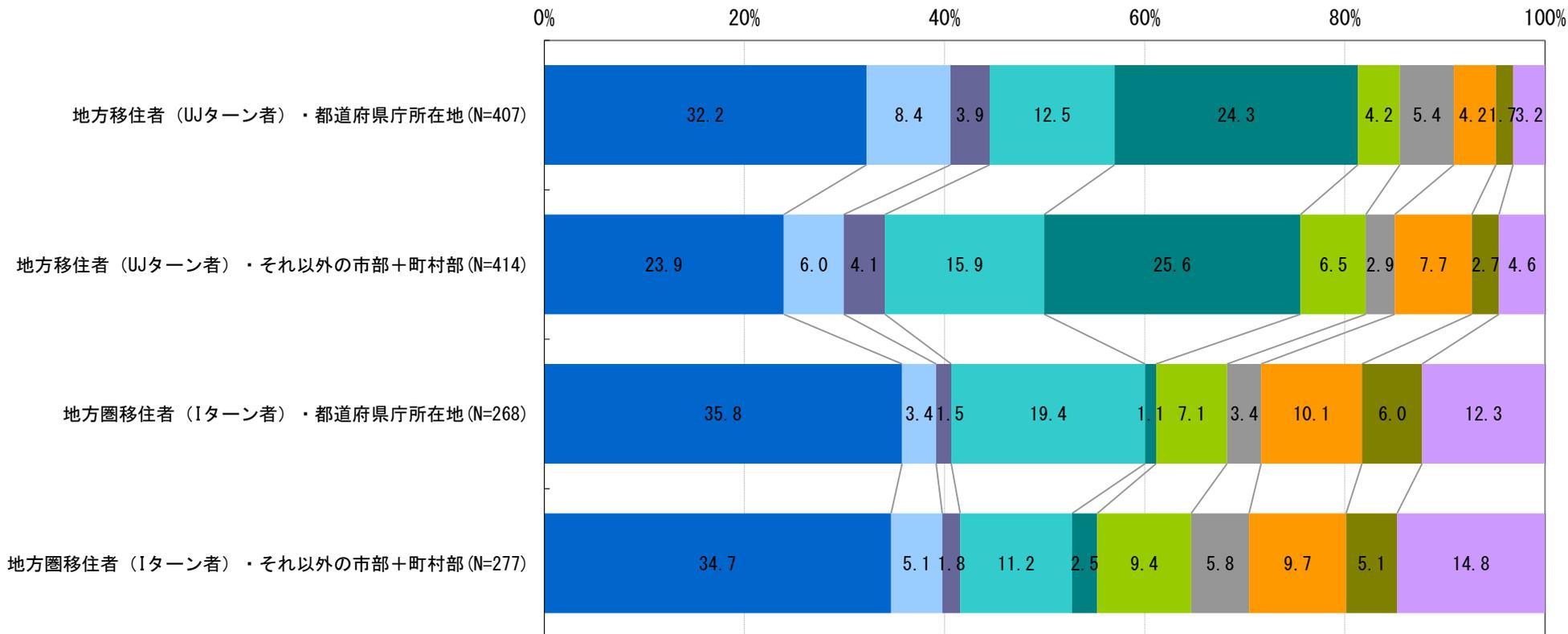
Q18.あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。【居住地クロス集計】

「自然も便利もある地方都市での暮らし」は、「Iターン者×都道府県庁所在地」(35.8%)、「Iターン者×その他市町村」(34.7%)、「UJターン者×都道府県庁所在地」(32.2%)の順で高い。

「親や昔の友達の近くにいる暮らし」は、「UJターン者×その他市町村」(25.6%)、「UJターン者×都道府県庁所在地」(24.3%)の順に高く、Iターン者では顕著に低い。

「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」は、「Iターン者×都道府県庁所在地」(19.4%)、「UJターン者×その他市町村」(15.9%)、「UJターン者×都道府県庁所在地」(12.5%)の順で高い。

あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。最もあてはまるものをお答えください。[SA]

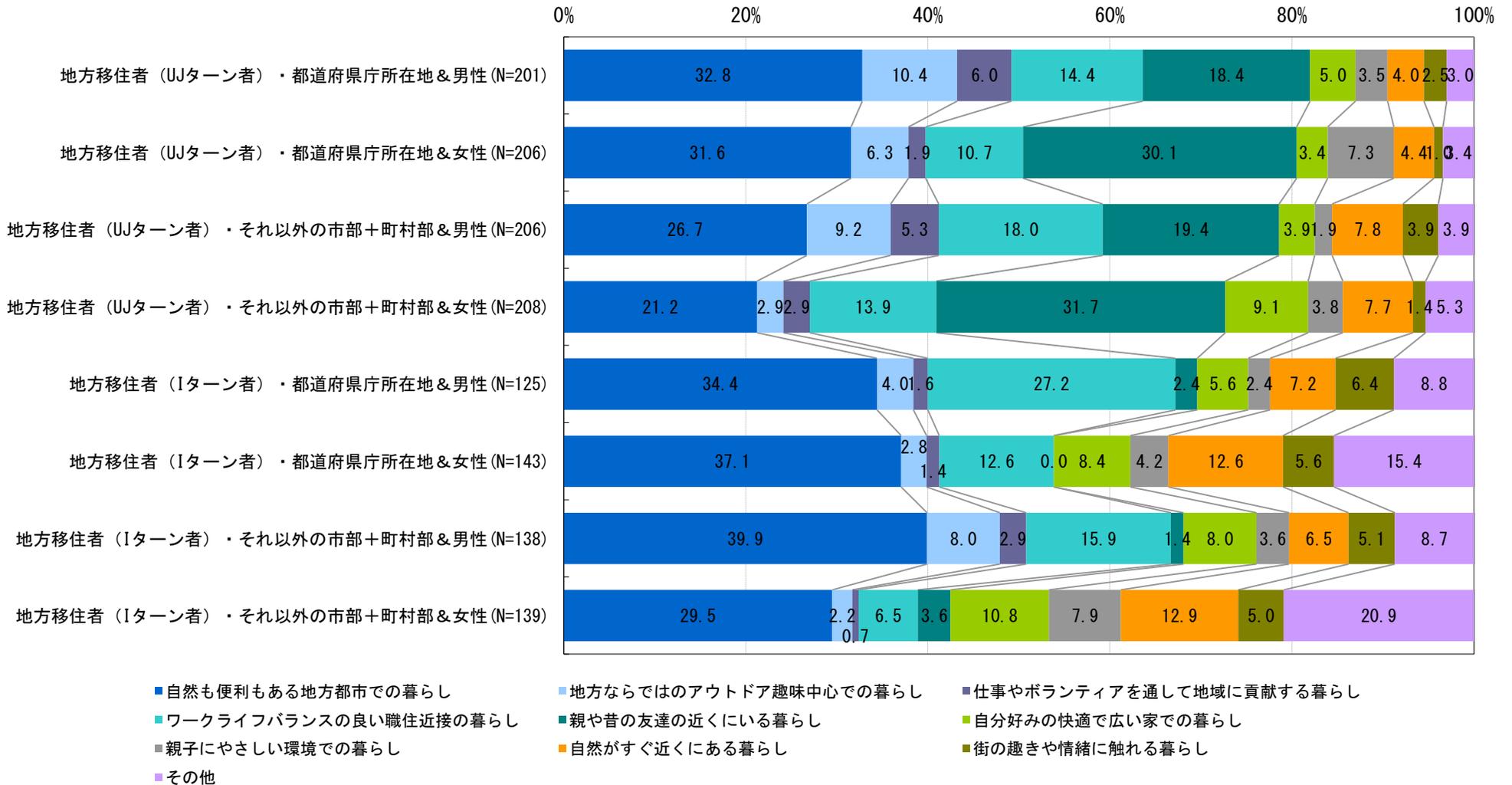


- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

Q18.あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。【性別×居住地クロス集計】

(参考) UJ/Iターン区分×居住地 (都道府県庁所在地/その他市町村) ×性別 クロス集計

あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。最もあてはまるものをお答えください。[SA]



Q18.あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。【属性別の上位回答】

(参考) UJ/Iターン区分×居住地 (都道府県庁所在地/その他市町村) ×性別 クロス集計 属性別の上位回答

対象者区分			誘因カテゴリー(%)				
UJ/Iターン区分	居住地区分	性別	1位	2位	3位	4位	5位
UJターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(32.8)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(18.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(14.4)	地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし(10.4)	仕事やボランティアを通じて地域に貢献する暮らし(6.0)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(31.6)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(30.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(10.7)	親子にやさしい環境での暮らし(7.3)	地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし(6.3)
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(26.7)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(19.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(18.0)	地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし(9.2)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.8)
		女性	親や昔の友達の近くにいる暮らし(31.7)	自然も便利もある地方都市での暮らし(21.2)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(13.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(9.1)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.7)
Iターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(34.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(27.2)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.2)	街の趣きや情緒に触れる暮らし(6.4)	自分好みの快適で広い家での暮らし(5.6)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(37.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(12.6)※	自然がすぐ近くにある暮らし(12.6)※	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.4)	街の趣きや情緒に触れる暮らし(5.6)
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(39.9)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(15.9)	地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし(8.0)※	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.0)※	自然がすぐ近くにある暮らし(6.5)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(29.5)	自然がすぐ近くにある暮らし(12.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(10.8)	親子にやさしい環境での暮らし(7.9)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(6.5)

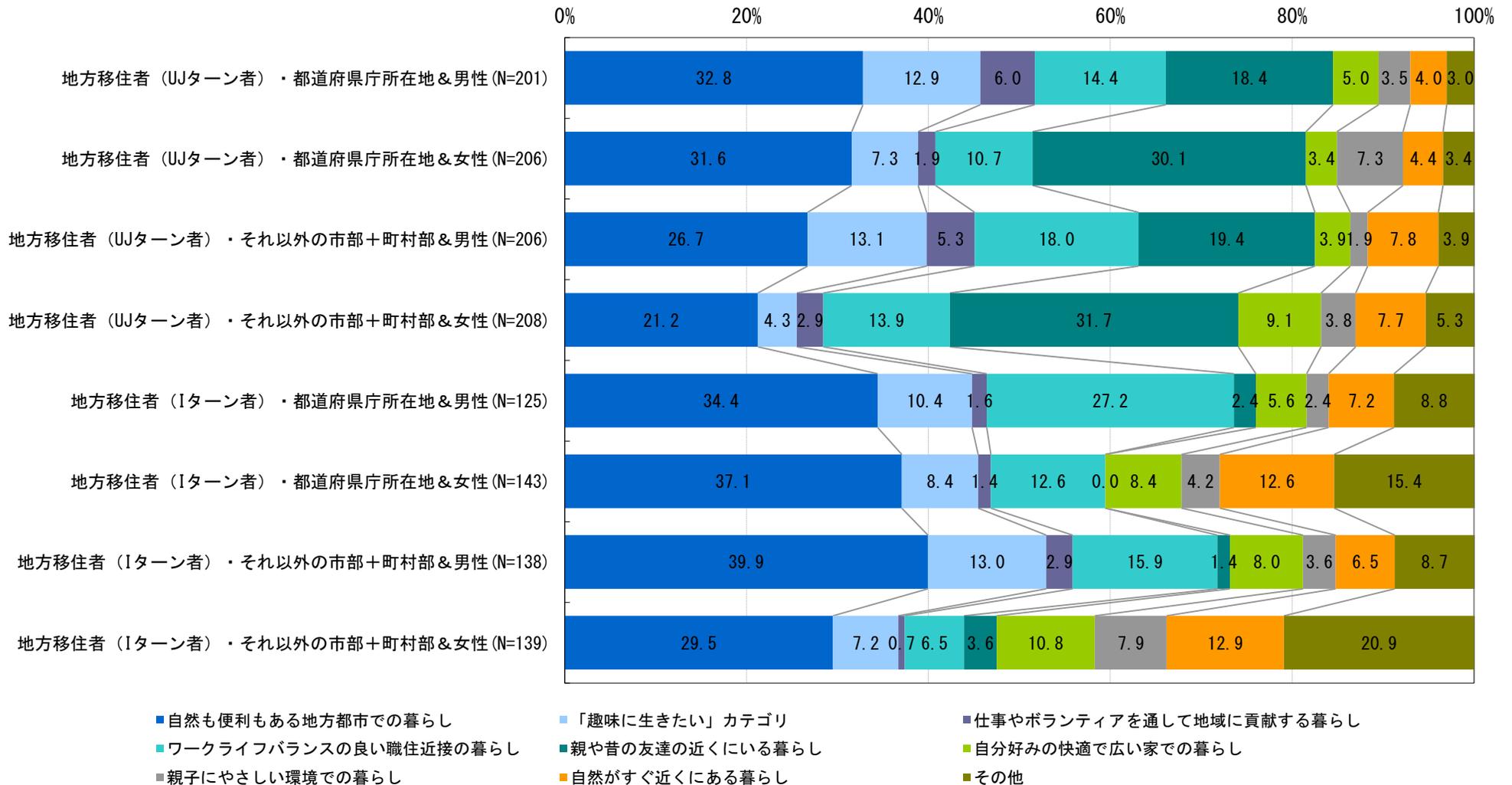
※同率回答は選択肢番号が小さいものを上位に記載

Q18.あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。【性別×居住地クロス集計】

(参考) UJ/Iターン区分×居住地 (都道府県庁所在地/その他市町村) ×性別 クロス集計

(「趣味に生きたい」=「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」+「街の趣きや情緒に触れる暮らし」)

あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。最もあてはまるものをお答えください。[SA]



Q18.あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。【属性別の上位回答】

(参考) UJ/1ターン区分×居住地(都道府県庁所在地/その他市町村)×性別 クロス集計 属性別の上位回答  
 (「趣味に生きたい」=「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」+「街の趣きや情緒に触れる暮らし」)

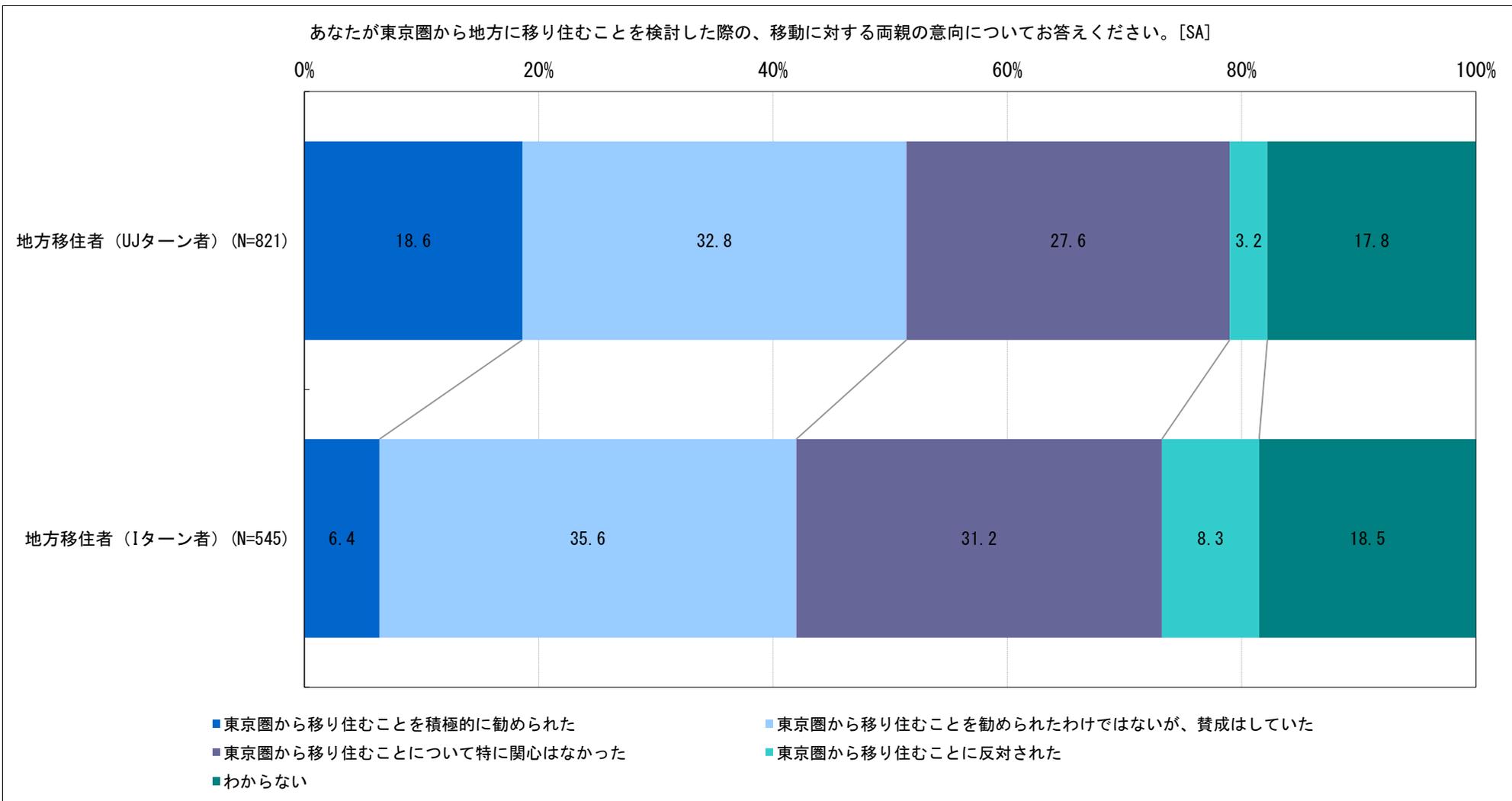
対象者区分			誘因カテゴリー(%)				
UJ/1ターン区分	居住地区分	性別	1位	2位	3位	4位	5位
UJターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(32.8)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(18.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(14.4)	「趣味に生きたい」カテゴリー(12.9)	仕事やボランティアを通じて地域に貢献する暮らし(6.0)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(31.6)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(30.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(10.7)	「趣味に生きたい」カテゴリー(7.3)※	親子にやさしい環境での暮らし(7.3)※
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(26.7)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(19.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(18.0)	「趣味に生きたい」カテゴリー(13.1)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.8)
		女性	親や昔の友達の近くにいる暮らし(31.7)	自然も便利もある地方都市での暮らし(21.2)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(13.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(9.1)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.7)
1ターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(34.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(27.2)	「趣味に生きたい」カテゴリー(10.4)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.2)	自分好みの快適で広い家での暮らし(5.6)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(37.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(12.6)※	自然がすぐ近くにある暮らし(12.6)※	「趣味に生きたい」カテゴリー(8.4)※	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.4)※
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(35.3)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(15.8)	「趣味に生きたい」カテゴリー(13.0)	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.0)	自然がすぐ近くにある暮らし(6.5)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(29.5)	自然がすぐ近くにある暮らし(12.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(10.9)	親子にやさしい環境での暮らし(7.9)	「趣味に生きたい」カテゴリー(7.2)

※同率回答は選択肢番号が小さいものを上位に記載

Q19.あなたが東京圏から地方に移り住むことを検討した際の、移動に対する両親の意向についてお答えください。【単純集計】

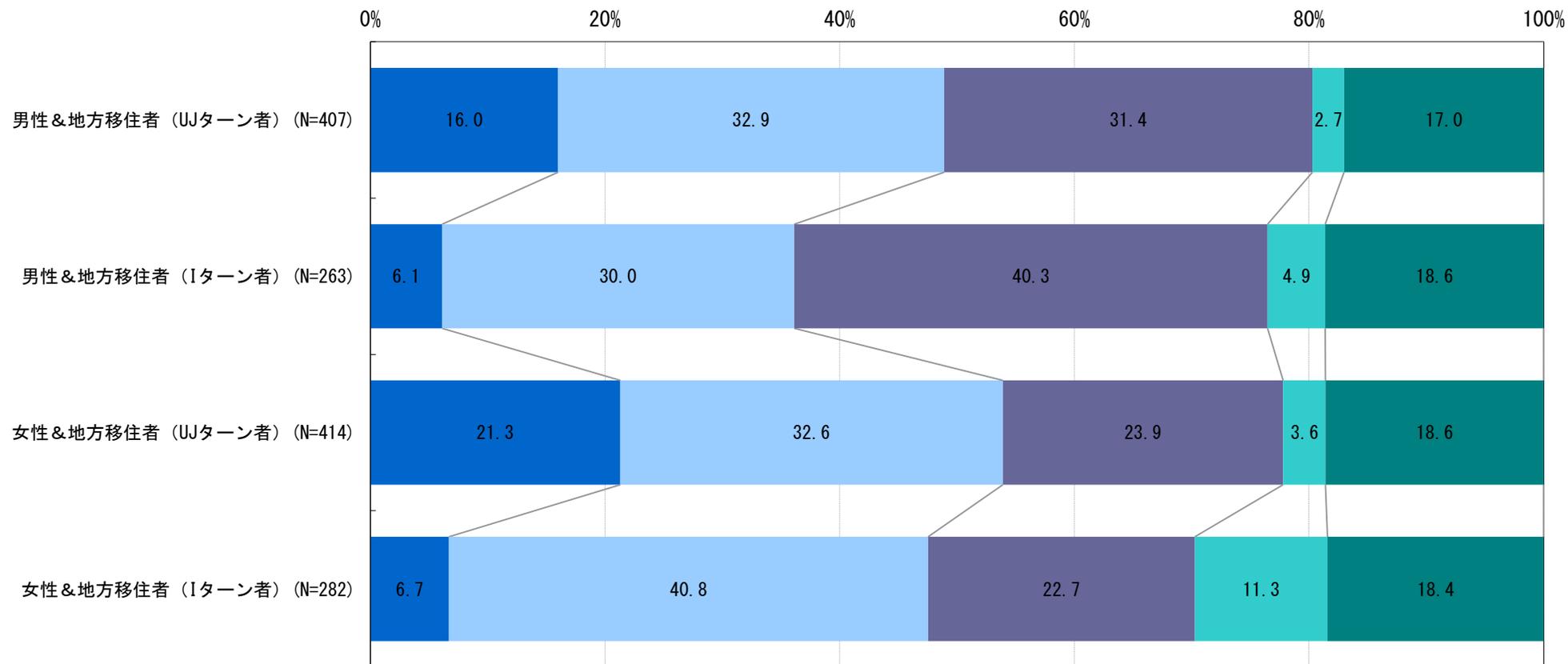
Uターン者では、「積極的に勧められた」割合は18.6%、「勧められたわけではないが、賛成はしていた」割合は32.8%。

Iターン者では、「積極的に勧められた」割合は6.4%、「勧められたわけではないが、賛成はしていた」割合は35.6%。



Q19.あなたが東京圏から地方に移り住むことを検討した際の、移動に対する両親の意向についてお答えください。【男女クロス集計】  
 両親が移住に肯定的であった（「積極的に勧められた」または「勧められたわけではないが、賛成はしていた」）割合は、「女性×UJターン者」(53.9%)、「男性×UJターン者」(48.9%)、「女性×Iターン者」(47.5%)、「男性×Iターン者」(36.1%)の順に高い。

あなたが東京圏から地方に移り住むことを検討した際の、移動に対する両親の意向についてお答えください。[SA]



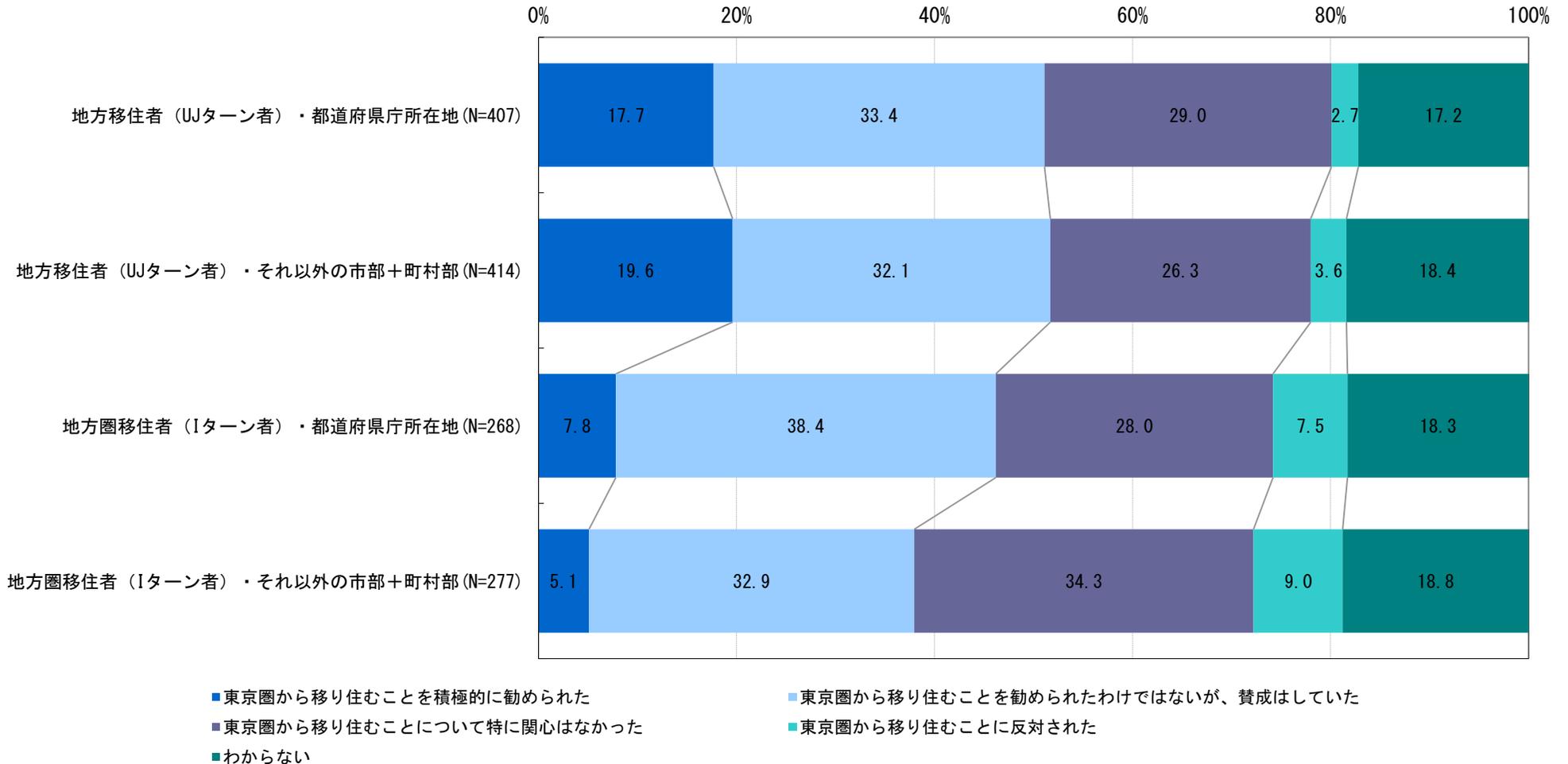
- 東京圏から移り住むことを積極的に勧められた
- 東京圏から移り住むことについて特に関心はなかった
- 東京圏から移り住むことを勧められたわけではないが、賛成はしていた
- 東京圏から移り住むことに反対された
- わからない

Q19.あなたが東京圏から地方に移り住むことを検討した際の、移動に対する両親の意向についてお答えください。【居住地クロス集計】

「東京圏から移り住むことを積極的に勧められた」割合は、UJターン者では約18%である一方で、Iターン者では約6%である。

「東京圏から移り住むことを積極的に勧められた」or「東京圏から移り住むことを勧められたわけではないが、賛成はしていた」割合は、「UJターン者×その他市町村」(51.7%)、「UJターン者×都道府県庁所在地」(51.1%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(46.2%)、「Iターン者×その他市町村」(38.0%)の順に高い。(UJターン者>Iターン者)

あなたが東京圏から地方に移り住むことを検討した際の、移動に対する両親の意向についてお答えください。[SA]

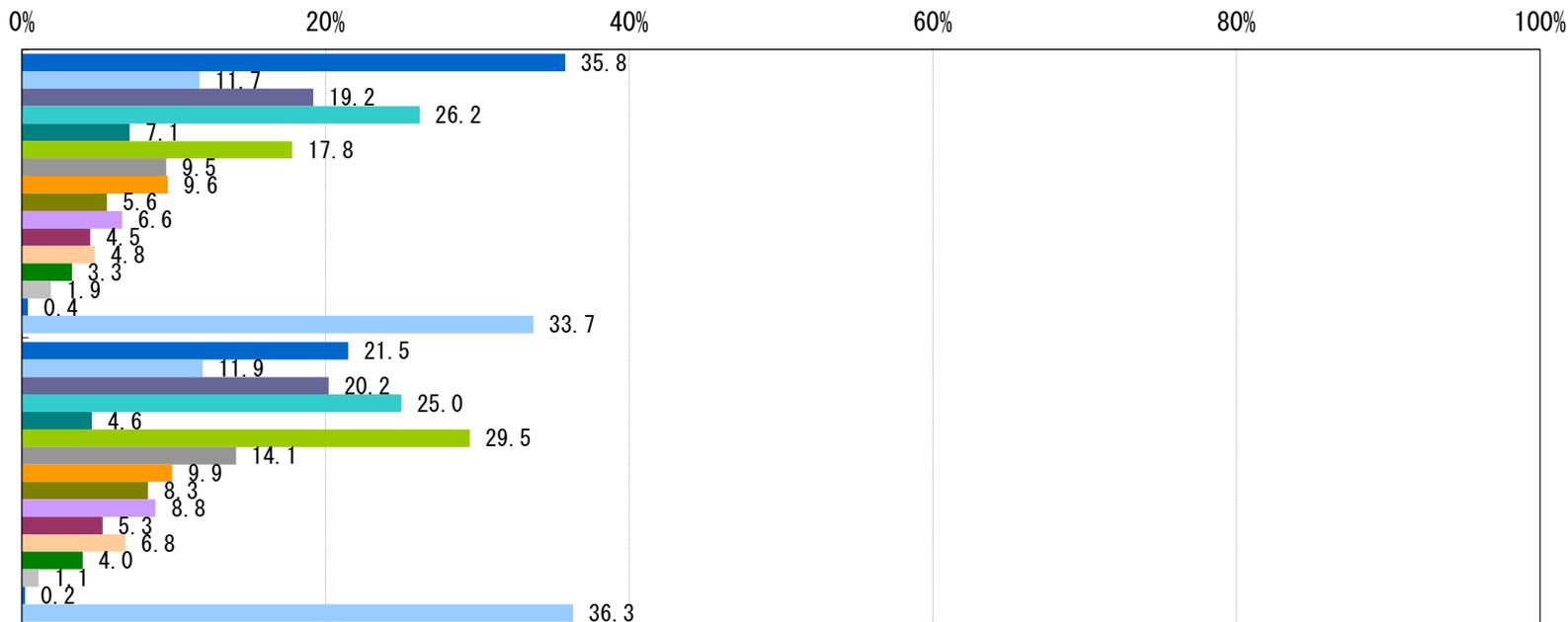


Q20.あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。【単純集計】

Uターン者では、「仕事に関する情報」(35.8%)が最も高く、「生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報」(26.2%)、「住居、住宅購入に関する情報」(19.2%)と続く。

Iターン者では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）に関する情報」(29.5%)が最も高く、「生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報」(25.0%)、「仕事に関する情報」(21.5%)と続く。

あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。[MA]

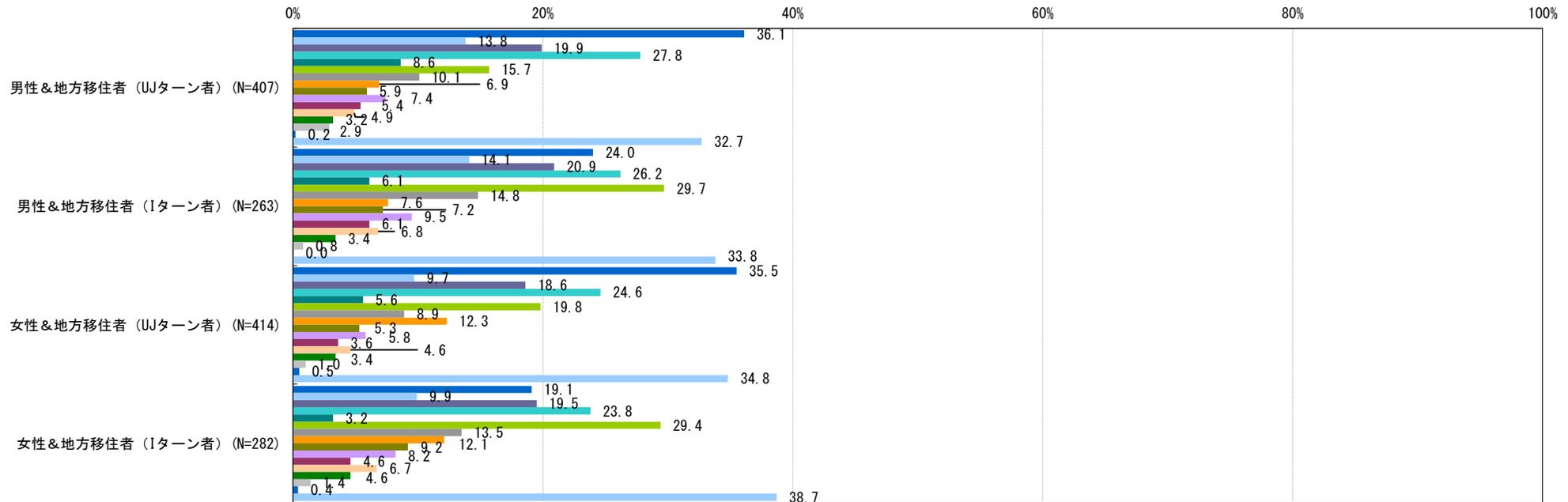


- 仕事に関する情報
- 住居、住宅購入に関する情報
- 移住先の地方公共団体による移住や生活への支援に関する情報
- 余暇・文化を楽しむ場所や機会に関する情報
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に関する情報
- 地域コミュニティ、人間関係に関する情報
- 移住した人の暮らしの様子、移住での苦労話や失敗した事例に関する情報
- その他
- 進学・職業訓練先に関する情報
- 生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）に関する情報
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に関する情報
- 災害対策、治安に関する情報
- 地形の起伏、海抜、自然環境、気候など土地の地勢に関する情報
- 移住セミナーや体験イベントなどの情報
- 情報収集はしていない

## Q20.あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。【男女クロス集計】

「男性×UJターン者」では、「仕事に関する情報」(36.1%)、「生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報」(27.8%)、「住居、住宅購入に関する情報」(19.9%)の順で高い。  
 「男性×Iターン者」では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）に関する情報」(29.7%)、「生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報」(26.2%)、「仕事に関する情報」(24.0%)の順で高い。  
 「女性×UJターン者」では、「仕事に関する情報」(35.5%)、「生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報」(24.6%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）に関する情報」(19.8%)の順で高い。  
 「女性×Iターン者」では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）に関する情報」(29.4%)、「生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報」(23.8%)、「住居、住宅購入に関する情報」(19.5%)の順で高い。

あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。[MA]



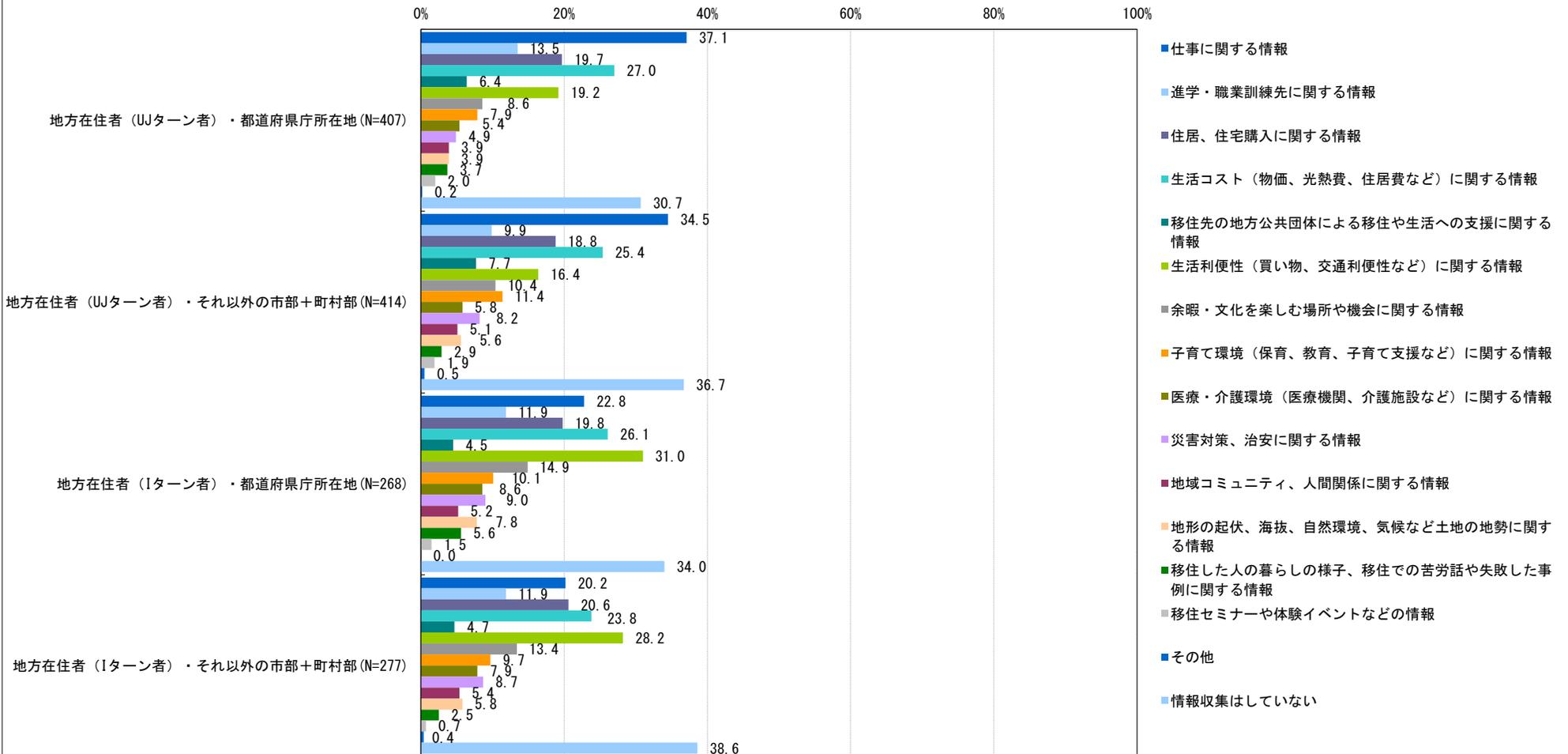
- 仕事に関する情報
- 進学・職業訓練先に関する情報
- 住居、住宅購入に関する情報
- 生活コスト（物価、光熱費、住居費など）に関する情報
- 移住先の地方公共団体による移住や生活への支援に関する情報
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）に関する情報
- 余暇・文化を楽しむ場所や機会に関する情報
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に関する情報
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に関する情報
- 災害対策、治安に関する情報
- 地域コミュニティ、人間関係に関する情報
- 地形の起伏、海拔、自然環境、気候など土地の地勢に関する情報
- 移住した人の暮らしの様子、移住での苦労話や失敗した事例に関する情報
- 移住セミナーや体験イベントなどの情報
- その他
- 情報収集はしていない

## Q20.あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。【居住地クロス集計】

「仕事に関する情報」と回答した割合は、「Uターン者×都道府県庁所在地」(37.1%)、「Uターン者×その他市町村」(34.5%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(22.8%)、「Iターン者×その他市町村」(20.2%)の順で高い。(Uターン者>Iターン者)

「生活利便性（買い物、交通利便性など）」に関する情報」と回答した割合は、「Iターン者×都道府県庁所在地」(31.0%)、「Iターン者×その他市町村」(28.2%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(19.2%)、「Uターン者×その他市町村」(16.4%)の順で高い。(Iターン者>Uターン者)

あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。[MA]



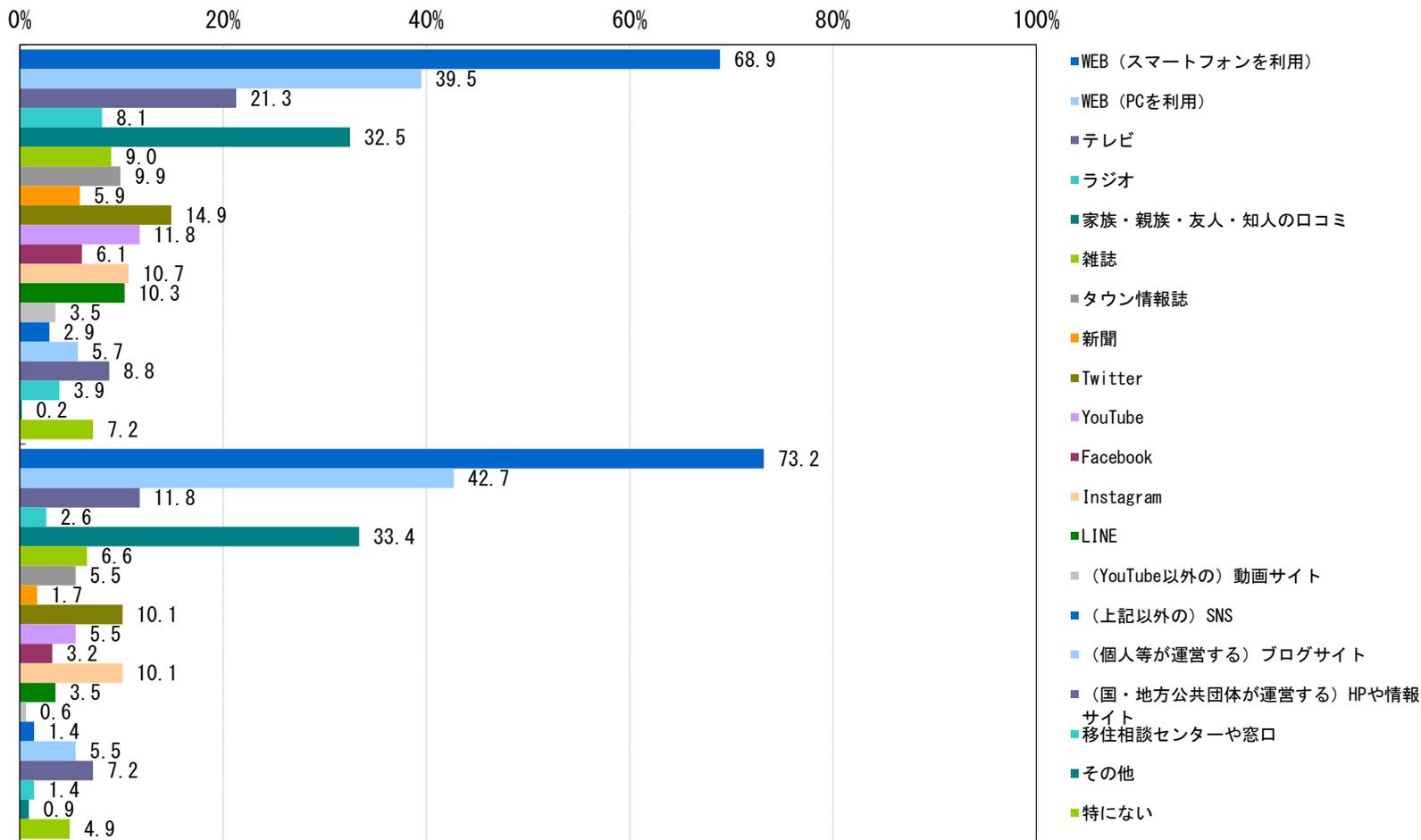
Q21.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用していた手段は次のうちどれですか。【単純集計】

Uターン者では、「WEB（スマートフォンを利用）」(68.9%)が最も高く、「WEB（PCを利用）」(39.5%)、「家族・親族・友人・知人の口コミ」(32.5%)と続く。

Iターン者では、「WEB（スマートフォンを利用）」(73.2%)が最も高く、「WEB（PCを利用）」(42.7%)、「家族・親族・友人・知人の口コミ」(33.4%)と続く。

標本：Q20.あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。「情報収集はしていない」以外を回答

あなたが地方で暮らすための情報収集に使用していた手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

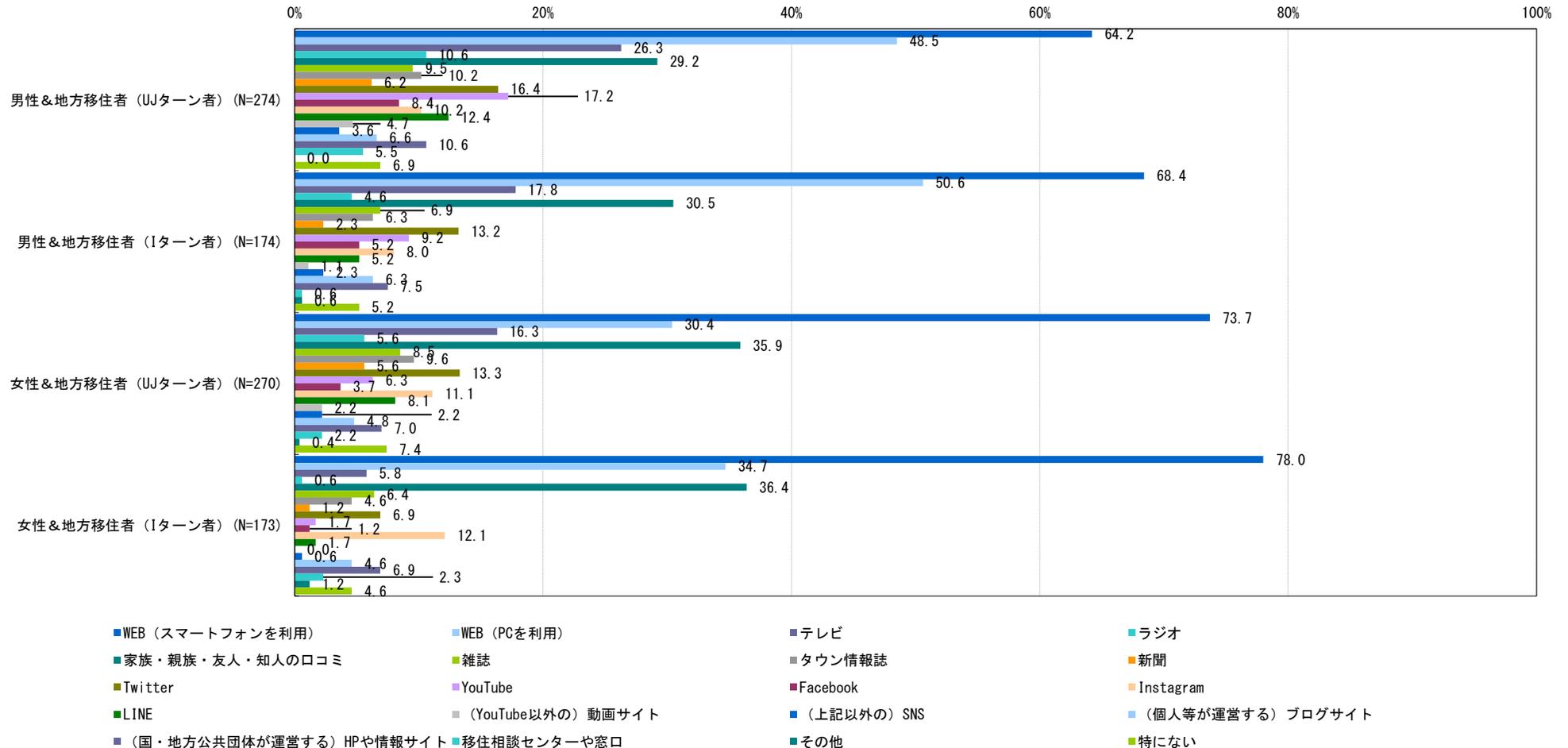


## Q21.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用していた手段は次のうちどれですか。【男女クロス集計】

「男性×UJターン者」では、「WEB（スマートフォンを利用）」(64.2%)、「WEB（PCを利用）」(48.5%)、「家族・親族・友人・知人の口コミ」(29.2%)の順で高い。  
 「男性×1ターン者」では、「WEB（スマートフォンを利用）」(68.4%)、「WEB（PCを利用）」(50.6%)、「家族・親族・友人・知人の口コミ」(30.5%)の順で高い。  
 「女性×UJターン者」では、「WEB（スマートフォンを利用）」(73.7%)、「家族・親族・友人・知人の口コミ」(35.9%)、「WEB（PCを利用）」(30.4%)の順で高い。  
 「女性×1ターン者」では、「WEB（スマートフォンを利用）」(78.0%)、「家族・親族・友人・知人の口コミ」(36.4%)、「WEB（PCを利用）」(34.7%)の順で高い。

標本：Q20.あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。  
 「情報収集はしていない」以外を回答

あなたが地方で暮らすための情報収集に使用していた手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

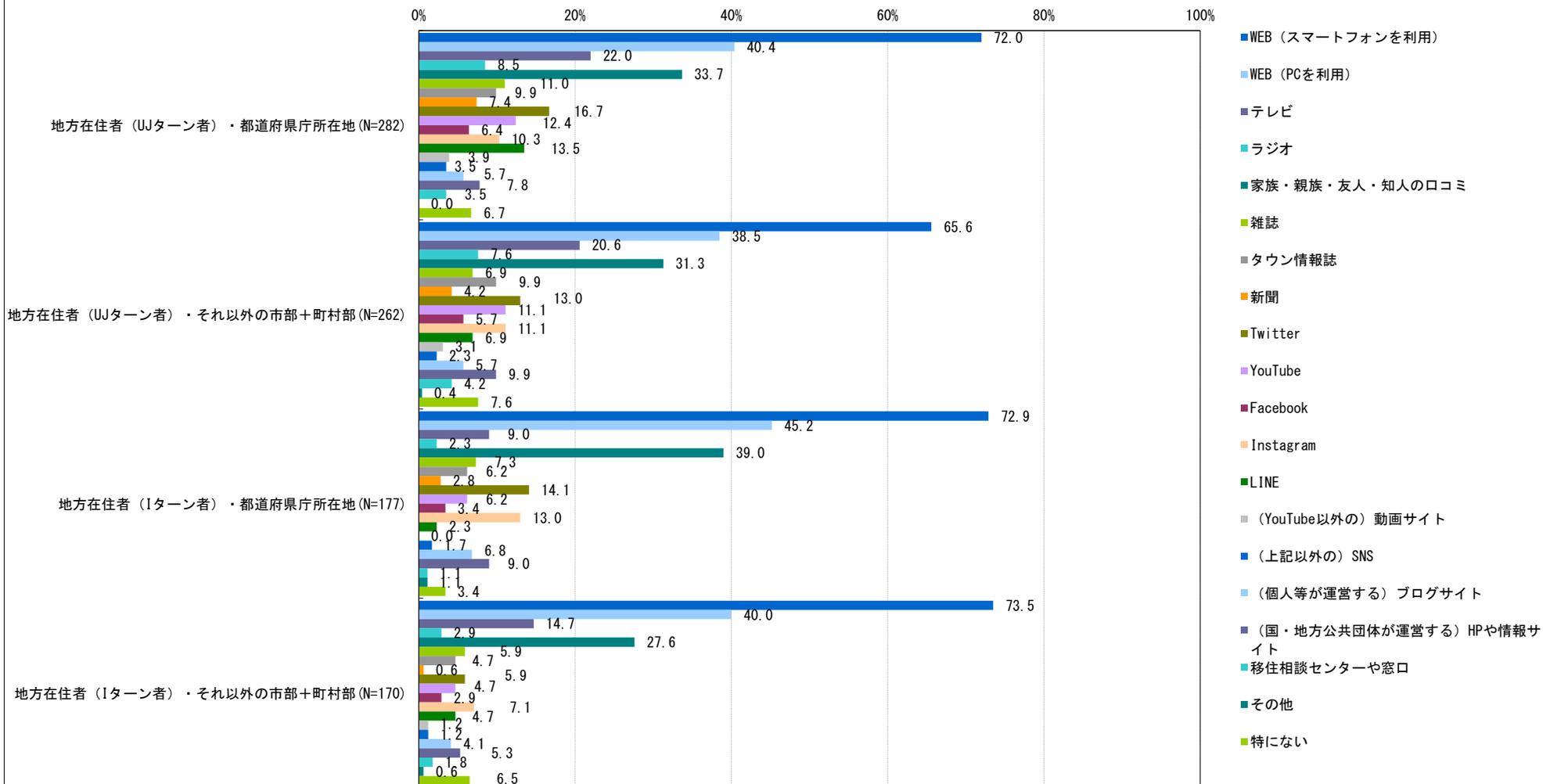


## Q21.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用していた手段は次のうちどれですか。【居住地クロス集計】

UJ/Iターン区分×居住地による傾向の差は小さい。

標本：Q20.あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。  
「情報収集はしていない」以外を回答

あなたが地方で暮らすための情報収集に使用していた手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



## Q22.あなたは東京圏から地方に移り住む以前、現在の居住地とどのような関わり方をしていましたか。【単純集計】

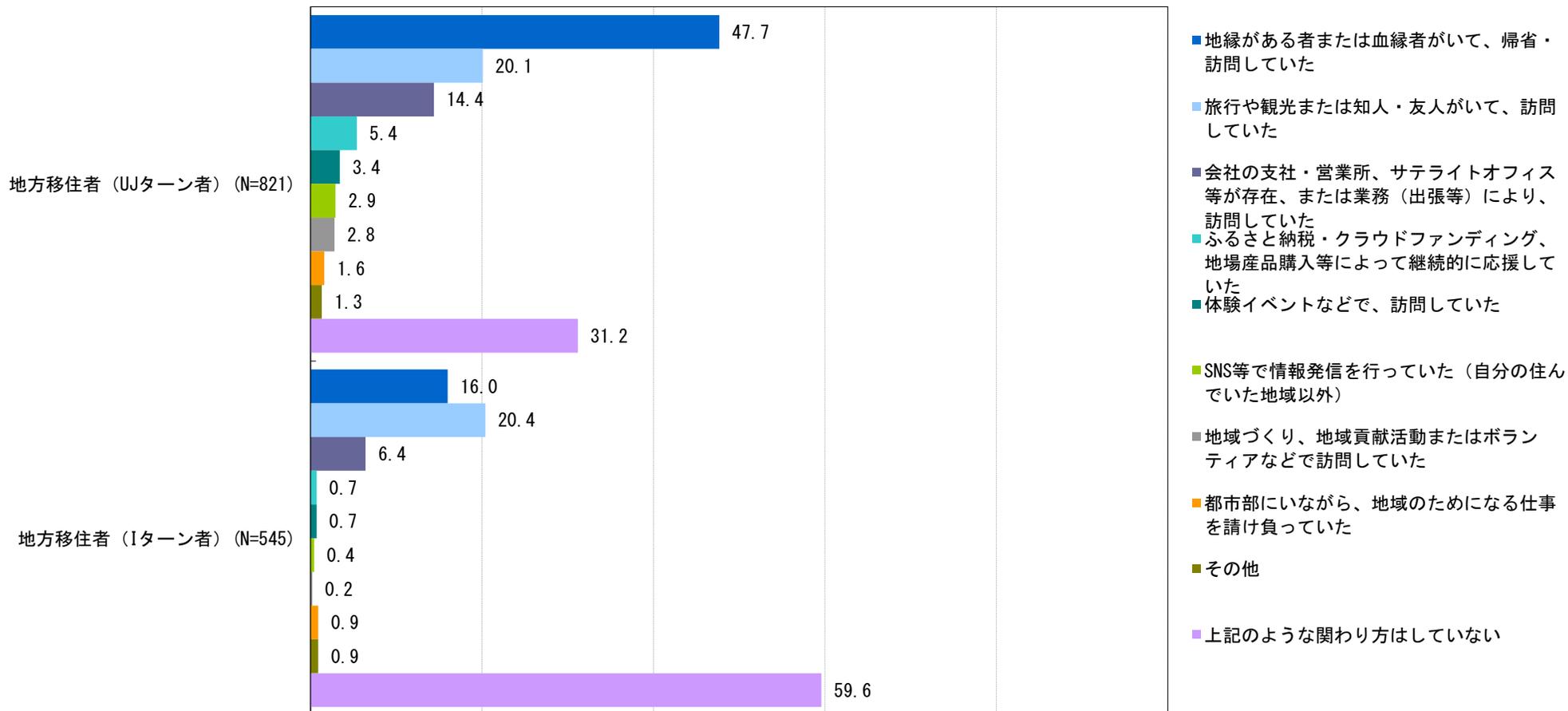
Uターン者では、「地縁がある者または血縁者がいて、帰省・訪問していた」(47.7%)が最も高く、「旅行や観光または知人・友人がいて、訪問していた」(20.1%)、「会社の支社・営業所、サテライトオフィス等が存在、または業務（出張等）により、訪問していた」(14.4%)と続く。

Iターン者では、「旅行や観光または知人・友人がいて、訪問していた」(20.4%)が最も高く、「地縁がある者または血縁者がいて、帰省・訪問していた」(16.0%)、「会社の支社・営業所、サテライトオフィス等が存在、または業務（出張等）により、訪問していた」(6.4%)と続く。

関係人口活動を経験していない割合は、Uターン者では31.2%、Iターン者では59.6%。

あなたは東京圏から地方に移り住む以前、現在の居住地とどのような関わり方をしていましたか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

0% 20% 40% 60% 80% 100%



## Q22.あなたは東京圏から地方に移り住む以前、現在の居住地とどのような関わり方をしていましたか。【男女クロス集計】

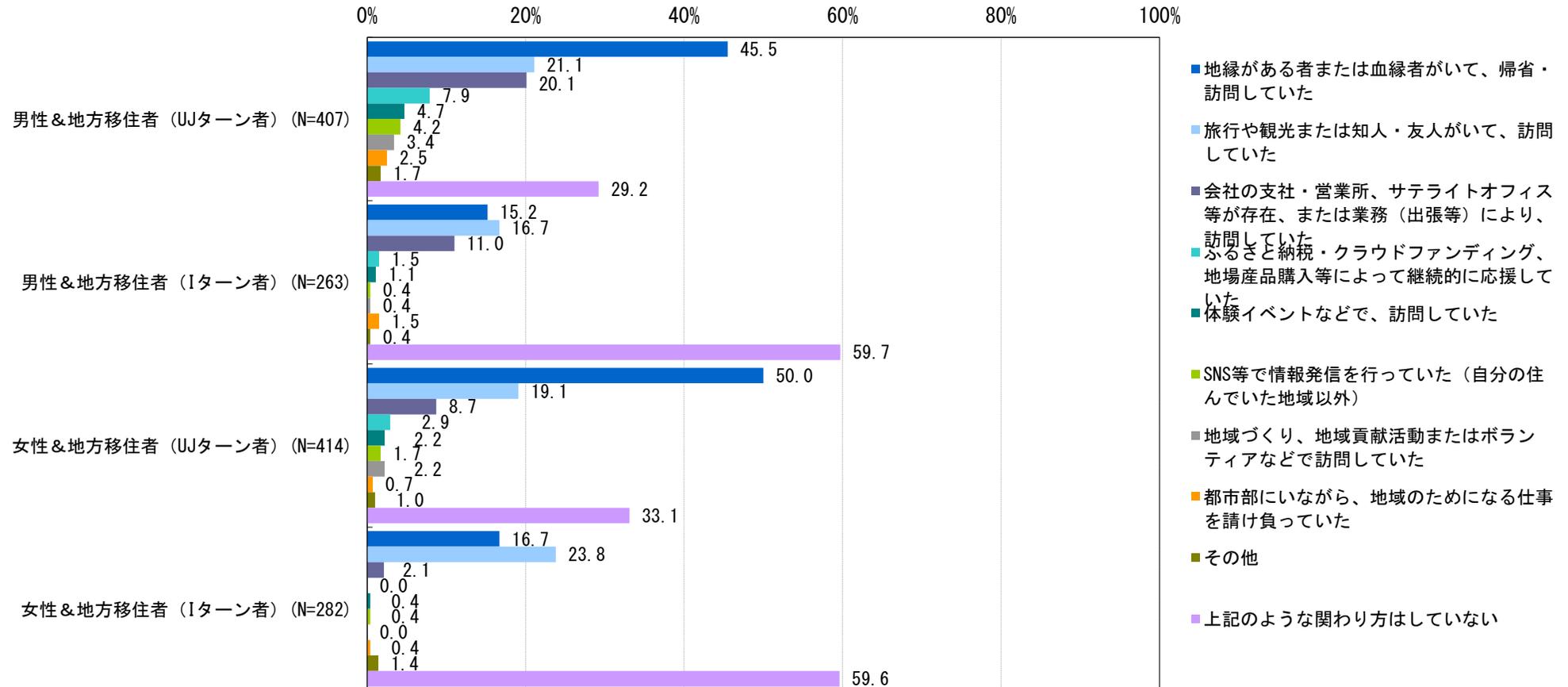
「地縁がある者または血縁者がいて、帰省・訪問していた」と回答した割合は、「女性×UJターン者」(50.0%)、「男性×UJターン者」(45.5%)、「女性×Iターン者」(16.8%)、「男性×Iターン者」(15.2%)の順で高い。(UJターン者 > Iターン者)

「旅行や観光または知人・友人がいて、訪問していた」と回答した割合は、「女性×Iターン者」(23.8%)、「男性×UJターン者」(21.1%)、「女性×UJターン者」(19.1%)、「男性×Iターン者」(16.7%)の順で高い。(女性 > 男性)

「会社の支社・営業所、サテライトオフィス等が存在、または業務（出張等）により、訪問していた」と回答した割合は、男性×UJターン者で20.1%と最も高く、女性×Iターン者では2.1%で最も低い。男女とも（UJターン者/Iターン者）による差は大きい。

「地域特有の価値観や偏見を感じる」と回答した割合は、Iターン者では約14%である一方で、UJターン者では約8%である。

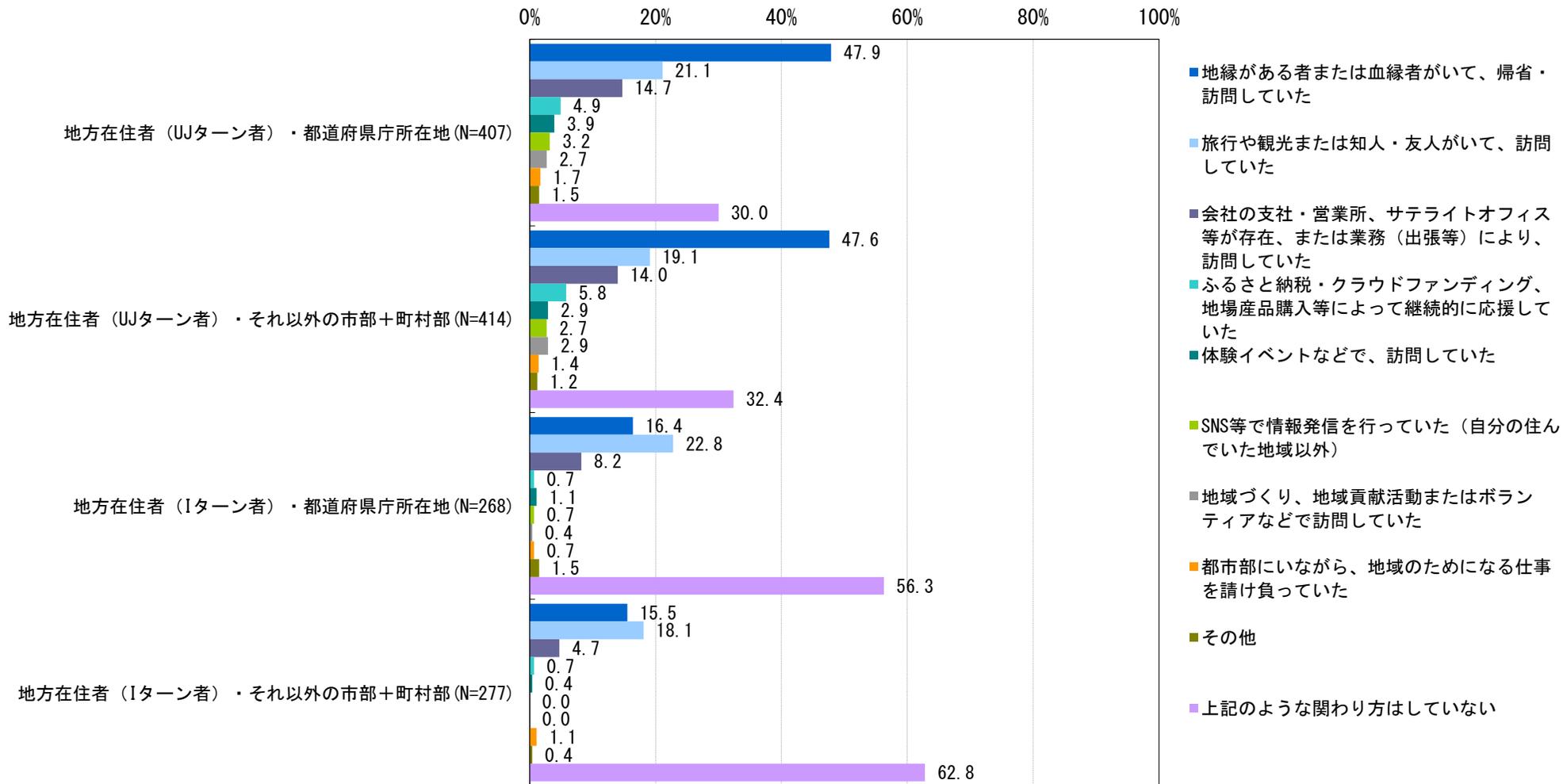
あなたは東京圏から地方に移り住む以前、現在の居住地とどのような関わり方をしていましたか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



## Q22.あなたは東京圏から地方に移り住む以前、現在の居住地とどのような関わり方をしていましたか。【居住地クロス集計】

「地縁がある者または血縁者がいて、帰省・訪問していた」と回答した割合は、UJターン者では約48%、Iターン者では約16%。  
 「旅行や観光または知人・友人がいて、訪問していた」と回答した割合は、UJ/Iターン区分や居住地区分に関わらず約20%。  
 「上記のような関わり方はしていない」と回答した割合は、UJターン者では約31%、Iターン者では約60%。

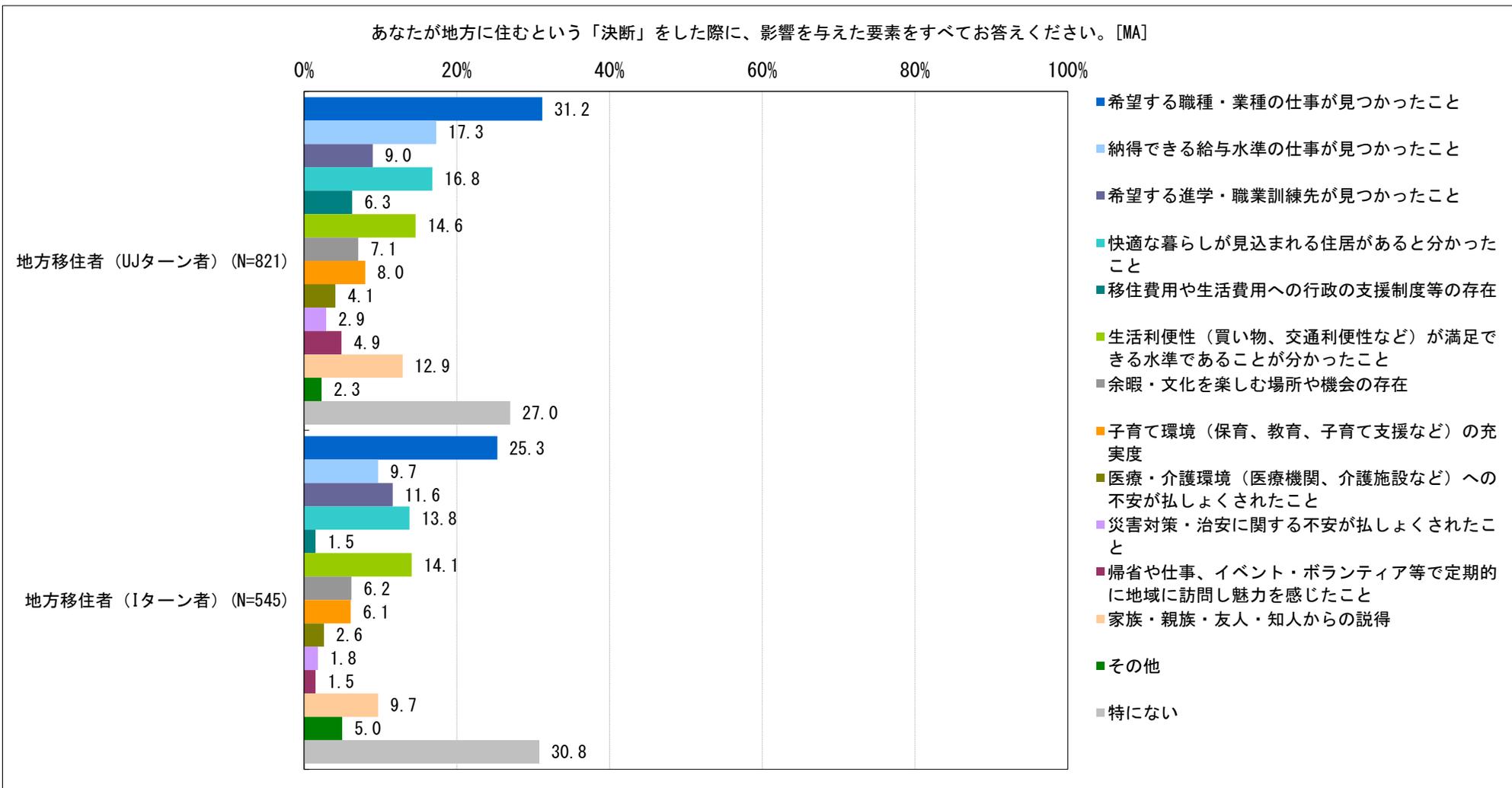
あなたは東京圏から地方に移り住む以前、現在の居住地とどのような関わり方をしていましたか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



## Q23\_1.あなたが地方に住むという「決断」をした際に、影響を与えた要素をすべてお答えください。【単純集計】

Uターン者では、「希望する職種・業種の仕事が見つかったこと」(31.2%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事が見つかったこと」(17.3%)、「快適な暮らしが見込まれる住居があると分かったこと」(16.8%)と続く。

Iターン者では、「希望する職種・業種の仕事が見つかったこと」(25.3%)が最も高く、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が満足できる水準であることが分かったこと」(14.1%)、「快適な暮らしが見込まれる住居があると分かったこと」(13.8%)と続く。



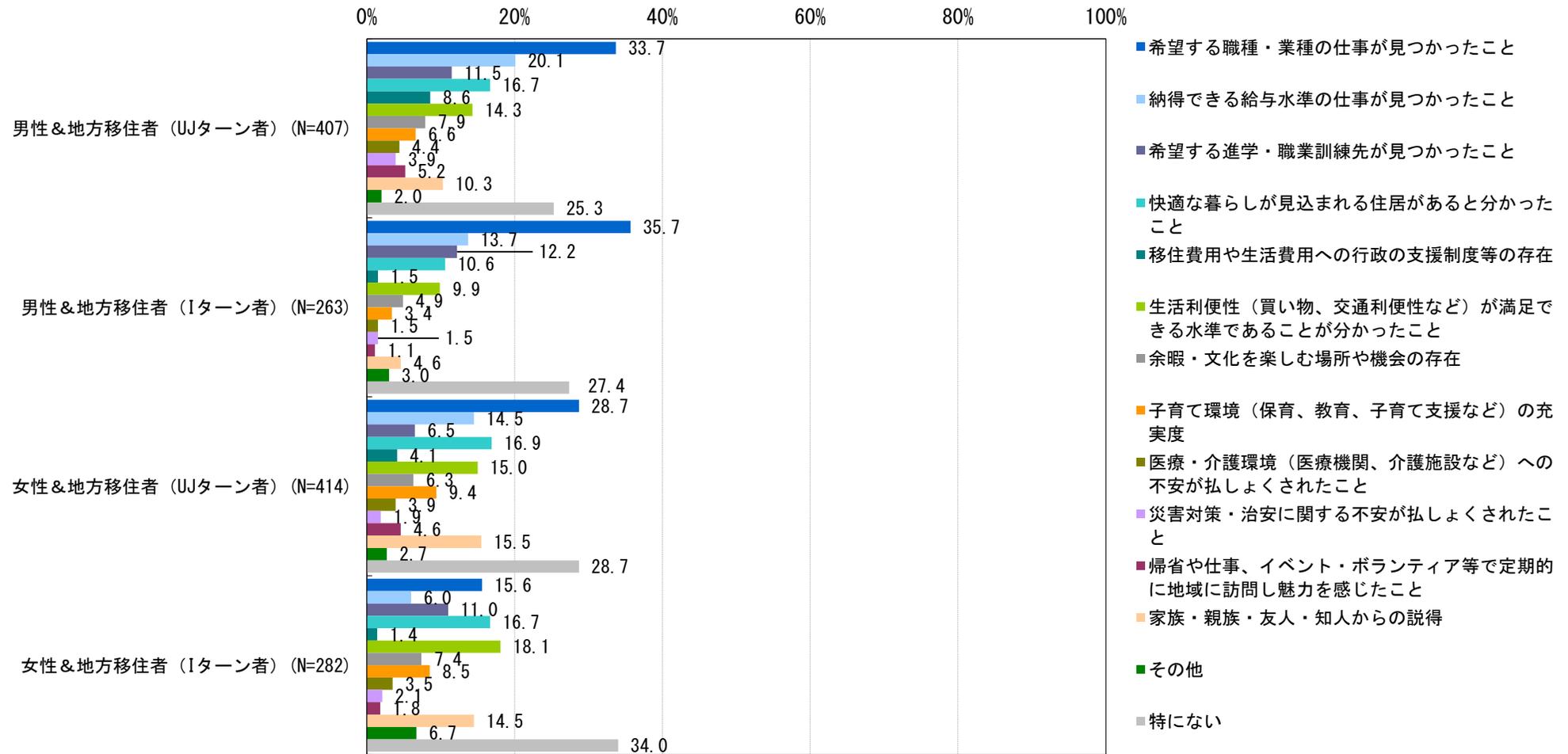
## Q23\_1.あなたが地方に住むという「決断」をした際に、影響を与えた要素をすべてお答えください。【男女クロス集計】

「希望する職種・業種の仕事が見つかったこと」と回答した割合は、「男性×Iターン者」(35.7%)、「男性×UJターン者」(33.7%)、「女性×UJターン者」(28.7%)、「女性×Iターン者」(15.6%)の順で高い。(男性>女性)

「快適な暮らしが見込まれる住居があると分かったこと」と回答した割合は、「女性×UJターン者」で16.9%と最も高く、「女性×Iターン者」と「男性×UJターン者」がともに16.7%と続く。(女性>男性) (UJターン者>Iターン者)

「子育て環境(保育、教育、子育て支援など)の充実度」と「家族・親族・友人・知人からの説得」を回答した割合はUJターン者/Iターン者とも(女性>男性)の差は大きい。

あなたが地方に住むという「決断」をした際に、影響を与えた要素をすべてお答えください。[MA]



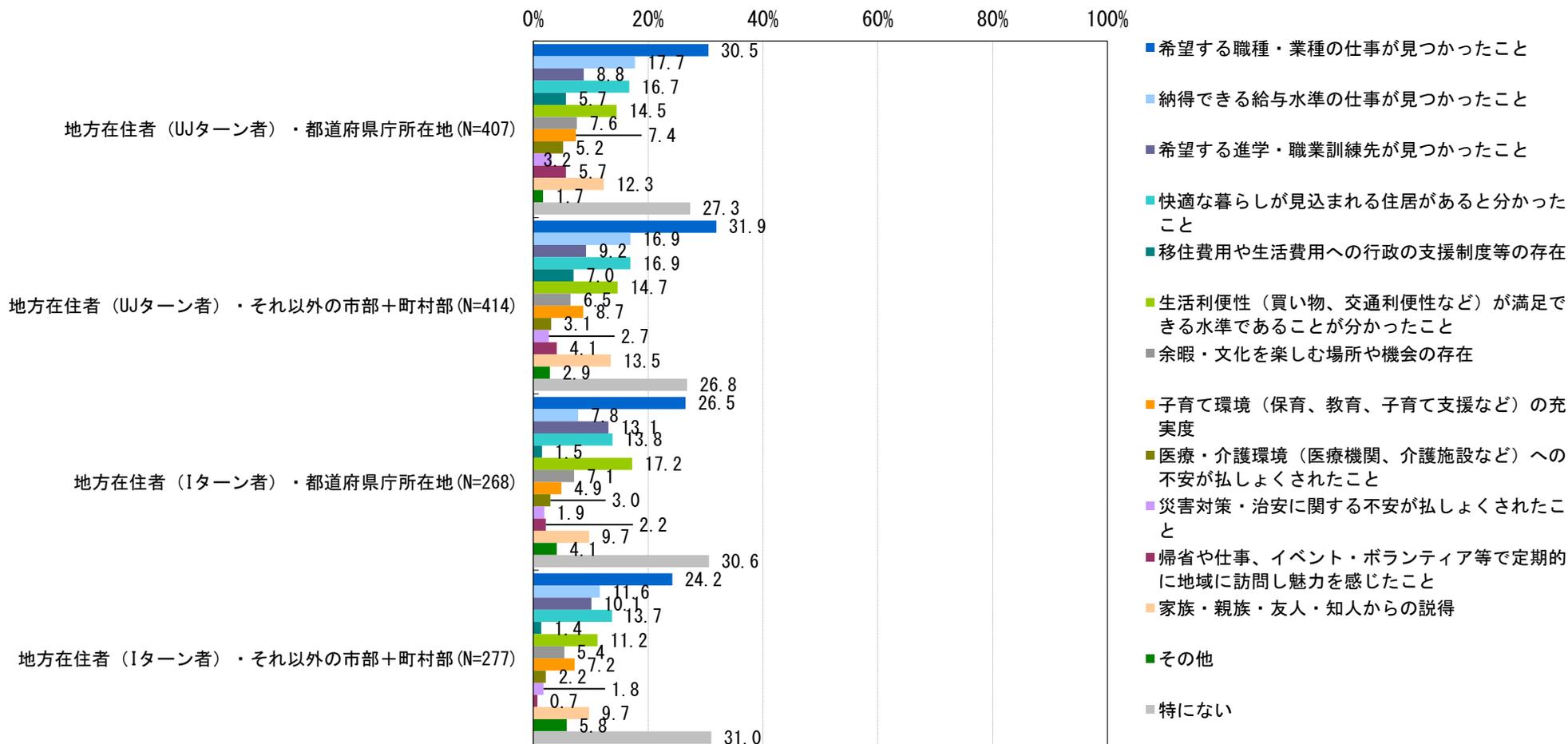
Q23\_1.あなたが地方に住むという「決断」をした際に、影響を与えた要素をすべてお答えください。【居住地クロス集計】

「希望する職種・業種の仕事が見つかったこと」と回答した割合は、「Uターン者×その他市町村」(31.9%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(30.5%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(26.5%)、「Iターン者×その他市町村」(24.2%)の順で高い。

「生活利便性（買い物、交通利便性など）が満足できる水準であることが分かったこと」と回答した割合は、「Iターン者×都道府県庁所在地」(17.2%)、「Uターン者×その他市町村」(14.7%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(14.5%)、「Iターン者×その他市町村」(11.2%)の順で高い。（都道府県庁所在地＞その他市町村）

居住地（都道府県庁所在地／その他市町村）による差は小さい。

あなたが地方に住むという「決断」をした際に、影響を与えた要素をすべてお答えください。[MA]



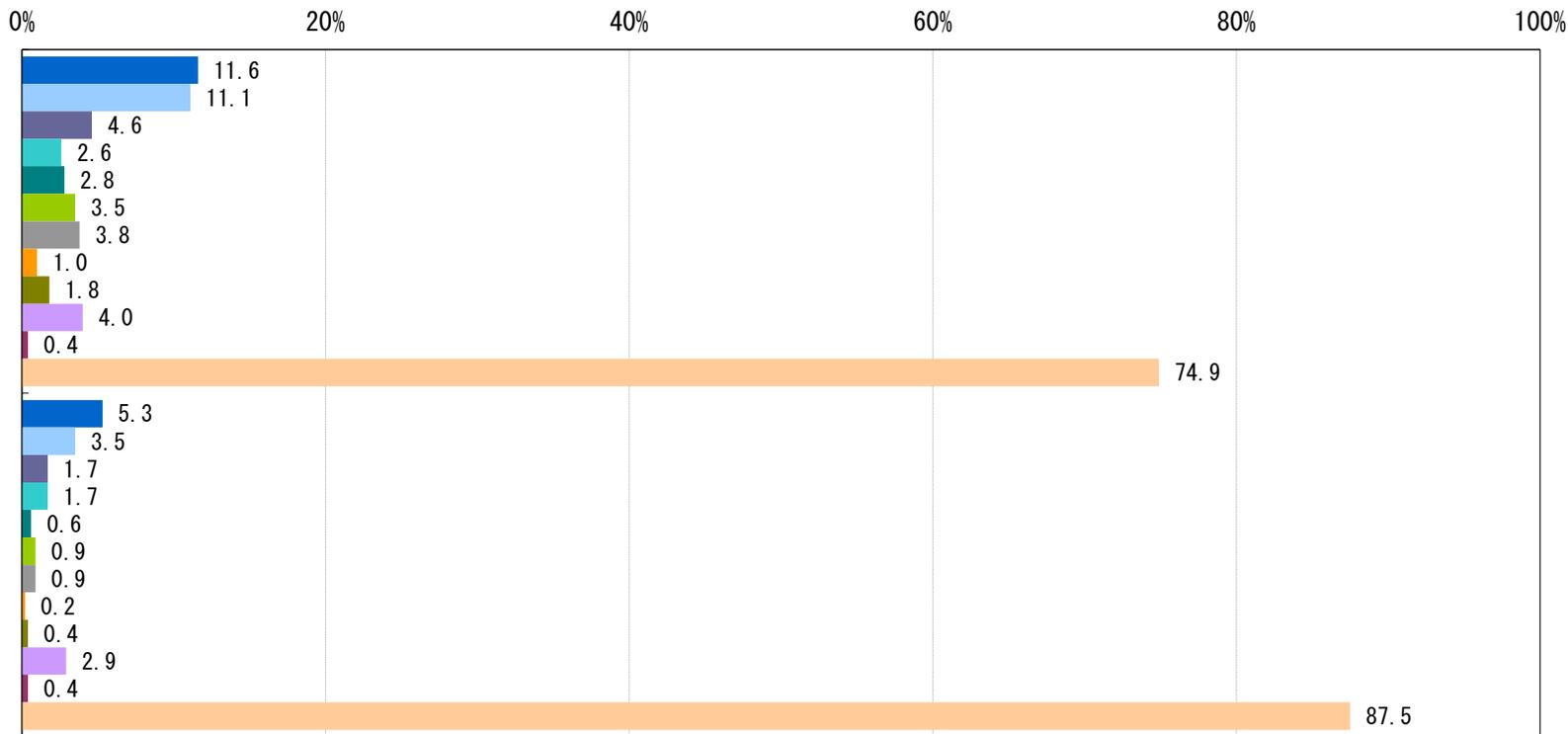
Q24.あなたが地方に移り住むことを決断した際に、実際に利用した国や地方公共団体の取り組みはありますか。【単純集計】

Uターン者の74.9%が「特になし」と回答。利用者の中では、「住宅（家賃・リフォーム等）に関する補助」(11.6%)が最も高く、「引っ越し費用の補助」(11.1%)、「田舎暮らし体験」(4.6%)と続く。

Iターン者の87.5%が「特になし」と回答。利用者の中では、「住宅（家賃・リフォーム等）に関する補助」(5.3%)が最も高く、「引っ越し費用の補助」(3.5%)、「医療費助成」(2.9%)と続く。

あなたが地方に移り住むことを決断した際に、実際に利用した国や地方公共団体の取り組みはありますか。あてはまるものをすべてお答えください。

[MA]

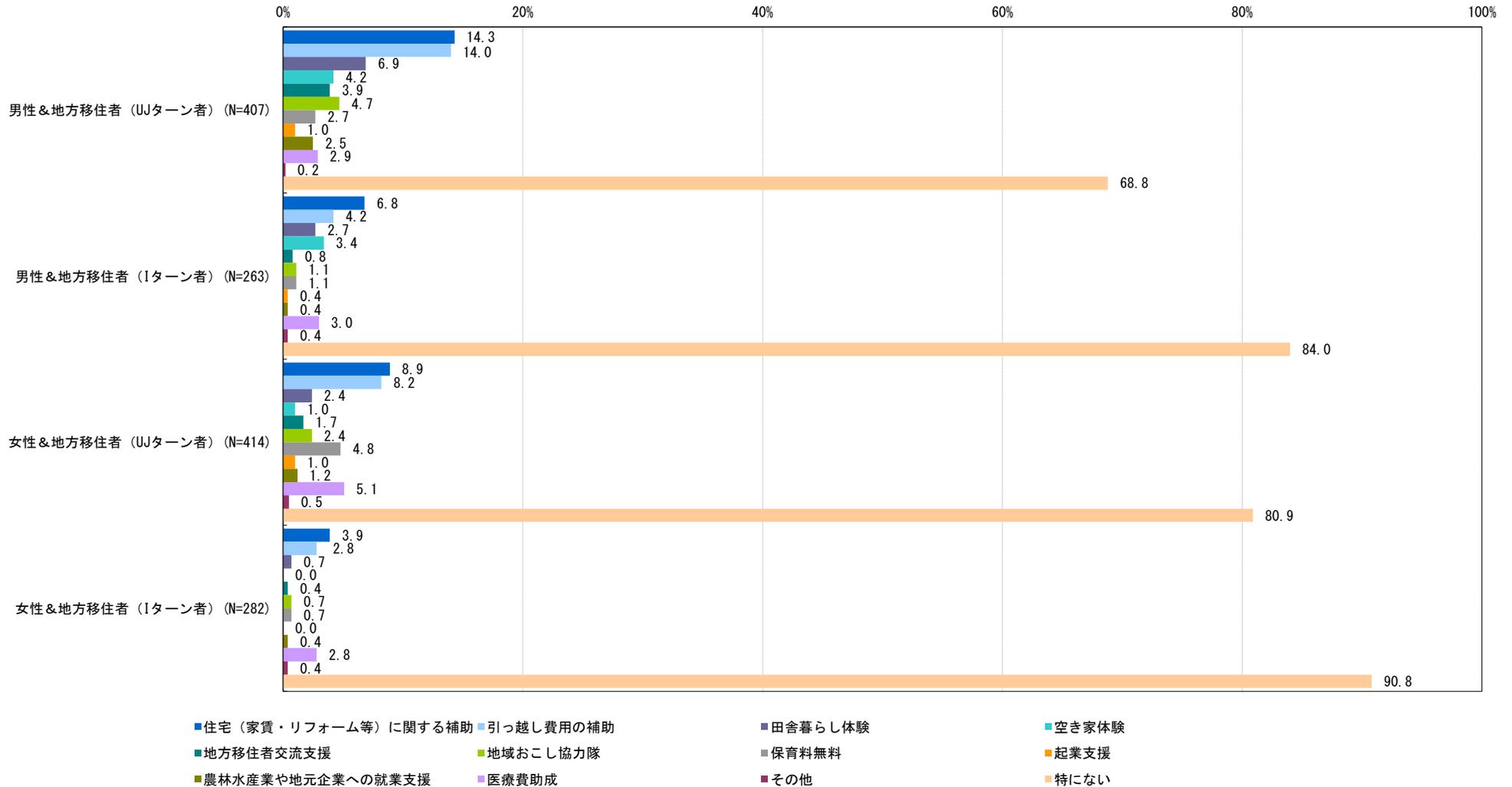


- 住宅（家賃・リフォーム等）に関する補助
- 引っ越し費用の補助
- 田舎暮らし体験
- 空き家体験
- 地方移住者交流支援
- 地域おこし協力隊
- 保育料無料
- 起業支援
- 農林水産業や地元企業への就業支援
- 医療費助成
- その他
- 特になし

Q24.あなたが地方に移り住むことを決断した際に、実際に利用した国や地方公共団体の取り組みはありますか。【男女クロス集計】

女性は男性と比べ「特になし」と回答した割合が約10ポイント高い。

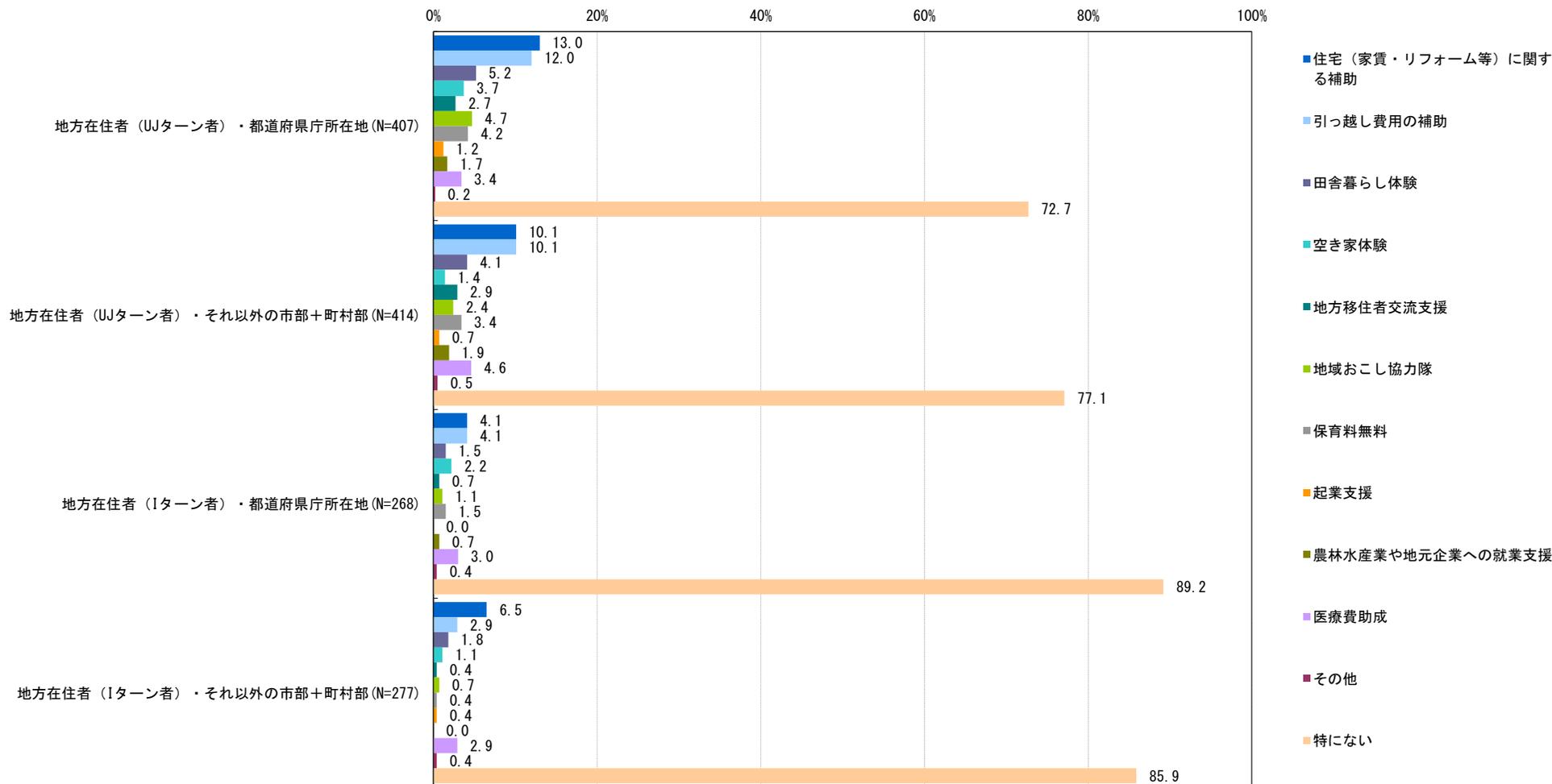
あなたが地方に移り住むことを決断した際に、実際に利用した国や地方公共団体の取り組みはありますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



Q24.あなたが地方に移り住むことを決断した際に、実際に利用した国や地方公共団体の取り組みはありますか。【居住地クロス集計】

「特になし」と回答した割合は、「Iターン者×都道府県庁所在地」(89.2%)、「Iターン者×その他市町村」(85.9%)、「UJターン者×その他市町村」(77.1%)、「UJターン者×都道府県庁所在地」(72.7%)の順で高い。

あなたが地方に移り住むことを決断した際に、実際に利用した国や地方公共団体の取り組みはありますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]

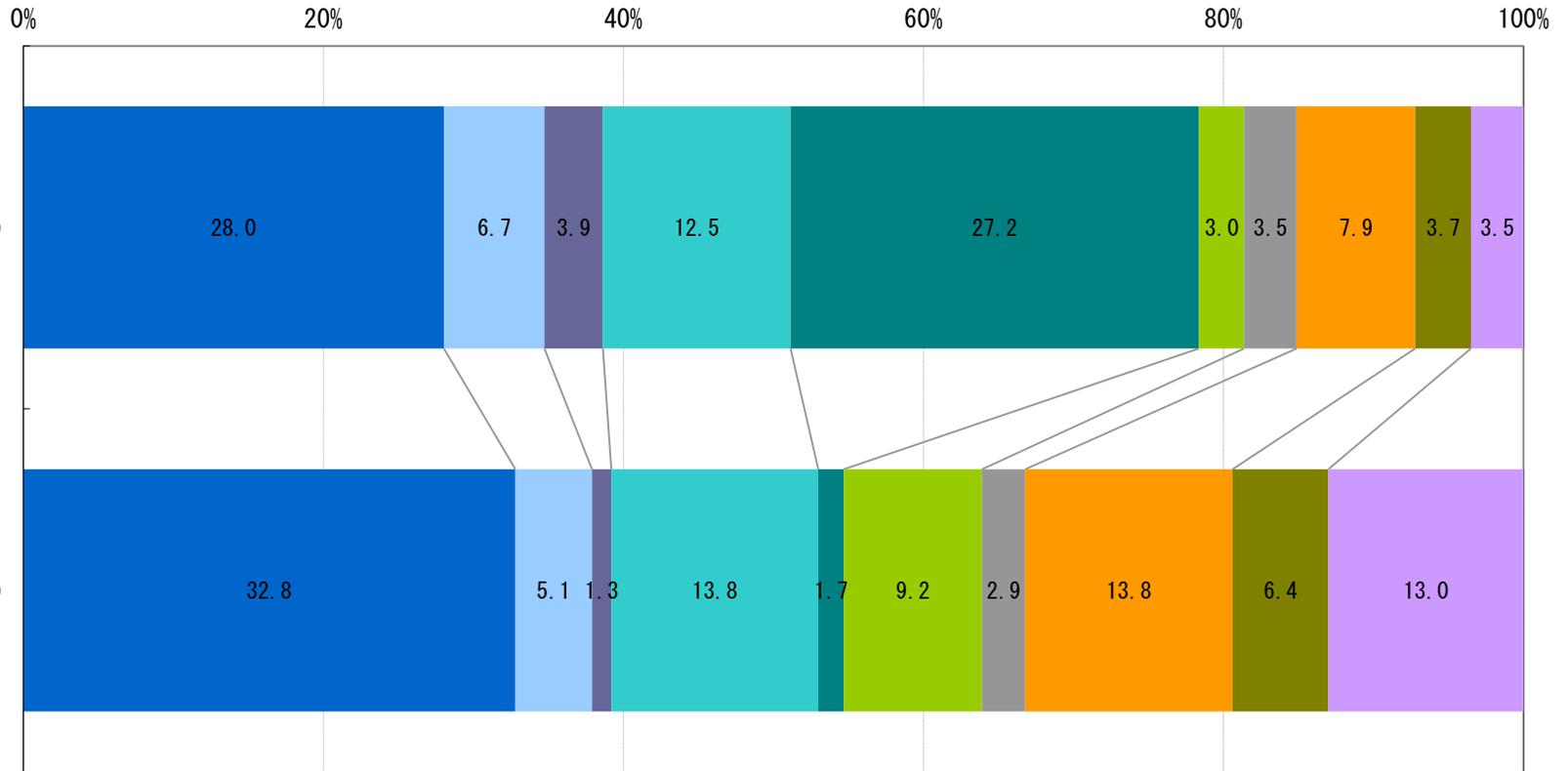


Q25.あなたが実際に地方に移り住んで感じた魅力として、次のうち最もあてはまるものは何ですか。【単純集計】

Uターン者では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(28.0%)が最も高く、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(27.2%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(12.5%)と続く。

Iターン者では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(32.8%)が最も高く、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(13.8%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(13.8%)と続く。

あなたが実際に地方に移り住んで感じた魅力として、次のうち最もあてはまるものは何ですか。[SA]



- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

## Q25.あなたが実際に地方に移り住んで感じた魅力として、次のうち最もあてはまるものは何ですか。【男女クロス集計】

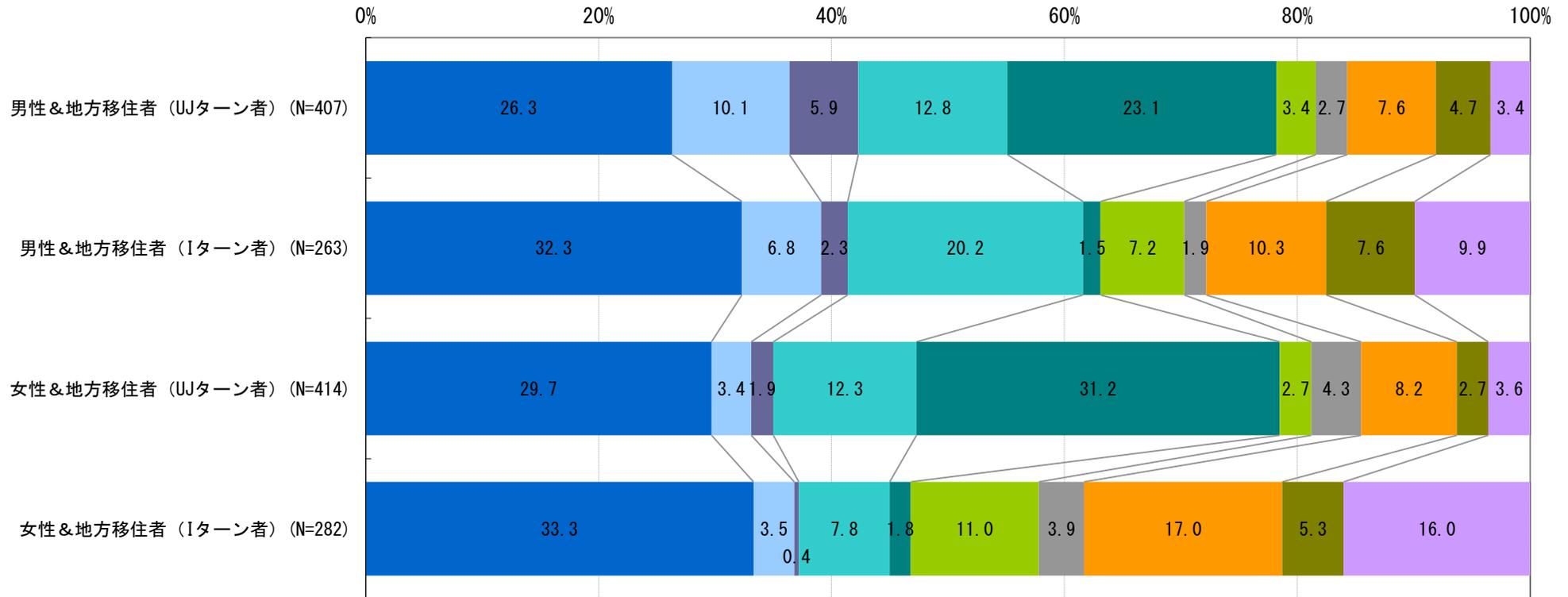
「男性×UJターン者」では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(26.3%)、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(23.1%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(12.8%)の順で高い。

「男性×Iターン者」では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(32.3%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(20.2%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(10.3%)の順で高い。

「女性×UJターン者」では、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(31.2%)、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(29.7%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(12.3%)の順で高い。

「女性×Iターン者」では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(33.3%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(17.0%)、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(11.0%)の順で高い。

あなたが実際に地方に移り住んで感じた魅力として、次のうち最もあてはまるものは何ですか。[SA]



- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

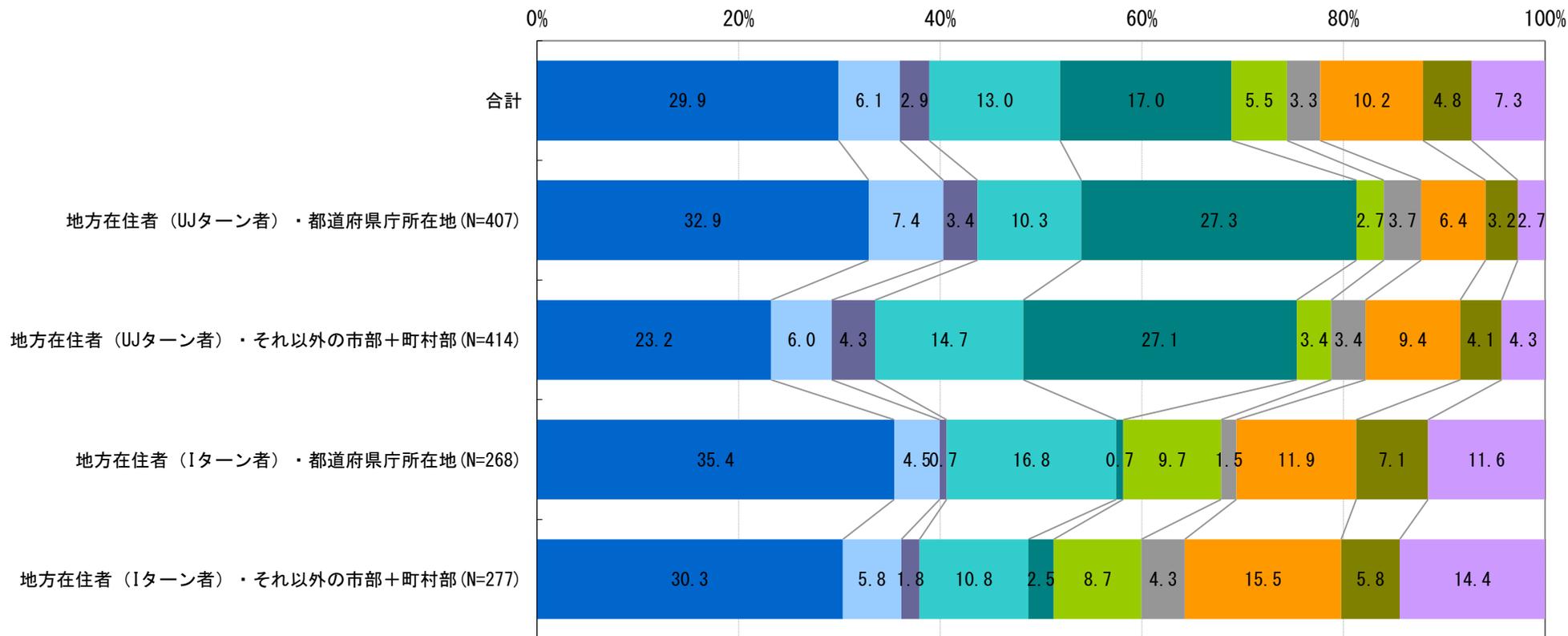
Q25.あなたが実際に地方に移り住んで感じた魅力として、次のうち最もあてはまるものは何ですか。【居住地クロス集計】

「自然も便利もある地方都市での暮らし」は、「Iターン者×都道府県庁所在地」(35.4%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(32.9%)、「Iターン者×その他市町村」(30.3%)の順で高い。

「親や昔の友達の近くにいる暮らし」は、「Uターン者×都道府県庁所在地」(27.3%)、「Uターン者×その他市町村」(27.1%)の順に高く、Iターン者では顕著に低い。

「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」は、「Iターン者×都道府県庁所在地」(16.8%)、「Uターン者×その他市町村」(14.7%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(10.3%)の順で高い。

あなたが実際に地方に移り住んで感じた魅力として、次のうち最もあてはまるものは何ですか。[SA]



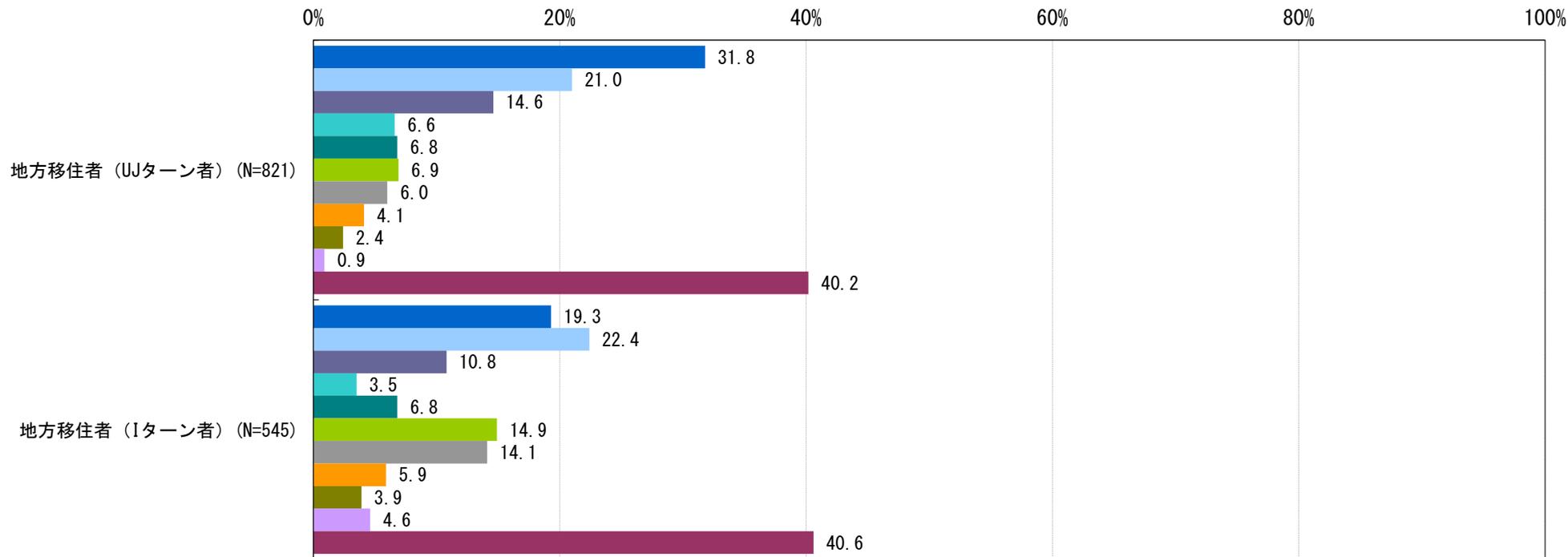
- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

Q26.あなたは東京圏から地方に移り住むことを計画する際に、どのような点に苦労しましたか。【単純集計】

Uターン者では、「仕事に関する情報収集」(31.8%)が最も高く、「住居に関する情報収集」(21.0%)、「移住費用の高さ」(14.6%)と続く。

Iターン者では、「住居に関する情報収集」(22.4%)が最も高く、「仕事に関する情報収集」(19.3%)、「地方移住者の情報が少なく、具体的な生活イメージが湧かないこと」(14.9%)と続く。

あなたは東京圏から地方に移り住むことを計画する際に、どのような点に苦労しましたか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



- 仕事に関する情報収集
- 住居に関する情報収集
- 移住費用の高さ
- 国や地方公共団体の支援策に関する情報収集
- 移住に伴う国や地方公共団体向けの手続き
- 地方移住者の情報が少なく、具体的な生活イメージが湧かないこと
- 地方移住のデメリットが分からず不安に感じたこと
- 周囲や世間の地方移住への評価が低いこと
- 親族や配偶者・パートナーなど、周囲の反対にあったこと
- その他
- 特に苦労した点はない

## Q26.あなたは東京圏から地方に移り住むことを計画する際に、どのような点に苦労しましたか。【男女クロス集計】

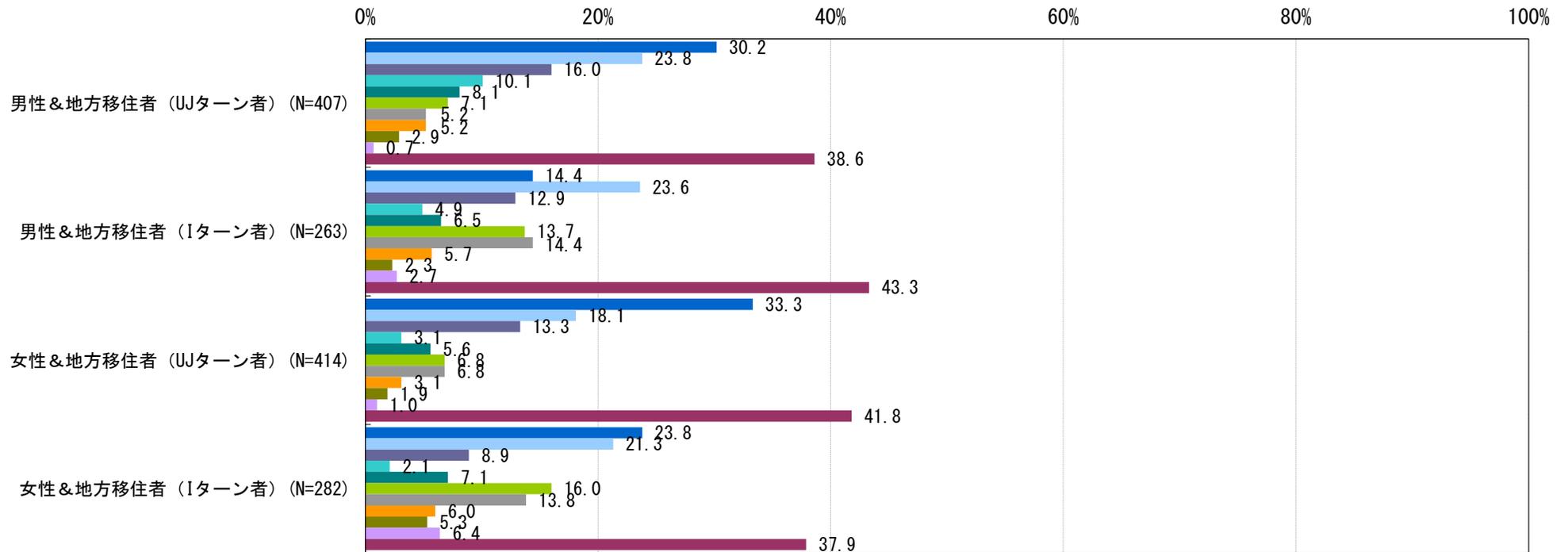
「男性×UJターン者」では、「仕事に関する情報収集」(30.2%)、「住居に関する情報収集」(23.8%)、「移住費用の高さ」(16.0%)の順で高い。

「男性×Iターン者」では、「住居に関する情報収集」(23.6%)、「仕事に関する情報収集」(14.4%)、「地方移住のデメリットが分からず不安に感じたこと」(14.4%)の順で高い。

「女性×UJターン者」では、「仕事に関する情報収集」(33.3%)、「住居に関する情報収集」(18.1%)、「移住費用の高さ」(13.3%)の順で高い。

「女性×Iターン者」では、「仕事に関する情報収集」(23.8%)、「住居に関する情報収集」(21.3%)、「地方移住者の情報が少なく、具体的な生活イメージが湧かないこと」(16.0%)の順で高い。

あなたは東京圏から地方に移り住むことを計画する際に、どのような点に苦労しましたか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



- 仕事に関する情報収集
- 住居に関する情報収集
- 移住費用の高さ
- 国や地方公共団体の支援策に関する情報収集
- 移住に伴う国や地方公共団体向けの手続き
- 地方移住者の情報が少なく、具体的な生活イメージが湧かないこと
- 地方移住のデメリットが分からず不安に感じたこと
- 周囲や世間の地方移住への評価が低いこと
- 親族や配偶者・パートナーなど、周囲の反対にあったこと
- その他
- 特に苦労した点はない

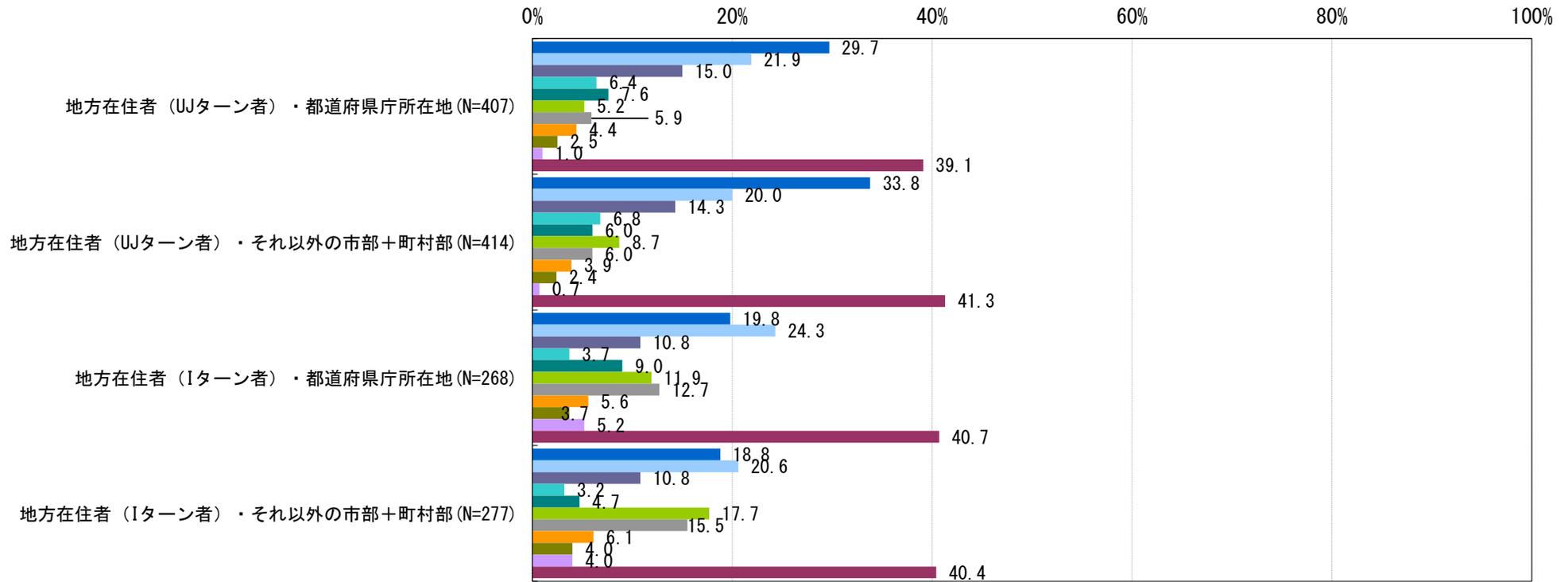
Q26.あなたは東京圏から地方に移り住むことを計画する際に、どのような点に苦労しましたか。【居住地クロス集計】

「仕事に関する情報収集」は、「Uターン者×都道府県庁所在地」(29.7%)や「Uターン者×その他市町村」(33.8%)で顕著に高い。

「移住費用の高さ」は、「Uターン者×都道府県庁所在地」(15.0%)や「Uターン者×その他市町村」(14.3%)では、Iターン者より約5ポイント高い。

一方で、「地方移住者の情報が少なく、具体的なイメージが湧かないこと」は、「Iターン者×都道府県庁所在地」(11.9%)や「Iターン者×その他市町村」(17.7%)で高く、また、「地方移住のデメリットが分からず不安に感じたこと」は、「Iターン者×都道府県庁所在地」(12.7%)や「Iターン者×その他市町村」(15.5%)で高い。

あなたは東京圏から地方に移り住むことを計画する際に、どのような点に苦労しましたか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



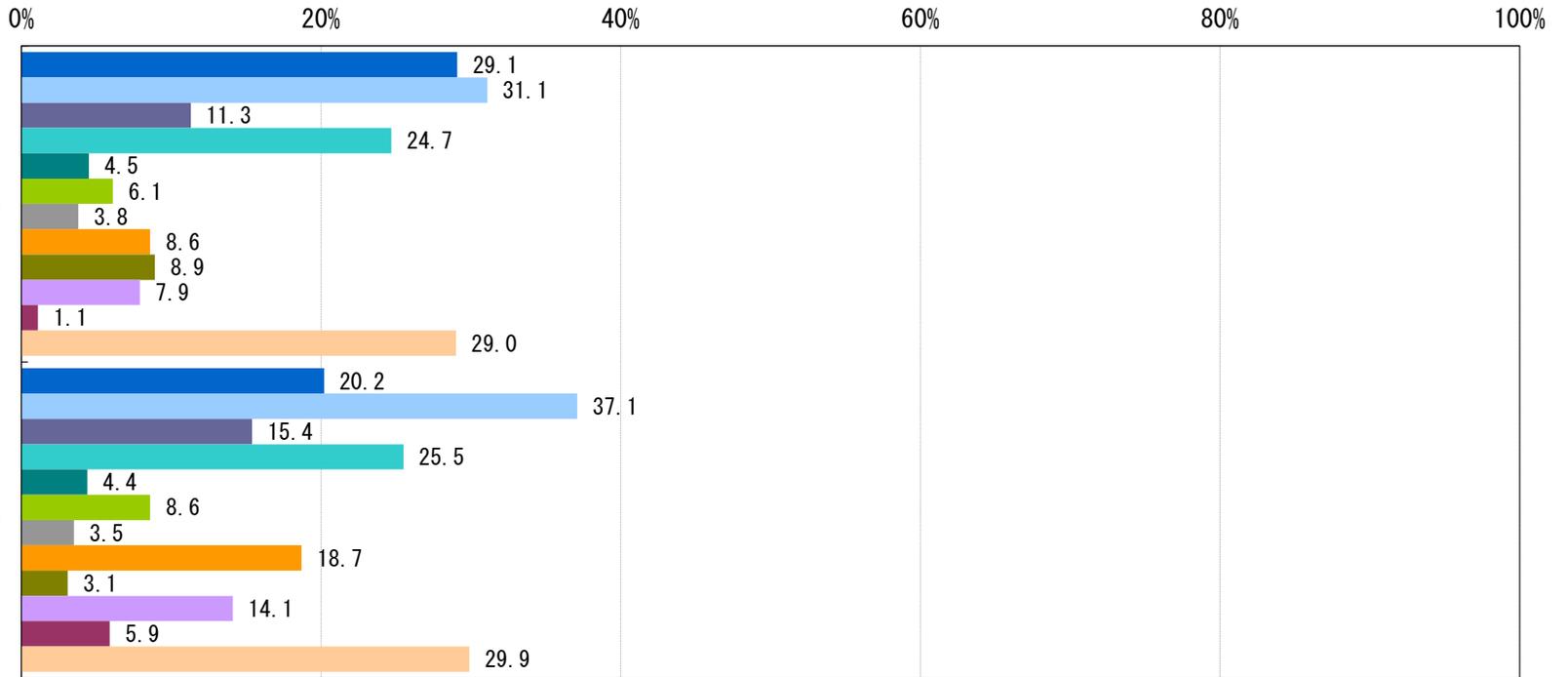
- 仕事に関する情報収集
- 移住費用の高さ
- 移住に伴う国や地方公共団体向けの手続き
- 地方移住のデメリットが分からず不安に感じたこと
- 親族や配偶者・パートナーなど、周囲の反対にあったこと
- 特に苦労した点はない
- 住居に関する情報収集
- 国や地方公共団体の支援策に関する情報収集
- 地方移住者の情報が少なく、具体的な生活イメージが湧かないこと
- 周囲や世間の地方移住への評価が低いこと
- その他

Q27.あなたは地方での暮らしにどのような不満を感じていますか。【単純集計】

Uターン者では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ」(31.1%)が最も高く、「収入が低下したこと」(29.1%)、「余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ」(24.7%)と続く。

Iターン者では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ」(37.1%)が最も高く、「余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ」(25.5%)、「収入が低下したこと」(20.2%)と続く。

あなたは地方での暮らしにどのような不満を感じていますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



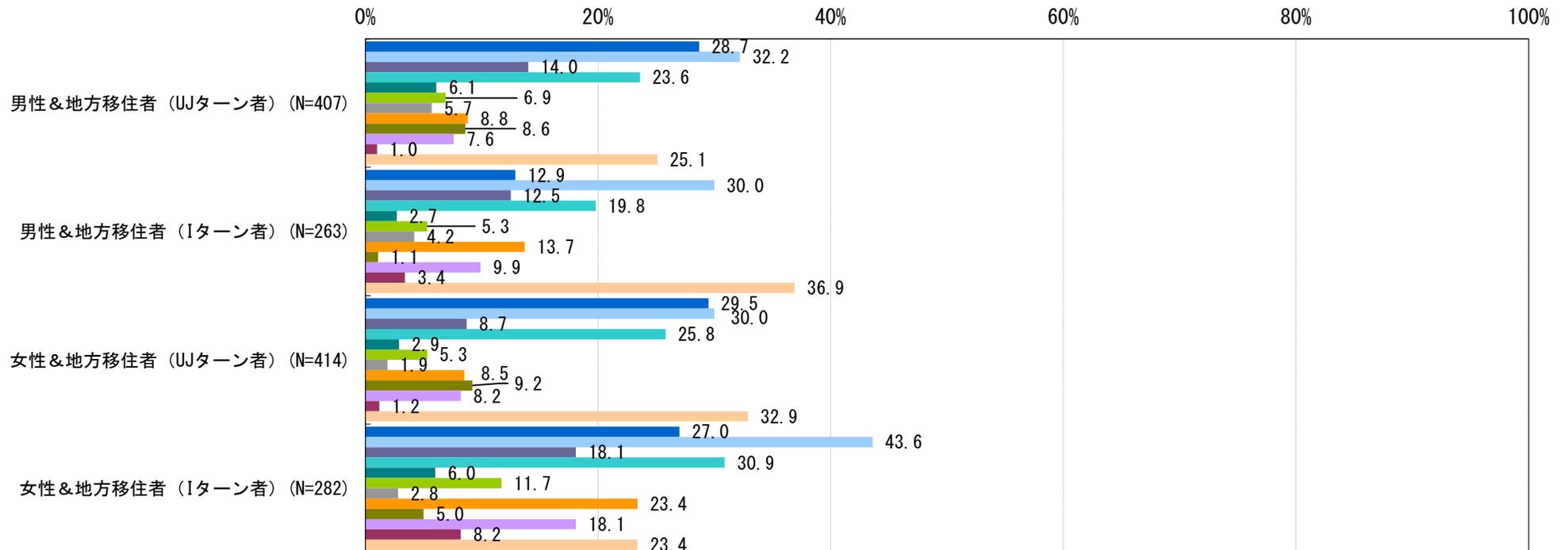
- 収入が低下したこと
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ
- 生活様式や環境の変化への対応の難しさ
- 余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）が不十分なこと
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）が不十分なこと
- 災害対策・治安対策が不十分なこと
- 地域の人間関係に溶け込むことの難しさ／コミュニティの狭さ
- 家族・親族の近くで暮らすことで様々な指摘を受けること
- 地域特有の価値観や偏見を感じる
- その他
- 特に不満は感じていない

## Q27.あなたは地方での暮らしにどのような不満を感じていますか。【男女クロス集計】

「男性×UJターン者」では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ」(32.2%)、「収入が低下したこと」(28.7%)、「余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ」(23.6%)の順で高い。  
 「男性×Iターン者」では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ」(30.0%)、「余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ」(19.8%)、「地域の人間関係に溶け込むことの難しさ／コミュニティの狭さ」(13.7%)の順で高い。

「女性×UJターン者」では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ」(30.0%)、「収入が低下したこと」(29.5%)、「余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ」(25.8%)の順で高い。  
 「女性×Iターン者」では、「生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ」(43.6%)、「余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ」(30.9%)、「収入が低下したこと」(27.0%)の順で高い。

あなたは地方での暮らしにどのような不満を感じていますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



- 収入が低下したこと
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）の低さ
- 生活様式や環境の変化への対応の難しさ
- 余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）が不十分なこと
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）が不十分なこと
- 災害対策・治安対策が不十分なこと
- 地域の人間関係に溶け込むことの難しさ／コミュニティの狭さ
- 家族・親族の近くで暮らすことで様々な指摘を受けること
- 地域特有の価値観や偏見を感じる
- その他
- 特に不満は感じていない

## Q27.あなたは地方での暮らしにどのような不満を感じていますか。【居住地クロス集計】

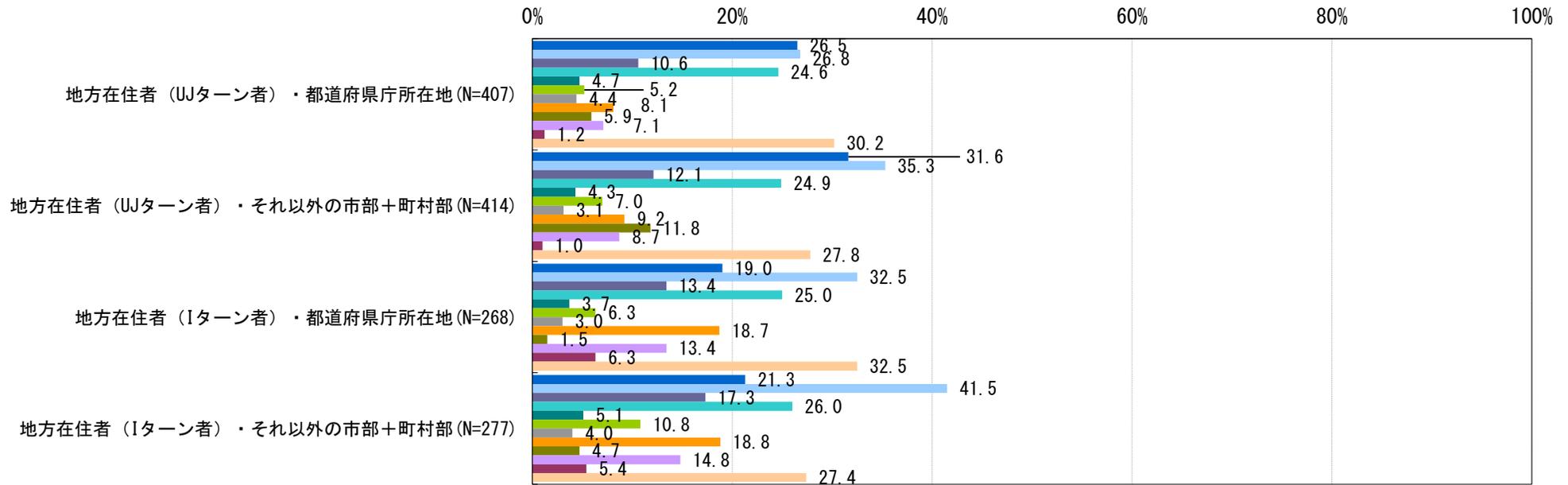
「生活利便性(買い物、交通利便性など)の低さ」と回答した割合は、「Iターン者×その他市町村」(41.5%)、「Uターン者×その他市町村」(35.3%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(32.5%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(26.8%)の順で高い。(その他市町村>都道府県庁所在地)

「収入が低下したこと」と回答した割合は、「Uターン者×その他市町村」(31.6%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(26.5%)、「Iターン者×その他市町村」(21.3%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(19.0%)の順で高い。(Uターン者>Iターン者) (その他市町村>都道府県庁所在地)

「地域の間人間関係に溶け込むことの難しさ/コミュニティの狭さ」と回答した割合は、Iターン者では18.8%である一方で、Uターン者では8.7%である。居住地(都道府県庁所在地/その他市町村)による差は小さい。

「地域特有の価値観や偏見を感じる」と回答した割合は、Iターン者では約14%である一方で、Uターン者では約8%である。

あなたは地方での暮らしにどのような不満を感じていますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



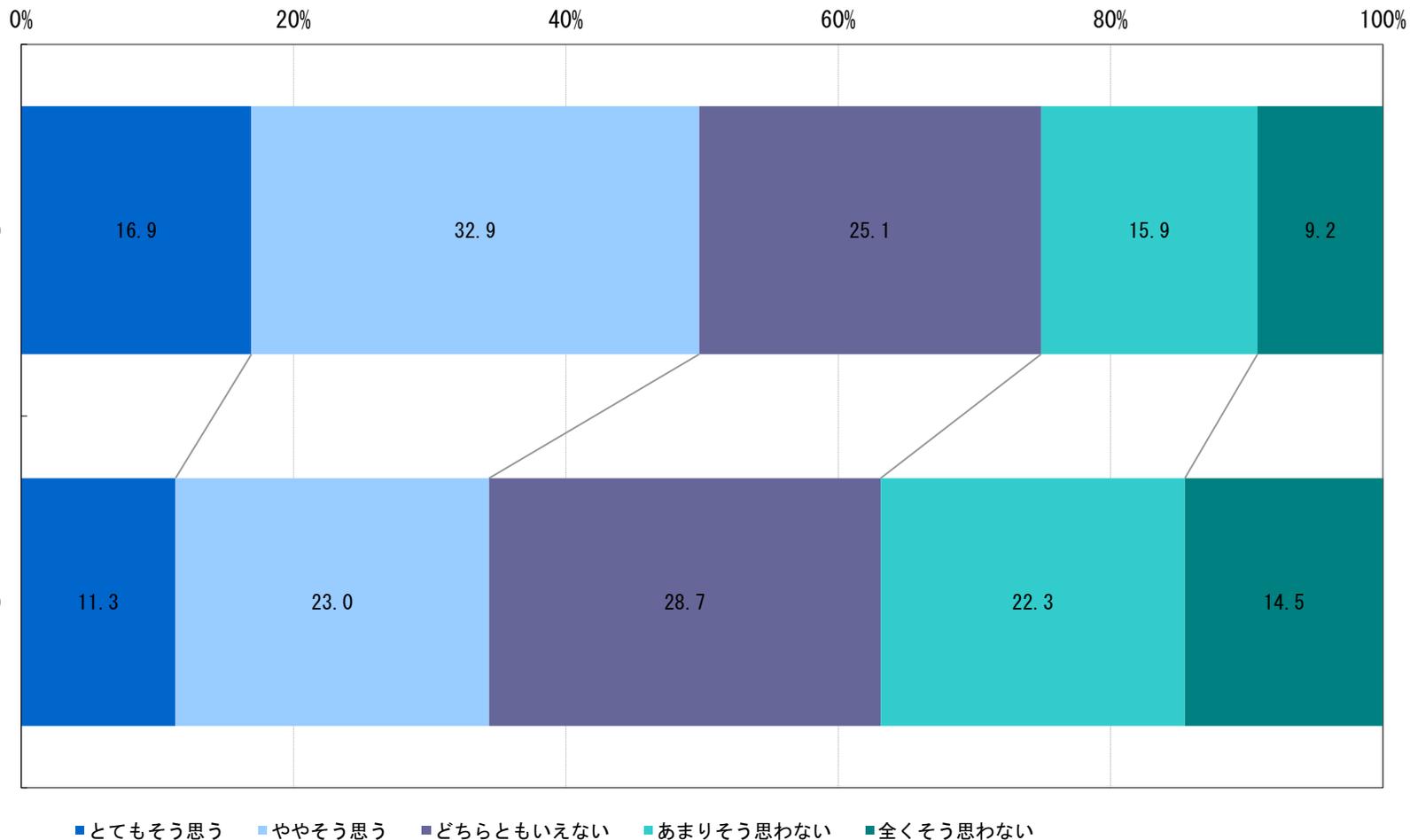
- 収入が低下したこと
- 生活様式や環境の変化への対応の難しさ
- 子育て環境(保育、教育、子育て支援など)が不十分なこと
- 災害対策・治安対策が不十分なこと
- 家族・親族の近くで暮らすことで様々な指摘を受けること
- その他
- 生活利便性(買い物、交通利便性など)の低さ
- 余暇・文化を楽しむ場所や機会の少なさ
- 医療・介護環境(医療機関、介護施設など)が不十分なこと
- 地域の間人間関係に溶け込むことの難しさ/コミュニティの狭さ
- 地域特有の価値観や偏見を感じる
- 特に不満は感じていない

Q28.あなたは地方で暮らすなかで、結婚や仕事等の女性の生き方に対する地域特有の価値観や偏見があると感じますか。【単純集計】

Uターン者のうち、49.8%の女性が生き方に対する地域特有の価値観や偏見を感じている（「とてもそう思う」、「ややそう思う」）。  
Iターン者のうち、34.3%の女性が生き方に対する地域特有の価値観や偏見を感じている（「とてもそう思う」、「ややそう思う」）。

標本：女性

あなたは地方で暮らすなかで、結婚や仕事等の女性の生き方に対する地域特有の価値観や偏見があると感じますか。[SA]

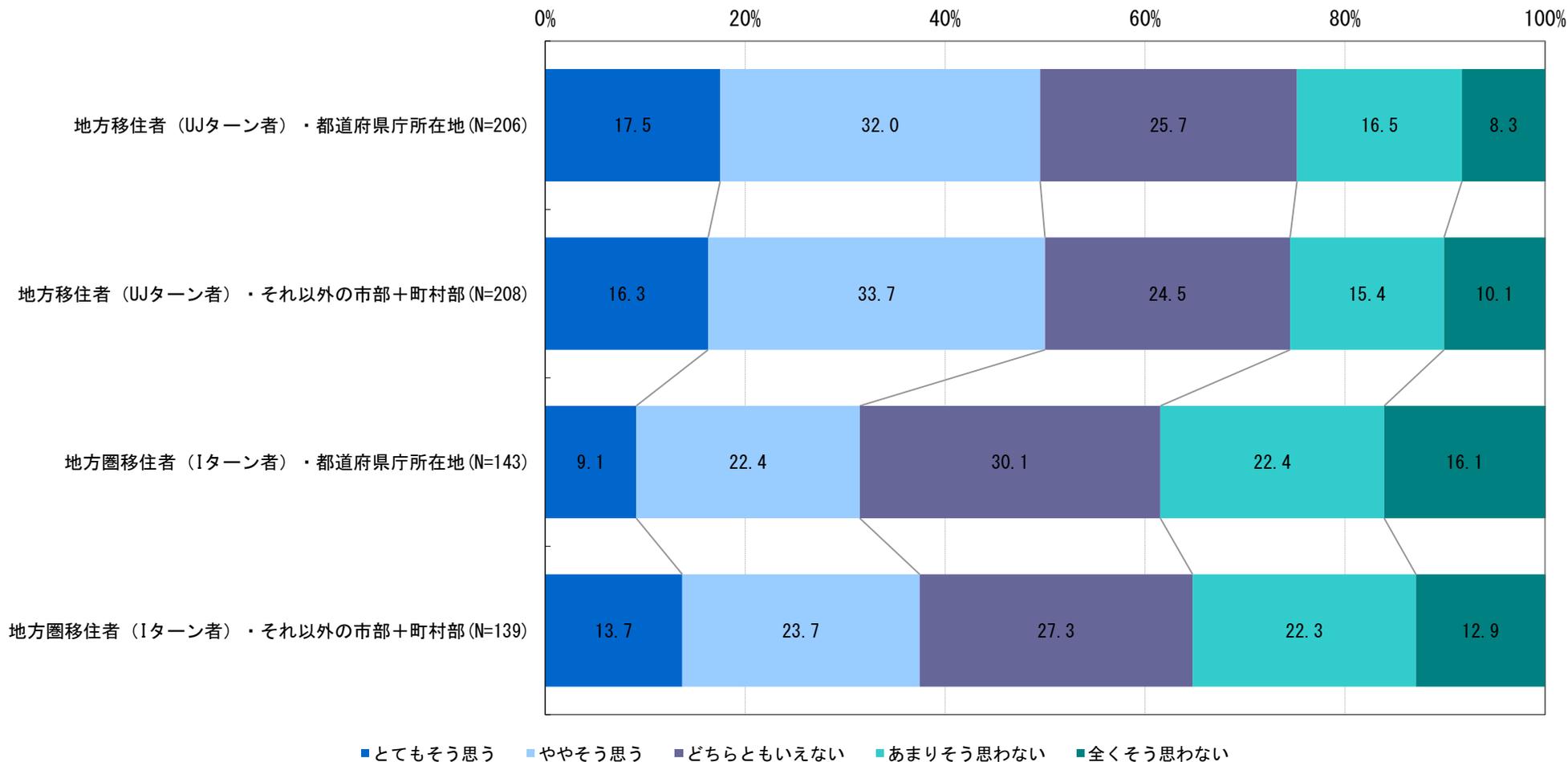


Q28.あなたは地方で暮らすなかで、結婚や仕事等の女性の生き方に対する地域特有の価値観や偏見があると感じますか。【居住地クロス集計】

偏見を感じる（「とてもそう思う」or「ややそう思う」と回答した割合は、「Uターン者×その他市町村」(50.0%)、「Uターン者×都道府県庁所在地」(49.5%)、「Iターン者×その他市町村」(37.4%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(31.5%)の順で高い。（Uターン者>Iターン者×その他市町村>Iターン者×都道府県庁所在地）

標本：女性

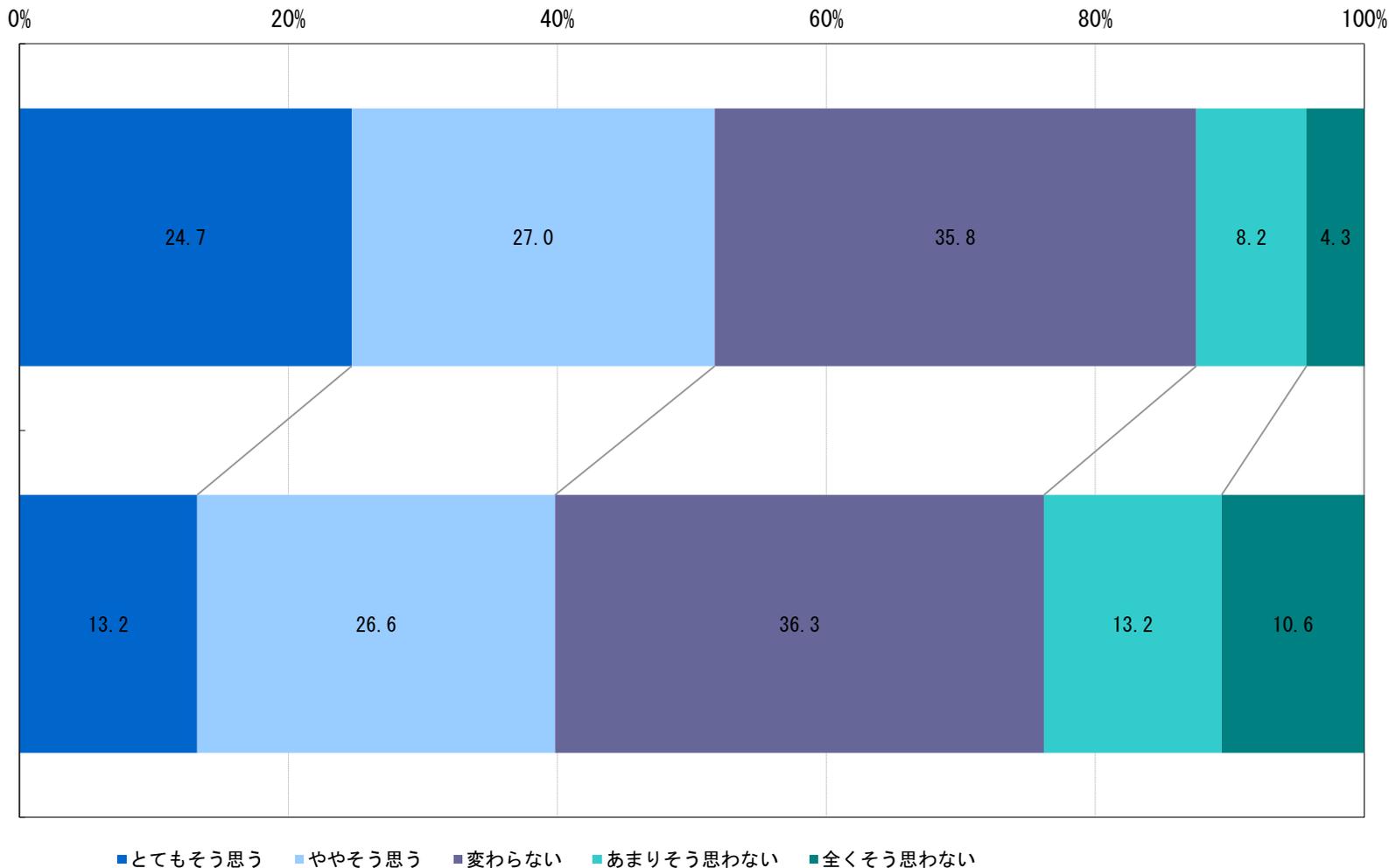
あなたは地方で暮らすなかで、結婚や仕事等の女性の生き方に対する地域特有の価値観や偏見があると感じますか。[SA]



Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。「引き続き今の場所に住みたいと思うようになった」【単純集計】

Uターン者では、「とてもそう思う＋そう思う」は51.7%。Iターン者では、「とてもそう思う＋そう思う」は39.8%。

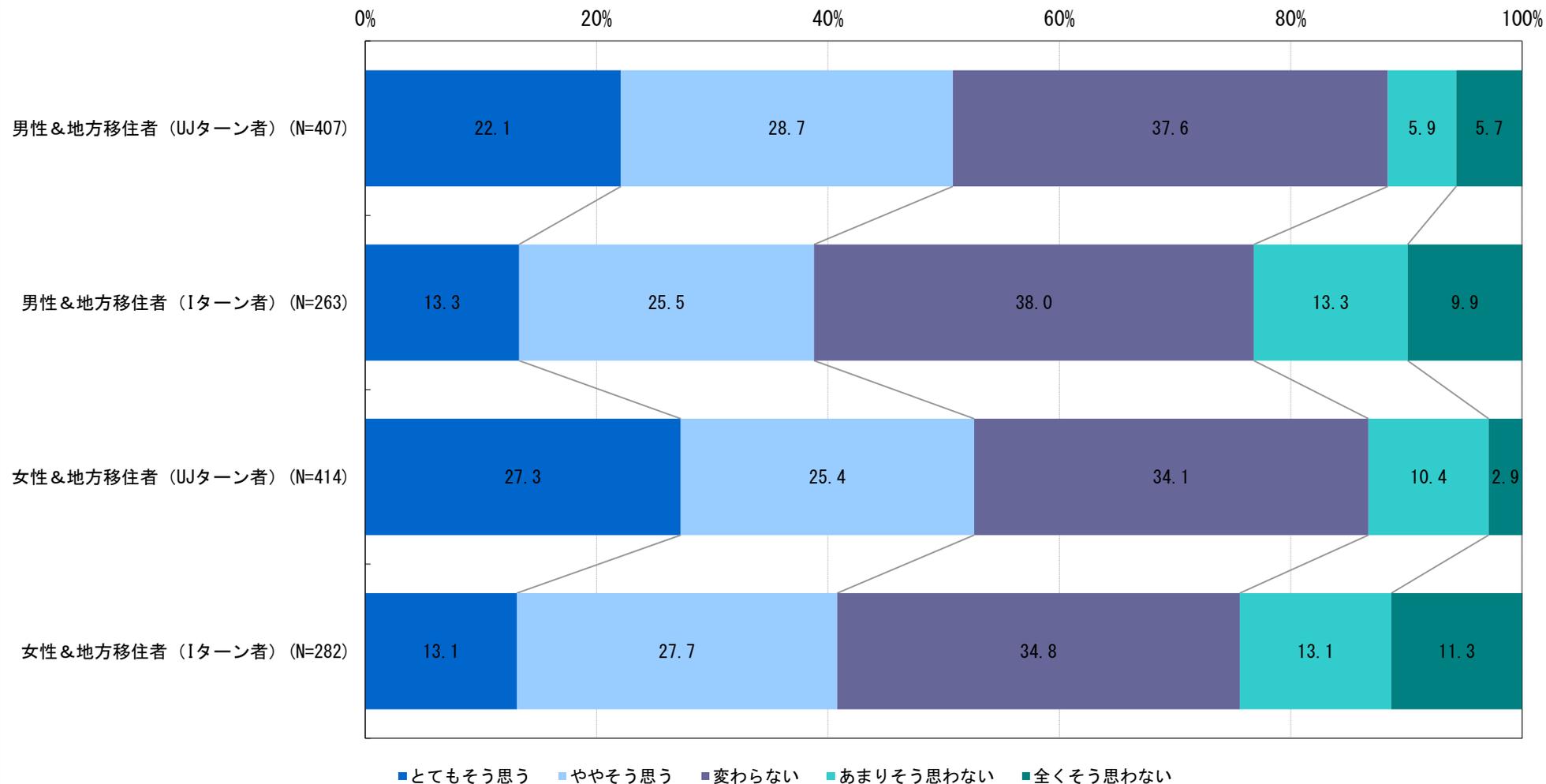
あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・引き続き今の場所に住みたいと思うようになった



Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。「引き続き今の場所に住み続けたいと思うようになった」【男女クロス集計】

「とてもそう思う+ややそう思う」の割合は「女性×UJターン者」(52.7%)、「男性×UJターン者」(50.8%)、「女性×Iターン者」(40.8%)、「男性×Iターン者」(38.8%)の順で高い。

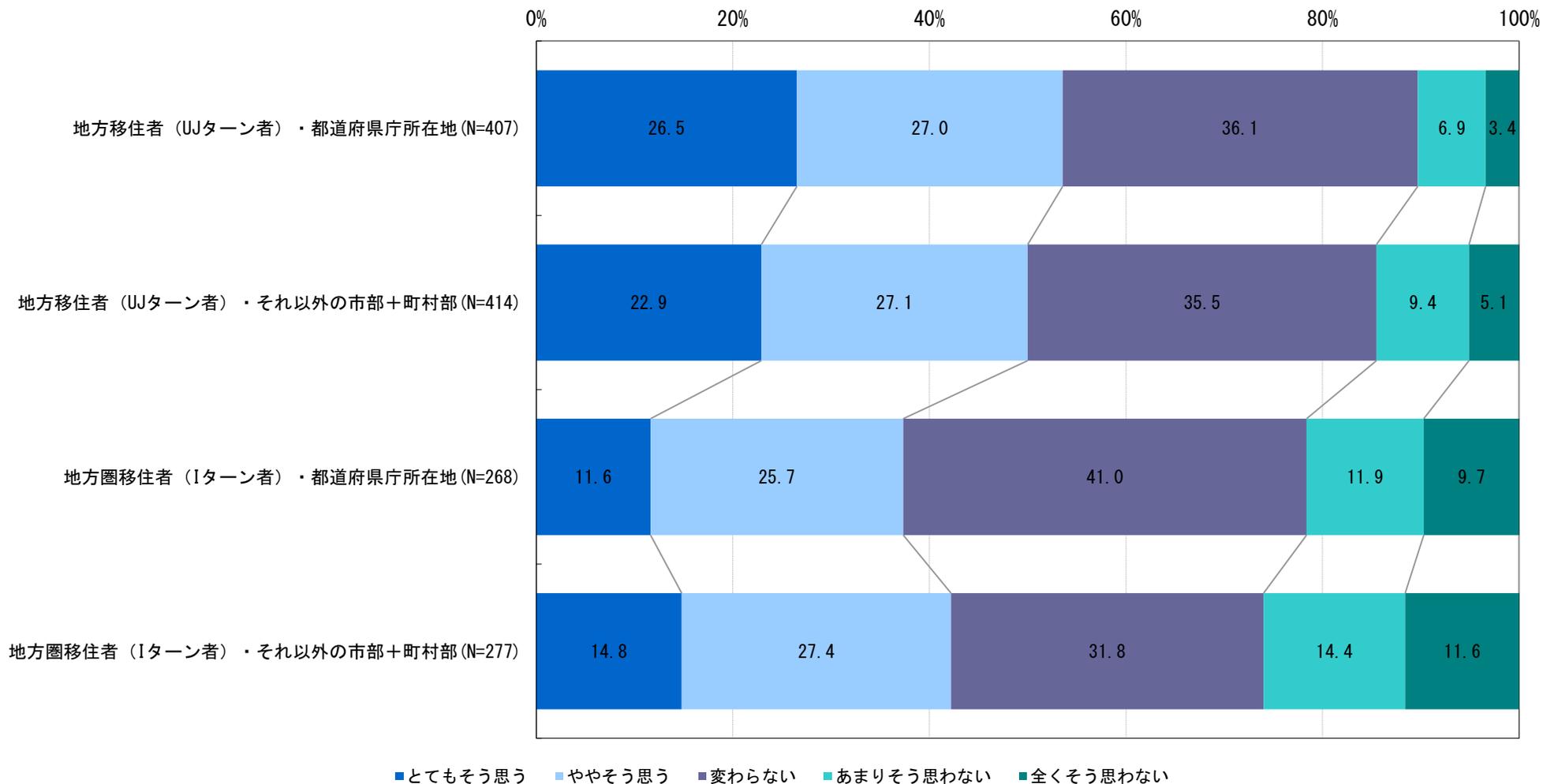
あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・引き続き今の場所に住み続けたいと思うようになった



Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。「引き続き今の場所に住み続けたいと思うようになった」【居住地クロス集計】

「とてもそう思う+ややそう思う」の割合は「UJターン者×都道府県庁所在地」(53.5%)、「UJターン者×その他市町村」(50.0%)、「Iターン者×その他市町村」(42.2%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(37.3%)の順で高い。

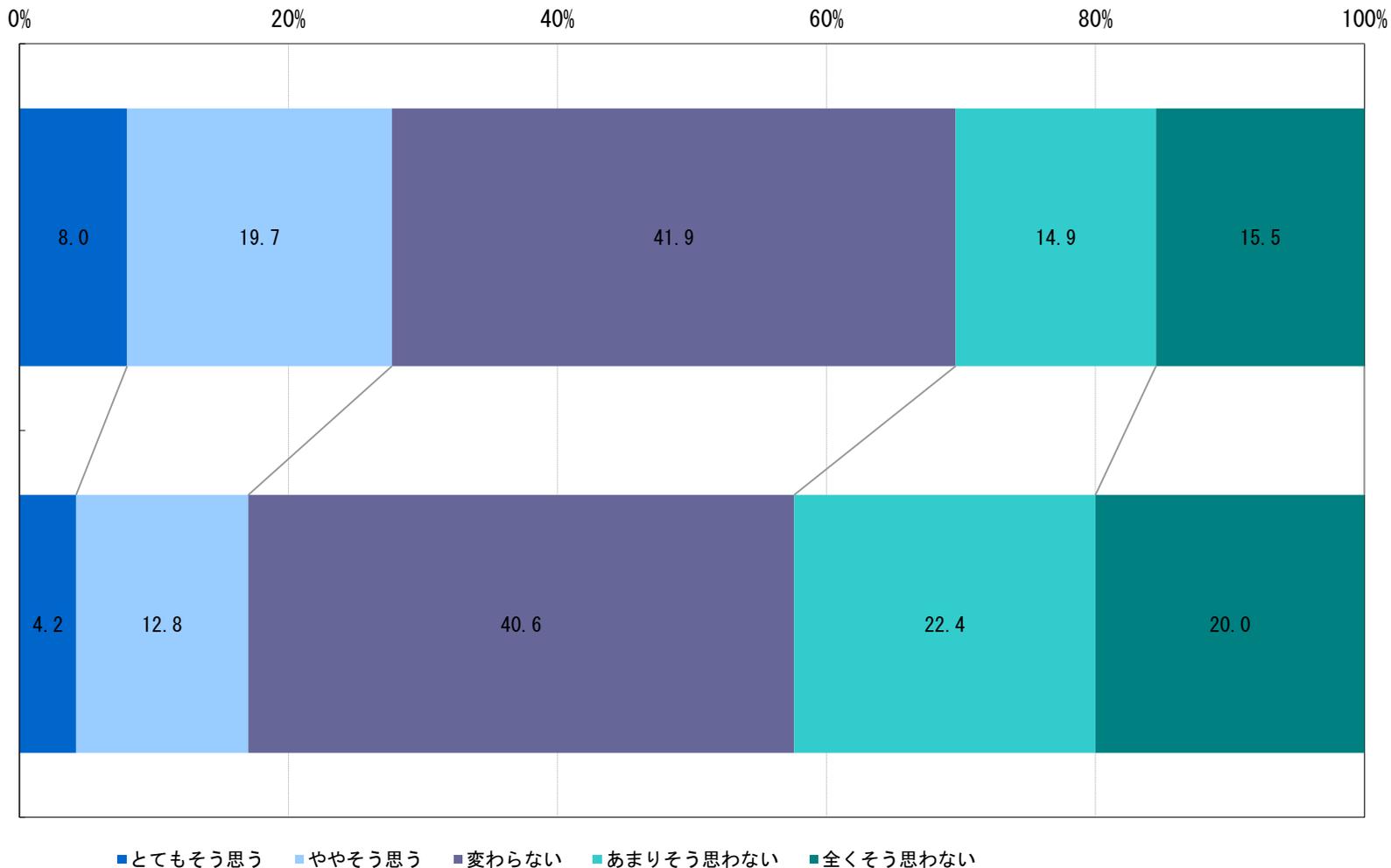
あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・引き続き今の場所に住み続けたいと思うようになった



Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。「より郊外での生活も考えるようになった」【単純集計】

Uターン者では、「とてもそう思う+そう思う」は27.7%。Iターン者では、「とてもそう思う+そう思う」は17.0%。

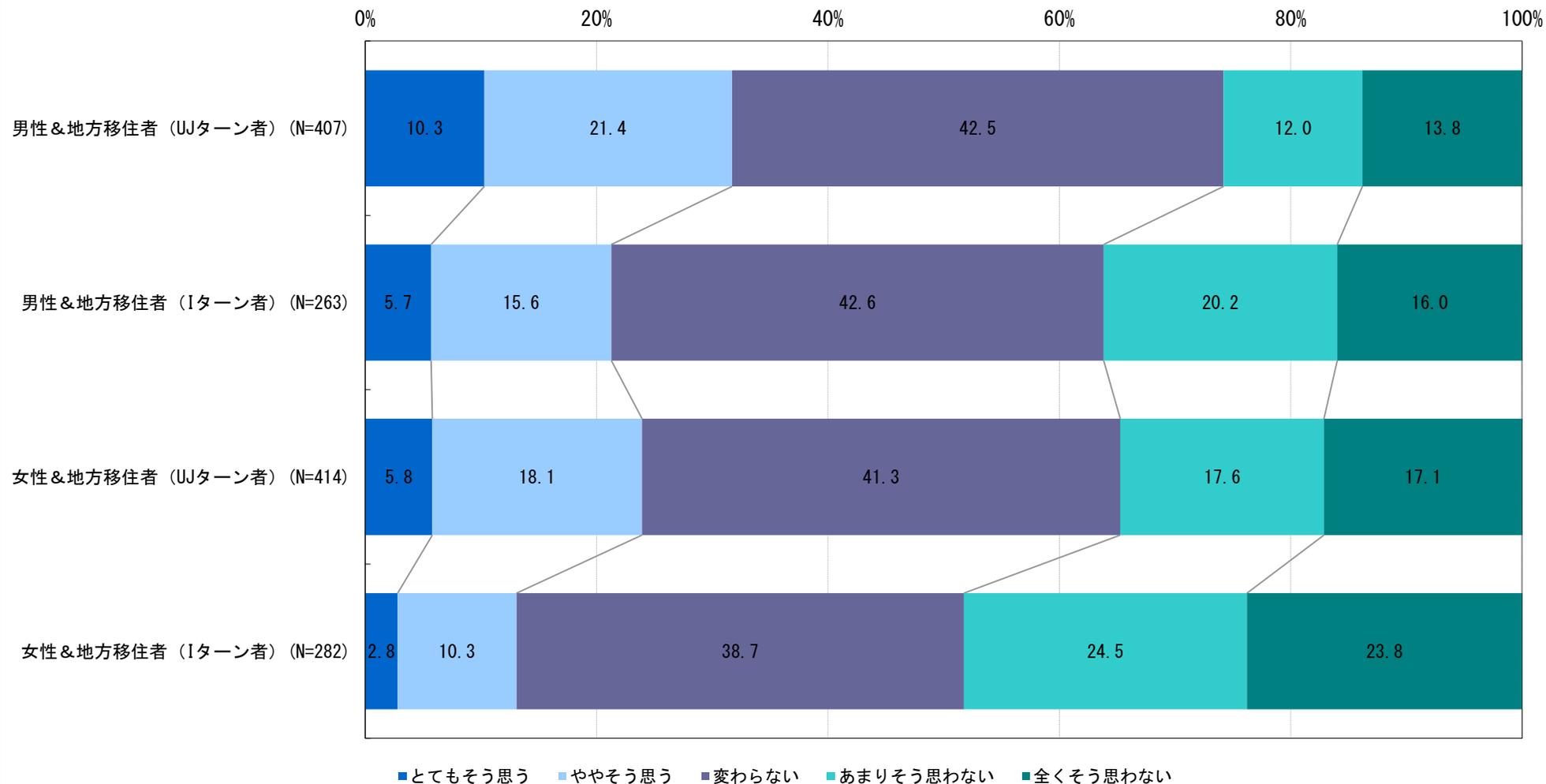
あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・より郊外での生活も考えるようになった



Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。「より郊外での生活も考えるようになった」【男女クロス集計】

「とてもそう思う+ややそう思う」の割合は「男性×UJターン者」(31.7%)、「女性×UJターン者」(23.9%)、「男性×Iターン者」(31.3%)、「女性×Iターン者」(13.1%)の順で高い。

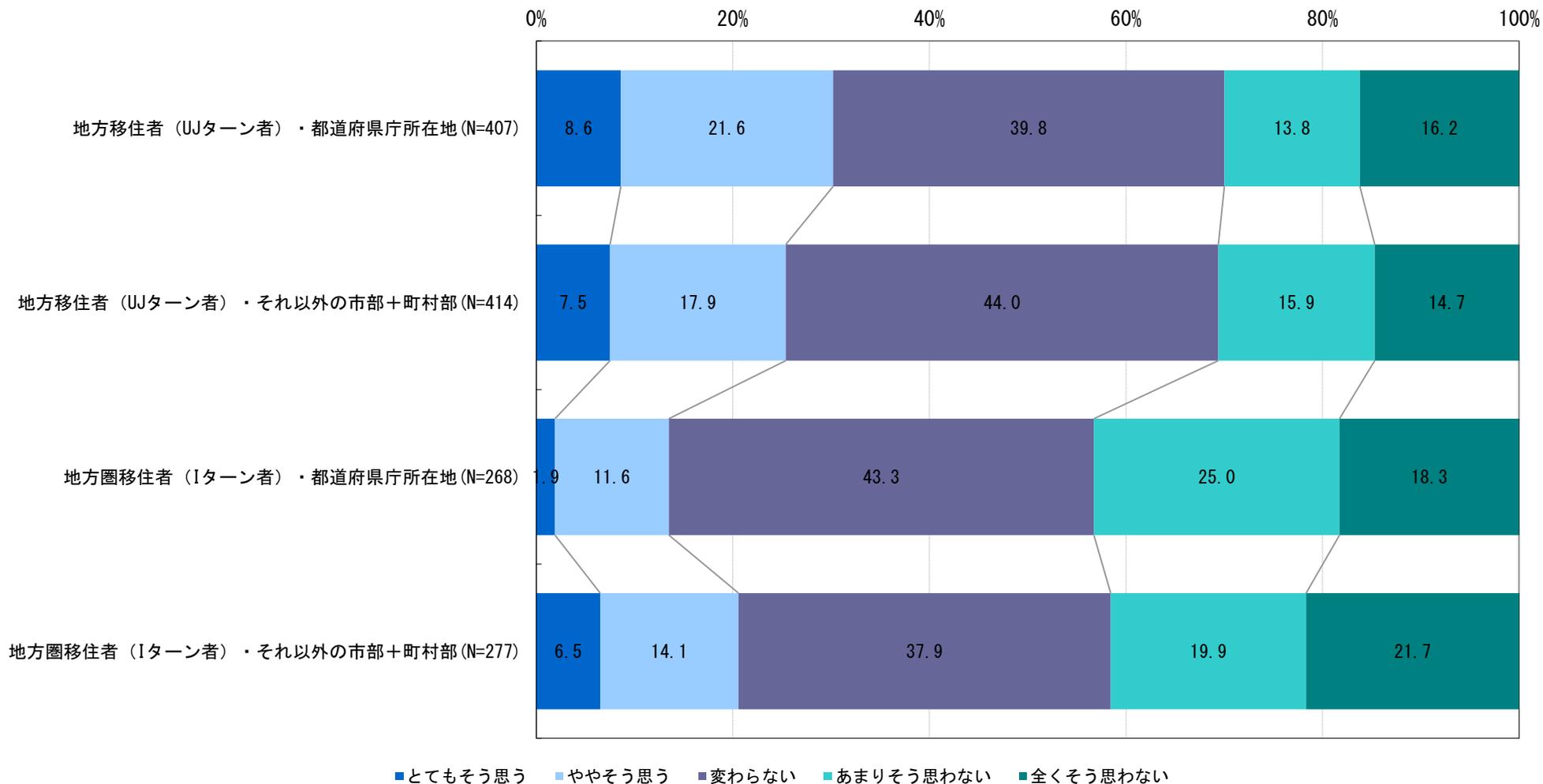
あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・より郊外での生活も考えるようになった



Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。「より郊外での生活も考えるようになった」【居住地クロス集計】

「とてもそう思う+ややそう思う」の割合は「UJターン者×都道府県庁所在地」(30.2%)、「UJターン者×その他市町村」(25.4%)、「Iターン者×その他市町村」(20.6%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(13.5%)の順で高い。

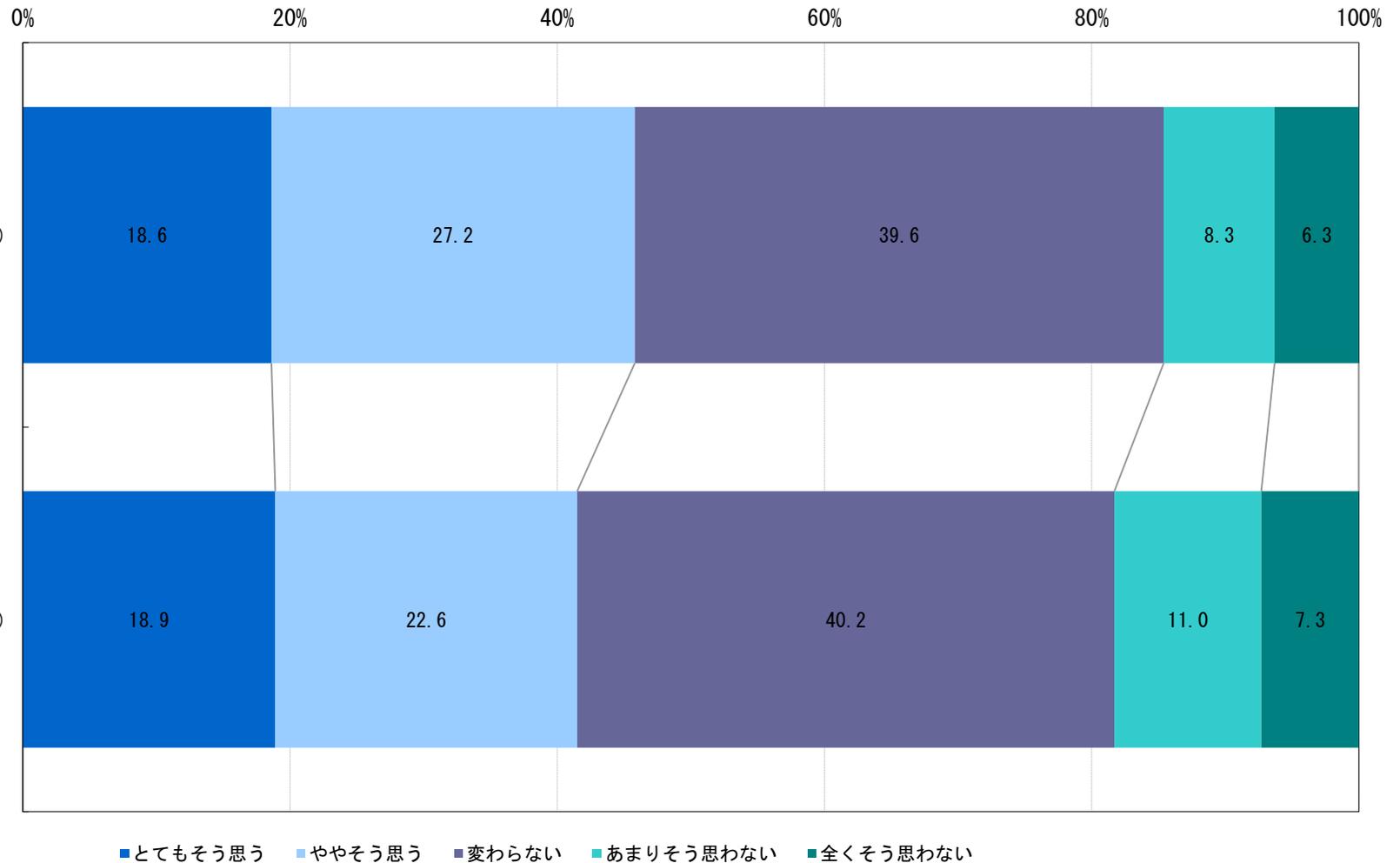
あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・より郊外での生活も考えるようになった



Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」【単純集計】

UJターン者では、「とてもそう思う＋そう思う」は45.8%。Iターン者では、「とてもそう思う＋そう思う」は41.5%。

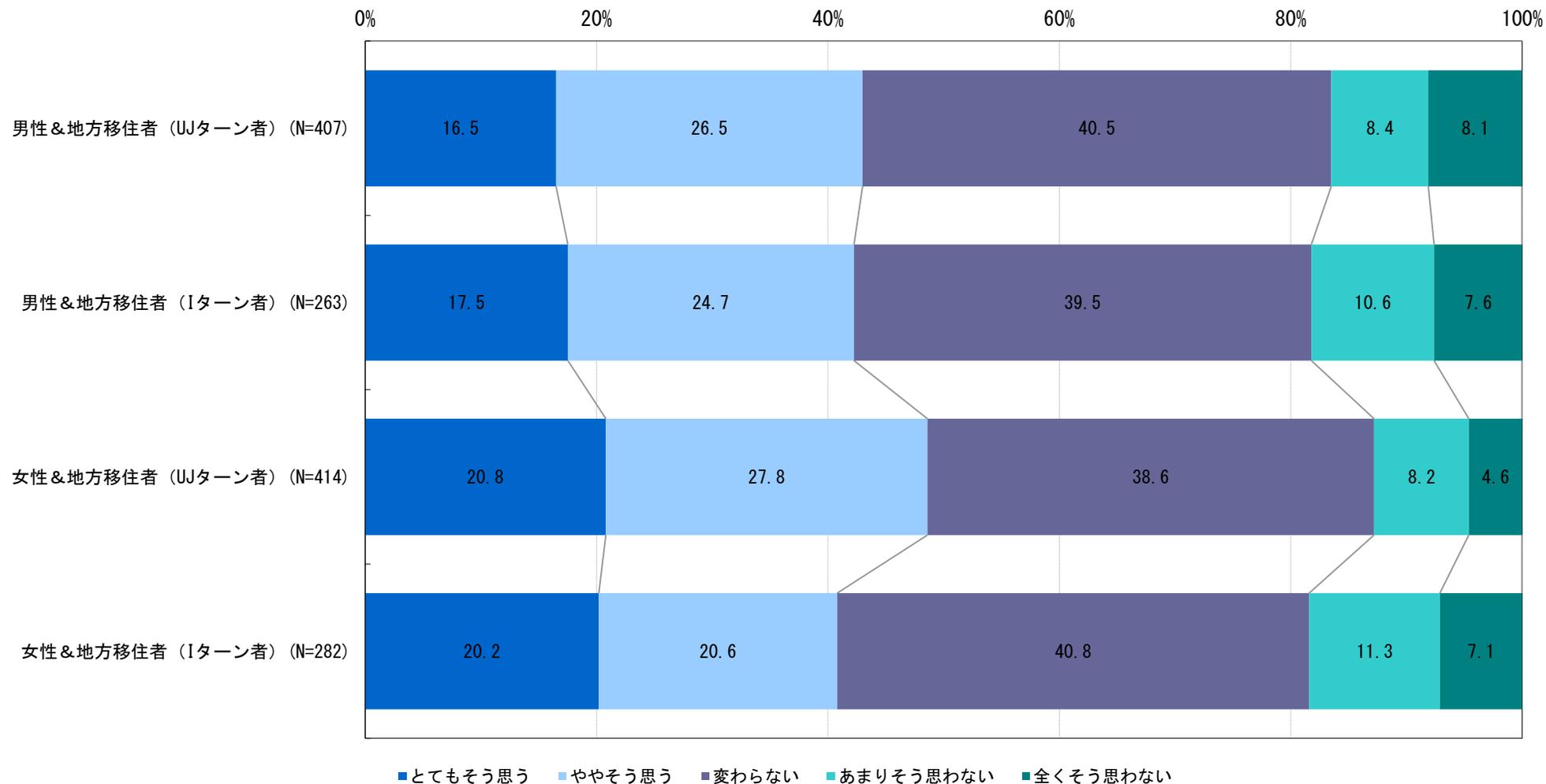
あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった



Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」【男女クロス集計】

「とてもそう思う+ややそう思う」の割合は「女性×UJターン者」(48.6%)、「男性×UJターン者」(43.0%)、「男性×Iターン者」(42.2%)、「女性×Iターン者」(40.8%)の順で高い。

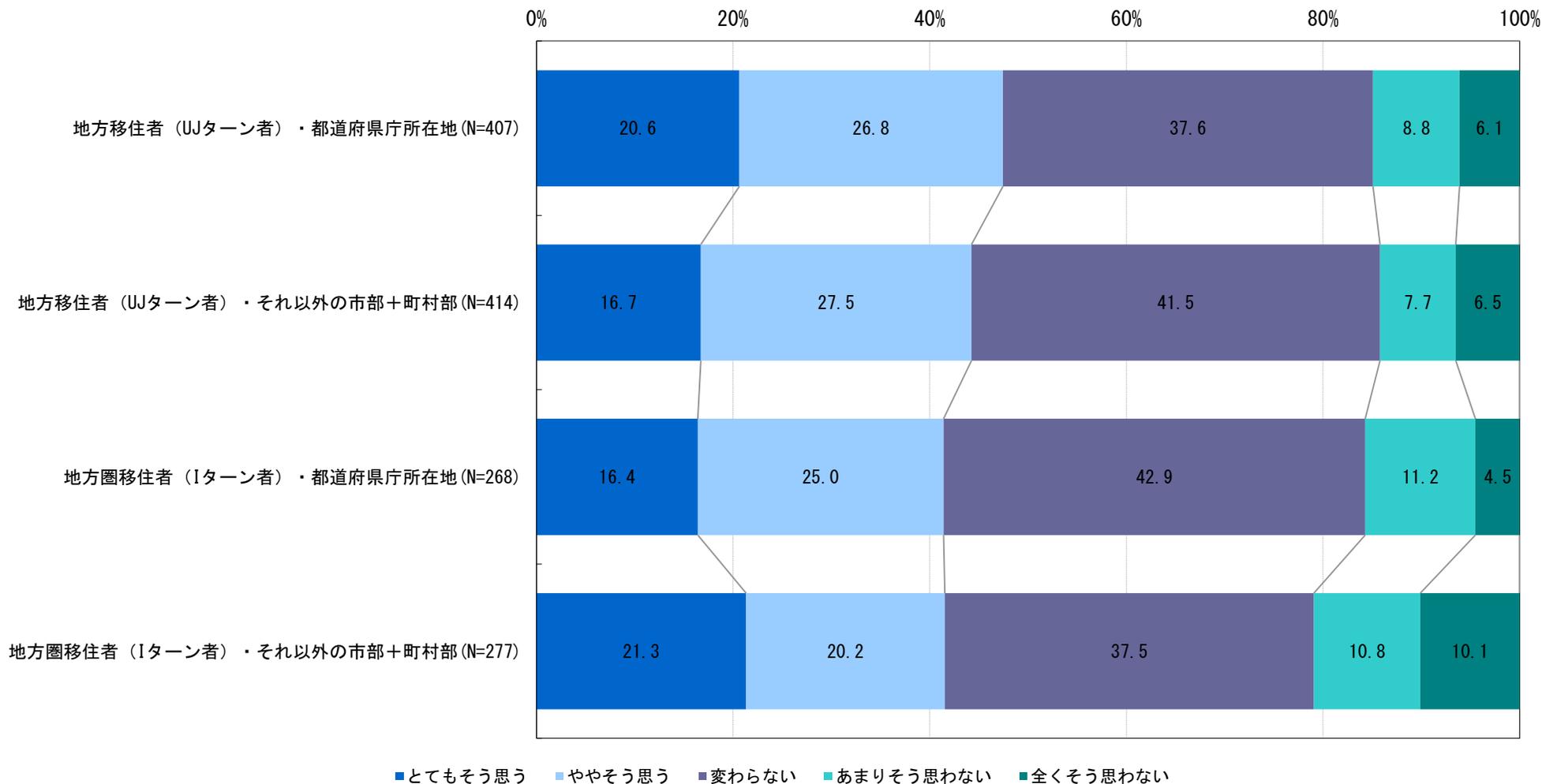
あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった



Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」【居住地クロス集計】

「とてもそう思う+ややそう思う」の割合は「UJターン者×都道府県庁所在地」(47.4%)、「UJターン者×その他市町村」(44.2%)、「Iターン者×その他市町村」(41.5%)、「Iターン者×都道府県庁所在地」(41.4%)の順で高い。

あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。[SA\_MATRIX]・リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった



## 4.2.1.地方移住者（UJターン者）の意識調査\_FGI調査\_調査方法

---

## 4.2.1.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査方法

### 調査方法①

#### ■ 調査目的

- 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が今秋に実施を予定する広報事業の実施を展望しつつ、実際に地方に移住したUJターン者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見・インサイトの意見（感情の機微）」や行動実態を把握し、東京圏在住者に対して広報で打ち出すべきコンテンツへの示唆とすることを目的とした。
- 具体的には、下記の傾向を抽出することを目的とした。
  - ①地方移住に関心を持った理由/地方に抱いた気持ちやポジティブなイメージ（誘因カテゴリーを含む）
  - ②地方移住に関心がある層が実際に移住を検討/決断した理由
  - ③移住に至るまでの実態（思考/行動/取得した情報等）等
  - ④移住後の生活に関する満足度・幸せな生活実態 等

#### ■ 調査方法・時期

- オンラインFGI調査（フォーカス・グループ・インタビュー調査）を実施。
- 2020年8月～9月にかけて実査を実施した。具体的な実施スケジュールは下記。

Gr.区分	実施日	実施時間
Gr.1 UJターン×男性×都道府県庁所在地在住	2020年8月11日（火）	19:00~21:00
Gr.2 UJターン×女性（未婚）×都道府県庁所在地在住	2020年8月10日（月）	13:30~15:30
Gr.3 UJターン×女性（既婚）×都道府県庁所在地在住	2020年8月11日（火）	13:30~15:30
Gr.4 UJターン×男性×その他市町村在住	2020年9月5日（土）	16:15~18:15
Gr.5 UJターン×女性（未婚）×その他市町村在住	2020年8月23日（日）	19:00~21:00
Gr.6 UJターン×女性（既婚）×その他市町村在住	2020年9月6日（日）	10:30~12:30
Gr.7 Iターン×男性×都道府県庁所在地在住	2020年8月9日（日）	13:30~15:30
Gr.8 Iターン×女性×都道府県庁所在地在住	2020年8月9日（日）	10:30~12:30
Gr.9 Iターン×男性×その他市町村在住	2020年8月23日（日）	16:15~18:15
Gr.10 Iターン×女性×その他市町村在住	2020年8月11日（火）	10:30~12:30

## 4.2.1.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査方法

### 調査方法②

#### ■ Gr.の区分方法、対象者抽出条件

対象者区分					グループ名	グループあたり人数	人数計
UI区分	居住地区分	性別	婚姻状況	子供の有無			
UIターン者	1.都道府県庁所在地	1.男性			Gr.1	4名/G	20名
		2.女性	1.未婚		Gr.2		
			2.既婚	1.子供あり2名 2.子供なし2名	Gr.3		
		2.それ以外の市+3.町村	1.男性				
	2.女性		1.未婚	2.子供なし	Gr.5		
			2.既婚	1.子供あり2名 2.子供なし2名	Gr.6		
Iターン者	1.都道府県庁所在地	1.男性			Gr.7	20名	
		2.女性			Gr.8		
	2.それ以外の市+3.町村	1.男性			Gr.9		
		2.女性			Gr.10		

#### ■ インタビュー・フロー ※詳細版は別添資料を参照

##### 1. ライフスタイル/転入等移住経験

##### 2. 移住の意思決定要因と行動実態

##### 3. 移住の阻害要因と克服方法

##### 4. 移住後の生活に関する意識と移住喚起に向けたアドバイス

###### 【現在のライフスタイル】

- 現在の1日の生活パターン

###### 【生まれてから今までのライフヒストリー】

- 出生以降の移住経験(UJターン者)
- 東京圏移住までの経緯
- 両親や兄弟はどこに住んでいるか、両親の出身地は？
- 過去の居住地(東京圏)への想い・思い出

###### 【移住に至った理由】

- 地方移住のきっかけ
- 地方移住に関心を持った理由(東京圏への不満/地方の魅力等)
- 地方移住を検討/計画し始めた理由
- 地方移住を決断した理由
- 移住を考える上で、子育て環境を意識したことはあったか(女性)
- 両親の出身地と移住意向/きょうだい構成
- 東京圏の災害リスクがあることが移住の意思決定に影響を与えたか

###### 【地方移住の行動実態】

- 移住決定までの情報収集活動
- 移住決定までの移住先との関わり
- 仕事・住居の具体的な決定方法

###### 【移住の阻害要因】

- 地方での暮らしに感じていた不安要素
- 地方移住時に苦労した点(移住手続き/情報収集等)
- 地方での暮らしにおいて苦労した点
- 子育て環境について苦労した点(女性)

###### 【阻害要因の克服方法】

- 国・地方公共団体の支援策の認知・活用状況
- 国・地方公共団体に求める支援策・情報

###### 【地方暮らしの魅力】

- 地方暮らしに対する満足度
- 東京圏暮らしに対する満足度
- 地方暮らしに感じた魅力  
※誘因カテゴリー10パターンを提示し選択後、具体的内容を抽出(次頁参照)
- 今後ずっと地方で暮らしたいと考えるか

###### 【移住喚起に向けたアドバイス】

- 地方暮らしに興味を持った際にあつたらよかったと思うコンテンツ
- 移住に必要な条件
- 移住検討者へのアドバイス・エール
- 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地域のリアクション・実態

## 4.2.1.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査方法

### (参考) FGI調査実施時に提示した誘因カテゴリー

- 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が今秋に広報戦略の一環として制作予定の「地方暮らしの魅力案内サイト（仮称）」では、移住者を地方暮らしに導いた複数の誘因カテゴリーを提示し、それぞれの誘因カテゴリーごとの「地方移住で幸せをつかんだ普通の人」へのインタビューをメインコンテンツの一つとすることが予定されている。
- その実施に伴い、地方移住者\_FGI調査では、下図に示す誘因カテゴリーを提示し、次のような項目について生の声を抽出した。
  - 「地方のどのような魅力（誘因カテゴリー）が地方に関心を持つ/移住を検討するきっかけとなったか」
  - 「UJターン者が移住後に実際に感じている魅力（誘因カテゴリー）は何か」

誘因カテゴリー10パターン（案）

自然も便利も両方欲しい！ 自然も便利もある 地方都市での暮らし	趣味に生きたい！ 地元ならではのアウトドア 趣味中心での暮らし	社会の役に立ちたい！ 仕事やボランティアを通して 地域に貢献する暮らし
自分の時間をもっと持ちたい！ ワークライフバランスの良い 職住近接の暮らし	やっぱり地元が好き！ 親や昔の友達の近く にいる暮らし	広くて快適な家に住みたい！ 自分好みの快適で 広い家での暮らし
安心して子育てがしたい！ 親子にやさしい環境での暮らし	何はともあれ自然が一番！ 自然がすぐ近くにある暮らし	歴史・文化を感じたい！ 街の趣きや情緒に触れる暮らし
	『あの人』についていきたい！ 都会では出会えない魅力的な生 き方をしている人の下で働く暮らし	

## 4.2.2.地方移住者（UJターン者）の意識調査\_FGI調査\_ 調査対象者の属性・プロフィール

---

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.1 Uターン×男性×都道府県庁所在地在住

		A	B	C	D
性別		男性	男性	男性	男性
年齢		28歳	36歳	35歳	27歳
居住都道府県		岩手県	北海道	大阪府	福岡県
居住地域FA（市区町村名）		盛岡市	札幌市	大阪市北区	福岡市博多区
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地
未既婚		未婚	既婚	既婚	未婚
本人職業		正社員 福祉業・介護士	正社員 地方自治体・一般事務	正社員 金融業・営業	正社員 情報処理業・システムエンジニア
同居家族		父（59）、母（52）	妻（34）、長男（2）	妻（35）	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		岩手県	北海道	大阪府	長崎県
地方→東京	移住年齢	18歳	19歳	30歳	25歳
	移住年度	2010年	2003年	2015年	2018年
東京→地方	移住年齢	22歳	31歳	33歳	26歳
	移住年度	2014年	2015年	2018年	2018年
現住所は実家と同じ市町村か		Uターン	Jターン	Jターン	Jターン
移住前後の子供有無		子なし	移住前子なし 移住後子あり	子なし	子なし
地方での生活に満足しているか		1.満足している	1.満足している	2.やや満足している	2.やや満足している
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		07.就職活動（新卒）がきっかけ	01.将来のライフプランを考えたことがきっかけ	08.転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ	01.将来のライフプランを考えたことがきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		元々東京圏での人混みだらけの生活に嫌気が差していて、就職は生まれ故郷である盛岡でしたいと思っていました。幸いにも盛岡で希望している職種と、納得できる給与の仕事が見つかったため、地方（盛岡）に戻って就職することを決意しました。	地方においての仕事が見つかったことです。札幌出身の女性と知り合い、札幌への転職を具体的に考えるようになり、かねてよりなりたかった地方公務員への合格を果たしました。試験に合格していなければ、他の自治体や民間企業を含めて、数年かけてでも札幌への移住・転職をしようと決めていました。子育て世代が地方へ移住する際は、仕事があれば難しいと思います。	転職が決まり、勤務地を選択できたので、地元に戻る決意をしました。	体を壊してしまったことがキッカケです。満員電車、都会の度重なるストレスの波に毒されていたため、地方でライフのバランスを取りたかったから、地方移住しました。
満足度（東京圏→地方）		東京圏：4点 ⇒地方：8点	東京圏：8点 ⇒地方：9点	東京圏：ビジネス3点、 プライベート8点 ⇒地方：8・9点	東京圏：3点 ⇒地方：6点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.2 Uターン×女性（未婚）×都道府県庁所在地在住

		A	B	C	D
性別		女性	女性	女性	女性
年齢		37歳	33歳	25歳	34歳
居住都道府県		愛知県	奈良県	北海道	大阪府
居住地域FA（市区町村名）		名古屋市	奈良市	札幌市	大阪市淀川区
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地
未既婚		未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		正社員 内装業・技術職	正社員 ITソフトウェア・エンジニア	パート ITサービス・テスター	正社員 旅行業・企画販売
同居家族		父（65）、母（63）	父（59）、母（60）、弟（28）、妹（27）	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		愛知県	奈良県	北海道	京都府
地方→東京	移住年齢	36歳	23歳	23歳	31歳
	移住年度	2019年	2009年	2017年	2016年
東京→地方	移住年齢	37歳	24歳	25歳	33歳
	移住年度	2019年	2010年	2020年	2018年
現住所は実家と同じ市町村か		Uターン者	Uターン者	Jターン者	Jターン者
地方での生活に満足しているか		2.やや満足している	1.満足している	1.満足している	2.やや満足している
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ	03.旅行がきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		転職がきっかけです。毎朝満員電車で通勤し続ける事から解放されたいという事、2年ほど前から利益をとことん追求する以前の勤務先の社内環境によって気持ちの余裕を無くし非常に疲れていた事から、地縁者のいる名古屋にきました。現在住んでいる名古屋は商業施設も交通機関もコンパクトにまとまっていて、東京よりも通勤の混雑はとて少なく、近隣には自然環境の良い地域が多く精神的にゆとりが持てそうだと感じた為です。	都会は人が多くてごみごみしている。	就職で上京しましたが、体を壊してしまったのでアルバイトやパートで生活を何とか続けていました。一度お盆に帰省した際に、地元でのんびりとした生活や人の少なさ、ぎすぎすした気持ちにならない環境のありがたさを実感し、帰ることを決意しました。また、東京の家は狭く、ペット禁止だったので、それが思っていた以上にさみしさやストレスにつながっていたので、地元に戻った際はペットが飼える広い家を探しました。東京で住んでいた家とあまり変わらない家賃ですが、家の広さは4倍以上になりましたし、ペットも飼えるので満足しています。	旅行で見えて歩いたときにコンパクトな街で楽しかったし、地元にも近く、新しいものもあって個性的な街だったため。
満足度（東京圏→地方）		東京圏：3点 ⇒地方：8点	東京圏：0点 ⇒地方：10点	東京圏：3点 ⇒地方：10点	東京圏：8点 ⇒地方：7点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.3 Uターン×女性（既婚）×都道府県庁所在地在住

		A	B	C	D
性別		女性	女性	女性	女性
年齢		29歳	26歳	27歳	28歳
居住都道府県		愛知県	福岡県	北海道	大阪府
居住地域FA（市区町村名）		名古屋市千種区	福岡市	札幌市	大阪市
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地
未既婚		既婚	既婚	既婚	既婚
本人職業		専業主婦 （単発アルバイト：配達員）	正社員 医療福祉関係・臨床開発モニター	正社員 人材サービス・営業	正社員 動物医薬品製造業・技術職
同居家族		一人暮らし（夫は海外単身赴任中）	夫（26歳）	夫（27歳）、長女（0歳）	夫（30歳）
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		島根県	鹿児島県	静岡県	長野県
地方→東京	移住年齢	22歳	24歳	26歳	18歳
	移住年度	2013年	2018年	2019年	2010年
東京→地方	移住年齢	22歳	24歳	26歳	19歳
	移住年度	2013年	2018年	2019年	2011年
現住所は実家と同じ市町村か		Jターン者	Jターン者	Jターン者	Jターン者
移住前後の子供有無		子なし	子なし	移住前子なし 移住後子あり	子なし
地方での生活に満足しているか		1.満足している	1.満足している	1.満足している	1.満足している
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		08.転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた ことがきっかけ	06.進学先・職業訓練先の検討がきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		地方に親族がいて、一人暮らし用の物件が決まるまで住まわせてもらえることになったから。移住に伴う初期費用を抑えられたことが、決断の最大の決め手。	地方の支社(福岡支社)に配属になったことがきっかけです。福岡は学生時代から時々訪れており、食べ物の美味しさ、程よい都会さに憧れがあり、決断に至りました。	通勤が徒歩圏内で、東京よりも格段に安く、広い住まいを借りることができる点が非常に魅力的だった。	進学先であった
満足度（東京圏→地方）		東京圏：6点 ⇒地方：8点	東京圏：6点 ⇒地方：9点	東京圏：6点 ⇒地方：8点	東京圏：5点 ⇒地方：8点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.4 Uターン×男性×その他市町村在住

		A	B	C	D
性別		男性	男性	男性	男性
年齢		38歳	24歳	27歳	34歳
居住都道府県		岐阜県	長野県	山口県	大阪府
居住地域FA（市区町村名）		大垣市	須坂市	防府市	羽曳野市
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		町村	（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市
未既婚		既婚	未婚	既婚	未婚
本人職業		正職員 地方自治体・事務	正社員 情報通信業・営業	正社員 運輸サービス業・営業	自営業 フリーライター
同居家族		妻（36）	一人暮らし	妻（37）	父（71）、母（70）
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		岐阜県	長野県	広島県	大阪府
地方→東京	移住年齢	24歳	19歳	18歳	20歳
	移住年度	2007年	2015年	2011年	2006年
東京→地方	移住年齢	34歳	23歳	22歳	24歳
	移住年度	2017年	2019年	2015年	2010年
現住所は実家と同じ市町村か		Jターン者	Jターン者	Jターン者	Uターン者
移住前後の子供有無		子なし	子なし	子なし	子なし
地方での生活に満足しているか		1.満足している	2.やや満足している	やや不満である	どちらともいえない
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		01.将来のライフプランを考えたことがきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ	01.将来のライフプランを考えたことがきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		東京圏では、老後に暮らすことのできる住居を用意できないと思い、地方に住むことを決断した。また、仕事の先行きにも不安があったが、地方で公務員の安定した仕事に就くことができたので、地方に住むこととした。		故郷だから	大学生生活で東京に出ており、東京に魅力を感じていたが、将来のことを考えて地元に戻ろうと考えた 学んでいた事が続けられなくなり、学業を考えることになったのがきっかけで、いったん実家に帰り、就職先を決めることを勧められた。
満足度（東京圏→地方）		東京圏：7点 ⇒地方：7点	東京圏：7点 ⇒地方：6～7点	東京圏：10点 ⇒地方：4点 ※学生生活と社会人生活の満足度が異なることが原因である。	東京圏：7点 ⇒地方：6点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.5 Uターン×女性（未婚）×その他市町村在住

		A	B	C	D
性別		女性	女性	女性	女性
年齢		28歳	33歳	30歳	32歳
居住都道府県		福島県	熊本県	大阪府	福岡県
居住地域FA（市区町村名）		会津美里町	玉名郡南関町	吹田市	福津市
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		町村	町村	（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市
未既婚		未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		正社員 農業関係の団体職員・事務、営業	自由業 音楽・ピアニスト	正社員 金融業・営業	正職員 教育関係・大学教員
同居家族		父（61）、母（63）	父（61）、母（57）	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		福島県	熊本県	石川県	栃木県
地方→東京	移住年齢	18歳	18歳	25歳	22歳
	移住年度	2011年	2005年	2015年	2010年
東京→地方	移住年齢	22歳	23歳	26歳	26歳
	移住年度	2015年	2014年	2016年	2014年
現住所は実家と同じ市町村か		Uターン者	Uターン者	Jターン者	Jターン者
地方での生活に満足しているか		2.やや満足している	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		07.就職活動（新卒）がきっかけ	05.帰省がきっかけ	01.将来のライフプランを考えたことがきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		神奈川県に大学に通っていたが、就職活動で体調を崩した。就職活動は主に首都圏で行っていたが、体調を考慮して地元に戻ることにした。実家暮らしなので首都圏にアパートを借りて住むより生活費もかからないし、家事も全部自分で行う必要がないので気持ちに余裕ができた。と考えた。	東京で5年半生活した中で、やはり家賃もどうしても地方の方がコストが安く、また自然が豊かで、水や空気が綺麗なことも健康に安心して暮らせると感じていたから。	一般職に変更できた	転職
満足度（東京圏→地方）		東京圏：6点 ⇒地方：8点	東京圏：7点 ⇒地方：8点	東京圏：3点 ⇒地方：9点	東京圏：6点 ⇒地方：4点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.6 Uターン×女性（既婚）×その他市町村在住

		A	B	C	D
性別		女性	女性	女性	女性
年齢		32歳	30歳	26歳	36歳
居住都道府県		兵庫県	長野県	茨城県	大阪府
居住地域FA（市区町村名）		明石市	塩尻市	つくば市	豊中市
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市
未既婚		既婚	既婚	既婚	既婚
本人職業		正社員（医療業・事務）	専業主婦	正社員（総合商社・事務）	パート（大学・技術職）
同居家族		夫（33）、長女（4）、次女（0）	夫（31）	夫（33）	夫（38）、長女（4）
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		兵庫県	山梨県	宮城県	富山県
地方→東京	移住年齢	22歳	22歳	22歳	27歳
	移住年度	2010年	2012年	2016年	2011年
東京→地方	移住年齢	24歳	23歳	24歳	29歳
	移住年度	2012年	2013年	2018年	2014年
現住所は実家と同じ市町村か		Jターン者	Jターン者	Jターン者	Jターン者
移住前後の子供有無		移住前子なし 移住後子あり	子なし	子なし	移住前子なし 移住後子あり
地方での生活に満足しているか		1.満足している	2.やや満足している	2.やや満足している	1.満足している
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		08.転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ	08.転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ	01.将来のライフプランを考えたことがきっかけ	08.転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		首都圏での生活に疲れたこと、関西に戻りたかった	両親と一緒に暮らすため（出身は山梨、移住は長野（両親もたまたまその時長野だったため））	結婚	夫の転職
満足度（東京圏→地方）		東京圏：4点 ⇒地方：9点	東京圏：5点 ⇒地方：9点	東京圏：4点 ⇒地方：7点	東京圏：8点 ⇒地方：8点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.7 Iターン×男性×都道府県庁所在地在住

		A	B	C	D
性別		男性	男性	男性	男性
年齢		34歳	32歳	26歳	27歳
居住都道府県		沖縄県	山形県	大分県	富山県
居住地域FA（市区町村名）		那覇市	山形市	大分市	富山市
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地
未既婚		未婚	未婚	未婚	既婚
本人職業		無職	正社員 教育業・技術職	大学4年生	正社員 服飾部品製造業・事務
同居家族		一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし	妻（27）
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		埼玉県	埼玉県	神奈川県	千葉県
東京→地方	移住年齢	33歳	24歳	24歳	24歳
	移住年度	2020年	2012年	2018年	2017年
移住前後の子供有無		子なし	子なし	子なし	子なし
地方での生活に満足しているか		2.やや満足している	2.やや満足している	2.やや満足している	1.満足している
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		11.独立して事業を行いたいと考えたこと（例：起業、フリーランス、芸術）がきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ	06.進学先・職業訓練先の検討がきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		立ち上げたい事業を進めていく場所が、ベストだと判断したから。具体的に言えば、年間を通して気温が高い。	内定をもらった東京本社の会社に就職するよりもリスクは高かったが、その後のキャリアアップを目指すための修行の場としてはふさわしいと思った。	大学への編入学試験に受かった中から自分に合いそうな大学を選んだ結果、地方に住むことになった。	もともと東京圏と言えど利便性がそこまで高くなかったこともあり、抵抗はなかった。年に数回訪れていた場所ということもあり、就職を機に暮らすのも良いと感じたため。東京圏の人の多さに辟易していたこともある。
満足度（東京圏→地方）		東京圏：8点 ⇒地方：5点	東京圏：7～8点 ⇒地方：7点	東京圏：4点 ⇒地方：7点	東京圏：7点 ⇒地方：8点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.8 Iターン×女性×都道府県庁所在地在住

		A	B	C	D
性別		女性	女性	女性	女性
年齢		24歳	25歳	26歳	30歳
居住都道府県		栃木県	愛知県	北海道	京都府
居住地域FA（市区町村名）		宇都宮市	名古屋市	札幌市	京都市中京区
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地	道府県庁所在地
未婚		未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		アルバイト 飲食業・接客	正社員 医療業・営業	大学院生博士課程1年	正社員 精密機器製造 ・研究開発職
同居家族		婚約者（25）	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		東京都	東京都	神奈川県	神奈川県
東京→地方	移住年齢	22歳	23歳	18歳	28歳
	移住年度	2018年	2018年	2013年	2018年
移住前後の子供有無		子なし	子なし	子なし	子なし
地方での生活に満足しているか		2.やや満足している	2.やや満足している	1.満足している	1.満足している
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		08.転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ	06.進学先・職業訓練先の検討がきっかけ	01.将来のライフプランを考えたことがきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		たまたまその地方に自分のやりたいことが見つけれ る職場があったから	全国転勤の仕事のため、どこに行くかわからなかつ た。なお、自分自身の生活レベルの向上や自立 力を養うために東京以外への配属を希望した	「地方に住むこと」が目的だったのではなく、「志 望する分野が学べる大学に進学すること」が目 的でした。そのため、志望分野が学べる大学を 立地を問わず第一志望から順に受験しました。 その結果、第1志望には落ちたものの、第2志 望だった北海道の大学に合格したため、受験ま で一度も北海道に来たこともありませんでしたが、 北海道に住んでその大学に通うことにしました。 合格が分かったのが3月半ばであり、時間もな かったため、ほとんど下調べもせず引越しまし た。住んでみるととても快適で、今の街が好き になりました。	就職先が京都の会社だったこと。
満足度（東京圏→地方）		東京圏：5点 ⇒地方：6点（那須は8点）	東京圏：7点 ⇒地方：8点	東京圏：7点 ⇒地方：9点	東京圏：9点 ⇒地方：9点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.9 Iターン×男性×その他市町村在住

		A	B	C	D
性別		男性	男性	男性	男性
年齢		27歳	28歳	25歳	23歳
居住都道府県		茨城県	北海道	石川県	愛知県
居住地域FA（市区町村名）		守谷市	帯広市	野々市市	刈谷市
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市
未既婚		未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		正社員 精密機器製造業・技術	正社員 運送業・運転手	正社員 薬品製造業・開発	正社員 電気回線・技術
同居家族		婚約者（25）	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		東京都	千葉県	東京都	神奈川県
東京→地方	移住年齢	25歳	25歳	24歳	22歳
	移住年度	2017年	2018年	2019年	2020年
移住前後の子供有無		子なし	子なし	子なし	子なし
地方での生活に満足しているか		1.満足している	1.満足している	1.満足している	2.やや満足している
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		07.就職活動（新卒）がきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ	07.就職活動（新卒）がきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		子供の頃から、就職した際には親元を離れて自立して生活することを、両親と私自身ともに望んでいたこと	希望の就職業界で内定が得られたのがここだったから	内定先が地方だったから。	就職先が実家から通勤困難なため
満足度（東京圏→地方）		東京圏：7点 ⇒地方：9点	東京圏：8点 ⇒地方：8点	東京圏：6点 ⇒地方：7点	東京圏：7点 ⇒地方：7点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

## 4.2.2.地方移住者の意識調査\_FGI調査\_調査対象者の属性・プロフィール

### Gr.10 Iターン×女性×その他市町村在住

		A	B	C	D
性別		女性	女性	女性	女性
年齢		29歳	21歳	25歳	25歳
居住都道府県		山梨県	青森県	広島県	福岡県
居住地FA（市区町村名）		甲斐市	弘前市	福山市	太宰府市
居住地詳細（県庁所在地/その他市町村）		（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市	（都道府県庁所在地以外の）市
未既婚		既婚	未婚	未婚	未婚
本人職業		専業主婦	大学生 （イベントの案内のアルバイトをしている）	無職	自由業・プログラマー
同居家族		夫（30）	一人暮らし	一人暮らし	一人暮らし
出身地（生まれてから18歳までの間で最も長く暮らした地域）		神奈川県	千葉県	東京都	埼玉県
東京→地方	移住年齢	22歳	18歳	22歳	22歳
	移住年度	2013年	2017年	2017年	2017年
移住前後の子供有無		子なし	子なし	子なし	子なし
地方での生活に満足しているか		2.やや満足している	2.やや満足している	1.満足している	1.満足している
東京圏から地方に移り住むことを意識したきっかけ		07.就職活動（新卒）がきっかけ	06.進学先・職業訓練先の検討がきっかけ	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ
地方に住む決断の決め手となったきっかけ		就職氷河期で安定した企業への就職が決まったこと、実家を出て一人暮らししたかったので、実家から通えない地方（でも帰省はしやすい距離）なら不安も少なくてよいと思った。	大学が地方にあったからです。最初は千葉の地元を離れるのが悲しかったですが、今ではそれも薄まり、楽しく過ごしています。	実家にいたくない理由があり、どうしようかと悩んでいたところ、地方の知人が間借りさせてくれると言った。そのため、そこに移り住むことを決めた。	都心の人の多さと窮屈さが嫌いなのと、母親および家族と同じ空間にいるのが大変苦痛だった。就活しても誰にも必要とされない役立たずだとわかったので、疲れて死のうと思っていた。就職以外の道を検索して移住を知り、死ぬ前に穏やかそうな地方に一人で引っ越してみた。
満足度（東京圏→地方）		東京圏：7点 ⇒地方：7点	東京圏：8点 ⇒地方：7点	東京圏：4点 ⇒地方：6点	東京圏：1点 ⇒地方：9点

※各Gr.の詳細発言録については、別添参考資料を参照。

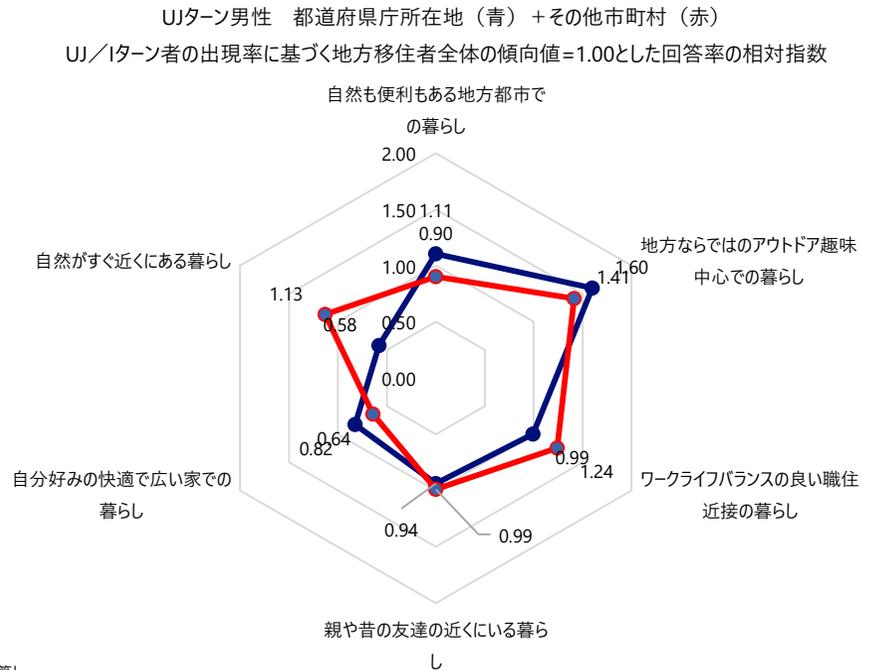
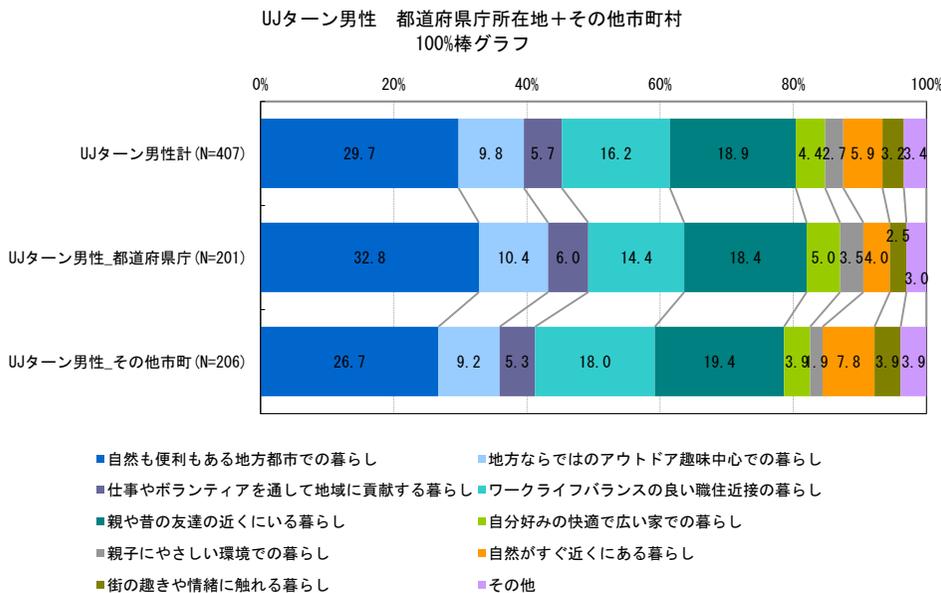
## 4.3.1.地方移住者（UJターン者）の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要 \_属性別の誘因カテゴリーの傾向（Summary）

---

### 4.3.1.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_属性別の誘因カテゴリーの傾向 (Summary)

## 誘因カテゴリーの傾向分析\_UJターン×男性 (Gr.1、Gr.4)

- UJターン男性では、全体の傾向と同じく、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(29.7%)、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(18.9%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(16.2%)等が上位に挙がる。「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」(9.8%)は他セグメントと比べ高い。
  - UJターン男性 (都道府県庁所在地)では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(32.8%)が最も高く、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(18.4%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(14.4%)と続く。UJターン男性 (その他市町村)では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(26.7%)が最も高く、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(19.4%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(18.0%)と続く。
  - 地方移住者全体の傾向を1.00とした相対指数では、「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」(都道府県庁所在地：1.60、その他市町村：1.41)が高い。また、UJターン男性 (都道府県庁所在地)では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(1.11)が、UJターン男性 (その他市町村)では、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(1.24)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(1.13)がそれぞれ高い。
- FGI調査においては、下記のような意見が挙がっている。
  - (移住先である札幌市は) 街が集約されてすごくコンパクトで、自然も近くにありつつ、家から街中まで自転車で15分あれば行ける。自然も便利も両方あるのが札幌。(Gr.1\_B)
  - ワークライフバランスのライフが劇的に改善された。今は歩いて10-15分のところに勤めていて、博多の都市部に家を借りているが、東京に住んでいた家より安い。通勤が短くなった分資格取得の勉強、テレビを見るなどダラダラしたりぼーっとできる時間が増えた。寝る時間も単純に増えた。自分の中で余裕が生まれてくる感じがあった。(Gr.1\_D)
  - 地元愛はそんなに強くないが、親と近いことのありがたさはあるので、「やっぱり地元が好き！ (親や昔の友達の近くにいる暮らし) も気持ちに近いところがある。」(Gr.4\_D)

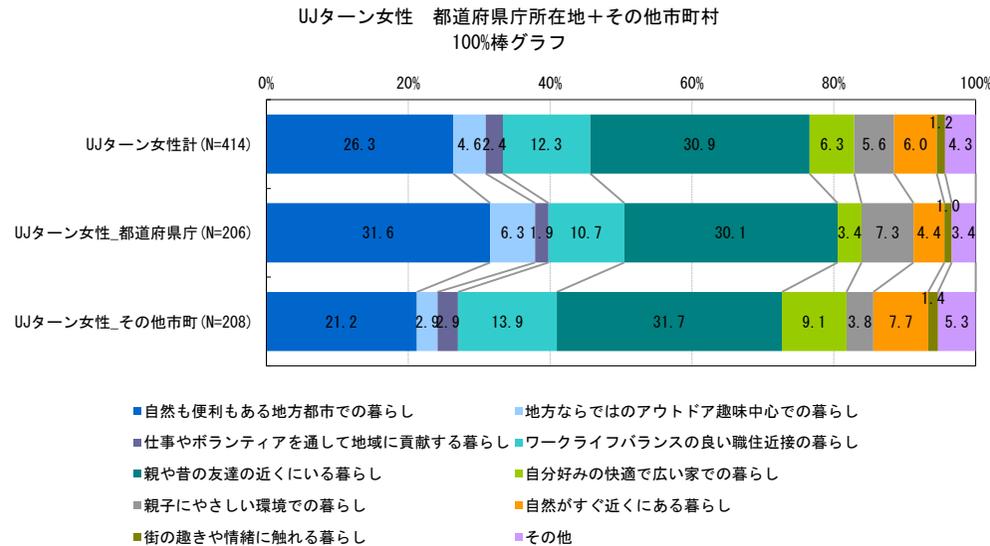


※相対指数のレーダーチャートについては、「UJ/1ターンの出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」における回答率が5%超の選択肢について分析  
 ※「UJ/1ターンの出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」は、既存統計より地方移住者全体における (東京圏からの) UJターン者：1ターンの構成比を試算し、本調査の標本の回答率にウェイトバックして算出した。(P.246を参照。)

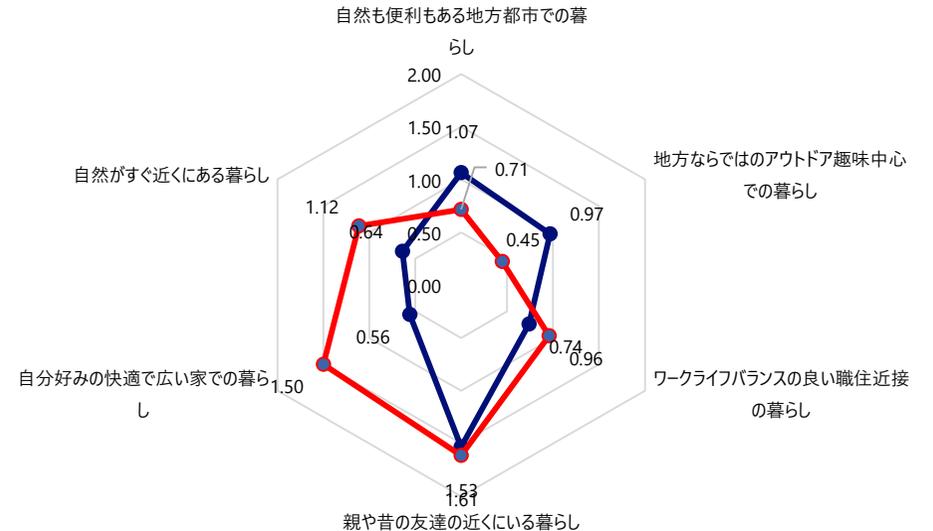
### 4.3.1.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_属性別の誘因カテゴリーの傾向 (Summary)

## 誘因カテゴリーの傾向分析\_UJターン×女性 (Gr.2、Gr.3、Gr.5、Gr.6)

- UJターン女性では、全体の傾向と同じく、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(26.3%)、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(30.9%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(12.3%)等が上位に挙がる。とりわけ、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(30.9%)は他セグメントと比べ顕著に高い。
  - UJターン女性 (都道府県庁所在地)では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(31.6%)が最も高く、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(30.1%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(10.7%)と続く。UJターン女性 (その他市町村)では、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(31.7%) が最も高く、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(21.2%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(13.9%)と続く。
  - 地方移住者全体の傾向を1.00とした相対指数では、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(都道府県庁所在地：1.53、その他市町村：1.61) が顕著に高い。また、UJターン女性 (その他市町村)では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(0.71) や「地方ならではのアウトドア趣味中心の暮らし」(0.45) が低く、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(1.50) が高い。
- FGI調査においては、下記のような意見が挙がっている。
  - 話し方や間合い、雰囲気、耳から入ってくる感じが違う。慣れ親しんだ地元という感覚。住んでみて、大阪、京都にしかないものが多いと感じた。関西に帰ると、古いものが多いので、その古さが自分には性に合っていると思い関西への転勤を希望した。(Gr.2\_D)
  - 一番強いのは家。東京で住んでいた家は1Kで、コンロが1口しかなく、調理台もなかったので、後ろにある洗濯機の上になな板を置いて料理をしていた。その生活に耐えられなくて、今の家はキッチン重視して決め、4~5倍ぐらいの広さになった。(Gr.2\_C)
  - 「やっぱり地元が好き！」の“親や昔の地元の友達の近くにいる暮らし”というのが大きなきっかけになった。(Gr.6\_B)



UJターン女性 都道府県庁所在地 (青) + その他市町村 (赤)  
UJ/ターナー者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値=1.00とした回答率の相対指数



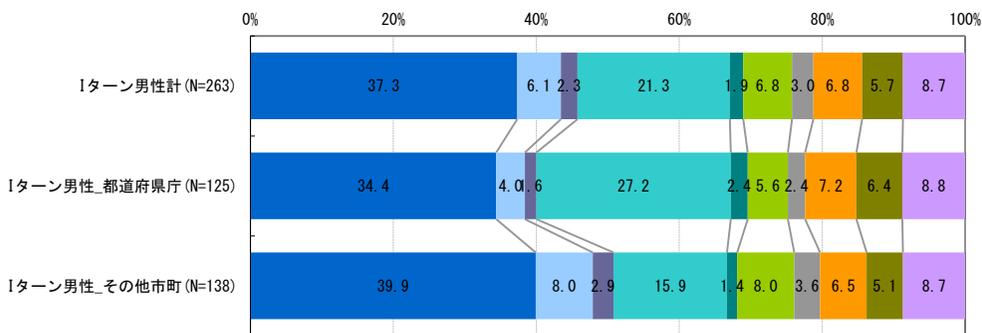
※相対指数のレーダーチャートについては、「UJ/ターナー者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」における回答率が5%超の選択肢について分析  
※「UJ/ターナー者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」は、既存統計より地方移住者全体における（東京圏からの）UJターン者：ターナー者の構成比を試算し、本調査の標本の回答率にウェイトバックして算出した。（P.246を参照。）

### 4.3.1.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_属性別の誘因カテゴリーの傾向 (Summary)

## 誘因カテゴリーの傾向分析\_ターン×男性 (Gr.7、Gr.9)

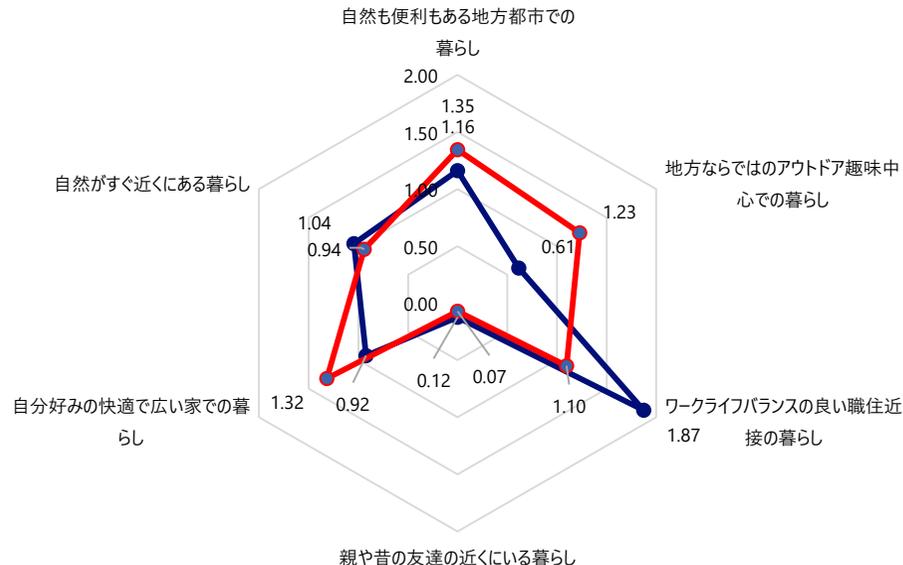
- Iターン男性では、全体の傾向と同じく、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(37.3%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(21.3%)等が上位に挙がる一方で、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(1.9%)については顕著に低い。
  - Iターン男性 (都道府県庁所在地)では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(34.4%)が最も高く、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(27.2%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(7.2%)と続く。Iターン男性 (その他市町村)では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(39.9%)が最も高く、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(15.9%)、「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」(8.0%)、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(8.0%)と続く。
  - 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、Iターン男性 (都道府県庁所在地)において、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(1.87)が顕著に高い。また、Iターン男性 (その他市町村)においては、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(1.35)、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(1.32)、「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」(1.23)が比較的高い。一方で、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(都道府県庁所在地：0.12、その他市町村：0.07)は顕著に低い。
- FGI調査においては、下記のような意見が挙がっている。
  - 半年ほど石垣島でホテル派遣で働いてみて、やはり海がある生活がいいと思った。密集していないし、自然も多いし、沖縄がいいかなと思って今年から本島にきた。(Gr.7\_A)
  - 神奈川や東京はコンクリートが熱を持ち暑かったが、今は田んぼや自然が豊かで、去年はエアコンなしで扇風機だけで過ごせた。(Gr.7\_C)
  - 近くにスーパーがあると生活の便利もあるし、気軽に都会に出られる利便性、アクセスの良さも欲しい。でも公園とかも好きなので緑のあるところも欲しいので、結構じっくりくる。(Gr.9\_A)

Iターン男性 都道府県庁所在地+その他市町村  
100%棒グラフ



- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の働きや情緒に触れる暮らし
- その他

Iターン男性 都道府県庁所在地 (青) + その他市町村 (赤)  
UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値=1.00とした回答率の相対指数



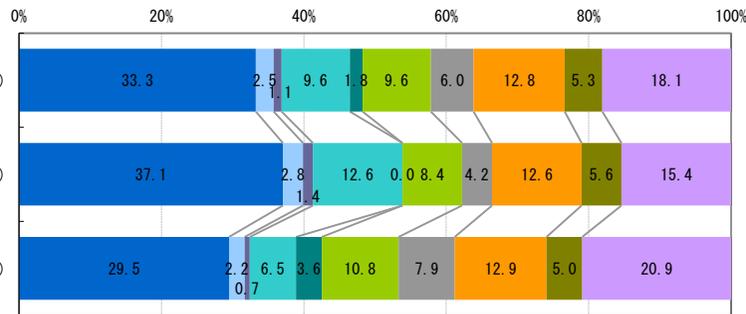
※相対指数のレーダーチャートについては、「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」における回答率が5%超の選択肢について分析  
 ※「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」は、既存統計より地方移住者全体における（東京圏からの）UJターン者：Iターン者の構成比を試算し、本調査の標本の回答率にウェイトバックして算出した。（P.246を参照。）

### 4.3.1.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_属性別の誘因カテゴリーの傾向 (Summary)

## 誘因カテゴリーの傾向分析\_ターン×女性 (Gr.8、Gr.10)

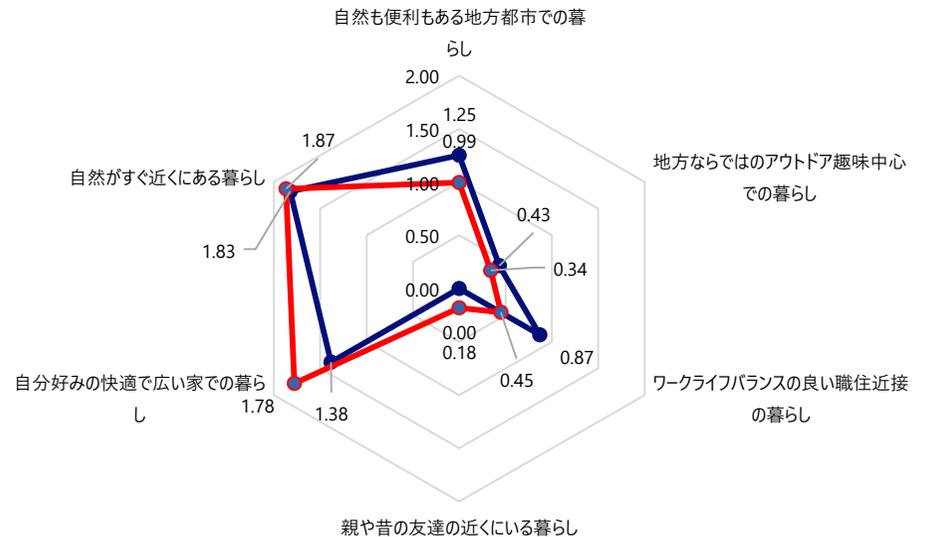
- ターン女性では、全体の傾向と同じく、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(33.3%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(9.6%)等が上位に挙がる一方で、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(1.8%)については顕著に低い。また、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(9.6%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(12.8%)が他セグメントと比べ高い。
  - ターン女性 (都道府県庁所在地)では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(37.1%)が最も高く、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(12.6%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(12.6%)と続く。ターン女性 (その他市町村)では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(29.5%)が最も高く、「自然がすぐ近くにある暮らし」(12.9%)、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(10.8%)と続く。
  - 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(都道府県庁所在地：1.38、その他市町村：1.78)や「自然がすぐ近くにある暮らし」(都道府県庁所在地：1.83、その他市町村：1.87)で高い。一方で、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(都道府県庁所在地：0.00、その他市町村：0.18)は顕著に低い。
- FGI調査においては、下記のような意見が挙がっている。
  - そこまでアウトドアなタイプではないが、大学の敷地が広大すぎて地元の人に公園だと思われているぐらいで、小川や森がある。大学に行っているだけでも今の時期は新緑がきれいだなと思う。関東にずっといたらできなかった体験だと思う。(Gr.8\_C)
  - 住宅環境は2LDKでトイレ風呂別対面キッチン、駐車場2台付、新築で駅から徒歩10分で8万円。この辺では高い方だが、東京に比べると全然安い。(Gr.10\_A)
  - あまり東京にこだわる必要がないと感じていて、ここ数年ネット通販も進化しているので物流面の不便さが減って、山梨も移住して店をやる人と古民家カフェみたいなものが増えている。時代の流行りもあるが、前ほどの不便さ・つまらなさがなくなってきていると思う。そういう情報はSNSで個々に発信しているから情報が得やすいと思う。(Gr.10\_A)

1ターン女性 都道府県庁所在地+その他市町村  
100%棒グラフ



- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

1ターン女性 都道府県庁所在地 (青) + その他市町村 (赤)  
UJ/1ターンの出現率に基づく地方移住者全体の傾向値=1.00とした回答率の相対指数



※相対指数のレーダーチャートについては、「UJ/1ターンの出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」における回答率が5%超の選択肢について分析  
 ※「UJ/1ターンの出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」は、既存統計より地方移住者全体における（東京圏からの）UJターン者：1ターンの構成比を試算し、本調査の標本の回答率にウェイトバックして算出した。（P.246を参照。）

### 4.3.1.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_属性別の誘因カテゴリーの傾向 (Summary)

#### 誘因カテゴリーの傾向分析\_属性別の上位回答

対象者区分			誘因カテゴリー(%)				
UIターン区分	居住地区分	性別	1位	2位	3位	4位	5位
UIターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(32.8)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(18.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(14.4)	地方ならではのアウトドア趣味中心で暮らし(10.4)	仕事やボランティアを通じて地域に貢献する暮らし(6.0)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(31.6)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(30.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(10.7)	親子にやさしい環境での暮らし(7.3)	地方ならではのアウトドア趣味中心で暮らし(6.3)
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(26.7)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(19.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(18.0)	地方ならではのアウトドア趣味中心で暮らし(9.2)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.8)
		女性	親や昔の友達の近くにいる暮らし(31.7)	自然も便利もある地方都市での暮らし(21.2)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(13.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(9.1)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.7)
Iターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(34.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(27.2)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.2)	街の趣きや情緒に触れる暮らし(6.4)	自分好みの快適で広い家での暮らし(5.6)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(37.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(12.6)	自然がすぐ近くにある暮らし(12.6)	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.4)	街の趣きや情緒に触れる暮らし(5.6)
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(39.9)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(15.9)	地方ならではのアウトドア趣味中心で暮らし(8.0)※	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.0)※	自然がすぐ近くにある暮らし(6.5)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(29.5)	自然がすぐ近くにある暮らし(12.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(10.8)	親子にやさしい環境での暮らし(7.9)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(6.5)

※同率回答は選択肢番号が小さいものを上位に記載

### 4.3.1.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_属性別の誘因カテゴリーの傾向 (Summary)

#### 誘因カテゴリーの傾向分析\_属性別の上位回答

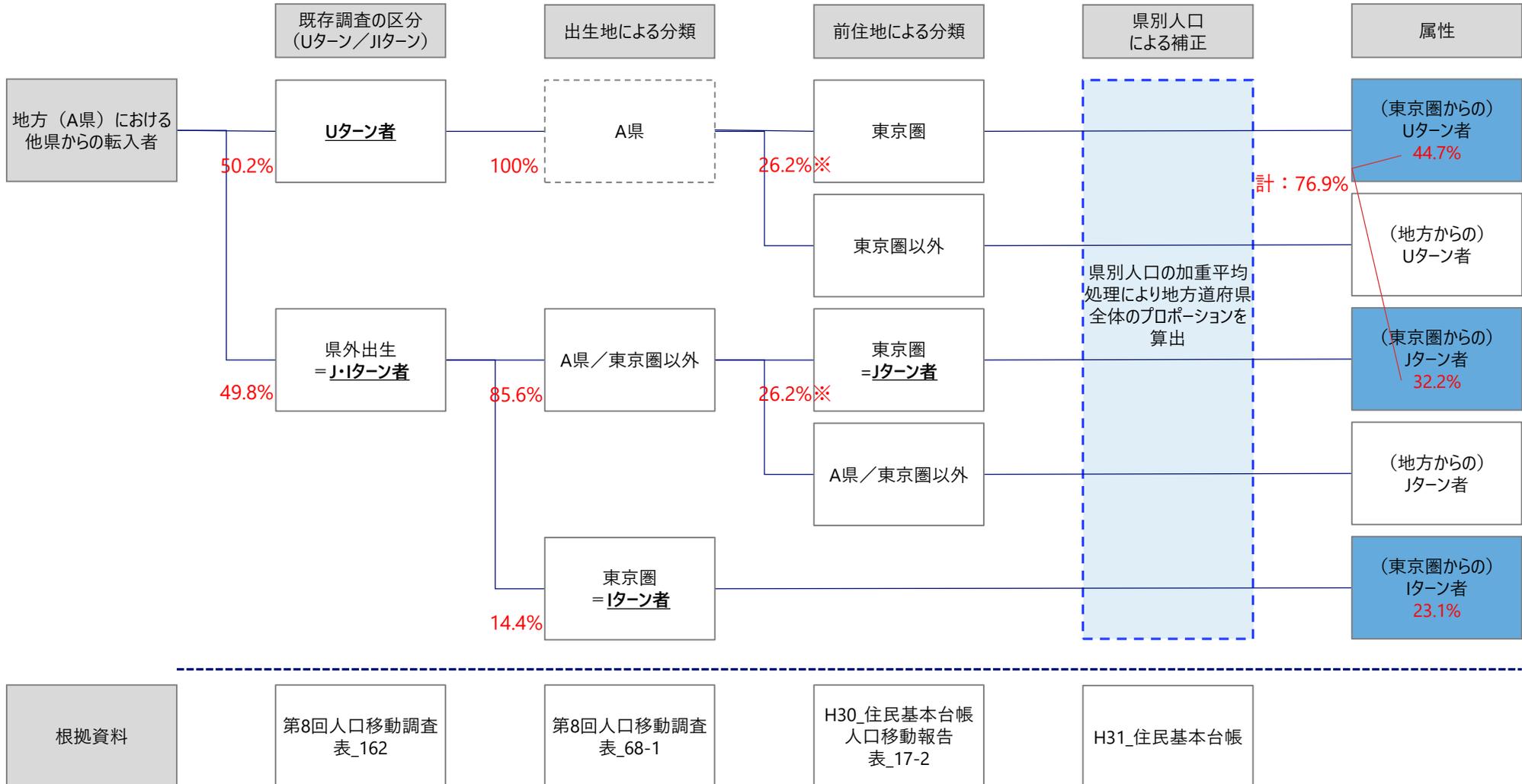
(「趣味に生きたい」=「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」+「街の趣きや情緒に触れる暮らし」)

対象者区分			誘因カテゴリー(%)				
UIターン区分	居住地区分	性別	1位	2位	3位	4位	5位
UIターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(32.8)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(18.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(14.4)	「趣味に生きたい」カテゴリー(12.9)	仕事やボランティアを通じて地域に貢献する暮らし(6.0)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(31.6)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(30.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(10.7)	「趣味に生きたい」カテゴリー(7.3)※	親子にやさしい環境での暮らし(7.3)※
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(26.7)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(19.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(18.0)	「趣味に生きたい」カテゴリー(13.1)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.8)
		女性	親や昔の友達の近くにいる暮らし(31.7)	自然も便利もある地方都市での暮らし(21.2)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(13.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(9.1)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.7)
Iターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(34.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(27.2)	「趣味に生きたい」カテゴリー(10.4)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.2)	自分好みの快適で広い家での暮らし(5.6)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(37.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(12.6)※	自然がすぐ近くにある暮らし(12.6)※	「趣味に生きたい」カテゴリー(8.4)※	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.4)※
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(39.9)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(15.9)	「趣味に生きたい」カテゴリー(13.1)	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.0)	自然がすぐ近くにある暮らし(6.5)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(29.5)	自然がすぐ近くにある暮らし(12.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(10.8)	親子にやさしい環境での暮らし(7.9)	「趣味に生きたい」カテゴリー(7.2)

※同率回答は選択肢番号が小さいものを上位に記載

### 4.3.1.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_属性別の誘因カテゴリーの傾向 (Summary)

(ご参考) 既存統計より地方移住者全体における(東京圏からの)Uターン者:Iターン者の構成比を試算。  
 P 240~243に掲載した相対指数は、試算から導出された構成比に基づき、標本の回答率をウェイトバックすることで算出した地方移住者全体の回答傾向を基準値として採用。



※本試算は、Uターン者とIターン者における前住地が東京圏である割合が等しいという仮定に基づく。

## 4.3.2.地方移住者（UJIターン者）の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_ 各属性のFGI調査結果概要

---

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.1 Uターン×男性×都道府県庁所在地在住①

#### (1) 東京圏に転入した理由・きっかけ<Uターン者>

##### 東京圏に転入したきっかけ

「大学進学のため」2名、「就職のため」1名、「会社の異動（希望を出した）」1名。

##### 東京圏に転入した理由／当時の意向

東京のような大きい都市への憧れや、挑戦したい気持ちから東京圏に転入した。

- 都会での暮らしにすごい憧れを持っていて、大学行くならせっかくだし東京みたいな大きい都市で、ちょっと華やかな学生ライフを過ごしてみたいというのがあった。(A)
- ビジネスの幅を広げるといふか、大きなビジネスができるのは東京が一番なので。20代後半から30代は脂の乗った時期なので、東京で仕事をしてみたいとずっと思っていた。(C)

	A	B	C	D
年齢	28歳	36歳	35歳	27歳
居住地	岩手県盛岡市	北海道札幌市	大阪府大阪市北区	福岡県福岡市博多区
未婚婚	未婚	既婚	既婚	未婚
本人職業	正社員 福祉業・介護士	正社員 地方自治体・一般事務	正社員 金融業・営業	正社員 情報処理業・システムエンジニア
現住所は実家と同じ市町村か	岩手県 Uターン	北海道 Jターン	大阪府 Jターン	長崎県 Jターン
移り住むことを意識したきっかけ	07.就職活動（新卒）	01.将来のライフプランを考えた	08.転職・求職活動（新卒以外）	01.将来のライフプランを考えた

#### (2) 地方移住に関心を持った理由・きっかけ

##### 地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

「ワークライフバランスを整えたかった」、「東京ほど混雑しておらずコンパクトにまとまっている点で便利」という気持ちから地方移住を考えた。

- 「地元が好き!」、盛岡の中心地であって自転車でも10分も漕げば大きな商業施設に行ける利便性、コンパクトにまとまっていて便利な地元が住み慣れていることもあって好き。(A)
- 「自然も便利も両方欲しい!」、街が集約されてすごくコンパクトで、自然も近くにありつつ、家から街中まで自転車で15分あれば行ける。自然も便利も両方あるのが札幌。(B)
- 「自分の時間をもっと持ちたい!」、ワークライフバランスを充実させたかった。(C)
- 「自分の時間をもっと持ちたい!」、仕事重視で上京したが、実際住んでみて、やはりライフの充実があってこそワークもメリハリ持てできるんだと気づくことができた。移住して自分の時間を持ったことで、仕事と遊びをうまく両立して両輪で楽しく生きることができている。そこが今充実している理由。(D)

##### 地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

東京にビジネスチャンスなどを期待していたものの、物価や住宅価格の高さから永住には向かないと判断。東京圏に災害リスクを感じたことも地方暮らしを検討する要因となった。

- 東京は家もすごく高いので、相当稼いでいる人じゃないと快適な暮らしは難しいのかなとだんだん痛感してきた。災害リスクに関しては、スーパーで商品がなくなるとか電車が止まり帰宅者で道路が埋め尽くされるのを体験して、地震の被害ではなく生活に対する二次災害、三次災害がイヤだとすごく思った。帰るなら若いうちに帰った方がスマートな生活ができるし、リタイヤしてからは大変。子育てで東京は待機児童の問題もあるので、札幌でできるならいいかなと考えた。(B)
- 長時間働くのが当たり前の風土に疲れたのと、地価が高い東京で不動産を購入するのはなかなかしんどいと思った。30後半になってそろそろ住居を構えたいと思ったときに、東京を出るのもアリだなと思った。災害リスクは、住んでいた江戸川区が埋立地で海拔0メートルで直下型地震が来たら液化化するし津波も来ると言われていたので気にしていた。首都直下型地震が起きたら帰宅難民になるのだろうと思ったし、富士山の噴火もあって、首都圏は災害のリスクがすごく多いと思っていた。(C)

##### 地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

周囲（家族やパートナーと同居している場合は、パートナー）に相談した上で移住を決断した。

- 一押しというのはなかったが、同じように前の職場を転職した同期に相談し、経済面で天秤にかけてもやっていけそうと判断して転職を決めた。(C)
- 背中を押したのは自分の中で一番大事な家族やパートナーで、自分が思っている以上に明るく「大丈夫」と言ってくれたことがきっかけになった。ちょっと仕事や遊びが少なくなっても、家族やパートナーと楽しく過ごせる時間があつた方がいいと思った。(D)

## Gr.1 Uターン×男性×都道府県庁所在地在住②

### (3) 地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

混雑がなく、家の値段も安く、職住接近が実現したためワークライフバランスが改善された。

- 物価が安いし、去年家を買ったのだが価格は東京より全然安い。人混みも全然ない。(B)
- ワークライフバランスのライフが劇的に改善された。今は歩いて10-15分のところに勤めていて、博多の都市部に家を借りているが、東京に住んでいた家より安い。通勤が短くなった分資格取得の勉強、テレビを見るなどダラダラしたりぼーっとできる時間が増えた。寝る時間も単純に増えた。自分の中で余裕が生まれてくる感じがあった。(D)

#### 地方暮らしの不満点

東京は色々な人が集まってくるという点で刺激があっよかったが、地方は新しい出会いや刺激が少ない。

- 東京と比べると人との出会いやチャンス、あと歴史が全然ない。(B)
- 東京は仕事の面で同僚も優秀な人が集まってくるので、すごく刺激を受けていた。(D)

#### 今後の居住意向／市町村部への移住意向

全員が地方の中でも都会エリアを希望。居住経験のある場所であれば様子が分かるため候補となる。

- (より郊外部は) 仕事の選択肢も少ないし、芸能人のライブ、買い物環境、予備校など子供の学習環境を考えても札幌が一番。道内でも札幌以外にはいい店がほとんどない。映画が好きなのだが、映画館もないくらい。日高とかの田舎だったら、妻について行かなかったと言われた。(B)
- 福岡だったら選んでいたかもしれない(大阪市に移住)。妻が福岡出身で自分も8年間住んでいたのに、福岡で転職するのは今でもアリ。ただ住んだことのない町だったらあまり進んで行こうとは思わない。基盤がないので、馴染めるかわからない。(C)

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

東京圏への移住意向がない点に変化はない。

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	4	8
B	8	9
C	6 ※1	8～9※2
D	3	6
平均	5.3	7.9

※1  
「東京はビジネスとプライベートで違う。ビジネスは3、プライベートは8」と回答。平均をとり6とした。

※2  
「8～9くらい」と回答。平均をとり8.5として計算した。

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.1 UJターン×男性×都道府県庁所在地在住③

#### (4) 地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦勞した点

地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦勞

以前に住んでいたり、経由地をよく通っていた場所であるため、不安は感じていなかった。

- 特になかった。1回住んでいたというのがあるから、わからないことはあまりなかった。(B)
- 特に心配はなかった。福岡に住んだことはなかったが、ちよくちよく遊びには行っていた。大学時代、福岡は帰省時の経由地だったので、雰囲気がいいのは掴めていた。住んだことのないところに比べれば安心感はあった。(D)

地方での仕事／住居の決め方

住んだことのある土地や、ある程度知っている土地で働きたい・住みたいと考えていた。

- 日高は父が住んでいるのでちからは考えたが、普通の会社勤めの仕事がないし、公務員を受験できる年齢も超えていた。年齢制限で受けられる所で、なおかつ住んだことがあって、公務員としてもきちんと面白い仕事ができるところがいいと思った。仕事は每晚ネットで探した。今の状況を調べていたら、市役所の試験制度が変わり、年齢制限がなくなっていた。そうすると逆に若い自分が枠に滑り込めるかと思って、勉強して受けた。説明会は東京でもしていたが、今の札幌がどう変わっているのかわないと面接でも話せないと思ったので、その度に1泊2日で帰ったりした。(B)
- 最初は都内での転職も考えていて東京を出ようとは思っていなかったが、転職活動でいくつか合格をもらって大阪の勤務地も選べると聞いたときに、その方がいいと思い今の会社を選んだ。ただ妻が福岡出身で自分も8年間住んでいたため、福岡へ転職するのは今でもアリ。ただ住んだことのない街だったらあまり進んで行こうとは思わない。(C)

#### (5) 移住喚起に向けたアドバイス

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

今の地方暮らしに満足しており、考えているのなら準備を始めるべきという意見がみられた。

- 地元が好きなら来て暮らしてみたらいいんじゃない？と言いたい。(A)
- 地方移住や転職を考えているのであれば、心がそっちを向いているのだと思うので始めるときだと思う。実際に自分がそうで、そう思っているときに妻と出会ってトントン拍子に話が進んだ。最後の一押しは仕事が大きく、こっちでの仕事が決まって、妻も「それだったら安心して移住と転職ができるね」と言ってくれたので来られた。とにかく考え始めたら準備をした方がいいと思う。(B)

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

地域差があるものの、地方の中でも都市部は感染が拡大していることもあり気にしていないようにみられた。

- (移住を控えてほしいという雰囲気) 岩手はある。関東圏の人はコロナを持っているんじゃないかという偏見を感じる。(A)
- 地元(北海道の日高)はそんな雰囲気でもないが、東京に住む弟は帰省して60歳過ぎの父親に無症状でうつしたらイヤだということで自分から帰省をやめていた。移住するのは全然ウェルカムだと思う。(B)
- 去年の8月に福岡に来たが、正直言うと早いうちに移住して良かったと思う。ただ博多ではもう流行ってしまっているので、現状特段差別するというものはない。地方に行く高齢者が増えるので、田舎に行くほど「来ないで」というのは多いのではないと思う。(D)

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.2 Uターン×女性（未婚）×都道府県庁所在地在住①

#### (1) 東京圏に転入した理由・きっかけ<Uターン者>

##### 東京圏に転入したきっかけ

「会社の異動（会社都合）のため」2名、「就職（新卒）のため」1名、  
「会社の異動（希望を出した）」1名

##### 東京圏に転入した理由／当時の意向

自ら希望して東京へ行ったのは1名（D）のみ。他3名は会社都合での東京圏移住だったため、人の多さから行きたくないと考えていた。

- やりたかった新規事業の仕事は最初は面白かったしプライベートで言うと東京は見たことがないものが多かったし、職種柄平日休みで人混みは通勤ぐらいで普段は買い物も観光もできて楽しかった。（D）
- 東京に行こうと思って行ったわけではなく、関西近辺だと思っていた。東京は人が多い無理と思っていたので行きたくはなかったが、全国に工場や開発拠点を持っていて、配属された事業部門の拠点が大阪と横浜にありどちらかに行くという感じで、自分的にはハズレの横浜になった。最初はそこまで嫌ではなかったが、通勤は人が多いし、休日もどこに行っても人が多くて出かける気にもならず嫌になった。（B）

	A	B	C	D
年齢	37歳	33歳	25歳	34歳
居住地	愛知県名古屋	奈良県奈良市	北海道札幌市	大阪府大阪市淀川区
未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正社員 内装業・技術職	正社員 ITソフトウェア・エンジニア	パート ITサービス・テスター	正社員 旅行業・企画販売
現住所は実家と同じ市町村か	愛知県 Uターン	奈良県 Uターン	北海道 Jターン	京都府 Jターン
移り住むことを意識したきっかけ	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	03.旅行

#### (2) 地方移住に関心を持った理由・きっかけ

##### 地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

東京に出たことにより地元の良さに気づき、戻りたいと感じるようになっていた。

- 「やっぱり地元が好き！」、仕事に疲れ、実家に戻る一択でしか考えていなかったから。（A）
- 「自然も便利も両方欲しい！」、ネットがしっかり通っているところという意味での良さ。（B）
- 「広くて快適な家に住みたい！」「やっぱり地元が好き！」「自然も便利も両方欲しい！」の3つを選択。一番強いのは家。東京で住んでいた家は1Kで、コンロが1口しかなく、調理台もなかった。後ろにある洗濯機の上にまな板を置いて料理をしていた。その生活に耐えられなくて、今の家はキッチンを重視して決め、4〜5倍ぐらいの広さになった。（C）
- 「自然も便利も両方欲しい！」、「やっぱり地元が好き！」、「歴史・文化を感じたい！」の3つを選択。話し方や間合い、雰囲気、耳から入ってくる感じが違う。慣れ親しんだ地元という感覚。住んでみて、大阪、京都にしかないものが多いと感じた。関西に帰ると、古いものが多いので、その古さが自分には性に合っていると思い関西への転勤を希望した。（D）

##### 地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

人が多すぎることに疲弊してしまった人と、東京に飽きてしまった人がみられた。災害リスクに関しては地震が多い印象があった人もいた。

- 地元は田舎だし、札幌もそこまで人がいないので、あそこまで過密した場所に行くのは人生で初めてで、毎日やっていたら耐えられなかった。仕事で疲れて適当なご飯を食べることも多かったし、人に揉まれ、仕事に揉まれて、1人でポツンと暮らすのは楽しいのかな？と帰省したときに思い、それなら一人暮らしでも美味しいものが食べられる地元で楽しく暮らした方がいいかも、帰りたいかもという気持ちになった。（C）
- 東京は大きいビルがすぐに見えるが、どの駅にもあるようなお店しか入っていないし、開拓しようという気にもならなかった。プライベートも最初は良かったが段々飽きてきた。新しいものは1回行けば満足する。災害リスクとしては地震が多いし電車もすぐ止まるので何かあったときに止まってしまったら辛いし、人が多いので自分である程度の予備が必要と思って防災バッグを買って備えていたが怖かった。東京を離れる決定的な理由ではないが、数%ぐらいそういった気持ちがあった。（D）

##### 地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

人の多さに疲弊して地方移住を決意した人と、地元に戻った際に地元の良さを改めて実感し、東京から地方へ戻りたいと感じていた人がみられた。

- 1年で辞めるのはどうかと感じて我慢しようと思ったが、やはり無理だった。何かきっかけで爆発したわけではなく、関西でも仕事があるし、通勤に2時間もかけたくはない。大阪市内にいれば仕事は結構ある。仕事を見つけてから奈良に戻った。（B）
- 関西に限られた日数だけ帰ったとき大阪に買い物に行ったり、神戸や奈良、和歌山に行ったりする中で、やはり自分には関西が合っていると思った。その頃には会社の事業も後退していたので、人員を減らすとなったときに「自分は出たい」と言って出させてもらった。（D）

## Gr.2 Uターン×女性（未婚）×都道府県庁所在地在住②

### （3）地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

東京ほど人が多くなく家賃も安く、適度に都会である点で住みやすいと感じている。

- 満足しているのは利便性の部分。家の立地条件がいいので、主要な駅に出やすい。歩いて数分のところに飲食店もスーパーも図書館もあるので便利。適度な人の多さと、今住んでいるところは車で少し走れば自然があるから。（A）
- 住みやすい。東京にいた時よりも好条件だが家賃は1万円以上安くなった。通勤や買い物は便利だし、実家にも何かあればすぐ行ける。ちょっとした商店街があり、ゴチャゴチャしていなくて、都心にも出られる。仕事面でも本社は顔色を窺っている印象だが、支社ならある程度は自分たちで決めていけるので、気楽な雰囲気がある。（D）

#### 地方暮らしの不満点

現在の暮らしに特別不満は感じている人はみられなかったが、お店が少ないことに対して不満を持っている意見もあった。

- 周りにゆっくりお茶ができるカフェがあると良かった。今は昭和の喫茶店みたいなお店しかない。おしゃれでなくてもいいので、ゆっくり静かに、少し小綺麗なお店でお茶ができればいいが、今は住宅地というもあり、そういうお店がない。（D）
- 今の生活に不満はないが、1回は山奥に住んでみたいという憧れがあるから、それがマイナス。木をゆっくり見たり、フカフカの土を踏んで歩いたり、道に生えているものを取って食べてみたり、焚き火を焚いてみたい。ただ、仕事ができないと生活できないかもしれないので、そこまでの勇気が出ない。永住は70～80歳になったら厳しいと思うので、今のうちに早く移住して、体が無理になった時点で都心に戻るしかないのかなと思っている。（A）

#### 今後の居住意向／市町村部への移住意向

市町村部へ移住しても良いと考えている人と、都市部が良いと考えている人で分かれた。Jターン者は都市部を希望していた。

- 北海道に限って言うなら札幌がいい。正直なところ、札幌以外はどの街も田舎だから札幌以外は無理だと思った。仕事がないし、土地勘もないし、親戚がいるわけでもない。それなら札幌の方がよく行っているし、大学も札幌でよく行っていたので、住みやすさ的にも札幌を選んだ。（C）
- 基本的に人混みはイヤなので、地方で働きたい。ただし、ネットが繋がること。私の仕事はネットがかるうじて繋がるぐらいの僻地に行ってしまうと致命的。ITも仕事のやり方がだいぶ変わってきて、クラウドありきになってきているし、落とすデータが100ギガというのが普通にあるので、細い回線では死ぬ。リモートの環境さえ整っていれば、利便性が多少下がったとしても、もう少し田舎や別の県に移住してもいい。（B）

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

ほとんど変化は見られなかったが、元々喘息持ちなどで気軽に遊びに行ける街ではなくなったと感じている人もいた。

- 咳や喘息を持っているので、肺炎になったらダメだろうなという恐怖心がある。東京は好きな街ではあるが、気軽に遊びに行ける街ではなくなったかなという印象はある。（C）

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	3	8
B	0	10
C	3	10
D	8	7
平均	3.5	8.8

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.2 Uターン×女性（未婚）×都道府県庁所在地在住③

#### （4）地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦労した点

地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦労

地域ならではの気候に不安を感じていた人もいたが、ほとんどが特にないと回答した。

- 引越す直前は公共交通機関が雪で止まらないかなというのは怖かった。荷物もちゃんと来るかなという心配はあった。（C）
- 実家よりも便利なおところに住んでいるから、特にない。（D）

地方での仕事／住居の決め方

実家が地方でアクセスが悪い、自分のペースを乱されるといった理由で実家ではなく一人暮らしを選択した。

- 職場が大阪市内なので通勤のこと、実家には帰りづらかったので離れようと思ったため大阪を選んだ。実家からも通える距離だが、実家は自分のペース・時間を持ってないのが嫌。今の家は通勤や買い物は便利だし、実家にも何かあればすぐ行ける。利便性は失いたくない。今は駅や空港に近いところに住んでいるので、自分の中では落とせない部分。（D）
- 実家は田舎でバスが1時間に1本ぐらいい、バスに合わせて生活しなければいけないのがつらいので帰らなかった。ペットを飼うことが家を決めるときの条件だったので、わりと広さがあって日当たりが良くてペット可となるとそんなに物件数がなかった。不動産アプリを見て探し、実際の部屋を見てみないと感覚がわからないので、同窓会があったときに帰って内覧したが、そのときにいくつか載っていない部屋を紹介してもらえた。今住んでいる部屋もアプリには載っていなかった。思っていたよりは家賃が高かったが、ペットのために借りることにした。（C）

地域独特の女性に対する偏見や特有の価値観に苦労した経験の有無＜女性＞

ほとんどが特にないと感じていたが、面接の際に質問される事項として地域独特の価値観を感じた人もいた。

- 名古屋の転職活動で今の会社に入るときに「なぜ結婚していないのですか？」と聞かれたので、やはり地方だなと思った。普段の生活では特にない。（A）

#### （5）移住喚起に向けたアドバイス

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

現在の生活に満足しており、車がなくても生活できていると発言。移住について調べる際はオンラインを活用すべきといった意見も出た。

- 住んだらなんとかなるという感じ。北海道は雪があるが、最近あまり降らないので、意外と悪くないと言いたい。免許は持っているが運転はできない状態でも生活はできているので、車社会はそんなに気にしなくてもいいと思う。海鮮は安くておいしい。都会に疲れた人の札幌移住はいい感じに自然が多いから合っていると思う。（C）
- 最低限の生活ができる仕事があるかどうかを調べてから来た方がいいと言いたい。今の時代ならオンラインで相談もできるはず。自分でネットを使って調べをしつつ、いろいろな移住相談を活用した方がいい。自給自足にも限界があるので、自分で生きていけるように。私は移住相談などは利用していない。市役所に行けばあったのかもしれないが、行かないと思う。役所は対応が柔軟ではないし、オンライン相談なんて以ての外。ただ、今ならコロナが後押ししてできるかもしれない。実際に会うべき段階もあるだろうが、まずはオンラインでという方が移動時間の無駄がない。オンラインで話してみ、信用できるかどうかを見た上で現地に行く。3ステップあるうちの最初がオンライン相談。文書で質問できるものはメールでもいい。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

移住してくることにに対して特段感じていることはないが、県外ナンバーへの厳しい見方を感じていた。

- 移住してこないでほしいという雰囲気はない。自分自身としても特に気にならない。（A）
- どこにいてもというのはあるが、観光地は不安が多い。それこそ海外のお客さんが戻ってくると怖い。この前、車で走っていたら足立ナンバーだったので、「足立や」と思った。ナンバーの下に「私は京都府民です」というステッカーを貼っていたので、お互いが大変だなと感じた。結構シビアで、わざわざ京都在住と貼って走っているので、かわいそうだなと思った。（D）

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.3 Uターン×女性（既婚）×都道府県庁所在地在住①

#### (1) 東京圏に転入した理由・きっかけ<Uターン者>

##### 東京圏に転入したきっかけ

「就職のため」2名、「会社の配属（研修のため）」1名、「進学（予備校）のため」1名。

	A	B	C	D
年齢	29歳	26歳	27歳	28歳
居住地	愛知県名古屋市中種区	福岡県福岡市	北海道札幌市	大阪府大阪市
未婚	既婚	既婚	既婚	既婚
本人職業	専業主婦 (配達員アルバイト)	正社員 医療福祉関係・臨床開発モニター	正社員 人材サービス・営業	正社員 動物医薬品製造業・技術職
現住所は実家と同じ市町村か	島根県 Jターン	鹿児島県 Jターン	静岡県 Jターン	長野県 Jターン
移り住むことを意識したきっかけ	08.転職・求職活動（新卒以外）	07.就職活動（新卒）	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	06.進学先・職業訓練先の検討

##### 東京圏に転入した理由／当時の意向

就職のために来た人はアクセスのよい都会にあこがれており、進学（予備校）で来た人は地元で希望のコースがなかったことから転入していた。

- そのうち県外に出てみたいと思い、東京も視野に入れて仕事を探したら東京になった。島根は交通網も発達してなくて、すぐ電車で移動できる都会はいいなという期待があった。（A）
- 予備校のために来た。希望のコースがなかったため、ある程度行きたい大学の希望は決まっていたから許可をもらって東京に1年間いた。当時兄が東京の大学で、関東圏なら近いから安心感があった。（D）

#### (2) 地方移住に関心を持った理由・きっかけ

##### 地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

「自然もありつつある程度の便利さが欲しい」という気持ちが強かった。

- 「自然も便利も両方欲しい！」東京では人に揉まれて過ごしていたから落ち着ける静かな住環境がいいのと、便利なことはもちろん欲しかった。「自分の時間をもっと持ちたい！」東京では時間に追われて自分の気持ちもせかせかしていたが、移住してきて気持ちに余裕ができた。（A）
- 「自然も便利も両方欲しい！」今の家の片側はショッピングセンターで栄えていて、片側は緑豊かな山が見える。「広くて快適な家に住みたい！」家賃は3、4万上がっただけで㎡数では3倍のファミリー向けの間取りになったので、大分広くなって満足している（B）
- 「自然も便利も両方欲しい！」街中でも大通公園があるし、電車に乗れば自然豊かな公園があるので満足。「自分の時間をもっと持ちたい！」東京にいると通勤時間で取られたのだが、今は歩いて行ける場所なので通勤時の満員電車や通勤時間が取られるストレスが減った。（C）
- 「『あの人』についていきたい！」今の夫が大阪に行く予定だったのが一番大きい。「広くて快適な家に住みたい！」は、兄が東京にいたときの1Kと、今の家がほぼ同じくらいの家賃で、広さは3倍。（D）

##### 地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

当初から地方暮らしを想定し、旅行の際に住みやすそうと感じた地域に移住。東京圏では帰宅困難になる可能性があることに不安も感じていた。自治体の支援について話を聞いた人もいた。

- 東京に住むならマンションとかで、働くのが高層ビルになる可能性が高いし、通勤で電車を使っているから帰宅困難とか、エレベーターが止まってしまうのはリスクだと思う。また人混み・満員電車で通勤すると家賃が高く狭い家が自分のライフスタイルと合わないのでも都会は好きではない。旅行の際に適度に便も良く自然があるのは住むのに魅力的だなとは以前思っていた（C）
- 大学で名古屋を受けていたのだが、名古屋で人の多さに圧倒されてしまって都心に住みたくなかった。旅行で福岡は交通の便も良く食べ物もおいしかったし人も優しいので、住みやすうだと思った。（B）
- 異動前にUターンターンを考えて、有楽町の支援団体に行って資料をもらったことがある。友人が町おこし協力隊をやり始めたのと聞いて、興味を持ったのがキッカケ。地方移住で、どういう仕組みで自治体が支援しているとか、そのときは実際に移住して活躍した人の話が聞けた。地方独特の定住者との付き合い方とか、メリットデメリットを話してくれたのが役立った。実際に暮らしている人の話は参考になる。（D）

##### 地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

仕事でのチャレンジを目的とした異動願いや希望の大学への進学などの目的から移住を決断していた。

- 仕事の上司とトラブルになったのが一番だが、2年同じ営業の中でやってきたので、そろそろ同じ社内で違う部署を体験したいと思って、チャレンジしたい仕事があった札幌に異動願いを出した。（C）
- 大学を決めたときは北海道一択だった。そのときに入学金も払ってしまっていて、次に神奈川の大学もあったのだが、親からももう入学金を払ったから北海道でお願いしますと言われた。（D）

## Gr.3 Uターン×女性（既婚）×都道府県庁所在地在住②

### （3）地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

ある程度都会でありつつ自然もあり、満員電車がなく食事もおいしい、ワークライフバランスのとれた生活を送れる点で満足している。

- 都会でありつつ自然もあるし、生活圏内でもの揃うし余暇もゆったりしているから点数が高い。札幌市内はイベントも多くて賑わっているのはいいところ。(C)
- 暮らしやすさ。愛知で不便な思いをしたことがなく、買い物もすぐ行けるし、交通網も充実しているし、好きなアーティストも愛知でライブをしてくれるから充実している。仕事もプライベートも充実させて休むときは休みたいと思っていて、仕事は通勤も便利だしご飯を食べるところも買い物するところも多く、充実した生活が送れている。(A)
- 東京の満員電車ほど身動きができないものに遭遇しないのと、食べ物がとてもおいしい。周辺環境も整っていて大きな不満はない。(B)
- 東京より電車の人数が違って快適に通勤できるのがすごく満足。ものを買うのも、ご飯を食べるところも多くて満足。(D)

#### 地方暮らしの不満点

レジャーの少なさや、遠方へのアクセス面で不満を感じている。

- マイナス点は離島扱いで送料が高いこと、物理的な距離で、静岡出身だから帰省も友達に会うのも飛行機を使うというのが、体力的にも金銭的にもハードルになってしまうので、そこがマイナスポイント。(C)
- 強いて言えばレジャー関係で、遊ぶのはショッピングになってしまうから、遊園地とかレジャースポットがあったらいいと思う。あとは海外旅行に行くときは最寄りの空港は直行便がなくて、ハブ空港に行かないと行きにくいので、もう少し交通の便が良くなったら嬉しいと思う。(B)
- 北海道や長野ではずっとヨットをやっていたので、その辺のレジャーが今はなくてそこがマイナス。(D)

#### 今後の居留意向／市町村部への移住意向

居住地の近くに買い物ができる場所などがある程度そろっていれば、市町村部へ移住してもいいと考えている。

- 田舎でもいい。あまり県庁所在地にはこだわってなくて、住む場所のまわりにスーパーやカフェなどがあって、日常生活に不便がなかったらどこでもいいと思っていた。ただ北海道の畑の真ん中みたいところは困る。(C)
- 通勤時間が1時間以内で、治安が良くて、買い物が便利なところであれば県庁所在地にはこだわらない。(B)

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

東京圏への移住意向がない点に変化はない。

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	6	8
B	6	9
C	6	8
D	5	8
平均	5.8	8.3

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.3 UJターン×女性（既婚）×都道府県庁所在地在住③

#### （４）地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦労した点

##### 地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦労

その地域ならではの気候・天候に関して経験がなく情報もなかったことについて不安を感じていた。言葉の違いに不安を感じた人もいたが杞憂であった。

- 雪国の暮らしは経験がないので雪でどのくらい交通が止まるのかとか、どのくらいの生活なのか知らなかった。情報を仕入れていなかったため、事前に調べるか周りの人に聞けば良かったなと思った。（C）
- 逆にずっと雪国にいたので、こんなに軽装でいいのかと思った。雪かきはいらさないの？みたいな。（D）
- 思ったより受け入れてくれるなと思う。もっと関西弁をしゃべれないとコミュニティに入れないんじゃないかという不安があったが、そういうことがなかった。（D）

##### 地方での仕事／住居の決め方

治安のことも考慮して住居を決めていた。

- 通勤時間が1時間以内で、治安が良く、買い物が便利なところを条件にした。外国人が多いとゴミ置き場がゴチャゴチャだったり、夜中うるさかったりするので、治安が悪そう。大阪でここいいなと思ったところは外国の人が多くてうるさくて、実際に見なくてはわからないなと思ったので福岡では事前に2泊3日で泊まり込んで良さそうなところを探して、夜歩いてみたりした。そのときは夫が住んでいた佐賀に泊まって福岡に行くことを繰り返した。佐賀から福岡に通うのは片道2時間半か、それ以上で、電車の本数も少ないので…。だから夫と私の勤務地の間くらいの家を探した。（B）

##### 地域独特の女性に対する偏見や特有の価値観に苦労した経験の有無＜女性＞

地方部では地域独特の女性に対する偏見があると感じていたが、都市部では平等に扱ってもらえると感じていた。

- 福岡ではない。地元の鹿児島は男尊女卑が強く、女性が高学歴である必要はないとか、家を守るのが仕事という感じが強かったけど、福岡は女性もバリバリ働き、平等に扱ってもらえる。（B）

#### （５）移住喚起に向けたアドバイス

##### 地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

仕事でもプライベートでも人に対するストレスがなく、ワークライフバランスのとれた生活を送ることができる。

- 思った以上にゆったりした生活で、ワークライフバランスが取れた生活が送れるので、迷っているなら一度体験してもらったらいいなと思う。人に対するストレスもないし、のびのび生活できる。（B）
- 交通の便とか災害とかその地域のデメリットもしっかり確認してそれに供えておけばそれほど心配はないのではと思う。東京に比べて、東京にある人気店でも混雑していない。カフェでも空いていたりするからゆったり過ごせるし、話題の店でも並ばずに買えるのがメリットではないか。（C）

##### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

現時点では歓迎されないのではないかと考えていたが、出張が多い会社などでは気にしないという意見もあった。都市から離れているところほど外から来る人に対して警戒心をもつと感じていた。

- このタイミングだと歓迎されなかったらと思う。露骨に冷たくされるかどうかはわからないけど、気持ち的に、今来るの？と思う。実際これから来ると言われたらちょっと心配になる。（A）
- 全然違うと思う。札幌も出ているからなんとも言えないが、このタイミングではウェルカムだとは思わなかったらと思う。（C）
- 会社は出張も多いので、常に出張で東京から来ているし、この時期東京から異動されてきた人もいるが、みんな受け入れている。自分自身が東京に出張して帰って帰る心配もあるので、特に疎外感を感じることもないと思う。ただ鹿児島は村社会なので今コロナを持って帰ったら家族で引っ越さなくてはいけない感じだと思う（B）

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.4 Uターン×男性×その他市町村在住①

#### (1) 東京圏に転入した理由・きっかけ<Uターン者>

東京圏に転入したきっかけ  
「大学進学のため」3名、「就職のため」1名。

東京圏に転入した理由／当時の意向

就職や受験の結果で、強い希望はなく東京圏に転入したため、いずれは地方に戻ることを想定していた。

- 長野の大学受験を失敗したので、東京の大学ならパッと見つかるかなと思った。長野に戻るつもりでいたので、住民票などは何も移さなかった。(B)
- 野球をやっていて、六大学のどれかに入れたらいいかなと思っていたので、六大学ならどこでも良かった。東京にいるのは大学生の時だけでいいかなと思っていた。(C)
- 就職でいろいろな会社を受けた結果、たまたま受かった会社が東京で、実際のところはどこでも良かった。(A)

	A	B	C	D
年齢	38歳	24歳	27歳	34歳
居住地	岐阜県大垣市	長野県須坂氏	山口県防府市	大阪府羽曳野市
未婚婚	既婚	未婚	既婚	未婚
本人職業	正職員 地方自治体・事務	正社員 情報通信業・営業	正社員 運輸サービス業・営業	自営業 フリーライター
現住所は実家と同じ市町村か	岐阜県 Jターン	長野県 Jターン	広島県 Jターン	大阪府 Uターン
移り住むことを意識したきっかけ	01.将来のライフプランを考えた	07.就職活動（新卒）	07.就職活動（新卒）	01.将来のライフプランを考えた

#### (2) 地方移住に関心を持った理由・きっかけ

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

親や友達がいる「地元」で暮らしたいという気持ちから地方移住を考えた。「便利」があることも重要な要素。

- 「自分の時間をもっと持ちたい！」、今回は仕事の面で考え始めたので、その結果、ワークライフバランスが良くなったわけではないが、仕事のあり方みたいなものを変えられたのは一番大きい。(A)
- 「自然も便利も両方欲しい！」。「やっぱり地元が好き！」もあるが、利便性を考えて住む場所を決めたので、一番近いのは「自然も便利も両方欲しい！」。(B)
- 「やっぱり地元が好き！」が近い。友達がいるし、慣れた場所でもあるから。(C)
- 「自分の時間をもっと持ちたい！」。地元愛はそんなに強くないが、親と近いことのありがたさはあるので、「やっぱり地元が好き！」も気持ちに近いところがある。(D)

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

元々親や友人がいる地元に戻ることを想定していたが、東京圏の満員電車を見て、ストレスを感じながら長く住むことは考えられなかった。

- 大学を卒業したら広島に戻ろうと前から決めていた。老人になってもずっと東京にいることはあまり考えられなかったというもある。東京は東京でストレスがありそう。人が多いし、満員電車も大変。(C)
- 地元に残っている友達が多くて、休みができればすぐに飲みにも遊びにも行けることが大きかった。大学にも友達はあるが、大学の友達も実家に戻っている人がいて、東京にいても会えるという感覚はなかったので、自分も地元に戻ってきたという感じ。大学の友達は就職したらバラバラになったが、地元の友達とは幼稚園の頃から付き合いがある人もいたので長い。一生の友達という感覚でもないが、この先もたぶん付き合い合っていくのではないかなと思う。(B)

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

転職を機に、将来を考え地元での転職を決意したケースや、進路に悩み一度リセットする気持ちで地元に戻ったケースがみられた。

- 東京を離れるというよりも転職しようかなという思いが先。今後、仕事面でどんどん居づらくなっているのではないかなと思い、転職しようと思った。今後のことを考えると東京に住み続けても、老後のことや、どこに住むかとか、家が建てられるのかなど、未来が見えてこなかったの、思い切って転職と地元に戻るのを一緒にやろうと思った。(A)
- いずれは親の面倒を見るとしたら、東京と地元は遠いので、近くにいた方がいいと思い、地元で就職活動をした。(C)
- 進学も視野に入れて勉強を続けるつもりだったが、よく相談に乗ってもらっていた教授から「進路をどうするか、一度考える」と言われて、一旦は実家に帰って考える時間を取る形に戻った。(D)

## Gr.4 Uターン×男性×その他市町村在住②

### (3) 地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

生活に必要なスーパーがあり、地方ならではのスポットがあれば満足。商業施設が増え生活しやすくなっていることを実感するケースも。

- 東京のような満員電車はないし、スーパーやCD/DVDのレンタルショップなど、生活に必要なお店は全部揃っている。  
あとは温泉が好きなので温泉地があるし、有名スポットもあるので、それはそれでいい。 (C)
- 自分が大阪に戻ってからは近場にスーパーなどが次々建って、買い物がしやすくなった。大阪の中でもわりと郊外に住んでいるが、急に田んぼを潰して大型スーパーが建ち、買い物がしやすくなったことで行きやすくなり安い食料品が買やすくなりして、店に行くのが楽しくなった。 (D)

#### 地方暮らしの不満点

遊びに行く場所が少ないことへの不満が強い。職場に馴染むのに時間がかかった人も。

- 東京圏では動物園や博物館によく行っていたが、どこかに行くことに関しては何もなくなってしまった。 (A)
- 映画が好きだが、映画館まで行くのに時間がかかるので不便だと感じる。 (D)
- 田舎は遊びに行くところのバリエーションがない。 (C)
- 今の職場はほとんど地元の人しか就職しないところなので、今の職場に来た当初はよそよそしさを感じた。  
違うところから来たというようなよそよそしさ、話しづらさを感じた。 (A)

#### 今後の居住意向／市町村部への移住意向

東京圏ほどでなくても、少し便利な都会のほうがよいという意識がある。

- 広島県はそれでもまだ、電車などの交通網があり、街もあるが、欲を言えばもっと都会の方がいいと思う。 (C)
- 一人暮らしを続けたいので、実家には戻っていない。車で1時間ぐらいなので、たまに帰るぐらいがちょうどいいと思う。 (B)

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

東京への移住意向はもとより強くないが、コロナの流行でより足が遠のいた印象。

- コロナが流行ったことでより東京に行きたくないと思うようになった。この状況が続くなら遊びに行くのもためらうぐらい。 (A)

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	7	7
B	7	6~7※1
C	10	4
D	7	6
平均	7.8	5.9

※1

「6~7くらい」と回答。平均をとり6.5として計算した。

### Gr.4 Uターン×男性×その他市町村在住③

#### (4) 地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦勞した点

地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦勞

車に乗り慣れていないと車社会が不安材料となる。収入低下は想定内、生活コストが下がるため大きな不安ではない。

- 地方は車社会、車の免許は持っていたが10年以上東京で乗っていなかったため、車に乗るのが怖かった。戻ってからでは遅いと思い、東京でペーパードライバー講習を受けた。(A)
- 収入は東京で働く場合よりも下がっているかもしれないが、実家暮らしでラクをさせてもらっているというか、少し負担が軽いので、不満はない。(D)
- 東京の友達と離れるので、すぐ会いに行くことがなかなかできない面での不安や寂しさはあった。(C)。

地方での仕事／住居の決め方

安定した仕事の選択肢が少ないため公務員に絞って活動したケースや、仕事を辞めて地元に戻ってから探すケースなどがあった。

住居は、何度も往復できないため1日で決めたり、その後の生活を考え、CVSやスーパーが近くにあることを確認してから決めるなど計画的に行動した。

- 地元は仕事が少ないので、公務員を目指した。募集は工場勤務や営業の仕事が多く、今からだと向いているかどうか分からないので、一旦は別のことをやろうと思った。公務員だと内部の部署で融通を利かせてもらえるかなという甘えもあった。事務職の仕事もあるが、正規の職員、正社員の募集が全然ない。正規の募集があったとしても給料がものすごく安い。正職員として働けるところを目指したかったのに、一般企業は受けなかった。今までとまったく違う仕事をやる勇気もなく、安定した仕事から探した。公務員情報のまとめサイトを活用し、募集が出たら応募していた。(A)
- 1回辞めて、広島に戻って、今の仕事が決まったので、そこから半年間フリーターをして仕事が始まるまで待っていた。(C)
- 家探しは東京から岐阜に来たときに不動産屋に電話して1日で決めようと思った。何軒か物件を見て1日で決めたので、困ったりはしていない。(A)
- 家探しの段階で、24時間やっているコンビニやスーパーが近くにある生活しやすい場所を選んでいたので、そこまで地方のデメリットはないかなと思う。(B)

#### (5) 移住喚起に向けたアドバイス

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

人付き合いの面倒さも自分次第で何とかできる。移住者向け施策を事前に調べることが重要という意見がみられた。

- 地方で暮らせば慣れていくので、重く考えずにいいのではないかなと思う。田舎暮らしは人付き合いが面倒くさいと言われるが、断ろうと思えば断られる。重く考えず、自分のやりたい仕事があれば移住して生活してもいいと思う。(B)
- 地域で溶け込めるかなど、不安を考え始めると次々出てくるので、どこでも暮らせるという自信を持って移住すればどこでも暮らせると思う。(D)
- 人が少なくてものびのびできるし、土地も安いので、ぜひ来ていただけたらと思う。移住者に対して税を優遇するなど、いろいろな施策をやっているのを調べてもらいたいと思う。(A)
- なるべく交通網の便利なところで過ごした方がいいと思う。(C)

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

東京圏からの移住や県外ナンバーへの警戒心を感じることもある。

- 営業で各家庭を回っているが、東京から引っ越して来た人に対しては会社の中で注意した方がいいと言われるし、前に走っている車が県外ナンバーだったが、わざわざシールで長野県在住と貼っていた。個人的にはそんなに気にならないが、息苦しさを感じているのだろうなと思った。(B)

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.5 Uターン×女性（未婚）×その他市町村在住①

#### （１）東京圏に転入した理由・きっかけ<Uターン者>

東京圏に転入したきっかけ  
「大学進学のため」1名、「就職のため」2名、「会社の異動（渋谷）」1名。

#### 東京圏に転入した理由／当時の意向

東京圏（都会）に一度住んでみたかった、行きたい大学が東京だった、何度か来ていたことから身近に感じていた、などから東京へ転入した。辞令により嫌々転入した人も。

- ずっと田舎に住んでいたのが、1回ぐらいは都会の生活をしてみたかった。地元はデパートがなかったので、ショッピングと有名なお店に行ってみたかった。（A）
- 何回か利用していて、利便性も自分の目で感じたり見たりわかっていたりするところがいいと思ったので、栃木に住んでいたが、東京・神奈川は身近に感じていた。（D）
- 音大が東京に集中していて、行きたかった大学が東京だった。東京は都会だろうとは思っていたが、オープンキャンパスなどに行くとき最寄り駅に商店街があり、わりと古い感じの街だった。電車で移動すればもっと都会はあったが、思ったよりは生活しやすいのかなという印象だったので、東京に行くときの不安はなかった。（B）
- 東京勤務の辞令が出たときはものすごくショックで、会社で涙が出るくらいイヤだった。もともと関西人の温かさが好きだったし、石川県の田舎でのんびりしている感じも好きだったので、一番人が集まっている東京は怖くてイヤだった。（D）

	A	B	C	D
年齢	28歳	33歳	30歳	32歳
居住地	福島県会津美里町	熊本県玉名郡南関町	大阪府吹田市	福岡県福津市
未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正社員 農業関係の団体職員・事務、営業	自由業 音楽・ピアニスト	正社員 金融業・営業	正職員 教育関係・大学教員
現住所は実家と同じ市町村か	福島県 Uターン	熊本県 Uターン	石川県 Jターン	栃木県 Jターン
移り住むことを意識したきっかけ	07.就職活動（新卒）	05.帰省	01.将来のライフプランを考えた	07.就職活動（新卒）

#### （２）地方移住に関心を持った理由・きっかけ

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

「勤務先の近くに住居を構えて、ワークライフバランスを整えたい」、地方の方が「やりたい仕事ができる」という気持ちがあった。

- 「広くて快適な家に住みたい！」、「自分の時間をもっと持ちたい！」、「仕事場までの移動時間は15分ぐらいで近しい、自分の家で好きなことをして、帰ってからの時間もたくさんあるから」。（A）
- 「社会の役に立ちたい！」、（ピアニストとして）社会の役に立つことは東京圏よりも地元の方ができると思う。人とのつながりは東京よりも強い気がする。（B）
- 「自分の時間をもっと持ちたい！」、「勤務先と住んでいるところをなるべく近くして、ワークライフバランスを保ちたいと思った。（C）
- 「『あの人』についていきたい！」、あの人というよりは、やりたい仕事をやりたい。地方にやりたい仕事（大学のポスト）があったから地方に戻ったという感じ。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

東京に移住して関西人の温かさを実感。東京の通勤電車のキツさを体験、やりたい仕事を地元で見つけたため、地方暮らしに関心を持った。

- 「仕事で悩んでいると、大阪はすぐ『どうした？何に困っているの？』とざー関西人みたいな人が現れるが、東京の会社は全然助けてもらえない。異動してすぐに関西圏に帰りたと思った。（C）
- 都会だと通勤の満員電車がキツイと思ったので、地元がいいかなと思ってた。毎朝通勤電車に乗っていくのはツライと思った。（A）
- 神奈川がすごくイヤだったわけではないし、それなりに楽しく生活していたので、プライベートはそのまま良かったが、福岡時代の大学の恩師に「空気が出たから」と言われた。（D）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

体調や生活の不安定さから親や知人のいる地元に戻ろうとした人や、関西へ戻りたい思いから転職を希望し職種を変更した人がいた。

- 「就職活動中に体調を崩してしまい、こういうときに知っている人が近くにいる方がよかったので、地元に戻って就職活動をした。（A）
- 安定した生活ができるところで両親もいるので、おそらく地元（熊本）に帰ることしか考えていなかったと思う。（B）
- 辞めてもう1回大阪で仕事を探そうかと思ったが、会社から職種を変えるという提案があり、確かに制度としてはもともとあったので、面接を受けて合格した。（C）

## Gr.5 UJターン×女性（未婚）×その他市町村在住②

### （3）地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

水がおいしい。物価が安い、特に家賃や食べ物が安い点に満足している。

- [水や空気という点では熊本は10点をあげたい](#)。熊本の99%は地下水でホテルの水も飲める水。（B）
- [一番は人と友達が多いこと](#)。同じ家賃でも住みやすいところに住めるので、会社以外のプライベートの時間がとても楽しい。（C）
- 物価の安さ。[洋服は都会と変わらないが、食べ物は今の方が安い](#)。（D）
- 実家に暮らしているというもあるが、家事をやらなくてもいいこと。（A）

#### 地方暮らしの不満点

文化的な刺激の少なさ、アクティビティが少なく活気に欠ける点が不満。車が必需品であり維持費がかかることも不満。

- 刺激や文化的なことの水準の高さは明らかに東京が高い。もっと人を呼べるようなアクティビティというか、活気のある街・地域だったらいいと思う。（B）
- 東京に住んでいた頃は一切運転をしていなかったが、3月末に移動して、いきなり4月1日から運転することになり、車がないと生きていけないんだと痛感させられた。周りから福岡は私鉄やバスが多いと聞いていたが、本数が少ない。職場以外にもいろいろなところに行くので、そうすると車があった方が便利だと思いつつも、自分で運転しなければいけないとか、維持費がかかるので、そこで満足度が上がらなかった。（D）

#### 今後の居住意向／市町村部への移住意向

やりたい仕事ができることが一番。仕事がある場所であれば他の地域に移住してもよい。

- どれぐらい、どこでオファーがあるかによるので、それによっては違うところに移住するかもしれない。関西での仕事のオファーが多くなれば移るかもしれない。今九州でやっていることよりも他の地域での仕事が増えたら、そちらに移動することになると思う。（B）
- 今後、東京圏でポストがあれば異動するかもしれない。（D）

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

コロナ感染拡大を受けて、地方よりも東京の方が影響が大きいことを実感。

- コロナが流行ったときは東京が最初に影響を受けた。[人が密集していないところで、比較的自分のペースで生活できるところが地方暮らしのいいところかなと思う](#)。東京は地震が頻発しているみたいだし、私が住んでいたのも東日本大震災前後だったので、災害のリスクは少し心配している。（D）

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	6	8
B	7	8
C	3	9
D	6	4
平均	5.5	7.3

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.5 UJターン×女性（未婚）×その他市町村在住③

#### （４）地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦勞した点

地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦勞

希望する仕事の少なさと給与の低さ、刺激の少なさに不安を感じていた。

- 希望する仕事がない。そんなにこだわりもなかったが、給与も東京に比べたら低い、何がやりたいのが結構迷った。（A）
- 地元に関心してしまうと刺激がなくなり、演奏家としての活動に影響する気がした。（B）

地方での仕事／住居の決め方

仕事はハローワークであまりこだわらず探した。住居探しは実家に泊まれる場合は苦勞しないが、そうでなければ決まるまでホテル暮らしとなることも。

- ハローワークに通って、比較的給与の高いところから面接をどんどん受けて、採用になったところに勤めた。業種・職種のこだわりはあまりなかったので、給与面でなんとなく絞り込んだ。（A）
- 1回休みを使って家を探しに来たが、ここだという家が空いていなかったため、最初大阪に戻って半月ぐらいわざわざホテル暮らしをして、ここだという家が空くまで待ってから引っ越した。（C）
- 2回ぐらい不動産屋に行って決めた。家探しは好きなので、大変ではなかった。実家に泊まりながら探した。（D）

地域独特の女性に対する偏見や特有の価値観に苦勞した経験の有無＜女性＞

職場で女性は昇級が遅い、結婚や妊娠の可能性を探られる。結婚して自分の家庭を持つことが幸せという風潮がある。

- 職場では男性の方が昇級が早い。自分よりイマイチだなと思う人がどんどん上がっていくのは不思議。（A）
- 職場は結婚や妊娠を機に産休・育休に入る人が多いので、その心配で探ってくる人はいる。（D）
- 学生時代が長かったこともあり、独身でいるので、お世話を焼いてくれる方がいる。「結婚して子供を産んで自分の家庭を持つこと＝幸せ」みたいな感じはあるかもしれない。私はそうじゃないので、「そのうちですね」とちょっとはぐらかしている。（B）

#### （５）移住喚起に向けたアドバイス

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

自分の時間が増えたり、自分のペースで生活できる。家賃や物価が安く長期的に見てメリットがある。新鮮な食べ物が豊富で健康的という意見がみられた。

- 住居近くに会社があれば、その分、時間が節約できるので、好きなことに時間を使える。趣味など、好きなことに時間を使えることはいいと思う。（A）
- 人が密集していないところで、比較的自分のペースで生活できるところが地方暮らしのいいところかなと思う。（D）
- 家賃相場はだいぶ違うので、家賃が安く住める方が他のことにお金を使えるし、物価も大都会より安いから、長い目で見て考えてほしいと思う。大学を卒業して就職となったなら大都会の方がなんだかキラキラして良さそうだと思う人が多いと思うが、果たして60歳まで住みたいかというところまで1回考えて選んだ方がいい。（C）
- 新鮮な食べ物は豊富なので、健康にはいいと思う。熊本県の特産品はトマト、スイカ、栗があるし、新鮮な野菜も直売所で買えるので、健康志向の人にはお勧め。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

感染者情報はすぐSNSで広まった。行事のキャンセルが相次いでいることから、地方の人々は過敏になっている。

- 近くでコロナの感染者が出て、そのときもSNSで個人情報などがどんどん流れていた。田舎だからすぐ広まるというのはあると思うので、今の時期に来るのはやめておいた方がいいと思う。（A）
- ほとんどのイベントがなくなっていることとか、子供達の行事もかわいそうなくらいキャンセルになっている。そういうのを見ていると、感染している可能性が少しでもある人が入ってきたらかなり恐れられると思う。東京から来るだけで怖いイメージがあると思う。（B）

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.6 Uターン×女性（既婚）×その他市町村在住①

#### (1) 東京圏に転入した理由・きっかけ<Uターン者>

##### 東京圏に転入したきっかけ

「就職のため」1名、「将来のライフプランを考え」1名、  
「配属先が東京」1名、「夫の転勤」1名。

	A	B	C	D
年齢	32歳	30歳	26歳	36歳
居住地	兵庫県明石市	長野県塩尻市	茨城県つくば市	大阪府豊中市
未婚	既婚	既婚	既婚	既婚
本人職業	正社員（医療業・事務）	専業主婦	正社員（総合商社・事務）	パート（大学・技術職）
現住所は実家と同じ市町村か	兵庫県 Jターン	山梨県 Jターン	宮城県 Jターン	富山県 Jターン
移り住むことを意識したきっかけ	08.転職・求職活動（新卒以外）	08.転職・求職活動（新卒以外）	01.将来のライフプランを考えた	08.転職・求職活動（新卒以外）

##### 東京圏に転入した理由／当時の意向

ずっと東京圏に住むつもりはなく、一度地元を出て東京圏で生活してみたいという意識だった。

- そのときはあまり人生プランはなく、長く住むとも思っていなかったが、いずれは関西に戻りたいという気持ちがぼんやりあったという感じ。（A）
- 老後は山梨に住むので、一度は東京に住みたいという気持ちがあった。姉が東京でバリバリ働いていた。その姿を見るたびに、私も東京でバリバリ働こうみたいな気持ちが強まった。（B）

#### (2) 地方移住に関心を持った理由・きっかけ

##### 地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

将来を考えると親や友人がいる場所で「安心して子育てがしたい」という気持ちが強かった。

- 「やっぱり地元が好き！」、親や昔の友達が近くにいる暮らしがよいと考え1回関西に戻った。実際に家庭を持って子供が生まれると「安心して子育てがしたい！」。（A）
- 「やっぱり地元が好き！」の“親や昔の地元の友達の近くにいる暮らし”というのが大きなきっかけになった。（B）
- 「自然も便利も両方欲しい！」、駅前はずごく発達しているが、ちょっと行くと住宅街がある場所がいい。自然というよりは便利さ重視。将来を考えると「安心して子育てがしたい！」。（C）
- 「安心して子育てがしたい！」、子育てのしやすさは、地方の方がいいのかなと感じる。都内だと保育園もビルの一室だったり、小学校も校庭が狭い。比べると地方は小さい子の子育てにはいいと思う。（D）

##### 地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

東京圏は一時的な居住と考えていたため、当初から地方での暮らしは想定していた。身寄りのいない東京圏で災害に巻き込まれることに不安も感じていた。

- 東京よりも地方都市の方が住みやすいという気持ちがあった。あまり人の多いところが得意ではなかった。もともと石巻市の田舎で人が多くないところの生まれなので、その方が慣れている。つくばのように生活するには困らない程度に買い物ができたりする場所の方が住みやすいと思っていた。（C）
- 東京で就職して働いている間に父が病気で倒れてしまい、母が会社を辞めて介護する形よりも、Uターン就職で長野か山梨にするかと思って帰ってきた。（B）
- 東京は地下鉄とかすごい。大江戸線とか「こんなに下まである」と衝撃だった。生活する中で、もし直下型とか大きな災害が起こったとき、人も多し土地勘もないし、親戚や家族もいないので、完全に孤立し、助け合える人がいないというのが怖いと思った。地盤とかも大事だが、親戚や助け合える人達が近くにいる方が安心だなと思った記憶はある。（A）

##### 地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

東京圏での暮らしに期限を設けてはなかったが、自分の事故や親の病気など突発的な出来事により移住を決断。

- 製薬会社の営業だったので首都高を車で走っているとき、大きな事故を起こしてしまった。そのときに命の危険を感じた。（B）
- 実家の母が病気で体調を崩したこともあって、関西に戻りたいと思って転職した。（A）

## Gr.6 Uターン×女性（既婚）×その他市町村在住②

### （3）地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

東京圏よりも余裕のある生活ができ、普段の生活に困っていない点で満足。

- 東京圏でこっちと同じ家を買って車を持つという、今気に入っている生活と同じ生活が東京でできたかと考えると、たぶん難しい。子供も1学年10クラスもあるようなところで狭い校庭で過ごさせるよりは、車を走らせてどこかに行ったり、戸建てを構えて、のんびり過ごしたいので、今の生活はいいと思う。（A）
- 自然があるし過ごしやすい。普段の買い物や生活に困らないし、東京に行きたいと思えば2時間で行ける。まだ子供がいないので田舎独特の地域での付き合いとか、面倒くさいようなことにも関わっていない。自分の時間を過ごせていて満足している。（B）
- つくばだと車移動がメインになってしまうが、夫が車を持っているので、スーパーは歩いてすぐのところにあるが、ショッピングモールにもすぐ行ける。友達とも東京で会おうとなったときもすぐに行けるし、通勤も基本的に座って行ける。そういう意味で住みやすい。東京だと毎週遊びに出かけていたらお金がなくなってしまうし、人が多い。（C）

#### 地方暮らしの不満点

不満は少ないが、限定されたコミュニティで人との出会いがない点は不安。

- 移住して2～3年過ごしたときに、同僚の中での関係しかなくて、この中でいい人いないのではという気持ちになってきたが、長野県で婚活しようという気持ちにはちょっとなれなかった。長野県の人には結構地元主義で隣同士の市でもいさかかがあったり、人柄的にあまり好きじゃなかったりで、県外の人と結婚したいけど出会いがまったくない、どうしようという感じだった。（B）

#### 今後の居住意向／市町村部への移住意向

移住者が一定数いる地域のほうが閉鎖的でなく移住しやすいと感じている。

- 田舎はプライバシーがないので、どこにお勤めで旦那さんどんなことをしていると、全部近所の方にはご存じ。豊中市は通勤族の町と言われていて、小学校も1年で3分の1ぐらい入れ替わる。地元とはだいぶ違いがある。（D）
- 今住んでいるところは子育ての市の政策が上手いってあるので神戸とかいろいろなところから流れてきていて、この土地以外の人も多い。明石で出会う人はそんなに狭い感覚ではないかなと思う。（A）

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

東京圏への移住意向がない点に変化はない。

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	4	9
B	5	9
C	4	7
D	8	8
平均	5.3	8.3

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.6 Uターン×女性（既婚）×その他市町村在住③

#### （４）地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦労した点

地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦労

知り合いがいないうえ、職場の同僚との出会いしかないと不安に感じていた。子育てを意識していた人は市のHPで政策の確認を行った。

- 知人友人がいないうえは結構不安要素の中では大きかった。東京にいれば大学の友人や高校の友人が就職しているが、長野ではまったくいない。就職先の同僚の中での関係に終わってしまう。それが「このまま結婚できるのかな？」という不安になっていった。(B)
- 子供も欲しかったので、明石や神戸の子育て政策を比較した。HPで見た。市のHPはそれまで見る事がなかったが、ふんだんな情報が載っていた。(A)

地方での仕事／住居の決め方

転職には転職サイトやエージェントを活用。東京圏に比べると求人は少ないものの、あまり絞らなければ見つかっている。

- 探し方は転職サイト／転職エージェントで見るのが基本。そういう大手のところでないといふ求人の数がない。両親と住める範囲で営業職を手あたり次第にあたった。(B)
- 何度も東京から大阪に行って就職活動するのは旅費も宿泊も大変なので、効率よくやるにはエージェントを利用した方がいいのかなと思った。(D)
- 2年ぐらしか社会人経験がなかったため第二新卒のくくり。それなりのビジネスマナーはあって、まだ育てることができる若い人材ということで、企業のレスポンスは悪くなかった。未経験でもOKのところを探したので、わりとスツと決まった感じ。在職中に決めておいた方が両親にも心配をかけないかなと思ったので、在職中に決めた。(A)

地域独特の女性に対する偏見や特有の価値観に苦労した経験の有無＜女性＞

女性に対する偏見はあまり感じてはいないが、地域独特の価値観になじめない感覚をもったケースも。

- 長野では東大を出た人より地元の有名な高校を出たコートのの方が偉いという感覚。どこかの大学を出ているより、両親が地元の有名な高校を出ているというのがすごいステータスになっていてびっくりした。(B)

#### （５）移住喚起に向けたアドバイス

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

子育てをするなら地方がよい、選択肢の少なさも考え次第。自治体の政策を調べることも重要。

- 将来年を重ねたり子供ができたときに住みやすいのはやっぱり地方じゃないかと思う。家を集合住宅にするか一戸建てにするかという選択肢もあるし、教育面では選ぶ幅がないかもしれないが、のびのび育てたいのか教育に力を入れたところに進ませたいかぐらいの選択だったらある程度はあるんじゃないかというイメージ。地方でもお出かけする場所があれば、お気に入りの場所になるんじゃないかと思う。(C)
- 今後子育てを考えているとしたら、移り住む先の市の政策は非常に重要なので、よく調べてくださいということに尽きる。(A)
- 地方だろうと都会だろうと、何らかの形で人とながらうことは可能だと思う。自分は職場でいい人に恵まれて、同じ年齢の子育て世代の知り合いも増えたので、仕事関係で知り合いを増やした。どんな形であれ知り合いを増やせる努力をすれば、知らない土地でも大丈夫だと思う。どこに住んでも自分次第だと思う。(D)

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

都市部から離れるほど外から来る人に厳しく、東京圏に近いほど警戒心は薄くなると感じている。

- コロナの感覚は田舎ほど厳しい。「県外ダメ」みたいな。神戸ナンバーでもダメ。感染が出ていない地域は守ることに必死なので、持ち込ませないという感覚が怖い。神戸や大阪とは違う。(A)
- 両親が、近所の目があるから帰ってこないでくれと言う。(D)
- つくばに住んでいる人はつくば市内で働くか東京方面に出る人のどちらかなので、あまり東京に対して警戒心はない気がする。(C)

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.7 Iターン×男性×都道府県庁所在地在住①

	A	B	C	D
年齢	34歳	32歳	26歳	27歳
居住地	沖縄県那覇市	山形県山形市	大分県大分市	富山県富山市
未婚婚	未婚	未婚	未婚	既婚
本人職業	無職	正社員 教育業・技術職	大学4年生	正社員 服飾部品製造業・事務
移り住むことを意識したきっかけ	11.独立して事業を行いたい	07.就職活動（新卒）	06.進学先・職業訓練先の検討	07.就職活動（新卒）

#### (1) 地方移住に関心を持った理由・きっかけ

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

「社会の役に立ちたい！」と考えた人が多いが、地域貢献というよりも自分がやりたい仕事で社会の役に立ちたいという意識だった。

留学などで自然に触れた経験から「自然も便利も両方欲しい！」という気持ちで地方移住を考えた人もいる。

- 「自分の時間をもっと持ちたい！」が一番近い。個人的には仕事3、プライベート7ぐらいでいいかなと思っているから。ざっくりだが楽しく生きたい。東京にいたときは仕事6、プライベート4ぐらいだった。（A）
- 「社会の役に立ちたい！」だが、やりたい仕事をしたという気持ちが大きかった。（B）
- 進学がきっかけなので少し違うが、大学を抜きて考えたら「自然も便利も両方欲しい！」。オーストラリアに4年近く住んでいて、ずっと自然に触れていたの、自然がある環境で過ごしたい。かといって利便性がなさすぎるのも過ごしづらいと感じていたの、そういう意味では自然も便利も両方ほしい。（C）
- きっかけは就職だったが、「社会の役に立ちたい！」に書かれている地域貢献を目当てにしていたわけではない。やりたい仕事ができる場所がそこだった。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

移住先に関する知識はあまり持っていなかったが、やりたいことにこだわった結果が地方移住であったケースが多い。満員電車より海のある生活に憧れて沖縄を目指した人もいた。

首都直下型地震を恐れて東京圏から離れたたいと考えていた人もいた。

- 就職活動の結果として山形になった。就職活動は関東圏内メインでやっていた、内定ももらったが、あまり自分の希望したところではなかった。当時の研究室の教授から「山形で非常勤だけど仕事があるからチャレンジしてみないか」という提案を受け、面接を受けた。（B）
- 就職がきっかけ。商学系を専攻していたので、製造業で経理の仕事をしたと思って就職活動をしている中で今の会社に内定をもらった。（D）
- もともと新卒で7年ほど東京で働いたが、退職して、海外に3年ぐらい行っていた。日本に戻ってきたとき以前のような満員電車の生活には戻れないと思い、海がある生活がいいと思い沖縄に来た。（A）
- 首都直下型地震が来る来ると言われていて、それも含めて東京圏から離れたたいという気持ちがあった。（A）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

受験の結果、信頼する人の助言、実際の生活体験から地方移住を決断した。

- 大学に編入学したので、試験で受かった大学から選んだ結果、大分になった。もう一つ受かった大学は滋賀だったが、やりたいことで選んだ。（C）
- 実家から通えない職場はあまり想像していなかったが、教授から「そんなことを言っていたら研究なんかできないよ」と厳しく言われて、自分に厳しくやってみようと思ったので決めた。（B）
- 半年ほど石垣島でホテル派遣で働いてみて、やはり海がある生活がいいと思った。密集していないし、自然も多いし、沖縄がいいかなと思って今年から本島に来た。石垣でもホテルで派遣として働きながら生活していた。（A）
- 最終面接のときに富山まで行き、「経理で入るならばらくは富山だぞ」と言われて、それを承諾した上で入社した。石川県に父方の実家があり、富山を通っていたので、まったく知らないわけではなかったし、関東圏でも利便性が高い場所にいたわけではないので、抵抗感なく受け入れられた。（D）

## Gr.7 Iターン×男性×都道府県庁所在地在住②

### (2) 地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

過ごしやすい気候や四季折々の自然に触れられ、ストレスのない生活が送れている点には満足している。

- [神奈川県や東京はコンクリートが熱を持ち暑かったが、今は田んぼや自然が豊かで、去年はエアコンなしで扇風機だけで過ごせた。](#) 東京圏から移ってきたので、そういう暑さの面ではだいぶ過ごしやすい。(C)
- 関東圏のように人がゴチャゴチャしているストレスがないというのは大きい。あとは[自然が豊かで星が見えるし、四季折々の自然も都会より目にしやすい。](#)(D)

#### 地方暮らしの不満点

文化的な活動の選択肢が少ないこと、生活の不便さよりも将来不安。

- やりたい仕事ができているし、友達もいる中で趣味の卓球が毎週できているので満足しているが、将来的なことが決まっておらず満足にならない。両親が賛成していないし、結婚もまだ決まっていないから、10点には届いていない。(B)
- 文化的な活動や、自分がやっているオーケストラや合唱も関東ほど盛んではない。関東だと同じ世代だけで団体が構成できるようなところがたくさんあるが、地方はその地区に1団体あるぐらい。同じ世代だけの方が気を遣わずに気安くできていいと思うときもある。(D)

#### 今後の居住意向／市町村部への移住意向

地域に知り合いが増えるにつれて定住意向が強まっている。利便性があれば県庁所在地より静かな環境を求める意識もみられた。

- 何年か経つうちに山形での仲間が増えていったので、そういうことを考えると今後も住み続けたいと思う。とりえず定年までは帰ることはないだろうというのが現在の見解。(B)
- ずっと地方でいいかなと思っている。知り合いも増えて、環境に慣れてきたので、家を建てて住むのもありかなと考えている。(D)
- 那覇は意外とゴチャゴチャしていたので、必要最低限のスーパーとドラッグストアが1軒ずつあればいいかなと思う。(A)

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

ずっと地方でもよいと思っているが、墓の問題を解決する必要があると考えている。コロナウイルスの影響による変化はみられない。

- 定年後もできれば山形にいたいという気持ちが強いのではないかと予想しているが、長男なので、お墓や家を守ってほしいという親の意向もあり、そこをどうするかは問題になるかもしれない。(B)

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	8	5
B	7~8※1	7
C	4	7
D	7	8
平均	6.6	6.8

※1

「7~8くらい」と回答。平均をとり7.5として計算した。

### Gr.7 Iターン×男性×都道府県庁所在地在住③

#### (3) 地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦勞した点

地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦勞

気候や不便さに関する情報を持たずに移住したため驚いた人もいた。趣味を楽しめることが分かっていると安心感が増す。

- 米沢は雪深く雪の壁が2mを越えるぐらい。最初の冬はかなりビックリした。予め知っておきたかったのは気候の違いと、電車やバスが1時間に1本といった不便さも先に頭にあって良かったかなと思う。住む前に知っていれば心構えはできたかなと思う。(B)
- 雪道の運転は大丈夫かなという不安は若干あった。趣味のオーケストラや合唱の団体があるかは事前に調べて、目星はつけておいた。問い合わせを実際にしたのはこちらに来てから。休日にやることを見つけられたなというぐらい。(D)
- 母からは、九州は雨が多くて、災害も多いと聞いた。実際に川の氾濫が家の近くで起きているので、災害に対する意識は関東にいますと比べて身近にはなった。(C)

地方での仕事／住居の決め方

住居はネットを活用。住居付きのホテル派遣が終了し、農業バイトをネットで探した人もいた。

- ネットで目星をつけて不動産屋に行った。候補の中からすんなり決めたので、それほど大変ではなかった。目星つけたのが3軒で、全部違う会社だったので、1日のうちに全部回って決めた。実家は近くに大学の最寄り駅があり、すぐうるさくてイヤだったし、大学から近いと生活が切り離せないと思ったので、大学から近くはないが行きやすい電車が通っている沿線で探した。そこまで苦勞はしなかった。(C)
- 派遣が終了して住むところもなくなった。急に次に住むところを探さないといけなくてパタパタしたので、結構大変だった。農業は募集がたまたまあったので、派遣ではなく農家の人に直接連絡した。農業系の募集が載っているサイトがあるので、そこで探した。(A)

#### (4) 移住喚起に向けたアドバイス

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

所属するコミュニティを職場以外に複数もつことが、移住生活を楽にするコツであるとのアドバイスがあった。婚活については厳しい面もあるという指摘も。

- 自分が所属するコミュニティは複数あった方がラクかなと思う。職場の人だけだとマンネリ化したり、プライベートでは職場の話がしにくかったりもするので、趣味を持って地方に行った方が、地方がイヤになりにくいのではないかと気がする。(D)
- 独身で地方に住む場合、結婚を考えたときに婚活が大変かもしれない。婚活環境としては、地方は不利。出会いの数が少ない。普通の生活でもそうだし、アプリにしても結婚相談所にしても街コンにしても絶対的な人数が少ないので、不利になりやすい。しかも地元の人を探す場合に地元トークができない。いろいろ不利になる点があるので、そこは覚悟しておいた方がいいと言いたい。(B)
- 持病や身体的に不安がある人は専門医がいるかを調べた上で移住した方がいい。病院自体も関東圏に比べてすぐに行けるところが少ないので、事前に調べておいた方がいいと思う。(C)

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

地域における最初の感染者が攻撃されるなど、地方は敏感になっているが、移住者よりも旅行者が警戒されている様子。

- アルバイトをしている場所が駅ビルの商業施設なので、お盆などで帰省されて感染者が出てしまうと休館すると施設側から言われている。そういうことが起きてしまうのであれば、正直戻ってきてほしくない。そういうリスクがなく、予防をちゃんとしてくれるなら構わない。要するに自分に影響がなければいいかなと考えている。(C)
- 移住に関してはそんなに…。コロナと多少関係あるかもしれないが、最初の段階で感染を広げなければ、それ以降は関係ない。ただ、山形などに住んでいる人は警戒している面があり、第1号が出たときはその人の家に石が投げられた。田舎は世間が狭い分、判明してしまうと痛い目に遭う。地元の反応は厳しい。(B)

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.8 Iターン×女性×都道府県庁所在地在住①

	A	B	C	D
年齢	24歳	25歳	26歳	30歳
居住地	栃木県宇都宮市	愛知県名古屋市	北海道札幌市	京都府京都市中京区
未婚婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	アルバイト 飲食業・接客	正社員 医療業・営業	大学院生博士課程1年	正社員 精密機器製造・研究開発職
移り住むことを意識したきっかけ	08.転職・求職活動（新卒以外）	07.就職活動（新卒）	06.進学先・職業訓練先の検討	01.将来のライフプランを考えた

#### （1）地方移住に関心を持った理由・きっかけ

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

仕事を通じて「社会の役に立ちたい」、身近に「歴史・文化を感じたい」、東京圏では体験できない「自然も便利も両方欲しい」などの気持ちが背景にあった。

- 「社会の役に立ちたい！」、最初は地域に貢献しようというのはあまりなかったが、内定者会のときに聞いたのが、未開拓の土地がいっぱいあったり私有地が大きい会社で、まだ未完全な遊園地というところに魅力を感じた。この土地で自分ができることはいっぱいありそうだなと思った。そういう視点で当てはまると思った。（A）
- 「自分の時間をもっと持ちたい！」、友達がいない分、自分の時間をゆっくり持てるかなと思った。（B）
- あえて選ぶなら「自然も便利も両方欲しい！」、そこまでアウトドアなタイプではないが、大学の敷地が広すぎて地元の人に公園だと思われるぐらいで、小川や森がある。大学に行っているだけでも今の時期は新緑がきれいだなとか思える。関東にずっといたらできなかった体験だと思う。（C）
- 「歴史・文化を感じたい！」、実家も東京近辺も気に入っていたが、長期間過ごす飽きてしまう。大学時代から華道など日本文化を習ったりして歴史や文化に興味があったので、そういうものを身近に感じられることもあって京都を選んだ。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

やりたい仕事や学びたい大学があったのが東京圏よりも地方だった。東京圏への不満はなかったが、実家を出て一人暮らしをしたいという気持ちから地方移住を考えたケースもある。

- 就活のときにレジャー関係の仕事に就きたいと思った。人を楽しませる仕事で社風が合えば全国どこでも行くぐらいの気持ちでいた。でもレジャー関係の求人はなかなか少なかったので、遊園地のHPを見て良さそうところを片っ端から受けた。（A）
- 勉強したい分野が高校のときに決まっていたので、その分野の研究室がある、理系の学部のある大学を選んでいった。そうすると首都圏にはあまりなかった。（C）
- ずっと実家で暮らしていて、一人っ子なので、東京の大学に行くときも実家から通いなさいと言われていた。首都圏の企業に勤めてしまうと、もう一生家から出ることができなくなるのではないかと思った。ここで少し関東圏から離れてしまえば一人暮らしをするいい機会になると思って、あえて遠くを選んだ。家から出たかった。友人達はみんな一人暮らしをして社会人生活をしていたので、すぐ懂れていた。（D）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

受験や就職活動の結果で決断している。

- 第一志望と第二志望を受けたが、第一志望は落ちて第二志望に受かったのが北海道に来た。（C）
- 内定をいくつかもらった中で、社風が合っていそうで、やりたいことを反映できそうだったので、たまたま栃木に就職した。（A）
- 第一希望の会社が全国転勤という契約でいつでもどこに行くかわからないということだった。最初東京で営業してあとで地方というよりは、最初に地方に出てしまっ東京に戻る方がいいなと思ったので、東京以外の配属を希望したら、名古屋になった。（B）

## Gr.8 Iターン×女性×都道府県庁所在地在住②

### (2) 地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

車生活ができると満足度が高い、またコンパクトで適度な都会である点に満足を感じている。

- 東京のときは自転車で最寄り駅まで行ってそこから電車だったので、暑い日や雨の日で自転車で15分ぐらい坂道を漕ぐのが大変だった。雨の日でも車で行き来できるのは満足度が高い。(A)
- 札幌は適度な都会さが自分に合っているのだと思う。コンパクトで欲しいものは手が届いて、ちょっと遠出して郊外にも行けるし、実家に帰ろうと思ったら飛行機代はかかるが乗ってしまえば1時間半なので、便利でいいなと思っている。(C)
- 友達が京都観光で泊めてと言って遊びに来てくれるので、寂しさは感じない。交友関係も充実しているので満足。(D)

#### 地方暮らしの不満点

周囲の人々のペースや、近すぎたり引かれたりする距離感に居心地の悪さを感じることもある。

- 東京圏では自分と同じようなバリバリした人が多かったが、栃木に来たら、バリバリした感じを出すとちょっと疎まれるというか、「もう少しのんびりやろうよ」という感じがある。東京だとパーソナルスペースがあって、あまりお互い失礼なことには言わないように、親しき仲にも礼儀ありという部分があったが、結構栃木の田舎に来たらぐいぐい来る部分があって、東京に戻りたいなと最初は思った。(A)
- 名古屋人気質とよく言われるが、買い物や美容室、営業先の人などに出身の話をするとき、「あ、東京の方なんですわ」と一歩引かれる感じがすごくあり、2年経っても慣れない。「東京の方がいらっしやっ」みたいな、皮肉っぽい感じに捉えられることが多い。(B)

#### 今後の居住意向／市町村部への移住意向

いずれ東京に帰りたと思う人と、静かな環境のある地方を求める人がいる。

- 宇都宮は那須より買い物の面では便利だが、結構家にいるだけでも近所の騒音が聞こえてくる。主婦の怒鳴り声とかがいろいろなところから。そういうストレスと、あと渋滞やラッシュがすごいので、20分圏内でも1時間前に出ている。(A)
- いつか東京に帰りたい、名古屋は一時的なものと思っていて「東京に比べると」と思うことが多いので、距離ができてしまう。「東京と言っても田舎の方なんですけどね」という謎のフォローをいつも入れている。(B)

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

コロナの影響を避けて東京圏への移住をしなかったケースがあった。

- 本当は那須から東京に行きたかったが、コロナの影響もあるので、中間地点にしようと同居人と話した。同居人の実家が宇都宮なので、宇都宮になった。(A)

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	5	6
B	7	8
C	7	9
D	9	9
平均	7.0	8.0

### Gr.8 Iターン×女性×都道府県庁所在地在住③

#### (3) 地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦労した点

地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦労

交通の便に関する不安や、知り合いがいない場所に行くという不安はあったが、大きな不安はなかった。

- 首都圏は交通の便がすごく良くて電車でずっと乗っていたので、京都は大丈夫かなと思っていたが、京都もバスがたくさん走っているし、電車も地下鉄や在来線が充実しているので、ライフライン、交通の便で苦労することはない。スーパーもたくさんあって生活には苦労していない。(D)
- 入学前は周りに知っている人が誰もいない。場所が札幌で気候と物理的に遠いという不安と、単純に親元を離れるのが初めてで周りに知り合いもないという意味での不安があった。(C)

地方での仕事／住居の決め方

住居はアクセスを重視して選定、東京圏でも不便なエリアに住んでいた場合はむしろ利便性が向上した。大学生には大学生協の新生活パックを活用した。

- 賃貸のマンションを自分で探した。会社までのアクセスと最寄り駅まで徒歩何分かをメインに絞って、営業で車を使うので、マンションに駐車場がついていて、雨でも濡れずに部屋に戻れるようなところで絞った。今住んでいるところは栄まで歩いて10分で行けるアクセスの良さが決め手になった。(B)
- 徒歩3分でコンビニに行けるとか札幌駅まで歩いて行ける環境はむしろ地元より都会だった。ただ都会すぎて、大型ショッピングモールみたいなのが近くにない。無難な生活用品を買おうと思うと意外とないので、どこに行けば何があると覚えるまでは大変だった。でも札幌以外の場所にいきなり引っ越しだったら本当に困っていたと思う。(C)。
- 大学の生協がやっている新生活準備の特設会場に行って、新居選びと保険の手続き、生協があっせんしている家具や家電のパック、大学推薦のパソコンなど、新生活に必要なものは全部まとめて一気に済ませるみたいな会場で1日過ぎて、物件も見に行って、慌てて全部決めた。生協は助かった。(C)

地域独特の女性に対する偏見や特有の価値観に苦労した経験の有無＜女性＞

地元の人との交流が少ないこともあり、特に感じてはいない。

#### (4) 移住喚起に向けたアドバイス

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

住んでみればどうとでもなる、という意見が多く見られ、情報収集することで生活の満足度が上がるというアドバイス。

- **意外と住んじゃったら、住めば都みたいな感じ。**周りからは「そんな田舎に住んで」と言われたが、**田舎に住んでみたら空気がきれいだったり、環境ストレスがなくて過ごしやすかった。**人によっては都会の煌びやかなところから移住すると周りに何もないと不便さを感じる人も思うので、下調べ、実際に行ってみるか、近くの情報をリサーチすると思う。(A)
- 住むところがアクセスがあまり良くないところだったら、自転車か車があった方がいいと思う。名古屋は地下鉄の初乗りが200円が高い。休日も遠くに行くなら車だが、徒歩でもどこでも行けるので徒歩の方が多い。そうした街のアクセスや交通の便は下調べしておくといいと思う。それ以外はどうとでもなる。(B)
- どうとでもなります。(C)
- **不安は伴っても慣れてしまえば住めば都かなと思っている。もし心配ならば、地域の情報をガイドマップで見るとよりは、時間が許す限り自分の目で見て確かめてみるのがいい。**観光のホテルよりも住宅街にあるゲストハウスなど生活の場に密着したところに1週間ぐらいショートステイで滞在して、近くのスーパーを見てみたりして納得してから住むと満足度が高くなるのではないと思う。(D)

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

※当該Gr.においては未聴取。

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.9 Iターン×男性×その他市町村在住①

	A	B	C	D
年齢	27歳	28歳	25歳	23歳
居住地	茨城県守谷市	北海道帯広市	石川県野々市市	愛知県刈谷市
未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正社員 精密機器製造業・技術	正社員 運送業・運転手	正社員 薬品製造業・開発	正社員 電気回線・技術
移り住むことを意識したきっかけ	07.就職活動（新卒）	07.就職活動（新卒）	07.就職活動（新卒）	07.就職活動（新卒）

#### （１）地方移住に関心を持った理由・きっかけ

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

「生活に不便がなく緑もある」、「時間に急かされない穏やかな暮らしができそう」、「やりたい職種で働けてワークライフバランスが取れそう」という気持ちから地方移住を考えた。

- 「自然も便利も両方欲しい！」、近くにスーパーがあると生活の便利もあるし、気軽に都会に出られる利便性、アクセスの良さも欲しい。でも公園とかも好きなので緑のあるところも欲しいので、結構じっくりる。（A）
- この中ではない。「人混みが少ない」「のんびりしている」「穏やかな感じ（時間も人も）」、混雑したところでぶつかって舌打ちされるのは好きじゃない。そういうのはこっちにはない。東京では多かった。（B）
- 強いて言うなら「自分の時間をもっと持ちたい！」。自分は職種で会社を絞ったので、それができていて、極端に仕事に縛られていなければ満足。（C）
- この中でコレとあてはまるものはない感じ。どこに住みたいとかよりも、職種で決めたので、住む場所はそんなに意識していなかった。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

やりたい仕事ができる会社が地方にあったことが、地方暮らしを検討する要因となった。

- 東京圏に強いこだわりはなくて、むしろやってみたい仕事を優先して選んだ。大学にいる頃からいつかは実家を出たいと思っていたので、就職のときに地域はこだわらなかった。日本ならどこでも良かった。ずっと実家にいたので人生の経験として一人暮らしをしてみたいと思った。（B）
- もともと就職した段階では研修生という形で、2年間研修を終えて、そのタイミングで配属先として取手市の事業所に配属になった。（A）
- 大学で研究していた分野に関連した会社で、日本の中で上位を選んだ。分野は漢方。売上ベースで上から4社ぐらいを受けた。他に富山や茨城もあったが、内定をもらったのが今の会社。（C）
- 東京と愛知にある会社で、愛知だと自動車関係の仕事ができる。自分はずっと自動車関係をやりたかったので愛知を希望した。（D）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

より行きたい会社を選択した、妻の賛成が得られた、何度か訪問しており東京郊外と大差ないことを知っていたことなどが決断の後押しとなった。

- 本州の会社を結構受けていたが、なかなか希望の業種の会社を受かなくて、最終的に残ったのが希望の業種の北海道と、そこまで希望ではない業種の東京圏の会社。（B）
- 新幹線が開通して以来（勉強のため）毎年行っていて、そんなに住みにくいという印象はなかった。東京のすぐ郊外にいるのと大差ないという印象は最初からあった。研究分野に強い先生が石川県にいて毎年何かしら社会人の漢方のお医者さんが参加したりする企画をしてくれていたので行っていた。（C）
- （妻が）ついて来ると二つ返事で言ってくれた。もともと研修が終わったらどこに行くかわからないという話をしていた、お互い覚悟はできていたというのが大きかった。（A）

## Gr.9 1ターンの男性×その他市町村在住②

### (2) 地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

市提供の美味しい店マップやHP、アプリが便利。通勤のストレスが減った。食べ物がおいしくて安いことに満足している。

- 守谷市の美味しいお店マップみたいな、市がまとめつついろいろな飲食店が共同で出しているマップがあった。スイーツ、和、洋食などいろいろなジャンルで出ていて、それが結構いい。休日にブラブラ散歩がてらおいしいお店を開拓しに行ったりしている。市役所のページでは、ほぼ全部わからないことがわかった。役所手続き全般、どこのガスや水道と契約したらいいか、ゴミ出し等。また、守谷市はアプリで居住地域の不燃ゴミやコロナの情報を毎日通知してくれるのですごく便利。 (A)
- 夏は湿度が高くなくて涼しいこと。帯広で食べた方が食事はおいしくて安いと思う。あと通勤電車のストレスから解放された。人混みも少ない。ほどよい混雑感。こっちに来て、人混みってすごいストレスだったんだなと思った。 (B)
- 移動距離が短くなったことが大きい。千葉では友達と遊ぶときや家電購入等いろいろな移動に1時間かかっていた。今は全部20分以内で行けてしまう。徒歩圏内に家具屋さんも家電屋さんもあるので、評価がすごく高い。通勤も30分で前に比べたらだいぶ短くて、満員電車でもない。移動関係がすごく良くなったのが大きい。寝る時間にするにしても自分の時間が増えるというのがすごく大きい。 (C)
- 駐車場代が安くて満員電車もないのは結構いい。 (D)

#### 地方暮らしの不満点

東京圏（地元）の友人や親戚に気軽に会えない。北海道では流行情報や荷物が到着するまで時間がかかることが不満。

- 友達とのコミュニケーション。友達は関東に残っているのでLINEのグループで「飲み会やるよ」と来てても自分だけ行けない。情報交換するのグループを抜けるつもりはないが、行きたいなと思ってても気軽に行ける距離じゃない。実家に帰るにしても飛行機がそれなりに高いので、なかなか帰りづらい。 (B)
- 知人や親戚がいる場所ではないので、会いに行くとなると遠くて1泊ぐらい考えないとけない。 (C)
- 流行やテレビで見ていいなというものにタイムラグがある。通販も他の地域なら1日で届くが、北海道は絶対に2日かかる。送料も北海道は別。送料が高いから買うのをやめようかなと思うこともある。ちょっと災害があると止まってしまう、漫画雑誌も届かなくなる。 (B)

#### 今後の居住意向／市町村部への移住意向

子育て期には実家の近くに帰りたい。通勤電車が長いところには行きたくない。

- 東京に帰りたい。子育てのときに実家に近い方がいいかなと思っている。具体的には考えていないが。 (A)
- 北海道でなくてもいいが、東京圏で週5日、何時間も通勤電車で揺られるのは無理かなと思っている。 (B)

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

大都会は感染リスクが高いので地方でよかったと思った。

- 感染リスクを考えると都内じゃなくて良かったと思う。人が多いところだとそういうことがあるんだなと気づかされた。千葉、埼玉、神奈川も大都市なので、大都市全般かな。 (A)

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	7	9
B	8	8
C	6	7
D	7	7
平均	7.0	7.8

### Gr.9 Iターン×男性×その他市町村在住③

#### (3) 地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦勞した点

地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦勞

ゴミの出し方や生活に必要な店舗など、情報不足に困ったことがあった。

- 1-2カ月経ってから、「大きなゴミはどうやって出すんだろう」とわからなくなったときがあったが、市でもらった本を見ればわかった。その本で基本的に事足りた。(B)
- 生活基盤を作るのが大変だった。どこのスーパーに行くとか、家具なども一切なかったので。働きながら土日に探したりした。机と布団がない間は寝袋で寝ていた。(D)

地方での仕事／住居の決め方

住居は条件選定は住宅情報サイト。地図アプリや散策で現地の状況を確認したケースもあった。会社による支援や、友人のアドバイスが役立った。

- 物件探しは住宅情報サイトを使って条件を絞って、市内で検索をかけた。条件は守谷駅から徒歩10分圏内、二人暮らしなので少し広めの間取り、都市ガスとか。今の部屋は2DKぐらい。(A)
- 事前に地図アプリでどの辺が住みやすそうか調べていたので、そこに寄って現地を歩いてみた。以前からスーパーや薬局が徒歩圏内に複数あるのは大事だなと感じていた。1軒しかないとき料金が高いときに他にいきにくいので、そういうのをメインに探した。地図でスーパーや薬局を検索して、それが固まっている辺りとか。部屋探しは会社が支援してくれて、人事の人が物件探しをやってくれた。9-10件の候補の中から内見したいところを絞ってメールで返信して、当日案内してくれたという形。(C)
- 自分が一人暮らしの経験がなかったので、一人暮らしをしている友人がついてきてくれた。ポイントは一番は場所で、周りに駅があること、国道など大きな道路に早めに出られること。もともと車を持っていて、国道に出やすいと移動が車だから。実家に帰るときか移動手段がラクだから。(D)

#### (4) 移住喚起に向けたアドバイス

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

土地の広さ、安さによるストレスフリー。会社員生活をする上では地方でも都市でも変わらない。

- 土地の広さとか。あまりゴミゴミしていないので、適切な距離をもてる。都会だと密集するし電車も満員電車だが、地方はそういうのがあまりないので、それがストレスフリーなのかなと思う。あとは物価の安さ。地方の方が全体的に安めだと思う。地価も安い。(A)
- 北海道なので、一番はおいしいものがいっぱいあるよということ。札幌と帯広の満足度は正直変わらない。おしゃれに気を使う人やブランドものが好きな人は札幌の方が買い物しやすいだろう。(B)
- あまり不便じゃないと伝えたい。地方は不便でしょと言われるが、平日の生活に関しては全く変わらないと思う。会社に行ってスーパーに寄って帰るだけだと思うので。土日に毎週渋谷で遊びたいという人には向かないが、本が好きで本屋さんに行ってカフェで読みたいという人なら、地方でも全然事足りる。(C)

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

外部からの流入者が多い地域では特に気にされないが、地元の人が多い会社では嫌がられそうな印象。

- コロナが流行り始めたときに中国などの外国人をイヤがる傾向があったので、それよりは全然気にしていないと思う。もともと東京や札幌から来る人がいるので、どこから来ても特に言われないう。(B)
- 会社は地元の人が多いので、正直今移住して来たらちょっとイヤがられると思う。他県から来ている人が多い大きな会社なら違うと思う。(C)

## 4.3.2.地方移住者の意識調査\_ Gr.別の調査結果概要\_各属性のFGI調査結果概要

### Gr.10 Iターン×女性×その他市町村在住①

	A	B	C	D
年齢	29歳	21歳	25歳	25歳
居住地	山梨県甲斐市	青森県広前氏	広島県福山市	福岡県太宰府市
未婚婚	既婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	専業主婦	大学生 (イベントの案内のアルバイトをしている)	無職	自由業・プログラマー
移り住むことを意識したきっかけ	07.就職活動(新卒)	06.進学先・職業訓練先の検討	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた

#### (1) 地方移住に関心を持った理由・きっかけ

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち(誘因カテゴリーの選択傾向)

東京圏に比べて家賃が安い「広くて快適な家」が実現できる、「自然も便利も両方欲しい」が買い物に困らない程度の便利さは必要。

- 「自然も便利も両方欲しい」「広くて快適な家に住みたい」住宅環境は2LDKでトイレ風呂別対面キッチン、駐車場2台付、新築で駅から徒歩10分で8万円。この辺では高い方だが、東京に比べると全然安い。車は、この辺りは一人1台が当たり前。(A)
- 「趣味」ということでアウトドアが好きで高校時代、大学と山岳部に入っていて山が多くて行きやすい。「広くて快適な家に住みたい」、関東近郊で家賃が安い。親もそれはいいと言ってくれた。(B)
- あくまできっかけという話であれば、「何はともあれ自然が一番」。結果的には満員電車に乗らない、実家から離れたたいという希望だけだったから、きっかけでしかない。(C)
- 「自然と便利も両方欲しい！」理想は隠居生活だが、現実的に考えると買い物ができる方がいいので、自然と便利のバランスが取れた地方が現実的だと思う。買い物が近場でできたらいいので、都市である必要はない。日用品、食糧品が買えて、都市に行く人間じゃないので地方都市じゃなくていい。買い物するところだけ近くに欲しい。(D)

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

東京圏での就職や進学先がなかったことから地方暮らしを検討した。満員電車通勤を避けたり、実家から離れることが目的だったケースもある。移住情報サイトを目にした経験がある人も複数いた。

- 元々学部的に私立の大学だとお金がかかるので、できるなら国公立に行きたかったが、学部的に合うところが地方になってしまった。(B)
- 大学の学部の関係で地方に就職する人が多かった。農学部だったから、地方に行く子はどちらにしろ多くて自分もそうなると思っていた。自分が都会以外に行きたいと思い始めたのは満員電車の通学が体力的にきつくなった。それで電車を降りたことが何回かあったので都会、東京で働くのは向いていないと思い始めた。(C)
- 移住サイトというか、地域おこし協力隊みたいなことは学生時代に興味があった。実際に行動には移さなかったが、サイトは見た。サイトには移住というか期間限定だけ行った先で何をしていたとか、どういうおもてなしというか生活費の市の負担がどれだけとかが書いてあったと思う。(A)
- 家からすぐ離れたかった。母親と性格が合わなくて、家の雰囲気も冷め切っていたので出たかった。あまり近いと...、父親が来ちゃいそうなので避けたかった。中部から西を考えた。北は雪国育ちじゃないから生きていけないから暖かいところだと思った。関西もありだった。(D)

地方への移住を決断した理由(背中を押した要因)

地方移住を検討した際、暮らしやすいという情報に背中を押されたケースも。……

- 就活がうまくいかなくて、東京が好きじゃないし、人混みが苦手、家も出たいということもあった。夏休みが終わって就活をやめて就活以外で検索して地方移住があるとわかった。福岡が暮らしやすいとわかって地方移住しようと思った。(D)
- 就職がきっかけで移住した。地方を意識したというより食品メーカーに就職したくて東京の大手から関東圏の企業をあたっていく中でたまたま前の会社があった。大手は惨敗だったので、決まった会社がある山梨に移住した。(A)
- 地方も考えて結局就活してうまくいかなくて、友人がいるところにほぼ居候のような形で行って、それで仕事をしながら、頃合いを見て就活をして、福山に決まったので行くことになった。(C)

## Gr.10 Iターン×女性×その他市町村在住②

### (2) 地方暮らしの満足度とその理由

#### 地方暮らしの満足点

周囲を気にして無理をする必要がなく気が楽なこと、人混みがないことが満足点。

- 大学の進学を機にだったが、今の生活に満足している。決めた当初は振り返ると都会の方がキラキラした生活ができると思った時期があった。でも学校生活やバイトはどこでも同じような生活だと思う。遊びに行くのは休日になるから、交通手段も発達しているのでどこにいても変わらないと思う。キラキラした女子大生みたいにブランドのこなどを気にしなくていい。いろいろな人がいるから、周り比べて浮かないようにということを考えなくて好きなようにできる。かわいくしている人もいるけど、それもありだし、気を抜けるところもいい。(B)
- 年齢を重ねて人混みがイヤになってきて、アウトドアに興味を持つと山などがいっぱいあるから今は満足している。(A)
- 人口密度の低さ。外を歩いているとき、電車に乗るとき、買い物をするとき。人っ子一人いないとまではいかないが、夜に歩くと一人二人歩いているかなぐらいで。以前は人混みがストレスだったので天国のよう。(D)

#### 地方暮らしの不満点

電車の本数が少ないこと、外出先が限られるので知り合いに会いやすいことは不満のひとつとなっている。

- 服を買ったり、週末にどこかのショッピングモールで遊ぶようなことはない。電車が1時間に何本もないから1本逃すと間に合わないこともあるから朝早い電車に乗る。方言の津軽弁が強いので1年生の頃にコミュニケーションが大変だった。(B)
- 電車が少ないから、車などの費用がかかる。台風で高速道路が途絶えてしまう。ショッピングモールが少なくて1つに集中してしまう。同僚と買い物先で顔を合わすのもイヤ。仲がいい人ならいいが、同僚に「いたよね」と言われるのがイヤ。(A)

#### 今後の居住意向／市町村部への移住意向

子供の進路や両親のいる東京圏に戻りたいという意識もある。

- いずれ東京圏に戻りたい。子供の進路を考えると、東京だと大学の選択肢が多いから、それまでには地元じゃなくてもいいが、近い方に行けたらいい。(A)
- 両親が住んでいる近くに行きたい。環境的にも便利なのでいつか戻りたい気持ちは少しある。(B)

#### 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

東京圏に戻りたいと思っている人でも、コロナの拡大に伴い、東京圏の中心部は避けようとする意識が強まっていた。

- 子育てを考えたも、都心まではいかなくても、神奈川の外れならいいが、コロナの状況次第。(A)

東京圏⇒地方暮らしの満足度の変化

対象者	東京圏暮らしの満足度	地方暮らしの満足度
A	7	7
B	8	7
C	4	6
D	1	9
平均	5.0	7.3

### Gr.10 Iターン×女性×その他市町村在住③

#### (3) 地方移住に向けた行動実態・不安に感じていた点／苦労した点

地方移住にあたり不安に感じていたこと、移住時の苦労

一人で地方移住した場合、友達をつくりコミュニティを広げることが大きな不安要素。また、車なしで生活が送れるかについても不安を感じていた。

- 友達ができるか不安だった。特に友達はできていない。どうやってつくったらいいかわからない。会社の人達とは仲良くなって遊んだりしたが、それ以外のコミュニティの広げ方はわからない。(A)
- 車は経済的に持てないと思っていて、車がない状態で生活がどれくらいできるのか想像がつかなかった。行ってみたいとわからないと最終的に思ったが、ちょっと不安になった。(C)

地方での仕事／住居の決め方

仕事を探す際には、具体的な仕事内容で検索したかったが難しかった。賃貸契約などはオンラインでできるとよかった。

- 仕事は地域での検索はできるが、地域一覧が出ても、仕事内容の検索はなかなか難しかったと思う。条件を入れて、土日休み・シフト制など、ジャンルごとの選択ができればいい。(C)
- 賃貸契約をするときに現地に来てと言われたが、それがオンラインでできないのかなと思った。(D)

地域独特の女性に対する偏見や特有の価値観に苦労した経験の有無＜女性＞

就活の場で女性だからと断られることや、地方で働く女性がキャリアアップしようとしないうちに価値観の違いを感じている。

- 就活で断られるときに、男性を想定していると言われることがかなりある。応募段階でもそうだが、地元の求人紹介の派遣会社でもハローワークでも言われる。女性差別なんじゃないかと感じる。(C)
- 女性がキャリアアップをしないことを会社で感じる。女性自身がそういう意識なのか、会社がそうなのか、両方相まってなのか、独身時代にキャリアを築いても女性が管理職ということはまずない。結婚出産で戻ったら違う部署に行かされることもある。そういうこともあるが、それに対して不満がないのか、そういう人は辞めちゃうのかわからないが、出産したらお金を稼がさせればいいのかという感じになるようだ。私は結構バリバリ仕事をしていたのでこの先結婚してもその先が見えない。目標にする働く女性像がいなかったので自分のやりたいような仕事を別に探そうと思って辞めた。(A)

#### (4) 移住喚起に向けたアドバイス

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

今は地方の暮らしも変化しており、昔より東京圏との違いは少ないと語る人が多かった。

- あまり東京にこだわる必要がないと感じていて、ここ数年ネット通販も進化しているので物流面の不便さが減って、山梨も移住して店をやる人とか古民家カフェみたいなものが増えている。時代の流行りもあるが、前ほどの不便さ・つまらなさがなくなってきていると思う。そういう情報はインスタで個々に発信しているから情報が得やすいと思う。(A)
- 地方は都会みたいな遊びが少ないというデメリットはあるが、自然が多いとかメリットもあるし、それは東京も一緒。物流面とか、東京でしか見られない番組も配信で好きな時に見られるので東京と変わらない部分も結構ある。都会がいいと最初から思っている人も地方がどうなのかというのを見て、その上で都会がいいのかと判断した方が最終的に後悔しないと思う。(C)
- 東京だけじゃなく地方の暮らしという道があって、仕事も探せばあるから、普通に東京と同じレベルでライフラインも整っているし東京に固執しなくていいと思う。(D)

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

周囲の会話から、来てほしくない雰囲気を感じている。人が少ないエリアほど噂になりやすく警戒されやすい。

- ニュースでも青森の玄関先に誹謗中傷の手紙があったようだが、学生は近所づきあいはないものの、地元に住んでいると近所同士で話が早い個人名まで特定されて噂話が共通の話題になる。地方の閉鎖的な怖さがある。周りではそういうことはないがバイト先の大人の人の会話を聞くと、来てほしくないと言っている。(B)
- 移住自体はウエルカムだと思う。田舎暮らしを山梨でも推奨しているが、コロナの状況下では、あそこ人が帰ってきて感染が広がるといって噂が広がるので、観光客が来ると県民はイヤだなと思う。コロナが関係なければ、移住はウエルカム。今の急な移住はどうか、場所によるかな。田舎じゃなく甲府ならいいかな。人が少ないところだと、噂になって警戒されそう。(A)